

科目名	日本国憲法【月3木3】（FB201700）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもと はる）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・内容・注意事項について説明する。その後、最近の憲法に関する話題について提供し、憲法を学ぶ意義や目的について考えてもらう。
2 回	この授業の対象である「憲法とは何か」について、特に法律との違いとの関連において講義をする。〔内容〕法とは何か、法の役割と種類、憲法と法律との違い
3 回	日本国憲法に特有の性質である「日本国憲法の特質」についての講義をする。〔内容〕個人の尊重、公共の福祉、民主主義、権力分立、最高法規性
4 回	日本国憲法の中心的部分ともいえるべき人権保障について、まずその対象となる人権の意義・性質についての「人権総論」の講義をする。〔内容〕（基本的）人権とは何か、人権の性質
5 回	日本国憲法に定められている「人権の種類」について、7つのグループに分類し、それぞれについて概要を説明する。〔内容〕自由権、社会権、参政権、受益権、包括的基本権、平和的生存権
6 回	日本国憲法の保障する人権は誰に対して認められるのかという「人権の享有主体の問題」について、判例を交えて説明する。〔内容〕法人・外国人の人権、公務員・受刑者の人権
7 回	条文のうえでは14条の1カ条だけであるが、非常に重要な人権である「法の下での平等（平等権）」について、最高裁判例も交えて講義をする。〔内容〕平等の意味、最高裁判例の判断基準、議員定数不均衡（一票の格差）問題
8 回	精神的自由権の中でも特に重要な「表現の自由」について講義を行う。〔内容〕表現の自由の内容、知る権利、二重の基準の理論
9 回	日本国憲法で10カ条近くも使って保障されているにもかかわらず、一般にはなかなか理解されにくい「人身の自由（刑事手続上の諸権利）」についての講義を行う。〔内容〕国家刑罰権の正当性、適正手続の原則と無罪推定の原則、黙秘権・弁護人依頼権など。
10 回	今回から憲法の統治機構の部分に移り、まず三権のうちの立法権を担う「国会」についての講義をする。〔内容〕代表民主制、国会の地位、二院制、衆議院の優越、議員特権
11 回	三権のうち行政権を担う「内閣」についての講義を行う。〔内容〕行政権と内閣、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能と責任
12 回	残りの三権のうち司法権を担う「裁判所」についての講義を行う。〔内容〕司法権およびその限界、司法権の独立、裁判所の組織と権能
13 回	裁判所の持つ最も重要な役割である「違憲審査制」についての講義を行う。〔内容〕裁判所と違憲審査権、違憲審査の方法（付随的違憲審査制）
14 回	「天皇」および「平和主義」についての講義をする。〔内容〕天皇の地位と法的性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
15 回	「憲法改正」についての講義をする。〔内容〕改正の手続、国民投票、改正の限界、憲法改正案の検討
16 回	最終評価試験を行い、その後、試験問題およびレポート課題の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容等を確認し、なぜあなたはこの授業を履修し何を学ぶのか、その目的や意義について考えておくこと。履修希望者は必ずこの初回の授業に参加すること。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容を踏まえて、今一度あなたが憲法を学ぶことの意義や目的について考えておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	前回の授業内容である憲法とはどのような法であるかについて、特に法律との違いについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	前回の授業内容である日本国憲法の特質について、特に公共の福祉の意味について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回の授業内容である人権の意義・性質について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回の授業内容である人権の種類について、7つのグループを正しく理解し、どの人権の条文がどのグループに含まれるのかについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。
7 回	前回の授業内容である人権の享有主体の問題について、それぞれの場合の最高裁判例の考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）

	時間120分)
8 回	前回の授業内容である法の下での平等について、授業で扱った3つの最高裁の違憲判決・決定について、それぞれどうして憲法違反とされたのか、最高裁判例の考え方を復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の授業内容である表現の自由について、それを制約する場合の二重の基準の理論について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	前回の授業内容である人身の自由について、なぜ憲法は10カ条近くも使ってこれを保障しているのか、また基本原則である適正手続原則・無罪推定原則という考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	前回の授業内容である国会について、「唯一の」立法機関の意味、二院制が採られていることの意味、衆議院の優越などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	前回の授業内容である内閣について、議院内閣制の意味と関連条文、内閣の構成員や総理大臣の権限などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	前回の授業内容である裁判所について、司法権(とその独立)の意義、限界、裁判所の組織などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業内容である違憲審査制について、憲法81条の理解の仕方、違憲審査の方法などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	前回の授業内容である天皇および平和主義について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16 回	2回～15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。間違いやすい用語(漢字も含む)なども確認しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	大学で「日本国憲法」を学ぶという、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持つかもしれない。しかし、よく考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国や社会の中で生活しているのである。ということは、自分たちが生活している国や社会がどのようなルールや仕組みになっているのかを知り、また今後どうあるべきかなのかを考えるということは、主権者である私たち国民にとって必要不可欠なことだと言える。この授業では、そのような私たちが現在生活している日本という国・社会の基本法であり、またこの国の最高法規である日本国憲法についての基本的な知識や考え方について、具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一種に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 六法を使って、関連する憲法やその他の法令の条文が検索できる。(知識・理解)(2) 日本国憲法に関する基本的な知識(重要判例も含む)や考え方を習得し、正しく説明することができる。(知識・理解)(3) 具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できる。(知識・理解、思考・判断・表現)4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	日本国憲法、立憲主義的憲法、最高法規、個人の尊重、(基本的)人権、三権分立、違憲審査権、そのほか授業内容欄に記載の用語参照
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業内小テスト計3回:評価割合各10%計30%(達成目標(1)～(2)を確認)、憲法条文プリント(5回目の授業までに提出):評価割合10%(達成目標(1)を確認)、課題レポート:評価割合10%(達成目標(3)を確認)、最終評価試験:評価割合50%(達成目標(1)～(2)を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版/宇賀克也・佐伯仁志(編集代表)/有斐閣/ISBN 978-4-641-00919-6(書き込み等が無いものであれば同六法の30年版でも可)
関連科目	法学A・法学B
参考書	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと)
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。(2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明する。(3) 憲法条文プリント(これについても初回の授業時に説明する)は、5回目の授業の回収時まで提出すること。(4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。(5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引き以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしない(ただし、事前に分かっている場合には相談に応じる)。(6) 小テスト・最終試験・レポート等の授業科

	目名・教員名が正しく書けていないものについては評価対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	授業内容によっては授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行うこともある。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう（再提出までしてはじめて成績評価に加える）。最終試験およびレポートについては最終試験後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（１）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず２回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。（２）教職希望者は教育実習期間中にこの授業を同時に受講しないこと。（３）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている事件や裁判などに関心を持つように努めること。

科目名	日本国憲法【火4金4】（FB201702）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもとはる）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・内容・注意事項について説明する。その後、最近の憲法に関する話題について提供し、憲法を学ぶ意義や目的について考えてもらう。
2 回	この授業の対象である「憲法とは何か」について、特に法律との違いとの関連において講義をする。〔内容〕法とは何か、法の役割と種類、憲法と法律との違い
3 回	日本国憲法に特有の性質である「日本国憲法の特質」についての講義をする。〔内容〕個人の尊重、公共の福祉、民主主義、権力分立、最高法規性
4 回	日本国憲法の中心的部分ともいえるべき人権保障について、まずその対象となる人権の意義・性質についての「人権総論」の講義をする。〔内容〕（基本的）人権とは何か、人権の性質
5 回	日本国憲法に定められている「人権の種類」について、7つのグループに分類し、それぞれについて概要を説明する。〔内容〕自由権、社会権、参政権、受益権、包括的基本権、平和的生存権
6 回	日本国憲法の保障する人権は誰に対して認められるのかという「人権の享有主体の問題」について、判例を交えて説明する。〔内容〕法人・外国人の人権、公務員・受刑者の人権
7 回	条文のうえでは14条の1カ条だけであるが、非常に重要な人権である「法の下での平等（平等権）」について、最高裁判例も交えて講義をする。〔内容〕平等の意味、最高裁判例の判断基準、議員定数不均衡（一票の格差）問題
8 回	精神的自由権の中でも特に重要な「表現の自由」について講義を行う。〔内容〕表現の自由の内容、知る権利、二重の基準の理論
9 回	日本国憲法で10カ条近くも使って保障されているにもかかわらず、一般にはなかなか理解されにくい「人身の自由（刑事手続上の諸権利）」についての講義を行う。〔内容〕国家刑罰権の正当性、適正手続の原則と無罪推定の原則、黙秘権・弁護人依頼権など。
10 回	今回から憲法の統治機構の部分に移り、まず三権のうちの立法権を担う「国会」についての講義をする。〔内容〕代表民主制、国会の地位、二院制、衆議院の優越、議員特権
11 回	三権のうち行政権を担う「内閣」についての講義を行う。〔内容〕行政権と内閣、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能と責任
12 回	残りの三権のうち司法権を担う「裁判所」についての講義を行う。〔内容〕司法権およびその限界、司法権の独立、裁判所の組織と権能
13 回	裁判所の持つ最も重要な役割である「違憲審査制」についての講義を行う。〔内容〕裁判所と違憲審査権、違憲審査の方法（付随的違憲審査制）
14 回	「天皇」および「平和主義」についての講義をする。〔内容〕天皇の地位と法的性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
15 回	「憲法改正」についての講義をする。〔内容〕改正の手続、国民投票、改正の限界、憲法改正案の検討
16 回	最終評価試験を行い、その後、試験問題およびレポート課題の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容等を確認し、なぜあなたはこの授業を履修し何を学ぶのか、その目的や意義について考えておくこと。履修希望者は必ずこの初回の授業に参加すること。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容を踏まえて、今一度あなたが憲法を学ぶことの意義や目的について考えておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	前回の授業内容である憲法とはどのような法であるかについて、特に法律との違いについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	前回の授業内容である日本国憲法の特質について、特に公共の福祉の意味について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回の授業内容である人権の意義・性質について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回の授業内容である人権の種類について、7つのグループを正しく理解し、どの人権の条文がどのグループに含まれるのかについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。
7 回	前回の授業内容である人権の享有主体の問題について、それぞれの場合の最高裁判例の考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）

	時間120分)
8 回	前回の授業内容である法の下での平等について、授業で扱った3つの最高裁の違憲判決・決定について、それぞれどうして憲法違反とされたのか、最高裁判例の考え方を復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の授業内容である表現の自由について、それを制約する場合の二重の基準の理論について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	前回の授業内容である人身の自由について、なぜ憲法は10カ条近くも使ってこれを保障しているのか、また基本原則である適正手続原則・無罪推定原則という考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	前回の授業内容である国会について、「唯一の」立法機関の意味、二院制が採られていることの意味、衆議院の優越などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	前回の授業内容である内閣について、議院内閣制の意味と関連条文、内閣の構成員や総理大臣の権限などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	前回の授業内容である裁判所について、司法権(とその独立)の意義、限界、裁判所の組織などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業内容である違憲審査制について、憲法81条の理解の仕方、違憲審査の方法などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次の授業内容の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	前回の授業内容である天皇および平和主義について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16 回	2回～15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。間違いやすい用語(漢字も含む)なども確認しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	大学で「日本国憲法」を学ぶというと、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持つかもしれない。しかし、よく考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国や社会の中で生活しているのである。ということは、自分たちが生活している国や社会がどのようなルールや仕組みになっているのかを知り、また今後どうあるべきかなのかを考えるということは、主権者である私たち国民にとって必要不可欠なことだと言える。この授業では、そのような私たちが現在生活している日本という国・社会の基本法であり、またこの国の最高法規である日本国憲法についての基本的な知識や考え方について、具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一種に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 六法を使って、関連する憲法やその他の法令の条文が検索できる。(知識・理解)(2) 日本国憲法に関する基本的な知識(重要判例も含む)や考え方を習得し、正しく説明することができる。(知識・理解)(3) 具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できる。(知識・理解、思考・判断・表現)4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	日本国憲法、立憲主義的憲法、最高法規、個人の尊重、(基本的)人権、三権分立、違憲審査権、そのほか授業内容欄に記載の用語参照
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業内小テスト計3回:評価割合各10%計30%(達成目標(1)～(2)を確認)、憲法条文プリント(5回目の授業までに提出):評価割合10%(達成目標(1)を確認)、課題レポート:評価割合10%(達成目標(3)を確認)、最終評価試験:評価割合50%(達成目標(1)～(2)を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版/宇賀克也・佐伯仁志(編集代表)/有斐閣/ISBN 978-4-641-00919-6(書き込み等が無いものであれば同六法の30年版でも可)
関連科目	法学A・法学B
参考書	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと)
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。(2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明する。(3) 憲法条文プリント(これについても初回の授業時に説明する)は、5回目の授業の回収時まで提出すること。(4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。(5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引き以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしない(ただし、事前に分かっている場合には相談に応じる)。(6) 小テスト・最終試験・レポート等の授業科

	目名・教員名が正しく書けていないものについては評価対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	授業内容によっては授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行うこともある。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう（再提出までしてはじめて成績評価に加える）。最終試験およびレポートについては最終試験後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（１）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず２回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。（２）教職希望者は教育実習期間中にこの授業を同時に受講しないこと。（３）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている事件や裁判などに関心を持つように努めること。

科目名	日本国憲法【水3水4】（FB201703）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいついかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
2回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能を果たしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
3回	民主主義と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および民主主義との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
4回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法9条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法9条の解釈と集団的自衛権について説明する。
5回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
6回	憲法13条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
7回	憲法14条の「法の下での平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
8回	憲法19条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麹町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
9回	憲法20条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法20条3項および89条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
10回	憲法23条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ボポロ事件」を取り上げることにする。
11回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法21条1項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
12回	憲法22条1項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および29条1項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準の区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
13回	人身の自由の焦点を当てて講義する。具体的には、憲法18条の「奴隷的拘束」からの自由、31条の「適正手続きの保障」、33条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の搜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
14回	憲法25条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
15回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法17条の国家賠償請求権を、後者については、40条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることにする。
16回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。

2 回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
3 回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
4 回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
5 回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
6 回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
7 回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
8 回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分
9 回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
1 0 回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
1 1 回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
1 2 回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分
1 3 回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
1 4 回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
1 5 回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習をしておくこと。60分。
1 6 回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法的问题解決の思考力を身につけること。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート（20点）、小テスト（20点）、最終評価試験（60点）
教科書	テキスト『日本国憲法第4版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2;『法学六法』/石川明・池田真朗等編/信山社
関連科目	法学
参考書	テキスト『法学第4版』（大学教育出版、2018年）等
連絡先	教務課
授業の運営方針	判例を中心に分かりやすい講義を心掛ける。小テストは、受講生を指名し解答とその理由を講義中に尋ねる。
アクティブ・ラーニング	毎回小テストを通じて論点を示し、自分の頭で考える法的思考力を養うように質問をするように指導する。
課題に対するフィードバック	レポートについては解答例を配布し、ポイントの解説を行う。小テストについては、講義中正解を教え、正解となる理由を説明する。最終評価試験については、講義中に重点的に触れた判例等を見直すように指導する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください
実務経験のある教員	元中学校高等学校一貫校教員（英語教諭）。
その他（注意・備考）	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題（小テスト）をマシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。

科目名	科学・工作ボランティア入門【火3金3】(FB208110)
英文科目名	Introduction to Volunteer Activitiy for Science and Technology
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち),吉村功*(よしむらたくみ*),森田明義*(もりたあきよし*),武田芳紀*(たけだよしのり*),重松利信(しげまつとしのぶ),糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*),滝澤昇(たきざわのぼる),山口一裕(やまぐちかずひろ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(1) 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウェブサイトを紹介する。 (高原 周一)
2回	ガイダンス(2) 講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 (全教員)
3回	発表会準備(1) 発表会の進行について説明する。班分けを行い、班内で自己紹介を行う。発表内容について検討する。 (全教員)
4回	発表会準備(2) 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。発表会の内容を決定する。 (全教員)
5回	発表会準備(3) 科学イベントにおける安全対策について講習する。必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 (全教員)
6回	発表会準備(4) 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。実験・工作の改良・追加を試みる。 (全教員)
7回	発表会準備(5) 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。 (全教員)
8回	発表会準備(6) 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 (全教員)
9回	発表会準備(7) 予行演習の準備を行う。 (全教員)
10回	発表会準備(8) 各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける(予行演習)。それをもとに発表内容を再検討する。 (全教員)
11回	発表会準備(9) 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。

	(全教員)
1 2 回	発表会準備(10) 発表会の準備を完了させる。発表会で同時に発表する班はお互いの内容を紹介し合う。
	(全教員)
1 3 回	発表会(1) 発表会で発表する。他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
1 4 回	発表会(2) 前回に引き続き、発表会で発表する。他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
1 5 回	振り返り 各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。発表会の片づけを行う。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	紹介したウェブサイトを開覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立つような本を探すこと。(標準学習時間120分)
3 回	本やインターネットで発表会に使えるような実験内容を調べる。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。(標準学習時間120分)
4 回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。(標準学習時間120分)
5 回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
6 回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
7 回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べること。(標準学習時間120分)
8 回	各人が分担した作業(物品の確保、シナリオ・フリップの作成など)を行うこと。(標準学習時間60分)
9 回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	発表会に向けて準備する。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えてくること。(標準学習時間60分)

講義目的	市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されている。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学園内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術全般に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につけるとともに、地域での科学ボランティア活動に参加する意欲を育むことを目的とする。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。 (教養教育科目の到達目標Bに最も強く関与)
達成目標	1. 実験の企画立案、情報の収集、実験原理の理解、材料の確保、実験手法の改善を行い、自分たちで決めた実験を確実に安全に実行できる。(B)

	2. 自分たちのグループの活動・発表の総括と他のグループの発表の優れた点を記述できる。(B) 3. グループメンバーと協力し、自らの責任を積極的に果たすことができる。(C) 4. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(C) 5. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(D)
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポートの内容70%（到達目標1～4を確認）、発表会の内容30%（受講生相互の評価も加味、到達目標1、5を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学ボランティア実践指導 ・ 、科学ボランティア活動
参考書	「ものづくりハンドブック 1～7」たのしい授業編集委員会/編・仮説社 他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
授業の運営方針	・ 受講希望者が60名を超える場合は初回の講義の参加者から受講生を選抜することがあるので、初回の講義には必ず出席すること。 ・ 発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・ 講義資料は講義中に配布する。 ・ 講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験・実習、グループワーク 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、グループ内での討論、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発表会での相互評価結果はWeb上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功（元中学校教員）、森田明義（元小学校教員）、武田芳紀（元高等学校教員）、糸山嘉彦（人と科学の未来館サイビア・サイエンスインストラクター） 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他（注意・備考）	・ 本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（http://ridai-svc.org/）に説明がある。 ・ 「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア活動」

科目名	フレッシュマンセミナー（FB210600）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	秦敬治（はたけいじ）、河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。大学4年間の「ゴール」を設定する。建学の理念と自分を結び付けて自身の成長について計画する。学力・社会人基礎力や大学生活で身につけるスキルを理解する。 （河野 敏行）
2回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。 （河野 敏行）
3回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。 （河野 敏行）
4回	岡山理科大学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。 （河野 敏行）
5回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義する。自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人ぐらし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。アメリカの心理学者ジョン・L・ホランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。 （河野 敏行）
6回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生が提出する （河野 敏行）
7回	自立した個人としてのリスクマネジメントについて理解する。 （河野 敏行）
8回	「フレッシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。 （河野 敏行）

回数	準備学習
1回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えること（標準学習時間60分）
2回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
4回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
5回	興味ある職業等を調べておくこと（標準学習時間120分）
6回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
7回	自身がもつストレスは何かについて考えておくこと。（準備学習時間120分）
8回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけで
------	--

	なく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間でどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。4領域の項目では、「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	1) 自己のライフデザインの中で、岡山理科大学学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。(知識・理解) 2) 大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。(知識・理解) 3) 自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。(知識・理解)
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義後出される課題を100%として、60%以上の評価により合格とする。達成目標の1)2)3)をそれぞれの課題で評価する。
教科書	使用しない(ME1を配布する)
関連科目	なし
参考書	適宜指示する
連絡先	C1号館7階 キャリア支援センター 河野敏行 A1号館2階 秦敬治
授業の運営方針	講義は全学的に実施する。各回ごとの提出物を必ず提出すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出物について、回収時、または次回に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	初回のガイダンスで説明するが、ポートフォリオを活用した課題提出(出席管理)を実施するので、そのためのスキルを習得すること。フィードバックもこれによって行う。理想的な大学生活のスタートが切れるよう積極的に参加すること。特に4回目は研究倫理教育(全員必修)を兼ねるので必ず出席して誓約書を提出すること。この講義は複数学科合同開講のため、理大ホールで行う。席を詰めて座る、私語を慎む、遅刻をしないなどのマナーを厳守すること。

科目名	フレッシュマンセミナー（FB210610）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	秦敬治（はたけいじ）、河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。大学4年間の「ゴール」を設定する。建学の理念と自分を結び付けて自身の成長について計画する。学力・社会人基礎力や大学生活で身につけるスキルを理解する。 （河野 敏行）
2回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。 （河野 敏行）
3回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。 （河野 敏行）
4回	岡山理科大学学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。 （河野 敏行）
5回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義する。自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人ぐらし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。アメリカの心理学者ジョン・L・ホランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。 （河野 敏行）
6回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生が提出する （河野 敏行）
7回	自立した個人としてのリスクマネジメントについて理解する。 （河野 敏行）
8回	「フレッシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。 （河野 敏行）

回数	準備学習
1回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えること（標準学習時間60分）
2回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
4回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
5回	興味ある職業等を調べておくこと（標準学習時間120分）
6回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
7回	自身がもつストレスは何かについて考えておくこと。（準備学習時間120分）
8回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけで
------	--

	なく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間でどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。4領域の項目では、「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	1) 自己のライフデザインの中で、岡山理科大学学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。(知識・理解) 2) 大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。(知識・理解) 3) 自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。(知識・理解)
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義後出される課題を100%として、60%以上の評価により合格とする。達成目標の1)2)3)をそれぞれの課題で評価する。
教科書	使用しない(ME1を配布する)
関連科目	なし
参考書	適宜指示する
連絡先	C1号館7階 キャリア支援センター 河野敏行 A1号館2階 秦敬治
授業の運営方針	講義は全学的に実施する。各回ごとの提出物を必ず提出すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出物について、回収時、または次回に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	初回のガイダンスで説明するが、ポートフォリオを活用した課題提出(出席管理)を実施するので、そのためのスキルを習得すること。フィードバックもこれによって行う。理想的な大学生活のスタートが切れるよう積極的に参加すること。特に4回目は研究倫理教育(全員必修)を兼ねるので必ず出席して誓約書を提出すること。この講義は複数学科合同開講のため、理大ホールで行う。席を詰めて座る、私語を慎む、遅刻をしないなどのマナーを厳守すること。

科目名	フレッシュマンセミナー（FB210620）
英文科目名	Freshman
担当教員名	秦敬治（はたけいじ）、河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。大学4年間の「ゴール」を設定する。建学の理念と自分を結び付けて自身の成長について計画する。学力・社会人基礎力や大学生活で身につけるスキルを理解する。 （河野 敏行）
2回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。 （河野 敏行）
3回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。 （河野 敏行）
4回	岡山理科大学学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。 （河野 敏行）
5回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義する。自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人ぐらし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。アメリカの心理学者ジョン・L・ホランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。 （河野 敏行）
6回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生が提出する （河野 敏行）
7回	自立した個人としてのリスクマネジメントについて理解する。 （河野 敏行）
8回	「フレッシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。 （河野 敏行）

回数	準備学習
1回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えること（標準学習時間60分）
2回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
4回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
5回	興味ある職業等を調べておくこと（標準学習時間120分）
6回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
7回	自身がもつストレスは何かについて考えておくこと。（準備学習時間120分）
8回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけで
------	--

	なく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間でどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。4領域の項目では、「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	1) 自己のライフデザインの中で、岡山理科大学学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。(知識・理解) 2) 大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。(知識・理解) 3) 自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。(知識・理解)
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義後出される課題を100%として、60%以上の評価により合格とする。達成目標の1)2)3)をそれぞれの課題で評価する。
教科書	使用しない(ME1を配布する)
関連科目	なし
参考書	適宜指示する
連絡先	C1号館7階 キャリア支援センター 河野敏行 A1号館2階 秦敬治
授業の運営方針	講義は全学的に実施する。各回ごとの提出物を必ず提出すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出物について、回収時、または次回に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	初回のガイダンスで説明するが、ポートフォリオを活用した課題提出(出席管理)を実施するので、そのためのスキルを習得すること。フィードバックもこれによって行う。理想的な大学生活のスタートが切れるよう積極的に参加すること。特に4回目は研究倫理教育(全員必修)を兼ねるので必ず出席して誓約書を提出すること。この講義は複数学科合同開講のため、理大ホールで行う。席を詰めて座る、私語を慎む、遅刻をしないなどのマナーを厳守すること。

科目名	フレッシュマンセミナー（FB210630）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	秦敬治（はたけいじ）、河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。大学4年間の「ゴール」を設定する。建学の理念と自分を結び付けて自身の成長について計画する。学力・社会人基礎力や大学生活で身につけるスキルを理解する。 （河野 敏行）
2回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。 （河野 敏行）
3回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。 （河野 敏行）
4回	岡山理科大学学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。 （河野 敏行）
5回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義する。自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人ぐらし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。アメリカの心理学者ジョン・L・ホランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。 （河野 敏行）
6回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生が提出する （河野 敏行）
7回	自立した個人としてのリスクマネジメントについて理解する。 （河野 敏行）
8回	「フレッシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。 （河野 敏行）

回数	準備学習
1回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えること（標準学習時間60分）
2回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
4回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
5回	興味ある職業等を調べておくこと（標準学習時間120分）
6回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
7回	自身がもつストレスは何かについて考えておくこと。（準備学習時間120分）
8回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけで
------	--

	なく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間でどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。4領域の項目では、「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	1) 自己のライフデザインの中で、岡山理科大学学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。(知識・理解) 2) 大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。(知識・理解) 3) 自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。(知識・理解)
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義後出される課題を100%として、60%以上の評価により合格とする。達成目標の1)2)3)をそれぞれの課題で評価する。
教科書	使用しない(ME1を配布する)
関連科目	なし
参考書	適宜指示する
連絡先	C1号館7階 キャリア支援センター 河野敏行 A1号館2階 秦敬治
授業の運営方針	講義は全学的に実施する。各回ごとの提出物を必ず提出すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出物について、回収時、または次回に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	初回のガイダンスで説明するが、ポートフォリオを活用した課題提出(出席管理)を実施するので、そのためのスキルを習得すること。フィードバックもこれによって行う。理想的な大学生活のスタートが切れるよう積極的に参加すること。特に4回目は研究倫理教育(全員必修)を兼ねるので必ず出席して誓約書を提出すること。この講義は複数学科合同開講のため、理大ホールで行う。席を詰めて座る、私語を慎む、遅刻をしないなどのマナーを厳守すること。

科目名	フレッシュマンセミナー（再）（VOD）（FB210640）
英文科目名	Freshman
担当教員名	河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。大学4年間の「ゴール」を設定する（宣言する）。社会貢献活動等を通じて「感動体験」を学ぶ（感動は「生きる力」の源）。「学んだことを役立てようと思えば武器になる。思わなければ何の役にも立たない」。また、社会人として必要になる資質についても考え、大学における「教養」学習とは何かを講義する。
2回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。
3回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。
4回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生に課す。
5回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義を行う。最低限知っておくべき事務手続き、アパート暮らしでの注意点、最近の身近な犯罪・発生状況、学生を取り巻く環境等の具体的な説明も行う。
6回	自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人暮らし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。
7回	岡山理科大学学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。
8回	「フレッシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。アメリカの心理学者ジョン・L・ホルランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授によって考案されたキャリア理論「計画された偶発性理論（Planned Happenstance Theory）」を紹介する。

回数	準備学習
1回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えること（標準学習時間60分）
2回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
4回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
5回	学生も自己責任を問われる社会人であるとの視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと。「学生便覧」「キャンパスライフ」「履修ガイド」を読んでおくこと。4月4日に配布の「レジュメ（学生課）」（カラーA4裏表版1枚）をよく読んで実践しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	自分が責任ある社会人として生きていくためにはどのような危機管理が必要かを考えておくこと（標準学習時間120分）
7回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
8回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけでなく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間をどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。（教養教育センターの単位認定の方針のFに最も強く関与する）
------	---

達成目標	(1) 自己のライフデザインの中で、岡山理科大学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。 (2) その際に、大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。 (3) 自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義後出される課題において60%以上の評価により合格とする。
教科書	使用しない（ME1を配布する）
関連科目	なし
参考書	
連絡先	教育開発センター長、教養教育センター長（いずれも教学支援部へ問い合わせてください）
授業の運営方針	講義は全学的に実施する．各回ごとの提出物を必ず提出すること．
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出物について、回収時、または次回に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	初回のガイダンスで説明するが、ポートフォリオを活用した課題提出（出席管理）を実施するので、そのためのスキルを習得すること。フィードバックもこれによって行う。VODを各人がきちんと視聴したかどうかチェックする。

科目名	心理学 A (FB210700)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	鉄川大健 * (てつかわひろかつ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	学問としての心理学について知識を深め、心理学の歴史について概説する
2 回	知覚心理学 : 視覚を中心に、感覚・知覚のメカニズムについて視覚体験の中で学ぶ
3 回	知覚心理学 : 視覚以外の感覚・知覚について理解を深める
4 回	認知心理学 : 自由再生実験を通して、記憶のメカニズムについて学ぶ
5 回	学習心理学 : 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
6 回	社会心理学 : 身近な対人関係について学び、日常生活に活かす
7 回	社会心理学 : 集団における心の働きについて学ぶ
8 回	知覚、記憶、学習、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握しておくこと (30分)
2 回	前回の講義内容の復習に加え、ヒトがどのような情報を環境から得ているのかを考えてみること (120分)
3 回	前回の講義内容の復習に加え、身近な錯覚の例を探してみること (120分)
4 回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が行っている記憶方法について考えておくこと (120分)
5 回	前回の講義内容の復習に加え、学習とは何かについて考えておくこと (120分)
6 回	前回の講義内容の復習に加え、友人との関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと (120分)
7 回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が所属する集団について考えておくこと (120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域からスタートし、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	知覚、記憶、学習、社会
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出 (35%) 講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) 上記の2つによって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	心理学B、教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「 (講義開始までに) シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	心理学 A (FB210710)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	学問としての心理学について知識を深め、心理学の歴史について概説する
2 回	知覚心理学 : 視覚を中心に、感覚・知覚のメカニズムについて視覚体験の中で学ぶ
3 回	知覚心理学 : 視覚以外の感覚・知覚について理解を深める
4 回	認知心理学 : 自由再生実験を通して、記憶のメカニズムについて学ぶ
5 回	学習心理学 : 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
6 回	社会心理学 : 身近な対人関係について学び、日常生活に活かす
7 回	社会心理学 : 集団における心の働きについて学ぶ
8 回	知覚、記憶、学習、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握しておくこと (30分)
2 回	前回の講義内容の復習に加え、ヒトがどのような情報を環境から得ているのかを考えてみること (120分)
3 回	前回の講義内容の復習に加え、身近な錯覚の例を探してみる (120分)
4 回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が行っている記憶方法について考えておくこと (120分)
5 回	前回の講義内容の復習に加え、学習とは何かについて考えておくこと (120分)
6 回	前回の講義内容の復習に加え、友人との関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと (120分)
7 回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が所属する集団について考えておくこと (120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域からスタートし、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	知覚、記憶、学習、社会
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出 (35%) 講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) 上記の2つによって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山崎圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	心理学B、教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「(講義開始までに) シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	心理学 A (FB210720)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	松浦美晴 * (まつうらみはる *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の概要と、「心理学の歴史」について説明する。
2 回	「科学としての心理学」について説明する。
3 回	「知覚のはたらき」について説明する。
4 回	「記憶と学習のメカニズム」について説明する。
5 回	「人間の空間行動」について説明する。
6 回	「パーソナリティと発達」について説明する。
7 回	「心の健康」について説明する。
8 回	「心の危機」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	教科書の目次と、第1章に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	教科書第2章に目を通し、p.14の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)
4 回	教科書第3章に目を通し、「演習」p.25「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
5 回	教科書第4章に目を通し、p.38の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)
6 回	教科書第5章に目を通し、「演習」p.49「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
7 回	教科書第6章に目を通し、「演習」p.63「課題1」、p.65「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解する。 2) 体系的な理論と関連のトピックについて知識を得る。 3) 心理学の理論と、日常の具体的な人間行動との関連を理解する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	こころの理解、知覚、認知、学習、パーソナリティ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	達成目標1)～3)の達成度を評価する最終評価試験(100%)を行う。
教科書	生活にいかす心理学ver.2/古城和子(編著)/ナカニシヤ出版/4888487057
関連科目	特に指定はない。
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学 TEL:086-272-6254(代表)
授業の運営方針	教科書を用いて行う。 教科書中の重要事項やキーワードについて解説するために、パワーポイントによる提示資料を用いる。 提示資料中では、理解を深めるために必要な補足事項について、教科書に記載されていない内容も扱う。 提示資料、配布資料を教員の指定するウェブサイトにアップロードするので、授業の復習に利用してほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験について、個別に資料を基に説明を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	哲学A (FB211200)
英文科目名	Philosophy A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2回	西洋哲学(1)―ソクラテス以前の自然哲学者と呼ばれる哲学者たちの思想について説明した後、ソクラテス登場の前提となるソフィストたちの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3回	西洋哲学(2)―ソクラテスとその弟子のプラトンの思想について説明した後、プラトンの弟子であるアリストテレスの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4回	西洋哲学(3)―中世という時代の特徴について説明した後、中世哲学(スコラ哲学、普遍論争等)について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5回	西洋哲学(4)―「近代哲学の父」などとも呼ばれるデカルトの生涯と思想について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6回	西洋哲学(5)―「近代最高の哲学者」などとも呼ばれるカントの生涯と思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7回	西洋哲学(6)―近年もたびたび注目されるニーチェ、そして「20世紀最大の哲学者」などとも呼ばれるハイデガーの生涯と思想について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とは何か、「哲学」とはどのような学問であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	自然哲学者、ソフィストとはどのような人たちであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	ソクラテス、プラトン、アリストテレスとはどのような人物であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	ヨーロッパの中世とはどのような時代であったのか、またその時代の哲学はどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	デカルトとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	カントとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	ニーチェ、ハイデガーとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	西洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識は身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標とする。 西洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、西洋哲学のおおまかな歴史を理解できる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。

関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	哲学A (FB211210)
英文科目名	Philosophy A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2 回	西洋哲学 (1) —ソクラテス以前の自然哲学者と呼ばれる哲学者たちの思想について説明した後、ソクラテス登場の前提となるソフィストたちの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	西洋哲学 (2) —ソクラテスとその弟子のプラトンの思想について説明した後、プラトンの弟子であるアリストテレスの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	西洋哲学 (3) —中世という時代の特徴について説明した後、中世哲学 (スコラ哲学、普遍論争等) について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	西洋哲学 (4) —「近代哲学の父」などとも呼ばれるデカルトの生涯と思想について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	西洋哲学 (5) —「近代最高の哲学者」などとも呼ばれるカントの生涯と思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	西洋哲学 (6) —近年もたびたび注目されるニーチェ、そして「20世紀最大の哲学者」などとも呼ばれるハイデガーの生涯と思想について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「哲学」とは何か、「哲学」とはどのような学問であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	自然哲学者、ソフィストとはどのような人たちであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	ソクラテス、プラトン、アリストテレスとはどのような人物であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	ヨーロッパの中世とはどのような時代であったのか、またその時代の哲学はどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	デカルトとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	カントとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	ニーチェ、ハイデガーとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	西洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識は身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標とする。 西洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、西洋哲学のおおまかな歴史を理解できる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。

関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	論理学 A (FB211500)
英文科目名	Logic A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、論理学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2 回	論理とは何かを説明した後、命題とはどのようなものかと、命題の真・偽について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
3 回	否定とは何かを説明した後、矛盾律・排中律、「かつ」と「または」の用法、ド・モルガンの法則について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
4 回	条件文とは何かを説明した後、必要条件・十分条件、同値について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
5 回	「逆」「裏」「対偶」といった概念について説明した後、推論 (演繹・帰納・仮説形成) について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
6 回	命題論理とは何かを説明した後、推移律、前件・後件肯定式、選言的三段論法、構成的両刀論法、背理法について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
7 回	述語論理とは何かについて説明した後、「すべて」と「ある」の用法、述語論理の推論や論理法則、帰納や仮説形成の評価について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「論理」とは何か、「論理学」とはどのような学問であるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	命題とはどのようなものかと、命題の真・偽について、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	論理学における否定、矛盾律と排中律、ド・モルガンの法則について、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	必要条件、十分条件、同値について、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	「逆」「裏」「対偶」といった概念、演繹、帰納、仮説形成について、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	命題論理とはどのようなものであるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	述語論理とはどのようなものであるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	論理学という学問の初歩をひと通り理解し、その知識を身につけたうえで、他のすべての学問を学ぶ際や日常生活においても、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標としている。 論理学の学習に最低限必要な知識を身につけ、論理学の概要を説明することができる。(A) 論理的な知識に基づいて思考し、物事を考えるうえで適切な判断を下すことができる。(B)
キーワード	論理、述語論理、命題論理
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。論理学をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	野矢茂樹『入門！ 論理学』（中公新書） 仲島ひとみ『それゆけ！ 論理さん』（筑摩書房） 野矢茂樹『論理学』（東京大学出版会）

連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・練習問題はプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 A (FB211700)
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	一神教の倫理 (1) —ユダヤ教、キリスト教の倫理を、ヘブライ語聖書、新約聖書の記述に基づいて説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	一神教の倫理 (2) —イスラーム教の倫理を、クルアーンの記述に基づいて説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	哲学者と倫理 (1) —義務論を中心に、カントの倫理学を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	哲学者と倫理 (2) —ベンサム、ミルの思想を中心に、功利主義を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	哲学者と倫理 (3) —徳倫理学を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	現代の倫理—ピーター・シンガーの思想を中心に、動物の生命についての様々な考え方を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	ユダヤ教、キリスト教というのはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	イスラーム教とはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	カントというのはどのような人物であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	功利主義とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	徳倫理学とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	動物倫理とはどのような考え方であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」とも最も強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp

	オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 A (FB211710)
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことからであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死
2 回	善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪
3 回	ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義 “幸福と善の関係”
4 回	善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類
5 回	古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷
6 回	善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義
7 回	善と理性との関係について、カントの思想を通して学ぶ。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながら考える。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義 “義務としての善”
8 回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書の1-9ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2 回	教科書27-28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3 回	教科書27-28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4 回	これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
5 回	教科書の28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
6 回	前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
7 回	教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
8 回	ノートを中心に復習を行い、講義全体の理解を深めておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」とも最も強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。（A） 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。（B） 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。（B・C）
キーワード	倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	柘植尚則『ブレッツ倫理学』（弘文堂）
関連科目	哲学
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
授業の運営方針	基本的に大教室の講義形式であるため、学生の理解度を見極めにくい面があるが、講義内で配布し記述してもらうペーパーの内容から、学生からの反応を見極めつつ講義を進めて行く。また講義後の質問なども積極的に受け付ける。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義内で行う思考実験などの結果については、次の講義でフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。また、講義内容の録音、板書の撮影を許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 A (FB211720)
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	一神教の倫理 (1) —ユダヤ教、キリスト教の倫理を、ヘブライ語聖書、新約聖書の記述に基づいて説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	一神教の倫理 (2) —イスラーム教の倫理を、クルアーンの記述に基づいて説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	哲学者と倫理 (1) —義務論を中心に、カントの倫理学を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	哲学者と倫理 (2) —ベンサム、ミルの思想を中心に、功利主義を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	哲学者と倫理 (3) —徳倫理学を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	現代の倫理—ピーター・シンガーの思想を中心に、動物の生命についての様々な考え方を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	ユダヤ教、キリスト教というのはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	イスラーム教とはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	カントというのはどのような人物であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	功利主義とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	徳倫理学とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	動物倫理とはどのような考え方であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」とも最も強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp

	オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学A (FB211900)
英文科目名	Literature A
担当教員名	浅野純一 (あさのじゅんいち)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：この講義についてと中国文学のうち、詩歌の特徴について説明する。
2回	詩経について説明する。
3回	楚辞と漢賦について、具体例をあげながら説明する。
4回	六朝の詩人陶淵明について説明する。
5回	唐代の詩人李白について説明する。
6回	唐代の詩人杜甫について李白と比較しながら説明する。
7回	中唐・晩唐の詩人白居易、李賀、李商隠について説明する。
8回	到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回の教材を読み直し、また、自分の好きな楽曲などを聞いて、押韻、対句などについて理解を確認すること。(120分)
3回	詩経について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
4回	楚辞について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
5回	陶淵明について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
6回	李白について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
7回	李白と杜甫についてその違いを意識しながら、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
8回	授業中に説明したキーワードを確認し、授業中に指示した通りテストの準備をしておくこと。(150分)

講義目的	中国の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 (DP4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。)
達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。(4領域の「知識・理解」) 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。(4領域の「知識・理解」) 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。(4領域の「知識・理解」)
キーワード	文学、中国、詩歌、漢詩、
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2,3を評価)、得点率60%以上を合格とする。
教科書	授業時にプリントを配布する。
関連科目	文学B、中国語()、比較文化論
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B3号館3階浅野研究室 E-mail: asanoj (アットマーク) big.ous.ac.jp オフィスアワー：mylogで確認してください。
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・飲食は原則禁止(ただし、飲料は必要であれば可)
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	文学 A (FB211910)
英文科目名	Literature A
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ドイツ文学の特徴について概説するとともに、講義の進め方、成績評価などについても説明する。
2 回	ドイツ中世の文学について説明する。
3 回	レッシングを中心に啓蒙主義時代の文学について説明する。
4 回	若いゲーテの文学活動について説明する。
5 回	円熟期のゲーテと若いシラーの文学活動について説明する。
6 回	円熟期のシラーの文学活動について説明する。
7 回	ロマン派の詩人たちについて説明する。
8 回	中間的な評価をするためのテストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、ドイツ文学に関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	テキストの 2 4 ~ 3 6 ページを読み、中世期のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	テキストの 5 1 ~ 5 7 ページを読み、啓蒙主義とレッシングについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	テキストの 5 8 ~ 7 0 ページを読み、シュトゥルム・ウント・ドラングについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	テキストの 7 1 ~ 1 2 3 ページを読み、ゲーテについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	テキストの 1 2 4 ~ 1 3 9 ページを読み、シラーについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	テキストの 1 6 7 ~ 1 8 7 ページを読み、ロマン派の詩人たちについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国、またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。 2)個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3)講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2,3を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	増補 ドイツ文学案内 / 手塚 富雄、神品 芳夫 / 岩波文庫 / 978-4-00-350003-2
関連科目	文学B、比較文化論AB
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

	・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学 A (FB211920)
英文科目名	Literature A
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ドイツ文学の特徴について概説するとともに、講義の進め方、成績評価などについても説明する。
2 回	ドイツ中世の文学について説明する。
3 回	レッシングを中心に啓蒙主義時代の文学について説明する。
4 回	若いゲーテの文学活動について説明する。
5 回	円熟期のゲーテと若いシラーの文学活動について説明する。
6 回	円熟期のシラーの文学活動について説明する。
7 回	ロマン派の詩人たちについて説明する。
8 回	中間的な評価をするためのテストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、ドイツ文学に関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	テキストの 2 4 ~ 3 6 ページを読み、中世期のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	テキストの 5 1 ~ 5 7 ページを読み、啓蒙主義とレッシングについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	テキストの 5 8 ~ 7 0 ページを読み、シュトゥルム・ウント・ドラングについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	テキストの 7 1 ~ 1 2 3 ページを読み、ゲーテについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	テキストの 1 2 4 ~ 1 3 9 ページを読み、シラーについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	テキストの 1 6 7 ~ 1 8 7 ページを読み、ロマン派の詩人たちについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国、またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。 2)個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3)講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2,3を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	増補 ドイツ文学案内 / 手塚 富雄、神品 芳夫 / 岩波文庫 / 978-4-00-350003-2
関連科目	文学B、比較文化論AB
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

	・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学 A (FB211960)
英文科目名	Literature A
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス。講義の進め方を説明する。
2 回	ヨーロッパとドイツについて概説する。
3 回	「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。
4 回	「エミーリア・ガロッティー」 近代市民悲劇の誕生について説明する。
5 回	「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。
6 回	「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。
7 回	「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。
8 回	「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、到達度確認テストとそのフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2 回	ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間 120 分)
7 回	テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	テキストの第六章までに目を通して、重要事項を把握しておくこと。(標準学習時間 120 分)

講義目的	世界（中国またはドイツ、および日本）の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 作品について、基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価（合格基準 60 点）	各回のミニレポート、中間テスト、学修の到達度確認テスト（50%×2）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、（ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。）
参考書	適宜指示します。
連絡先	
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説しつつ、実際に日本語訳の抜粋を読んでいきます。講義中心になりますが、ほぼ毎回、最後に課題を与え、それを提出してもらいます。受講マナーをきちんと守ることは最低限の必要条件であり、それが守られない場合は相応の対処をします。
アクティブ・ラーニング	受講生に質問、または文章の音読の指示を行うことがあります。
課題に対するフィードバック	提出課題については、その次の時間の冒頭に教員のコメントとともに紹介することがある。中間テスト、到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。

科目名	日本史 A (FB212200)
英文科目名	Japanese History A
担当教員名	小林博昭 * (こばやしひろあき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。授業の進め方を説明する。その後、弥生時代の特色や、この時代の時期区分について説明する。
2 回	弥生時代に海外から伝播した技術について、水田によるコメ作り技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
3 回	前回に続いて、水田によるコメ作りの技術について説明し、さらにガラス加工技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、青銅器加工技術についても説明する。
4 回	前回から続いて、弥生時代におこなわれた青銅器加工技術と青銅製武器の変遷過程について説明した後、鉄器の加工技術と製品についてOHCを用いながら、配布プリントを中心に説明する。
5 回	青銅器や鉄器加工技術の補足説明と、それら製品を説明した後、古墳時代へつなげる意味で、弥生時代の墓制の変遷について、西日本の各地域における例を説明する。今回は、そのなかで北部九州の具体例にスポットを当てて、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
6 回	畿内の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について、さらに日本海側、とくに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
7 回	瀬戸内地域、とくに岡山県の特設集団墓について説明する。さらに後期中頃から出現する規模の大きなそれらの墓とその特徴について具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、初回以降、今回までの授業内容の整理とまとめをおこない、受講生の当授業内容への理解の深化を促す。
8 回	第1回目から第7回目までの授業で扱った歴史的な事象についての補足説明をおこなう。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。弥生時代の特色、そして時期区分の方法についてノートを中心に復習すること。弥生時代のコメ作りについて、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	弥生時代の水田によるコメ作り技術について十分に復習すること。弥生時代のガラス製品について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	弥生時代のコメ作りやガラス加工技術について、復習すること。弥生時代に製作、使用された青銅器について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	青銅器加工技術や青銅製武器の移り変わり、そして鉄器の加工技術と製品について、配布プリントを中心に十分復習すること。弥生時代の鉄器についてどのような種類があるのか、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	北部九州の弥生時代の墓制について復習をおこなうこと。畿内の弥生時代の墓制、とくに方形周溝墓について図書館等で予習しておくこと。さらに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その構築技術などを図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	畿内、および出雲地域の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について説明できるように復習をおこなうこと。くわえて、岡山県の弥生時代の特定集団墓について、予習をしておくこと(標準学習時間120分)
7 回	第1回目から第7回目までの授業のポイントを各自まとめて再度確認し、内容を十分理解しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、列島の弥生時代から各地の首長連合によるヤマト政権による国家的事業としての古墳発生前後までの時代における人々が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を抽出できる。 2) 歴史という時系列の中で、抽出した諸要素を客観的に把握できる。 3) 諸要素相互の因果関係や、その背景について分析できる。 4) それらの分析結果について深く考察できる。

	4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“ 古代史 ”、“ 弥生時代 ”、“ 古墳時代 ”、“ 日本史 ”
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（達成目標 1 ～ 4 ）100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
関連科目	日本史B
参考書	授業の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1) 毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2) (1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3) 出欠は、毎回とる。 (4) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。 (5) 授業中に私語をする受講生や、他の受講生に迷惑がかかるような受講態度が悪い受講生に対しては、即刻退場や以降の受講を断る場合がある。 (6) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	外国史 A (FB212400)
英文科目名	World History A
担当教員名	奥山広規* (おくやまひろき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。 講義の進め方と外国史を学ぶ意義について説明する。
2 回	オリエント世界と地中海世界を軸に、西洋古代について概観する。
3 回	中華世界と南アジア世界を軸に、東洋古代について概観する。
4 回	東西ユーラシア世界の交流について、シルクロードを軸に説明する。
5 回	古代から中世への転換を軸に、時代の転換について説明する。
6 回	ヨーロッパ世界の形成過程を軸に、西洋中世について概観する。
7 回	東アジア世界の変容とモンゴル帝国の出現を軸に、東洋中世について概観する。 最終評価試験を実施する。
8 回	。東西ユーラシア世界の交流について、ビザンツとイスラームを軸に説明する。 最終評価試験の模範解答・解説を行う。

回数	準備学習
1 回	講義内容の確認を行うこと。 外国史を学ぶ意義について、自分なりに考えておくこと(標準学習時間60分)。
2 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
3 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)
8 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得し、説明できる。 毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につけることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	外国史、世界史、古代世界、中世世界、近代世界、現代世界
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験(80%)、毎回の小試験(20%)によって、成績を評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	外国史Bと内容的に連続しているので、出来るかぎり受講してください。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（7号館4階）
授業の運営方針	・授業は板書(パワーポイント)と配布プリントを用いて行う。 ・プリントは、毎回ではなく、必要に応じて配布する。 ・授業では、学んだことを基に、考えることを重視する。そのため、最終評価試験では論述問題を課すので、ノート・配布プリントをよく復習し、関連情報を自分なりに収集すること。
アクティブ・ラーニング	

ゲ	
課題に対するフィードバック	・小テストについては、毎回の講義の始めに解答し、前回の復習としても役立てる。 ・最終評価試験を7回目に行い、8回目に模範解答と解説を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	外国史 A (FB212410)
英文科目名	World History A
担当教員名	奥山広規 * (おくやまひろき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。 講義の進め方と外国史を学ぶ意義について説明する。
2 回	オリエント世界と地中海世界を軸に、西洋古代について概観する。
3 回	中華世界と南アジア世界を軸に、東洋古代について概観する。
4 回	東西ユーラシア世界の交流について、シルクロードを軸に説明する。
5 回	古代から中世への転換を軸に、時代の転換について説明する。
6 回	ヨーロッパ世界の形成過程を軸に、西洋中世について概観する。
7 回	東アジア世界の変容とモンゴル帝国の出現を軸に、東洋中世について概観する。 最終評価試験を実施する。
8 回	。東西ユーラシア世界の交流について、ビザンツとイスラームを軸に説明する。 最終評価試験の模範解答・解説を行う。

回数	準備学習
1 回	講義内容の確認を行うこと。 外国史を学ぶ意義について、自分なりに考えておくこと(標準学習時間60分)。
2 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
3 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)
8 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得し、説明できる。 毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につけることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	外国史、世界史、古代世界、中世世界、近代世界、現代世界
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験(80%)、毎回の小試験(20%)によって、成績を評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	外国史Bと内容的に連続しているので、出来るかぎり受講してください。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（7号館4階）
授業の運営方針	・授業は板書(パワーポイント)と配布プリントを用いて行う。 ・プリントは、毎回ではなく、必要に応じて配布する。 ・授業では、学んだことを基に、考えることを重視する。そのため、最終評価試験では論述問題を課すので、ノート・配布プリントをよく復習し、関連情報を自分なりに収集すること。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・小テストについては、毎回の講義の始めに解答し、前回の復習としても役立つ。 ・最終評価試験を7回目に行い、8回目に模範解答と解説を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	マスメディア論 A (FB212600)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice A
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして授業の内容、進め方、成績評価の方針について把握する。続いて、メディアとは何か、情報を伝える媒体としての特性について理解する。
2 回	メディアとは何かについて、ウォルター・リップマンやマーシャル・マクルーハンの提唱した概念について理解する。
3 回	新聞の歴史と特性について理解する。
4 回	ラジオの歴史と特性について理解する。
5 回	映画の歴史と特性について理解する。
6 回	テレビの歴史と特性について理解する。
7 回	出版の歴史と特性について理解する。
8 回	最終評価試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説を配布する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：メディアの役割について授業の内容をまとめたノートを作ること (標準学習時間 90 分)
2 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：リップマンが唱えた「疑似環境」、マクルーハンの提唱した「メディアはメッセージである」といったメディアに関する概念についてまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：グーテンベルグの活版印刷術の発明を契機に大量の印刷物が出回るようになる中で始まった新聞の歴史と紙媒体ならではの特性についてまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：電子技術の進化の中で生まれたラジオが歴史上、果たした役割、音声媒体ならではの特性についてまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：映画の歴史や映像という強いインパクトを持つ媒体としての特性、娯楽や芸術として発展してきたことをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：映画やラジオの黄金時代に登場したテレビが急速に普及し、お茶の間に浸透した歴史や、人々の暮らしや生活習慣にまで影響を与えたことをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：戦後の日本社会で出版物が教養や娯楽をもたらした歴史や、近年の本離れの実態についてまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	予習：これまでの授業を振り返り、試験準備をする。

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてのマスメディアの存在は欠かせない。その特性を知り、情報の取舍選択に生かしていくことは実社会を生きていく上で重要な要素となる。インターネットの普及で情報革命ともいわれる新しい環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身に付ける。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	1) マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。(知識・理解) 2) マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り適切な接し方を身に付ける。(知識・理解) 3) 正しい情報の使い方、発言する側の責任など情報モラルの大切さを身につける(知識・理解)
キーワード	媒体、疑似環境、情報環境、紙、音声、映像、身体、拡張
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	授業中に毎回書いてもらう小レポート 10% (達成目標 1、3 を評価)、最終評価試験 90% (達成目標 1、2、3 を評価) により成績を評価し、総計で得点率 60% 以上を合格とする。
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	現代のメディア、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK 出版: たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまブリマー新書
連絡先	A 1 号館 6 F 八木研究室 086-256-9758 E-mail yagi@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日 3 時限

授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小レポートは毎回、時事問題について書いてもらうので、日ごろから新聞やテレビなどでニュースに接しておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務：新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	マスメディア論 A (FB212610)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice A
担当教員名	高下義彦* (こうげよしひこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	マスメディア論のいわば入門編。イントロダクション「現代人とマスメディア」講義の進め方、試験の方法や評価方法、マスメディアの概略について説明する。
2 回	「メディアと日本人」幕末に創刊された新聞から現在のインターネットまで、日本人がどのようにメディアを受け入れてきたかを学習する。
3 回	「新聞」日本や世界の新聞の誕生から変遷や現状を学習する。
4 回	「新聞」日本の新聞社の組織、新聞の作り方を、山陽新聞を例に見ていく。取材、編集から制作までを学習し、ニュースの価値判断について考察する。
5 回	「新聞」新聞はどのように読まれているか、どのように評価されているか。日本新聞協会が行った「全国メディア接触・評価調査」の結果から、日本人の新聞との付き合い方を学習する。
6 回	「放送」日本の放送の歴史と現状をテレビを中心に学習する。
7 回	「出版」日本の出版産業の歴史と現状を学習する。
8 回	1～7回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
2 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
3 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
4 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
5 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
6 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
7 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
8 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート(時事ニュースなどについて)10%
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版:メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書:鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書:ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社:メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター

	岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp
授業の運営方針	最初にその日の講義で使う資料と出席票を1人1枚とって着席。私語が激しい場合、注意しても直らない場合退出を求める。出席票が明らかに代筆と認められる場合は、両人を欠席扱いとすることがある。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に、「最近気になったニュース」を記入する。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音、録画、撮影は許可する。
実務経験のある教員	山陽新聞社で30年超、取材記者、紙面制作記者及び両部門のデスク、管理職を経験。現在は、新聞制作システムから印刷、発送までの流れを管轄する編集局製作管理センター長を務める。
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 A (FB212900)
英文科目名	Political Science A
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「政治とは」：権力と権威、そして支配の正統性について説明する。
2 回	「国家」：市民革命と国民国家、主権概念について説明する。
3 回	「政治体制とイデオロギー」：自由民主主義やファシズム、権威主義、マルクス主義といった政治体制やイデオロギーについて説明する。
4 回	「選挙と民主主義」：日本の選挙制度を事例とし、選挙制度について説明する。
5 回	「議院内閣制と大統領制」：日本と米国を事例として、議院内閣制と大統領制の特徴について説明する。
6 回	「議会と政党システム」：一党優位制や二大政党制、多党制などの政党システムについて説明する。
7 回	「官僚制と利益団体」：政策過程に関与する官僚と利益団体について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞やTV、インターネットを通じ政治ニュースに触れて、政治問題に関心を持つよう努力すること (標準学習時間30分)
2 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
3 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
4 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
5 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
6 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
7 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
8 回	これまでの講義内容についてしっかり復習しておくこと (標準学習時間60分)

講義目的	政治学の基礎知識、そしてその発展の歴史を学ぶことによって、現代社会がいかに複雑かつ多くのアクターの関与で成り立っているのか理解できるようになることを目標とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	政治学におけるワードや基本的概念について説明できる。 今日 の政治制度がどのように歴史的に展開し成立しているのか説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	現代政治、政治体制、政治イデオロギー、議院内閣制、大統領制、政党システム、政治過程
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	上記達成目標の到達度を第8回講義内の最終評価試験 (100%) で評価する。
教科書	・現代政治学 [第4版] / 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 / 有斐閣 / 978-4641124554 ・政治学 / 川出良枝・谷口将紀 (編) / 東京大学出版会 / 978-4130322195
関連科目	政治学B、国際関係論A / B
参考書	適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・日常生活と政治は日々密接化しており、現代の人びとは政治にまったく無関心でいられない。それゆえに、現代政治を理解することは社会人として極めて重要である。この講義では、受講生が現代政治への関心と理解を少しでも多く得られるように実施していく。そのため、受講生も新聞やニュースなどで、日々の政治動向に対して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回の授業に関するレジュメ・資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論A (FB213100)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations A
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション「国際関係理論とは?」: 国際政治の理解に必要な一般的諸理論について紹介する。
2回	国際政治のアクター1「主権国家」: 国際政治の基本アクターである「国家」の歴史的展開について説明する。
3回	国際政治のアクター2「国際連合」: 国際連合の国際政治における意義と役割について説明する。
4回	国際政治のアクター3「世界銀行とIMF」: 20世紀から今日までの国際経済金融体制の歴史とともに、当該体制における世界銀行とIMFの役割について説明する。
5回	国際政治のアクター4「EU」: 20世紀後半、地域統合の模範とされたEUの歴史とともに、今日起きているその諸問題についても説明する。
6回	国際政治のアクター5「NGOとCSO(市民社会組織)」: 今日、国際社会において大きな役割を果たすようになったNGOの意義について、1970~1980年代の東西冷戦終結プロセスをもとに説明する。
7回	国際政治のアクター6「企業とCSR(企業の社会的責任)」: グローバル経済化した今日における企業の責任について、国連グローバル・コンパクト成立の観点から説明する。
8回	最終評価試験を実施する。最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1回	新聞やTV、インターネットを通じ国際ニュースに触れて、現在、国際社会でどんな事が起きているのか、そしてどんな問題があるのか目を通しておくこと(標準学習時間30分)
2回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
3回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
4回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
5回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
6回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
7回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
8回	これまでの講義内容についてしっかり復習しておくこと(標準学習時間60分)

講義目的	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターが関与し、そしてどのような役割を果たしているのかを理解できるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	国際政治に関与する諸アクターとその意義・役割について説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	主権国家、第1次・第2次世界大戦、東西冷戦、国際機構、市民社会
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	上記達成目標の到達度を第8回講義内の最終評価試験(100%)で評価する。
教科書	・新グローバル公共政策[改訂版]/庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆(編)/晃洋書房/978-4771027480 ・グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域/グローバルガバナンス学会(編)/法律文化社/978-4589038814
関連科目	国際関係論B、政治学A/B
参考書	マイノリティ保護のクロアチア政治史/山川卓/晃洋書房/978-4771031432 その他の参考書については適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・国際社会における諸国家間の行動や態度または出来事について、受講生の「何でだろう」という疑問に応えるような授業にしていく。そのため、受講生には新聞やニュースなどで、世界情勢に関して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回

	の授業に関するレジュメ・資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	経済学 A (FB213600)
英文科目名	Economics A
担当教員名	横尾昌紀 * (よこおまさのり *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	経済学の概要とゲーム理論の関係について
2 回	囚人のジレンマ
3 回	戦略形ゲームとナッシュ均衡 (標準学習時間 4 0 分)
4 回	戦略形ゲームの応用例：価格競争，家事の分担，OS の選択等
5 回	混合戦略のナッシュ均衡：ジャンケンの ' 必勝法 '
6 回	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
7 回	展開形ゲームの応用例 (1)：参入阻止ゲーム，ネズミ講，チェインストアパラドクス
8 回	まとめ， 最終評価試験

回数	準備学習
1 回	教科書の第 1 章を授業の前か後に読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
2 回	教科書の第 2 章と第 5 章の最初の節を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
3 回	教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
4 回	教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
5 回	教科書の第 4 章と 5 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
6 回	教科書の第 6 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
7 回	教科書の第 6 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
8 回	いままでのところを復習してください。 (標準学習時間 4 0 分)

講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況，すなわち，駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステムティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて，「戦略的思考」を身につけることを目的とします。（教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し，「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	・戦略形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める。 ・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める。 ・展開形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し，「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	経済学，戦略，戦略的状況，戦略的思考，ゲーム理論，ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡。
試験実施	実施する
成績評価（合格基準 60 点）	課題提出（20％），中間試験（20％），最終評価試験（60％）
教科書	ゲーム理論・入門 / 岡田章著 / 有斐閣アルマ / 9784641123625
関連科目	社会と人間
参考書	『ゲーム理論 ワークブック』，岡田章他，有斐閣
連絡先	電子メール： yokoo@e.okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	講義形式で行います。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	下の注意事項を参照ください．
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	ポータルサイト 共有スペース 学部共通 「経済学（横尾）後期」のフォルダーに過去の試験問題や演習問題が入っていますので、必ず確認してください．

科目名	経済学 A (FB213610)
英文科目名	Economics A
担当教員名	山下賢二 * (やましたけんじ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	経済学とは何かについての概要を講義する。
2 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に消費者行動の原則と効用の概念について講義する。
3 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に効用関数について講義する。
4 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に無差別曲線について講義する。
5 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点の導出について講義する。
6 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点を解析的に求める方法について講義する。
7 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に所得消費曲線、需要曲線、補償需要曲線について講義する。
8 回	これまでの 7 回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (内容は何でもよい。) (標準学習時間60分)
2 回	1. 微分の復習をしておくこと 2. 第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと (標準学習時間60分)
3 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
4 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
5 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
6 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
7 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
8 回	すべての講義を復習しておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	経済現象は日々変化しており，その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では，経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うこと を目的として，若干の数学を用いながら，経済理論の最も基本的な部分を講義する。（教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	・ 基本的な経済理論を理解できる ・ 様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	ミクロ経済学、家計
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60	最終評価試験(100%)

点)	
教科書	1からの経済学 / 中谷武・中村保編著 / 碩学舎 / 中央経済社 / 9784502680809 プリント (ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)
関連科目	ミクロ経済学
参考書	適宜指示する。
連絡先	岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室kenyamashi ta@po.osu.ac.jp
授業の運営方針	プリントを中心に進めていく。 試験は試験期間中に行い、筆記試験 (100%) で評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	年度最後の追再試終了後に模範解答・解説 (プリント当該箇所指示) をWeb上に上げる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	講義では、微分 (偏微分・全微分含む) を多用する。高校で微分をすでに学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験は試験期間中に行い、筆記試験 (100%) で評価する。

科目名	環境と社会 A (FB213900)
英文科目名	Environment and Society A
担当教員名	剣持堅志 * (けんもつかたし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能 (AI) の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
2 回	日本で発生した深刻な公害 (足尾鉍毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど) や PCB によるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
3 回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにより努力し、克服したかについてについて講義する。
4 回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
5 回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
6 回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、岡山県真備町の豪雨災害の原因など、身近に迫ってきた地球温暖化対策の影響について講義する。
7 回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びデメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても実際の体験を踏まえて講義する。
8 回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施

回数	準備学習
1 回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書 の構成と目次 (4 ~ 9) などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 (標準学習時間60分)
4 回	参考書 第2 ~ 3 章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
5 回	地球レベルの環境破壊について、参考書 3 - 4、3 - 6 章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
6 回	地球温暖化の原因と現状について、参考書 3 - 1 章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
7 回	原子力発電所事故等について、参考書 3 - 8 章などを勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
8 回	再生可能エネルギーについて、参考書 3 - 2 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。(標準学習時間120分) 評価試験の範囲は 1 ~ 8 回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを
------	--

	知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、E S D教育、E S G投資、ライフスタイルの変革
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	16回受講者については、中間評価試験(1~8回)及び最終評価試験(9~16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)® 公式松井孝典テキスト / 東京商工会議所 / 日本能率会マネジメントセンター / ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)
授業の運営方針	講生に今今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。
その他(注意・備考)	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	環境と社会 A (FB213910)
英文科目名	Environment and Society A
担当教員名	剣持堅志 * (けんもつかたし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能 (AI) の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
2 回	日本で発生した深刻な公害 (足尾鉍毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど) や PCB によるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
3 回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにより努力し、克服したかについてについて講義する。
4 回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
5 回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
6 回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、岡山県真備町の豪雨災害の原因など、身近に迫ってきた地球温暖化対策の影響について講義する。
7 回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びデメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても実際の体験を踏まえて講義する。
8 回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施

回数	準備学習
1 回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書 の構成と目次 (4 ~ 9) などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 (標準学習時間60分)
4 回	参考書 第2 ~ 3 章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
5 回	地球レベルの環境破壊について、参考書 3 - 4、3 - 6 章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
6 回	地球温暖化の原因と現状について、参考書 3 - 1 章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
7 回	原子力発電所事故等について、参考書 3 - 8 章などを勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
8 回	再生可能エネルギーについて、参考書 3 - 2 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。(標準学習時間120分) 評価試験の範囲は 1 ~ 8 回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを
------	--

	知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、E S D教育、E S G投資、ライフスタイルの変革
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	16回受講者については、中間評価試験(1~8回)及び最終評価試験(9~16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)® 公式松井孝典テキスト / 東京商工会議所 / 日本能率会マネジメントセンター / ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)
授業の運営方針	講生に今今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。
その他(注意・備考)	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	法学 A (FB214100)
英文科目名	Law A
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法とは何かについての講義をする。 [内容] 社会規範としての法、法と道德の違い
2 回	六法の使い方についての説明をする。 [内容] 六法とは?、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
3 回	法の体系についての講義をする。 [内容] 法が存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
4 回	法の分類についての講義をする。 [内容] 法の内容による分類 (公法と私法、一般法と特別法など)
5 回	法の効力についての講義をする。 [内容] 法の効力とは?、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消
6 回	法の適用についての講義をする。 [内容] 法の適用とは?、事実認定の必要性和重要性
7 回	法の解釈 についての講義をする。 [内容] 文理解釈、論理 (目的) 解釈
8 回	最終評価試験を行い、その後、テストの解説およびこれまでの授業の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。 初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。初回の授業までに各自でなぜこの授業を履修し、この授業を通じて何を学ぶのかについて考えてから初回の授業に臨むこと (標準学習時間60分)
2 回	第 1 回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。 購入した自分の六法の中身を見ておくこと。 (例えば、どんな法令が幾つ収録されているか? 国語や英語の辞書と違う点は何か? など) ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	第1回および第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 2 回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	第3回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 3 回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと (授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと)。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	第4回の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 4 回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 5 回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと (特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど)。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	第6回の授業内容の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 6 回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと (特に事実認定の必要性・重要性など)。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	第 7 回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと (解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと)。 また、中間テストを行うので、第 1 回から第 7 回までの内容を復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか法律というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法や法律がとりまく社会の中で生活していて、将来、法や法律に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や法律に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や法律に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や法律についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や法律に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。 また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。 (教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる (知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる (知識・理解)。

	(3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる(知識・理解、思考・判断・表現)。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、法律、六法、成文法、法の効力、法の適用・解釈など、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業確認プリント[計6回:30%](達成目標1~2を確認)+授業内小テスト[計2回:20%](到達目標1~3を確認)+最終評価試験[50%](到達目標1~3を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6 (書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可)
関連科目	法学B、日本国憲法
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと) 連絡については直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。 (2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 (3) 復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 (4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 (5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする(ただし事前に分かっている場合には相談に応じる)。
アクティブ・ラーニング	(1) 授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 (2) 授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、返却し、訂正・復習をしてもらったうえで再提出してもらう(再提出までして成績評価に加える)。 授業確認プリントについては、後日、解答・解説をアップする。 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	(1) 履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 (2) 上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので(ただしテストを除く)、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 (3) テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 (4) 新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	法学 A (FB214110)
英文科目名	Law A
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法とは何かについての講義をする。 [内容] 社会規範としての法、法と道德の違い
2 回	六法の使い方についての説明をする。 [内容] 六法とは?、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
3 回	法の体系についての講義をする。 [内容] 法が存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
4 回	法の分類についての講義をする。 [内容] 法の内容による分類 (公法と私法、一般法と特別法など)
5 回	法の効力についての講義をする。 [内容] 法の効力とは?、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消
6 回	法の適用についての講義をする。 [内容] 法の適用とは?、事実認定の必要性和重要性
7 回	法の解釈 についての講義をする。 [内容] 文理解釈、論理 (目的) 解釈
8 回	最終評価試験を行い、その後、テストの解説およびこれまでの授業の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。初回の授業までに各自でなぜこの授業を履修し、この授業を通じて何を学ぶのかについて考えてから初回の授業に臨むこと (標準学習時間60分)
2 回	第 1 回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。(例えば、どんな法令が幾つ収録されているか? 国語や英語の辞書と違う点は何か? など) ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	第1回および第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 2 回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	第3回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 3 回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと (授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	第4回の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 4 回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 5 回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと (特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	第6回の授業内容の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 6 回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと (特に事実認定の必要性・重要性など)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第 7 回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと (解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと)。また、中間テストを行うので、第 1 回から第 7 回までの内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか法律というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法や法律がとりまく社会の中で生活していて、将来、法や法律に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や法律に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や法律に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や法律についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や法律に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。(教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる (知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる (知識・理解)。

	(3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる(知識・理解、思考・判断・表現)。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、法律、六法、成文法、法の効力、法の適用・解釈など、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業確認プリント[計6回:30%](達成目標1~2を確認)+授業内小テスト[計2回:20%](到達目標1~3を確認)+最終評価試験[50%](到達目標1~3を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6 (書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可)
関連科目	法学B、日本国憲法
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと) 連絡については直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。 (2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 (3) 復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 (4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 (5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする(ただし事前に分かっている場合には相談に応じる)。
アクティブ・ラーニング	(1) 授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 (2) 授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、返却し、訂正・復習をしてもらったうえで再提出してもらう(再提出までして成績評価に加える)。 授業確認プリントについては、後日、解答・解説をアップする。 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	(1) 履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 (2) 上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので(ただしテストを除く)、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 (3) テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 (4) 新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	法学 A (FB214120)
英文科目名	Law A
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法とは何かについての講義をする。 [内容] 社会規範としての法、法と道德の違い
2 回	六法の使い方についての説明をする。 [内容] 六法とは？、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
3 回	法の体系についての講義をする。 [内容] 法が存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
4 回	法の分類についての講義をする。 [内容] 法の内容による分類 (公法と私法、一般法と特別法など)
5 回	法の効力についての講義をする。 [内容] 法の効力とは？、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消
6 回	法の適用についての講義をする。 [内容] 法の適用とは？、事実認定の必要性和重要性
7 回	法の解釈 についての講義をする。 [内容] 文理解釈、論理 (目的) 解釈
8 回	最終評価試験を行い、その後、テストの解説およびこれまでの授業の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。 初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。初回の授業までに各自でなぜこの授業を履修し、この授業を通じて何を学ぶのかについて考えてから初回の授業に臨むこと (標準学習時間60分)
2 回	第 1 回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。 購入した自分の六法の中身を見ておくこと。 (例えば、どんな法令が幾つ収録されているか？ 国語や英語の辞書と違う点は何か？ など) ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	第1回および第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 2 回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	第3回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 3 回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと (授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと)。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	第4回の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 4 回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 5 回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと (特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど)。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	第6回の授業内容の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 6 回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと (特に事実認定の必要性・重要性など)。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	第 7 回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと (解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと)。 また、中間テストを行うので、第 1 回から第 7 回までの内容を復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか法律というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法や法律がとりまく社会の中で生活していて、将来、法や法律に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や法律に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や法律に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や法律についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や法律に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。 また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。 (教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる (知識・理解) 。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる (知識・理解) 。

	(3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる(知識・理解、思考・判断・表現)。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、法律、六法、成文法、法の効力、法の適用・解釈など、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業確認プリント[計6回:30%](達成目標1~2を確認)+授業内小テスト[計2回:20%](到達目標1~3を確認)+最終評価試験[50%](到達目標1~3を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6 (書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可)
関連科目	法学B、日本国憲法
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと) 連絡については直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。 (2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 (3) 復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 (4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 (5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする(ただし事前に分かっている場合には相談に応じる)。
アクティブ・ラーニング	(1) 授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 (2) 授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、返却し、訂正・復習をしてもらったうえで再提出してもらう(再提出までして成績評価に加える)。 授業確認プリントについては、後日、解答・解説をアップする。 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	(1) 履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 (2) 上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので(ただしテストを除く)、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 (3) テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 (4) 新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	考古学 A (FB214300)
英文科目名	Archaeology A
担当教員名	白石純 (しらいしじゅん)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義概要として講義内容と講義の進め方を説明する。 考古学がなぜ必要かについて講義する。
2 回	考古学はどんな学問か。考古学の定義について講義する。
3 回	考古学の研究対象・時間的範囲・地域的範囲について講義する。
4 回	いろいろな考古学(時代・地域・宗教・その他)について講義する。
5 回	考古学はどのように発達したかについて講義する。
6 回	考古学資料の種類(遺跡・遺構・遺物)について講義する。
7 回	考古学の研究方法(型式学・一括遺物と共存関係)について講義する。
8 回	考古学で用いられる年代測定法(放射性炭素法・考古地磁気法・年輪年代法)について講義する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義内容を理解しておくこと。図書館等で「考古学」について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	前回の講義内容について復習し「考古学の目的・定義」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	前回の講義内容について復習し「考古学が対象とするものや年代の範囲」について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
4 回	前回の講義内容について復習し「考古学は時代・地域・その他で区分されている」この区分について調べておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	前回の講義内容について復習し「考古学が古代からどのように発達してきたか」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	前回の講義内容について復習し「考古学が取り扱う資料にはどのような物があるか」調べておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	前回の講義内容について復習し「考古学の研究方法」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	前回の講義内容について復習し「考古学で用いられる年代測定」について、どのような測定法があるか調べておくこと。また、1～7回までの講義内容を復習し、よく理解しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのかを理解する。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように講義する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について講義し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解する。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解することで、考古学が人文科学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを理解する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断力・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 理系、文系を問わず、歴史について説明できる。 2) さまざまな知識、学問に応用することができる。 3) 発想や資料分析法の仕方に応用することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験100点(達成目標1～3を評価)により成績を評価する。合格基準は100点満点のうち60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。 講義資料を適宜、配付する。
関連科目	日本考古学、環境考古学
参考書	考古学ゼミナール / 江上波夫 / 山川出版社 : 考古学の基礎知識 / 広瀬和雄 / 角川選書
連絡先	C2号館6階 白石研究室 shiraish@big.ous.ac.jp 086-256-9655 オフィスアワー 月曜5・6時限

授業の運営方針	・プロジェクターにより図を提示し、視覚的な説明と板書を組み合わせで講義を進めていく。 ・講義資料を適宜、配付する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験の解説は試験終了後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論A (FB214600)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と講義の概略を示す。
2回	「ゴジラ」を軸に日本映画における放射能の表象を分析する。
3回	アメリカ映画における放射能の表象を分析し、日本映画と比較する。
4回	日本映画における物語の舞台としての「学校」について考察する。
5回	外国映画における「学校」について分析し、日本映画と比較する。
6回	アクション映画における日本から香港への影響を分析する。
7回	アクション映画における香港から日本への影響を分析する。最終評価試験について説明する。
8回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：テキスト第1章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
4回	予習：テキスト第3章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：テキスト第14章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
6回	予習：テキスト第4章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義を整理し、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	・少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。 ・「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説ける。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	岡山、映画、アニメ、比較文化、表象文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「まあ映画な、岡山じゃ県！」 / 蜻文庫
関連科目	比較文化論B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 参考映像をめぐる各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	比較文化論A (FB214640)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス・文化についての解説をする。
2回	テキストの解説と考え方についてを講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて講義する。
4回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編1)について解説する。
5回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編2)について解説する。
6回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編3)について解説する。
7回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編4)について解説する
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身で「文化」の定義を考えておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。

点)	達成目標 1、2 を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論A（FB214650）
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周（つじまさちか）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス・文化についての解説をする。
2回	テキストの解説と考え方についてを講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて講義する。
4回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編1）について解説する。
5回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編2）について解説する。
6回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編3）について解説する。
7回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編4）について解説する
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身で「文化」の定義を考えておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60	学修の到達度確認試験（100％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。

点)	達成目標 1、2 を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論A (FB214660)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス・文化についての解説をする。
2回	テキストの解説と考え方についてを講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて講義する。
4回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編1)について解説する。
5回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編2)について解説する。
6回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編3)について解説する。
7回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編4)について解説する
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身で「文化」の定義を考えておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。

点)	達成目標 1、2 を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 A (FB214900)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	榎原 宥* (えばら ゆたか*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義オリエンテーションー私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何かというテーマで講義内容を説明する。
2 回	第一回講義の続きー「市民性の授業」の解説と憲法改正を含む政治の大きな流れについて、政権の動きを時系列で捉え、説明する。
3 回	立法への市民参加 (1) - 私たち周りにある究極の、また共通のルール = 憲法と、憲法改定論議について解説する。憲法は何のためにあるのかを共に考える。
4 回	立法への市民参加 (2) - 憲法の前文と第九条について、特に、自衛権の問題について解説する。
5 回	立法への市民参加 (3) - 民主主義とは何か、立憲主義とは何か、また、統治行為論とは何かについて解説し、現行憲法の意味合いを今一度共に考える。
6 回	ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説「荒野の40年」を題材に、第二次世界大戦敗戦国日本とドイツの戦後処理について解説する。
7 回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこへ向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を体験するのか想像する。どのような「市民性」を発揮できるのか考える。
8 回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2 回	憲法改定についての自分の意見を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 講義期間は常にその意識を確認すること。また、その間、関連するニュースをチェックすること。)
3 回	日本国憲法の前文と第九条を読んでおくこと。(標準学習時間: 60分)
4 回	自衛隊の歴史と、何のために存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5 回	第3回、第4回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
6 回	靖国神社問題の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
7 回	現在社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何かを考えておくこと。
8 回	第1回から第7回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、「三権」の内「立法」への市民参加について論ずる。皆に共通の社会ルールである日本国憲法を題材として、眼の前に迫る改憲に対する議論を様々な社会的側面より論議をする。今夏には参議院議員選挙が行われる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な(論理的で破綻のない)言葉や文章で表現出来ること。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義、立憲主義
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終試験100%で評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	社会と人間B: 社会と人間Aでは「三権」の内「立法」を取り上げるが、この関連科目の社会と人間Bでは「行政」と「司法」への市民参加の課題を講義する。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	多人数の履修が予想されるため、講義(講師からの情報提供)中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分らなくなる可能性があるため、毎回の出席を心がけること。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため、 配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。
実務経験のある教員	ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。
その他（注意・備考）	関連科目の「社会と人間B」の履修を要望する。

科目名	社会と人間 A (FB214910)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	榎原 宥* (えばら ゆたか*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義オリエンテーションー私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何かというテーマで講義内容を説明する。
2 回	第一回講義の続きー「市民性の授業」の解説と憲法改正を含む政治の大きな流れについて、政権の動きを時系列で捉え、説明する。
3 回	立法への市民参加 (1) - 私たち周りにある究極の、また共通のルール = 憲法と、憲法改定論議について解説する。憲法は何のためにあるのかを共に考える。
4 回	立法への市民参加 (2) - 憲法の前文と第九条について、特に、自衛権の問題について解説する。
5 回	立法への市民参加 (3) - 民主主義とは何か、立憲主義とは何か、また、統治行為論とは何かについて解説し、現行憲法の意味合いを今一度共に考える。
6 回	ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説「荒野の40年」を題材に、第二次世界大戦敗戦国日本とドイツの戦後処理について解説する。
7 回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこへ向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を体験するのか想像する。どのような「市民性」を発揮できるのか考える。
8 回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2 回	憲法改定についての自分の意見を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 講義期間は常にその意識を確認すること。また、その間、関連するニュースをチェックすること。)
3 回	日本国憲法の前文と第九条を読んでおくこと。(標準学習時間: 60分)
4 回	自衛隊の歴史と、何のために存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5 回	第3回、第4回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
6 回	靖国神社問題の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
7 回	現在社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何かを考えておくこと。
8 回	第1回から第7回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、「三権」の内「立法」への市民参加について論ずる。皆に共通の社会ルールである日本国憲法を題材として、目の前に迫る改憲に対する議論を様々な社会的側面より論議をする。今夏には参議院議員選挙が行われる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な(論理的で破綻のない)言葉や文章で表現出来ること。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義、立憲主義
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終試験100%で評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	社会と人間B: 社会と人間Aでは「三権」の内「立法」を取り上げるが、この関連科目の社会と人間Bでは「行政」と「司法」への市民参加の課題を講義する。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	多人数の履修が予想されるため、講義(講師からの情報提供)中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分らなくなる可能性があるため、毎回の出席を心がけること。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため、 配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。
実務経験のある教員	ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。
その他（注意・備考）	関連科目の「社会と人間B」の履修を要望する。

科目名	社会と人間 A (FB214920)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	市場恵子* (いちばけいこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【自尊感情とジェンダー】性に関するキーワード「sex,gender,sexuality」を理解し、エンパワメントの理念を学ぶ。
2 回	【性の多様性と可変性】性同一性障害（性別違和）・性分化疾患・性的指向（同性愛・両性愛・無性愛）など、性的少数者への理解を深める。
3 回	【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】妊娠・出産・中絶・不妊など、生殖に関する基本的知識や、「性的自己決定権」を尊重し合う関係を学ぶ。性暴力や売買春についても検証する。
4 回	【障がいとともに生きる】「障がい」とは？ 自らの差別感や社会のバリアを検証する。
5 回	【DVと虐待】アニメ『パパ、ママをぶたないで』を観て、DVや虐待について考える。DVのサイクル、子どもへの影響、被害者の救済と加害者の更生などを学ぶ。
6 回	【デートDV】暴力や支配のない、お互いに尊重し合える対等なパートナーシップを学ぶ。
7 回	【キャンパス・ハラスメント】キャンパスハラスメントとは？ハラスメントの防止対策を考える。
8 回	【憲法とは何か？】（前半45分間講義）日本国憲法を守る義務を負うのは誰？ 憲法にはどんな役割があるのか。わかりやすい口語訳で解説する。
【試験】（後半45分間試験）	

回数	準備学習
1 回	【自尊感情とジェンダー】シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。
2 回	【性の多様性と可変性】テレビ番組や雑誌などで、性的少数者を差別・侮蔑・嘲笑したりする場面はないか、チェックしておくこと。同性婚が認められている国、日本の現状を調べておくこと。
3 回	【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】男性性器・女性性器の科学的名称、避妊の方法、性感染症など、復習しておくこと。
4 回	【障がいとともに生きる】大学や駅、公共施設などに設置されたトイレ・エレベーター・自販機など、障がいをもつ人にとって住みよい環境が整備されているかチェックしておくこと。
5 回	【DVと虐待】DV（夫婦間暴力）や虐待はなぜ起きるのか。暴力の種類や影響について調べておくこと。
6 回	【デートDV】交際中のカップルの間でどんな暴力が起きているのか、調べておくこと。
7 回	【キャンパス・ハラスメント】本学ではセクハラ・アカハラ・パワハラを防止するために、どんな対策が行われているか、ガイドラインや相談窓口を調べておくこと。
8 回	【憲法とは何か？】日本国憲法の前文と9条・12条・13条・14条・24条を読んでおくこと。
【試験】1～7回の資料にもう一度目を通しておくこと。	

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	自尊感情、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、性的少数者、性同一性障害、性的指向、インターセックス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ、避妊、性感染症、性暴力、売買春、障がい、発達障害、虐待、いじめ、DV、デートDV、セクハラ、アカハラ、パワハラ、日本国憲法
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回講義後に提出するミニレポート50%、中間試験25%、最終評価試験25%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	憲法学・心理学・社会学など
参考書	山口のり子『愛する・愛される～デートDVをなくす若者のレッスン7』、砂川秀樹『カミングアウトレターズ』、安積遊歩『いのちに贈る超自立論』、熊谷晋一郎・綾屋紗月『発達障害当事者研究』、夾竹桃ジン『コミックちいさいひと(1～6巻)』、井上ひさし『けんぼうのおはなし』、谷

	□真由美『日本国憲法～大阪おばちゃん語訳～』
連絡先	P C メール：kei3@po1.oninet.ne.jp T & F：086-277-7522
授業の運営方針	社会と人間に関する情報や枠組みを提供し、自分の心と頭で感じたり考えたりすることを促す。 毎回、コメントペーパーを書いて提出してもらい、質問や異論があれば、次回講義の冒頭でできるだけ答えるようにする。 試験は資料・ノートの持ち込みで行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	質問や異論があれば、コメントペーパーに書いてもらい、次回講義で答える。 最終試験の模範解答と解説は、教務課と相談の上で公開する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影も事前の打ち合わせで必要とあれば許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 A (FB214930)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。 * 国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* 古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。
3 回	* 古典とする環境問題/人口論について説明する。
4 回	* 人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
5 回	* 世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
6 回	* 日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
7 回	* 水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。
8 回	* 「人口」と「食糧」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。 * 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。日本の置かれている立場について最低限の知識をつけておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食糧」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国という立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを通じて具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	40年以上 日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、 刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	社会と人間A (FB214940)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。 * 国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* 古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。
3回	* 古典とする環境問題/人口論について説明する。
4回	* 人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
5回	* 世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
6回	* 日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
7回	* 水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。
8回	* 「人口」と「食糧」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。 * 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。日本の置かれている立場について最低限の知識をつけておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。 (標準学習時間120分)
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食糧」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国という立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを通じて具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	40年以上 日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、 刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	福祉環境論 A (FB215100)
英文科目名	Welfare Environmental Science A
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義のガイダンス (福祉の目的、意義、講義概要) をする。 マズローの「自己実現」について説明する。
2 回	現代社会の深刻な課題である少子高齢化や介護等の福祉環境について説明する。 人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人間の「幸せ」について説明する。
3 回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について説明する。「障がい」とは何か、について説明する。
4 回	障がい者差別解消法について説明する。「人にやさしい街づくり」について説明する (DVD等)。
5 回	「バリアフリー」や「誰もが使いやすい道具」「ユニバーサルデザイン」について説明する。
6 回	視覚障がい者の疑似体験をする。「人にやさしい家づくり」について説明する (DVD等)。
7 回	「人にやさしい道づくり」について説明する (DVD等)。
8 回	これまでのまとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。受講者調整の可能性があるので必ず出席のこと。(標準学習時間60分)
2 回	福祉の目的、意義について復習すること。人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人生の「幸せとは何か」について考え、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	福祉に関する条約や法規について復習すること。「人にやさしい街づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	「人にやさしい街づくり」の内容について復習すること。「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について復習すること。「人にやさし家づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	「人にやさしい道づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
8 回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法について学び、「障がい」理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の意味や自己実現、合理的配慮の適切な提供について理解する。 (4領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
達成目標	1)「障がい」、「障がい者」の本質的意味について説明できること。2)「支援される人」、「支援する人」、「社会」におけるそれぞれのバリアについて理解し、支援についての適切な合理的配慮の提供を説明できること。3)一人ひとりの人間の生涯と「障がい」が深く関わっていることを理解し、それが社会全体の共通課題として説明できること。 (4領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、障がい者差別解消法
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	課題提出 2 回 (30%)、グループディスカッションワークシート (10%) 最終評価試験 (60%)
教科書	適宜配布する。
関連科目	健康の科学。生涯スポーツ (ヨット) およびスポーツと フィールド科学 (ヨット) では、障がいのある学生も受講できるように ユニバーサルデザインのヨット用いて授業のバリアフリー化を図っている。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	B 3 号館 3 階 西村 (次) 研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。

	・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしまっておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	ワークシートや視覚教材を用いて、ペアやグループによるディスカッションを行い授業を進めていきます。「障がい」の疑似体験ではグループディスカッションを行い意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題や最終試験のフィードバックとして、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	受講者の積極性を期待している。 ・知識を応用し、体験により考え、創造性の育成を図っている。 ・本講義ではアクティブラーニングを行うため、受講者が多数の場合は受講者制限をする場合がある。

科目名	福祉環境論 A (FB215110)
英文科目名	Welfare Environmental Science A
担当教員名	土橋恵美子* (つちはしえみこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目的、進め方、平等と公平について説明する。
2 回	障害者差別解消法と合理的配慮について説明する。
3 回	聴覚障がいとその程度・二次障害について説明する。
4 回	聴覚障がいおよび視覚障がいの疑似体験を実施する。
5 回	重複障がいの疑似体験を実施する。
6 回	聴覚障がい学生支援について説明する。
7 回	手話通訳の起源とろう文化について説明する。
8 回	第 1 回から第 7 回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	障がい者の差別に関する日本の現状について考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	聴覚障がいについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	聴覚障がいおよび視覚障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	重複障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	聴覚障がい学生支援について考えておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	手話の歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第 1 から第 7 回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法等を学び、障がい理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の本質的意味、自己実現や合理的配慮の適切な提供について理解する。
達成目標	「障がい」、「障がい者」の本質的意味について、説明できること。 「支援される人」、「支援する人」、「社会」における、それぞれのバリア（障壁）について理解し、支援について適切な合理的配慮の提供を説明できること。 生きていくことと「障がい」は深く関わっていることを理解し、一人ひとりの人間や社会全体の共通課題として説明できること。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	グループワーク（ディスカッション）への貢献40%、講義最終日の試験（最終評価試験）60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
関連科目	健康の科学
参考書	適宜紹介する
連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	・授業で重視するのは覚えることより、疑似体験を通して知り、理論を用いて説明できること。 ・グループワーク（ディスカッション）を通して、積極的に参加する態度を求める。 ・クラスメイトの意見から新たな気づきを得、自分の言葉で説明できること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、ペアワーク ・疑似体験や事例紹介の後、自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。
課題に対するフィードバック	グループワークやディスカッションの発表は、その場で模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。
実務経験のある教員	現在、同志社大学障がい学生支援室勤務。同障がい学生支援室における15年のコーディネート経験を活かして、高等教育における障がい学生支援の状況、および課題とその対策方法について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	スポーツとフィールド科学（ゴルフ）【木1木2】（FB216200）
英文科目名	Sports (Golf)
担当教員名	藤井健平*（ふじいけんぺい*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス（授業目的、達成目標、評価、内容説明）を行い、ゴルフの歴史、ルール、マナーについて説明する。
2回	・ゴルフ練習場の施設利用や使用マナーについて説明する。 ・クラブの握り方（グリップ）、スタンス・姿勢、クラブの振り方について説明する。 ・SW（サンドウエッジ）を使って基礎練習をする。
3回	・グリーン上でのパターを使ったパッティング練習をする。 ・グリップ、スタンス、姿勢、ルール、マナーについて説明をする。 ・SW（サンドウエッジ）を使って距離の打ち分け等の基礎練習をする。
4回	ショートコースにおいて、起伏のある芝での打撃練習をする。 バンカー練習場においてバンカーの打撃練習をする。 打撃練習場で打撃練習をする。
5回	・様々な立地条件下での打撃練習をする。 ・ルールやマナーを確認、説明する。 ・ショートアイアン、ミドルアイアンの打撃練習をする。
6回	・グループに分かれ、パッティング、バンカー、ショートコースでの練習をする。 ・ふり返りと課題解決のグループディスカッションを行う。 ・ドライバー、フェアウエイウッドの打撃練習をする。
7回	・グループに分かれ、ショートコースにおいてグループ対抗のコンペを行う。
8回	・ゴルフ場コースにおいて、グループ対抗コンペを実施する。 ・ゴルフ場のコース管理やマネジメントについても体験する。

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、講義概要を把握しておくこと。ゴルフの文化、ルール、マナーについて予習を行うこと。（標準学習時間60分）
2回	姿勢やグリップ、身体の使い方等の基本技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3回	クラブの種類と特徴について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	ショートアイアンの基本的な技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
5回	ショートアイアンの基本的な技術について復習すること。ゴルフのルールやマナーについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
6回	グリーン上でのルールやマナーについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
7回	ルールについてまとめておくこと。（標準学習時間60分）
8回	ゴルフ場の管理、運営について調べておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	・ゴルフの基本的な技術やコースマネジメントを修得するとともに、ルールやマナーを身につけ実践力を養う。 ・生涯スポーツとして、ゴルフを実践できる能力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	・ゴルフの基本的な技術を習得するとともに、ルールやマナーも身につける。 ・ショートコースやゴルフ場コースでラウンドができること。 ・生涯スポーツの基礎として、ショートコース9ホールでスコア55を達成目標とする。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	アイアンクラブ、パター、バンカー、グリーン、ルール、マナー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	技術、ショートコーススコア（60%）、ルール、マナーなどの知識（40%）
教科書	適宜指示する
関連科目	生涯スポーツ
参考書	適宜指示する
連絡先	B3号館 3階 西村（次）研究室
授業の運営方針	・受講者が30人以上の場合は、人数制限の抽選を行う（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 ・1回目の授業には必ず出席のこと。

アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして、グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	提出課題等のフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を行う。 配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・初回はC 1号館柔道場で行います。・2回目以降は山陽みのるゴルフ練習場で実施します。 ・ゴルフクラブ、ゴルフ靴は貸し出します。 ・ショートコースとゴルフ場コースに出てラウンドします。 ・外部施設を利用するので、経費が必要となります（初回に説明）。

科目名	スポーツとフィールド科学（ゴルフ）【木3木4】（FB216210）
英文科目名	Sports (Golf)
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（授業目的、達成目標、評価、内容説明）を行い、ゴルフの歴史、ルール、マナーについて説明する。
2 回	・ゴルフ練習場の施設利用や使用マナーについて説明する。 ・クラブの握り方（グリップ）、スタンス・姿勢、クラブの振り方について説明する。 ・SW（サンドウエッジ）を使って基礎練習をする。
3 回	・グリーン上でのパターを使ったパッティング練習をする。 ・グリップ、スタンス、姿勢、ルール、マナーについて説明をする。 ・SW（サンドウエッジ）を使って距離の打ち分け等の基礎練習をする。
4 回	ショートコースにおいて、起伏のある芝での打撃練習をする。 バンカー練習場においてバンカーの打撃練習をする。 打撃練習場で打撃練習をする。
5 回	・様々な立地条件下での打撃練習をする。 ・ルールやマナーを確認、説明する。 ・ショートアイアン、ミドルアイアンの打撃練習をする。
6 回	・グループに分かれ、パッティング、バンカー、ショートコースでの練習をする。 ・ふり返りと課題解決のグループディスカッションを行う。 ・ドライバー、フェアウェイウッドの打撃練習をする。
7 回	・グループに分かれ、ショートコースにおいてグループ対抗のコンペを行う。
8 回	・ゴルフ場コースにおいて、グループ対抗コンペを実施する。 ・ゴルフ場のコース管理やマネジメントについても体験する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、講義概要を把握しておくこと。ゴルフの文化、ルール、マナーについて予習を行うこと。（標準学習時間60分）
2 回	姿勢やグリップ、身体の使い方等の基本技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	クラブの種類と特徴について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	ショートアイアンの基本的な技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	ショートアイアンの基本的な技術について復習すること。ゴルフのルールやマナーについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	グリーン上でのルールやマナーについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	ルールについてまとめておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	ゴルフ場の管理、運営について調べておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	・ゴルフの基本的な技術やコースマネジメントを修得するとともに、ルールやマナーを身につけ実践力を養う。 ・生涯スポーツとして、ゴルフを実践できる能力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	・ゴルフの基本的な技術を習得するとともに、ルールやマナーも身につける。 ・ショートコースやゴルフ場コースでラウンドができること。 ・生涯スポーツの基礎として、ショートコース9ホールでスコア55を達成目標とする。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	アイアンクラブ、パター、バンカー、グリーン、ルール、マナー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	技術、ショートコーススコア（60%）、ルール、マナーなどの知識（40%）
教科書	適宜指示する
関連科目	生涯スポーツ
参考書	適宜指示する
連絡先	B3号館 3階 西村（次）研究室
授業の運営方針	・受講者が30人以上の場合は、人数制限の抽選を行う（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 ・1回目の授業には必ず出席のこと。

アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして、グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	提出課題等のフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を行う。 配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・初回はC 1号館柔道場で行います。・2回目以降は山陽みのるゴルフ練習場で実施します。 ・ゴルフクラブ、ゴルフ靴は貸し出します。 ・ショートコースとゴルフ場コースに出てラウンドします。 ・外部施設を利用するので、経費が必要となります（初回に説明）。

科目名	スポーツとフィールド科学（ゴルフ）【金1金2】（FB216220）
英文科目名	Sports (Golf)
担当教員名	森博史（もりひろし）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業実施場所、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いてゴルフの歴史、用具等について説明する。
2 回	ゴルフ練習場の利用方法とマナーについて説明する。続いてクラブの握り方（グリップ）、立ち方（スタンス）、クラブの振り方（スイング）について説明する。 ウェッジ練習：ウェッジの特性について説明する。ウェッジでの打球練習をする。
3 回	ウェッジ練習：打球を安定させる練習をする。ウェッジ練習：アプローチショットの説明をする。距離の打ち分け練習をする。
4 回	ショートアイアン（9 番・8 番）、ミドルアイアン（7 番・6 番・5 番）、ロングアイアン（4 番・3 番）の特性について説明する。打球練習をする。
5 回	ドライバー、フェアウェイウッドの特性について説明をする。打球練習をする。
6 回	グリーン上とバンカー内でのルールとマナーについて説明をする。パターとバンカーショットの練習をする。実技テストの説明と練習をする。
7 回	実技テストを行う。続いて、ラウンド（ゴルフコースでプレー）で注意するルールやマナー、準備するものについて説明する。ラウンドで使用するクラブの総合練習をする。
8 回	打順の決め方、スコアカードの記入の仕方等について説明をする。組（パーティー）に分かれてラウンドをする。講義全体の振り返りとまとめをする。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：ゴルフの歴史、用具等についてまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	予習：ウェッジについて調べておくこと。復習：練習場の利用方法とマナー、グリップ、スタンス、スイングについてまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
3 回	予習：ウェッジでのアプローチショットについて調べておくこと。復習：距離の打ち分けについてまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	予習：ウェッジ以外のアイアンクラブについて調べておくこと。復習：ショートアイアン、ミドルアイアン、ロングアイアンの特性と打法についてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
5 回	予習：ウッドと呼ばれるクラブについて調べておくこと。復習：ドライバー、フェアウェイウッドの特性と打法についてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
6 回	予習：グリーンとバンカーについて調べておくこと。復習：パターとバンカーショットについてまとめておくこと。“ゴルフ”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間 1 2 0 分）
7 回	予習：ラウンドのときに必要なものを調べておくこと。復習：ラウンドができる準備をしておくこと。（標準学習時間 120 分）
8 回	予習：体調を整えておくこと。復習：ゴルフコースでのプレーについて（スコア、パット数、感想等）まとめること。講義全体のまとめをすること。（標準学習時間 120 分）

講義目的	ゴルフ練習場で基本技術と理論を習得した後、ショートコースでのラウンドで技術・理論の正しさを実践的に裏づける。ルールを理解し、重要視されるマナーについても知識を深め、社会的態度を育てる。また、生涯を通じて継続的にスポーツや運動を実践していける習慣や態度を育てることを目的とする。（人間・社会科学教育科目の到達目標に対する関与程度の関心・意欲・態度にもっとも強く関与する）
達成目標	1) ゴルフの基本技術を習得する。（技能） 2) ラウンドに必要なショット（ティーショット、アプローチショット、バンカーショット、パット）を習得する。（技能） 3) ルールを遵守する態度やマナー、安全への配慮等を身に付ける。（思考・判断・表現） 4) ラウンドを経験することで、練習場の打席とは違う自然の傾斜や芝の違いを科学的に理解できる。（知識・理解）
キーワード	クラブ、アプローチ、パター、グリーン、バンカー、ルール、マナー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準 60 点）	積極性（20%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）、課題（10%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	健康の科学、生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	使用しない。

連絡先	研究室 B 3 号館 5 階 森 博史研究室 イスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp オフ
授業の運営方針	1 回目の授業はC 1 号館 2 階（トレーニングルーム 2：柔道場）で行う。 1 回目の授業には必ず出席すること。 3 0 名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 2 回目以降は「ゴルフ練習場」で行う（実費：入場料、ボール代が必要）。 クラブは貸し出す。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	岡山キャンパスと「ゴルフ練習場」間の移動については、第1回目の授業で説明する。

科目名	ボランティア論 A (FB216600)
英文科目名	Introduction to Volunteer A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。受講生のボランティア体験についてディスカッションする。
2 回	受講シートの記入に取り組み、ボランティアのイメージとその背景について考察する。
3 回	ボランティアを行う動機とその具体的な事例について検証する。
4 回	近代社会の成立とそれに付随する社会問題を概観し、近代的ボランティアの発生と歴史について解説する。
5 回	ボランティアの具体的な事例を取り上げ、その問題点について検証する。
6 回	ボランティアの特徴とその可能性について解説する。
7 回	ボランティアをめぐる今後の課題を示し、最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：必ずシラバスに目を通しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。 (標準学習時間15分)
2 回	予習：自身のボランティア体験やボランティアに対するイメージをまとめておくこと。復習：ボランティアについての多様なイメージ、視点を確認すること。(標準学習時間30分)
3 回	予習：ボランティアに参加するきっかけについて考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：近代社会の特徴と、ボランティアの発生・歴史について調べておくこと。復習：ボランティアの歴史を整理すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習：ボランティアの現状と問題点について考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：ボランティアの特徴について考えておくこと。復習：ボランティアを定義するさまざまな特徴を整理すること(標準学習時間60分)
7 回	予習：ボランティアの意義について考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を整理し、最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	被災地での支援活動や地域のコミュニティ活動など、現代社会においてボランティアが果たす役割の重要度は増しているが、その一方で安易なボランティア募集や活動現場でのトラブルも多発している。本講義ではボランティアの具体的な事例を取り上げながら、参加の動機や活動の背景を分析するとともに、ボランティアの歴史と特徴およびその意義について多角的に検証し、理解を深める。4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
達成目標	1. ボランティアの語源と歴史を説明できる。 2. ボランティアに参加する多様な動機を説明できる。 3. ボランティアの現状と問題点、およびそれらの背景を説明できる。 4. ボランティアの特徴と意義を説明できる。 5. 上記1-4を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題についての考えを明確に述べることができる。 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
キーワード	ボランティア、NPO、社会貢献、フェアトレード、映画
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-5)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「ボランティアへの視線 - 映画を手がかりにして考える(改定版)」(ピンク版) / 蜻蛉文庫
関連科目	ボランティア論 B
参考書	必要に応じて講義内で指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. ボランティアの事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。

	5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. ボランティアをめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役、現・NPO法人地域文化研究所代表理事 2. 企業による社会貢献活動の経験とNPO活動の経験を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席し、受講上の注意を確認すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 受講に際してボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	日本の文化と歴史 A (FB217100)
英文科目名	Culture and History of Japan I A
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：授業の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について説明する。その後、岡山県の地勢、同県を構成する市町村や風土等を説明する。受講生の理解を促進するために、配布プリントやOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
2回	前回の補足説明の後、授業で使用する用語、具体的には「史跡」、「文化財」、「城」等を説明する。そして、日本における城のはじまりと、近世までのその発達状況について概観する。さらに岡山県最古級の城—鬼ノ城について、配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
3回	鬼ノ城について補足説明をする。その後、岡山城そのものについて、いつだれがどのような理由で築造したのか、さらにその社会的背景等を説明する。なお、城に関する用語は授業の進行過程で説明する。さらに岡山城を中心に、近世に築造された他地域の城に見る縄張りの種類等を配布プリントや、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
4回	前回の補足説明の後、岡山城を中心に他地域に存在する近世の城で天守の構成や、その種類、石垣の種類等を配布プリントや、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
5回	前回の補足説明の後、本殿や拝殿が国宝および国指定重要文化財指定になっている吉備津神社や、県指定重要文化財の拝殿を有する吉備津彦神社について、その歴史や建築物の構成内容について説明する。受講生の理解の深化をはかるために、配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
6回	前回の神社について補足説明の後、これら神社にちなむ神事や周辺地域に伝わる説話、さらによく知られている周囲の史跡等を配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
7回	前回の諸神社についての補足説明と、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた岡山県の地勢、風土や城、神社の追加説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを授業の運営方針を含めて熟読しておくこと。岡山県の地形や気候、県内の市町村、そして鬼ノ城について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
2回	授業で説明した用語や、鬼ノ城についてノート、配布プリントを中心に復習すること。岡山城について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	岡山城の歴史や城に関する用語、縄張りの種類について、ノート、配布プリントを中心に復習すること。日本全国の代表的な国宝となっている城の天守の構成や、石垣の種類について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	授業で説明した岡山以外の他地域の城について、天守の構成や、石垣の種類等をノート、配布プリントを中心に復習すること。吉備津神社や吉備津彦神社について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	吉備津神社や吉備津彦神社についての授業内容をノート、配布プリントを中心に復習すること。これらの神社の周辺地域の説話や著名な史跡について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	授業で説明した2つの神社が存在する周辺地域の説話や著名な史跡をノート、配布プリントを中心に復習すること。これまでの授業を受講して生じた質問や理解しにくかった事柄を次回までにまとめておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	これまでの授業で扱った諸事項を復習し、ノート、配布プリントを中心に説明出来るようにしておくこと。くわえて、第1回からこれまでの授業のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	この回を含めて、いままでの授業内容についての復習を各自おこなうこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	本講義は、外国人留学生の日本文化への知識を深め、くわえて日本人や日本の生活に一層の理解と親近感を増幅することを目的とする。日本人の過去の生活から生み出された日本の様々な文化について、具体的には対象地域を岡山県に絞り、まずその地勢、風土を紹介し、そこから熟成された著名な文化遺産である史跡や文化財―城、神社―を中心に論を展開する。そして、とくに岡山城と同様な日本全国に存在する近世城郭についても言及する。このことによって、外国人留学生の岡山に関する文化、ひいては日本文化への知識を深め、くわえて日本人や日本の生活に一層の理解と親近感を増幅することを目的とする。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1. 日本の文化や、日本人の暮らしぶりを説明できる。 2. 岡山県の地勢、風土を説明できる。 3. 岡山県の文化遺産である岡山城と神社、全国の代表的な城郭を説明できる。 4. 岡山県の文化と母国の文化との相違、類似点を説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“岡山県”、“岡山城”、“吉備津神社”、“吉備津彦神社”、“鬼ノ城”
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（達成目標1～4）100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	日本の歴史と文化IB、日本の歴史と文化IIA、日本の歴史と文化IIB
参考書	授業の進行過程で紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1)毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2)(1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3)出欠は毎回とる。 (4)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。 (5)毎回、日本語の辞書(電子辞書でも可)を持参すること。 (6)講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この科目は、外国人留学生を対象とする科目であり、日本人学生は対象外となる。（学生便覧参照）

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217500)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方 (自己紹介、自分史作成の準備) を説明する。
2 回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3 回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6 回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7 回	グループで協同学習した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと (標準学修時間120分)
3 回	配布資料を読んで予習をしておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと (標準学修時間120分)
4 回	予習として、配布資料を熟読し、その内容をマインドマップを使い整理してくること (標準学修時間120分)
5 回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと (標準学修時間120分)
6 回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと (標準学修時間120分)
7 回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習しておくこと (標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだ内容を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと (標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、大学での学びにおいて必要となる文章作成の基本的なスキルや知識を習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これら学術的な文章を作成するための基本的なスキルや知識は、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ 授業中に作成したワークシートの提出 (30%) ・ 小テスト (30%) ・ 課題提出 (40%)

	より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本講義は、文章表現法基礎編Bを受講することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217502)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2 回	「自己の将来設計」について、文書を作成し、その意味を考える。
3 回	「レポートの書き方」について説明する。
4 回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5 回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6 回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7 回	「知る」ことと「人生」について説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8 回	「言葉の違い」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
2 回	将来の目標について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
3 回	レポート作成の基本的な構成の型や、留意点について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
4 回	「作文」と「小論文」の違いについて、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
5 回	現代社会の「キーワード」「用語」について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
6 回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120分)
7 回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
8 回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、 調べておくこと。 (標準学習時間 120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 180分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。		
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。		
キーワード	1. 目的意識	2. 基礎知識	3. 実行力

	４．復習する ５．確認の徹底 ６．授業内容の「ポイント」は、必ずメモを取る。 ７．文章を書く「目的・意義」の完全な理解
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50％）、ワークシート（50％）
教科書	「60歳からの健康人生」／執筆者代表 崎重敏幸／ ／株式会社 ライフ・サポート／ ／ISBN978 - 4 - 9907110 - 0 - 9 ●授業に必要な「資料」「プリント」を、適宜、配布する。
関連科目	
参考書	●プレゼンテーション基礎編
連絡先	●適宜、指示する
授業の運営方針	info@hiroshima-life.jp ● 最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容について、質問や要望についての、やり取りができるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次回の授業の最初に配布し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。 ● 授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。また、プリント内容は、復習資料としても活用できることも考慮している。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	● 授業における「提出課題」については、授業終了後に提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。 ● 時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締切後の二週間後の授業の最初に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	● 合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。
実務経験のある教員	● 講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。 ● 高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画の特色や重要性なども紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある、「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217503)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	尾崎美恵 * (おざきみえ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3 回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4 回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6 回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7 回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3 回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4 回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	予習：「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習：「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7 回	予習：「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習：「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8 回	予習：「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習：「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠を示
------	--

	し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。 最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができている場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217504)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3 回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4 回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6 回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7 回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3 回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4 回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	予習：「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習：「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7 回	予習：「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習：「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8 回	予習：「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習：「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠を示
------	--

	し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。 最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができている場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217505)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2 回	「自己の将来設計」について、文書を作成し、その意味を考える。
3 回	「レポートの書き方」について説明する。
4 回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5 回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6 回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7 回	「知る」ことと「人生」について説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8 回	「言葉の違い」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
2 回	将来の目標について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
3 回	レポート作成の基本的な構成の型や、留意点について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
4 回	「作文」と「小論文」の違いについて、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
5 回	現代社会の「キーワード」「用語」について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
6 回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120分)
7 回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
8 回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、 調べておくこと。 (標準学習時間 120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 180分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。		
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。		
キーワード	1. 目的意識	2. 基礎知識	3. 実行力

	４．復習する ５．確認の徹底 ６．授業内容の「ポイント」は、必ずメモを取る。 ７．文章を書く「目的・意義」の完全な理解
試験実施 成績評価（合格基準60点） 教科書	実施する 課題提出（50％）、ワークシート（50％） 「60歳からの健康人生」／執筆者代表 崎重敏幸／ ／株式会社 ライフ・サポート／ ／ISBN978 - 4 - 9907110 - 0 - 9 ●授業に必要な「資料」「プリント」を、適宜、配布する。
関連科目	●プレゼンテーション基礎編
参考書	●適宜、指示する
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	●最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容について、質問や要望についての、やり取りができるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次回の授業の最初に配布し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。 ●授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。また、プリント内容は、復習資料としても活用できることも考慮している。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	●授業における「提出課題」については、授業終了後に提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。 ●時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締切後の二週間後の授業の最初に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	●合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。
実務経験のある教員	●講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。 ●高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画の特色や重要性なども紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある、「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217506)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「文章表現法」講義概説 をする。
2 回	文章の構成、アウトライン をする。
3 回	アウトライン作成 をする。
4 回	アウトラインの推敲 をする。
5 回	アウトラインの完成 をする。
6 回	序論・本論・結論の作成 1 をする。
7 回	序論・本論・結論の作成 2 をする。
8 回	小論文構成の再確認、 中間試験をする。
9 回	序論・本論・結論の作成 4 をする。
10 回	800 字小論文の完成・提出 をする。
11 回	別テーマによる二本目論文の作成 をする。
12 回	アウトライン添削・修正 をする。
13 回	800 字小論文作成 をする。
14 回	800 字小論文添削・修正 をする。
15 回	800 字小論文の完成 をする。
16 回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする。

回数	準備学習
1 回	学内PCにログインが出来るようにID/Passを用意しておく
2 回	各自PCにログインし、課題提出ページ・操作が出来るように確認しておく
3 回	課題テーマの草案 をすること。(標準学習時間60分)
4 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
5 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
6 回	アウトラインの仕上げ すること。(標準学習時間60分)
7 回	800 字小論文、序論の作成 すること。(標準学習時間60分)
8 回	800 字小論文、本論の作成 学習内容の再確認すること。(標準学習時間60分)
9 回	800 字小論文、結論の作成 すること。(標準学習時間60分)
10 回	800 字小論文の仕上げ すること。(標準学習時間60分)
11 回	アウトラインの復習 すること。(標準学習時間60分)
12 回	アウトライン作成 1 すること。(標準学習時間60分)
13 回	アウトライン作成 2 すること。(標準学習時間60分)
14 回	800 字小論文作成 すること。(標準学習時間60分)
15 回	800 字小論文仕上げ をすること。(標準学習時間60分)
16 回	800 字小論文、本論の作成 学習内容の再確認をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。

	9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％）・課題提出（50％）の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	プレゼンテーション
参考書	必要に応じて教室にて指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	論文という領域での客観的、論理的文章は、他の領域で綴られる文章とは別物であるということを知識として学習するだけではなく、実際に文章作成の練習を重ねて実感、体感しつつ体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	学習した客観的な論文文章の書き方に関する知識だけにとどまらず、それらを実際に項目ごと、ステップごとに作成作業の練習を繰り返す。試行錯誤の中で客観的かつ論理的な思考パターンと文章表現力を実感しながら獲得していく。
課題に対するフィードバック	論文の文章作成練習のステップごとに、提出された課題例文を、毎回教室全体で確認チェックし、自分の練習内容だけではなく、その他多くの具体的実例を参考に自分の文章作成を常にステップアップさせることが出来るようにする。 そのため、PC教室では一つのファイルにすべての課題提出例をまとめ、モニター画面でスクロールさせながら、そのステップごとのポイントを確認チェック、添削を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217507)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。課題作成について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。課題を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	課題文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信機器の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217508)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。課題作成について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。課題を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	課題文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信機器の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217509)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。課題作成について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。課題を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽 / 新・文章表現法 基礎編（群青色版） / 蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki（アットマーク）xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限（春学期、秋学期とも）
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	課題文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217510)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義ガイダンス (文章の書き方の基本説明) の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2 回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3 回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4 回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ (第一章段P5 ~ P7の5行目まで) を解釈する。
5 回	第一章段P7の 6 行目 ~ P10を解釈する。
6 回	P11 ~ P13の2行目までを緻密に解釈する。
7 回	P13の3行目 ~ P15までを緻密に解釈する。
8 回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。

回数	準備学習
1 回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2 回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3 回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8 回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (50%) ・課題提出 (50%) 教えたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」= プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」= 浅田次郎/朝日文庫
関連科目	文章表現法基礎編Bは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成 (表現) 能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、

	文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで文章表現基礎編Aではまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。従ってAのみではなく、Bも併せて受講してほしい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217511)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。課題作成について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。課題を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	課題文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信機器の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217512)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義ガイダンス (文章の書き方の基本説明) の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2 回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3 回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4 回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ (第一章段P5 ~ P7の5行目まで) を解釈する。
5 回	第一章段P7の 6 行目 ~ P10を解釈する。
6 回	P11 ~ P13の2行目までを緻密に解釈する。
7 回	P13の3行目 ~ P15までを緻密に解釈する。
8 回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。

回数	準備学習
1 回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2 回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3 回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8 回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (50%) ・課題提出 (50%) 教えたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」= プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」= 浅田次郎/朝日文庫
関連科目	文章表現法基礎編Bは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成 (表現) 能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、

	文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで文章表現基礎編Aではまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。従ってAのみではなく、Bも併せて受講してほしい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217513)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2 回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3 回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4 回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ(第一章段P5～P7の5行目まで)を解釈する。
5 回	第一章段P7の6行目～P10を解釈する。
6 回	P11～P13の2行目までを緻密に解釈する。
7 回	P13の3行目～P15までを緻密に解釈する。
8 回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。

回数	準備学習
1 回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2 回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3 回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8 回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%) 教えたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」= プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」= 浅田次郎/朝日文庫
関連科目	文章表現法基礎編Bは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成(表現)能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、

	文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで文章表現基礎編Aではまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。従ってAのみではなく、Bも併せて受講してほしい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217514)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	生田夏樹 * (いくたなつき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章 (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する(1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2 回	文章 を要約する(2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3 回	文章 (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する(1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4 回	文章 を要約する(2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5 回	与えられたテーマA (「協力のあり方について」) の文章を作成する(1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6 回	与えられたテーマAの文章を作成する(2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7 回	与えられたテーマAの文章を作成する(3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8 回	与えられたテーマAの文章を作成する(4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％） ・課題提出（50％）
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法基礎編B」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題（アウトライン作成または本文作成）に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217515)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	生田夏樹 * (いくたなつき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章 (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する(1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2 回	文章 を要約する(2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3 回	文章 (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する(1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4 回	文章 を要約する(2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5 回	与えられたテーマA(「協力のあり方について」) の文章を作成する(1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6 回	与えられたテーマAの文章を作成する(2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7 回	与えられたテーマAの文章を作成する(3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8 回	与えられたテーマAの文章を作成する(4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％） ・課題提出（50％）
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法基礎編B」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題（アウトライン作成または本文作成）に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217516)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習: 最終評価試験について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽 / 新・文章表現法 基礎編（群青色版） / 蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・ 毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・ 出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・ 30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・ 提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・ 授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・ 提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。初回に出席していない学生の受講については制限する場合がある。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション基礎編A (FB217800)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。プレゼンテーションの大切さについて解説する。
2回	プレゼンテーションとは何か、について解説する。受講シートの記入に取り組む。
3回	スクリプトの組み立て方について解説する。
4回	プレゼンテーション演習(1)を行い、演習を講評する。
5回	人前で話すためのポイントについて解説する。
6回	プレゼンテーションの技法(1)印象で損をしないためのポイントについて解説する。
7回	グループ・ミーティング(1)進め方の注意点を確認し、ミーティングを行う。中間テストについて説明する。
8回	最終評価試験を行う。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：プレゼンテーションとは何か、について考えておくこと。復習：プレゼンテーションの基本についてまとめること。(標準学習時間30分)
3回	予習：スクリプトの大切さを理解しておくこと。復習：スクリプトの組み立てを確認すること。(標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマで短いプレゼンテーションを準備しておくこと。復習：講評で指摘された点を確認すること。(標準学習時間60分)
5回	予習：演習(1)についてレポートを書き、人前で話す際の心構えをまとめておくこと。復習：人前で話すためのポイントを確認すること。(標準学習時間90分)
6回	予習：印象の大切さについて考えてくること。復習：印象で損をしないための技法を確認すること。(標準学習時間30分)
7回	予習：指示されたテーマについてミーティングの準備をしておくこと。復習：ミーティングの内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	予習：プレゼンテーションのポイントをまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	自分の考えをわかりやすく、印象的に他人に伝えるための基本を身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する) 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1.与えられたテーマでスクリプトを構成することができる。 2.スクリプトに基いて数分程度の発表をすることができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、面接、就職活動、日本語表現
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度(達成目標の1-2)確認試験(最終評価試験100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	初回の講義で指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編B、プレゼンテーション応用編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1.講義は指定したテキストに沿って進める。 2.必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3.講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4.講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2.受講生同士で各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内の講評やディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション基礎編A (FB217810)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概説 をする
2回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6回	PowerPoint資料の改良 をする
7回	PowerPoint資料を使ったりリハーサル・プレゼンテーション をする
8回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	PCにログインできるようID・PASSを手元に準備しておく
2回	スクリプト準備 すること
3回	スクリプト修正 すること
4回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5回	プレゼンテーション改良 すること
6回	PowerPointの作成 すること
7回	PowerPointの修正 すること
8回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	受講者は、 1. プレゼンテーションが何かを認識できる。 2. 代表的アプリケーションのPowerPointを理解、運用が出来る。 3. 実際に模擬発表の形でプレゼンテーションを体験し、質的向上を実現できる。 (パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、明確なアピールポイント) 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終提出(20%)の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
参考書	必要に応じて配布、指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	「プレゼンテーション」とは何か?をより明確に認識すること。プレゼンテーションに関する知識だけではなく、実際に模擬発表を重ねていくことでより認識を深め、知識に踏まえて技能を体感、体得することを目指す。 抽象的で主観的な話題で意味のないおしゃべりをして時間を過ごすことと、明確なアピールポイントをふまえた、論理的、戦略的なプレゼンテーションの区別を体感すること、そしてその認識の上で少しでも上質なプレゼンテーションの実現を、実感、体感、体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	講義で学習したプレゼンテーション全般に関する知識だけにとどまらず、それらをもとに、実際に発表可能な内容を構成し作り上げ、最終的な模擬発表を繰り返し行う中で、プレゼンテーションに関する知識を確かな認識とし、多くの人前での発表の経験値を多く獲得していく。
課題に対するフィードバック	授業ではプレゼンテーションに関する知識を得るだけではなく、それら知識をもとに、居室にて実際にほぼ毎回「模擬発表」を重ねていく。 模擬発表では、個々に必要な点、不可欠な点を確認チェックしていく。自分の模擬発表だけではなく、他人の模擬発表の問題点も、「たにんごと」ではなく「明日は我が身」と緊張感をもって学習できることを目指す。
合理的配慮が必要な学生	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供

生への対応	していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。

科目名	プレゼンテーション基礎編 A (FB217820)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について説明する。 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	プレゼンテーションの準備について説明する。 プレゼンテーションを行うため、どのような準備をすればよいかを説明する。また、プレゼンテーションの構成や心得について説明する。
3 回	プレゼンテーションの進め方について説明する。 話し方やコミュニケーション（非言語も含む）について説明する。
4 回	効果的なプレゼンテーションの技法を説明する。 PowerPoint 実習を行いつつ、相手に伝わるスライドの構成について学ぶ。
5 回	スライド作成の実践 趣味の紹介のスライド作成を行う。趣味の概要、趣味の楽しさ、趣味の奥深さ、自分の趣味への誘いの 4 枚のスライドを作成する。
6 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
7 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8 回	1回目から7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。また、これまで学んだことで、関連する内容を復習しておくこと（標準学習時間120分）
2 回	よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションについて説明できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
3 回	プレゼンテーションの基本的構造を理解できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
4 回	プレゼンテーションにおけるコミュニケーション言動の要素について理解できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
5 回	PowerPoint の操作について不明な点が内容に操作方法について復習しておくこと（標準学習時間120分）
6 回	PowerPoint を使ってプレゼンスライドを完成させ、発表の準備を整えておくこと（標準学習時間120分）
7 回	復習として、目的を明確にした内容になるように、まとめておくこと。 予習として、相手を引き付ける工夫を考えておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	これまでの学んだ内容を整理し、復習しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。 （4 領域の項目では「技能」に最も強く関与している。）
達成目標	パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 自分の考えや主張を相手に伝えることができる。 （4 領域の項目では「技能」に最も強く関与している。）
キーワード	コミュニケーション、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・趣味の紹介パワーポイントの作成（25%） ・実際のプレゼンを評価する（50%） 発表評価の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・ワークシート（25%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。

教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	プレゼンテーション基礎編B、文章表現法基礎編A・B、学びの基礎論A・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）等の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・プレゼンテーション基礎編Bを受講することが望ましい。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	教養演習 A (FB218100)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	テキストの概要について説明するとともに、授業の進め方、成績評価などについても説明する。
2 回	哲学への誤解について議論する。
3 回	哲学と日常について議論する。
4 回	哲学の出発点について議論する。
5 回	哲学と時間について議論する。
6 回	哲学の歪みについて議論する。
7 回	哲学の存在理由について議論する。
8 回	学修の到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、教養関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	テキストの 1 ~ 1 4 ページを読み、哲学への誤解について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	テキストの 1 4 ~ 3 1 ページを読み、哲学と日常について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	テキストの 3 1 ~ 4 6 ページを読み、哲学の出発点について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	テキストの 4 6 ~ 5 7 ページを読み、哲学と時間について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	テキストの 5 7 ~ 7 0 ページを読み、哲学の歪みについて自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	テキストの 7 1 ~ 8 1 ページを読み、哲学の存在理由について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自分の考えを整理できる。 2) 説得力のある発言を行なえる。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	討論、思考、表現
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	学修の到達度確認テスト (100%) (達成目標1,2を評価) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	哲学の使い方 / 鷲田 清一 / 岩波新書 / 978-4-00-431500-1
関連科目	教養演習B、比較文化論AB、文学AB
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限
授業の運営方針	・ テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・ やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション: テキストおよび新聞記事に基づき受講者による討論を行なう。
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	教養演習 A (FB218110)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス。講義の進め方について説明する。
2 回	印象的な旅について手短かに語る。(1)
3 回	印象的な旅について手短かに語る(2)
4 回	印象的な旅について手短かに語る。(3)
5 回	岡山について語る。(1)
6 回	岡山について語る。(2)
7 回	岡山について語る。(3)
8 回	到達度確認テストと話し方の基本的な手順についての説明を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの話の進め方について、問題点を確認しておくこと。 到達度確認テストの準備をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自分の考えを整理できること。 2) 説得力のある発言が行えること。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	学修の到達度確認テスト 1 0 0 % により成績を評価し、6 0 % 以上を合格とする。
教科書	プリント配布
関連科目	プレゼンテーション
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館 8 階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜3時限 (春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	受講マナーは守り、講義内で積極的に発言、発表をしてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、質問を中心に行う。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーション終了後、その都度問題点を指摘し、的確なアドバイスをを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は 1 5 ~ 2 0 名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご留意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は 5 0 名とする。

科目名	教養演習 A (FB218120)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス。講義の進め方について説明する。
2 回	印象的な旅について手短に語る。(1)
3 回	印象的な旅について手短に語る(2)
4 回	印象的な旅について手短に語る。(3)
5 回	岡山について語る。(1)
6 回	岡山について語る。(2)
7 回	岡山について語る。(3)
8 回	到達度確認テストと話し方の基本的な手順についての説明を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの話の進め方について、問題点を確認しておくこと。 到達度確認テストの準備をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自分の考えを整理できること。 2) 説得力のある発言が行えること。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	学修の到達度確認テスト 1 0 0 % により成績を評価し、6 0 % 以上を合格とする。
教科書	プリント配布
関連科目	プレゼンテーション、
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館 8 階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜3時限 (春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	受講マナーは守り、講義内で積極的に発言、発表をしてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、質問を中心に行う。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーション終了後、その都度問題点を指摘し、的確なアドバイスをを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は 1 5 ~ 2 0 名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご留意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は 5 0 名とする。

科目名	企業と人間 A (FB218401)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業のイメージについてディスカッションする。
2 回	資本主義について基本的な説明を行い、受講シートの記入に取り組む。
3 回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行い、職業の事例を紹介する。
4 回	就活や雇用における日本的なシステムを分析する。
5 回	企業の社会的責任について考え、職業の事例を紹介する。
6 回	CSRの具体的な事例について検証し、職業の事例を紹介する。
7 回	ISOが示す企業の姿について考察し、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2 回	予習：資本主義の原理について調べておくこと。復習：資本主義の問題点をまとめること。(標準学習時間45分)(標準学習時間45分)
3 回	予習：会社の組織について調べておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：日本の企業風土について調べておくこと。復習：日本のシステムについてまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：企業倫理について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：企業の社会的責任について考えておくこと。復習：CSRの事例をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	予習：ISOについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間45分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」(黒版) / 蜻文庫
関連科目	企業と人間B、ボランティア論A・B、技術者の社会人基礎A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 A (FB218402)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業のイメージについてディスカッションする。
2 回	資本主義について基本的な説明を行い、受講シートの記入に取り組む。
3 回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行い、職業の事例を紹介する。
4 回	就活や雇用における日本的なシステムを分析する。
5 回	企業の社会的責任について考え、職業の事例を紹介する。
6 回	CSRの具体的な事例について検証し、職業の事例を紹介する。
7 回	ISOが示す企業の姿について考察し、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2 回	予習：資本主義の原理について調べておくこと。復習：資本主義の問題点をまとめること。(標準学習時間45分)(標準学習時間45分)
3 回	予習：会社の組織について調べておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：日本の企業風土について調べておくこと。復習：日本のシステムについてまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：企業倫理について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：企業の社会的責任について考えておくこと。復習：CSRの事例をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	予習：ISOについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間45分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」(黒版) / 蜻文庫
関連科目	企業と人間B、ボランティア論A・B、技術者の社会人基礎A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 A (FB218403)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。
11 回	。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
------	--

達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 A (FB218404)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。

	定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 A (FB218405)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。

	定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 A (FB218406)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。

	ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	キャリア形成講座A (FB218700)
英文科目名	Career Design A
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 (講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める) (演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク) (具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など) (全教員)
2回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 (桑田 朋美*)
3回	【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 (飯田 哲司*)
4回	【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 (桑田 朋美*)
5回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 (飯田 哲司*)
6回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 (飯田 哲司*)
7回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を高めると共に表現力アップを理解・実践する。 【中間レポート配布】翌週に提出 (回収) (桑田 朋美*)
8回	【発想力養成トレーニング】 これから求める人材の能力要件として注目度の高い「発想力」「思考力 (特にラテラルシンキング)」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理し

	て臨むこと。（標準学習時間 60分）
6 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。（標準学習時間 60分）
7 回	「第一印象：「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。（標準学習時間 60分）
8 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして除くこと。（標準学習時間 60分）

講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・8回目レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育関連企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	キャリア形成講座A (FB218710)
英文科目名	Career Design A
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 (講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める) (演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク) (具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など) (全教員)
2回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 (桑田 朋美*)
3回	【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 (飯田 哲司*)
4回	【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 (桑田 朋美*)
5回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 (飯田 哲司*)
6回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 (飯田 哲司*)
7回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を高めると共に表現力アップを理解・実践する。 【中間レポート配布】翌週に提出 (回収) (桑田 朋美*)
8回	【発想力養成トレーニング】 これから求める人材の能力要件として注目度の高い「発想力」「思考力 (特にラテラルシンキング)」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを行う。 (飯田 哲司*)

回数	準備学習
1回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理し

	て臨むこと。（標準学習時間 60分）
6 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。（標準学習時間 60分）
7 回	「第一印象：「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。（標準学習時間 60分）
8 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして除くこと。（標準学習時間 60分）

講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・8回目レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育関連企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	学びの基礎論A（FB219000）
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	松尾美香（まつおみか）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。
2回	アイスブレイクと仲間づくり アクティブラーニング型の授業であるため、グループ活動を円滑にするための仲間づくりを行う。
3回	目標設定 学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。 4年間の大学生活をイメージし、4年間の学びの計画表を作成する。また、課外での学びについても計画表を作成する。
4回	タイムマネジメント 目標を達成するための時間の使い方について考える。
5回	大学での学び 学ぶことの意義や学び方について説明する。
6回	ノートティキング ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。
7回	リーディングスキル 効率よく読む方法について説明する。
8回	振り返りの仕方 3回目で設定した目標がどこまで達成できるかを点検するために、振り返りの仕方について説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと。（標準学習時間60分）
2回	グループ活動において、これまでどのような役割を担ってきたのか、理由とともに考えておくこと。（標準学習時間60分）
3回	4年間にどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。（標準学習時間60分）
4回	目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと。（標準学習時間60分）
5回	大学生活に送るうえで、大切にしていることを理由とともに考えておくこと。（標準学習時間60分）
6回	これまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。（標準学習時間60分）
7回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる 相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・レポート（50%） より、成績を評価し、総計で得点率60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない。
関連科目	学びの基礎論B、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B

参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・学びの基礎論Bを履修することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論A（FB219010）
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	松尾美香（まつおみか）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。
2回	アイスブレイクと仲間づくり アクティブラーニング型の授業であるため、グループ活動を円滑にするための仲間づくりを行う。
3回	目標設定 学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。 4年間の大学生活をイメージし、4年間の学びの計画表を作成する。また、課外での学びについても計画表を作成する。
4回	タイムマネジメント 目標を達成するための時間の使い方について考える。
5回	大学での学び 学ぶことの意義や学び方について説明する。
6回	ノートティキング ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。
7回	リーディングスキル 効率よく読む方法について説明する。
8回	振り返りの仕方 3回目で設定した目標がどこまで達成できるかを点検するために、振り返りの仕方について説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと。（標準学習時間60分）
2回	グループ活動において、これまでどのような役割を担ってきたのか、理由とともに考えておくこと。（標準学習時間60分）
3回	4年間にどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。（標準学習時間60分）
4回	目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと。（標準学習時間60分）
5回	大学生活に送るうえで、大切にしていることを理由とともに考えておくこと。（標準学習時間60分）
6回	これまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。（標準学習時間60分）
7回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる 相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・レポート（50%） より、成績を評価し、総計で得点率60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない。
関連科目	学びの基礎論B、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B

参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・学びの基礎論Bを履修することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論A（FB219020）
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	松尾美香（まつおみか）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。
2回	アイスブレイクと仲間づくり アクティブラーニング型の授業であるため、グループ活動を円滑にするための仲間づくりを行う。
3回	目標設定 学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。 4年間の大学生活をイメージし、4年間の学びの計画表を作成する。また、課外での学びについても計画表を作成する。
4回	タイムマネジメント 目標を達成するための時間の使い方について考える。
5回	大学での学び 学ぶことの意義や学び方について説明する。
6回	ノートティキング ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。
7回	リーディングスキル 効率よく読む方法について説明する。
8回	振り返りの仕方 3回目で設定した目標がどこまで達成できるかを点検するために、振り返りの仕方について説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと。（標準学習時間60分）
2回	グループ活動において、これまでどのような役割を担ってきたのか、理由とともに考えておくこと。（標準学習時間60分）
3回	4年間にどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。（標準学習時間60分）
4回	目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと。（標準学習時間60分）
5回	大学生活に送るうえで、大切にしていることを理由とともに考えておくこと。（標準学習時間60分）
6回	これまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。（標準学習時間60分）
7回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる 相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・レポート（50%） より、成績を評価し、総計で得点率60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない。
関連科目	学びの基礎論B、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B

参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・学びの基礎論Bを履修することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論 A (FB219030)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、アイスブレイクと仲間づくり、本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら説明する。また、評価方法についても説明する。本講義は、アクティブラーニング型の授業であるため、グループ活動を円滑にするための仲間づくりを行う。
2 回	生涯にわたる学びについて説明する。 エリクソンの人間の発達とアイデンティティについて、生涯の 8 つの段階について説明する (1)。
3 回	生涯にわたる学びについて説明する。 エリクソンの人間の発達とアイデンティティについて、生涯の 8 つの段階について説明する (2)。人間のライフサイクルについて説明する。
4 回	ピアジェの人間の発達段階について説明する。
5 回	生涯にわたる学びと自己実現・マズローの欲求階層について説明する。
6 回	生涯にわたる学びと自己実現・マズローの自己実現と創造的人間について説明する。
7 回	生涯における学びと大学で学ぶことの意義や学び方について説明する。 学びが自己実現や幸福追求とどのように関わるかを説明する。
8 回	生涯における自己実現や大学での目標を設定する。大学での学びや課外での学びについて計画を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習として、シラバスを確認して本講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	アイデンティティの意味についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	エリクソンの人間のライフサイクルについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	ピアジェの人間の発達段階についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	マズローの欲求階層についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	マズローの自己実現と創造的人間の要素についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	生涯における学びと大学で学ぶことの意義や学び方についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	大学での学びや課外での学びについて計画をまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与する)
キーワード	エリクソン、マズロー、ピアジェ、アイデンティティ、自己実現
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	ワークシート (30%)、レポート (30%)、小テスト (40%) より、成績を評価し、総計が 60% 以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない。
関連科目	学びの基礎論 B、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション A・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村 (次) 研究室: jiro@ee.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylog を参照のこと。
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。

	・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして、グループディスカッションや発表を行う。
課題に対するフィードバック	提出課題のフィードバックとして、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本授業は学びの基礎論Bを履修することがのぞましい。

科目名	企業情報特論A（FB219600）
英文科目名	Business Leader Lecture Series A
担当教員名	河野敏行（こうのとしゆき）、前川洋子（まえかわようこ）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。 2回目以降は、毎回、各界で活躍されている委嘱教授による講演を聴講し、それについてレポートを作成し提出する。 （全教員）
2回	講演者：山陽放送株式会社 報道制作局報道部主査 山下晴海 タイトル：「ローカルTV局は、こんなに面白い！」 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
3回	講演者：中田宏事務所 前衆議院議員 岡山理科大学客員教授 中田 宏 タイトル：「民間企業と行政の経営における違い」（予定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
4回	講演者：カバヤ食品株式会社（予定） タイトル：（講演内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
5回	講演者：平喜酒造株式会社 取締役 製造部長 原 潔巳 タイトル：（講演内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
6回	講演者：岡山県警察サイバー犯罪対策課 タイトル：（講演内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
7回	講演者：おかやま信用金庫 専務理事 梶原武 タイトル：（講演内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
8回	講演者：株式会社ファンケル タイトル：（講演内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）

回数	準備学習
1回	シラバスをチェックし、これからの講師の概要を調べておくこと。（標準学習時間60分）
2回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。（標準学習時間60分）
3回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。（

	標準学習時間60分)
4 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
講義目的	経済活動や企業間競争のグローバル化の急速な展開に伴い、本質的な市場ニーズを正確に把握し、それに対応した事業戦略・技術開発戦略を構築することが、企業の重要な課題になっている。本科目では、確固たる経営理念のもとに企業や産業界をリードしている卓越した経営者等に、企業活動のあるべき姿、事業・商品戦略、研究開発戦略、求められる技術者像と人材育成、企業と大学の連携や地域貢献、等について、判りやすくお話いただく。これにより企業や社会に貢献する技術者として持つべき素養を身に付ける。 毎回の講義毎に講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	1) 経営理念と企業活動などを他社と比較できる。(知識・理解) 2) 戦略的経営および商品戦略・技術経営と研究開発戦略などを説明できる。(知識・理解) 3) 企業における人材育成を他社と比較できる。(知識・理解) 4) 企業にとっての地域社会との関わりと社会貢献を比較できる。(知識・理解) 5) 以上の内容を説明できる。(知識・理解) 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
キーワード	経営理念、経営戦略、技術マネジメント(MOT)、産学連携
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、各講義に関するレポート提出が課せられる。8回分のレポート(100%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。各講師の方の話に沿って、到達目標の1)2)3)4)5)を評価する。
教科書	使用しない
関連科目	技術マネジメント、インターンシップ
参考書	藤末健三著「技術経営入門」日経BP社発行
連絡先	キャリア支援センター(25号館7階)
授業の運営方針	講義は各回ごとに講師を招いて、実施する。出席は提出されるレポートによって、カウントをするため、レポートの提出が無い場合は出席扱いとしない。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポートに対して、個別にフィードバックを行うため、キャリア支援センターに来ること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	講師のほとんどが現役の実務を行っている方で、経験を活かして講義を行う。
その他(注意・備考)	1) 教室の収容人数制限により受講者数が制限されることがあります。 2) 企業経営者の講義であるから、入社面接の際の注意事項と同様な態度で受講すること。 3) 講義中の撮影、録音等を行うことは原則禁止する。 4) 講演者は変更となることがある。 委嘱教授は、サービス関係企業経営幹部、文化芸術・産業分野有識者、食品関係企業経営幹部、服飾メーカー経営幹部、繊維・衣料メーカー経営幹部、マスコミ関係経営幹部、システム関係企業経営幹部、政治・社会分野有識者、教育界有識者、金融機関経営幹部等である。 講義を聴く態度、姿勢、適切な質疑応答などが求められる。講演者についての事前知識の収集を十分にいき、毅然とした態度で受講することが臨まれる。

科目名	インターンシップ概論 (FB219800)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	出席率80%、提出物20%により評価する。
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/株式会社理想経営/株式会社理想経営
関連科目	インターンシップA・B・C、社会・産業実習、産業課題研究演習、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	株式会社CDLキャリアデザイン研究所 代表取締役 元東京ディズニーランド勤務 大学教育歴22年、10年間でのべ1万人を超える生徒の個別指導の実績を持つ 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 前期博士課程修了（社会福祉学修士） ・「人材教育支援事業」（管理者研修、役職者研修、新人社員、中堅社員、新人フォローアップ）等 ・「人材育成支援事業」（大学・短大・専門・高校・小中学校、父母、PTA）等
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219802)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	出席率80%、提出物20%により評価する。
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/ 株式会社理想経営 / 株式会社理想経営
関連科目	インターンシップA・B・C、社会・産業実習、産業課題研究演習、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	株式会社CDLキャリアデザイン研究所 代表取締役 元東京ディズニーランド勤務 大学教育歴22年、10年間でのべ1万人を超える生徒の個別指導の実績を持つ 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 前期博士課程修了（社会福祉学修士） ・「人材教育支援事業」（管理者研修、役職者研修、新人社員、中堅社員、新人フォローアップ）等 ・「人材育成支援事業」（大学・短大・専門・高校・小中学校、父母、PTA）等
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219803)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめるとともに、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の提出物20%、レポート80%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	経営コンサルタントでの経験を活かして、企業の考え方、採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219804)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめるとともに、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の提出物20%、レポート80%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	経営コンサルタントでの経験を活かして、企業の考え方、採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	文章表現法応用編 A (FB220200)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
2 回	文章表現の注意点 : リライトのポイントを解説する。
3 回	小論文を書く : 文章の組み立てを説明する。
4 回	小論文を書く : 準備した材料を使って文章化する。
5 回	ストーリーを書く : ストーリーを構想する。
6 回	ストーリーを書く : ストーリーを書く。
7 回	文章表現の注意点 : 表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。復習: 受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習: 文章表現で大切な点をまとめること。復習: リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3 回	予習: 文章の組み立て方を理解しておくこと。復習: 文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習: 指示されたテーマについて調べておくこと。復習: 組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習: ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習: ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習: ストーリーの構想を準備してくること。復習: 自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。復習: 表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8 回	予習: 指示されたテーマについて準備しておくこと。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかりと書くことができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編 B、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。

合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法応用編 A (FB220210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
2 回	文章表現の注意点 : リライトのポイントを解説する。
3 回	小論文を書く : 文章の組み立てを説明する。
4 回	小論文を書く : 準備した材料を使って文章化する。
5 回	ストーリーを書く : ストーリーを構想する。
6 回	ストーリーを書く : ストーリーを書く。
7 回	文章表現の注意点 : 表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。復習: 受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習: 文章表現で大切な点をまとめること。復習: リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3 回	予習: 文章の組み立て方を理解しておくこと。復習: 文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習: 指示されたテーマについて調べておくこと。復習: 組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習: ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習: ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習: ストーリーの構想を準備してくること。復習: 自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。復習: 表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8 回	予習: 指示されたテーマについて準備しておくこと。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかりと書くことができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編 B、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	- 毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 - 出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 - 提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 - ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 - 授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。

合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法応用編 A (FB220220)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。文章スキルの大切さについて解説する。
2 回	文章表現の注意点 (1) リライトのポイントを解説する。受講シートの記入に取り組む。
3 回	小論文を書く (1) : 文章の組み立てを説明する。
4 回	小論文を書く (2) : 準備した材料を使って文章化する。
5 回	ストーリーを書く (1) : ストーリーを構想する。
6 回	ストーリーを書く (2) : ストーリーを書く。
7 回	文章表現の注意点 (2) : 表記や表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習 : シラバスを読んでおくこと。復習 : 受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2 回	予習 : 文章表現で大切な点をまとめること。復習 : リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3 回	予習 : 文章の組み立て方を理解しておくこと。復習 : 文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習 : 指示されたテーマについて調べておくこと。復習 : 組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習 : ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習 : ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習 : ストーリーの構想を準備してくること。復習 : 自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7 回	予習 : 文章表現の注意点について考えておくこと。復習 : 表記や表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8 回	予習 : 最終評価試験の準備をしておくこと。復習 : 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1. 文章表現の基本を身につけている。 2. 自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3. 状況に応じた文章を書くことができる。 4. 文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	学修 (達成目標1-4) の到達度確認試験 (最終評価試験100%) により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編B、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、文章のポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	技術者の社会人基礎 A (FB221000)
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。技術者の位置づけと現状を概観する。
2 回	技術者の社会人基礎力について解説する。受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章表現の基本について解説する。自分の考えを文章化する。
4 回	情報や資料を理解し、その要点を自分の言葉で伝える。
5 回	プレゼンの基本について解説する。ディスカッションによって自分の考えを検証する。
6 回	プレゼン演習を行い、レポートに取り組む。
7 回	日本語の使い方について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を行う。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2 回	予習：技術者に必要なものは何か、考えておくこと。復習：社会人基礎力についてまとめること。(標準学習時間30分)
3 回	予習：テキスト「文章スキル編」第1章を読んで来ること。復習：自分の文章を点検しておくこと。(標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：指示されたテーマについて自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	予習：テキスト「プレゼン編」第1章を読んで来ること。復習：ディスカッションの内容を整理しておくこと。(標準学習時間45分)
6 回	予習：指示されたテーマでプレゼンを準備してくる。復習：プレゼンのレポートをまとめること。(標準学習時間90分)
7 回	予習：テキスト「文章スキル編」39頁を調べておくこと。復習：日本語の使い方についてまとめること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	技術者に求められる役割を理解するとともに、社会人基礎力の中核である「読む・聴く・書く・話す」というコミュニケーション能力の重要性について学ぶ。また就職活動や大学院進学に必要な一般社会でのマナーや常識、言葉遣いを身につける。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与する。
達成目標	1. 社会で必要となるマナーの基本が身についている。 2. 現代社会における技術者の役割について説明できる。 3. 自分で問題を見つけ、それを文章でわかりやすく表現できる。 4. 自分で問題を分析し、それを大勢の相手に話して伝えることができる。 5. 他人と協調してコミュニケーションをとることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与する。
キーワード	文章表現、日本語、社会人、技術者、プレゼンテーション、マナー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-5)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	技術者の社会人基礎B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、企業と人間A・B、ボランティア論A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、社会人としての基礎を具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を70名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	技術者の社会人基礎 A (FB221010)
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
2 回	* ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
3 回	* テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
4 回	* 手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 * 封書 (宛名・差出人) の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
5 回	* テーマに基づいた手紙を作成する。(標準学習時間 120 分)
6 回	* 手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
7 回	* テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
8 回	まとめ

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120 分)
2 回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
5 回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
6 回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ビジネスマナーにのっとった電話対応ができる。 コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、企業と人間
参考書	適宜、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を70名とする。

科目名	技術者の社会人基礎 A (FB221020)
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
2 回	* ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
3 回	* テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
4 回	* 手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 * 封書 (宛名・差出人) の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
5 回	* テーマに基づいた手紙を作成する。(標準学習時間 120 分)
6 回	* 手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
7 回	* テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
8 回	まとめ

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120 分)
2 回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
5 回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
6 回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ビジネスマナーにのっとった電話対応ができる。 コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、企業と人間
参考書	適宜、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を70名とする。

科目名	技術者の社会人基礎 A (FB221030)
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
2 回	* ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
3 回	* テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
4 回	* 手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 * 封書 (宛名・差出人) の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
5 回	* テーマに基づいた手紙を作成する。(標準学習時間 120 分)
6 回	* 手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
7 回	* テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
8 回	まとめ

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120 分)
2 回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
5 回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
6 回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ビジネスマナーにのっとった電話対応ができる。 コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、企業と人間
参考書	適宜、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を70名とする。

科目名	経営工学 A (FB221200)
英文科目名	Industrial Engineering A
担当教員名	西敏明* (にしとしあき*), 川上健二* (かわかみけんじ*), 濱尾壽一* (はまおとしかず*), 安藤究真* (あんどうきゅうま*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	社会に出て働いておカネを稼ぎ生活していく。結婚して子供が出来、子供の教育資金が必要になり、マイホームを建て、いずれ老後を迎えるといったように皆それぞれのライフプランがあります。そのために幾ら位必要でそれをどのように準備していくのか？そして資金準備のために運用が必要になってくるが、それを賢く準備する方法を学習する。 (濱尾 壽一*)
2 回	世界に貢献し、誇れる日本のものづくりの歴史とすごさ、日本人のものづくりに対する取り組みと考え方。会社というもの、良い就職先の選び方等の話をする。 (川上 健二*)
3 回	今日、インターネット無しの生活は考えられないほど、あらゆる場面で利活用されている。そのインフラ基盤のあり方や運用などについて、サービス提供者の立場から説明する。 (安藤 究真*)
4 回	経営と工学：工学からアプローチする際の経営の考え方、および経営工学の概略を説明する。 (西 敏明*)
5 回	ものづくりの取り巻く環境（生産、しくみ、経済状況、地球環境）について説明する。 (西 敏明*)
6 回	オペレーションリサーチ、納期管理と工程管理について説明する。 (西 敏明*)
7 回	トヨタ生産方式について説明する。 (西 敏明*)
8 回	1-7回までの総括を解説し、説明する。また、ここまでの講義内容について振り返ると同時にここまでの講義内容について最終評価試験を実施する。 (西 敏明*)

回数	準備学習
1 回	これからの自分自身の生活において幾ら位の資金が必要となるか予想検討し、調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	将来どのような仕事をしたいのか、どのような会社に就職したいのかを、大枠でよいからイメージ準備していること。(標準学習時間60分)
3 回	インターネットの仕組みについて理解しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	テキストの内容を目次と索引からどういう用語が使われているかを予習しておくこと。講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	前回の講義の復習と、テキストの「生産と生産現場を取り巻く環境」について予習しておくこと。講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	前回の講義の復習と、テキストの納期管理と工程管理について予習しておくこと。講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。

	(標準学習時間120分)
7 回	前回の講義の復習と、テキストのトヨタ生産方式について予習しておくこと。講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	今まで講義中に配布したテキスト、プリントを事前に予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、理解しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化（例として、生産管理）の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 上記の事項は、特に4領域の中で「知識・理解」に関係している。
達成目標	・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる（A） ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける（B） ・企業などの実務家教員の講義により、社会や企業、技術者の役割についての関心を持つ（C） ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る（D） *（ ）は教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針（ディプロマポリシーに相当）の対応する項目（教育推進機構 教養教育センターのホームページ参照）
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験60点（4～7回分）とレポート40点（1～3回分）を合計し、その合計点で総合的に評価する。 但し、合計点において、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよくわかる本[第2版] / 菅間正二 / 秀和システム / 4798037303
関連科目	工学系基礎科目
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
授業の運営方針	授業の進め方は、最近の新聞記事から経営工学に関する話題を述べる。次いで、各回の授業内容を義して、最後にまとめをおこなう。 各回の授業終了後、質問がある場合は受け付けるので、積極的に質問をしてください。なお、質問内容で、重複する質問や特徴のある質問については、次回の講義の際に、復習を含めて述べる。このことにより、さらに授業の内容の理解の深化をしていきたい。なお、講義前、講義後に質問も受け付ける。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験を実施後、後半の講義で、模範解答と解説を実施する。 提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しています。で、配慮が必要な場合は、必ず事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は、原則認めません(不許可)。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	濱尾は株式会社岡山ファイナンシャルプランナーズ勤務、川上は岡山技研工業株式会社勤務、安藤は株式会社チロネット勤務、 製品の設計・開発や現場での課題解決の実務経験を活かして、社会や企業、技術者の役割について説明する。
その他（注意・備考）	・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。

科目名	技術マネジメント A (FB221400)
英文科目名	Management of Technology A
担当教員名	西村寿夫* (にしむらひさお*)
対象学年	3 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションで、なぜ技術マネジメントが必要かを、ものづくり専門家及び企業経営の視点から説明し、技術を活用して企業価値を最大化することの必要性を理解する。第 1 章：MOT（技術経営） 西村 寿夫*
2 回	技能、技術、科学の違いを説明し、経営資源としての技術を理解し、技術開発や製品開発のロードマップの必要性を理解する。第 2 章：テクノロジー 西村 寿夫*
3 回	製品の三要素（QCD）を説明し、それらを確保するための小集団活動やフロントローディング、コンカレントエンジニアリング、DR（デザインレビュー）の役割を理解させる。第 8 章：プロダクト 西村 寿夫*
4 回	品質管理、TQC, TQM, ISO等の歴史的背景や、最近の自動車メーカーや素材メーカーの不祥事について説明し、ユーザーの信頼を勝ち取るための大きな要が品質であることを理解する。第 9 章：クオリティマネジメント 西村 寿夫*
5 回	日常業務の推進とプロジェクトマネジメントの違いを理解させ、プロジェクトマネージャーの役割を通して、プロジェクトマネジメントの重要性を理解する。第 12 章：プロジェクトマネジメント 西村 寿夫*
6 回	企業の規模が拡大すると、部門間の風通しが悪くなる。業務全体を俯瞰的視野でみたビジネスをマネジメントする経営手法を取り上げ、その業務推進の有効性を理解する。第 13 章：ビジネスプロセスマネジメント 西村 寿夫*
7 回	感と度胸と経験で判断するのではなく、論理的な考え方の重要性を理解する。一方、企業のグローバル化に伴い様々リスクが発生する。それらに対し、どのように考え、どう具体的なアクションに繋げるかを説明する。第 10 章：ロジカルシンキング、第 11 章：リスクマネジメント 西村 寿夫*
8 回	最終評価試験を行い、試験終了後に出題内容について解説を行う。 西村 寿夫*

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的、講義内容、達成目標を把握しておくこと。（標準学習時間 60 分）
2 回	技術とは何かを理解し、経営資源としての技術の価値とは何か、また技術のロードマップについても理解しておくこと。（標準学習時間 60 分）
3 回	製品三要素やコンカレントエンジニアリングの重要性を予習しておくこと。（標準学習時間 60 分）
4 回	品質管理とは何をするのか、なぜ品質管理が必要かを予習しておくこと。（標準学習時間 60 分）
5 回	日常業務の推進とプロジェクトマネジメントの役割（C：コストリスク、S：スケジュールリスク、T：性能リスク）とリスクの低減を理解しておくこと。（標準学習時間 60 分）
6 回	ビジネスプロセスエンジニアリング、アウトソーシング、OEMとは何かを理解しておくこと。（標準学習時間 60 分）
7 回	演繹法と帰納法について予習しておくこと。リスクマネジメントとは何か、海外でのビジネスにはどのようなリスクがあるかを事前に考えておくこと。（標準学習時間 60 分）
8 回	1～7 回までに説明した技術マネジメントAの基礎について復習しておくこと。（標準学習時間 60 分）

講義目的	企業では、会社の体制、組織や末端までの部課に至る役割・分担が明確に定められている。それを実務経験の浅い若手が十分理解することは容易ではない。「技術マネジメント（経営）」は通産相でも定義されているように「技術を事業の核とする企業・組織が次世代の事業を継続的に創出し、継続的發展を行うための創造的、かつ戦略的なイノベーションのマネジメント」である。これを理解することで、技術者や研究者を目指す
------	--

	学生が、企業における技術者や研究者の立ち位置を俯瞰的に把握でき、将来のリーダーとしての能力を涵養できる。技術マネジメントAでは学生がより理解を得やすいように、ものづくりの現場に近い項目を中心に講義を行う。 (全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与している。)
達成目標	1. 技能、技術、科学の違いを明確にできる。(A) 2. 製作(含む設計)、品質管理のあるべき姿を求める能力を身につける。(C) 3. プロジェクトマネジメントの意図を理解する。(A) 4. 業務の効率化を絶えず考える能力を身に漬ける。(B) 5. グローバル化に対する適正化とリスクを考える力を養成する。(C) *()内は全学の「学位授与の方針」の対応する項目を示す。
キーワード	技術、品質管理、製造(設計)、プロジェクトマネジメント、ビジネスプロセス、ロジカルシンキング、リスクアセスメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎講義のレポート(20%)、最終評価試験(8回目、出題対象:1回から7回、80%)の総合評価により、60点以上を合格とする。
教科書	技術経営論入門(わかりやすいMOTの考え方)/阿部隆夫/森北出版発行
関連科目	プロジェクト、
参考書	1. 延岡健太郎著/MOT(技術経営)/日本経済新聞社発行 2. グローバルタスクフォース(株)編/通勤大学MBA11MOTテクノロジーマネジメント/総合法令出版発行 3. 久保田豊子著/図解でわかる原価計算いちばん最初に読む本/アニモ出版発行
連絡先	携帯電話:090-6984-9325
授業の運営方針	1. 授業の録音や撮影は禁止する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1. シャトルカード、レポートは毎回コメントをつけて次週に返却する。 2. 最終試験については、試験後に模範解答の説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 教育ディベロッパー及び教務の先生と連携しながら最大限の能力を学生から引き出すよう努める。
実務経験のある教員	元IHI勤務 製品の設計・開発や現場での課題解決の経験を活かして講義する。
その他(注意・備考)	1. 各講義ごとに、与えられた課題に対するレポートを提出する。 講義中にレポートの内容に対しての説明や意見を学生が発表し、講師がコメントを行う。 2. レポートは翌週(原則)にはコメントをつけて返却する。

科目名	身近な物理学 (FB221600)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives I
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	天体の運動について説明する。どのような考えにより天動説が主張されたのか、またどのような観測結果に基づいて地動説が正しいとされたのかを説明する。
2回	地上の物体の運動について説明する。ガリレオが実証と論証に基づいて慣性の法則や落体・放物体の運動を明らかにした経緯を述べ、演示実験で確認する。
3回	ニュートンの運動の第1・第2・第3法則について説明する。演示実験により慣性の法則を確認し、また実験的にニュートンの第2・第3法則を検証する。
4回	円運動と万有引力の法則について説明する。円運動に関わる演示実験を行う。天体の運動に基づいて万有引力の法則が導出された過程を詳述する。
5回	仕事とエネルギーについて説明する。仕事とエネルギーの定義の妥当性、位置・運動エネルギーについて述べ、エネルギー保存則の演示実験を行う。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、温度と熱について説明する。温度と熱の相違や熱の正体に関する演示実験を行う。
7回	気体分子の運動と比熱について説明する。ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式が確立される過程について述べ、関連する演示実験を行う。
8回	これまでのまとめと到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.1~7を読んでノートにまとめ、天体の運動について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.8~17を読んでノートにまとめ、慣性の法則、速度・加速度の概念、落体・放物体の運動について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.18~23を読んでノートにまとめ、慣性や力の概念、力と加速度の関係、作用反作用と運動量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.24~30を読んでノートにまとめ、万有引力の法則、慣性質量と重力質量、円運動と角運動量保存則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.31~38を読んでノートにまとめ、仕事とエネルギーの概念、位置・運動エネルギー保存則の予習と、(標準学習時間60分)
6回	1~5回までの復習をすること。教科書p.39~47を読んでノートにまとめ、熱容量と熱の概念、熱の正体について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.48~62を読んでノートにまとめ、気体分子運動論や比熱、熱力学の法則について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.1~62までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	この授業は、我々の身の回りで生じる身近な物理現象を対象としてその現象を明解に説明するための物理的な考え方を培うことを目的としている。従って、最初に演示実験を行い、その結果から物理法則を導き、その法則を用いて身近な現象が生じる理由を説明する順序で授業を行う。また科学史を参照して、正しい知識を得るために先人達が試行錯誤した足跡をたどり、未知の現象に対応できる柔軟な思考力を培う。では、力学と熱に関係する授業を展開し、運動・エネルギー・熱に関する法則を導出し、その応用を学ぶ。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物理法則の確立の経緯、物理量の定義、身近な物理現象の原因、実験による物理法則の確認方法)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	速度、加速度、力、運動量、質量、仕事、エネルギー、温度、熱 ニュートンの運動の第1第・2第・3法則、万有引力の法則、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則、ボイル・シャルルの法則、熱力学の第1・第2法則
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(到達目標1~3を確認)を50点満点としてその評価点をx点とし、到達度確認テスト(到達目標1~3を確認)を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門/中川益生/内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、A1号館1階の丸善キャンパスショップで販売する。
関連科目	

参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088-3 / みすず書房
連絡先	masuonakagawa12345@gmail.com
授業の運営方針	・高校における物理学の知識の多少は問わないが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学ぶので、必ず毎回出席してノートに記録すること。出席は、初回に配布する出席カードとバーコードリーダーを用いて毎回講義開始前に確認する。 ・物理学は特に論理的思考を重視する学問であるから、テストにおいても自筆ノートは持ち込み可とする。しかし、テストにおける不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	テストについては、テスト後あるいは次回の講義日に模範解答・解説・評価などのフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料等を提供することがある。 ・講義や演示実験は、大スクリーンに投影したPPT画像やカメラ画像を中心として行い、板書は最小限に留める。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元新コスモス電機(株)コスモス研究所勤務： 企業の研究所におけるセンサー開発の経験を生かして、思考力や創造力を高めるために必要な実践的勉強方法を講義を通して示す。
その他（注意・備考）	・以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある： 基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。 ・「物理学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学 Ⅰ」の履修を避けること。

科目名	身近な物理学 (FB221610)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives I
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	天体の運動について説明する。どのような考えにより天動説が主張されたのか、またどのような観測結果に基づいて地動説が正しいとされたのかを説明する。
2回	地上の物体の運動について説明する。ガリレオが実証と論証に基づいて慣性の法則や落体・放物体の運動を明らかにした経緯を述べ、演示実験で確認する。
3回	ニュートンの運動の第1・第2・第3法則について説明する。演示実験により慣性の法則を確認し、また実験的にニュートンの第2・第3法則を検証する。
4回	円運動と万有引力の法則について説明する。円運動に関わる演示実験を行う。天体の運動に基づいて万有引力の法則が導出された過程を詳述する。
5回	仕事とエネルギーについて説明する。仕事とエネルギーの定義の妥当性、位置・運動エネルギーについて述べ、エネルギー保存則の演示実験を行う。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、温度と熱について説明する。温度と熱の相違や熱の正体に関する演示実験を行う。
7回	気体分子の運動と比熱について説明する。ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式が確立される過程について述べ、関連する演示実験を行う。
8回	これまでのまとめと到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.1~7を読んでノートにまとめ、天体の運動について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.8~17を読んでノートにまとめ、慣性の法則、速度・加速度の概念、落体・放物体の運動について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.18~23を読んでノートにまとめ、慣性や力の概念、力と加速度の関係、作用反作用と運動量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.24~30を読んでノートにまとめ、万有引力の法則、慣性質量と重力質量、円運動と角運動量保存則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.31~38を読んでノートにまとめ、仕事とエネルギーの概念、位置・運動エネルギー保存則の予習と、(標準学習時間60分)
6回	1~5回までの復習をすること。教科書p.39~47を読んでノートにまとめ、熱容量と熱の概念、熱の正体について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.48~62を読んでノートにまとめ、気体分子運動論や比熱、熱力学の法則について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.1~62までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	この授業は、我々の身の回りで生じる身近な物理現象を対象としてその現象を明解に説明するための物理的な考え方を培うことを目的としている。従って、最初に演示実験を行い、その結果から物理法則を導き、その法則を用いて身近な現象が生じる理由を説明する順序で授業を行う。また科学史を参照して、正しい知識を得るために先人達が試行錯誤した足跡をたどり、未知の現象に対応できる柔軟な思考力を培う。では、力学と熱に関係する授業を展開し、運動・エネルギー・熱に関する法則を導出し、その応用を学ぶ。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物理法則の確立の経緯、物理量の定義、身近な物理現象の原因、実験による物理法則の確認方法)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	速度、加速度、力、運動量、質量、仕事、エネルギー、温度、熱 ニュートンの運動の第1第・2第・3法則、万有引力の法則、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則、ボイル・シャルルの法則、熱力学の第1・第2法則
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(到達目標1~3を確認)を50点満点としてその評価点をx点とし、到達度確認テスト(到達目標1~3を確認)を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、A1号館1階の丸善キャンパスショップで販売する。
関連科目	

参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088-3 / みすず書房
連絡先	masuonakagawa12345@gmail.com
授業の運営方針	・高校における物理学の知識の多少は問わないが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学ぶので、必ず毎回出席してノートに記録すること。出席は、初回に配布する出席カードとバーコードリーダーを用いて毎回講義開始前に確認する。 ・物理学は特に論理的思考を重視する学問であるから、テストにおいても自筆ノートは持ち込み可とする。しかし、テストにおける不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	テストについては、テスト後あるいは次回の講義日に模範解答・解説・評価などのフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料等を提供することがある。 ・講義や演示実験は、大スクリーンに投影したPPT画像やカメラ画像を中心として行い、板書は最小限に留める。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元新コスモス電機(株)コスモス研究所勤務： 企業の研究所におけるセンサー開発の経験を生かして、思考力や創造力を高めるために必要な実践的勉強方法を講義を通して示す。
その他（注意・備考）	・以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある： 基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。 ・「物理学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学 Ⅰ」の履修を避けること。

科目名	身近な化学 (FB221800)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives I
担当教員名	坂根弦太 (さかねげんた)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質は粒子からできていることを説明する。
2 回	身の回りの物質は、いろいろと分類できることを説明する。
3 回	物質の性質の調べ方、混合物を純物質に分ける方法について説明する。
4 回	元素・周期表と原子・電子について説明する。
5 回	物質中で原子はどう結びついているか、説明する。
6 回	分子は原子の結合によってできていることを説明する。
7 回	化学者は分子の形をどうやって調べるのか、説明する。
8 回	1回～7回までの総括を説明する。到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1 回	物質は粒子からできていることについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身の回りの物質を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
2 回	身の回りの物質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「物質を特徴づけるものは何か」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
3 回	物質を特徴づけるものについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「すべての物質は原子からできている」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
4 回	すべての物質は原子からできていることについて復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「物質中で原子はどう結びついているか」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
5 回	物質中で原子はどう結びついているかについて復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「分子は原子の結合によってできる」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
6 回	分子は原子の結合によってできていることについて復習を行うこと。第7回目授業までに分子の形はどうやって分かるのか、調べておくこと (標準学習時間90分)
7 回	分子の形はどうやって分かるのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと (標準学習時間120分)
8 回	ここまで授業内容についての復習を行うこと (標準学習時間120分)

講義目的	私たちが認識する物質は、すべて原子という粒子からできている。しかしその粒子は小さすぎて、私たちが直接実感することは難しい。原子には種類があり、その種類のことを元素という。元素で種類分けされた複数の原子が結合して、様々な形の分子になる。身近な物質がどのような原子・分子からできているかを知り、小さすぎて見えない原子・分子の世界を想像し、実感できるようにする。身近な物質を化学の視点で認識できるようにする。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(原子、分子、電子、化学結合、物質の分類)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	物質、元素、原子、分子、電子、周期表、化学結合、金属、イオン、物質質量
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート20%(達成目標1～3を確認)、およびテスト80%(小テスト・到達度確認テスト、達成目標1・3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ / 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編 / 化学同人 / 978-4759810912
関連科目	本科目に引き続き「身近な化学II」を履修することが望ましい。
参考書	指定しない
連絡先	A1号館3階318 理科教育センター 坂根弦太 e-mail: gsakane@chem.ous.ac.jp http://www.chem.ous.ac.jp/~gsakane/
授業の運営方針	・ 授業中に行う実験は積極的に参加してください。 ・ 資料は原則としてA4、2つ穴の紙で配布します。資料を綴じるファイルを用意してください。 ・ 予習、授業の記録、復習のためにノートを用意し、分かったことは自分の言葉で、分からなかったことはとりあえずキーワードを書いてください。キーワードはインターネット、図書館、教員(質問)を利用して問題解決し、ノートに追記してください。 ・ 小テストは教科書、ノート、黒板を参照しながら回答して構いませんが、テスト中に他の人と情報交換してはいけません。

	・レポートは次の授業の開始時を〆切とします。他人のレポートを写してはいけません。 ・到達度確認テストは、教科書やノートなどの持ち込みはできません。 ・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性があります。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な化学 Ⅰ」の履修を避けてください。
アクティブ・ラーニング	実験・実習、ライティング この科目では、授業の中に組み入れた実験・観察・体験活動、ミニッツ・ペーパーによりアクティブ・ラーニングを実施する。
課題に対するフィードバック	・小テストについては、テスト終了後に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。 ・レポートについては、講義中に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。 ・到達度確認テストについては、テスト終了後に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音／録画は原則として認めません。当別の理由がある場合事前に相談してください。 ・講義中の撮影（静止画）は自由ですが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止とします。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	身近な化学 (FB221810)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives I
担当教員名	森義裕* (もりよしひろ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質は粒子からできていることを説明する。
2回	身の回りの物質は、いろいろと分類できることを説明する。
3回	物質の性質の調べ方、混合物を純物質に分ける方法について説明する。
4回	元素・周期表と原子・電子について説明する。
5回	物質中で原子はどう結びついているか、説明する。
6回	分子は原子の結合によってできていることを説明する。
7回	化学者は分子の形をどうやって調べるのか、説明する。
8回	1回～7回までの総括を説明する。到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1回	物質は粒子からできていることについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身の回りの物質を考える」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
2回	身の回りの物質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「物質を特徴づけるものは何か」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
3回	物質を特徴づけるものについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「すべての物質は原子からできている」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
4回	すべての物質は原子からできていることについて復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「物質中で原子はどう結びついているか」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
5回	物質中で原子はどう結びついているかについて復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「分子は原子の結合によってできる」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
6回	分子は原子の結合によってできていることについて復習を行うこと。第7回目授業までに分子の形はどうやって分かるのか、調べておくこと(標準学習時間90分)
7回	分子の形はどうやって分かるのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと(標準学習時間120分)
8回	ここまで授業内容についての復習を行うこと(標準学習時間120分)

講義目的	私たちが認識する物質は、すべて原子という粒子からできている。しかしその粒子は小さすぎて、私たちが直接実感することは難しい。原子には種類があり、その種類のことを元素という。元素で種類分けされた複数の原子が結合して、様々な形の分子になる。身近な物質がどのような原子・分子からできているかを知り、小さすぎて見えない原子・分子の世界を想像し、実感できるようにする。身近な物質を化学の視点で認識できるようにする。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(原子、元素、分子、電子、物質)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	物質、元素、原子、分子、電子、周期表、化学結合、金属、イオン、物質質量
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート40%(達成目標1～3を確認)、到達度確認テスト60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ/日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編/化学同人/978-4759810912
関連科目	本科目に引き続き「身近な化学II」を履修することが望ましい。
参考書	指定しない
連絡先	e-mail: ymori.ous@gmail.com
授業の運営方針	・事前に教科書を読み、分からない言葉については調べておくこと。 ・講義は、教科書に基づいたテーマに沿ってプロジェクターと板書を用いた形式で行う。 ・講義の最後に、適時レポート作成を行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・講義の最後に、適時レポート作成を行う。 ・レポートについては、必要に応じて翌講義時に解説をし、フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供

生への対応	していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音／録画は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影（静止画）は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が教室定員を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論　・　」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論　・　」の履修生および履修予定学生は「身近な化学　・　」の履修を避けること。

科目名	身近な生物学（FB222000）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	森本政秀*（もりもとせいしゅう*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生命の最小単位である細胞の構造と機能について解説する。
2回	生命体を構成している物質について解説する。
3回	遺伝子の構造と機能から、どのようにタンパク質をつくるのか解説する。
4回	生物が生きて活動していくためのエネルギーをどのようにつくるのか解説する。
5回	植物が行う光合成と窒素同化について解説する。
6回	細胞の数を増やす体細胞分裂について解説する。
7回	生物の個体数を殖やす生殖のしくみ、また受精から体ができるまでを解説する。
8回	生物の自己維持機構と遺伝のしくみについて解説する。

回数	準備学習
1回	細胞の構造、はたらきについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	地殻を構成している物質と生命体を構成している物質の違いについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
3回	DNAの構造について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
4回	代謝について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
5回	光合成について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
6回	体細胞分裂について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
7回	発生について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
8回	生命体の反応と調節について予習を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、単細胞の微生物からヒトまで等しく生物が「生きている」しくみについて理解し、私たち自身が健康に生活するために必要なことや私たちの生活が他の生物に与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず生物全体に共通する細胞の成り立ちや、細胞自体が生きているしくみについて解説する。その上で、我々ヒトのような多細胞からなる生物が個体としてバランスをとって生きるしくみを解説する。（教養教育科目の単位認定方針A知識・理解にもっとも強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（細胞、代謝、多細胞個体のしくみ）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	細胞、代謝、多細胞個体
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の提出課題50%、毎回行う小テストの結果50%を評価し、総計で60%以上を合格とする。最終評価試験は行わない。（達成目標の1～3を確認）
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 / 羊土社
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定はしない。
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
授業の運営方針	講義の修了後に課題を提出する。3回以上未提出の場合、単位は不認定となる。小テストは講義が終わる前に行う。課題に2回目以降、講義の始まる前に返却をする。8回の課題は次の講義がないため、学習支援センターまで取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	2回目以降、講義の始まりに、小テストの解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する。

	・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 ・ 「生物学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論 Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学 Ⅰ」の履修を避けること。 ・ 「身近な生物学 Ⅰ」と「身近な生物学 Ⅱ」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な生物学（FB222010）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	森本政秀*（もりもとせいしゅう*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生命の最小単位である細胞の構造と機能について解説する。
2回	生命体を構成している物質について解説する。
3回	遺伝子の構造と機能から、どのようにタンパク質をつくるのか解説する。
4回	生物が生きて活動していくためのエネルギーをどのようにつくるのか解説する。
5回	植物が行う光合成と窒素同化について解説する。
6回	細胞の数を増やす体細胞分裂について解説する。
7回	生物の個体数を殖やす生殖のしくみ、また受精から体ができるまでを解説する。
8回	生物の自己維持機構と遺伝のしくみについて解説する。

回数	準備学習
1回	細胞の構造、はたらきについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	地殻を構成している物質と生命体を構成している物質の違いについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
3回	DNAの構造について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
4回	代謝について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
5回	光合成について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
6回	体細胞分裂について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
7回	発生について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
8回	生命体の反応と調節について予習を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、単細胞の微生物からヒトまで等しく生物が「生きている」しくみについて理解し、私たち自身が健康に生活するために必要なことや私たちの生活が他の生物に与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず生物全体に共通する細胞の成り立ちや、細胞自体が生きているしくみについて解説する。その上で、我々ヒトのような多細胞からなる生物が個体としてバランスをとって生きるしくみを解説する。（教養教育科目の単位認定方針A知識・理解にもっとも強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（細胞、代謝、多細胞個体のしくみ）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	細胞、代謝、多細胞個体
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の提出課題50%、毎回行う小テストの結果50%を評価し、総計で60%以上を合格とする。最終評価試験は行わない。（達成目標1～3を確認）
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 / 羊土社
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定はしない。
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
授業の運営方針	講義の修了後に課題を提出する。3回以上未提出の場合、単位は不認定となる。小テストは講義が終わる前に行う。課題に2回目以降、講義の始まる前に返却をする。8回の課題は次の講義がないため、学習支援センターまで取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	2回目以降、講義の始まりに、小テストの解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する。

	・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 ・ 「生物学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論 Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学 Ⅰ」の履修を避けること。 ・ 「身近な生物学 Ⅰ」と「身近な生物学 Ⅱ」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な地学 (FB222200)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives I
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	人類はどのようにして「科学」を手に入れたのか、天動説から地動説への道筋を例にして、先人の苦難の足跡をたどりながら学習する。
2回	地球がどのようにして誕生し、大地、大気、水がどのようにして生まれ、そして地球表層の環境がどのように変遷してきたかを概説する。
3回	地球の重力について学習する。地球のかたちや、地球表層の大陸と海洋、大山脈と海溝の分布のからくり、重力の分布を測定することによって地下の構造が分かることを理解する。
4回	地震波(たて波、よこ波、表面波)の伝播のしかたについて学習し、地球内部の層構造が明らかにされてきた過程を説明する。
5回	地球の磁場の生命への恩恵について学習する。また、大陸移動や海洋底拡大の考え方がどのような証拠に基づいて生まれたのか、その歴史を紹介する。
6回	プレートテクトニクスの視点から、日本列島でなぜ火山と地震が多いのか、そのメカニズムを紹介し、最新の地球科学へといざなう。
7回	大地を構成している岩石がどのようにして作られ、それが、風化、移動、堆積、変形、変成しながら、地球規模で循環している姿を学習する。
8回	前半は、地球の歴史と日本列島がどのようにして形成されたのか、概観する。後半の0.5コマ分で「到達度確認テスト」を実施する。

回数	準備学習
1回	自分なりに不思議に思ういろいろな自然現象について考えておくこと。(標準学習時間:60分)
2回	先週の科学の歴史を復習しながら、科学的なものの考え方とは何かについてよく納得しておくこと。(標準学習時間:60分)
3回	重力は日常生活において極めて重要な概念であるから、書物やネットを通してよく理解しておくこと。(標準学習時間:60分)
4回	波にはいろいろなものがあるが、どのような波があり、その伝わり方について予習しておくこと。(標準学習時間:60分)
5回	電磁石は身の回りでいろいろと利用されているが、どのようなものに利用され、また、磁石はどうしてできるのか、予習しておくこと。(標準学習時間:60分)
6回	書物やネットの図を見ながら、地球上の火山と地震の震源分布をじっくり見比べておくこと。(標準学習時間:60分)
7回	身近にある岩石、砂、土がどのようにして作られ、どうしてここにあるのか、考えてみること。(標準学習時間:60分)
8回	「到達度確認テスト」を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。(標準学習時間:180分)

講義目的	科学は、身近な自然現象の中で不思議さを感じ、それを分かろうとする人びとによって生み出された。科学が発達した現代でも、身近な自然の中に数知れない不思議さが秘められており、それが科学を進展させるもとになっている。科学への関心は、生のすばらしい自然(現象)との出会いと感動にはじまるといえる。本講義では、大気、大地とそれらをつなぐ水文に関する身近な現象の中から面白い題材を系統的に分かりやすく導入して、サイエンスへの興味と関心が深まる方向の手引きを与える。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(地球の歴史、重力、地磁気、プレートテクトニクス、地震、火山、岩石、鉱物)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を図を用いるなどして具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識や考え方をもとに、現在進行中の環境問題(地球温暖化、環境汚染)について考えることができる。(B)
キーワード	地球、地球内部、火山、地震、重力、地磁気、プレートテクトニクス、岩石、科学史
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎回講義の小レポート50%(到達目標1~3を確認)と到達度確認テスト50%(到達目標1・2)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	身近な生物学を受講していることが望ましい。
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp

授業の運営方針	準備学習を必ず行い、授業に臨んでください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回講義の小レポートについては次の授業で代表的な意見を紹介してフィードバックを行う。到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。：基礎理学科，生物地球学科。 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。

科目名	身近な地学 (FB222210)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives I
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	人類はどのようにして「科学」を手に入れたのか、天動説から地動説への道筋を例にして、先人の苦難の足跡をたどりながら学習する。
2回	地球がどのようにして誕生し、大地、大気、水がどのようにして生まれ、そして地球表層の環境がどのように変遷してきたかを概説する。
3回	地球の重力について学習する。地球のかたちや、地球表層の大陸と海洋、大山脈と海溝の分布のからくり、重力の分布を測定することによって地下の構造が分かることを理解する。
4回	地震波(たて波、よこ波、表面波)の伝播のしかたについて学習し、地球内部の層構造が明らかにされてきた過程を説明する。
5回	地球の磁場の生命への恩恵について学習する。また、大陸移動や海洋底拡大の考え方がどのような証拠に基づいて生まれたのか、その歴史を紹介する。
6回	プレートテクトニクスの視点から、日本列島でなぜ火山と地震が多いのか、そのメカニズムを紹介し、最新の地球科学へといざなう。
7回	大地を構成している岩石がどのようにして作られ、それが、風化、移動、堆積、変形、変成しながら、地球規模で循環している姿を学習する。
8回	前半は、地球の歴史と日本列島がどのようにして形成されたのか、概観する。後半の0.5コマ分で「到達度確認テスト」を実施する。

回数	準備学習
1回	自分なりに不思議に思ういろいろな自然現象について考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	先週の科学の歴史を復習しながら、科学的なものの考え方とは何かについてよく納得しておくこと。(標準学習時間: 60分)
3回	重力は日常生活において極めて重要な概念であるから、書物やネットを通してよく理解しておくこと。(標準学習時間: 60分)
4回	波にはいろいろなものがあるが、どのような波があり、その伝わり方について予習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
5回	電磁石は身の回りでいろいろと利用されているが、どのようなものに利用され、また、磁石はどうしてできるのか、予習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
6回	書物やネットの図を見ながら、地球上の火山と地震の震源分布をじっくり見比べておくこと。(標準学習時間: 60分)
7回	身近にある岩石、砂、土がどのようにして作られ、どうしてここにあるのか、考えてみること。(標準学習時間: 60分)
8回	「到達度確認テスト」を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。(標準学習時間: 180分)

講義目的	科学は、身近な自然現象の中で不思議さを感じ、それを分かろうとする人びとによって生み出された。科学が発達した現代でも、身近な自然の中に数知れない不思議さが秘められており、それが科学を進展させるもとになっている。科学への関心は、生のすばらしい自然(現象)との出会いと感動にはじまるといえる。本講義では、大気、大地とそれらをつなぐ水文に関する身近な現象の中から面白い題材を系統的に分かりやすく導入して、サイエンスへの興味と関心が深まる方向の手引きを与える。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(地球の歴史、重力、地磁気、プレートテクトニクス、地震、火山、岩石、鉱物)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を図を用いるなどして具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識や考え方をもとに、現在進行中の環境問題(地球温暖化、環境汚染)について考えることができる。(B)
キーワード	地球、地球内部、火山、地震、重力、地磁気、プレートテクトニクス、岩石、科学史
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎回講義の小レポート50%(到達目標1~3を確認)と到達度確認テスト50%(到達目標1・2)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	身近な生物学を受講していることが望ましい。
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp

授業の運営方針	準備学習を必ず行い、授業に臨んでください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回講義の小レポートについては次の授業で代表的な意見を紹介してフィードバックを行う。到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。：基礎理学科，生物地球学科。 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。

科目名	科学技術倫理 A (FB222400)
英文科目名	Science and Engineering Ethics A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理とはどのようなものであるのかを説明する。
2 回	技術者と倫理—技術者の専門性と倫理との関係について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
3 回	組織の中の個人の役割 (1)—安全確保に取り組む組織と個人の関係を説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
4 回	組織の中の個人の役割 (2)—1986年にアメリカで起きたチャレンジャー事故について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
5 回	技術者のアイデンティティ—1999年に起きた東海村JCO臨界事故について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
6 回	技術者の資格—社会が技術者に与える資格や現行の制度について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
7 回	倫理実行の方法—倫理的な行動を実現するための効果的な学習方法について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「倫理」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	技術者と倫理の関係について、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	技術者にとっての組織と個人の関係について、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	チャレンジャー事故とはどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	東海村JCO臨界事故とはどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	社会が技術者に与える資格にはどのようなものがあるのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	技術者が倫理的に振る舞ううえで何が最も大事であるのかについて、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	人類の生活を豊かにし、便利にしてきた一方で、様々な問題を引き起こしている科学技術というものを、幅広い視点から理解する。そのうえで、技術者として異分野とも協働しながら倫理的に振る舞うための主体性や協調性を身に付ける。本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標とする。 技術者に関わる倫理的な問題について説明することができる。(A) 身につけた知識を、現実に行き起きているものだけでなく、今後も予想される科学技術上の倫理的な問題にも応用することができる。(B)
キーワード	倫理、法、組織、個人
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業時間内の試験：グループワークへの取り組み 評価割合60%、最終評価試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」と関連しています。科学技術倫理をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」を受講して下さい。
参考書	杉本泰治・高城重厚『技術者の倫理入門』(丸善出版) 北原義典『はじめての技術者倫理』(講談社)
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み

授業の運営方針	・授業の前半は、パワーポイントや映像を使用して講義を行う。 ・授業の後半は、グループワークを行う。 ・授業終了時に、各自の意見をまとめた用紙を提出してもらう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・講義の内容についての自分の意見をまとめた後で、4～6人程度のグループに分かれてディスカッションを行い、各自の意見の相互評価、自己評価を行います。 ・ディスカッションの内容については、グループの意見を集約して、代表者に発表してもらいます。
課題に対するフィードバック	・発表に対するコメントを授業内に行う。 ・提出された用紙のリアクションは、次の回の授業の冒頭で行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験の後で行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学A(科学概論)(FB222600)
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4回	静電気力を使った技術(コピー機など)を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7回	前回到引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供(疑似科学など)、受講生間で意見交換する。
8回	到達度確認テストを実施する。到達度確認テストの答え合わせをし、この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスをを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。(標準学習時間180分)
8回	この授業全体について復習をしておくこと。web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー(教養)を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術への関心およびリテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、科学技術に関する様々なトピックスを総合的に取り上げる。具体的には、演示実験を交えて原子論、物質循環、DNAといった科学の基本概念の普遍性を概説するとともに、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方についても論じる。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。(教養教育科目の到達目標Aに最も強く関与)
達成目標	1. 授業で扱った科学の重要概念(原子論、物質循環、DNA)について説明できる。(A) 2. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見をもち、それを他者に説明できる。(B) 3. 講義に積極的に参加し、講義の中で関心をもった内容を具体的に説明したり、疑問に思ったことを質問できる。(C)
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート60%（毎回の授業後に提出するレポートおよびweb上の課題、到達目標1～3を確認）、授業中の発言5%（到達目標3を確認）、および到達度確認テスト35%（到達目標1・2を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	他の科学技術教育科目
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・本クラスは教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、質問 この講義では演示実験の結果について実験前に予想を聞き、その予想の理由を討論し、演示実験で正解を確かめるという形でアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	web上で出題した課題は自動採点され結果がフィードバックされる。毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学 A (科学概論) (FB222610)
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2 回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3 回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4 回	静電気力を使った技術 (コピー機など) を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5 回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNA の生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6 回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7 回	前回到引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供 (疑似科学など)、受講生間で意見交換する。
8 回	到達度確認テストを実施する。到達度確認テストの答え合わせをし、この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスを行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、web上で出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。(標準学習時間180分)
8 回	この授業全体について復習をしておくこと。web上で出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー (教養) を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術への関心およびリテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、科学技術に関する様々なトピックスを総合的に取り上げる。具体的には、演示実験を交えて原子論、物質循環、DNAといった科学の基本概念の普遍性を概説するとともに、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方についても論じる。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 (教養教育科目の到達目標Aに最も強く関与)
達成目標	1. 授業で扱った科学の重要概念 (原子論、物質循環、DNA) について説明できる。(A) 2. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見をもち、それを他者に説明できる。(B) 3. 講義に積極的に参加し、講義の中で関心をもった内容を具体的に説明したり、疑問に思ったことを質問できる。(C)
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート60%（毎回の授業後に提出するレポートおよびweb上の課題、到達目標1～3を確認）、授業中の発言5%（到達目標3を確認）、および到達度確認テスト35%（到達目標1・2を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	他の科学技術教育科目
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・本クラスは教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、質問 この講義では演示実験の結果について実験前に予想を聞き、その予想の理由を討論し、演示実験で正解を確かめるという形でアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	web上で出題した課題は自動採点され結果がフィードバックされる。毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学 B (実験で理解する電磁波の世界) (FB222710)
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 森田明義* (もりたあきよし*), 武田芳紀* (たけだよしのり*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス： 授業の進め方について説明する。 電波を発生させてみよう： 電波の発生と受信について、実験を交えて説明する。 (高原 周一, 森田 明義*)
2 回	電波とアンテナ： アンテナの原理を、実験や電波のモデルを使って説明する。 (高原 周一, 森田 明義*)
3 回	電磁波と光・偏光： 偏光の発生原理と性質について、偏光板を使った実験を交えて説明する。 (高原 周一, 森田 明義*)
4 回	偏光をキャッチしよう： 自然界や身近にある偏光について、偏光の発見の歴史や実験と実例を交えて説明するとともに、電磁波の世界についてのイメージを作る。 (高原 周一, 森田 明義*)
5 回	電子レンジと電磁波 (1)： 様々な物質が電子レンジで加熱されるかどうかを実験で調べ、電磁波と物質との相互作用について説明する。 (高原 周一, 武田 芳紀*)
6 回	電子レンジと電磁波 (2)： 金属を電子レンジに入れた場合に何が起こるか実験で調べ、電磁波と自由電子との相互作用について説明する。 (高原 周一, 武田 芳紀*)
7 回	電子レンジと電磁波 (3)： 光とマイクロ波の共通点・相違点、マイクロ波と磁性体の相互作用を実験で確かめ、電磁波についての理解を深める。 (高原 周一, 武田 芳紀*)
8 回	本講義のまとめを行う。到達度確認テストを実施する。 (高原 周一, 武田 芳紀*)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2 回	前回配布された資料を読んで、電波の発生と受信について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	前回配布された資料を読んで、アンテナの原理について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	前回配布された資料を読んで、偏光の発生原理と性質について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	前回配布された資料を読んで、自然界や身近にある偏光および電磁波全般について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	前回配布された資料を読んで、電磁波と物質との相互作用について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	前回配布された資料を読んで、電磁波と自由電子との相互作用について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	前回までに配布された資料を読んで、この授業全体の復習しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。 「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。
------	---

	「現代人の科学B」では、主に物理・化学分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは現代の科学技術になくてはならない電磁波を題材に取り上げ、予測→討論→実験による検証という流れで双方向的に授業を進行させることにより、電磁波の基本を楽しく修得する。電磁波は、天文学、化学、物理学、生物学など自然科学の多くの分野に深く関係し、その知識・技術は人間の生活の多方面で応用されている。このような電磁波の世界の分野横断的な広がりを実感してもらう。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 (教養教育科目の到達目標Aに最も強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(電磁波、アンテナ、偏光、電子レンジ)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 日常的な経験や修得した内容をもとに実験結果を予想し、その理由を説明することができる。 (B)
キーワード	電磁波、電子レンジ、アンテナ、偏光
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業の最後に提出してもらうレポート60%(到達目標1~3を確認)、授業中の発言5%(到達目標3を確認)、および到達度確認テスト35%(到達目標1・2を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし。必要に応じてプリントを配布する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門, 科学ボランティア実践指導, , 科学ボランティア活動
参考書	なし。
連絡先	科学ボランティアセンター(B4号館1階)もしくは 高原周一(教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail: takahara[at]ped.ous.ac.jp)
授業の運営方針	・用意している装置の数および実験指導の都合により40名以上の場合は受講制限する可能性がある。その際には、ガイダンス参加者から受講生を選抜するので、必ずガイダンスに出席すること。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、実験・実習、質問 この講義では実験結果についての予想を聞き、その予想の理由を討論し、実験によって正解を確かめるという形でアクティブラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらうレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	現代人の科学C(再生医療等の最先端医療科学)(FB222800)
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	岩井良輔(いわいりょうすけ), 根本泰*(ねもとやすし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	全8回の講義の進め方を説明する。第1回の講義では、人間の生命を維持するために体内で起きている現象を、分野の異なる複数の視点(生物学、医学、生化学など)から理解する。生命現象と必須アミノ酸、食物連鎖、炭素中立の関連性を理解する。 (全教員)
2回	代表的な医療材料を紹介し、それらに求められる機能を、我々の身の回りにある科学現象と結び付けて具体的に理解する。また、医療材料に関連する法令に関しても理解する。 (根本 泰*)
3回	人工臓器(人工腎臓、人工血管、人工肺、人工心臓など)を紹介し、生体の臓器との違いを理解する。また、人工臓器の開発の歴史と将来の展望について紹介する。 (根本 泰*)
4回	人工多能性幹細胞(iPS)の作製とその再生医療への応用に向けた取り組みについて理解する。 (岩井 良輔)
5回	細胞を集め並べて3次元の組織、器官さらには臓器を作製する最先端の医療科学について理解する。実際に培養により作製された3次元の組織体を観察し最先端の医療科学を体験する。 (岩井 良輔)
6回	ゲノム編集と遺伝子治療を、植物の品種改良や遺伝子組換え食品の作成原理と比べながら理解する。 (根本 泰*)
7回	痛みが少なく、身体を大きく切開せずに重篤な疾病を治療できる低侵襲療法を紹介し、従来の治療法との違い、利点、欠点を理解する。また、副作用が少ない医薬品(分子標的薬)を紹介し、その原理を理解する。 (根本 泰*)
8回	第1回～第7回までに学んだ内容について、到達度確認テストを実施する(テスト時間:40分)。終了後に、テスト問題を解説する(フィードバック)ことで第1回～第7回までに学んだ内容を整理し理解度を高める。 (全教員)

回数	準備学習
1回	課題1: シラバスを読んでおくこと。課題2: 過去3日間の自分の食事(一日分すべて)につき、食べた物とその量(大体で良い)をメモしておくこと。(合計標準学習時間60分)
2回	課題1: レトルト食品と真空パック食品の賞味期限に大きな差がある理由を考えること。課題2: ジェネリック医薬品とは何か調べておくこと。(合計標準学習時間120分)
3回	課題: 人工透析とは何か調べておくこと。(合計標準学習時間60分)
4回	課題: インターネットや書籍を用いて、iPS細胞について調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	課題: 興味のある器官や臓器の一つ選んで、その器官や臓器の再生医療について雑誌、新聞やインターネット等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	課題1: 遺伝子組換え食品に対する心象を5名の人間に聞いておくこと。課題2: ウイルスと細菌の違いを調べておくこと。(合計標準学習時間120分)
7回	課題: 第3回の講義資料のうち『人工血管』の部分を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	第1回～第7回の講義内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー(教養)を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を
------	--

	理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学C」では、主に生物・地学分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に、ヒトの体の仕組みを生物と生化学の視点から科学的に理解し、再生医療や人工臓器などの最先端の医療について知る。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。（教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（体の構造と機能、人工臓器、細胞、再生医療、遺伝子治療）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 科学を学ぶ意義、科学と社会との関係について自分の意見を持ち、それを記述できる。（B）
キーワード	iPS細胞、人工臓器、再生医療、遺伝子治療
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート60%（到達目標1～3を確認）、および到達度確認テスト40%（到達目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。プリントを配布する。
関連科目	身近な生物学I 身近な化学I
参考書	適宜指示する。
連絡先	フロンティア理工学研究所 岩井研究室 C7号館3階 iwai@rit.ous.ac.jp オフィスアワー（月～金、9：00～17：00）
授業の運営方針	・ 授業は基本的にパワーポイントスライドを投影して行い、重要なポイントは適時黒板に板書する。 ・ 授業資料、小テスト用紙および予習課題用紙は授業の最初に配布する。 ・ 小テスト用紙と予習課題用紙には学籍番号と氏名を忘れずに記入すること（評価不可となります）。 ・ 小テスト用紙は授業の終わりに提出すること。 ・ 予習課題用紙は配布された回の直後回の最初に提出すること。（例：4回目に配付された場合、5回目の授業の最初に提出） ・ 欠席した場合、授業資料、小テスト用紙および予習課題用紙は、上記オフィスアワー時間内に岩井研究室まで取りにくること。 ・ 欠席した場合、予習課題は上記オフィスアワー時間内に岩井研究室まで提出しにくること。 ・ 到達度確認テストは指定された座席に着席すること。 ・ 到達度確認テスト中に、私語やカンニングなどの不正とみなされる行為を行った場合は、単位取得不可とする。
アクティブ・ラーニング	随時実施する。与えられた課題を少人数グループごとに議論し、グループごとに結論を出し、担当教員の考えと比較する作業を行うことで、実践的な知識となることを目指す。
課題に対するフィードバック	毎回の課題に対するフィードバックは、課題を出した次の授業の最初に解説するとともに、課題のレポート用紙に教員のコメントを記入する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	担当教員の根本非常勤講師は、株式会社ブリヂストンの社員で、社会人経験は32年である。研究所で医療材料（人工血管、遺伝子導入剤、透析膜）を研究している他に、特許業務、製造工場の設備設計、契約法務、労働安全法など多様な実務を経験している。この実務経験を活かし、書籍には記述がなく現場の人間だけが知りえる事実の紹介を盛り込むことで講義内容の理解を深める。
その他（注意・備考）	受講希望者が50名を超えるときは受講制限を行うことがあるので、初回の講義日には必ず出席すること。

科目名	現代人の科学 E (原子力発電を考える) (FB223000)
英文科目名	Science Literacy E
担当教員名	兵藤博信 (ひょうどうひろのぶ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方を説明する。原子力とは何かを解説する
2 回	原子力の発見と利用の歴史を解説する
3 回	原子力と放射能を解説する
4 回	原子炉の構造を解説する
5 回	原子炉の運転と事故を解説する
6 回	原子炉と放射性廃棄物処理を解説する
7 回	地球温暖化とエネルギー問題を解説する
8 回	確認テスト (50分) を行い、解答について説明する。エネルギー利用と社会のあり方を解説する

回数	準備学習
1 回	核分裂、ウラン、質量エネルギーについて調べておくこと (標準学習時間60分)
2 回	核分裂、ウラン、質量エネルギーについて復習し、オットー・ハーン、リーゼ・マイトナーとその業績について調べておくこと (標準学習時間60分)
3 回	原子力の発見と利用の歴史について復習し、放射性壊変、自発核分裂、連鎖反応について調べておくこと (標準学習時間60分)
4 回	放射能の性質、影響について復習し、軽水炉、重水炉について調べておくこと (標準学習時間60分)
5 回	タイプの異なる原子炉の構造について復習し、スリーマイル島事故、チェルノブイリ事故、東日本大震災事故について調べておくこと (標準学習時間60分)
6 回	原子炉三大事故について復習し、放射性廃棄物の処理方法、処理施設、核燃料サイクルについて調べておくこと (標準学習時間60分)
7 回	放射性廃棄物の処理について復習し、地球温暖化と氷河期について調べておくこと (標準学習時間60分)
8 回	以前の7回の講義内容について復習しておく。ソーラーパネル、風力発電などの発電効率について調べておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー (教養) を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー (科学の方法論も含む) の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学E」では、主に環境・安全に関する幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは原子力発電と関連技術の知識を扱う。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項 (原子力発電、事故、核燃料サイクル、再生可能エネルギー) を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で考察したテーマ (原子力発電) について自分の意見をもち、それを記述できる。(B)
キーワード	核分裂、質量エネルギー、原子炉事故、安全性、放射性廃棄物処理、核燃料サイクル、地球温暖化、再生可能エネルギー
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	レポート70% (到達目標1~3を確認)、および到達度確認テスト30% (到達目標1・3を確認) によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	なし
参考書	なし
連絡先	アイソトープ実験施設2階 兵藤研究室 086-256-9724 e-mail: hhyodo at rins.ous.ac.jp (atは@マーク) オフィスアワー 昼休み (12:25 - 13:10), 月水5限目 (16:45 - 1815)
授業の運営方針	講義内容の理解を深めるため講義の終わりに簡単なレポート (10分程度) を実施する。図を用いることが多いのでスライドやビデオを併用して講義を行う。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポートの解答について次の講義の初めに簡単な解説を行う。到達度確認テストについては、直後に15分程度の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講義内容は進捗状況により、変化する場合がある。講義内容は紹介するウェブサイトで適宜確認しておくこと

科目名	現代人の科学 F (科学・技術と社会との矛盾と解決) (FB223100)
英文科目名	Science Literacy F
担当教員名	財部健一 (たからべけんいち)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス、グループ分け。配布資料を参考にインパクトの大きな課題選択と 2 回目以降の進め方のガイダンス内容を理解する。
2 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定 (アクティブラーニング 1) を教員提示資料により自主的に行う。
3 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定 (アクティブラーニング 2) を教員提示資料により自主的に引き続き行う。
4 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価 (アクティブラーニング 3) を教員提示資料により自主的に引き続き行う。
5 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価 (アクティブラーニング 4) を教員提示資料により自主的に引き続き行う。
6 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価 (アクティブラーニング 5) を教員提示資料により自主的に引き続き行う。
7 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価とまとめ (アクティブラーニング 6) を教員提示資料により自主的に引き続き行う。
8 回	アクティブラーニング 6 のまとめの報告を教員提示枠組みにそってグループごとで行い、発表する。

回数	準備学習
1 回	講義目的、達成目標を学習し単位目当ての安易な履修は避けること。(標準学習時間 30 分)
2 回	インパクトの大きな課題について、各自の意見を用意しておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	アクティブラーニング 1 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	アクティブラーニング 2 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	アクティブラーニング 3 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	アクティブラーニング 4 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	アクティブラーニング 5 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	アクティブラーニング 6 のまとめの報告準備をしておくこと。(標準学習時間 90 分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー (知識のみならず科学的なものの見方も含む) を身に付けておくことが望ましい。 「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。 「現代人の科学 F」では、主に科学論 (科学の方法論・科学と社会の関係など) に関する幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に、”ハインツの薬問題 (その薬はガンに効くか？その薬は高価で手に入らない。目の前でガンで死にゆく人を助けるためであればそれに効く良薬を盗んでもよいか？)” を手掛かりに、個々人が直面する問題を社会的に解決する方策を見出していく。 なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 (教養教育科目の達成目標 A に最も強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項 (○○、○○、・・・) を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で考察したテーマ (○○) について自分の意見をもち、それを説明できる。(B) 未来社会を創る大学生に求められる新しい価値の創出力に必要なアカデミックスキルであるアクティブラーニング (自ら調べ、チームで考え、新しい価値観である新しい結論を導く) を体験し、問題発掘、対処、解決、浸透法などの習慣を身に付ける事を目指す。習慣には、人の話を聞く (多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を学ぶ等々)、自分の意見を相手に分かりやすく述べる (順序立てて考え述べる)、議論に積極的に参加する、仲間と強調して一つの課題に取り組む、グループで決めた学習ルールを守る等の態度、方法の習得が含まれる。
キーワード	インパクトの大きな科学、技術課題、説明責任、新しい価値の創出、新しい価値の浸透、アクティブラーニング
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	レポート ○% (到達目標 1~3 を確認)、および発表 ○% (到達目標 1~3 を確認) によって評価する。 総計で 60% 以上を合格とする。

	最終評価試験は行いません。第8回の報告が60%、各回のアクティブラーニングでの積極性40%とする。積極性は、出席、他者意見へのコメント、意見表明（発言）で評価する。
教科書	なし
関連科目	特に指定しない。
参考書	宇沢弘文/社会的共通資本/岩波新書/2000：アレックス・ペンランド/小林啓倫訳/ソーシャル物理学/草思社/2015
連絡先	D2号館3F 財部研究室 電子メール takarabe@das.ous.ac.jp
授業の運営方針	・試験形態はレポート提出とする。 ・提出課題については、講義中の板書で解説を行う。 ・講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、事前に申し出ること。更に取得したデジタルデータについては、個人で利用する場合に限る。他者への再配布（ネットへのアップロードやSNS掲載を含む）は厳に禁止する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・4人～6人のグループに分ける。 ・ほぼ毎回、テーマ（例えば、「ハインツの薬」問題）について、各自の感想表明、グループ内他者の感想との違いあるいは共通性の理解を行う。 ・感想表明あるいは意見表明は全員がグループリーダーの差配の基で行う。 ・講義最終段階で解決策についての提案書を作成し、発表する。
課題に対するフィードバック	・課題に対する解説は講義中に口頭説明により行う。 ・受講生から出された意見にはその都度コメントし、フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供します。配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。 ・配布資料の多い講義科目です。録画データなどの他者への再配布（SNSなどネットへのアップロードを含む）や転用は禁止します。 ・正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討します。事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講義資料は講義開始時に配布する。ワークショップ形式で行うため、50名以上の場合は受講制限する可能性がある。

科目名	現代人の科学 F (怪しげな科学情報について考える) (FB223110)
英文科目名	Science Literacy F
担当教員名	滝澤昇 (たきざわのぼる), 猪口雅彦 (いのぐちまさひこ), 高原周一 (たかはらしゅういち)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 本授業を受けるに当たっての手続きや、授業の概要と進め方について説明します。初回は大切ですので、必ず出席してください。 (全教員)
2 回	外部講師による特別授業 (予定) 著名な外部講師を招聘して、特別授業を行います。テーマは何か、お楽しみに。 (全教員)
3 回	グループ作りとアイスブレイク グループ分けの後、アイスブレイクを行います。またクリッカーの使い方を説明します。 テーマ 1: 「水は答えを知っている？」 (情報提供と問題提起) ; 「ありがとう」という言葉を見せた水からは綺麗な結晶ができ、「ばかやろう」という言葉を見せた水からは綺麗な結晶ができないという主張があります。この主張の概要を紹介し、批判的に検討します。 (全教員)
4 回	テーマ 1: 「水は答えを知っている？」 (討論とまとめの報告) テーマ 1 について、グループに分かれて受講者相互に意見を交換し、代表者が討論のまとめを報告します。ここでは受講者からの積極的な発言が求められます。 (以後のテーマについても、同様に授業を進めます) テーマ 2: バイキン君はやつてけてよいのか (情報提供と問題提起) バイ菌は漢字では黴菌と書きます。黴はカビ、菌は細菌を意味し微生物全般をしめします。清潔志向から、いま巷には数多くの抗菌剤や抗菌製品が出回っていますが、これらの微生物をやっつけばよいのでしょうか。環境における微生物の役割に基づいて考えましょう。 (全教員)
5 回	テーマ 2: バイキン君はやつてけてよいのか (討論とまとめの報告) テーマ 3: 遺伝子組換え作物は安全それとも危険か? (情報提供と問題提起) スーパーで見かける食品の原材料欄に「遺伝子組換えでない」と表記されているものを見かけます。遺伝子組換え作物は危険? それとも安全? 科学的に考察しましょう。 (全教員)
6 回	テーマ 3: 遺伝子組換え作物は安全それとも危険か? (討論とまとめの報告) 自由課題 (1): テーマ決定 一見科学的だが怪しげな情報の真偽についてグループで討論します。(1) では、テーマを決めます。各自が少なくとも 1 項目提案できるように準備しておいてください。 (全教員)
7 回	自由課題 (2): 討論と発表の準備 各グループでそれぞれのテーマについて科学的見地から調査した情報を持ち寄り、グループで討論します。また発表の方法しや提示資料の作成などについて打ち合わせる。最後にグループの代表者が、グループで出た意見の要約や結論など、活動をまとめて 3 分程度で発表します。 (全教員)
8 回	自由課題 (3): 発表会 パワーポイントを使用して発表します。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	このシラバスを読んで、授業の進め方と授業概要を承知しておくこと。（標準学習時間：20分）
2 回	似非科学とは何か、調べておくこと。また外部講師はどのような方が、調べておくこと。（標準学習時間：60分）
3 回	テーマ1について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：90分）
4 回	テーマ1について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
5 回	テーマ2について書籍やインターネットを通じてさらに情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
6 回	テーマ3について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。 自由課題のテーマ探し これまでの授業を参考に、一見科学的だが本当だろうか？と思う情報を見つけておくこと。各自が少なくとも1項目提案できるように準備しておいてください。（標準学習時間：60分）
7 回	それぞれのテーマについて前回の打ち合わせに応じて調査してくる。 （標準学習時間：90分）
8 回	発表の準備・資料作成 要旨をA4用紙1ページ程度で作成し、前週土曜日までに淹澤に提出する。 発表会后、最終レポートとして、この授業での学びを振り返ってラーニングポートフォリオを書く。 提出方法・期日は、授業中にお知らせします。 （標準学習時間：90分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心を持ち、ある程度のリテラシー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学F」では、主に科学論（科学の方法論・科学と社会の関係など）に関する幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは世の中に広まっている一見科学的で正しいと思われるけれど、よく考えてみると本当かな？と感じられる情報を取り上げ、その情報の真偽について考えます。社会において、科学を学んだ人は科学に関する情報について少し立ち止まり、その情報が本当に正しいのか、常に冷静に判断し、周囲の人たちに情報を提供する必要があります。批判的に物事を見、判断するという態度を身につけて下さい。さあ、討論を楽しみましょう。 （教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与）
達成目標	この授業での達成目標は、次の通りです。 1. 本授業で扱った主要な事項を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で考察したテーマ（科学的かつ批判的思考力）について自分の意見をもち、それを説明できる。（B） 3-1 普段の生活において耳にする一見科学的で正しいと思われるような情報について調査し、科学的根拠に基づいてその信憑性について考察し、判断することができる。 3-2 1つのテーマについてチームとして調査し、考え、討論し、発表することができる。
キーワード	批判的思考力、似非科学、自分の考えをまとめて他人に伝える力（コミュニケーション力、プレゼンテーション力）
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート50%（毎回の授業時間の終わりに提出するリフレクションシート20%、ラーニングポートフォリオ30%、達成目標1～3を確認）、および発表50%（自由課題の発表、達成目標1～3を確認）によって評価する
教科書	ニセ科学を見抜くセンス / 左巻健男 / 新日本出版社
関連科目	現代人の科学の他のクラス、パソコン入門などの情報リテラシー科目
参考書	・気になる科学 / 元村有希子 / 毎日新聞社 / 1500円（税別） ・季刊「理科の探究（RikaTan）」2014年春号、2018年4月号 / 文理 / 1400円（雑誌） ・もうダメされないための「科学」講義 / 菊池 他出版社 / 光文社 / 4334036449 その他、各テーマに関する参考書や資料、その他の情報は、図書館やインターネット上において各

	自分で検索すること。科学ボランティアセンターにも多くの参考となる図書を置いています。
連絡先	滝澤 昇：B6号館 5 階、takizawan[アトマーク]dac.ous.ac.jp 猪口雅彦：A1号館 7 階、ino[アトマーク]dbc.ous.ac.jp 高原周一：A1号館 3 階、takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp
授業の運営方針	この授業は 8 回 1 単位です。具体的な講義日程は、オリエンテーション時にお知らせします。 授業の進め方 一つのテーマについて、次のように進行します。 第 1 日：教員からの情報提供と問題提起。意見分布調査後、グループに分かれての討論 第 2 日：グループでの討論の後、要約の発表、教員からのコメント 以上を繰り返します。 グループでの討論に際しては、情報収集のためノートPCやタブレットPC、スマートフォン等を持参し、活用してください。 取り上げるテーマは、変更されることがあります。 第 8 週では、グループごとで日常生活において耳にする科学に関する情報を取り上げ、その信憑性について調査討論し、得られた結論や討論の要約を発表していただきます。 ； その他変更する場合がありますので、詳細は初回の講義時に配付する授業計画を参照してください。 受講生が50名以上の場合は受講制限することがあります。
アクティブ・ラーニング	グループに分かれて、ディスカッションとプレゼンテーションを行う。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションについては出席者全員で相互評価しコメントする。 レポートについては、適宜コメントする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	科学技術と人間 A (FB223200)
英文科目名	Science-Technology and Human Beings A
担当教員名	若村国夫* (わかむらくにお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	はじめに： 自己紹介、 テキストの使用、 写真や図を中心とするプロジェクター利用の講義、 関心を持って講義を聴く重要性を述べる。続いて、「日本とヨーロッパでこんなに違う風土と生活」として身近な例を紹介し、風土の役割と、日欧の違いがなぜ生じたのかを考えるきっかけを提供する。
2 回	「江戸時代までの技術と生活」江戸時代は日本の伝統技術の礎になっている。現代技術とどのように違うのかを紹介し、それらが作られた歴史と社会背景、特に大量生産を求めなかった江戸時代の封建制と鎖国政策との関係、それらが生活や技術・技能にどのように影響したのかを併せて紹介する
3 回	「幕末から始まった日本の技術の近代化」開国が産業革命最終期に行われた重要性、徳川幕府が大金をはたいて雇った外国人技術者による技術教育、その成果とその後の発展、明治以降の産業技術の果たした役割、特に社会と戦争への影響、戦後の民衆的技術の発展による社会の近代化などを具体的に紹介する
4 回	「中国の技術、考え方とその歴史」 中世まで中国の技術は世界の先頭を走っていた。これがヨーロッパへ伝わり、大航海時代を生み、産業革命や科学の萌芽が生じ、西洋の近代化へとつながる。どのような技術が伝わったのか。技術発祥の基になった中国の伝統的世界観と歴史、中国の技術発展の低さの理由等を紹介する。
5 回	「風土から見るヨーロッパ古代から中世の技術と社会」ヨーロッパは地理的に地中海周辺と北西ヨーロッパとに分けられる。地中海を代表するギリシャ、ローマの技術の特徴、船の技術の進歩が呼んだ地中海貿易や十字軍遠征でイタリアは豊かになり、ルネッサンスを生んだ。これら中世までの西洋の歴史を技術の視点から紹介する
6 回	「科学技術の発祥と発展」15, 16 世紀の大航海時代をきっかけに北西ヨーロッパで花開いた科学。その原因を発明、発見の例から推測する。修道院を通じて広まった水車技術の機工的思考方の発展や19 世紀の技術から科学への経路を具体例で紹介する。ワットやフルトンが蒸気機関や蒸気船の発明者でないことや、ファラデーの電磁誘導の法則から発電機が生まれた訳でない事等、茶飲み話的ではあっても意味深い隠れた技術史も紹介する。ヨーロッパの人々の考える姿勢がヨーロッパの豊かさを導いたことも示す。
7 回	「キリスト教の科学技術への貢献と科学が与えた自由平等の意識」キリスト教は西アジアで生まれたがその教えにはギリシャ人の考えが多く見られる。キリスト教の広まりと共に北西ヨーロッパの人々に自然現象のギリシャ的理解が浸透した。生物学では19 世紀においても尚2000 年前のギリシャ人の予言が信じられていた。キリスト教の歴史から自然科学、技術、芸術、自由平等社会構築へのキリスト教の貢献を紹介する。
8 回	講義及び最終評価試験 講義は「アメリカの技術の特徴」 アメリカは17 世紀から本格化した移民の国である。当初、技術は無かったが、移住してきた各国からの人々の助け合い、自由平等の意識、技術への関心とレベルアップを目指す姿勢が19 世紀末ついに生産量や新技術で世界のトップに躍り出た。これらの内容と発展の歴史を辿り、技術の発展に何が重要かを理解する。

回数	準備学習
1 回	特に無し
2 回	身の周りの自然や風俗に関心を持つこと
3 回	知識度にもよるが30分ほど第2回講義内容を復習すること。
4 回	知識度にもよるが30分ほど第3回講義内容を復習すること
5 回	知識度にもよるが30分ほど第4回講義内容を復習すること
6 回	知識度にもよるが30分ほど第5回講義内容を復習すること
7 回	知識度にもよるが30分ほど第6回講義内容を復習すること
8 回	試験に対して第7回迄の講義内容を知識度にもよるが一時間以上は復習すること

講義目的	科学技術は物理、化学、生物、地球等の諸分野から自然界を総合的に理解する科学を土台とし、経
------	--

	験技術から発展した。技術が科学のみならず社会や宗教、文化等と深く関係してきた事を学び、社会を科学技術を土台として総合的に見る判断力と思考力を養う。技術や科学、社会の歴史の知識と、科学技術が人間の関係する広い分野と強い関係にある事の知識から、社会への正と負の影響、文化の固有性との密接な関係、多様な技術アイデア創出の原因等を日中欧米の社会や風土等を通して知る。最近の環境問題や技術王国だった中国の技術史、遅れから一気に先頭に躍り出た19世紀末のアメリカの技術政策等を知り、今後の科学と技術の発展を考察する。写真と図を中心とした画像で話を印象深く進める。
達成目標	物理、化学、生物、地球の諸分野に渡る総合的科学と技術の視点とから日本、欧米、中国の歴史を知り、客観的に社会現象を観る眼を養う。地球温暖化軽減の技術の方向や技術社会、人権と技術、技術のグローバル化の未来などを日本の伝統技術思考や産業革命前後の社会の構造変化や西洋の論理などから考察し、技術を幅広く捉えられる知識と思考を養い、21世紀の技術の進むべき方向を自ら考えられる素地を作る。科学や技術の歴史を社会、経済、政治史などと結びつけて見ることで21世紀の技術社会の方向が見えてくる。
キーワード	日欧中各国技術比較、伝統技術、封建制、民主主義、資本主義、産業革命、大英帝国、戦争、人権、技術アイデア、風土、グローバル化、発明
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業ごとの小問試験(成績の12%)と最終評価試験(成績の88%)の得点による。
教科書	科学技術と人間（科学技術の社会史）/若村国夫/書店販売しません
関連科目	特になし
参考書	高校の教科書「日本史」、「世界史」、世界地図の常識的内容
連絡先	非常勤講師控室
授業の運営方針	画像を使用した授業なのでより印象深い写真や図の使用を心掛けている。また、毎回の終わりに重要な箇所の小問で内容を確実にして、次の授業に臨む態勢作りを行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の終わりに行う小問試験の評価と内容の解説を次の講義の最初に行い、前回の講義結果を次に生かす過程を踏んでいく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録画は認める。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・履修希望者が150名程度を越えた場合は受講生数制限をかけることがある。 ・地球温暖化、自然破壊、日本の伝統技術の消滅、近隣諸国との資源争奪競争など、技術立国日本の足元を揺るがす変化が多い中、本講義では科学や技術の視点から歴史や社会を客観的に見る眼を養い、日本はどうあるべきかを考える。このことは科学技術を学ぶ者にとって大いに必要となっている。学科の専門にとらわれず科学者、技術者、理科教員の品格を得る一助として受講を薦める。本講義は筆者の30年に渡る日欧の伝統技術の研究と最も西洋科学的な物理的視点とを融合させ、技術と生活の結び付き、歴史や経済、人権などとの関係を加えた構成としている。身近な生活用具や風俗にも技術につながる要素が含まれていることを知ることが必要だ。 ・科学技術と人間A」と「科学技術と人間B」は順序的に関係しているので、 と の連続受講を勧めます。

科目名	産業課題研究演習（FB223700）
英文科目名	Seminar on project studies of enterprise managements
担当教員名	河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	長期インターンシップに取り組んだ学生が、経験から得た知見を企業と連携して、企業の経営的、技術的課題を考察・研究し、改善や新製品などの開発への提案を行うことを通して、分析力、研究力、報告書作成力、プレゼンテーション力を養う活動を実践する。学生は、長期インターンシップに参加した企業から、企業が抱える問題等の提供、または、インターンの経験から発見した問題点について企業に示す。問題についての原因やその背景について分析を行う。次に、問題を解決するための案、またその案によって得られる効果について検討を行う。その作業において、グループで取り組める場合は、グループワーキングを行い、検討を行う。必要によっては、実地調査などを行う。提案する事項について、企業との打ち合わせを行う。課題解決の提案事項についてプレゼンテーションを企業または関連する教員等に対して行う。講義として30時間以上を要する。実施の中で、3種類のレポートを提出する。企業が抱える問題のその原因について調べた結果のレポートと、問題を解決するための案を3つ以上提案しレポートにまとめ、解決案を1つに決定しそれによって得られる結果をレポートにて提出する。
準備学習	課題解決に向けて、対応する企業において長期のインターンシップに参加する。インターンシップ期間は1か月以上とし、社会・産業実習の単位認定を得ていること。または、90時間以上のインターンシップに参加して、インターンシップCの認定を得ること。これらのインターンシップの参加が講義を受講するための準備学習である。（標準学習時間：90時間から1か月のインターンシップ）講義は集中講義で行うため、必要な準備をすること。（合計標準学習時間：60時間）
講義目的	企業の経営的、技術的課題を考察・研究し、改善や新製品などの開発への提案を行うことを通して、分析力、研究力、報告書作成力、プレゼンテーション力を身に付ける。 4領域の項目では、「思考・判断・表現」に最も強く関与している。
達成目標	1) 企業の経営的または技術的な課題を考察し、文章で表現することができる。 2) 課題解決のための分析を行い、説明できる。 3) 課題解決のための分析をもとに、解決案を説明できる。 4) 解決案を実行することによって生じる結果を推測することができる。 5) 自分の考えを具体的に説明することができる。
キーワード	インターンシップ、COOP型インターン
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	企業が抱える問題のその原因について調べた結果のレポート（達成目標の1）20%と問題を解決するための案を3つ以上提案しレポートにまとめる（達成目標の2と3）20%と解決案を1つに絞り、その結果を詳細にレポートにまとめる（達成目標の4）20%と最終発表（達成目標の5）40%で評価し、60%以上で合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	企業情報特論A、企業情報特論B、インターンシップA、インターンシップB、インターンシップC、インターンシップ概論、社会・産業実習
参考書	適宜指示する。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター 河野敏行 syusyoku@office.ous.ac.jp 086-256-8435 質問などは9:00-17:00でキャリア支援センターにて受け付ける。
授業の運営方針	社会・産業実習またはインターンシップCを履修し、単位修得したものが履修できる。集中講義で実施するため、履修者に対応する企業との打ち合わせで実施日時を設定する。履修実施期を場合によっては移動してもらうことがある。グループで課題に取り組む場合は、グループワーキングを行う。
アクティブ・ラーニング	グループで課題に取り組む場合は、グループワーキングを行う。
課題に対するフィードバック	レポートの提出に対して、その内容について議論を行うことで、フィードバックする。最終発表に対しては、その場でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	社会・産業実習またはインターンシップCを履修し、単位修得したものが履修できる。集中講義で実施するため、履修者に対応する企業との打ち合わせで実施日時を設定する。履修実施期を企業との打ち合わせによっては移動してもらうことがある。受講マナーや指示に従わない場合は、「不可」とする。

科目名	生命の化学概論 (FB224000)
英文科目名	Biological chemistry
担当教員名	金子明裕 (かねこあきひろ) , 川俣昌大 (かわまたまさひろ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義内容の説明と進め方を説明する。醸造・生命に関わる化学について説明する。 (全教員)
2 回	アミノ酸の基本 (歴史、アミノ酸スコア、必須アミノ酸、構造、生合成、呈味、機能性)、ブドウ栽培への関わりについて理解する。 (全教員)
3 回	タンパク質 (分類、酵素、機能性)、タンパク質の酒類への関わり、ミネラルについて説明する。 (全教員)
4 回	糖質 (分類、甘さの違い)、ビタミン (水溶性と脂溶性、酸化防止)、脂質 (分類、働き) について説明する。 (全教員)
5 回	消化と吸収 (栄養素の消化と吸収)、肝臓の働き、酵素 (働き、基質特異性、極限生物が作る酵素、遺伝子) について説明する。 (全教員)
6 回	アミノ酸 (栄養特性、嗜好特性、生理調節機能)、タンパク質の機能性、特定保健用食品、機能性表示食品について説明する。 (全教員)
7 回	核酸と遺伝子について説明する。酒作りに関わる遺伝子について説明する。 (全教員)
8 回	全体の復習と最終評価試験を実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認。シラバスをよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2 回	教科書 (はじめの一步の イラスト生化学・分子生物学) の第1部2章2-B アミノ酸、タンパク質の項をよく読んでおくこと。(標準学習時間45分)
3 回	教科書 (はじめの一步の イラスト生化学・分子生物学) の第1部2章タンパク質、第3部9章 タンパク質の代謝の項をよく読んでおくこと。(標準学習時間50分)
4 回	教科書 (はじめの一步の イラスト生化学・分子生物学) の第1部2章糖質、脂質項をよく読んでおくこと。(標準学習時間50分)
5 回	教科書 (はじめの一步の イラスト生化学・分子生物学) の第2部3章酵素、ホルモン、第3部8章臓器の働きの項をよく読んでおくこと。(標準学習時間60分)
6 回	教科書 (はじめの一步の イラスト生化学・分子生物学) の第1部2章2-B アミノ酸、タンパク質の項、基礎・食品・環境の第2章をよく読んでおくこと。(標準学習時間60分)
7 回	教科書 (はじめの一步の イラスト生化学・分子生物学) の第2部4章～7章遺伝子に関わる箇所をよく読んでおくこと。(標準学習時間60分)
8 回	配付資料をよく読んでおくこと。ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	生命の化学に関与するアミノ酸、タンパク、糖質、脂質の基礎を知る。 アミノ酸・タンパクに関する機能性についても学習し理解する。 学位授与方針項目(A)知識・理解に強く関与している
達成目標	アミノ酸とタンパク質を理解すること。(A),(B) 発酵食品、アミノ酸、タンパク質に関わる機能性食品を理解できること。(A),(B)

キーワード	アミノ酸、タンパク質、発酵、機能性食品
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（80％）及び授業時間の確認テスト（20％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。（達成目標の ～ を確認）
教科書	・はじめの一步の イラスト生化学・分子生物学 / 前の正夫・磯川桂太郎 著 / 羊土社 ISBN 978-4-7581-2072-2 ・バイオテクノロジーの教科書 上 基礎・食品・環境 / ラインハート・レンネバーグ著 / 講談社 ISBN 978-4-06-257854-7 ・配付資料
関連科目	高等学校で「高校生物」「高校化学」を履修していることが望ましい。 （1年次開講科目）ワインの科学、生命の基礎化学、ブドウ栽培学、ワインプロジェクト実習 （2年次開講科目）生命の化学概論、発酵と微生物、ワイン醸造法、ワインプロジェクト実習 3年次開講科目）ワインプロジェクト実習
参考書	・図解でよくわかる発酵のきほん / 館博 監修 / 誠文堂新光社 ・発酵・醸造食品の技術と機能性 / 北本勝ひこ / シーエムシー出版
連絡先	金子明裕 B1号館2階・ワイン発酵科学センター オフィスアワー 水曜日および木曜日の昼休み,3限
授業の運営方針	・講義の配付資料はMomocampusを通じて配布する。 ・予習（配付資料を中心によく読んで）を行ってから授業に臨むこと ・授業時間内で「確認試験」を実施するが、不正行為に対して厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	清涼飲料、ミネラルウォーターを自ら入手し、水の硬度、使われている糖分について調べる（実験・実習）。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、解説をMomocampusに掲載する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	元メルシャン株式会社勤務、元日清ファルマ株式会社勤務
その他（注意・備考）	

科目名	ニュース理解 A (FB224600)
英文科目名	
担当教員名	中田秀哉 * (なかだしゅうや *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。講義の進め方や、日々ニュースを追う報道記者の仕事内容、ニュースに触れることの大切さを説明する。
2 回	ニュースを広く伝える媒体である新聞について解説し、新聞の歴史を紐解く。
3 回	ニュースとして新聞に掲載されるさまざまなタイプの記事に触れ、報道の仕方の多様性を理解する。
4 回	取材から紙面編集までの流れを把握し、紙面づくりの過程を学ぶ。
5 回	ニュース記事の中に盛り込まれる言葉を吟味し、分かりやすい言い回し、奥深い表現などに触れる。
6 回	ニュース記事の光と影をテーマに、報道がもたらす華々しい成果や課題を学ぶ。
7 回	フェイクニュースがはびこる中、メディアに上手に接し、使いこなすための方法について考える。
8 回	1回目から7回目までの講義内容を振り返り、最終的な評価を行うための試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	新聞などでニュースに触れる機会をつくる。 できれば気になったニュースについて、感じたことを自分なりに整理すること。(60分)
2 回	新聞の歴史に思いをはせ、ニュース媒体としての特徴、強み、弱みなどを理解し、復習すること。(60分)
3 回	大きなニュース、小さなニュース、明るいニュース、暗いニュースなど、ニュースの多様な種類を復習すること。(60分)
4 回	記者はどのように取材するのかを知り、紙面に込められたニュースの意味づけ、価値判断など編集作業の重要性を復習すること。(60分)
5 回	新聞などのニュースの中に盛り込まれた言葉や、見出しに使われる用語に触れ、表現の多様性を把握すること。(60分)
6 回	ニュースとして報道されることにより、周囲に及ぼす影響や、もたらされる功罪について理解し、復習すること。(60分)
7 回	メディアとの付き合い方を知り、真実を見抜く目を養うことの大切さについて理解し、復習すること。(60分)
8 回	これまでの講義内容を再点検し、新聞報道の在り方やニュースに盛り込まれた多様な意味を再度、整理しておくこと。(60分)

講義目的	情報化社会、多メディア社会の中であって、フェイク(偽)ニュースに惑わされることなく、メディアやニュースを理解することの大切さを身に着ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞をはじめとするメディアを通じて日々ニュースに接し、社会の一員として身の回りの出来事を理解し、自らの意見を持つことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	マスメディア、メディアリテラシー、ジャーナリズム
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	講義の各回に時事用語などの小テストを行うが、評価対象とはしない。 最終評価試験を100点満点で実施し、得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	ジャーナリズム論、マスメディア論、現代のメディア
参考書	使用しない
連絡先	山陽新聞社編集局(岡山市北区柳町2-1-1) 電話 086-803-8127 メール nakada.shuya@sanyonews.jp
授業の運営方針	各回、時事問題などの小テストを実施。授業は講義形式で、パワーポイントによる資料に基づき進める予定。
アクティブ・ラーニング	気になるニュース、ニュースに出てくる時事用語などについて、講義のテーマに応じて発表してもらう。
課題に対するフィード	新聞、テレビ、ネットなど、各種メディアを通じて最新のニュースに触れ、時事用語などを繰り返し

バック	しマスターする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	岡山の地元新聞社で、記者として地域の大学や政治の動き、街の話題、時の人などを取材。現在は編集局の一員として、局のスムーズな運営などに当たっている。新聞社の実務経験をいかしニュースを正しく理解し、自らの意見を持つことの大切さ等について、講義を行う。
その他（注意・備考）	特になし

科目名	教養演習 A (FV21B110)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生に、自己PRを含む 5 分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。(1)
3 回	受講生に、自己PRを含む 5 分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。(2)
4 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(1)
5 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(2)
6 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(3)
7 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(4)
8 回	これまで演習で実施したディスカッションの講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、演習の進め方を把握しておくこと(3 0 分)。今問題になっている時事問題について事前に調べてくること(6 0 分)。受講後に、図書館やwebの利用方法を確認し利用できるようにしておくこと(9 0 分)。
2 回	自己PRと最近関心を持った時事問題について、事前に整理し簡潔にまとめておくこと(9 0 分)。受講後に、講義の中で取り上げられた時事問題について調べておくこと(9 0 分)。
3 回	自己PRと最近関心を持った時事問題について、事前に整理し簡潔にまとめておくこと(9 0 分)。受講後に、講義の中で取り上げられた時事問題について調べておくこと(9 0 分)。
4 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと(9 0 分)。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと(9 0 分)。
5 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと(9 0 分)。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと(9 0 分)。

6 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと（90分）。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと（90分）。
7 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと（90分）。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと（90分）。
8 回	これまでの演習で取り上げられた各テーマについて、事前に内容と意見をまとめておくこと（90分）。

講義目的	主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。上記のことにより思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Aでは、主に新聞記事などを題材に自由な議論を行なう。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」に深く関連する。
達成目標	教員側が選定した時事問題について自分で調べ正確な内容を把握できる。 受講者が自己PRやディスカッションにおいて、自分の意見を発表できる。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、ディスカッション、プレゼンテーション、政治、経済、社会、文化、国際問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	個別発表課題（50%）と最終評価試験（50%）を合計100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	2019年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2・準2級対応）/日本ニュース時事能力検定協会監修/毎日新聞出版
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB、プレゼンテーション基礎編AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業の中で取り上げる各テーマにつき主報告者を割り当て、パワーポイント等を用いた報告課題を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

ゲ	主報告者は10分の口頭発表を行う。 ディスカッション 主報告者の内容をもとに受講者全員で討論を行う。
課題に対するフィードバック	個別発表課題については、授業の中で講評を行う。最終評価試験（レポート形式）については、事前に評価基準を提示することを前提とし、試験結果について希望者に点数を開示し評価の根拠を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	学びの基礎論 A (FV21B120)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) と「大学の学び」への招待 学士力、社会人基礎力、グローバル化等をキーワードに、大学での学びについて考察し、自分が今後獲得すべき能力について目標を設定する。
2 回	コミュニケーショントレーニングと人間理解 コミュニケーションの意味と価値を理解し、良好な人間関係を保つためのコミュニケーションについて説明する。
3 回	聴く方法、情報のまとめ方 ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考えることで、情報を能動的に受け取る姿勢を理解する。
4 回	コミュニケーショントレーニング コミュニケーションを理解したうえで、立場の違いによるコミュニケーションを説明する。
5 回	コミュニケーショントレーニング 事例を用い、コミュニケーション力を測定する。
6 回	アカデミックライティング レポートと感想の違いについて検討し、アカデミックライティングの構造や特質について説明する。
7 回	社会に求められる人材、グローバル人材になるためには交渉力、異文化理解、異文化コミュニケーションについて説明する。
8 回	講義の総括をする。

回数	準備学習
1 回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認し、大学で学ぶ意義について考えておくこと (90 分) 復習として、自身の大学で学ぶ意義をまとめておくこと (90 分)
2 回	予習としてテキストの第 1 章 (1 - 36 頁) を熟読し、内容をまとめておくこと (180 分)
3 回	予習としてテキストの第 3・4 章 (66 - 117 頁) を熟読し、内容をまとめておくこと (180 分)
4 回	予習としてテキストの第 5・6 章 (120 - 168 頁) を熟読し、内容をまとめておくこと (180 分)
5 回	予習としてテキストの終章 (202 - 225 頁) を熟読し、内容をまとめておくこと (180 分)
6 回	復習として、大学生に求められる学習スキルに関する課題レポートを完成すること (180 分)
7 回	復習として、グローバル化に求められる人材について考えておくこと (180 分)
8 回	これまでの講義の振り返り、学んだことをまとめ、疑問点があれば明確にしておくこと (180 分)

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。内容として、生涯にわたる「学び」を深めるために 人生の一回性の認識や学びの意味、生涯にわたる学び、自己実現、至高経験について考察する コミュニケーション力を高めるために、状況判断力、情報伝達力、情報獲得力、傾聴力、人間関係構築力、問題解決力について考察する。(教養教育科目の 4 領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	授業中に作成したワークシートの提出 (30%)、課題小レポート (40%)、最終レポート (30%) により成績を評価し、総計で得点率 60% 以上を合格とする。達成目標の ~ を確認

教科書	学びとは何か - <探究人> になるために / 今井むつみ / 岩波書店 / ISBN 978-4-00-431596-4
関連科目	本科目に引き続き「学びの基礎論B」を履修することが望ましい。
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	ライティング、ディスカッション、プレゼンテーション 学習内容に関する意見をワークシートに書き、グループでディスカッションを行う。その後、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	ワークシートについては、代表的なコメントを次回の授業開始時に提示し、フィードバックを行う。 課題レポートについては、ルーブリック等を用いてフィードバックを行う。 最終レポートについては、Momo-campusに解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論 A (FV21C110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations A
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	国際社会の特徴と国際法の法源について学修する。国内社会と比較することにより国際社会の特徴について学修する。そのうえで、国際法がいかなる形式で存在し、どのようにして成立するのかという国際法の法源論について学修する。
2 回	国際組織の萌芽について学修する。国際組織が成立する以前の国際社会において、組織化がどのように進展したのかについて学修する。
3 回	国際連盟について学修する。国際連盟の成立の経緯、組織、活動について学修する。
4 回	国際連合について学修する。国際連合の成立の経緯、組織について学修する。
5 回	国際連合に関する諸問題について学修する。国際連合の権限、表決制度、決議の法的拘束力について学修する。
6 回	国際的な経済体制について学修する。貿易や金融などに関する国際的な制度の内容について学修する。
7 回	国際的な人権保障について学修する。人権問題について国際社会がどのように取り組んでいるのかについて学修する。
8 回	欧州連合について学修する。欧州連合の成立の経緯、組織、活動について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際社会の特徴および国際法の法源に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際組織の萌芽に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連盟に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合の諸問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際的な経済体制に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分)

	復習として、国際的な人権保障に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
8回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、欧州連合に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際関係の歴史を概観した後に、国際機構、特に国際連合成立の経緯、組織構造をみていくことで、現在の国際社会の基本的な仕組みを解説する。そして、そこに込められた人々の平和への願いを読み解き、国際化の真の意味を理解することを目指す。 教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 国際社会の特徴について説明できるようになること。 ○ 国際社会の成り立ちについて説明できるようになること。 ○ 国際連合の組織および機能について説明できるようになること。 ○ 国際経済体制について説明できるようになること。 ○ 国際的な人権保障制度について説明できるようになること。
キーワード	国際連盟、国際連合、世界貿易機関、国際通貨基金、人権、欧州連合
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	mylogにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	国際関係論B
参考書	国際連合 - 軌跡と展望 / 明石康 / 岩波書店 / 978-4004310525 : 国際組織法 / 佐藤哲夫 / 有斐閣 / 978-4641046344
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、mylogから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学 A (FV21C120)
英文科目名	Literature A
担当教員名	大西好幸* (おおにしよしゆき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション 日本古典文学の展開を概説する。
2 回	上代の文学として『古事記』『万葉集』を取り上げ、解説する。
3 回	復習小テスト 中古の文学 (和歌・物語) として『古今和歌集』『源氏物語』を取り上げ、解説する。
4 回	復習小テスト 中古の文学 (日記・随筆・説話) として『土佐日記』『枕草子』『今昔物語集』を取り上げ、解説する。
5 回	復習小テスト 中世の文学 (物語・和歌) として『平家物語』『新古今和歌集』を取り上げ、解説する。
6 回	復習小テスト 中世の文学 (随筆・能・狂言) として『徒然草』『風姿花伝』を取り上げ、解説する。連歌にも触れる。
7 回	復習小テスト 近世の文学 (俳諧) として『奥の細道』を取り上げ、解説する。
8 回	近世の文学 (小説・浄瑠璃) として井原西鶴、近松門左衛門を取り上げ、解説する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。日本古典の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
2 回	教科書「上代の文学」の章を読んで予習をしておくこと。『万葉集』の中から好きな一首を選び、感想をまとめておくこと。【標準学習時間180分】
3 回	教科書「中古の文学」(和歌・物語)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
4 回	教科書「中古の文学」(日記・随筆・説話)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
5 回	教科書「中世の文学」(物語・説話・和歌)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
6 回	教科書「中世の文学」(随筆・能・狂言・連歌)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
7 回	教科書「近世の文学」(俳諧)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
8 回	教科書「近世の文学」(小説・浄瑠璃)の箇所を読んで予習をしておくこと。これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間240分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。「文学 A」は近代以前の文学作品を対象とし、それぞれの地域によって異なる風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた人々の思い、心の動き方、社会の中で展開される人間模様などを見てゆく。 (教養教育科目の 4 領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	(1) 日本古典文学の基礎的な知識を身につける。(知識・理解) (2) 古典文学を生み出した歴史的背景や上代から近世までどうつながり、どのように展開しているかそのダイナミズムを理解する。(思考・判断・表現) (3) 古典作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。(関心・意欲・態度)
キーワード	上代、中古、中世、近世、日本文学史、詩、詞
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	提出物 (20%)、小テスト (30%)、最終評価試験 (50%) により総合的に評価し、総計 60% 以上を合格とする。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版 / 兵庫県高等学校教育研究会国語部会編 / 京都書房 / ISBN978-4-7637-2204-1

	プリントを適宜配布する。
関連科目	本科目に引き続き「文学B」を履修することが望ましい。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	・テキストは問題集を兼ねているので、準備学習時によく読んで予習をしておくと同時に解答しておくこと。 ・講義資料（テキスト補完資料）は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	ライティング、質問 文学作品について学生が感想を書く。また、テキストの内容に関する問題に答える（小テスト）。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、コメントをつけて返却する。 ・小テストについては、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答及び解説プリントを配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史 A (FV21C130)
英文科目名	Japanese History A
担当教員名	白石成二* (しらいしせいじ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	初めに自己紹介を行う。獣医学部の立地する愛媛県や今治市に対する理解を深めるために、伊予国の大まかな歴史や国指定史跡をはじめとする貴重な文化財の紹介を行う。次に日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで授業の進め方について説明する。その後、旧石器時代の具体的内容や、その特色について確認するとともに、考古学の捏造事件を取り上げ、一方的な情報を盲信することの危険性についても触れる。
2 回	近年の発掘成果によって「貧しい縄文文化」「遅れた縄文文化」のイメージが大きく変化していることを説明する。また縄文時代には一万年にわたって戦争がなかった要因を検討したうえで、縄文時代から現代へのメッセージについて考える。また弥生時代の具体的内容に触れるとともに、その結果、縄文時代にはなかった大規模な戦争が起こるようになったことを確認し、今日各地で起こっている戦争の問題に引きつけて説明する。
3 回	古墳時代の前期・中期・後期の内容と特色について触れ、巨大な前方後円墳や八角形墳などがなぜ築かれたのかを説明する。そしてそのあり方は現代日本人の死生観に通じるものがあることを確認する。また古代日本と大陸との交渉のなかで渡来人が多くやってきて文化形成に大きな役割を果たした。現在、国境を越えた人の交流が進んでいる。古代の渡来人の歴史を踏まえ、「日本人とは何か」について検討する。
4 回	聖徳太子研究の深化によって推古・厩戸時代のイメージが大きく変容している。その時代の具体的内容の理解とともに、歴史の虚像と実像について触れ、また大化の改新についても木簡の出土によって新しい事実が明らかになり、従来のイメージの転換がおこっている。さらに木簡等によって『日本書紀』の内容について、再検討が進められていることにも触れる。今日、多くの虚実の情報が行き交う中で、その受け取り方について考える。
5 回	古代最大の対外戦争がなぜ起こったのか、その敗北によってどれほどの大きな影響があったのかを具体的に説明する。また古代最大の内戦である壬申の乱の背景や経過や結果について触れる。そしてその両方の戦争を経ることによって、古代文明のグローバルスタンダードである律令制に基づく天皇中心の国家体制が成立する。それは文明国の仲間入りであるとともに、かつての「倭国」から新たな国号「日本」の誕生であったことを確認する。
6 回	古代の七・八世紀は実に多くの女帝が誕生した。その理由を考えるとともに、論争となっている女帝の「中継ぎ論」と「中継ぎ見直し論」について触れる。その歴史理解うえで現在の皇室をめぐる議論についても考える。次に世紀の発見と言われた長屋王家木簡の出土によって、長屋王という上流貴族の実態が具体的に明らかになってきたことに触れる。新しい史料の発見によって従来の歴史理解が見直されるものであることを確認する。
7 回	古代の日本の外交について遣唐使を通して検討する。とりわけ阿倍仲麻呂や井真成の個人的な活動や実質的に最後の遣唐使となる「承和の遣唐使」についてふれ、遣唐使の役割についてみていく。その遣唐使にみられる古代外交の特色が、現代の外交とも重なっていることを確認する。次に奈良時代の精華とされる天平文化の具体的内容に触れるとともに、その文化が仏教のような宗教文化だけでなく、衣食住の全般にわたって大陸の強い影響を受けていることを説明する。
8 回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	我が国で初めて旧石器時代の存在を確認した相沢忠洋の『岩宿の発見』に目を通すこと。また全体を通しての参考文献である網野善彦『日本社会の歴史(上)』(岩波新書)の旧石器時代の部分を読んで予習しておくこと。(標準学習時間180分)
2 回	縄文時代については、田中・佐原真『考古学の散歩道』(岩波新書)、上田篤『縄文人に学ぶ』(新潮新書)、小林達雄『縄文の思考』(ちくま新書)、瀬川拓郎『アイヌと縄文』(ちくま書房)など、弥生時代については、石川日出志『農耕社会の成立』(岩波新書)、東潮『邪馬台国の考古学』などがあり、どれか一冊を図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間180分)
3 回	古墳時代については松木武彦『古墳とは何か』(角川選書)、外池昇『天皇陵の誕生』(祥伝社新書)、ヤマト王権と渡来人については吉村武彦『ヤマト王権』(岩波新書)、加藤謙吉『渡来氏族の謎』(祥伝社新書)、同『大和の豪族と渡来人』(吉川弘文館)などがあり、図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間180分)
4 回	推古・厩戸の時代については、聖徳太子虚像説の立場を代表するのが、大山誠一『「聖徳太子」の誕生』(吉川弘文館)、谷沢永一『聖徳太子はいなかった』(新潮新書)で、实在説の立場から吉

	村武彦『聖徳太子』（岩波新書）、東野治之『聖徳太子』（岩波ジュニア新書）であり、必読の書である。大化の改新については遠山美都男『天智と持統』（講談社現代新書）、倉本一宏『蘇我氏』（中公新書）、武光誠『蘇我氏の古代史』（平凡社新書）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
5 回	白村江の戦いについては、鬼頭清明『白村江』、壬申の乱については遠山美都男『壬申の乱』（中公新書）、早川万年『壬申の乱を読み解く』（吉川弘文館）、律令制の成立については大山誠一『天孫降臨の夢』がある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
6 回	古代の女帝については、吉村武彦『女帝の古代日本』（岩波新書）、仁藤敦史『女帝の世紀』（角川選書）、瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、長屋王の変については寺崎保広『長屋王』（吉川弘文館）、遠山美都男『検証平城京の政変と内乱』（学研新書）、倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
7 回	遣唐使をめぐる東アジア外交については、東野治之『遣唐使』（岩波新書）、『遣唐使阿倍仲麻呂の夢』（角川選書）、古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、森公章『遣唐使の光芒』（角川選書）など、天平文化については、直木孝次郎『万葉集と古代史』（吉川弘文館）、東野治之『正倉院』（岩波新書）、同『鑑真』などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
8 回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	日本列島内における古代史から、中世に至る時代を扱う。日本列島では弥生時代を経て、各地の酋長連合によるヤマト政権による国家的事業としての古墳時代を迎えた。その後、極東アジア地域からさまざまな文化を導入し、国のかたちを整えていった。中でも律令制は、国家形成等にかかわる重要な制度であり、日本史の方向性を決定したといっても過言ではないだろう。この講義では、日本列島の地勢的状况、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	我が国の国家形成等に関わる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握できる。因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる。歴史的な事象とその背景についての分析結果を深く考察できる。
キーワード	「旧石器時代」、「縄文時代」、「古墳時代」、「飛鳥時代」、「大化の改新」、「白村江の戦い」、「壬申の乱」、「律令制」、「女帝」、「木簡」、「遣唐使」、「天平文化」
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料やプリントを配布する。
関連科目	日本史Bを続けて履修することが望ましい。
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	歴史の面白さや深みのある内容を提示することを通して正しい歴史を理解し、正しい歴史認識を持てるようにする。 また、授業の出欠席の取扱いについては以下の通りである。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。 （２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。 （３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング 歴史の史料や絵画資料をできるだけ多く使用する。それらを元にして、その時代背景や歴史的意義を考え、自分でまとめさせる作業を行わせる。
課題に対するフィードバック	最終評価試験の採点結果をグレード別にフィードバックする。 そして今後学ぶべき参考文献などを提示し、授業後においても人の歴史だけではなく、獣医として必要な動物に関する歴史についても興味を持てるようにする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。日本語が十分習得できていない学生に対して、できるだけ丁寧に説明することを心がけるとともに、配布資料や試験においてルビを多くつけてわかりやすくします。また理解が不十分な学生には、別に課題を与えて学習させるようにします。
実務経験のある教員	元高等学校勤務。学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題についても講義で触れる。

その他（注意・備考）	（１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
------------	---

科目名	外国史 A (FV21C140)
英文科目名	World History A
担当教員名	松澤仁志* (まつざわひとし*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2 回	オリエントと地中海世界について概観する。
3 回	アジアの古典文明をインド、中国（秦漢帝国まで）の歴史を中心に説明する。
4 回	イスラーム世界の形成と発展について説明する。
5 回	ヨーロッパ世界の形成と発展について説明する。
6 回	東アジア世界の形成と展開について説明する。
7 回	中世から近世にかけてのヨーロッパ世界の形成と展開について説明する。
8 回	第 1 回から第 7 回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと（90分）
2 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
3 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
4 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
5 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
6 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
7 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
8 回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと（270分）

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代は民主主義、資本主義、科学主義などを基本的な要素とした近代社会であるが、これらが世界の各地域においてどのように形作られ、どのような展開を見せたかということを講義する。その後、それらを形成し、各国の世界観や文化に影響を与えたそれぞれの世界の歴史について、古代文明や中世社会の構造とその変質および科学革命などについて解説する。 （教養教育科目の 4 領域のうちの思考・判断・表現に強く関与する）
達成目標	近世までの世界史の流れを説明することができる 近世までの世界史における異なる文明圏同士の相互交流の状況を説明することができる 近世までの世界史の現代につながる歴史的影響力について考察することができる
キーワード	歴史的因果関係、知的好奇心、人物像の考察、歴史的思考力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	予習・復習プリント（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	市民のための世界史 / 桃木 至朗他 / 大阪大学出版会 / ISBN487259469X : ニューステージ世界史詳覧 / 浜島書店 / ISBN4834320251
関連科目	本科目に引き続き「外国史 B」を履修することが望ましい。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	・ 授業プリントを毎回事前に配布する。 ・ 授業、及び、最終評価試験も授業プリントの内容を中心に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学	“ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提

生への対応	供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ”
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 A (FV21C150)
英文科目名	Political Science A
担当教員名	戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 政治、民主政治、民主主義の発展について概説する。
2 回	権力分立（１） - 三権分立と議院内閣制 - について講義する。
3 回	国会について講義する。
4 回	内閣と内閣総理大臣について講義する。
5 回	権力分立（２） - 権力相互の抑制と均衡 - について講義する。
6 回	選挙政治 - 選挙制度 - について講義する。
7 回	政党と圧力団体について講義する。
8 回	これまで講義で扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義の進め方を把握しておくこと。事前に政治、民主政治、民主主義の意味について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに内容を整理し、特に知らなかったことについて調べる（９０分）。
2 回	第 7 章の121～125頁を読み、議院内閣制について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における議院内閣制の特徴を整理すること（９０分）。
3 回	第 7 章「国会」を読み、国会について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における国会の特徴を整理すること（９０分）。
4 回	第 8 章「内閣と総理大臣」を読み、内閣制度について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における内閣制度の特徴について整理すること（９０分）。
5 回	権力分立について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における権力分立の特徴を整理すること（９０分）。
6 回	第 4 章「選挙と政治」を読み、選挙制度について調べておくこと（９０分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における選挙制度の特徴について整理すること（９０分）。

7 回	第 4 章「選挙と政治」を読み、政党と圧力団体を調べておくこと（90 分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における政党と圧力団体の特徴を整理すること（90 分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、特に講義レジュメにおいて理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90 分）。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、そこに凝縮されている政治、社会の本質について考えることで、現代政治の意味を理解する手掛かりとしたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学 A では、主として＜政治と経済＞及び＜政治と社会＞について学ぶ。教養教育科目の 4 領域のうち、「知識・理解」に深く関連する。
達成目標	本講義の目標は、現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国内の政治について基本的な用語を説明できることである。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、民主政治、民主主義、権力分立、議院内閣制、国会、内閣、選挙政治、政党、圧力団体
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100％）により評価する。60点以上を合格とする。
教科書	はじめて出会う政治学【第 3 版】 / 真淵・久米・北山著 / 有斐閣アルマ / 978-4-641123687
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、国際関係論AB、教養演習AB
参考書	政治学 / 川出良枝・谷口将紀編 / 東京大学出版会 / 978-4-13-032219-5、NEW教科書シリーズ政治学 / 山田光矢編 / 弘文堂 / 978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	獣医学部教育病院棟 4 階 4 1 9 研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各講義で配布する講義レジュメに従って内容を進める。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	

ゲ	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、試験後に一定期間を設けて解答をポータルサイトの講義資料（今治・獣医学部）の中のフォルダ「政治学A」に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経済学 A (FV21C160)
英文科目名	Economics A
担当教員名	山中高光 * (やまなかたかみつ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	[オリエンテーション] [経済学とは何か] 経済をとらえる経済学の基本的枠組み・考え方(市場経済、家計、企業、政府、ミクロ経済学、マクロ経済学など)を概観する。 [需要と供給] 需要・供給分析の基礎を説明し、その応用として消費税の負担を考える。
2 回	[需要曲線と消費者行動] 需要曲線とは何か。家計の選択、消費者余剰を説明する。
3 回	[供給曲線と企業行動] 供給曲線とは何か。生産、費用、完全競争市場における企業の行動。消費者余剰を説明する。
4 回	[市場取引と資源配分] 市場と価格メカニズム、余剰分析、資源配分の歪み、市場と経済発展について説明する。
5 回	[独占と競争の理論] 完全競争、独占、独占的競争について説明する。
6 回	[市場の失敗] 市場の失敗、外部効果、公共財について説明する。
7 回	[不確実性と不完全情報の経済理論] 不確実性と経済現象、不確実性の経済理論、情報の不完全性について説明する。
8 回	前半で授業全体の復習を行う。後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。テキストの予習とともに、市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
2 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。家計消費の動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
3 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。企業活動の動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
4 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場取引や価格動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
5 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場形態による取引の利害や価格動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
6 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場の失敗の具体例、特に外部効果と公共財、について身の回りから把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
7 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。不確実性に起因する経済事象の具体例について身の回りから把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
8 回	復習に3時間以上の時間が必要である。最終評価試験に備えて十分な準備をしておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Aではその中でも特に家計と企業の行動について講義する。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	1. 学生が基本的な経済理論を理解できる。 2. 学生が様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	ミクロ経済学、資源配分、需要、供給、家計、企業、政府、消費者理論、生産者理論、市場経済、価格メカニズム、完全競争、独占、独占的競争、市場の失敗、不確実性
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	最終評価試験で成績評価する。試験は、授業で行った基本的な経済理論を理解できているかどうかを評価するために、基礎的な専門用語の使用及び説明が適切にできるか、科学的・論理的に把握しているかをみるために、仮説的な事象についての正誤の判断、計算に関する問題を課す。60点以上を合格とする。

教科書	入門経済学第4版 / 伊東元重 / 日本評論社 / ISBN 978-4-535-55817-5
関連科目	経済学Bの履修が望ましい。
参考書	経済学・入門 第3版 / 塩澤 修平 / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-22004-1 : マンキュー入門経済学 第2版 / マンキュー / 東洋経済新報社 / ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する。
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
授業の運営方針	教科書と補完する資料等をまとめた資料を事前に配布し、授業ではその解説、議論、練習問題の解答などを行う。定期試験(最終評価試験)は最終授業で行うが、事前に試験に関する説明などを行うので、注意してもらいたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	練習問題(課題)は可能な限り授業中に解説する。最終評価試験の模範解答と解説は掲示によって行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などの許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を利用する。 定期試験(最終評価試験)は計算問題も含め筆記試験とする。

科目名	フレッシュマンセミナー（FV21D110）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	尾崎博（おざきひろし）、小林忠資（こばやただし）、平井誠士（ひらいせいじ）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	《本学での学び》 建学の理念にもとづいて本学のポリシーと学生に求める資質を説明するとともに本学園の沿革なども紹介する。また、獣医学部のポリシーについても紹介する。さらに、地域社会への貢献の重要性についても考える。 （全教員）
2 回	《大学生としての学び》 大学での学びの方、大学生活で求められるコミュニケーションの方法について説明する。 （全教員）
3 回	《大学で提供するさまざまなサポート》 大学が提供する準正課教育プログラム、海外研修、語学学習支援プログラムについて説明する。 （全教員）
4 回	《図書館の活用方法》 文献の検索方法、ラーニングコモنزの使い方、図書館の提供するサービスについて説明する。 （全教員）
5 回	《社会人としての学生の責任》 社会人としての法律順守の考え身に着けるとともに、大学生活において発生したハラスメントへの対応を検討する。 （全教員）
6 回	《社会における大学の役割》 大学の戦略研究や付属研究所、研究施設などを紹介することで、本学の研究力を説明する。また研究倫理教育も実施して、研究者の仲間入りであることを意識化する。 （全教員）
7 回	《自立した個人としてのリスクマネジメント》 健康管理や心の健康をガイダンスして、大学生の時期における心理的発達や生活および学習環境の変化について学びながら大学生活のイメージを考える。また安全対策マニュアルに沿って大学生活における安全・防災についても考える。 （全教員）
8 回	《キャンパスライフデザイン》 自分の将来の目標に向けて、大学で何をすべきかを学科の教員や同級生とのディスカッションを通して考える。 （全教員）

回数	準備学習
1 回	岡山理科大学のWEBサイトから、本学の建学の理念、獣医学部のポリシー、獣医学部の活動内容を確認し、岡山理科大学獣医学部の特徴をまとめておく（90分）。
2 回	予習として、大学での学びに関する不安や疑問点を自分なりに整理しておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。

3 回	予習として、学生便覧や大学のWEBサイトを確し、大学が提供する学習サポートについてまとめておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
4 回	予習として、岡山理科大学図書館のWEBサイトを確し、図書館が提供するサービスをまとめておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
5 回	予習として、身の回りでハラスメントや犯罪に関する問題がないかを考えておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
6 回	予習として、本学の教員が行っている研究内容について大学のHP等で調べておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
7 回	予習として、健康で充実した大学生活を送るために必要な習慣や行動について整理しておくこと（90分）。 復習として、MOMO CAMPUSを用いて授業内容の復習課題を行うこと（90分）。
8 回	将来の目標に向けて、卒業までの各年次ですべきこと・やりたいことなどを考えておくこと（270分）。

講義目的	本講義では、入学したばかりの新入生を対象に、岡山理科大学とはどのような大学か、入学した学部とはどのような学部か、ここで何ができるかを説明する。そして4年間あるいは6年間という限られた時間を最大限有効に使うのに必要な事柄、例えば、「話を聞く」「ノートを取る」「論理的に考える」「適切に話し書く」などの学ぶための基本的な技法（アカデミック・スキル）を説明する。この授業を通して、自分がこの大学で何をしたいか、将来どのような社会人・職業人になりたいかを考える第一歩とする。（教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に最も強く関与する）
達成目標	(1) アカデミック・スキル 情報収集や資料整理の方法、ノートの取り方、レポート・論文作成方法、口頭発表の技法、文献講読の方法、論理的思考力、問題発見・解決能力、調査・実験の方法、図書館の活用方法などを理解して「アカデミック・スキル」を磨くこと (2) スチューデント・スキル 進路選択や職業生活に対する動機づけ、集中力や記憶力の醸成、時間管理や学習習慣の確立、大学教育全般に対する動機づけ、受講態度や礼儀・マナー、自己分析とキャリアデザイン、海外留学、インターンシップ、ボランティア活動の活用、学習支援センターやラーニングコモンズ、ポートフォリオなどの活用などを理解して「スチューデント・スキル」を磨くこと (3) 内面的アイデンティティー チームワークを通じての協調性、大学への帰属意識（建学の理念、ポリシー）、地域への帰属意識、市民としての自覚・責任感・倫理観の醸成、自信・自己肯定感の醸成、健全な大学生活（健康・運動・食育・心の病の問題を含む）、法律（交通、カルト、軽犯罪、薬物・飲酒・喫煙、ドラッグ、危険ハープ、飲酒、喫煙）順守の重要性、ハラスメントに関する知識、大学における安全対策などを理解して「内面的アイデンティティー」を確立すること
キーワード	アカデミック・スキル、スチューデント・スキル、内面的アイデンティティー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義で出される提出課題（70%）と最終課題であるキャンパスライフデザイン（30%）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	全ての科目に関連するが、特に初年次に受講する教養教育科目（人間・社会科学教育科目、キャリア教育科目、科学技術教育）、外国語教育科目や専門教育科目。
参考書	特に指定しないが、必要に応じて冊子や資料を配布する。
連絡先	A-2 6F 631研究室 直通電話：0898-52-9132 e-mail: h-ozaki@vet.ous.ac.jp オフィスアワー：月曜昼休み
授業の運営方針	初回のガイダンスで説明するが、学習管理システムを活用した課題提出（出席管理）を実施するので、そのためのスキルを習得すること。
アクティブ・ラーニング	質問 授業で扱ったテーマに関して学生に問題を提示し、学生が答える。
課題に対するフィードバック	各回の課題に対して、MOMO CAMPUSを通してフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供

生への対応	していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 A (FV21F110)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および、心理学とは何か？について概説し、今後の講義方針について説明する
2 回	心理学における心と身体の扱いについて、概説する
3 回	科学としての心理学、および心を測ることについて、概説する
4 回	動物と心理学との関係について、概説する
5 回	人間の一生および発達と心理学について、概説する
6 回	人を取りまく環境と心理学について、概説する
7 回	対人援助技術と心理学について、概説する
8 回	性格と心理学について、概説する

回数	準備学習
1 回	心理学という学問について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
2 回	心とは何か？あるいは身体とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
3 回	科学とは何か？心を測ることはできるのか？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
4 回	動物とは何か？ 人間とそれ以外の動物との違いは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
5 回	発達とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
6 回	環境とは何か？集団とは何か？社会とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
7 回	人を助けるとは何か？について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
8 回	自分とは何か？性格とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)

講義目的	初めて心理学という学問に触れる学生を対象に、特定の学派や立場に偏らないように、多様な切り口から概説する。心理学という学問を体系的に学び、理解することで、より良い人間性の育成を目指す。(教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	心理学についての基本的な知識を理解し、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	脳、アフォーダンス、操作的定義、アセスメント、動物行動学、発達、遺伝、環境、発達障害、社会、感覚、知覚、認知、行動、行動経済学、認知バイアス、対人援助職、エビデンス、ナラティブ、動機づけ、行動分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各講義中の課題(60%) 第8回講義後に提出する最終評価レポート(40%)総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	心理学B
参考書	講義内で指示する
連絡先	講義内で指示する
授業の運営方針	・レポートは期限内に提出すること ・講義資料、あるいはそれに準ずるものは、基本的にはポータルサイトを通じて配布するが、詳細は第1回講義にて説明する ・その他、受講するにあたってのマナーやルールについては、第1回講義にて説明する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中の課題については、模範解答を課題提出後に提示および解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。申し出があれば、それぞれ個別

	に対応します。詳しくは第1回講義のオリエンテーションにて説明します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回講義のオリエンテーションにて説明する

科目名	法学 A (FV21F120)
英文科目名	Law A
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法とは何かについて学修する。社会には様々なルールがあるが，その中で法はどのような特徴を持ったルールなのかを学修する。そのうえで，法が社会においてどのような形式で存在しているのかを学修する。
2 回	法の解釈について学修する。なぜ法の解釈が必要なのか，解釈にはどのような方法があるのかについて学修する。
3 回	憲法とは何かについて学修する。憲法の目的とは何か，現在の憲法と大日本帝国憲法との違いは何かについて学修する。
4 回	国会について学修する。国会の地位，国会の活動，国会の権限，議院の権限，国会議員の地位について学修する。
5 回	内閣について学修する。内閣の地位，内閣総理大臣の地位，内閣の権限について学修する。
6 回	裁判所について学修する。司法権とは何か，司法権の限界，裁判所の組織について学修する。
7 回	財政について学修する。財政立憲主義，予算制度について学修する。
8 回	地方自治について学修する。地方自治の存在意義，地方自治制度の内容，住民の権利について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，法とは何かに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，法の解釈に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，憲法とは何かに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，国会に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，内閣に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，裁判所に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、財政に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、地方自治に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Aで取り扱う分野は主として「法の解釈」と「日本国憲法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。 。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 法とは何かについて説明できるようになること。 ○ 法の解釈方法について説明できるようになること。 ○ 憲法に定められている統治機構について説明できるようになること。
キーワード	法学，法の解釈，日本国憲法，大日本帝国憲法，国会，内閣，裁判所，財政，地方自治
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	mylogにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	この講義では憲法の統治機構を中心に扱うので、人権に興味がある学生は日本国憲法を履修すること。法学B
参考書	現代法学入門（第4版）／伊藤正巳・加藤一郎／有斐閣／978-4641112568：憲法（第6版）／芦部信喜／岩波書店／978-4000227995
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、mylogから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読ん

	で予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 A (FV21F130)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 「教養（リベラル・アーツ）」を学ぶ意義、「社会」に興味関心を持ち積極的に関わる必要性について説明する。
2 回	憲法改正に関する諸問題について解説する。
3 回	アベノミクスの現状と課題について解説する。
4 回	地方が抱える諸問題（地方創生）について解説する
5 回	日本とアメリカが抱える諸問題について解説する。
6 回	働き方改革・社会保障について解説する。
7 回	東日本大震災復興の現状と課題について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、事前に講義内容を把握しておくこと（90分）。受講後に、取り上げた具体的事例について図書館やwebを活用し調べること（90分）。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、改正公職選挙法の成立により、18歳での選挙権が認められた現実を鑑み、若者の「市民性＝社会参画の権利と義務」の重要性を論じる。皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議する。これらの教材を通して、受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」と深く関連する。
達成目標	・新聞や報道などで取り上げられる用語・内容を理解し、自分で説明できる。 ・日本の抱える諸問題を捉えることができる。 ・問題の背景にある原因を正しく把握し、根拠に基づく自分なりの判断ができる。
キーワード	教養、社会問題、時事、憲法改正、アベノミクス、地方創生、日米問題、働き方改革、社会保障、震災
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート形式の最終評価試験（80％）と毎授業課題（20％）の合計を100点として評価する。60点以上を合格とする。評価基準としては、テーマに関する記述が正しいこと、自己の見解を持ち根拠を示していること、文章作法について適切であることを総合して判断する。
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
関連科目	社会と人間B、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の最後に講義を受けた感想、自分の意見を記入したレポートの提出を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や私見を記入することを実施する。
課題に対するフィードバック	講義の中で事前に最終評価試験（レポート形式）の評価基準を示すことを前提とし、試験の結果について希望する者には点数を開示し評価の根拠を提示する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	スポーツとフィールド科学（テニス）（FV21P110）
英文科目名	Sports (Tennis)
担当教員名	明比孝善＊（あけびたかよし＊）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	講義実施場所、内容、目的、受講の心得 テニスの歴史、用具等について説明する。 テニス場の使用方法とマナーについて説明する。ラケットとボールに慣れる練習をする。
2 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
3 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークの復習を行う。 バックハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
4 回	ストレッチウォーミングアップを行う。 フォア・バックハンドストロークの復習を行う。 ストロークを使って、ラリーが出来るようになることを目的とした簡易ゲームをする。
5 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 フォア・バックハンドボレーについて説明を行った後、練習する。
6 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 スマッシュについて説明の後、練習する。
7 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 サービスについて説明を行った後、練習する。
8 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ダブルスのルールの審判法について説明を行った後、ゲーム形式を行う。
9 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 前衛・後衛のポジション・役割について説明の後、ゲーム形式をする。
1 0 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ボーチの役割について説明の後、練習する。
1 1 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーを復習する。 ロビングショットの役割を説明の後、練習する。
1 2 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 アプローチの説明の後、練習する。
1 3 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 平行陣の説明の後、ゲーム形式を行う。
1 4 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 戦術の説明の後、ゲーム形式を行う。
1 5 回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 講義全体の振り返りとまとめをする。チーム分けの後、試合を行う。
1 6 回	最終評価のため、試合を行う。

回数	準備学習
1 回	授業内容・目的の確認テニスの歴史と用具について復習を行うこと。テニスのマナーについて予習を行うこと。
2 回	マナーについて復習を行うこと。フォアハンドストロークについて復習を行うこと。
3 回	バックハンドストロークについて復習を行うこと。
4 回	フォア・バックハンドストロークについて復習を行うこと。
5 回	ボレーについて復習を行うこと。

6 回	スマッシュについて復習を行うこと。
7 回	サービスについて復習を行うこと。
8 回	ルール・審判法について復習を行うこと。
9 回	ダブルスでのポジションについて復習を行うこと。
10 回	ボーチについて復習を行うこと。
11 回	ロビングとポジションチェンジについて復習を行うこと。
12 回	アプローチについて復習を行うこと。
13 回	平行陣について復習を行うこと。
14 回	戦術について復習を行うこと。
15 回	講義全体について復習を行うこと。テニスを通じて得たものを考えること。
16 回	テニスを通じて得たものを考えること。

講義目的	テニスの技術を修得すると同時に、体力の向上や、公正・協力・責任などの社会的態度を身につけ、生涯を通じて継続的にスポーツ（運動）を実践していける習慣や態度を育てる。内容として テニスの技術（グラウンドストローク、サーブ、レシーブ、ボレー、スマッシュ）を習得すること シングルス、ダブルスのゲームのルールと審判法を習得すること テニスを楽しむため、プレースタイルや戦術を考えられる能力を身に付けること ルールを遵守する態度やマナーを身に付けることを目指す。 （単位認定の方針Dに強く関与する）
達成目標	テニスのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防が出来ること。
キーワード	硬式テニス・軟式テニス・スポーツ傷害
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	積極性（30%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）
教科書	使用しない
関連科目	生涯スポーツ
参考書	指定しない
連絡先	授業終了時にテニスコートで質問を受け付ける。
授業の運営方針	授業計画に沿って講義を進めていくが、学生個々の技術の修得状況を考慮し、レベルに応じた班分けなど対応していく。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業時間内で実技試験、発表、演習等を課すので、評価を確認したい学生には次の講義で対応する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	授業は、テニスコートで行う。第1回目の授業には必ず出席すること。雨天により体育館に場所を変更になることがあります。

科目名	文章表現法基礎編 A (FV21P120)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題 「あなたの趣味・特技」について文章を作成する。
2 回	課題 「他者と話すときに心がけていること」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
3 回	課題 「今までで一番印象に残る出来事」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
4 回	課題 「社会人になるにあたっての抱負」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
5 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイント指導する。
6 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に修正点を指導する。
7 回	課題 「少子高齢化について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと (3 0 分)。 予習：課題 の概要を準備しておくこと (6 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。
2 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (9 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。
3 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (9 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。

4 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと（90分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
5 回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること（90分）。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（90分）。
6 回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（90分） 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
7 回	予習：課題 について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（90分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
8 回	これまでの授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（90分）。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%）
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版 / 井下千以子 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4-7664-2107-1
関連科目	文章表現法基礎編B、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟 4階 419 研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分

	以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。 グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション基礎編 A (FV21P130)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	さまざまなプレゼンテーションの構成を理解する。
3 回	設定したテーマをもとにプレゼンの構成を検討する。
4 回	スライド資料を作成する
5 回	スライド資料を作成する
6 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
7 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
8 回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習としてシラバスを確認し、優れたプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2 回	予習として複数のプレゼンテーションの動画をWEBサイト等から視聴し、それぞれのプレゼンテーションの構成と工夫についてまとめておくこと (180分)。
3 回	予習として、授業で紹介したプレゼンテーションの動画を視聴し、優れている点と改善点を整理しておくこと (180分)。
4 回	予習として、授業で紹介した効果的なスライド資料の作成方法に関するWEBサイトを閲覧し、スライド資料を作成するうえでの基本を整理しておくこと (180分)。
5 回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
6 回	プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
7 回	プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。

8 回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと（180分）。
-----	---

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画・方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、よいプレゼンテーションの例として、TED等の動画の視聴を課題として出し、よいプレゼンテーションとは何かを自分で考えさす機会も設ける（教養教育科目の4領域のうちの技能に技能に最も強く関与する）。
達成目標	パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 自分の考えや主張を相手に伝えることができる。
キーワード	コミュニケーション、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	ワークシート10%、提出課題40%、プレゼンテーション50%により成績を評価し、総計で得率60%以上で合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	プレゼンテーション基礎編Bを継続して履修することがのぞましい
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合があります。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 与えられたテーマに対して、資料を作成して個人発表を行う。
課題に対するフィードバック	各個人発表の後に、口頭でフィードバックを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

--	--

科目名	現代人の科学C (FV21P140)
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	吉川泰弘 (よしかわやすひろ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	宇宙の誕生、膨張と銀河系、地球と太陽の誕生、そして生命の誕生。細菌の多様性は、大まかにいえば化学合成独立栄養細菌、嫌気性従属栄養細菌、嫌気性光合成独立栄養細菌、好気性従属栄養細菌というような順序で出来上がってきたと考えられる。その間に、真正細菌から古細菌が分岐し、由来は、現在でも明らかではないがウイルスが出現した。この経緯を紹介する。
2 回	モネラ界（原核細胞の世界、細菌）の生物から、核と核膜、ミトコンドリアあるいは葉緑体、その他細胞内小器官（リソソーム、ゴルジ体など）を持つ単細胞の真核細胞生物（原生動物、藻類）が出現した。真核細胞の出現機構はまだ不明であるが、原核生物（2種類の細菌、あるいは古細菌と真正細菌）が合体した可能性が考えられる。ミトコンドリアはαプロテオ菌由来、葉緑体はシアノバクター由来と考えられる。真核細胞の特性を紹介する。
3 回	10億年くらい前に、単細胞生物は多細胞生物となった。単細胞生物が群をなし、表層と内層に分かれて、体細胞と生殖細胞、組織・器官を形成するようになった。ミトコンドリアを保有する多細胞群は真菌、あるいは2胚葉性動物、3胚葉性の扁形動物、線形動物（条虫や吸虫、線虫）となった。藻類から多細胞化したものが植物となり、5界説がすべて揃う過程を学修する。
4 回	旧口動物の扁形動物は軟体動物に進化し、線形動物は甲殻類（エビ、カニ）からさらに節足動物（昆虫類）に進化して1つの頂点に立つ。新口動物は棘皮動物から、脊索動物を経て、脊椎動物への進化を進める。無顎類から、軟骨魚類、硬骨魚類に進化する。生体防御の最終段階の細胞性免疫、液性免疫を獲得するのが魚類である。魚類から四肢を発達させ、陸上に上がるのが両生類である。陸上で生活するためには鰓呼吸から肺呼吸へと大変化を遂げる。循環器系、内分泌系、神経系の原型はほぼ完成する過程を学修する。
5 回	爬虫類類は恐竜として全盛をむかえ、翼竜は空を飛び、爬虫類の頂点といえる鳥類が分岐する。進化はネオテニー（幼形成熟）と言われるように、幼形で成熟する特質を持つ。空を飛ぶための機能的進化は、昆虫に類似した側面を持つ。また、形態的には哺乳類で空を飛び、翼手目にも類似している。爬虫類と分岐した哺乳類は、卵生から胎生へと変化し、哺乳により子を育てる。齧歯類に類似した祖先から、多くの哺乳類が分岐した経緯を学修する。
6 回	サル類：霊長類は約220種といわれている。7000万年前くらいに霊長類として分岐し、原猿類と真猿類が分かれ、オラウータン、ゴリラが分岐し、ヒトともっとも近いチンパンジーと別れたのが500～700万年前といわれている。現生人類の直接の祖先は6万年前にアフリカ大陸を出たと思われる。ここでは人はどこまでサルか？について比較生物学を展開する。
7 回	6回までで生物進化の概要を講義した。進化の過程をゲノム、増殖・生殖戦略の共通性と多様性、組織・臓器の機能・形態、神経系・生体防御系、内分泌系などの進化という見方で振り返ってみる。それはまた、受精卵からの個体発生とダブる側面を持っていることを学修する。
8 回	このように、生物進化は多様性を生み、現在もその末裔が生物界を作り上げている。同一空間に多くの生物種が存在するためには、共生、寄生、感染といった相互作用を持ち、食料・環境の循環を

	基盤に、一つの世界を作り上げている。8回では、これまでの講義を振り返り、生物学では生物進化における共通性と独自性、多様性を理解し生物間の相互作用を理解することであることを学修する。
--	---

回数	準備学習
1 回	細菌は一般にバイキンと呼ばれて嫌われてるが、空気中の窒素や酸素の産生、吸収に重要である。またバイオマスで注目されるように資源循環にも役立っている。確かに感染症の病原体として問題もあるが、細菌感染症などを統御する抗生物質も細菌や真菌によってつくられるものがほとんどである。細菌が出現しなければ、その後の生命体は存在しなかったかもしれない。細菌の役割を調べてみる。
2 回	真核生物のうち動物、植物、真菌を除いたものを原生生物という、ややネガティブな定義である。さらに原生生物のうち葉緑体をもって光合成をするものが藻類、ミトコンドリアを持つ従属栄養体が原生動物である。原生動物のうちで病原性を持つものを原虫と定義している。このステージでは無性生殖で増殖するもの、無性生殖と有性生殖をするものが出現する。原虫の生活環を類型化すること。
3 回	扁形動物である条虫、吸虫は、複雑な生活環を持つものが多い。1つ、2つといった中間宿主を持つ。終宿主で交配、受精卵を排出し、中間宿主で無性生殖するという戦略を持つもの、また雌雄同体のものが多い。線虫では雌雄異体のものが増える。吸血昆虫などを利用して、感染域を広げる戦略をとるものもある。寄生虫と中間宿主の関係を整理すること。
4 回	甲殻類、昆虫はウイルス、細菌、原虫などの立派な宿主である。一方で吸血昆虫はウイルスや細菌、原虫などを運び、ダニなどはミツバチの幼虫に感染する寄生虫である。また、十分な免疫系が発達していないにも拘らず蜂や蟻などは巨大な社会を形成し問題なく暮らしている。彼らがどのような能力を持っているのかは興味ある課題である。また海から陸上に上がったのは両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類だけでなく昆虫類やカタツムリ、ナメクジのような陸生巻貝もある。環境変化にどのように適応したか調べる。
5 回	鳥類は爬虫類から進化した一つの頂点といえる。しかし、哺乳類と比較すると、多くの点で共通する部分と異なる点がある。また鳥類でも空を飛ぶものと飛ばないものがあり、昼行性のものと夜行性のものがある。その点は哺乳類も同じである。生活空間の類似した哺乳類と鳥類で形態と機能を比較してみる。
6 回	最も身近なサル類は多くの点でヒトに類似している。大きな違いがあるとすればやはり、脳構造であろう。しかし、構造といっても量的な違いである。ヒトとサル類（原猿、新世界ザル、旧世界ザル、特に尾長ザル、チンパンジー）とヒトの脳についてどのような違いがあるか整理してみる。また脳に関連する機能や社会性の違いも比較してみる。
7 回	神経系、生体防御系、内分泌系、呼吸器系、造血系、消化器系（肝臓、膵臓を含む）、泌尿器系（腎臓）、骨格・筋肉系を多細胞動物について、どれでもよいから、1～2つほど進化的にどのように変わったかを纏めてみる。
8 回	最近、国際的にOne World, One Healthという言葉が使われるようになっている。ここで学んだ生物進化と多様性が、このコンセプトとどのように関連しているか考え、まとめる。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものも含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・
------	--

	技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学C」では、観察も交えながら、主に生物・地学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 地球上に最初に現れた生物は細菌（約40億年前）で、地球の生命の歴史の約半分は細菌の世界である（ウイルスは30億年くらい前に出現したと考えられている）。約20億年前に真核生物（原生生物：原生動物と藻類）が登場し、10億年前に多細胞生物（真菌、寄生虫）が登場した。寄生虫は節足動物や軟体動物へと進化し、5～6億年前のカンブリア紀の後に高等多細胞生物が出現し、脊椎動物が魚類から哺乳類へと進化、霊長類の中から人類へと進化した。生命の連続性と多様性を基盤として、単純系から複雑系への生物変化を学修する。
達成目標	地球上に生存する様々な生物の多様性を理解すること。またその多様性がどのような経緯をたどってきたのか、それぞれの生物種は他の生物種とどのような関係を持っているのか？将来の進路を考えて、生物多様性の中でも、通常病原体と言われているような地球の初期から出現した生物群と宿主と言われる最後に出現した生物群（ヒトや家畜）に至るまでの連続性を理解し、説明できること。
キーワード	細菌、原虫、真菌、寄生虫、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施する質疑応答20%、解答の説明能力（メール回答）30%、定期試験（正誤課題、5択問題）50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。スライドと討議、質疑応答で授業を進める。
関連科目	獣医の専門科目、獣医保健看護の専門科目の基礎となる。感染症学、病原体科学、組織形態・機能学等に関連する。
参考書	生物進化の謎と感染症 / 吉川泰弘 / NHK出版 / 978-4-14-910914-5 講義内容と質疑応答例は、ホームページ(https://www.ayyoshi.com 、現代生物進化)あるいはポータルサイトの「講義資料」にアップロードしている。
連絡先	獣医学部棟 6 階学部長室
授業の運営方針	パワーポイントで説明、試験は広範囲なので本質的なことを理解する。 講義内容を予習し、質問等を考えておくこと。
アクティブ・ラーニング	https://www.ayyoshi.com の「現代生物進化」をみて、自分の理解度をチェックする。
課題に対するフィードバック	模範回答はネットおよびポータルサイトに公開します。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。←必ずご記入してください。
実務経験のある教員	ア) 国立予防衛生研究所 イ) 感染症法の作成に関与、狂犬病予防法の改正、食品安全委員会でのBSEトレサビ法等について国民に解説し、動物医薬事害議会で議長として生物製剤の害議を進めた。
その他（注意・備考）	

科目名	キャリア形成講座 A (FV21Q120)
英文科目名	Career Design A
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ)、小林忠資(こばやしただし)、戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	アイスブレイクを通して他人とコミュニケーションをとることへの抵抗感をなくす。 (渡邊 剛央)
2 回	テストを通して自己分析をする。 (小林 忠資)
3 回	自分史の作成を通して自己分析をする。 (小林 忠資)
4 回	社会人として求められている能力(コンピテンシー)について知る。 (戸田 修司)
5 回	自分の大学での目標を明確にする。 (戸田 修司)
6 回	映像から将来に必要な能力を理解する。 (小林 忠資)
7 回	自分の将来像を明確にする。 (渡邊 剛央)
8 回	これまでの授業を振り返る。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	予習として、自己PRを考えてくること。(90分) 復習として、他人与人とのコミュニケーションをとるうえでの改善策とよりより自己PRを行うための改善策を考えること。(90分)
2 回	自分の能力、性格、価値観、興味についてそれぞれ整理し、自己理解を深めてくること(180分)
3 回	これまでの自分の歩みを振り返り、自分の年表を作成すること(90分)。また、自分にとっての10大ニュースを選び、その理由をまとめてくること(90分)
4 回	予習として、コンピテンシーとは何か、具体的な内容について調べておくこと。(60分) 復習として、目標シートを完成させてくること。(120分)
5 回	大学における自己の目標を整理しておくこと。(90分)大学生活の目標に基づく今後の具体的なプランを考えること。(90分)
6 回	社会人として働くうえで必要な能力について自分の意見をまとめてくること(180分)。
7 回	予習として、自分の将来像(20年度の自分)を考えてくること(90分)。復習として、授業の振り返りを通じて、自分の将来像を見直すこと。(90分)
8 回	予習として、これまで授業を振り返り、学んだことをまとめる。(90分) 復習として、今後自分が成長するために必要なことをまとめる。(90分)

講義目的	社会で必要とされる力(コミュニケーション力・表現力・チームワーク力)を実践的な演習を通じて習得する。段階的なスキルアップワークと発表機会を通じて、主張力・傾聴力・展開力を強化し、就活対策のみならず、社会人となって以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ。達成目標は下記の通りである。 コミュニケーション力、表現力、チームワーク力、プレゼン力のレベルアップを、ペアワークおよびグループワークを通じて実現すること。 自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむこと。 発想～ミーティング～プレゼンの過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特性・強み・弱みを知ること。 教養教育科目4領域の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 他人と積極的にコミュニケーションをとることができるようになること。

	○ 自分の意見を分かりやすく他人に伝えることができるようになること。 ○ 他人と協力をして目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成，コミュニケーション力，表現力，チームワーク力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回個人が提出するレポートにより，きちんと振り返りができたかどうかを評価し，60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	キャリア形成講座B
参考書	実践キャリア考―体験からキャリアを考える／一般財団法人全国大学実務教育協会／実教出版／978-4407332261
連絡先	授業代表：渡邊 剛央 研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	ワーク中心の授業なので，積極的にワークに参加することがもとめられる。
アクティブ・ラーニング	○ ディスカッション グループや教室全体で，様々なテーマに関するディスカッションを行う。 ○ ライティング 毎回，授業を振り返るためのレポートを作成する。
課題に対するフィードバック	レポートに対するフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので，配慮が必要な場合は，事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが，他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学 B (FV21Q130)
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	財部健一 (たからべけんいち)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス、グループ分け。配布資料を参考にインパクトの大きな課題選択と 2 回目以降の進め方のガイダンス。
2 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定 (アクティブラーニング 1)
3 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定 (アクティブラーニング 2)
4 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価 (アクティブラーニング 3)
5 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価 (アクティブラーニング 4)
6 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価 (アクティブラーニング 5)
7 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価とまとめ (アクティブラーニング 6)
8 回	アクティブラーニング 6 のまとめの報告

回数	準備学習
1 回	講義目的、達成目標を学習し単位目当ての安易な履修は避けること。(標準学習時間 30 分)
2 回	インパクトの大きな課題について、各自の意見を用意しておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	アクティブラーニング 1 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	アクティブラーニング 2 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	アクティブラーニング 3 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	アクティブラーニング 4 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	アクティブラーニング 5 により設定された課題の事前学習しておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	アクティブラーニング 6 のまとめの報告準備をしておくこと。(標準学習時間 90 分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー (知識のみならず科学的なものの見方も含む) を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学B」では、実験あるいは実習あるいは討論を交えながら、主に物理・化学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	未来社会を創る大学生に求められる新しい価値の創出力に必要なアカデミックスキルであるアクティブラーニング (自ら調べ、チームで考え、新しい価値観である新しい結論を導く) を体験し、問題発掘、対処、解決、浸透法などの習慣を身に付ける事を目標とする。習慣には、人の話を聞く (多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を学ぶ等々)、自分の意見を相手に分かりやすく述べる (順序立てて考え述べる)、議論に積極的に参加する、仲間と強調して一つの課題に取り組む、グループで決めた学習ルールを守る等の態度、方法の習得が含まれる。
キーワード	インパクトの大きな科学、技術課題、説明責任、新しい価値の創出、新しい価値の浸透、アクティブラーニング
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	定期試験は行いません。第 8 回の報告が 60 %、各回のアクティブラーニングでの積極性 40 % とする。
教科書	なし
関連科目	プレゼンテーション基礎編 A、B、「学びの基礎論 A、B」、「教養演習 A、B」などが平行履修できれば望ましい。
参考書	宇沢弘文/社会的共通資本/岩波新書/2000:アレックス・ペンランド/小林啓倫訳/ソーシャル物理学/草思社/2015
連絡先	岡山キャンパス D2 号館 3F 財部研究室 電子メール takarabe@das.ous.ac.jp
授業の運営方針	・試験形態はレポート提出とする。 ・提出課題については、講義中の板書で解説を行う。 ・講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、事前に申し出ること。更に取得したデジタルデータについては、個人で利用する場合に限る。他者への再配布 (ネットへのアップロードや SNS 掲載を含む) は厳に禁止する。
アクティブ・ラーニング	・4 人 ~ 6 人のグループに分ける。

ゲ	・ ほぼ毎回、テーマ（例えば、「ハインツの薬」問題）について、各自の感想表明、グループ内他者の感想との違いあるいは共通性の理解を行う。 ・ 感想表明あるいは意見表明は全員がグループリーダーの差配の基で行う。 ・ 講義最終段階で解決策についての提案書を作成し、発表する。
課題に対するフィードバック	・ 課題に対する解説は講義中に口頭説明により行う。 ・ 受講生から出された意見にはその都度コメントし、フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供します。配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。 ・ 配布資料の多い講義科目です。録画データなどの他者への再配布（SNSなどネットへのアップロードを含む）や転用は禁止します。 ・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討します。事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。講義資料は講義開始時に配布する。ワークショップ形式で行うため、60名以上の場合は受講制限する可能性がある。

科目名	文章表現法応用編 A (FV21U210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。レポートおよび小論文に加えて、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の方法、その中で自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。課題 「学生生活で苦労したこと」について文章を作成する。
2 回	課題 「あなたの長所と短所」について文章を作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
3 回	課題 「あなたを成長させたこと」についてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
4 回	課題 「災害に強いまちづくりについて」についてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
5 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」について (1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行った上で、説得力を高め自己の主張を明確に伝えるためのポイントを指導する。
7 回	課題 「地域産業の振興について」についてレポートを作成する。グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでのグループワークを通して気づいたことや学んだことを含め、文章作成において必要なことを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと (30 分)。 予習：課題 の概要を準備しておくこと (60 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
2 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
3 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
4 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
5 回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料を準備してくること (90 分)。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること (90 分)。
6 回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
7 回	予習：課題 について調べ、レポートの概要をまとめておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
8 回	これまで授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと (90 分)。

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、さまざまな種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な対応力を養う。エントリーシートや筆記課題の文章がしっかり書けることを目標とする。具体的には、文章スキルの大切さ、文章表現の注意点 リライトのポイント、表記・表現のポイント、小論文を書く (800字の組み立ての説明・文章化)、ストーリーを書く (400字・800字のストーリーを構想)、広告文を書く (指示されたテーマで広告コピーを構想と講評)、文章実務の実例 (ビジネスレターや履歴書、エントリーシートのポイント、エントリーシート作成、契約書や企画書) 等をテーマに取り上げる。教養教育科目の4領域のうち、「技能」と深く関連する。
達成目標	・文章作成上の基本的なルールを身につけ表現できる。 ・個々のテーマに沿って、自身の考えを文章で表現できる。 ・自身の考えの根拠を具体的に示した上で文章を作成できる。 ・レポート、小論文、エントリーシート等の字数制限など作成条件のある文章を、条件を満たした上で適切に作

	成することができる。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出(60%)、最終評価試験(40%)を合計100点とし、60点以上を合格とする。
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版 / 井下千以子 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4-7664-2577-2
関連科目	文章表現法応用編B、文章表現法基礎編AB、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション応用編 A (FV21V210)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	聴衆に合わせたプレゼンテーションの方法を理解する。
3 回	発表資料を作成する。
4 回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
5 回	企画案のプレゼンテーションについて説明する。
6 回	発表資料を作成する。
7 回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8 回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習としてシラバスを確認し、就職活動や研究発表に求められるプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2 回	MOMO CAMPUS上にあるプレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編Bの配付資料を読み、プレゼンテーションの基本を整理しておくこと (180分)
3 回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
4 回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
5 回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。
6 回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
7 回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
8 回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。

講義目的	本講義では、大学での研究発表や就職活動、就職後のビジネスや職務、地域社会での活動に必要なプレゼンテーションおよびコミュニケーション力の養成をめざす。具体的には、まずプレゼンテーション用ツールの長所と短所、コミュニケーションにおける自己分析の大切さを理解した上で、必要となる情報の収集と整理のポイント、スクリプト作成上の注意点、プレゼンテーションで用いる技法とその効果について解説する。そして受講生による演習を通じて、プレゼンテーション技法とコミュニケーション意識のレベルを確認し、必要な改善を指導する。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの技法と発想を理解し、コミュニケーションのスキルを身に着ける。 就職活動や研究発表、ビジネスに必要なコミュニケーション力を養う。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出 (20%)、中間発表 (40%)、最終発表 (40%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編Bを履修しておくことが望ましい。
参考書	適宜紹介する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為 (私語、立ち歩く等) はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。

	・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマについて発表する
課題に対するフィードバック	発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 発表に対して、学生が紙面でピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学D (FV21W110)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	澤見英男 (さわみひでお)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	アラビア数字、漢数字、ローマ数字などの数詞による数値表現と十進数の接頭辞について学ぶ
2 回	n 桁のr進数を用いた四則演算について理解をし、減算を上位桁から行うといった日常でも使える補数のプチ応用についても学ぶ
3 回	コンピュータの歴史について学習し、計算機の応用例として、多桁乗算により精度が百桁以上になる階乗の値を計算できることと高精度の除算と加算による指数関数の底（ネイピア数）、精度百万桁以上の円周率の求め方についても学ぶ
4 回	統計処理で用いる、母集団、平均、標準偏差、偏差値などについて理解をし、簡単な例題を通して、母集団からの乖離の程度を偏差値表により評価できることを学ぶ
5 回	座標系と座標変換について理解をし、日常生活に密着した応用例として、夏至と冬至の日の出と日没時間（日照時間）の求め方と、高緯度地域で白夜の現れることを学ぶ
6 回	照明光でもある太陽光の性質と、黒体放射の理論式に基づく白色光の三原色を用いた表現方法について理解し、ケルビン単位とした照明光の色温度および三原色と人間の視覚特性との関係を学ぶ
7 回	英文書籍におけるアルファベット文字の出現頻度を基に、0 と 1 の組み合わせにより英文を符号化・復号化できることを学び、情報量（エントロピ）をビットで評価することの意味を理解する
8 回	総合演習として模範解答の板書を通した相互学習により学習してきた内容の理解度を確認した後、最終評価試験を受ける

回数	準備学習
1 回	インターネット検索により予備知識を得ておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでに学習してきたことを確認しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では、コンピューターに関係する分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	日常的に用いているアラビア数字、漢数字、ローマ数字を用いた計算法について理解する。応用例のひとつとして、高精度なネイピア数や円周率を求めるための多桁計算アルゴリズムについて理解する。偏差値表を用いた簡単な統計処理を行えるようになる。アルファベットの頻度分布を用いた符号化・復号化の演習を通して情報量の単位ビットという概念を理解する。人間の視覚特性と照明光の色温度の単位ケルビンについて理解する。コンピュータグラフィックスで多用される座標変換、右手系と左手系について理解を深める。
キーワード	数詞と数値、アラビア数字、漢数字、ローマ数字、接頭辞、進数、コンピュータの歴史、多桁計算、階乗、ネイピア数、円周率、ガウス分布、偏差値表、情報量、エントロピ、座標変換、黒体放射、色温度、ケルビン、人間の視覚特性
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（評価割合30％）とレポート（評価割合30％）および試験（評価割合40％）の総計が60％以上を合格とする
教科書	講義開始時に必要なプリントを配布するが、必要な資料は講義用サーバーからダウンロードして用いることができる(http://café.mis.ous.ac.jp/Veterinary/)
関連科目	現代人の科学A,B,C
参考書	なし

連絡先	電子メール： sawami@mis.ous.ac.jp（件名および発信者名または学番は必須）
授業の運営方針	板書を含む演習を通して習熟度の確認をしながら進めて行く。演習課題は期限内に提出すること。配布資料の該当部分をよく読んでおくことを必要とする。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習課題の板書を通じて理解度を確認できるようにする
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	レポート課題により受講生の理解の度合いを確認し、演習問題や板書による模範解答の提示により理解のレベルを揃えるようにする

科目名	企業と人間 A (FV21W120)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	八木力俊 * (やぎりきとし*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション～企業組織とキャリア：授業の進め方を解説した後、企業（組織）の中でのキャリアデザインについて学習する
2 回	企業寿命と人間の管理：企業が経営(存続)する意味と、そこで働く人間の管理について、現代の企業を例に概観する
3 回	企業組織における職場の人間関係：階層化、専門分化された企業組織における人間の職務について解説する。また、相互理解の取り方や協力することについて学習する
4 回	職場の人間関係・従業員の心理的側面：企業・職場における人と人との関りについて学ぶと同時に、従業員の社会心理的な側面（傾向）について概説する
5 回	企業組織でのコミュニケーション：階層構造や年齢の違い、外部との交渉など、様々な立場での意思疎通について学び、対話の基本を学習する
6 回	組織における合意形成と決定：組織内で階層の違いで変化する職務内容を学び、ミーティングなどで合意形成を行うためのスキルを学習する
7 回	従業員の職業価値へのアプローチ：H. マズローやD. マクレガーなどの従業員の価値に注目した事例を紹介しつつ、自己分析を通じて仕事に対する価値観（職業観）を確認する
8 回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行い、その後（45分）で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1 回	キャリアデザインとは何か事前にWeb等で学習しておくこと（平均学習時間約30分）
2 回	企業の存在理由について事前にWeb等で学習しておくこと（平均学習時間約60分）
3 回	企業組織の階層や専門分化などの組織図をWeb等で調べておくこと（平均学習時間約30分）
4 回	「アサーティブ」の技術及び「メンタルヘルス」問題について、事前にWeb等で調べておくこと（平均学習時間約60分）
5 回	会話と対話の違いについて調べておくこと（平均学習時間約30分）
6 回	「管理職の職務」、「ファシリテーション」、について、事前にWeb等で調べておくこと（平均学習時間約60分）
7 回	日本人の仕事に対する考え方（職業観）の特徴について、働くときの意識と就業行動（総務省）などから観察しておくこと（平均学習時間約60分）
8 回	講義ノートを整理しなおし、参考書等を図書館等で読み、重要な事柄をノートしなおしておくこと。また、質問事項について纏めておくこと

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力、コミュニケーションスキルの習得を促す。また状況に応じた最適な判断をするための方法として、資料を読み解く力、データを分析する力を養い、文章力や読解力の向上も目指したい（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業と人間をめぐる社会現象（。。。問題）を学問的に解釈し、あわせて自己の卒業後の企業社会における職業人生の送り方をデザインする際の基礎を養うこと
キーワード	科学的管理、官僚制、リーダーシップ、キャリア形成、マネジメント、コミュニケーション
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する 達成目標である、「企業と人間をめぐる社会現象」の理解と、「自己の職業人生の送り方をデザイン力」を確認する 100点満点中60点以上を合格とする
教科書	使用しない
関連科目	キャリア形成講座
参考書	各回に適宜指示する
連絡先	岡山校キャリア支援センター
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい。 ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める。

	・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい。 ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること
実務経験のある教員	・社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する。
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい

科目名	企業情報特論A（FV21X210）
英文科目名	Business Leader Lecture Series A
担当教員名	中村修（なかむらおさむ）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。
2回	講演テーマ 鳥獣被害の現状と対策 講師 今治市農林振興課
3回	講演テーマ 家畜診療所の業務 講師 愛媛県農業共済組合
4回	講演テーマ ワクチン開発の現状と今後 講師 （株）微生物化学研究所
5回	講演テーマ 「あかね和牛」と「甘とろ豚」の開発と普及 講師 愛媛県畜産研究センター
6回	講演テーマ 飼育係から見た水族館の現場 講師 桂浜水族館（高知）
7回	講演テーマ 企業の未来像 講師 （株）新日本科学（東京都）
8回	講演テーマ 人体薬と動物薬 講師 大塚製薬（株）（徳島県）

回数	準備学習
1回	獣医学部の人材養成の理念と目的を調べる。（標準学習時間60分）
2回	先端ライフサイエンス研究分野、予防医療や医薬品、医療技術分野の人材へのニーズをしらべ学習すること。（標準学習時間60分）
3回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
4回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
5回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
6回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
7回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
8回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）

講義目的	先端ライフサイエンス研究分野において、動物のデータから人のデータへという研究プロセスにおいて、複雑な生命現象を統合的に把握する力を身につけている人材へのニーズが高まっている。又、社会のグローバル化の進展により、家畜越境感染症や人獣共通感染症が世界的に拡大するリスクが高まっている。更に高齢化社会を迎え、これらに関係する予防医療や医薬品、医療技術の開発に伴い動物を用いた研究が期待されるなど、獣医学科、獣医保険看護学科を卒業した人材の活躍の場は、社会に大きく広がりを持っている。そのような中、獣医学が関係する様々な分野から講師をお招きして、就業可能性のある職種の概要や幅広い関連知識を学習することにより、将来の方向性や職業選択の広がりや理解すること、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。（全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、Cに強く関与する。）
達成目標	獣医学部の人材の活躍の場が社会に大きく広がりを持っていることを学び 1）社会との関わりと社会貢献を理解する。（A） 2）就業の可能性のある職種の概要を知る。（C）
キーワード	ライフサイエンス、公共獣医、食の安全、動物と人、創薬
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、都度毎の講義に関するレポート提出が課せられる。レポート（100%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	インターンシップ概論、キャリア形成講座A、キャリア形成講座B
参考書	
連絡先	教学・学生支援部 小野裕紀
授業の運営方針	企業情報特論Bを受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	適宜、優秀レポートを発表することで、フィードバックを行う。

バック	
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講師の変更により、講義テーマが変更される場合があります。

科目名	インターンシップ概論 (FV21Y210)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ), 小林忠資 (こばやしただし), 渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。 (戸田 修司)
2 回	自己PRの基礎 (1) について説明する。自己分析について学習する。 (小林 忠資)
3 回	自己PRの基礎 (2) について説明する。効果的な自己PRのまとめ方を学習する。 (渡邊 剛央)
4 回	エントリーシートの書き方のポイントを説明する。 (戸田 修司)
5 回	企業研究 (公務員を含む) について説明する。 (全教員)
6 回	面接におけるポイントを説明する。 (渡邊 剛央)
7 回	社会人としての必要なマナーについて説明する。 (小林 忠資)
8 回	インターンシップに参加するための準備についてポイントを総括する。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスで講義の進め方を把握しておくこと (6 0 分)。 インターンシップの意義について調べ理解しておくこと (1 2 0 分)。
2 回	これまでの自分を振り返り、自己のプロフィールを考えておくこと (1 8 0 分)。
3 回	前回の内容を踏まえて、内容を整理しておくこと (9 0 分)。 受講後に、最終課題レポートに向けて自己PRを推敲しておくこと (9 0 分)。
4 回	エントリーシートの項目を確認し取り上げる内容を選定しておくこと (9 0 分)。 受講後に、最終課題レポートに向けて項目内容を推敲しておくこと (9 0 分)。
5 回	インターンシップとして希望する先を選定しておくこと (9 0 分)。 受講後に、希望先の必要事項を整理しておくこと (9 0 分)。
6 回	面接において大切なことは何かを調べておくこと (1 2 0 分)。 受講後に、再度ポイントを確認し実際に練習すること (6 0 分)。
7 回	社会人として求められるマナー (常識) について調べておくこと (1 2 0 分)。 受講後に、ポイントを整理しておくこと (6 0 分)。
8 回	これまでの講義内容を整理し、最終課題レポートを推敲し提出の準備をすること (9 0 分)。

講義目的	インターンシップは、企業や団体等において、学生が就業体験をすることによって社会や企業の実情を知り、自らの職業適性や将来設計を考えるとともに、大学における学習教育目標の達成を向上・促進することを目的とする。本講義では、インターンシップにかかる年間スケジュールや実習時間に応じた単位認定基準を提示し、業界・職種・企業研究や仕事・働くことの意味などについて講義する。また、実際にインターンシップを経験した学生の体験談を聞かせ、インターンシップ実習を行う前にインターンシップについての具体的なイメージを持たせる。教養教育科目の 4 領域のうち、「関心・意欲・態度」に深く関連する。
達成目標	・インターンシップに参加する意義を理解することができる。 ・参加の流れと参加するために必要な知識や技能を身につけることができる。 ・インターンシップに参加する上で必要な社会人としての心構えやマナーを身につけることができる。 インターンシップに参加することで、社会に貢献できる人材になることを目指すことを目標とする

キーワード	インターンシップ、企業、公務員、自己PR、エントリーシート、プレゼンテーション、面接
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の提出課題（20%）と最終課題レポート（80%）を総合し100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	なし マイナビ・HPトップ（→インターンシップ）サイト https://job.mynavi.jp/20/pc/ リクナビ・インターンシップサイト https://job.rikunabi.com/2020/
関連科目	インターンシップA・B・C、キャリア形成講座AB、企業情報特論AB、文章表現法基礎編・応用編AB、プレゼンテーション基礎編・応用編AB、教養演習AB、企業と人間AB
参考書	インターンシップ・キャンパスウェブサイト http://www.campusweb.or.jp/internship/web/ キャリア支援センターホームページ http://www.job.office.ous.ac.jp/
連絡先	管理棟 1 階教学・学生支援課キャリア支援係・インターンシップ担当まで、mail：syusyoku@office.ous.ac.jp 講義については、担当代表戸田まで（獣医学部教育病院棟 4 階 4 1 9 研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp）
授業の運営方針	最後に課題レポート（所定の様式あり）を作成し提出することを課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。 グループワーク 5 名程度を 1 グループとして、講義における課題について話し合い、共同作業・発表などを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の提出課題について、次の講義の最初に全体として講評を行う。最終講義の際に、講義全般の総括を行うことで課題に対する講評とする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務（戸田修司）：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として必要な知識やマナーを身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには、この「インターンシップ概論」を必ず履修し修得しておく必要がある。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1 年間 2 1 0 円）へ必ず加入すること。

科目名	日本国憲法【月3木3】（FB201704）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもと はる）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・内容・注意事項について説明する。その後、最近の憲法に関する話題について提供し、憲法を学ぶ意義や目的について考えてもらう。
2 回	この授業の対象である「憲法とは何か」について、特に法律との違いとの関連において講義をする。 [内容] 法とは何か、法の役割と種類、憲法と法律との違い
3 回	日本国憲法に特有の性質である「日本国憲法の特質」についての講義をする。 [内容] 個人の尊重、公共の福祉、民主主義、権力分立、最高法規性
4 回	日本国憲法の中心的部分ともいえるべき人権保障について、まずその対象となる人権の意義・性質についての「人権総論」の講義をする。 [内容] （基本的）人権とは何か、人権の性質
5 回	日本国憲法に定められている「人権の種類」について、7つのグループに分類し、それぞれについて概要を説明する。 [内容] 自由権、社会権、参政権、受益権、包括的基本権、平和的生存権
6 回	日本国憲法の保障する人権は誰に対して認められるのかという「人権の享有主体の問題」について、判例を交えて説明する。 [内容] 法人・外国人の人権、公務員・受刑者の人権
7 回	条文のうえでは14条の1カ条だけであるが、非常に重要な人権である「法の下での平等（平等権）」について、最高裁判例も交えて講義をする。 [内容] 平等の意味、最高裁判例の判断基準、議員定数不均衡（一票の格差）問題
8 回	精神的自由権の中でも特に重要な「表現の自由」について講義を行う。 [内容] 表現の自由の内容、知る権利、二重の基準の理論
9 回	日本国憲法で10カ条近くも使って保障されているにもかかわらず、一般にはなかなか理解されにくい「人身の自由（刑事手続上の諸権利）」についての講義を行う。 [内容] 国家刑罰権の正当性、適正手続の原則と無罪推定の原則、黙秘権・弁護人依頼権など。
1 0 回	今回から憲法の統治機構の部分に移り、まず三権のうちの立法権を担う「国会」についての講義をする。 [内容] 代表民主制、国会の地位、二院制、衆議院の優越、議員特権
1 1 回	三権のうち行政権を担う「内閣」についての講義を行う。 [内容] 行政権と内閣、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能と責任
1 2 回	残りの三権のうち司法権を担う「裁判所」についての講義を行う。 [内容] 司法権およびその限界、司法権の独立、裁判所の組織と権能
1 3 回	裁判所の持つ最も重要な役割である「違憲審査制」についての講義を行う。 [内容] 裁判所と違憲審査権、違憲審査の方法（付随的違憲審査制）
1 4 回	「天皇」および「平和主義」についての講義をする。 [内容] 天皇の地位と法的性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
1 5 回	「憲法改正」についての講義をする。 [内容] 改正の手続、国民投票、改正の限界、憲法改正案の検討
1 6 回	最終評価試験を行い、その後、試験問題およびレポート課題の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容等を確認し、なぜあなたはこの授業を履修し何を学ぶのか、その目的や意義について考えておくこと。履修希望者は必ずこの初回の授業に参加すること。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容を踏まえて、今一度あなたが憲法を学ぶことの意義や目的について考えておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	前回の授業内容である憲法とはどのような法であるかについて、特に法律との違いについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	前回の授業内容である日本国憲法の特質について、特に公共の福祉の意味について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回の授業内容である人権の意義・性質について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回の授業内容である人権の種類について、7つのグループを正しく理解し、どの人権の条文がどのグループに含まれるのかについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。
7 回	前回の授業内容である人権の享有主体の問題について、それぞれの場合の最高裁判例の考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）

	時間120分)
8 回	前回の授業内容である法の下での平等について、授業で扱った3つの最高裁の違憲判決・決定について、それぞれどうして憲法違反とされたのか、最高裁判例の考え方を復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の授業内容である表現の自由について、それを制約する場合の二重の基準の理論について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	前回の授業内容である人身の自由について、なぜ憲法は10カ条近くも使ってこれを保障しているのか、また基本原則である適正手続原則・無罪推定原則という考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	前回の授業内容である国会について、「唯一の」立法機関の意味、二院制が採られていることの意味、衆議院の優越などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	前回の授業内容である内閣について、議院内閣制の意味と関連条文、内閣の構成員や総理大臣の権限などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	前回の授業内容である裁判所について、司法権(とその独立)の意義、限界、裁判所の組織などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業内容である違憲審査制について、憲法81条の理解の仕方、違憲審査の方法などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	前回の授業内容である天皇および平和主義について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16 回	2回～15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。間違いやすい用語(漢字も含む)なども確認しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	大学で「日本国憲法」を学ぶという、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持つかもしれない。しかし、よく考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国や社会の中で生活しているのである。ということは、自分たちが生活している国や社会がどのようなルールや仕組みになっているのかを知り、また今後どうあるべきかなのかを考えるということは、主権者である私たち国民にとって必要不可欠なことだと言える。この授業では、そのような私たちが現在生活している日本という国・社会の基本法であり、またこの国の最高法規である日本国憲法についての基本的な知識や考え方について、具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一種に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 六法を使って、関連する憲法やその他の法令の条文が検索できる。(知識・理解)(2) 日本国憲法に関する基本的な知識(重要判例も含む)や考え方を習得し、正しく説明することができる。(知識・理解)(3) 具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できる。(知識・理解、思考・判断・表現)4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	日本国憲法、立憲主義的憲法、最高法規、個人の尊重、(基本的)人権、三権分立、違憲審査権、そのほか授業内容欄に記載の用語参照
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業内小テスト計3回:評価割合各10%計30%(達成目標(1)～(2)を確認)、憲法条文プリント(5回目の授業までに提出):評価割合10%(達成目標(1)を確認)、課題レポート:評価割合10%(達成目標(3)を確認)、最終評価試験:評価割合50%(達成目標(1)～(2)を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版/宇賀克也・佐伯仁志(編集代表)/有斐閣/ISBN 978-4-641-00919-6(書き込み等が無いものであれば同六法の30年版でも可)
関連科目	法学A・法学B
参考書	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと)
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。(2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明する。(3) 憲法条文プリント(これについても初回の授業時に説明する)は、5回目の授業の回収時まで提出すること。(4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。(5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引き以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしない(ただし、事前に分かっている場合には相談に応じる)。(6) 小テスト・最終試験・レポート等の授業科

	目名・教員名が正しく書けていないものについては評価対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	授業内容によっては授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行うこともある。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう（再提出までしてはじめて成績評価に加える）。最終試験およびレポートについては最終試験後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（１）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず２回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。（２）教職希望者は教育実習期間中にこの授業を同時に受講しないこと。（３）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている事件や裁判などに関心を持つように努めること。

科目名	日本国憲法【水3水4】（FB201705）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
2回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能をはたしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
3回	民主権と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および民主権との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
4回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法9条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法9条の解釈と集団的自衛権について説明する。
5回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
6回	憲法13条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
7回	憲法14条の「法の下での平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
8回	憲法19条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麹町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
9回	憲法20条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法20条3項および89条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
10回	憲法23条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ボボロ事件」を取り上げることにする。
11回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法21条1項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
12回	憲法22条1項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および29条1項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準のの区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
13回	人身の自由に焦点を当てて講義する。具体的には、憲法18条の「奴隷的拘束」からの自由、31条の「適正手続きの保障」、33条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の搜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
14回	憲法25条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
15回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法17条の国家賠償請求権を、後者については、40条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることにする。
16回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。

2 回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
3 回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
4 回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
5 回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
6 回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
7 回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
8 回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分
9 回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
1 0 回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
1 1 回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
1 2 回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分
1 3 回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
1 4 回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
1 5 回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習をしておくこと。60分。
1 6 回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法的问题解決の思考力を身につけること。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート（20点）、小テスト（20点）、最終評価試験（60点）
教科書	テキスト『日本国憲法第4版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2;『法学六法』/石川明・池田真朗等編/信山社
関連科目	法学
参考書	テキスト『法学第4版』（大学教育出版、2018年）等
連絡先	教務課
授業の運営方針	判例を中心に分かりやすい講義を心掛ける。小テストは、受講生を指名し解答とその理由を講義中に尋ねる。
アクティブ・ラーニング	毎回小テストを通じて論点を示し、自分の頭で考える法的思考力を養うように質問をするように指導する。
課題に対するフィードバック	レポートについては解答例を配布し、ポイントの解説を行う。小テストについては、講義中正解を教え、正解となる理由を説明する。最終評価試験については、講義中に重点的に触れた判例等を見直すように指導する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください
実務経験のある教員	元中学校高等学校一貫校教員(英語教諭)。
その他（注意・備考）	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題(小テスト)をマシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。

科目名	科学・工作ボランティア入門【月4木4】(FB208120)
英文科目名	Introduction to Volunteer Activitiy for Science and Technology
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち),吉村功*(よしむらたくみ*),森田明義*(もりたあきよし*),武田芳紀*(たけだよしのり*),高見寿*(たかみひさし*),春日二郎*(かすがじろう*),滝澤昇(たきざわのぼる),山口一裕(やまぐちかずひろ),米田稔(よねだみのる),クルモフバレリー(くるもふばれりー)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(1) 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウェブサイトを紹介する。 (高原 周一)
2回	ガイダンス(2) 講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 (全教員)
3回	発表会準備(1) 発表会の進行について説明する。班分けを行い、班内で自己紹介を行う。発表内容について検討する。 (全教員)
4回	発表会準備(2) 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。発表会の内容を決定する。 (全教員)
5回	発表会準備(3) 科学イベントにおける安全対策について講習する。必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 (全教員)
6回	発表会準備(4) 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。実験・工作の改良・追加を試みる。 (全教員)
7回	発表会準備(5) 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。 (全教員)
8回	発表会準備(6) 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 (全教員)
9回	発表会準備(7) 予行演習の準備を行う。 (全教員)
10回	発表会準備(8) 各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける(予行演習)。それをもとに発表内容を再検討する。 (全教員)
11回	発表会準備(9) 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。

	(全教員)
1 2 回	発表会準備(10) 発表会の準備を完了させる。発表会で同時に発表する班はお互いの内容を紹介し合う。
	(全教員)
1 3 回	発表会(1) 発表会で発表する。他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
1 4 回	発表会(2) 前回に引き続き、発表会で発表する。他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
1 5 回	振り返り 各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。発表会の片づけを行う。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	紹介したウェブサイトを開覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立つような本を探すこと。(標準学習時間120分)
3 回	本やインターネットで発表会に使えるような実験内容を調べる。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。(標準学習時間120分)
4 回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。(標準学習時間120分)
5 回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べる。こと。(標準学習時間120分)
6 回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。こと。(標準学習時間120分)
7 回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。こと。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べる。こと。(標準学習時間120分)
8 回	各人が分担した作業(物品の確保、シナリオ・フリップの作成など)を行うこと。(標準学習時間60分)
9 回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	発表会に向けて準備する。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えてくること。(標準学習時間60分)

講義目的	市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されている。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指す。地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学園内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術全般に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につけるとともに、地域での科学ボランティア活動に参加する意欲を育むことを目的とする。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。 (教養教育科目の到達目標Bに最も強く関与)
達成目標	1. 実験の企画立案、情報の収集、実験原理の理解、材料の確保、実験手法の改善を行い、自分た

	ちで決めた実験を確実に安全に実行できる。(B) 2. 自分たちのグループの活動・発表の総括と他のグループの発表の優れた点を記述できる。(B) 3. グループメンバーと協力し、自らの責任を積極的に果たすことができる。(C) 4. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(C) 5. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(D)
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポートの内容70%(到達目標1~4を確認)、発表会の内容30%(受講生相互の評価も加味、到達目標1、5を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
参考書	「ものづくりハンドブック 1~7」たのしい授業編集委員会/編・仮説社 他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一 (A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607) もしくは科学ボランティアセンター (B4号館1階、TEL: 086-256-9570)
授業の運営方針	・受講希望者が60名を超える場合は初回の講義の参加者から受講生を選抜することがあるので、初回の講義には必ず出席すること。 ・発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験・実習、グループワーク 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、グループ内での討論、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発表会での相互評価結果はWeb上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員)、高見寿(元高等学校教員)、武田芳紀(元高等学校教員)、春日二郎(元中学校教員) 小学校・中学校・高等学校の教員としての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア活動」

科目名	国際バカロレア概論【水5集中】(FB210500)
英文科目名	Introduction to International Baccalaureate
担当教員名	眞砂和典(まさごかずのり)、永留聡*(ながとめさとし*)、高木志保(たかぎしほ)、ダッタシャミ*(だったしやみ*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容・スケジュール、成績評価の方針について説明する。続いて、国際バカロレア(IB)とはどのような教育であるかについて学習する。また、アクティビティを通してこれからの教育について考察する。 (眞砂 和典)
2回	IBの「10学習者像」について学習する。10の学習者像が作られた理念を理解し、その意義を認識する。さらに学習者像を日本の校訓や学校の目標と比較する。 (眞砂 和典)
3回	IBDPのコアの一つである知の理論(Theory of Knowledge・略してTOK)を体験的に学習し理解する。TOKがIB教育においてどのような役割を果たしているのかを理解する。 (眞砂 和典)
4回	IBDPのプログラムモデルを理解し、DPの6つの教科群について学習する。自身の受けてきた教育と比べてみて、その違いを考察する。 (眞砂 和典)
5回	IBにおける「協働設計」を体験的に学習する。グループ学習の利点と欠点について考察する。 (眞砂 和典)
6回	IBにおいて大切とされている「クリティカルシンキング」と「バイアス」の概念について理解する。課題研究論文(Extended Essay、略してEE)について学習する。 (眞砂 和典)
7回	評価するためのルーブリックについて学習する。ルーブリックを使う意義を理解し、ルーブリックを構成するための観点と尺度について学習する。 (眞砂 和典)
8回	プレゼンテーションのためのルーブリック作りを学習し、その意味を理解する。残った時間でグループプレゼンテーションのための準備をする。 (眞砂 和典)
9回	英数学館高等学校の校長、永留聡先生の特別講義:IBDPのコアの一つであるCASを体験的に学習し理解する。 (眞砂 和典)
10回	英数学館高等学校の校長、永留聡先生の特別講義:CASの理解をさらに深め、自分たちが取り組めそうなCAS的活動をグループで考え、発表する。 (眞砂 和典)
11回	東京学芸大学大学院准教授、シャミ・ダッタ先生の特別講義:IB的授業を体験し、IB教育についてより深い理解する。 (眞砂 和典)
12回	東京学芸大学大学院准教授、シャミ・ダッタ先生の特別講義:IB的授業を体験し、IB教育についてより深い理解する。 (眞砂 和典)
13回	グループで作成した教育改革・IB教育に関するプレゼンテーションを発表する。聴講する受講生は、ルーブリック評価で相互評価する。 (眞砂 和典)
14回	グループで作成した教育改革・IB教育に関するプレゼンテーションを発表する。聴講する受講生は

	、ループリック評価で相互評価する。 (眞砂 和典)
15回	グループで作成した教育改革・IB教育に関するプレゼンテーションを発表する。聴講する受講生は、ループリック評価で相互評価する。 (眞砂 和典)
16回	IBの4つのプログラムとIBDPを復習し、まとめとしてIBDPの全体像をさらに深く理解する。 (眞砂 和典)

回数	準備学習
1回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。授業内容を読み、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：『国際バカロレア（IB）の教育とは？』（p.1-5）を読んで学習者像についてまとめておくこと。自身の出身校の校訓や学校の目標を調べ、意味や内容を説明できるようにしておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：『「知の理論」（TOK）指導の手引き』（p.2-4とp.7-10）を読んで要点をまとめておくこと。TOKに関する疑問を書いておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
4回	予習：「DP：原則から実践へ」（p.3-6）と「一貫した国際教育に向けて」（p.12）を読んでIBDPのプログラムモデルについてまとめておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：自ら経験したグループ学習についてまとめてくること。「一貫した国際教育に向けて」（p.26-27）を読んで協働設計についてまとめておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
6回	予習：「クリティカルシンキング」「バイアス」の単語を調べ、まとめてくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
7回	予習：「ループリック」について調べ、まとめてくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
8回	予習：グループプレゼンテーションに使用する資料などを準備し持ってくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：『「創造性・活動・奉仕」（CAS）指導の手引き』（p.2-8）を読んでおくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
10回	予習：『「創造性・活動・奉仕」（CAS）指導の手引き』（p.2-8）を読んでおくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
11回	予習：これまでの授業を振り返り、残るIBに関する疑問や質問をまとめてくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
12回	予習：これまでの授業を振り返り、残るIBに関する疑問や質問をまとめてくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
13回	グループで作成した教育改革・IB教育に関するプレゼンテーションを発表する。聴講する受講生は、ループリック評価で相互評価する。
14回	予習：グループで作成するプレゼンテーションをまとめておくこと。発表のための資料などを準備しておくこと。 復習：今学期の振り返りをする。こと。(標準学習時間180分)
15回	予習：グループで作成するプレゼンテーションをまとめておくこと。発表のための資料などを準備しておくこと。 復習：今学期の振り返りをする。こと。(標準学習時間180分)

16回	予習：配布された資料や自身のノートを読んで、今学期学んだことをまとめておくこと。 復習：今学期の振り返りをする。こと。(標準学習時間180分)
講義目的	IBの4つのプログラムの中にあるIBDPについて学習し、IBの理念に基づく教育を理解する。また、IBDPカリキュラム構成上重要な三つのコアであるTOK(知の理論)、CASのプログラム、EEについて理解する。全体を通して教育改革におけるIBの役割やIBの取り組みをどのように日本の教育に活かしていけるかを考察し、グループプレゼンテーションにおいて修得した知識を披露する。 (教養教育科目の4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与するとともに、IB教員養成プロジェクト科目の修了認定の方針のAにもっとも強く関与する。)
達成目標	1) 10の学習者像の概念を説明できる(A) 2) TOKについての基礎的な概念を説明できる(A・B・C) 3) CAS・EEについての基礎的な概念を説明できる(A・C) 4) DPのプログラム構成と6つの教科群を説明することができる(A) 5) プレゼンテーションを評価するルーブリックの活用方法を説明できる(A・D) 6) 教育改革やIB教育についてグループで発表することができる(A・B・D)
キーワード	IB、IBの4つのプログラム、IBDP、TOK、CAS、EE、10の学習者像、ルーブリック評価、生徒主体、グループ学習
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	Momo-campusの課題管理にて課題提出60%(到達目標1~5)、グループ発表の相互評価 40%(達成目標6)により評価し、総計が60%以上を合格とする。課題レポート、発表の評価にはルーブリック評価を取り入れる。
教科書	使用しない。
関連科目	この科目は IB教員資格(IB Educator Certificate)を取得するための入門科目です。 この先の科目も履修してIB教員資格取得を目指す学生は本科目に引き続き「IB教育課程論」「IB教育方法論」を受講してください。
参考書	・「インターナショナルバカロレア(IB)、日本での現状を探る」 http://souken.shingakunet.com/college_m/2017_RCM202_32.pdf ・文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm ・Resources for schools in Japan http://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/ 『国際バカロレア(IB)の教育とは?』 『「知の理論」(TOK)指導の手引き』 『「創造性・活動・奉仕」(CAS)指導の手引き』 『DP: 原則から実践へ』 『一貫した国際教育に向けて』
連絡先	眞砂和典: 研究室 C7号館2階 研究室 直通電話 086-256-9770 E-mail: masago(アットマーク)ped.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日3時限・木曜日2時限 高木志保: 研究室 C7号館2階 研究室 直通電話 086-256-8467 E-mail: takagi(アットマーク)ped.ous.ac.jp オフィスアワー 火曜日2時限・金曜日3時限
授業の運営方針	・授業資料の配布はMomo-campusを利用する。 ・授業で重視するのは考えること、自分の意見をまとめ発表すること、他者と意見を交換すること。 ・配布する予習・復習課題に沿って授業を進め、グループディスカッションを行うため、予習・復習課題にしっかり取り組むこと。 ・意見を出し合いながら学ぶので積極的に参加する態度が求められます。

	・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切になります。課題を自分の言葉で書き、コピペなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もありますので、絶対に行わないようにしてください。 ・グループワークにも積極的に参加してください。苦手な人はそれほどしゃべらなくてもグループワークに参加できる仕組みがありますので、安心して参加してください。 ・グループワークで学んだり、発表をしたりするので、欠席はしないようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・基本的にはまず自分で考えてから、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループによる発表、その発表の相互評価・自己評価を行います。 ・予習で学習した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表します。
課題に対するフィードバック	・予習復習課題は採点后、点数をつけて返却する。 ・最終課題レポートについては、Momo-campusのフィードバックを利用して評価とコメントを返却する。 ・発表に対するフィードバックは、ループリックによる相互評価・自己評価を行い、Momo-campusのフィードバックを利用して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	眞砂和典 ア) 元関西学院千里国際中等部・高等部 校長 イ) 併設されていたIB校である大阪インターナショナルスクールとIBDPの取得を可能にした千里国際教育現場での経験を活かして、IB教育について講義する。 高木志保 ア) 元関西学院千里国際中等部・高等部 勤務 イ) 併設されていたIB校である大阪インターナショナルスクールとIBDP取得可能であった千里国際教育現場での経験を活かしてIB教育について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	国際バカロレア概論【金5集中】(FB210510)
英文科目名	Introduction to International Baccalaureate
担当教員名	眞砂和典(まさごかずのり)、永留聡*(ながとめさとし*)、高木志保(たかぎしほ)、ダッタシャミ*(だったしやみ*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容・スケジュール、成績評価の方針について説明する。続いて、国際バカロレア(IB)とはどのような教育であるかについて学習する。また、アクティビティを通してこれからの教育について考察する。 (眞砂 和典)
2回	IBの「10学習者像」について学習する。10の学習者像が作られた理念を理解し、その意義を認識する。さらに学習者像を日本の校訓や学校の目標と比較する。 (眞砂 和典)
3回	IBDPのコアの一つである知の理論(Theory of Knowledge・略してTOK)を体験的に学習し理解する。TOKがIB教育においてどのような役割を果たしているのかを理解する。 (眞砂 和典)
4回	IBDPのプログラムモデルを理解し、DPの6つの教科群について学習する。自身の受けてきた教育と比べてみて、その違いを考察する。 (眞砂 和典)
5回	IBにおける「協働設計」を体験的に学習する。グループ学習の利点と欠点について考察する。 (眞砂 和典)
6回	IBにおいて大切にされている「クリティカルシンキング」と「バイアス」の概念について理解する。課題研究論文(Extended Essay、略してEE)について学習する。 (眞砂 和典)
7回	評価するためのルーブリックについて学習する。ルーブリックを使う意義を理解し、ルーブリックを構成するための観点と尺度について学習する。 (眞砂 和典)
8回	プレゼンテーションのためのルーブリック作りを学習し、その意味を理解する。残った時間でグループプレゼンテーションのための準備をする。 (眞砂 和典)
9回	英数学館高等学校の校長、永留聡先生の特別講義：IBDPのコアの一つであるCASを体験的に学習し理解する。 (永留 聡*)
10回	英数学館高等学校の校長、永留聡先生の特別講義：CASの理解をさらに深め、自分たちが取り組めそうなCAS的活動をグループで考え、発表する。 (永留 聡*)
11回	東京学芸大学大学院准教授、シャミ・ダッタ先生の特別講義：IB的授業を体験し、IB教育についてより深い理解する。 (ダッタ シャミ*)
12回	東京学芸大学大学院准教授、シャミ・ダッタ先生の特別講義：IB的授業を体験し、IB教育についてより深い理解する。 (ダッタ シャミ*)
13回	グループで作成した教育改革・IB教育に関するプレゼンテーションを発表する。聴講する受講生は、ルーブリック評価で相互評価する。 (眞砂 和典)
14回	グループで作成した教育改革・IB教育に関するプレゼンテーションを発表する。聴講する受講生は

	、ループリック評価で相互評価する。 (眞砂 和典)
15回	グループで作成した教育改革・IB教育に関するプレゼンテーションを発表する。聴講する受講生は、ループリック評価で相互評価する。 (眞砂 和典)
16回	IBの4つのプログラムとIBDPを復習し、まとめとしてIBDPの全体像をさらに深く理解する。 (眞砂 和典)

回数	準備学習
1回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。授業内容を読み、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：『国際バカロレア（IB）の教育とは？』（p.1-5）を読んで学習者像についてまとめておくこと。自身の出身校の校訓や学校の目標を調べ、意味や内容を説明できるようにしておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：『「知の理論」（TOK）指導の手引き』（p.2-4とp.7-10）を読んで要点をまとめておくこと。TOKに関する疑問を書いておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
4回	予習：「DP：原則から実践へ」（p.3-6）と「一貫した国際教育に向けて」（p.12）を読んでIBDPのプログラムモデルについてまとめておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：自ら経験したグループ学習についてまとめてくること。「一貫した国際教育に向けて」（p.26-27）を読んで協働設計についてまとめておくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
6回	予習：「クリティカルシンキング」「バイアス」の単語を調べ、まとめてくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
7回	予習：「ループリック」について調べ、まとめてくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
8回	予習：グループプレゼンテーションに使用する資料などを準備し持ってくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：『「創造性・活動・奉仕」（CAS）指導の手引き』（p.2-8）を読んでおくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
10回	予習：『「創造性・活動・奉仕」（CAS）指導の手引き』（p.2-8）を読んでおくこと。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
11回	予習：これまでの授業を振り返り、残るIBに関する疑問や質問をまとめてくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
12回	予習：これまでの授業を振り返り、残るIBに関する疑問や質問をまとめてくること。 復習：配布された資料を確認・復習すること。(標準学習時間120分)
13回	グループで作成した教育改革・IB教育に関するプレゼンテーションを発表する。聴講する受講生は、ループリック評価で相互評価する。
14回	予習：グループで作成するプレゼンテーションをまとめておくこと。発表のための資料などを準備しておくこと。 復習：今学期の振り返りをする。こと。(標準学習時間180分)
15回	予習：グループで作成するプレゼンテーションをまとめておくこと。発表のための資料などを準備しておくこと。 復習：今学期の振り返りをする。こと。(標準学習時間180分)

16回	予習：配布された資料や自身のノートを読んで、今学期学んだことをまとめておくこと。 復習：今学期の振り返りをする。こと。(標準学習時間180分)
講義目的	IBの4つのプログラムの中にあるIBDPについて学習し、IBの理念に基づく教育を理解する。また、IBDPカリキュラム構成上重要な三つのコアであるTOK(知の理論)、CASのプログラム、EEについて理解する。全体を通して教育改革におけるIBの役割やIBの取り組みをどのように日本の教育に活かしていけるかを考察し、グループプレゼンテーションにおいて修得した知識を披露する。 (教養教育科目の4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与するとともに、IB教員養成プロジェクト科目の修了認定の方針のAにもっとも強く関与する。)
達成目標	1) 10の学習者像の概念を説明できる(A) 2) TOKについての基礎的な概念を説明できる(A・B・C) 3) CAS・EEについての基礎的な概念を説明できる(A・C) 4) DPのプログラム構成と6つの教科群を説明することができる(A) 5) プレゼンテーションを評価するルーブリックの活用方法を説明できる(A・D) 6) 教育改革やIB教育についてグループで発表することができる(A・B・D)
キーワード	IB、IBの4つのプログラム、IBDP、TOK、CAS、EE、10の学習者像、ルーブリック評価、生徒主体、グループ学習
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	Momo-campusの課題管理にて課題提出60%(到達目標1-5)、グループ発表の相互評価 40%(達成目標6)により評価し、総計が60%以上を合格とする。課題レポート、発表の評価にはルーブリック評価を取り入れる。
教科書	使用しない。
関連科目	この科目は IB教員資格(IB Educator Certificate)を取得するための入門科目です。 この先の科目も履修してIB教員資格取得を目指す学生は本科目に引き続き「IB教育課程論」「IB教育方法論」を受講してください。
参考書	・「インターナショナルバカロレア(IB)、日本での現状を探る」 http://souken.shingakunet.com/college_m/2017_RCM202_32.pdf ・文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm ・Resources for schools in Japan http://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/ 『国際バカロレア(IB)の教育とは?』 『「知の理論」(TOK)指導の手引き』 『「創造性・活動・奉仕」(CAS)指導の手引き』 『DP: 原則から実践へ』 『一貫した国際教育に向けて』
連絡先	眞砂和典: 研究室 C7号館2階 研究室 直通電話 086-256-9770 E-mail: masago(アットマーク)ped.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日3時限・木曜日2時限 高木志保: 研究室 C7号館2階 研究室 直通電話 086-256-8467 E-mail: takagi(アットマーク)ped.ous.ac.jp オフィスアワー 火曜日2時限・金曜日3時限
授業の運営方針	・授業資料の配布はMomo-campusを利用する。 ・授業で重視するのは考えること、自分の意見をまとめ発表すること、他者と意見を交換すること。 ・配布する予習・復習課題に沿って授業を進め、グループディスカッションを行うため、予習・復習課題にしっかり取り組むこと。 ・意見を出し合いながら学ぶので積極的に参加する態度が求められます。

	・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切になります。課題を自分の言葉で書き、コピペなどの剽窃がある場合は、成績評価の対象としない場合もありますので、絶対に行わないようにしてください。 ・グループワークにも積極的に参加してください。苦手な人はそれほどしゃべらなくてもグループワークに参加できる仕組みがありますので、安心して参加してください。 ・グループワークで学んだり、発表をしたりするので、欠席はしないようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・基本的にはまず自分で考えてから、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループによる発表、その発表の相互評価・自己評価を行います。 ・予習で学習した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表します。
課題に対するフィードバック	・予習復習課題は採点后、点数をつけて返却する。 ・最終課題レポートについては、Momo-campusのフィードバックを利用して評価とコメントを返却する。 ・発表に対するフィードバックは、ループリックによる相互評価・自己評価を行い、Momo-campusのフィードバックを利用して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	眞砂和典 ア) 元関西学院千里国際中等部・高等部 校長 イ) 併設されていたIB校である大阪インターナショナルスクールとIBDPの取得を可能にした千里国際教育現場での経験を活かして、IB教育について講義する。 高木志保 ア) 元関西学院千里国際中等部・高等部 勤務 イ) 併設されていたIB校である大阪インターナショナルスクールとIBDP取得可能であった千里国際教育現場での経験を活かしてIB教育について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 B (FB210800)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	パーソナリティ心理学：心理検査を基に自分の性格について考え、自己理解を進める
2 回	発達心理学：発達の理論を概説し、人の心の発達について考える
3 回	発達心理学：母子間の愛着の理論を概説し、対人関係を読み解く
4 回	感情心理学：人の感情や欲求の生起メカニズムについて学ぶ
5 回	健康心理学：ストレスについて学び、人のメンタルヘルスについて考える
6 回	臨床心理学：心理的な疾患・障害や心理療法について概説し、心理的な多様性について理解を深める
7 回	臨床心理学：臨床心理学の現場について知り、自分自身の将来に役立てる
8 回	性格、発達、感情、健康、臨床心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握し、自分自身について知っていることを整理しておくこと (120分)
2 回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身がこれまでどのように発達してきたかを振り返っておくこと (120分)
3 回	前回の授業内容の復習に加え、これまでに形成してきた親子関係について振り返っておくこと (120分)
4 回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身が感じる感情の種類について考えておくこと (120分)
5 回	前回の授業内容の復習に加え、ストレスをどのように感じ、それにどのように対処しているのかを考えておくこと (120分)
6 回	前回の授業内容の復習に加え、既知の心理的な疾患や障害について理解を深めておくこと (120分)
7 回	前回の授業内容の復習に加え、心理学の現場についての疑問を明らかにし、整理しておくこと (120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎であるパーソナリティや感情などの領域から応用である健康、臨床などの領域にわたる、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎～応用領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	パーソナリティ、発達、感情、健康、臨床
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出 (35%) 講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) 以上の2点によって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	心理学A、教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「(講義開始までに) シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 B (FB210810)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	パーソナリティ心理学：心理検査を基に自分の性格について考え、自己理解を進める
2 回	発達心理学：発達の理論を概説し、人の心の発達について考える
3 回	発達心理学：母子間の愛着の理論を概説し、対人関係を読み解く
4 回	感情心理学：人の感情や欲求の生起メカニズムについて学ぶ
5 回	健康心理学：ストレスについて学び、人のメンタルヘルスについて考える
6 回	臨床心理学：心理的な疾患・障害や心理療法について概説し、心理的な多様性について理解を深める
7 回	臨床心理学：臨床心理学の現場について知り、自分自身の将来に役立てる
8 回	性格、発達、感情、健康、臨床心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握し、自分自身について知っていることを整理しておくこと (120分)
2 回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身がこれまでどのように発達してきたかを振り返っておくこと (120分)
3 回	前回の授業内容の復習に加え、これまでに形成してきた親子関係について振り返っておくこと (120分)
4 回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身が感じる感情の種類について考えておくこと (120分)
5 回	前回の授業内容の復習に加え、ストレスをどのように感じ、それにどのように対処しているのかを考えておくこと (120分)
6 回	前回の授業内容の復習に加え、既知の心理的な疾患や障害について理解を深めておくこと (120分)
7 回	前回の授業内容の復習に加え、心理学の現場についての疑問を明らかにし、整理しておくこと (120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎であるパーソナリティや感情などの領域から応用である健康、臨床などの領域にわたる、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎～応用領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	パーソナリティ、発達、感情、健康、臨床
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出 (35%) 講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) 以上の2点によって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	心理学A、教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「(講義開始までに) シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 B (FB210820)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	松浦美晴 * (まつうらみはる *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の概要と、「情動と動機づけ」について説明する。
2 回	「対人認知・対人魅力と態度変容」について説明する。
3 回	「援助行動・攻撃行動」について説明する。
4 回	「集団と個人」について説明する。
5 回	「リーダーシップと集団間葛藤」について説明する。
6 回	「人間のコミュニケーション行動」について説明する。
7 回	「情報と人間行動」について説明する。
8 回	「情報化社会での人間行動の変化」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	教科書第7章のp.69～76に目を通し、「演習」p.81「課題1」を行ってくること。(標準学習時間120分)
3 回	教科書第7章のp.77～80に目を通し、「演習」p.83「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
4 回	教科書第8章のp.85～89に目を通し、「演習」p.95「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
5 回	教科書第8章のp.89～92に目を通し、「演習」p.96「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
6 回	教科書第9章に目を通し、「演習」p.107「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
7 回	教科書第10章に目を通してくること。(標準学習時間60分)
8 回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解する。 2) 体系的な理論と関連のトピックについて知識を得る。 3) 心理学の理論と、日常の具体的な人間行動との関連を理解する。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	こころの理解、認知、感情、集団、社会行動
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	達成目標 1) ～ 3) の達成度を評価する最終評価試験 (100%) を行う。
教科書	生活にいかす心理学 ver.2 / 古城和子 (編著) / ナカニシヤ出版 / 4888487057
関連科目	特に指定はない。
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学 TEL : 086-272-6254 (代表)
授業の運営方針	教科書を用いて行う。 教科書中の重要事項やキーワードについて解説するために、パワーポイントによる提示資料を用いる。 提示資料中では、理解を深めるために必要な補足事項について、教科書に記載されていない内容も扱う。 提示資料、配布資料を教員の指定するウェブサイトにアップロードするので、授業の復習に利用してほしい。 アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	個別に資料を基に説明を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	哲学B (FB211300)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2 回	インド哲学 (1) —インド文明の誕生の経緯やヴェーダ聖典について説明した後、ヴェーダを批判した沙門たちの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	インド哲学 (2) —インドの「六派哲学」と呼ばれる、6つの学派の思想について説明した後、西洋思想との類似点について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	中国哲学 (1) —古代中国の「諸子百家」と呼ばれる様々な思想家の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	中国哲学 (2) —日本も含む東アジアに大きな影響を与えた朱子学と陽明学の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	イスラーム哲学 (1) —イスラーム哲学者の中からキンディーとファーラービーという2人の人物の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	イスラーム哲学 (2) —イスラーム哲学者の中からイブン・スィナーとガザーリーという2人の人物の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「哲学」とは何か、「哲学」とはどのような学問であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	ヴェーダ聖典とはどのようなものであるのか、バラモン、沙門とはどのような人たちであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	六派哲学とはどのようなものであり、どんな学派が含まれるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	諸子百家とはどのような者たちであり、彼らが登場した時代背景はどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	朱子学、陽明学とはどのような学問であったのか、またその日本への影響などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	イスラーム教とはどのような宗教であるのか、またキンディーとファーラービーとはどのような人物であったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	イブン・スィナーとガザーリーとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	東洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識は身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 東洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、東洋哲学のおおまかな歴史を理解できる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60%)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し

点)	、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	哲学B (FB211310)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2回	インド哲学(1)―インド文明の誕生の経緯やヴェーダ聖典について説明した後、ヴェーダを批判した沙門たちの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3回	インド哲学(2)―インドの「六派哲学」と呼ばれる、6つの学派の思想について説明した後、西洋思想との類似点について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4回	中国哲学(1)―古代中国の「諸子百家」と呼ばれる様々な思想家の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5回	中国哲学(2)―日本も含む東アジアに大きな影響を与えた朱子学と陽明学の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6回	イスラーム哲学(1)―イスラーム哲学者の中からキンディーとファーラービーという2人の人物の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7回	イスラーム哲学(2)―イスラーム哲学者の中からイブン・スィーナーとガザーリーという2人の人物の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とは何か、「哲学」とはどのような学問であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	ヴェーダ聖典とはどのようなものであるのか、バラモン、沙門とはどのような人たちであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	六派哲学とはどのようなものであり、どんな学派が含まれるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	諸子百家とはどのような者たちであり、彼らが登場した時代背景はどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	朱子学、陽明学とはどのような学問であったのか、またその日本への影響などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	イスラーム教とはどのような宗教であるのか、またキンディーとファーラービーとはどのような人物であったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	イブン・スィーナーとガザーリーとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	東洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識は身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 東洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、東洋哲学のおおまかな歴史を理解できる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し

点)	、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	論理学 B (FB211600)
英文科目名	Logic B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋の論理学というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	インドの医学書『チャラカ・サンヒター』やニヤーヤ学派の根本経典『ニヤーヤ・スートラ』に見られる論理学説を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
3 回	『ヴァイダリヤ論』や『中論』の記述に基づいて、ナーガールジュナの帰謬法を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
4 回	『プラマーナ・サムッチャヤ』などの記述に基づいて、ディグナーガの論理学を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
5 回	『プラマーナ・ヴァールツェティカ』などの記述に基づいて、ダルマキールティの論理学を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
6 回	公孫竜や墨家集団の唯名論的思想を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
7 回	荀子の実念論的思想を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	東洋の論理学とはどのようなものであるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	インドの医学書『チャラカ・サンヒター』、ニヤーヤ学派の根本経典『ニヤーヤ・スートラ』とはどのようなものであるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	ナーガールジュナとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	ディグナーガとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	ダルマキールティとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	公孫竜とはどのような人物であり、墨家とはどのような集団であるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	荀子とはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。

講義目的	論理学という学問の初歩をひと通り理解し、その知識を身につけたうえで、他のすべての学問を学ぶ際や日常生活においても、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標としている。 論理学の学習に最低限必要な知識を身につけ、論理学の概要を説明することができる。(A) 論理的な知識に基づいて思考し、物事を考えるうえで適切な判断を下すことができる。(B)
キーワード	論理、インド論理学、仏教論理学、名実論争
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。論理学をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	桂紹隆『インド人の論理学』(中公新書) 加地伸行『中国人の論理学』(ちくま学芸文庫)
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。

	・練習問題はプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 B (FB211800)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	古代インド宗教の倫理—バラモン教、沙門宗教の倫理を、戒律、業の法則などを中心に説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	古代中国宗教の倫理—儒教の倫理を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	日本の伝統的倫理—日本の倫理思想史をたどることにより、日本の伝統的倫理を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	現代の倫理 (1) —死刑問題を取り上げて、存置派・反対派双方の意見を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	現代の倫理 (2) —自死問題、そしてその延長線上にある尊厳死・安楽死問題を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	現代の倫理 (3) —脳死・臓器移植問題を取り上げて、推進派・反対派双方の意見を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	東洋の「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	バラモン教、沙門宗教というのはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	儒教とはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	日本の伝統的倫理とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	死刑制度の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	自死、尊厳死、安楽死の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	脳死・臓器移植の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を理解できる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題に関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。

	・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 B (FB211810)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学ぶ。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志
2 回	現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学ぶ。ベンサム、基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、現代社会との関係について学ぶ。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義 “善と快楽”
3 回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学んでいく。キーワード：トロッコケース、9.11
4 回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証する。キーワード：GDP、幸福度調査
5 回	科学技術や医療の発展がもたらす課題について考える。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学ぶ。キーワード：科学技術、医療の発展
6 回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学ぶ。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析する。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
7 回	「愛」と「善」の関係について考える。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習する。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩
8 回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2 回	教科書の28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3 回	教科書の30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4 回	これまでの講義内容の復習しておくこと。（標準学習時間30分）
5 回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
6 回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
7 回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
8 回	ノートを中心にして復習を行い、講義全体の理解を深めておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。（A） 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。（B） 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。（B・C）
キーワード	倫理、現代社会、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由、自己愛、カント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	柘植尚則『ブレッツ倫理学』（弘文堂）
関連科目	哲学
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
授業の運営方針	多くの学生を対象として行う講義形式であるため、完全に理解度を把握して講義を進めるのは困難な面があるが、講義内で書いてもらうペーパーの内容を確認し、学生の理解度や関心を測りつつ、講義を進める。講義後の質問なども積極的に受け付ける。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィード	講義内で思考実験などを行いペーパーに記述したものを回収するが、その結果については、次回の

バック	講義にてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。また、講義内容の録音、板書の撮影を許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 B (FB211820)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	古代インド宗教の倫理—バラモン教、沙門宗教の倫理を、戒律、業の法則などを中心に説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	古代中国宗教の倫理—儒教の倫理を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	日本の伝統的倫理—日本の倫理思想史をたどることにより、日本の伝統的倫理を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	現代の倫理 (1) —死刑問題を取り上げて、存置派・反対派双方の意見を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	現代の倫理 (2) —自死問題、そしてその延長線上にある尊厳死・安楽死問題を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	現代の倫理 (3) —脳死・臓器移植問題を取り上げて、推進派・反対派双方の意見を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	東洋の「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	バラモン教、沙門宗教というのはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	儒教とはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	日本の伝統的倫理とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	死刑制度の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	自死、尊厳死、安楽死の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	脳死・臓器移植の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を理解できる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題に関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。

	・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学B (FB212000)
英文科目名	Literature B
担当教員名	浅野純一 (あさのじゅんいち)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	『論語』と儒教について説明する。
2回	老子と荘子、道教について説明する。
3回	『史記』と司馬遷について、文学的側面から説明する。
4回	六朝の志人小説『世説新語』について説明する。
5回	六朝志怪小説『搜神記』について説明する。
6回	唐代伝奇小説『杜子春伝』について説明する。
7回	明代四大奇書『三国志演義』『西遊記』『水滸伝』『金瓶梅』、および清代の『紅樓夢』について概説する。
8回	到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	『論語』と儒教について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認し、さらに理解を深めること。(120分)
3回	儒教と道教の違いを確認し、配布されたプリントを元に、老子と荘子についてネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
4回	『史記』と司馬遷について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
5回	『世説新語』について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
6回	志人小説と志怪小説の違いを意識しながら、『搜神記』について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
7回	創作としての小説を意識しながら『杜子春伝』について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。また、芥川龍之介『杜子春』も読んでおくこと。(120分)
8回	授業中に説明したキーワードを確認し、授業中に指示した通りテストの準備をしておくこと。(150分)

講義目的	中国の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 (DP4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。)
達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。(4領域の「知識・理解」) 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。(4領域の「知識・理解」) 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。(4領域の「知識・理解」)
キーワード	文学、中国、散文、小説
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2,3を評価)、得点率60%以上を合格とする。
教科書	授業時にプリントを配布する。
関連科目	文学A、中国語()、比較文化論
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B3号館3階浅野研究室 E-mail: asanoj (アットマーク) big.ous.ac.jp オフィスアワー: mylogで確認してください。
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・飲食は原則禁止(ただし、飲料は必要であれば可)
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。

合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学B (FB212010)
英文科目名	Literature B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ハイネの文学活動について説明する。
2回	トーマス・マンの文学活動 (青年期) について説明する。
3回	トーマス・マンの文学活動 (壮年期) について説明する。
4回	カフカの文学活動 (『変身』を中心に) について説明する。
5回	カフカの文学活動 (短編を中心に) について説明する。
6回	第二次世界大戦後のドイツ文学について説明する。(ナチスとの関わりを中心に)
7回	第二次世界大戦後のドイツ文学について説明する。(旧東ドイツの問題を中心に)
8回	学修の到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	テキストの197～201ページを読み、ハイネについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの284～288ページを読み、トーマス・マンについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	配布したプリントを読み、トーマス・マンについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの280～281ページを読み、カフカについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	配布したプリントを読み、カフカについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの289～307ページを読み、第二次世界大戦後のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	配布したプリントを読み、第二次世界大戦後のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	世界 (中国、またはドイツ、および日本) の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄 (内容、時代背景など) を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	学修の到達度確認テスト (100%) (達成目標1,2,3を評価) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	増補 ドイツ文学案内 / 手塚 富雄、神品 芳夫 / 岩波文庫 / 978-4-00-350003-2
関連科目	文学A, 比較文化論AB
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1号館 2階高池研究室 直通電話: 086-256-9448 E-mail: takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。

合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学B (FB212020)
英文科目名	Literature B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ハイネの文学活動について説明する。
2回	トーマス・マンの文学活動 (青年期) について説明する。
3回	トーマス・マンの文学活動 (壮年期) について説明する。
4回	カフカの文学活動 (『変身』を中心に) について説明する。
5回	カフカの文学活動 (短編を中心に) について説明する。
6回	第二次世界大戦後のドイツ文学について説明する。(ナチスとの関わりを中心に)
7回	第二次世界大戦後のドイツ文学について説明する。(旧東ドイツの問題を中心に)
8回	学修の到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	テキストの197～201ページを読み、ハイネについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの284～288ページを読み、トーマス・マンについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	配布したプリントを読み、トーマス・マンについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの280～281ページを読み、カフカについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	配布したプリントを読み、カフカについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの289～307ページを読み、第二次世界大戦後のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	配布したプリントを読み、第二次世界大戦後のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	世界 (中国、またはドイツ、および日本) の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄 (内容、時代背景など) を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	学修の到達度確認テスト (100%) (達成目標1,2,3を評価) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	増補 ドイツ文学案内 / 手塚 富雄、神品 芳夫 / 岩波文庫 / 978-4-00-350003-2
関連科目	文学A, 比較文化論AB
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1号館 2階高池研究室 直通電話: 086-256-9448 E-mail: takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。

合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史 B (FB212300)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	小林博昭 * (こばやしひろあき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。授業の進め方を説明したのち、古墳時代の概要や、この時代の時期区分について、OHC等を用いて説明する。
2 回	古墳出現前夜の様相について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに箸墓を中心に、出現期古墳の特色を説明する。
3 回	古墳時代、前期、中期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
4 回	前回到続いて、古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
5 回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景についての追加説明をする。これに加えて、古墳時代に残された金石文について、そこから読み取れる大陸との交渉の状況等、それら具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
6 回	前回到続いて、金石文のなかから、具体例を説明する。さらに、古墳時代末期について説明する。これらの説明には、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用する。
7 回	古墳時代末期の補足説明と、古墳時代のロジスティクス(物流)について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
8 回	今まで扱ってきた歴史事象の補足説明をする。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。古墳時代の概要や特徴をノートを中心に復習し、さらに古墳出現前夜の様子を図書館等で、調べておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	古墳出現前夜の様相について、また箸墓などの出現期古墳の特色を説明できるように復習すること。くわえて、古墳時代の文化と駆使された技術を中心に図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	古墳時代前期、中期の物質文化やそれらに採用された技術について、復習しておくこと。さらに古墳時代後期の物質文化と採用された技術について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代に残された文字資料について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、そして習った金石文について配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代終末期の様子を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	これまでの授業で扱った金石文と、古墳時代末期の内容について十分に復習をすること。また、古墳時代の物流について、図書館等で予習しておくこと。 さらに、第1回からこれまで習ったことの内容のまとめと整理を各自おこない、質問などをノートにメモしておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	古墳時代の物流と、第1回から第7回までの授業のポイントを各自まとめて、十分復習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、我が国の国家形成史上、最もミステリアスな時代といわれる古墳時代前期から乙巳の変後の大化の薄葬令発布前後までの時代における人類が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を抽出できる。 2) 歴史という時系列の中で、抽出した諸要素を客観的に把握できる。 3) 諸要素相互の因果関係や、その背景について分析できる。 4) それらの分析結果について深く考察できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。

キーワード	“ 古代史 ”、 “ 古墳時代 ”、 “ 前方後円墳 ”、 “ ヤマト政権 ”
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（達成目標 1 ～ 4 ）100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
関連科目	日本史A
参考書	授業の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1) 毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2) (1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3) 出欠は毎回とる。 (4) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。 (5) 授業中に私語をする受講生や、他の受講生に迷惑がかかるような受講態度が悪い受講生に対しては、即刻退場や以降の受講を断る場合がある。 (6) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	外国史 B (FB212500)
英文科目名	World History B
担当教員名	奥山広規 * (おくやまひろき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	大交易時代と南北アメリカ世界を軸に、近世世界を説明する。
2 回	ユーラシア諸帝国の繁栄を軸に、近世世界を説明する。
3 回	市民革命と産業革命を軸に、西洋近代について概観する。
4 回	ヨーロッパの進出と東アジアの変貌を軸に、東洋近代について概観する。
5 回	ヨーロッパとアフリカ・アジアの関係を軸に、帝国主義と世界秩序について説明する。
6 回	第一次・第二次世界大戦の背景・展開・影響について説明する。
7 回	第二次世界大戦後の世界について説明する。 最終評価試験を実施する。
8 回	講義内容の総括をする。 最終評価試験の模範解答・解説を行う。

回数	準備学習
1 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
3 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。
8 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している
達成目標	世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得し、説明できる。 毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につけることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	外国史、世界史、古代世界、中世世界、近代世界、現代世界
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験(80%)、毎回の小試験(20%)によって、成績を評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	外国史Aと内容的に連続しているので、出来るかぎり受講してください。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（7号館4階）
授業の運営方針	・授業は板書(パワーポイント)と配布プリントを用いて行う。 ・プリントは、毎回ではなく、必要に応じて配布する。 ・授業では、学んだことを基に、考えることを重視する。そのため、最終評価試験では論述問題を課すので、ノート・配布プリントをよく復習し、関連情報を自分なりに収集すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィード	・小テストについては、毎回の講義の始めに解答し、前回の復習としても役立つ。

バック	・最終評価試験を7回目に行い、8回目に模範解答と解説を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	外国史 B (FB212510)
英文科目名	World History B
担当教員名	奥山広規 * (おくやまひろき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	大交易時代と南北アメリカ世界を軸に、近世世界を説明する。
2 回	ユーラシア諸帝国の繁栄を軸に、近世世界を説明する。
3 回	市民革命と産業革命を軸に、西洋近代について概観する。
4 回	ヨーロッパの進出と東アジアの変貌を軸に、東洋近代について概観する。
5 回	ヨーロッパとアフリカ・アジアの関係を軸に、帝国主義と世界秩序について説明する。
6 回	第一次・第二次世界大戦の背景・展開・影響について説明する。
7 回	第二次世界大戦後の世界について説明する。 最終評価試験を実施する。
8 回	講義内容の総括をする。 最終評価試験の模範解答・解説を行う。

回数	準備学習
1 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
3 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。
8 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得し、説明できる。 毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につけることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	外国史、世界史、古代世界、中世世界、近代世界、現代世界
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験(80%)、毎回の小試験(20%)によって、成績を評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	外国史Aと内容的に連続しているので、出来るかぎり受講してください。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（7号館4階）
授業の運営方針	・ 授業は板書(パワーポイント)と配布プリントを用いて行う。 ・ プリントは、毎回ではなく、必要に応じて配布する。 ・ 授業では、学んだことを基に、考えることを重視する。そのため、最終評価試験では論述問題を課すので、ノート・配布プリントをよく復習し、関連情報を自分なりに収集すること。
アクティブ・ラーニング	

ゲ	
課題に対するフィードバック	・小テストについては、毎回の講義の始めに解答し、前回の復習としても役立てる。 ・最終評価試験を7回目に行い、8回目に模範解答と解説を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	マスメディア論 B (FB212700)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice B
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方や評価方法などについて把握する。続いて、インターネットの歴史と特性について理解する。
2 回	前回に続き、インターネットによる光と影について理解する。情報環境が大きく変化して便利になった半面、様々な問題点も浮上しており、革命的とも言えるネット社会について理解する。
3 回	マスメディアの発展とともに進化してきた広告について、その歴史と特性について理解する。
4 回	前回に続き、広告の歴史と特性に加えて、ネット時代の新しい広告について理解する。
5 回	メディアのもたらす影響や効果に関する研究について理解する
6 回	活字メディアと映像メディアの特性について学習し、情報操作やプロパガンダとしてメディアが利用された歴史や現状について理解する。
7 回	メディアリテラシーの意義と役割について理解する。
8 回	最終評価試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説を配布する。

回数	準備学習
1 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：インターネットが始まった歴史や既存メディアとは異なる特性についてまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：インターネットの浸透は、既存のメディアに大きな影響を及ぼしており、特に新聞、出版といった活字メディアの衰退につながっていることをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接し、広告にも注意しておくこと。復習：広告の歴史はメディアの歴史であり、技術やデザインの発展とともに歩んできたことをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接するとともに、広告にも注意しておくこと。復習：ネット時代になり、広告のシステムが様変わりし、既存のメディアにも影響を及ぼしていることをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：弾丸効果論や限定効果論など主に米国で研究が進んだメディアの効果研究についてまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：メディアが世論に影響を与え、ときに政治に利用された歴史があることをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：メディアの特性を学んできたことを踏まえ、リテラシー能力を高めて、情報に接していくことの重要性をまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	予習：授業を振り返り、試験に備えること。

講義目的	メディアの特性を知り、情報とどう接していくかは実社会に生きていく上で重要である。特に急速に進化しているネットメディアと既存のメディアの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につける。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	1) マスメディアが現代社会に果たす役割を理解する。(知識・理解) 2) マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。(知識・理解) 3) 正しい情報の扱い方、発言する側の責任など情報モラルの大切さを理解する。(知識・理解)
キーワード	ソーシャルメディア、情報革命、弾丸効果論、限定効果論、世論、メディアリテラシー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に毎回書いてもらう小レポート 10% (達成目標 1、3 を評価)、最終評価試験 90% (達成目標 1、2、3 を評価) により成績を評価し、総計で得点率 60% 以上を合格とする。
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	現代のメディア、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK出版: たった一つの「真実」なんてない/森達也/ちくまプリマー新書
連絡先	A 1 号館 6 F 八木研究室 直通電話086-256-9758 E-mail: yagi@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日 3 時限
授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小レポートは毎回、時事問題について書いてもらうので、日ごろから新聞やテレビでニュースに接しておくこと。

アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務：新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	マスメディア論 B (FB212710)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice B
担当教員名	高下義彦* (こうげよしひこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	マスメディア論のいわば入門編。マスメディア論 A の試験解答と結果を解説する。「広告」2016 年の統計数字を中心に日本の広告について考察する。
2 回	「インターネット」インターネットの歴史、概観、現状を学習する。
3 回	「インターネット」ネットの世界と現実世界の違い、関係、問題、課題を学習する。
4 回	「ソーシャルメディア」現代人にとって不可欠になったソーシャルメディアの歴史からキャンペーンについて学習する。
5 回	「ソーシャルメディア」ソーシャルメディアにおける権利、IoT、規制問題、教育とのかかわりなどを考察する。
6 回	「音楽」日本の音楽の変遷、CD 市場、配信、カラオケまで歴史と現況を学習する。
7 回	「映画」映画の誕生、変遷、動向、市場などを日本を中心に考察する。
8 回	1～7 回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
2 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
3 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
4 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
5 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
6 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
7 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
8 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。 教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート(時事ニュースなどについて)10%
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版:メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書:鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書:ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社:

	メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター 岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp
授業の運営方針	最初にその日の講義で使う資料と出席票を1人1枚とって着席。私語が激しい場合、注意しても直らない場合退出を求める。出席票が明らかに代筆と認められる場合は、両人を欠席扱いとすることがある。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に、「最近気になったニュース」を記入する。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音、録画、撮影は許可する。
実務経験のある教員	山陽新聞社で30年超、取材記者、紙面制作記者及び両部門のデスク、管理職を経験。現在は、新聞制作システムから印刷、発送までの流れを管轄する編集局製作管理センター長を務める。
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 B (FB213000)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「政治の多元化」：政治における国際化と地域化、市民社会の役割の増大といった政治の多元化について概説する。
2 回	「地方政治」：地方自治体と地方分権について説明する。
3 回	「福祉」：リベラリズムとリバタリアニズムの観点から福祉国家について説明する。
4 回	「市民社会」：今日のNGO/NPOの意義と役割について説明する。
5 回	「マスメディア」：政治におけるマスメディアの役割について説明する。
6 回	「国際化」：移民・難民問題や多文化主義の観点から「国際化」について説明する。
7 回	「民主主義の限界？」：政治的無関心とポピュリズムについて説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞やTV、インターネットを通じ政治ニュースに触れて、政治問題に関心を持つように努力すること（標準学習時間30分）
2 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
3 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
4 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
5 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
6 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
7 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
8 回	これまでの講義内容についてしっかり復習しておくこと（標準学習時間60分）

講義目的	今日、現代社会が抱える問題は拡大し複雑化している。それは多くの個人や組織が交通・情報革命によって国境を越えるなどし、その活動領域が飛躍的に拡大しているからである。これら諸問題を分析・解決するには、利害調整と妥協を重視する政治学の知識が欠かせない。この講義では、「政治」を学ぶことによって、現代社会の諸問題に対する考察と、自分なりの解決策の模索ができるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	社会の政治問題領域が現在、拡大し続けていることを理解し説明できる。 政治学の知識を用いて、現代社会の問題を分析し、自分なりの解決策を考え出せるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	現代政治、地方自治、市民社会、マスメディア、福祉政治、国際化、ポピュリズム
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	上記達成目標の到達度を第8回講義内の最終評価試験(100%)で評価する。
教科書	・現代政治学 [第4版] / 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 / 有斐閣 / 978-4641124554 ・政治学 / 川出良枝・谷口将紀 (編) / 東京大学出版会 / 978-4130322195
関連科目	政治学A、国際関係論A / B
参考書	適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・日常生活と政治は日々密接化しており、現代の人びとは政治にまったく無関心でいられない。それゆえに、現代政治を理解することは社会人として極めて重要である。この講義では、受講生が現代政治への関心と理解を少しでも多く得られるように実施していく。そのため、受講生も新聞やニュースなどで、日々の政治動向に対して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回の授業に関するレジュメ・資料を配布する。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論 B (FB213200)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	国際政治と問題領域 1 「国家の安全保障」：国家安全保障が軍事や経済など伝統的領域だけでなく、今日、情報や技術など様々な領域へと拡大している現状について説明する。
2 回	国際政治と問題領域 2 「人間の安全保障」：冷戦終結後、新しい安全保障概念として登場した「人間の安全保障」の歴史的展開について説明する。
3 回	国際政治と問題領域 3 「軍備管理」：NPT体制やNGO主導で成立した対人地雷禁止条約を紹介し、今日の軍備管理問題について説明する。
4 回	国際政治と問題領域 4 「内戦とテロリズム」：1990年代の民族問題に起因する内戦と、ISやアルカイダ等に見られるグローバルに拡大したテロリズムについて説明する。
5 回	国際政治と問題領域 5 「民主化と人権」：OSCEの活動を紹介することによって、今日の国際社会の民主化への努力について説明する。
6 回	国際政治と問題領域 6 「資源」：石油や天然ガスに着目することによって、エネルギー資源の国際政治へ与えるインパクトについて説明する。
7 回	国際政治と問題領域 7 「開発と環境」：旧ソ連の開発によるアラル海消失問題を題材にし、開発と環境問題について考える。
8 回	最終評価試験を実施する。最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1 回	指定の教科書を事前に読んでおくこと (標準学習時間40分)
2 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
3 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
4 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
5 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
6 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
7 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
8 回	これまでの講義内容についてしっかり復習しておくこと (標準学習時間60分)

講義目的	国際社会における様々な問題には、どのようなアクターが関与しているのかを理解し、そして解決のためには何が必要かを考察できるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	今日の国際政治における基本的な諸問題について説明できる。 国際社会がグローバルな問題に対してどのように取り組もうとしているのか説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	安全保障、人権、資源問題、環境問題
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	上記達成目標の到達度を第8回講義内の最終評価試験 (100%) で評価する。
教科書	・新グローバル公共政策 [改訂版] / 庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆 (編) / 晃洋書房 / 978-4771027480 ・グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域 / グローバルガバナンス学会 (編) / 法律文化社 / 978-4589038814
関連科目	国際関係論A、政治学A / B
参考書	マイノリティ保護のクロアチア政治史 / 山川卓 / 晃洋書房 / 978-4771031432 その他の参考書については適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・国際社会における諸国家間の行動や態度または出来事について、受講生の「何でだろう」という疑問に応えるような授業にしていく。そのため、受講生には新聞やニュースなどで、世界情勢に関して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに

	歓迎する。 の授業に関するレジュメ・資料を配布する。 ・ 毎回授業開始時にその回
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	経済学 B (FB213700)
英文科目名	Economics B
担当教員名	横尾昌紀 * (よこおまさのり *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	展開形ゲームと戦略形ゲームの関係について
2 回	展開形ゲームの応用例：「裁量ルールか？」あるいは「なぜ大学のシラバスが必要なのか？」
3 回	非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡
4 回	非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡
5 回	労働市場の分析 (1) : エイジェンシー問題, あるいは「なぜブラック企業が跋扈するのか？」
6 回	労働市場の分析：シグナリングゲーム, あるいは「あなたはなぜ大学へ行くのか？」
7 回	進化と合理性
8 回	まとめ 最終評価試験

回数	準備学習
1 回	教科書の第 1 章を授業の前か後に読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
2 回	教科書の第 2 章と第 5 章の最初の節を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
3 回	教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
4 回	教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
5 回	教科書の第 4 章と 5 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
6 回	教科書の第 6 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
7 回	教科書の第 6 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
8 回	いままでのところを復習してください。 (標準学習時間 4 0 分)

講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況, すなわち, 駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステムティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて, 「戦略的思考」を身につけることを目的とします。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し, 「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	・戦略形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める。 ・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める。 ・展開形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める。 ・非対称情報ゲームでベイズ完全均衡を求める。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し, 「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	経済学, 戦略, 戦略的状況, 戦略的思考, ゲーム理論, ナッシュ均衡, 部分ゲーム完全均衡, ベイズ完全均衡。
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	課題提出 (2 0 %) , 中間試験 (2 0 %) , 最終評価試験 (6 0 %)
教科書	ゲーム理論・入門 / 岡田章著 / 有斐閣アルマ / 9784641123625
関連科目	社会と人間
参考書	『ゲーム理論 ワークブック』, 岡田章他, 有斐閣
連絡先	電子メール: yokoo@e.okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	講義形式で行います。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	下の注意事項を参照ください．
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	ポータルサイト 共有スペース 学部共通 「経済学（横尾）後期」のフォルダーに過去の試験問題や演習問題が入っていますので、必ず確認してください．

科目名	経済学 B (FB213710)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山下賢二 * (やましたけんじ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に企業行動の原則と生産関数について講義する。
2 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と等量曲線の関係について講義する。
3 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と費用関数の関係について講義する。
4 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に S 字型短期費用関数を用いた損益分岐点、操業停止点の導出について講義する。
5 回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に完全競争市場、厚生分析について講義する。
6 回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に独占市場について講義する。
7 回	マクロ経済理論の基礎を講義する。 特に短期と長期の違いを強調する。
8 回	7 回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (標準学習時間60分)
2 回	1. 微分の復習をしておくこと 2. 第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと (標準学習時間60分)
3 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
4 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
5 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
6 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
7 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
8 回	全体の復習をしておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。経済学Bでは、ミクロ経済学のうち企業理論と市場理論を講義し、マクロ経済学の基本的な部分を講義する。 (教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
------	--

達成目標	・ 基本的な経済理論を理解できる ・ 様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	ミクロ経済学・マクロ経済学・企業・政府・消費・投資・市場・国民所得・経済政策
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験(100%)
教科書	1 からの経済学 / 中谷武・中村保編著 / 碩学舎 / 中央経済社 / 9784502680809 プリント(ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)
関連科目	ミクロ経済学・マクロ経済学
参考書	適宜指示する。
連絡先	岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室 kenyamashita@po.osu.ac.jp
授業の運営方針	プリントを中心に進めていく。 試験は試験期間中に行い、筆記試験（100％）で評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	年度最後の追再試終了後に模範解答・解説（プリント当該箇所指示）をWeb上に上げる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を多用する。高校で微分をすでに学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験は試験期間中に行い、筆記試験（100％）で評価する。

科目名	環境と社会 B (FB214000)
英文科目名	Environment and Society B
担当教員名	剣持堅志 * (けんもつかたし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
3 回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
4 回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3 R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））の現状とその課題について講義する。
5 回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術、県民の安全と安心を確保するために実施されている常時監視システムについて講義する。
6 回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
7 回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能（AI）、IT技術などの進歩がもたらす経済・社会への衝撃について講義する。
8 回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 ライフスタイルの変革、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資など現の社会の変化について言及し、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
16 回	

回数	準備学習
1 回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）、大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状や越境汚染問題について調査しておくこと。
3 回	化学物質汚染について、参考書 3-7 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
4 回	循環型社会について、参考書 3-5 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
6 回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
7 回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめ

	ておくこと。 (標準学習時間60分)
8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回 16回	各主体の役割と取り組みについて、参考書5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 また、評価試験の準備を行うこと。(標準学習時間120分) 後期評価試験の範囲は8～16回
講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	16回受講者については、中間評価試験(1～8回)及び最終評価試験(9～16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)® 公式松井孝典テキスト/東京商工会議所/日本能率会マネジメントセンター/ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)
授業の運営方針	講生に今今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。

その他（注意・備考）	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	環境と社会 B (FB214010)
英文科目名	Environment and Society B
担当教員名	剣持堅志 * (けんもつかたし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
3 回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
4 回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3 R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））の現状とその課題について講義する。
5 回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術、県民の安全と安心を確保するために実施されている常時監視システムについて講義する。
6 回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
7 回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能（AI）、IT技術などの進歩がもたらす経済・社会への衝撃について講義する。
8 回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 ライフスタイルの変革、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資など現の社会の変化について言及し、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
16 回	

回数	準備学習
1 回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）、大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状や越境汚染問題について調査しておくこと。
3 回	化学物質汚染について、参考書 3-7 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
4 回	循環型社会について、参考書 3-5 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
6 回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
7 回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめ

	ておくこと。 （標準学習時間60分）
8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回 16回	各主体の役割と取り組みについて、参考書5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間120分） 後期評価試験の範囲は8～16回
講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 （教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する）
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 （教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する）
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能（AI）の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	16回受講者については、中間評価試験（1～8回）及び最終評価試験（9～16回）を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	・改定6版 eco検定（環境社会検定試験）® 公式松井孝典テキスト / 東京商工会議所 / 日本能率会マネジメントセンター / ISBN : 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実（アルゴア著、ランダムハウス講談社） ISBN 978-4270001813） ・地球システムの崩壊（松井 孝典、新潮選書） ・生命の多様性（エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫）
連絡先	（個人メール） katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com（講義資料等に関する問合せ）
授業の運営方針	講生に今今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会（AI技術、自動運転など）について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営（座長）、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。

その他（注意・備考）	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	法学B (FB214200)
英文科目名	Law B
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	司法制度についての概説の講義をする。 [内容] 裁判所の種類と関係、三審制度
2 回	国民の司法参加についての講義をする。 [内容] 諸外国の国民の司法参加の種類 (陪審制、参審制)、日本の裁判員制度とその問題点、検察審査会
3 回	模擬裁判員 (陪審員) 体験授業を行い、裁判のルールに従った自身の判定について授業内レポートにまとめてもらう。
4 回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策
5 回	刑罰制度の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑罰の本質、刑罰の種類、死刑および刑務所の実情と問題点
6 回	民事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
7 回	司法制度へのアクセス (利用方法) についての講義をする。 [内容] 法律家 (法曹 3 者) について、日本司法支援センター (法テラス)、国選弁護士制度、当番弁護士制度
8 回	最終評価試験を行い、その後、試験の解説とこれまでの授業の総括を行う。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。インターネットで最高裁判所のHPを探し、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。 初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。 (標準学習時間60分)
2 回	第 1 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。裁判所のHPで裁判員制度および検察審査会の概要について、あらかじめ各自で調べておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	第 2 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	第 3 回の模擬裁判員体験授業で出てきた刑事裁判の判定方法について復習しておくこと。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	第 4 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	第 5 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	第 6 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	第 7 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。 第 1 回から第 7 回までの授業内容を復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。 また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。(教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる (知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる (知識・理解)。 (3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる (知識・理解、思考・判断・表現)。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度など、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業確認プリント〔計6回：30%〕（達成目標1～2を確認）＋授業内レポート〔20%〕（到達目標1～3を確認）＋最終評価試験〔50%〕（到達目標1～3を確認）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6（書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可）
関連科目	日本国憲法、法学A。この授業のみ履修する場合、既に当教員による前記科目において六法の基本的な使い方、条文の読み方をマスターしていることが望ましい。
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B 3 号館 4 階佐藤研究室（オフィスアワーについてはマイログを参照） 連絡は直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	（1）指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること（事前に図書館で借りてきた場合も同様）。無断で六法なしで受講しないこと。 （2）テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF（レジュメ）を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 （3）復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 （4）授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 （5）（大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の）遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする（ただし事前に分かっている場合には相談に応じる）。
アクティブ・ラーニング	（1）ビデオを用いた模擬裁判員（陪審員）の体験授業を行う（時間的に余裕があれば、それに基づいた評議（ディスカッション）も行う）。 （2）授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 （3）授業内容によっては、授業準備として事前に裁判所HPなどで基本的事項について各自で主体的に調べてきてもらう。 （4）授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィードバック	授業確認プリントおよび授業内レポートについては、後日、解答・解説をアップする。最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（1）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 （2）上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので（ただしテストを除く）、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 （3）テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 （4）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	法学B（FB214210）
英文科目名	Law B
担当教員名	佐藤元治（さとうもと はる）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	司法制度についての概説の講義をする。〔内容〕裁判所の種類と関係、三審制度
2 回	国民の司法参加についての講義をする。〔内容〕諸外国の国民の司法参加の種類（陪審制、参審制）、日本の裁判員制度とその問題点、検察審査会
3 回	模擬裁判員（陪審員）体験授業を行い、裁判のルールに従った自身の判定について授業内レポートにまとめてもらう。
4 回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義をする。〔内容〕刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策
5 回	刑罰制度の仕組みと現状についての講義をする。〔内容〕刑罰の本質、刑罰の種類、死刑および刑務所の実情と問題点
6 回	民事裁判の仕組みと現状についての講義をする。〔内容〕民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
7 回	司法制度へのアクセス（利用方法）についての講義をする。〔内容〕法律家（法曹3者）について、日本司法支援センター（法テラス）、国選弁護士制度、当番弁護士制度
8 回	最終評価試験を行い、その後、試験の解説とこれまでの授業の総括を行う。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。インターネットで最高裁判所のHPを探し、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること（やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）
2 回	第1回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。裁判所のHPで裁判員制度および検察審査会の概要について、あらかじめ各自で調べておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	第3回の模擬裁判員体験授業で出てきた刑事裁判の判定方法について復習しておくこと。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	第4回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	第6回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	第7回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第1回から第7回までの授業内容を復習しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。（教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	（1）法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる（知識・理解）。 （2）六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる（知識・理解）。 （3）法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる（知識・理解、思考・判断・表現）。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度など、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業確認プリント〔計6回：30%〕（達成目標1～2を確認）＋授業内レポート〔20%〕（到達目標1～3を確認）＋最終評価試験〔50%〕（到達目標1～3を確認）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6（書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可）
関連科目	日本国憲法、法学A。この授業のみ履修する場合、既に当教員による前記科目において六法の基本的な使い方、条文の読み方をマスターしていることが望ましい。
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B 3 号館 4 階佐藤研究室（オフィスアワーについてはマイログを参照） 連絡は直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	（1）指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること（事前に図書館で借りてきた場合も同様）。無断で六法なしで受講しないこと。 （2）テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF（レジュメ）を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 （3）復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 （4）授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 （5）（大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の）遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする（ただし事前に分かっている場合には相談に応じる）。
アクティブ・ラーニング	（1）ビデオを用いた模擬裁判員（陪審員）の体験授業を行う（時間的に余裕があれば、それに基づいた評議（ディスカッション）も行う）。 （2）授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 （3）授業内容によっては、授業準備として事前に裁判所HPなどで基本的事項について各自で主体的に調べてきてもらう。 （4）授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィードバック	授業確認プリントおよび授業内レポートについては、後日、解答・解説をアップする。最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（1）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 （2）上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので（ただしテストを除く）、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 （3）テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 （4）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	法学B（FB214220）
英文科目名	Law B
担当教員名	佐藤元治（さとうもと はる）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	司法制度についての概説の講義をする。〔内容〕裁判所の種類と関係、三審制度
2 回	国民の司法参加についての講義をする。〔内容〕諸外国の国民の司法参加の種類（陪審制、参審制）、日本の裁判員制度とその問題点、検察審査会
3 回	模擬裁判員（陪審員）体験授業を行い、裁判のルールに従った自身の判定について授業内レポートにまとめてもらう。
4 回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義をする。〔内容〕刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策
5 回	刑罰制度の仕組みと現状についての講義をする。〔内容〕刑罰の本質、刑罰の種類、死刑および刑務所の実情と問題点
6 回	民事裁判の仕組みと現状についての講義をする。〔内容〕民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
7 回	司法制度へのアクセス（利用方法）についての講義をする。〔内容〕法律家（法曹3者）について、日本司法支援センター（法テラス）、国選弁護士制度、当番弁護士制度
8 回	最終評価試験を行い、その後、試験の解説とこれまでの授業の総括を行う。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。インターネットで最高裁判所のHPを探し、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること（やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）
2 回	第1回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。裁判所のHPで裁判員制度および検察審査会の概要について、あらかじめ各自で調べておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	第3回の模擬裁判員体験授業で出てきた刑事裁判の判定方法について復習しておくこと。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	第4回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	第6回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	第7回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第1回から第7回までの授業内容を復習しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。（教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	（1）法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる（知識・理解）。 （2）六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる（知識・理解）。 （3）法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる（知識・理解、思考・判断・表現）。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度など、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業確認プリント〔計6回：30%〕（達成目標1～2を確認）＋授業内レポート〔20%〕（到達目標1～3を確認）＋最終評価試験〔50%〕（到達目標1～3を確認）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6（書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可）
関連科目	日本国憲法、法学A。この授業のみ履修する場合、既に当教員による前記科目において六法の基本的な使い方、条文の読み方をマスターしていることが望ましい。
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B 3 号館 4 階佐藤研究室（オフィスアワーについてはマイログを参照） 連絡は直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	（1）指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること（事前に図書館で借りてきた場合も同様）。無断で六法なしで受講しないこと。 （2）テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF（レジュメ）を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 （3）復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 （4）授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 （5）（大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の）遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする（ただし事前に分かっている場合には相談に応じる）。
アクティブ・ラーニング	（1）ビデオを用いた模擬裁判員（陪審員）の体験授業を行う（時間的に余裕があれば、それに基づいた評議（ディスカッション）も行う）。 （2）授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 （3）授業内容によっては、授業準備として事前に裁判所HPなどで基本的事項について各自で主体的に調べてきてもらう。 （4）授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィードバック	授業確認プリントおよび授業内レポートについては、後日、解答・解説をアップする。最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（1）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 （2）上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので（ただしテストを除く）、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 （3）テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 （4）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	考古学 B (FB214400)
英文科目名	Archaeology B
担当教員名	白石純 (しらいしじゅん)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義概要として講義内容と講義の進め方を説明する。 旧石器時代前半について実例を挙げながら講義する。
2 回	旧石器時代後半について実例を挙げながら講義する。
3 回	縄文時代草創期、早期、前期について講義する。
4 回	縄文時代中期、後期、晩期について講義する。
5 回	弥生時代前期、中期について講義する。
6 回	弥生時代後期について講義する。
7 回	古墳時代前期について講義する。
8 回	古墳時代中期・後期について講義する。 これまでの講義内容につて総括をする。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義内容を理解しておくこと。 日本の旧石器時代について、発見・時代・生活文化を図書館等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	事前の講義内容について復習し「日本の旧石器時代について、石器・製作技法・狩猟方法」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	事前の講義内容について復習し「縄文時代について、定義・年代・生業」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	事前の講義内容について復習し「縄文時代の住居と集落・墓地と埋葬・土器」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	事前の講義内容について復習し「弥生時代の定義・年代・生業」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	事前の講義内容について復習し「弥生時代の住居と集落・墓地と埋葬・土器からみた地域性」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	事前の講義内容について復習し「古墳時代の年代・古墳の種類と埋葬施設」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	の講義内容について復習し「古墳時代の住居・生活様式」について調べておくこと。また、1～7回までの講義内容を復習し、よく理解しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのかを理解する。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように講義する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について講義し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解する。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解することで、考古学が人文科学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを理解する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断力・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 理系、文系を問わず、歴史について説明できる。 2) さまざまな知識、学問に応用することができる。 3) 発想や資料分析法の仕方に応用することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験100%(達成目標1～3を評価)により成績を評価する。合格基準は100点満点のうち60%以上を合格とする。
教科書	・使用しない。 ・講義資料を適宜、配付する。
関連科目	日本考古学、先史考古学
参考書	考古学ゼミナール / 江上波夫 / 山川出版社 : 考古学の基礎知識 / 広瀬和雄 / 角川選書

連絡先	C2号館6階 白石研究室 shiraish@big.ous.ac.jp 086-256-9655 オフィスアワー 月曜5・6時限
授業の運営方針	・プロジェクターにより図を提示し、視覚的な説明と板書を組み合わせで講義を進めていく。 ・講義資料を適宜、配付する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	終評価試験の解説は試験終了後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論B (FB214700)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画分析の実例を示す。
2回	瀬戸内海の映画史を概観し、映画に描かれた瀬戸内海の島々を分析する。
3回	国内の他地域および海外の島々が映画でどう描かれているかを考察し、瀬戸内海の島々と比較する。
4回	アメリカ映画を中心にロードムービーの特徴を分析する。
5回	日本映画におけるロードムービーを分析し、アメリカ映画と比較する。
6回	映画「男はつらいよ」と岡山の関係について検証する。
7回	映画「男はつらいよ」の主人公について、その原像と岡山の関係について分析する。最終評価試験について説明する。
8回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでくること。復習：受講マナーと講義の概略を確認し、映画分析についてまとめること。(標準学習時間30分)
2回	予習：テキストの第5章、第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
3回	予習：テキストの第10章、第17章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習：テキストの第8章、第15章を読んでおくこと。復習：講義で取上げたロードムービーの特徴をまとめること。(標準学習時間60分)
5回	予習：テキストの第7章、第9章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
6回	予習：テキストの第23章を読んでおくこと。復習：映画「男はつらいよ」シリーズの特徴についてまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習：テキストの19章、24章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた「男はつらいよ」の主人公の原像についてまとめること。(標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義を整理し、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	・少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。 ・「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説ける。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	岡山、映画、アニメ、比較文化、表象文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(最終評価試験100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「まあ映画な、岡山じゃ県！」 / 蜻文庫
関連科目	比較文化論A
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 参考映像をめぐる各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	比較文化論B (FB214740)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)について解説する。
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)について解説する。
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)について解説する。
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)について解説する。
5回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5)について解説する。
6回	信仰と宗教文化論1について解説する。
7回	信仰と宗教文化論2について解説する。
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、死の定義、心移植、落語
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。 達成目標1、2を評価。
教科書	なし
関連科目	比較文化論A
参考書	文化人類学辞典(弘文堂)

連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。途中退出、私語に関しては厳しく接する。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで、遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後に簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。録音、録画はSNSに上げない条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論B (FB214750)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)について解説する。
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)について解説する。
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)について解説する。
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)について解説する。
5回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5)について解説する。
6回	信仰と宗教文化論1について解説する。
7回	信仰と宗教文化論2について解説する。
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。
2回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、死の定義、心移植、落語
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。 達成目標1、2を評価。
教科書	なし
関連科目	比較文化論A
参考書	文化人類学辞典(弘文堂)

連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。途中退出、私語に関しては厳しく接する。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで、遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後に簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。録音、録画はSNSに上げない条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論B (FB214760)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)について解説する。
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)について解説する。
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)について解説する。
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)について解説する。
5回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5)について解説する。
6回	信仰と宗教文化論1について解説する。
7回	信仰と宗教文化論2について解説する。
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、死の定義、心移植、落語
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。 達成目標1、2を評価。
教科書	なし
関連科目	比較文化論A
参考書	文化人類学辞典(弘文堂)

連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。途中退出、私語に関しては厳しく接する。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで、遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後に簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。録音、録画はSNSに上げない条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 B (FB215000)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	榎原 宥* (えばら ゆたか*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義オリエンテーション—私たちの社会参画の意義と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方＝市民性の発揮＝について解説する。
2 回	行政への市民参加 (1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について、国際比較を交えながら解説する。
3 回	第 2 回講義の続き—ワークシェアリングの説明と、今話題の働き方改革、同一労働同一賃金、生産年齢人口等との関連を解説する。
4 回	行政への市民参加 (2) - 地球環境問題、日本のエネルギー政策、原子力発電 (再稼働問題を含む) に私たち (君たち) はどう向かい合っていくのかを共に考える。
5 回	第 4 回講義の続き—日本のエネルギー政策に関連し、福島原発事故を経験した今、電力会社、国、市民 (私たち、あるいは君たち) の社会的責任を考える。
6 回	第 5 回講義の続き - 企業の社会的責任をより詳しく、福島原発を持つ東京電力を題材に説明する。
7 回	司法への市民参加—日本の裁判員制度とその課題について解説する。
8 回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。「三権分立」の基礎知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間：60分)
2 回	アフーマティブ・アクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間：60分)
3 回	ワーク・ライフ・バランスとは何かを調べておくこと。(標準学習時間：60分)
4 回	「パリ協定」の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間：60分)
5 回	あなたは原子力発電の将来の姿についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間：60分)
6 回	企業の社会的責任とはどのようなものを指すのか調べてくること。(標準学習時間：60分)
7 回	日本の裁判員制度の概要を調べておくこと。(標準学習時間：60分)
8 回	第 1 回から第 7 回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間：120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、「三権」の内「行政」と「司法」への市民参加について論ずる。題材として、女性の社会進出課題、地球環境、原発再稼働、裁判員制度等の現在進行形の時事問題を取り上げる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ (教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)。
達成目標	憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な (論理的で破綻のない) 言葉や文章で表現出来る。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	市民性、ルールと秩序、社会的責任
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	最終試験 100% で評価し、60% 以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	社会と人間 A : この講義では、「行政」と「司法」への市民参加の課題を講義するが、社会と人間 A では「立法」との関わりを取り上げる。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	多人数の履修が予想されるため、講義 (講師からの情報提供) 中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の

	講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分からなくなる可能性があるので、毎回の出席を心がけること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。
実務経験のある教員	ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。
その他（注意・備考）	関連科目の「社会と人間A」の履修を要望する。

科目名	社会と人間 B (FB215010)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	榎原 宥* (えばら ゆたか*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義オリエンテーション—私たちの社会参画の意義と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方＝市民性の発揮＝について解説する。
2 回	行政への市民参加 (1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について、国際比較を交えながら解説する。
3 回	第 2 回講義の続き—ワークシェアリングの説明と、今話題の働き方改革、同一労働同一賃金、生産年齢人口等との関連を解説する。
4 回	行政への市民参加 (2) - 地球環境問題、日本のエネルギー政策、原子力発電 (再稼働問題を含む) に私たち (君たち) はどう向かい合っていくのかを共に考える。
5 回	第 4 回講義の続き—日本のエネルギー政策に関連し、福島原発事故を経験した今、電力会社、国、市民 (私たち、あるいは君たち) の社会的責任を考える。
6 回	第 5 回講義の続き - 企業の社会的責任をより詳しく、福島原発を持つ東京電力を題材に説明する。
7 回	司法への市民参加—日本の裁判員制度とその課題について解説する。
8 回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。「三権分立」の基礎知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間：60分)
2 回	アフーマティブ・アクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間：60分)
3 回	ワーク・ライフ・バランスとは何かを調べておくこと。(標準学習時間：60分)
4 回	「パリ協定」の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間：60分)
5 回	あなたは原子力発電の将来の姿についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間：60分)
6 回	企業の社会的責任とはどのようなものを指すのか調べてくること。(標準学習時間：60分)
7 回	日本の裁判員制度の概要を調べておくこと。(標準学習時間：60分)
8 回	第 1 回から第 7 回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間：120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、「三権」の内「行政」と「司法」への市民参加について論ずる。題材として、女性の社会進出課題、地球環境、原発再稼働、裁判員制度等の現在進行形の時事問題を取り上げる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な(論理的で破綻のない)言葉や文章で表現出来る。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	市民性、ルールと秩序、社会的責任
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	最終試験 100% で評価し、60% 以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	社会と人間 A：この講義では、「行政」と「司法」への市民参加の課題を講義するが、社会と人間 A では「立法」との関わりを取り上げる。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	多人数の履修が予想されるため、講義 (講師からの情報提供) 中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の

	講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分からなくなる可能性があるので、毎回の出席を心がけること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。
実務経験のある教員	ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。
その他（注意・備考）	関連科目の「社会と人間A」の履修を要望する。

科目名	社会と人間B (FB215020)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	市場恵子* (いちばけいこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【震災と原発】3.11から8年。原発の「安全・安心・必要」神話を問い直し、真の豊かさとは何かを問う。
2回	【「慰安婦」問題とメディア】戦時性暴力は今も繰り返されている。不処罰の連鎖を断つための試みとメディアの対応を検証する。
3回	【「ホームレス」と貧困】若者による「ホームレス」襲撃事件や、野宿生活者の実態を知り、「貧困」を生み出す社会的背景を考える。
4回	【犯罪と更生～暴力の被害と加害に向き合う】アメリカの受刑者更生施設「アミティ」の実践（治療共同体）を知り、加害者の更生には何が必要かを学ぶ。
5回	【育児とジェンダー】映画『クレマー・クレマー』を観て、「ワーク・ライフ・バランス」や父親の育児参加を促す。
6回	【介護とジェンダー】近年、ひとりぐらしの高齢者が増加。介護を担う人の4人に1人が男性という時代。介護疲れから虐待・心中に追い込まれる人もいる。『折り梅』を観て、これからの高齢者問題を考える。
7回	【アサーティブ・トレーニング】コミュニケーションパターンを学び、自分のクセに気づく。「Iメッセージ」と「YOUメッセージ」の違いを学び、2人組になって自他を尊重する会話や、「ノー」と言う練習もする。
8回	【ディーセントワーク】（前半45分間講義）人間らしい働き方とはどんな働き方か。労働基準法も併せて検討する。 【期末試験】（後半45分間試験）

回数	準備学習
1回	【震災と原発】原発事故後の報道がどんなものだったか、チェルノブイリ原発事故による外部被ばく・内部被ばくがどんなものだったか、自然エネルギーにはどんなものがあるか、調べておくこと。
2回	【日本軍「慰安婦」問題とメディア】「慰安婦」とは何を意味する言葉か、新聞報道やTV番組ではどう扱われてきたか、調べておくこと。
3回	【「ホームレス」と貧困】野宿生活者はなぜ野宿に至ったのか、どんなところでどんな生活をしているか、調べたり、考えてみる。岡山の野宿生活者の実態や支援活動についても調べておくこと。
4回	【犯罪と更生】日本では少年院や刑務所に入った人は、どのような教育を受けて、社会復帰しているのか、調べておくこと。
5回	【育児とジェンダー】将来、子育てをするとき、父として母としてどんな社会や職場が望ましいか、考えてくること。
6回	【介護とジェンダー】高齢者を誰が介護しているか？ 介護者の悩みは？ 身近な介護問題を調べてくること。
7回	【アサーティブ・トレーニング】あなたはイヤなことに「ノー」と言えているだろうか。自分の気持ちや欲求を率直に伝えられているだろうか。日常の会話を振り返ってみること。
8回	【ディーセントワーク】人間らしい働き方は？ 労働者の権利を守るために国内にはどんな法律があるか調べておく。 【期末試験】9～15回の資料に目を通しておく。

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	震災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、育児、介護、認知症、傾聴、Iメッセージ・YOUメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革

試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回講義後に提出するミニレポート50%、中間試験25%、最終評価試験25%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	憲法学・心理学・社会学など
参考書	小出裕章『原発のない世界へ』、坂上香『ライフアーズ』、北村年子『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』、VAWW-NETジャパン『NHK番組改変と政治介入』、上野千鶴子『おひとりさまの老後』、森田汐生『ことばに出そう！自分の気持ち』、阿部彩『子どもの貧困II』（岩波新書）
連絡先	PCメール：kei3@po1.oninet.ne.jp T & F：086-277-7522
授業の運営方針	社会と人間に関する情報や枠組みを提供し、自分の心と頭で感じたり考えたりすることを促す。毎回、コメントペーパーを書いて提出してもらい、質問や異論があれば、次回講義の冒頭でできるだけ答えるようにする。 試験は資料・ノートの持ち込みで行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	質問や異論があれば、コメントペーパーに書いてもらい、次回講義で答える。 最終試験の模範解答と解説は、教務課と相談の上で公開する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影も事前の打ち合わせで必要とあれば許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 B (FB215030)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法の説明をする。 * 「世界経済」「民族と宗教」に関する自己知識のレベルを把握し、予習/復習計画の立案を行う。
2 回	* 世界経済の全体像を概説する。 * 世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
3 回	* 世界経済の要である金融機関の種類とその目的を説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
4 回	* 世界経済/通貨について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
5 回	* アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 * 国際時事用語を学ぶ。
6 回	* 宗教と民族紛争の関連を分析する。 * 国際時事用語を学ぶ。
7 回	* 「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
8 回	* 総括 * 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義内容を振り返りよく理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食糧」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。
------	--

	る。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国というの立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを活用して具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	長年にわたり、日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、 刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	社会と人間 B (FB215040)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法の説明をする。 * 「世界経済」「民族と宗教」に関する自己知識のレベルを把握し、予習/復習計画の立案を行う。
2 回	* 世界経済の全体像を概説する。 * 世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
3 回	* 世界経済の要である金融機関の種類とその目的を説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
4 回	* 世界経済/通貨について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
5 回	* アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 * 国際時事用語を学ぶ。
6 回	* 宗教と民族紛争の関連を分析する。 * 国際時事用語を学ぶ。
7 回	* 「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
8 回	* 総括 * 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義内容を振り返りよく理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食糧」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。
------	--

	る。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国というの立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを活用して具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	長年にわたり、日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、 刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	福祉環境論 B (FB215200)
英文科目名	Welfare Environmental Science B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義のガイダンス (福祉の目的、意義、講義概要) をする。
2 回	心と身体、DMD 症について説明する。
3 回	「身体障がい者補助犬法」と生きがい感の創造について説明する (DVD 等)。
4 回	「障がい者スポーツ」について説明する (DVD 等)。
5 回	福祉機器、車いすの疑似体験を行う。
6 回	高齢者の心と身体の特徴について説明する。人間のライフサイクルについても説明する。
7 回	自己実現、至高経験、創造的人間について説明する。
8 回	これまでのまとめと最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。DMD 症の原因、診断方法、臨床症状について予習を行うこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	DMD 児の心の課題について予習を行うこと。(標準学習時間 100 分)
3 回	「身体障がい者補助犬法」について予習を行うこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	「身体障がい者補助犬法」について復習すること。「障がい者スポーツ」について予習を行うこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	大学内の施設のチェックポイントの確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	人間のライフサイクルについて予習を行うこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	人間のライフサイクルについて復習をすること。マスローの自己実現や至高経験について予習を行うこと。(標準学習時間 100 分)
8 回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間 180 分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法について学び、「障がい」理解のための疑似体験や教材を通して「障がい」、「障がい者」の意味や自己実現、合理的配慮の適切な提供について理解する。 (4 領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
達成目標	障がい者や高齢者の課題について、それらは限定された特別なものではなく、社会全体や一人ひとりの人間の共通課題として捉え、説明できること。MD 症児について説明できること。福祉機器やユニバーサルデザインについて理解を深め、説明できること。世界人権宣言、障がい者の権利宣言、幸福追求の権利等について説明できること。現代社会の福祉環境の課題について要約できること。 (4 領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	課題提出 2 回 (30%)、グループディスカッション (10%)、最終評価試験 (60%)
教科書	講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。
関連科目	健康の科学。生涯スポーツ (ヨット) およびスポーツと フィールド科学 (ヨット) では、障がいのある学生も受講できるように ユニバーサルデザインのヨットを使っています。
参考書	適宜紹介する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村 (次) 研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。

アクティブ・ラーニング	ワークシートや視覚教材を用いて、ペアやグループによるディスカッションを行い授業を進めていきます。「障がい」の疑似体験ではグループディスカッションを行い意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題や最終試験のフィードバックとして、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	受講者の積極性を期待しています。知識だけでなく実際に見て、触れて、考えましょう。 ・

科目名	福祉環境論 B (FB215210)
英文科目名	Welfare Environmental Science B
担当教員名	土橋恵美子* (つちはしえみこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション：後期講義の目的、進め方について説明する。 手話について実技（入門）をとおして説明する。
2 回	手話について実技（入門）をとおして説明する
3 回	ノートテイクについて実技をとおして説明する。
4 回	パソコン通訳について実技をとおして説明する。
5 回	障がいへの理解に関する映像を視聴する。
6 回	支援すること・されることについてグループワークをとおして考察する。
7 回	障がいを自分のこととしてとらえ、合理的配慮の視点から考察する。
8 回	第 1 回から第 7 回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。 指文字について自分の名前を調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	話実技で覚えた表現を繰り返し練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	速く・正しく・読みやすく書くための方法を考えること。(標準学習時間120分)
4 回	パソコン通訳（パソコンテイク）について調べておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	障がいへの理解を新聞記事や番組（NHK教育テレビ「手話ニュース」など）をとおして考えること。(標準学習時間120分)
6 回	支援すること・されることについて考えること。(標準学習時間120分)
7 回	合理的配慮の視点と考え方を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第 1 回から第 7 回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法等を学び、障がい理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の本質的意味、自己実現や合理的配慮の適切な提供について理解する。
達成目標	「障がい」、「障がい者」の本質的意味について、説明できること。 「支援される人」、「支援する人」、「社会」における、それぞれのバリア（障壁）について理解し、支援について適切な合理的配慮の提供を説明できること。 生きていくことと「障がい」は深く関わっていることを理解し、一人ひとりの人間や社会全体の共通課題として説明できること。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	グループワーク（ディスカッション）への貢献40%、講義最終日の試験（最終評価試験）60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
関連科目	健康の科学
参考書	適宜紹介する
連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	・授業で重視するのは覚えることより、疑似体験を通して知り、理論を用いて説明できること。 ・グループワーク（ディスカッション）を通して、積極的に参加する態度を求める。 ・クラスメイトの意見から新たな気づきを得、自分の言葉で説明できること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、ペアワーク ・疑似体験や事例紹介の後、自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。
課題に対するフィードバック	グループワークやディスカッションの発表は、その場で模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。
実務経験のある教員	現在、同志社大学障がい学生支援室勤務。同障がい学生支援室における15年のコーディネート経験を活かして、高等教育における障がい学生支援の状況、および課題とその対策方法について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	ボランティア論 B (FB216700)
英文科目名	Introduction to Volunteer B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。ボランティアの現状について考察し、ディスカッションを行う。
2 回	海外ボランティアの事例を取り上げ、その意義と問題点を分析する。
3 回	ボランティアと報酬について考察し、報酬の定義と無償性の根拠、その問題点を分析する。
4 回	ボランティアの事例を取り上げ、現場での様々な困難やトラブルの可能性を検証する。
5 回	ボランティアをめぐる批判・反発・葛藤について考える。
6 回	NPO (特定非営利活動) の歴史と法的根拠、組織について解説する。
7 回	NPO の現状と問題点について考察し、最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：ボランティアの現状について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：海外ボランティアの制度について調べておくこと。復習：海外ボランティアの制度と現状を整理すること。(標準学習時間60分)
3 回	予習：ボランティアの無償性について考えておくこと。復習：ボランティアの報酬についてまとめること。(標準学習時間60分)
4 回	ボランティアが直面する問題について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)
5 回	予習：ボランティアに対する批判について考えておくこと。復習：ボランティアを受ける立場から見た問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
6 回	予習：NPO について調べておくこと。復習：NPO の定義についてまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習：NPO の現状と問題点について考えておくこと。復習：NPO をめぐる諸問題と現代社会の仕組みを整理すること。(標準学習時間90分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を整理し、最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	被災地での支援活動や地域のコミュニティ活動など、現代社会においてボランティアが果たす役割の重要度は増しているが、その一方で安易なボランティア募集や活動現場でのトラブルも多発している。本講義ではボランティアの具体的な事例を取り上げながら、参加の動機や活動の背景を分析するとともに、ボランティアの歴史と特徴およびその意義について多角的に検証し、理解を深める。4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
達成目標	1. ボランティアの語源と歴史を説明できる。 2. ボランティアに参加する多様な動機を説明できる。 3. ボランティアの現状と問題点、およびそれらの背景を説明できる。 4. ボランティアの特徴と意義を説明できる。 5. 上記1-4を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題についての考えを明確に述べることができる。 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
キーワード	ボランティア、NPO、社会貢献、フェアトレード、映画
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	学修 (達成目標1-5) の到達度確認試験 (最終評価試験100%) により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「ボランティアへの視線 - 映画を手がかりにして考える (改定版) 」 (ピンク版) / 蜻蛉文庫
関連科目	ボランティア論 A
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. ボランティアの事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。

	4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. ボランティアをめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役、現・NPO法人地域文化研究所代表理事 2. 企業による社会貢献活動の経験とNPO活動の経験を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席し、受講上の注意を確認すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 受講に際してボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	日本の文化と歴史 B (FB217200)
英文科目名	Culture and History of Japan I B
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：授業の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について説明する。その後、「日本文化遺産」とは何か、さらに出雲地域の地勢、この地域の立地条件や、地域内に存在する市町村、気候風土等を説明する。受講生の理解を促進するために、配布プリントやOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
2回	前回の補足説明の後、授業で使用する用語、具体的には「国宝」、「国指定重要文化財」、「史跡」、「文化財」、「名勝」等を説明する。その後、出雲地域の中心的存在である出雲大社について、その立地、歴史、建物群構成等について、配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
3回	前回の出雲大社について補足説明の後、出雲地域にまつわる神話を説明する。くわえて、出雲大社以外で、日本遺産の「日が沈む聖地出雲」と認定されているこの地域の史跡等を配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
4回	前回の補足説明の後、出雲地域や周辺地域の著名な遺跡とそこから発見された文化財について配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。時間的余裕があれば、鳥取県の地勢と風土を扱う。
5回	鳥取県の地勢と風土の追加説明をした後、同県に設定されている日本遺産「六根清浄と六感治癒の地」の三朝町を中心に文化財としての建築物の歴史と、それらをめぐる山岳修験を配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
6回	同県に設定されている日本遺産以外で、古代から栄えていたことを示す鳥取県内の著名な遺跡と発見された文化財や、今に伝わる神話について配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
7回	前回の補足説明の後、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた出雲地域や鳥取県の地勢、風土や文化財、史跡の追加説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを熟読しておくこと。出雲地域の地勢、日本列島での位置や気候風土を図書館で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
2回	授業で説明した用語や、出雲大社の立地、歴史、建物群構成等についてノート、配布プリントを中心に復習し、出雲地域の神話やこの地域の史跡を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	出雲地域の神話やこの地域の史跡などについてノート、配布プリントを中心に復習し、周辺地域の著名な遺跡とそこから発見された文化財を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	出雲地域や周辺地域の著名な遺跡とそこから発見された文化財についてノート、配布プリントを中心に復習し、鳥取県の地勢と風土、日本遺産「六根清浄と六感治癒の地」を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	日本遺産「六根清浄と六感治癒の地」についてノート、配布プリントを中心に復習し、鳥取県内の著名な遺跡と、そこから発見された文化財を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	鳥取県内の著名な遺跡と発見された文化財についてノート、配布プリントを中心に復習し、これまでの授業を受講して生じた質問や理解しにくかった事柄を次回までにまとめておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	今までの授業で扱った諸事項を復習し、ノート、配布プリントを中心に説明出来るようにしておくこと。くわえて、第1回からこれまでの授業のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	この回を含めて、今までの授業内容についての復習を各自おこなうこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	本講義は、外国人留学生の日本文化への知識を深め、くわえて日本人や日本の生活に一層の理解と親近感を増幅することを目的とする。日本人のこれまでの生活から生み出された日本の様々な文化について、文化庁の日本遺産が設定されている地域を中心に講義をおこなう。具体的には出雲、鳥取地域に視座を置き、各地域の地勢、風土を説明し、そこから熟成された著名な文化財、史跡について論を展開する。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1. 日本の文化や、日本人の暮らしぶりを説明できる。 2. 出雲、鳥取地域の地勢、風土を説明できる。 3. 出雲、鳥取地域の文化遺産である著名な文化財や、史跡を説明できる。 4. 出雲、鳥取地域の文化と母国の文化との相違、類似点を説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	”出雲”、”鳥取”、”日本遺産”、”国宝”、”国指定重要文化財”
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（達成目標1～4）100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	日本の文化と歴史IA、日本の文化と歴史IIA、日本の文化と歴史IIB
参考書	授業の進行過程で紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1) 毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2) (1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3) 出欠は毎回とる。 (4) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。 (5) 毎回、日本語の辞書(電子辞書でも可)を持参すること。 (6) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この科目は、外国人留学生を対象とする科目であり、日本人学生は対象外となる。(学生便覧参照)

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217600)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2 回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3 回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4 回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5 回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6 回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7 回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2 回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3 回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4 回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5 回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6 回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7 回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。

連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・文章表現法基礎編Aを履修していることが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217602)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「日本を知る (1)」について説明する。
2 回	「日本を知る (2)」について説明する。
3 回	「日本を知る (3)」について説明する。
4 回	「読書のすすめ」について説明する。
5 回	「自己啓発 (1)」について説明する。
6 回	「自己啓発 (2)」について説明する。
7 回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
8 回	「敬語の使い方」について説明する。 ● 最終評価試験

回数	準備学習
1 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準時間 1 2 0 分)
3 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) ● 今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 1 8 0 分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	1 . 目的意識 2 . 基礎知識 3 . 実行力 4 . 復習する 5 . 確認の徹底 6 . 授業内容のポイント「ポイント」は、必ず

	メモを取る。 7. 文章を書く「目的・意義」の完全理解
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50％）、ワークシート（50％）
教科書	●「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / 株式会社 ライフ・サポート / ISBN978-4-9907110-110—0-9 ●授業に必要な「資料」（プリント）を、適宜、配布する。
関連科目	●プレゼンテーション基礎編
参考書	●適宜、指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	●最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容についての質問や要望などについて、やり取りできるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次の授業の最初に返却し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。 ●授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。またプリント内容は、復習資料としても活用できることも考慮している。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	●授業における「提出課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。 ●時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締め切り後の二週間後の授業の初めに返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	●合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。 ●講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。
実務経験のある教員	●高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画や重要性などを紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編B (FB217603)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「最近の関心事」を通じて自己分析を指導する。
2回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「最近の関心事」を指導する。
3回	「最近の関心事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4回	「ターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
5回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「ターニングポイント」を指導する。
6回	「ターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7回	「将来したい事」を通じて自己分析を指導する。
8回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「最近の関心事」を考えておくこと。 復習：「最近の関心事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：「最近の関心事」アウトラインを修正すること。 復習：「最近の関心事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：「最近の関心事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「最近の関心事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
4回	予習：「ターニングポイント」アウトラインを作成すること。 復習：「ターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：「ターニングポイント」文章を作成すること。 復習：「ターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6回	予習：「ターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。 復習：「将来したい事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7回	予習：「将来したい事」アウトラインを修正すること。 復習：「将来したい事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8回	予習：「将来したい事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠を示
------	--

	し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	テーマ別エントリーシート)「最近の関心事」「将来したい事」「ターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。 最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができていない場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217604)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	尾崎美恵 * (おざきみえ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「最近の関心事」を通じて自己分析を指導する。
2 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「最近の関心事」を指導する。
3 回	「最近の関心事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4 回	「ターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
5 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「ターニングポイント」を指導する。
6 回	「ターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7 回	「将来したい事」を通じて自己分析を指導する。
8 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「最近の関心事」を考えておくこと。 復習：「最近の関心事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：「最近の関心事」アウトラインを修正すること。 復習：「最近の関心事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3 回	予習：「最近の関心事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「最近の関心事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4 回	予習：「ターニングポイント」アウトラインを作成すること。 復習：「ターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	予習：「ターニングポイント」文章を作成すること。 復習：「ターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	予習：「ターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。 復習：「将来したい事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7 回	予習：「将来したい事」アウトラインを修正すること。 復習：「将来したい事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8 回	予習：「将来したい事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠を示
------	--

	し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	テーマ別エントリーシート)「最近の関心事」「将来したい事」「ターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。 最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができていない場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217605)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	崎重敏幸 * (さきしげとしゆき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「日本を知る (1)」について説明する。
2 回	「日本を知る (2)」について説明する。
3 回	「日本を知る (3)」について説明する。
4 回	「読書のすすめ」について説明する。
5 回	「自己啓発 (1)」について説明する。
6 回	「自己啓発 (2)」について説明する。
7 回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
8 回	「敬語の使い方」について説明する。 ● 最終評価試験

回数	準備学習
1 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準時間 1 2 0 分)
3 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) ● 今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 1 8 0 分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	1 . 目的意識 2 . 基礎知識 3 . 実行力 4 . 復習する 5 . 確認の徹底 6 . 授業内容のポイント「ポイント」は、必ず

	メモを取る。 7. 文章を書く「目的・意義」の完全理解
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50％）、ワークシート（50％）
教科書	●「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / 株式会社 ライフ・サポート / ISBN978-4-9907110-110—0-9 ●授業に必要な「資料」（プリント）を、適宜、配布する。
関連科目	●プレゼンテーション基礎編
参考書	●適宜、指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	●最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容についての質問や要望などについて、やり取りできるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次の授業の最初に返却し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。 ●授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。またプリント内容は、復習資料としても活用できることも考慮している。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	●授業における「提出課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。 ●時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締め切り後の二週間後の授業の初めに返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	●合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。 ●講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。
実務経験のある教員	●高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画や重要性などを紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217606)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「文章表現法」講義概説 をする。
2 回	文章の構成、アウトライン をする。
3 回	アウトライン作成 をする。
4 回	アウトラインの推敲 をする。
5 回	アウトラインの完成 をする。
6 回	序論・本論・結論の作成 1 をする。
7 回	序論・本論・結論の作成 2 をする。
8 回	小論文構成の再確認、 中間試験をする。
9 回	序論・本論・結論の作成 4 をする。
10 回	800 字小論文の完成・提出 をする。
11 回	別テーマによる二本目論文の作成 をする。
12 回	アウトライン添削・修正 をする。
13 回	800 字小論文作成 をする。
14 回	800 字小論文添削・修正 をする。
15 回	800 字小論文の完成 をする。
16 回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする。

回数	準備学習
1 回	学内PCにログインが出来るようにID/Passを用意しておく
2 回	各自PCにログインし、課題提出ページ・操作が出来るように確認しておく
3 回	課題テーマの草案 をすること。(標準学習時間60分)
4 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
5 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
6 回	アウトラインの仕上げ すること。(標準学習時間60分)
7 回	800 字小論文、序論の作成 すること。(標準学習時間60分)
8 回	800 字小論文、本論の作成 学習内容の再確認すること。(標準学習時間60分)
9 回	800 字小論文、結論の作成 すること。(標準学習時間60分)
10 回	800 字小論文の仕上げ すること。(標準学習時間60分)
11 回	アウトラインの復習 すること。(標準学習時間60分)
12 回	アウトライン作成 1 すること。(標準学習時間60分)
13 回	アウトライン作成 2 すること。(標準学習時間60分)
14 回	800 字小論文作成 すること。(標準学習時間60分)
15 回	800 字小論文仕上げ をすること。(標準学習時間60分)
16 回	800 字小論文、本論の作成 学習内容の再確認をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。

	9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％）・課題提出（50％）の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	プレゼンテーション
参考書	必要に応じて教室にて指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	論文という領域での客観的、論理的文章は、他の領域で綴られる文章とは別物であるということを知識として学習するだけではなく、実際に文章作成の練習を重ねて実感、体感しつつ体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	学習した客観的な論文文章の書き方に関する知識だけにとどまらず、それらを実際に項目ごと、ステップごとに作成作業の練習を繰り返す。試行錯誤の中で客観的かつ論理的な思考パターンと文章表現力を実感しながら獲得していく。
課題に対するフィードバック	論文の文章作成練習のステップごとに、提出された課題例文を、毎回教室全体で確認チェックし、自分の練習内容だけではなく、その他多くの具体的実例を参考に自分の文章作成を常にステップアップさせることが出来るようにする。 そのため、PC教室では一つのファイルにすべての課題提出例をまとめ、モニター画面でスクロールさせながら、そのステップごとのポイントを確認チェック、添削を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217607)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のバターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のバターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のバターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	個人の体験、時事問題に関する体験を文章化する作業が中心となる。 また、慣用表現、ことわざ、時事用語などについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217608)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	個人の体験、時事問題に関する体験を文章化する作業が中心となる。 また、慣用表現、ことわざ、時事用語などについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217609)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽 / 新・文章表現法 基礎編（群青色版） / 蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki（アットマーク）xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限（春学期、秋学期とも）
授業の運営方針	個人の体験、時事問題に関する体験を文章化する作業が中心となる。 また、慣用表現、ことわざ、時事用語などについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編B (FB217610)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒～90秒以内で自己紹介をする。
2回	自己紹介の続きをする。
3回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
4回	3回目の続きをする。
5回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことをする。
6回	下書きチェックをする。
7回	清書のチェックをする。
8回	清書をする。

回数	準備学習
1回	自己紹介文を考えておくこと。
2回	自己紹介文を考えておくこと。
3回	語彙力を高めておくこと。
4回	語彙力を高めておくこと。
5回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
6回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
7回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
8回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	語彙力、原稿用紙の使い方、故事成語、ことわざ、論文の書き方、論説の書き方、自己紹介
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%) 教えてきたことがどこまで理解できているかを確認するため一人ひとりその場でチェックし、点数化する。
教科書	なし
関連科目	文章表現法基礎編Aは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成(表現)能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 文章表現基礎編Bでは、自分の言葉で他人にきちんと考えを伝えられるところから始め、ことわ

	ざや故事成語などを使って短文を作成するところから始め、最終的にはインスタやブログなどにまとめた文章をアップできるようになるまでのレベルに上げてゆく。 文章表現法Aで培ったノウハウを応用するので、BだけではなくAも併せて履修することが望ましい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あれば遠慮なくB3号館4階辻研究室まで来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、注意点を言う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217611)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	個人の体験、時事問題に関する体験を文章化する作業が中心となる。 また、慣用表現、ことわざ、時事用語などについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編B (FB217612)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒～90秒以内で自己紹介をする。
2回	自己紹介の続きをする。
3回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
4回	3回目の続きをする。
5回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことをする。
6回	下書きチェックをする。
7回	清書のチェックをする。
8回	清書をする。

回数	準備学習
1回	自己紹介文を考えておくこと。
2回	自己紹介文を考えておくこと。
3回	語彙力を高めておくこと。
4回	語彙力を高めておくこと。
5回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
6回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
7回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
8回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	語彙力、原稿用紙の使い方、故事成語、ことわざ、論文の書き方、論説の書き方、自己紹介
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%) 教えてきたことがどこまで理解できているかを確認するため一人ひとりその場でチェックし、点数化する。
教科書	なし
関連科目	文章表現法基礎編Aは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成(表現)能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 文章表現基礎編Bでは、自分の言葉で他人にきちんと考えを伝えられるところから始め、ことわ

	ざや故事成語などを使って短文を作成するところから始め、最終的にはインスタやブログなどにまとめた文章をアップできるようになるまでのレベルに上げてゆく。 文章表現法Aで培ったノウハウを応用するので、BだけではなくAも併せて履修することが望ましい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あれば遠慮なくB3号館4階辻研究室まで来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、注意点を言う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編B (FB217613)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス (文章の書き方の基本説明) ののちに、60秒～90秒以内で自己紹介をする。
2回	自己紹介の続きをする。
3回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
4回	3回目の続きをする。
5回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことをする。
6回	下書きチェックをする。
7回	清書のチェックをする。
8回	清書をする。

回数	準備学習
1回	自己紹介文を考えておくこと。
2回	自己紹介文を考えておくこと。
3回	語彙力を高めておくこと。
4回	語彙力を高めておくこと。
5回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
6回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
7回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
8回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	語彙力、原稿用紙の使い方、故事成語、ことわざ、論文の書き方、論説の書き方、自己紹介
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (50%) ・課題提出 (50%) 教えてきたことがどこまで理解できているかを確認するため一人ひとりその場でチェックし、点数化する。
教科書	なし
関連科目	文章表現法基礎編Aは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成 (表現) 能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 文章表現基礎編Bでは、自分の言葉で他人にきちんと考えを伝えられるところから始め、ことわ

	ざや故事成語などを使って短文を作成するところから始め、最終的にはインスタやブログなどにまとめた文章をアップできるようになるまでのレベルに上げてゆく。 文章表現法Aで培ったノウハウを応用するので、BだけではなくAも併せて履修することが望ましい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あれば遠慮なくB3号館4階辻研究室まで来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、注意点を言う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217614)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	生田夏樹 * (いくたなつき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第 9 課題: アウトラインを作成する。
2 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第 10 課題: 本文を作成する。
3 回	与えられたテーマC (「創造性について」) の文章を作成する (1) 第 11 課題: アウトライン1 回目を作成する。
4 回	与えられたテーマC の文章を作成する (1) 第 12 課題: アウトライン2 回目を作成する。
5 回	与えられたテーマC の文章を作成する (2) 第 13 課題: 本文を作成する。
6 回	与えられたテーマD (「情報について」) の文章を作成する (1) 第 14 課題: アウトライン1 回目を作成する。
7 回	与えられたテーマD の文章を作成する (2) 第 15 課題: アウトライン2 回目を作成する。
8 回	与えられたテーマD の文章を作成する (3) 第 16 課題: 本文を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
3 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみる。こと。(標準学習時間 120 分)
4 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
5 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
6 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみる。こと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
8 回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。

	6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％） ・課題提出（50％）
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法基礎編A」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題（アウトライン作成または本文作成）に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217615)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	生田夏樹 * (いくたなつき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第 9 課題: アウトラインを作成する。
2 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第 10 課題: 本文を作成する。
3 回	与えられたテーマC (「創造性について」) の文章を作成する (1) 第 11 課題: アウトライン1 回目を作成する。
4 回	与えられたテーマC の文章を作成する (1) 第 12 課題: アウトライン2 回目を作成する。
5 回	与えられたテーマC の文章を作成する (2) 第 13 課題: 本文を作成する。
6 回	与えられたテーマD (「情報について」) の文章を作成する (1) 第 14 課題: アウトライン1 回目を作成する。
7 回	与えられたテーマD の文章を作成する (2) 第 15 課題: アウトライン2 回目を作成する。
8 回	与えられたテーマD の文章を作成する (3) 第 16 課題: 本文を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
3 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみる。こと。(標準学習時間 120 分)
4 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
5 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
6 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみる。こと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
8 回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。

	6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％） ・課題提出（50％）
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法基礎編A」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題（アウトライン作成または本文作成）に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217616)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽 / 新・文章表現法 基礎編（群青色版） / 蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・ 毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・ 出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・ 30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・ 提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・ 授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB217900)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。プレゼンテーションの技法(2)のつかみ・アイコンタクト・身ぶりといった技法を解説する。
2回	「人の話を聞くこと」について解説する。
3回	プレゼンテーション演習(2)インタビューを行う。
4回	プレゼンテーション演習(2)の講評を行う。プレゼンテーションの技法(3)プレゼンテーションのツールと事前準備について解説する。
5回	グループ・ミーティング(2)役割分担を意識し、ミーティングを行う。
6回	ペア・プレゼンについて解説する。
7回	ペア・プレゼンの準備に取り組む。最終評価試験について説明する。
8回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。つかみ・アイコンタクト・身ぶりにといった技法について確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	予習：「人の話を聞くこと」について意味を考えておくこと。復習：人の話を聞くためのポイントを確認すること。(標準学習時間60分)
3回	予習：インタビューの準備をしておくこと。復習：インタビューについて自己点検しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	予習：プレゼンテーションのツールと事前準備について調べておくこと。復習：ツールと事前準備について確認すること。(標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについてミーティングの準備をしておくこと。復習：ミーティングの内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
6回	予習：プレゼンテーションでペアを組む意味について考えてくること。復習：ペアを組む意味を確認すること。(標準学習時間60分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べてくること。復習：ペアとしての役割に取り組むこと。(標準学習時間120分)
8回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	自分の考えをわかりやすく、印象的に他人に伝えるための基本を身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する) 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1.与えられたテーマでスクリプトを構成することができる。 2.スクリプトに基いて数分程度の発表をすることができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、面接、就職活動、日本語表現
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度(達成目標の1-2)確認試験(最終評価試験100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	初回の講義で指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション応用編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1.講義は指定したテキストに沿って進める。 2.必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3.講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4.講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2.受講生同士で各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内の講評やディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB217910)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概説 (確認) をする
2回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6回	PowerPoint資料の改良 をする
7回	PowerPoint資料を使ったりリハーサル・プレゼンテーション をする
8回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	PCにログインできるようID・PASSを手元に準備しておく
2回	スクリプト準備 すること
3回	スクリプト修正 すること
4回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5回	プレゼンテーション改良 すること
6回	PowerPointの作成 すること
7回	PowerPointの修正 すること
8回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	受講者は、 1. プレゼンテーションが何かを認識できる。 2. 代表的アプリケーションのPowerPointを理解、運用が出来る。 3. 実際に模擬発表の形でプレゼンテーションを体験し、質的向上を実現できる。 (パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、明確なアピールポイント) 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	課題添削・修正作業 (40%)、中間提出 (40%)、最終提出 (20%) の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	プレゼンテーションB受講者はプレゼンテーションAを履修済みか、相当の経験のあるものとする 文章表現法
参考書	必要に応じて配布、指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	「プレゼンテーション」とは何か? をより明確に認識すること。プレゼンテーションに関する知識だけではなく、実際に模擬発表を重ねていくことでより認識を深め、知識に踏まえて技能を体感、体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	講義で学習したプレゼンテーション全般に関する知識だけにとどまらず、それらをもとに、実際に発表可能な内容を構成し作り上げ、最終的な模擬発表を繰り返し行う中で、プレゼンテーションに関する知識を確かな認識とし、多くの人前での発表の経験値を多く獲得していく。
課題に対するフィードバック	授業ではプレゼンテーションに関する知識を得るだけではなく、それら知識をもとに、居室にて実際にほぼ毎回「模擬発表」を重ねていく。 模擬発表では、個々に必要な点、不可欠な点を確認チェックしていく。自分の模擬発表だけではなく、他人の模擬発表の問題点も、「たにんごと」ではなく「明日は我が身」と緊張感をもって学習できることを目指す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB217920)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) グループの編成を行う。
2 回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決定する。
3 回	調査内容をまとめる 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する。
4 回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。
5 回	よいプレゼンテーションについて説明する プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。
6 回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。
7 回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
8 回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	課題を考えてくること (標準学修時間120分)
3 回	決定した方法にしたがい、参考文献の収集を行いながら調べ学習をしておくこと (標準学修時間120分)
4 回	スライドの構成を考えてくること (標準学修時間120分)
5 回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること (標準学修時間120分)
6 回	プレゼンテーションの練習を行うこと (標準学修時間120分)
7 回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること (標準学修時間120分)
8 回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること (標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、発表のフィードバックを行うことで改善点を検討し、学会発表や研究発表等で効果的に行えるようにプレゼンテーションスキルの修得を目指す。 (4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)
達成目標	特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる。 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる。 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。 (4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (25%) ・実際のプレゼンを評価する (50%) 発表内容の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・小テスト (25%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、文章表現法基礎編A・B、学びの基礎論A・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F (松尾研究室) E-Mail : matsuo@are.ous.ac.jp

授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていないかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・プレゼンテーション基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	教養演習 B (FB218200)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	哲学と二十世紀について議論する。
2 回	哲学の知について議論する。
3 回	哲学と教養について議論する。
4 回	トランスサイエンスの時代について議論する。
5 回	教養としての哲学について議論する。
6 回	哲学の現場について議論する。
7 回	方法への懐疑について議論する。
8 回	学修の到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	テキストの 8 1 ~ 9 1 ページを読み、哲学と二十世紀について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
2 回	テキストの 9 1 ~ 1 0 3 ページを読み、哲学の知について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	テキストの 1 0 4 ~ 1 1 5 ページを読み、哲学と教養について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	テキストの 1 1 5 ~ 1 2 4 ページを読み、トランスサイエンスの時代について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	テキストの 1 2 4 ~ 1 3 8 ページを読み、教養としての哲学について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	テキストの 1 3 9 ~ 1 5 5 ページを読み、哲学の現場について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	テキストの 1 5 5 ~ 1 6 3 ページを読み、方法への懐疑について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自らの考えを整理できる。 2) 説得力のある発言を行なえる。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	討論、思考、表現
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	学修の到達度確認テスト (100%) (達成目標1,2を評価) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	哲学の使い方 / 鷲田 清一 / 岩波新書 / 978-4-00-431500-1
関連科目	教養演習A、比較文化論AB、文学AB
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限
授業の運営方針	・ テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・ やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション: テキストおよび新聞記事に基づき受講者による討論を行なう。
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	教養演習 B (FB218210)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(1)(標準学習時間120分)
2 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(2)(標準学習時間120分)
3 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(3)(標準学習時間120分)
4 回	話を興味深いものにするための工夫について説明する。(標準学習時間120分)
5 回	レジュメの作成方法について説明する。(標準学習時間120分)
6 回	ディスカッション、5分間スピーチの要領について説明する。(標準学習時間120分)
7 回	これまでの総まとめを行う。(標準学習時間120分)
8 回	到達度確認試験と今後の取り組みについて提言を行う。(標準学習時間120分)

回数	準備学習
1 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
2 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
3 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
4 回	資料の作成方法、プレゼンテーションの方法について復習しておくこと。
5 回	自分の関心のある分野、事象を扱った文献を調べてみる。
6 回	レジュメの作成方法について復習しておくこと。
7 回	これまでの学習を通じて、「自己表現能力」がどの程度身に付いたか、確認すること。
8 回	到達度確認試験の準備をしておくこと。

講義目的	自分の興味がある分野を中心に調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自分の考えを整理できること。 2) 説得力のある発言が行えること。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト100%により成績を評価し、60%以上を合格とする
教科書	プリント配布
関連科目	プレゼンテーション、
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki(アットマーク)xmath.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜3時限(春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	受講マナーを守り、グループ内で他の受講生と強調して、積極的にディスカッションに参加してください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッションを中心に行う。
課題に対するフィードバック	グループ発表について、他のグループの意見も聴取しながら、問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は15~20名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご留意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は50名とする。

科目名	教養演習 B (FB218220)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(1)(標準学習時間120分)
2 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(2)(標準学習時間120分)
3 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(3)(標準学習時間120分)
4 回	話を興味深いものにするための工夫について説明する。(標準学習時間120分)
5 回	レジュメの作成方法について説明する。(標準学習時間120分)
6 回	ディスカッション、5分間スピーチの要領について説明する。(標準学習時間120分)
7 回	これまでの総まとめを行う。(標準学習時間120分)
8 回	到達度確認試験と今後の取り組みについて提言を行う。(標準学習時間120分)

回数	準備学習
1 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
2 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
3 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
4 回	資料の作成方法、プレゼンテーションの方法について復習しておくこと。
5 回	自分の関心のある分野、事象を扱った文献を調べてみる。
6 回	レジュメの作成方法について復習しておくこと。
7 回	これまでの学習を通じて、「自己表現能力」がどの程度身に付いたか、確認すること。
8 回	到達度確認試験の準備をしておくこと。

講義目的	自分の興味がある分野を中心に調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自分の考えを整理できること。 2) 説得力のある発言が行えること。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト100%により成績を評価し、60%以上を合格とする
教科書	プリント配布
関連科目	プレゼンテーション、
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki(アットマーク)xmath.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜3時限(春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	受講マナーを守り、グループ内で他の受講生と強調して、積極的にディスカッションに参加してください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッションを中心に行う。
課題に対するフィードバック	グループ発表について、他のグループの意見も聴取しながら、問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は15~20名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご留意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は50名とする。

科目名	企業と人間 B (FB218501)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業や組織の不祥事についてディスカッションする。
2 回	就職活動の現状と海外の就職事情について概観する。
3 回	就活市場の仕組みを分析し、職業の事例を紹介する。
4 回	食の安全と企業利益について考察し、職業の事例を紹介する。
5 回	外国人労働者をめぐる問題について考察する。
6 回	フランチャイズシステムを分析し、その現状と問題点を検証する。
7 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：企業の不祥事についてまとめること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：就職活動について考えておくこと。復習：就職活動の現状についてまとめること。(標準学習時間45分)
3 回	予習：日本的就職活動の問題点を考えておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめておくこと。(標準学習時間45分)
4 回	予習：食をめぐる現状について考えておくこと。復習：食の安全についてまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：外国人労働者について調べておくこと。復習：外国人労働者をめぐる問題についてまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：フランチャイズシステムについて調べておくこと。復習：フランチャイズの問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」(黒版) / 蜻文庫
関連科目	企業と人間A、ボランティア論A・B、技術者の社会人基礎A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 B (FB218502)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業や組織の不祥事についてディスカッションする。
2 回	就職活動の現状と海外の就職事情について概観する。
3 回	就活市場の仕組みを分析し、職業の事例を紹介する。
4 回	食の安全と企業利益について考察し、職業の事例を紹介する。
5 回	外国人労働者をめぐる問題について考察する。
6 回	フランチャイズシステムを分析し、その現状と問題点を検証する。
7 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：企業の不祥事についてまとめること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：就職活動について考えておくこと。復習：就職活動の現状についてまとめること。(標準学習時間45分)
3 回	予習：日本的就職活動の問題点を考えておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめておくこと。(標準学習時間45分)
4 回	予習：食をめぐる現状について考えておくこと。復習：食の安全についてまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：外国人労働者について調べておくこと。復習：外国人労働者をめぐる問題についてまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：フランチャイズシステムについて調べておくこと。復習：フランチャイズの問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」(黒版) / 蜻文庫
関連科目	企業と人間A、ボランティア論A・B、技術者の社会人基礎A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 B (FB218503)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 B (FB218504)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 B (FB218505)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 B (FB218506)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	キャリア形成講座 B (FB218800)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「コンセンサス力（合意力）」の強化を目的に、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
2 回	【表現力・展開力の強化演習】 集団の中での自分の活かしたかを知る基礎であるブレインストーミングを通じて、表現力・展開力・要約力と整理力の強化を図る演習を実施する。 (桑田 朋美*)
3 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「課題解決」のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
4 回	【セルフコントロール】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
5 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学（行動経済学）」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 (飯田 哲司*)
6 回	【目標達成のための行動計画】 自己目標の達成のための具体的な行動計画作成シートの作成を、発想展開ツールを用いて個働～協働のステップで実施する。またグループ内での行動宣言により自己肯定力の醸成・共有も図る。 (飯田 哲司*)
7 回	【国際感覚を身につける】 人口問題・世界情勢をテーマに国際感覚の意識拡大と、課題発見のための視野・視点の拡大を図る。 (飯田 哲司*)
8 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「合意力」の強化と共に、「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	達成したい目標（短期目標・長期目標）とその達成のための行動イメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	海を越えた意識・感覚について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)

8 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。
講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間レポートと最終課題レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	キャリア形成講座 B (FB218810)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「コンセンサス力（合意力）」の強化を目的に、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
2 回	【表現力・展開力の強化演習】 集団の中での自分の活かしたかを知る基礎であるブレインストーミングを通じて、表現力・展開力・要約力と整理力の強化を図る演習を実施する。 (桑田 朋美*)
3 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「課題解決」のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
4 回	【セルフコントロール】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
5 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学（行動経済学）」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 (飯田 哲司*)
6 回	【目標達成のための行動計画】 自己目標の達成のための具体的な行動計画作成シートの作成を、発想展開ツールを用いて個働～協働のステップで実施する。またグループ内での行動宣言により自己肯定力の醸成・共有も図る。 (飯田 哲司*)
7 回	【国際感覚を身につける】 人口問題・世界情勢をテーマに国際感覚の意識拡大と、課題発見のための視野・視点の拡大を図る。 (飯田 哲司*)
8 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「合意力」の強化と共に、「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	達成したい目標（短期目標・長期目標）とその達成のための行動イメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	海を越えた意識・感覚について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)

8 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。
講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間レポートと最終課題レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	学びの基礎論 B (FB219100)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス 図書館の活用の仕方 情報収集の仕方と図書館の利用方法について説明する。
2 回	本のレビューとレコメンド 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論（レビュー）と推薦文（レコメンド）について説明する。
3 回	アカデミックライティング レポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。
4 回	効果的なアカデミックライティング 分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。
5 回	プレゼンテーションスキル プレゼンテーションの基本スキルについて説明する。
6 回	プレゼンテーションスライドの作成
7 回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを实践する。
8 回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを实践する。

回数	準備学習
1 回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。（標準学修時間120分）
2 回	読んだ本の要点をまとめておくこと（標準学修時間120分）
3 回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと（標準学修時間120分）
4 回	11回目で学習したことを参考に、レポートを修正しておくこと（標準学修時間120分）
5 回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと（標準学修時間120分）
6 回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること（標準学修時間120分）
7 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。（標準学修時間120分）
8 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。（標準学修時間120分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
達成目標	グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。 （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・課題（ワークシート等）への取り組み（30%） ・レポート（30%） ・課題発表（40%） により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	学びの基礎論A、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。

授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に申し出ること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートにまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型授業であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・学びの基礎論Aを受講していることがのぞましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論 B (FB219110)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス 図書館の活用の仕方 情報収集の仕方と図書館の利用方法について説明する。
2 回	本のレビューとレコメンド 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論 (レビュー) と推薦文 (レコメンド) について説明する。
3 回	アカデミックライティング レポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。
4 回	効果的なアカデミックライティング 分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。
5 回	プレゼンテーションスキル プレゼンテーションの基本スキルについて説明する。
6 回	プレゼンテーションスライドの作成
7 回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
8 回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。

回数	準備学習
1 回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
2 回	読んだ本の要点をまとめておくこと(標準学修時間120分)
3 回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと(標準学修時間120分)
4 回	11回目まで学習したことを参考に、レポートを修正しておくこと(標準学修時間120分)
5 回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
6 回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
7 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。(標準学修時間120分)
8 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与)
達成目標	グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与)
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・課題 (ワークシート等) への取り組み (30%) ・レポート (30%) ・課題発表 (40%) により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	学びの基礎論A、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室: matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。

授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に申し出ること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートにまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型授業であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・学びの基礎論Aを受講していることがのぞましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論 B (FB219120)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス 図書館の活用の仕方 情報収集の仕方と図書館の利用方法について説明する。
2 回	本のレビューとレコメンド 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論（レビュー）と推薦文（レコメンド）について説明する。
3 回	アカデミックライティング レポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。
4 回	効果的なアカデミックライティング 分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。
5 回	プレゼンテーションスキル プレゼンテーションの基本スキルについて説明する。
6 回	プレゼンテーションスライドの作成
7 回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを实践する。
8 回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを实践する。

回数	準備学習
1 回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。（標準学修時間120分）
2 回	読んだ本の要点をまとめておくこと（標準学修時間120分）
3 回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと（標準学修時間120分）
4 回	11回目で学習したことを参考に、レポートを修正しておくこと（標準学修時間120分）
5 回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと（標準学修時間120分）
6 回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること（標準学修時間120分）
7 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。（標準学修時間120分）
8 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。（標準学修時間120分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
達成目標	グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。 （4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与）
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・課題（ワークシート等）への取り組み（30%） ・レポート（30%） ・課題発表（40%） により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	学びの基礎論A、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。

授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に申し出ること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートにまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型授業であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・学びの基礎論Aを受講していることがのぞましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論 B (FB219130)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	・ ガイダンス ・ マズロー自己実現と学び
2 回	リーディングスキル ・ 筆者の意図や何を伝えたいのかを文章から読みとる。 ・ 文章から読みとった内容と他の事柄との関連づけを図る。
3 回	リーディングスキル ・ 筆者の意図や何を伝えたいのかを文章から読みとる。 ・ 文章から読みとった内容と他の事柄との関連づけを図る。
4 回	アカデミックライティング ・ レポートについて、作成手順を説明する。
5 回	効果的なアカデミックライティング ・ わかりやすい文章や表現方法について説明する。 プレゼンテーションの基本的スキルについて説明する。
6 回	プレゼンテーションの基本的スキルとスライドの作成。
7 回	課題発表とふり返り。 ・ これまでのまとめとして、プレゼンテーションを行い、ブア・レビューを行う。
8 回	課題発表とふり返り。 ・ これまでのまとめとして、プレゼンテーションを行い、ブア・レビューを行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して本講義の目的をまとめておくこと。 マズローの自己実現にまとめておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	与えられたテーマから、レポートを作成していくこと。(標準学習時間120分)
5 回	4回目で学んだことを参考にして、修正したレポートを作成すること。 (標準学習時間120分)
6 回	課題の内容を文章にまとめておくこと。このまとめを使ってスライドを作成することに留意する。 (標準学習時間120分)
7 回	決められた手順と制限時間にしがって、発表が円滑にできるように予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	決められた手順と制限時間にしがって、発表が円滑にできるように予習をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	グループにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を構築できること。 第三者が読んで、理解しやすく、正しい表現で文章を書くことができる。 自分の考えをまとめ、プレゼンテーションすることができる。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与する)
キーワード	プレゼンテーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ワークシート(30%)、レポート(20%)、発表(50%)より、成績を評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	資料を配布する。
関連科目	学びの基礎論 A、地域フィールドスタディ、文章表現法 A、B

参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室：jiro@ee.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして、グループディスカッションや発表を行う。
課題に対するフィードバック	提出課題等のフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を行う。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	本講義は「学びの基礎論A」を受講することがのぞましい。

科目名	企業情報特論 B (FB219700)
英文科目名	Business Leader Lecture Series B
担当教員名	河野敏行(こうのとしゆき), 前川洋子(まえかわようこ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。 2回目以降は、毎回、各界で活躍されている委嘱教授による講演を聴講し、それについてレポートを作成し提出する。 (全教員)
2 回	講演者：富士ゼロックス岡山株式会社 代表取締役社長 藤田康史 タイトル：「大転換期の企業経営と求める人材」 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
3 回	講演者：株式会社天満屋ストア タイトル：未定 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
4 回	講演者：山陽新聞社 代表取締役社長 松田正己 タイトル：「新聞づくりは地域づくり」(予定) 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
5 回	講演者：三井住友銀行 タイトル：(講演内容未定) 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
6 回	講演者：株式会社システムズナカシマ 代表取締役社長 中島義雄 タイトル：「ナカシマグループにおける新事業への取り組み」(予定) 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
7 回	講演者：株式会社はるやまホールディングス 監査役 佐藤晃司 タイトル：「着こなしのTP0」 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
8 回	講演者：リッキービジネスソリューション株式会社 代表取締役 岡山理科大学客員教授 澁谷耕一 タイトル：「創業経営者から学んだこと～伊藤雅俊、今泉嘉久、大竹美喜、南部靖之、孫正義、北尾吉孝～」 講演後、質疑応答をする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスをチェックし、これからの講師の概要を調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)

	標準学習時間60分)
4 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
講義目的	経済活動や企業間競争のグローバル化の急速な展開に伴い、本質的な市場ニーズを正確に把握し、それに対応した事業戦略・技術開発戦略を構築することが、企業の重要な課題になっている。本科目では、確固たる経営理念のもとに企業や産業界をリードしている卓越した経営者等に、企業活動のあるべき姿、事業・商品戦略、研究開発戦略、求められる技術者像と人材育成、企業と大学の連携や地域貢献、等について、判りやすくお話いただく。これにより企業や社会に貢献する技術者として持つべき素養を身に付ける。 毎回の講義毎に講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	1) 経営理念と企業活動などを他社と比較できる。(知識・理解) 2) 戦略的経営および商品戦略・技術経営と研究開発戦略などを説明できる。(知識・理解) 3) 企業における人材育成を他社と比較できる。(知識・理解) 4) 企業にとっての地域社会との関わりと社会貢献を比較できる。(知識・理解) 5) 以上の内容を説明できる。(知識・理解) 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
キーワード	経営理念、経営戦略、技術マネジメント(MOT)、産学連携
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、各講義に関するレポート提出が課せられる。8回分のレポート(100%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。各講師の方の話に沿って、到達目標の1)2)3)4)5)を評価する。
教科書	使用しない
関連科目	技術マネジメント、インターンシップ
参考書	藤末健三著「技術経営入門」日経BP社発行
連絡先	キャリア支援センター(25号館7階)
授業の運営方針	講義は各回ごとに講師を招いて、実施する。出席は提出されるレポートによって、カウントをするため、レポートの提出が無い場合は出席扱いとしない。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポートに対して、個別にフィードバックを行うため、キャリア支援センターに来ること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	講師のほとんどが現役の実務を行っている方で、経験を活かして講義を行う。
その他(注意・備考)	1) 教室の収容人数制限により受講者数が制限されることがあります。 2) 企業経営者の講義であるから、入社面接の際の注意事項と同様な態度で受講すること。 3) 講義中の撮影、録音等を行うことは原則禁止する。 4) 講演者は変更となることがある。 委嘱教授は、サービス関係企業経営幹部、文化芸術・産業分野有識者、食品関係企業経営幹部、服飾メーカー経営幹部、繊維・衣料メーカー経営幹部、マスコミ関係経営幹部、システム関係企業経営幹部、政治・社会分野有識者、教育界有識者、金融機関経営幹部等である。 講義を聴く態度、姿勢、適切な質疑応答などが求められる。講演者についての事前知識の収集を十分にいき、毅然とした態度で受講することが臨まれる。

科目名	インターンシップ概論 (FB219805)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	出席率80%、提出物20%により評価する。
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/ 株式会社理想経営 / 株式会社理想経営
関連科目	インターンシップA・B・C、社会・産業実習、産業課題研究演習、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	株式会社CDLキャリアデザイン研究所 代表取締役 元東京ディズニーランド勤務 大学教育歴22年、10年間でのべ1万人を超える生徒の個別指導の実績を持つ 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 前期博士課程修了（社会福祉学修士） ・「人材教育支援事業」（管理者研修、役職者研修、新人社員、中堅社員、新人フォローアップ）等 ・「人材育成支援事業」（大学・短大・専門・高校・小中学校、父母、PTA）等
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219806)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	出席率80%、提出物20%により評価する。
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/ 株式会社理想経営 / 株式会社理想経営
関連科目	インターンシップA・B・C、社会・産業実習、産業課題研究演習、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し，その発表の相互評価，自己評価を行います．
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする． ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく．
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください．
実務経験のある教員	株式会社CDLキャリアデザイン研究所 代表取締役 元東京ディズニーランド勤務 大学教育歴22年、10年間でのべ1万人を超える生徒の個別指導の実績を持つ 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 前期博士課程修了（社会福祉学修士） ・「人材教育支援事業」（管理者研修、役職者研修、新人社員、中堅社員、新人フォローアップ）等 ・「人材育成支援事業」（大学・短大・専門・高校・小中学校、父母、PTA）等
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと． 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること．

科目名	インターンシップ概論 (FB219807)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめるとともに、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の提出物20%、レポート80%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	経営コンサルタントでの経験を活かして、企業の考え方、採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219808)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の提出物20%、レポート80%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	経営コンサルタントでの経験を活かして、企業の考え方、採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	文章表現法応用編 B (FB220300)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8 回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2 回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3 回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。
達成目標	4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。 エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編 A、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	・提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法応用編 B (FB220310)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8 回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2 回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3 回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。
達成目標	4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。 エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編 A、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	・提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法応用編 B (FB220320)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。広告文を書く (1) : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く (2) : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の事例 (1) : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く (1) : エントリーシートの事例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く (2) : エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の事例 (2) : 契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習 : シラバスを読んでおくこと。復習 : 受講上の注意を確認すること。広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2 回	予習 : 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習 : 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3 回	予習 : ビジネスレターや履歴書の事例に触れておくこと。復習 : ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習 : エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習 : エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習 : 自己分析を行っておくこと。復習 : エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習 : 契約書や企画書の事例に触れておくこと。復習 : 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習 : 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習 : 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	予習 : 後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習 : 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1. 文章表現の基本を身につけている。 2. 自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3. 状況に応じた文章を書くことができる。 4. 文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	学修 (達成目標1-4) の到達度確認試験 (最終評価試験100%) により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、社会で必要となる文章スキルをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB221100)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。技術者をめぐる諸問題を提示する。
2 回	日本の技術について考え、技術者の役割についてディスカッションする。
3 回	文章スキルの向上について解説する。実務文書に取り組む。
4 回	情報や資料を分析し、自ら問題や独自の視点を見つける。
5 回	プレゼンのスキル向上について解説する。ディスカッションによって自分の考えを検証する。
6 回	プレゼン演習を行い、相互評価に取り組む。
7 回	企業や社会におけるマナーについて解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：技術者をめぐる問題についてまとめておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	予習：日本の伝統技術について調べておくこと。復習：技術者の役割についてまとめること。(標準学習時間30分)
3 回	予習：テキスト「文章スキル」第3章を読んでおくこと。復習：実務文書の課題に取り組むこと。(標準学習時間60分)
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：分析結果をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	予習：テキスト「プレゼン編」第2・第3章を読んでおくこと。復習：ディスカッションの結果をまとめること。(標準学習時間60分)
6 回	予習：プレゼンの準備をしておくこと。復習：プレゼンのレポートをまとめること。(標準学習時間90分)
7 回	予習：敬語や挨拶文について調べておくこと。復習：一般社会のマナーについてまとめること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	技術者に求められる役割を理解するとともに、社会人基礎力の中核である「読む・聴く・書く・話す」というコミュニケーション能力の重要性について学ぶ。また就職活動や大学院進学に必要な一般社会でのマナーや常識、言葉遣いを身につける。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与する。
達成目標	1. 社会で必要となるマナーの基本が身についている。 2. 現代社会における技術者の役割について説明できる。 3. 自分で問題を見つけ、それを文章でわかりやすく表現できる。 4. 自分で問題を分析し、それを大勢の相手に話して伝えることができる。 5. 他人と協調してコミュニケーションをとることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与する。
キーワード	文章表現、日本語、社会人、技術者、プレゼンテーション、マナー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-5)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	技術者の社会人基礎A、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、企業と人間A・B、ボランティア論A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング

ゲ	1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、社会人としての基礎を具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を70名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB221110)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2 回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6 回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8 回	総括

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、メール、経営者、マネジメント、リーダーシップ
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 * 「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB221120)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2 回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6 回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8 回	総括

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、メール、経営者、マネジメント、リーダーシップ
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 * 「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB221130)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2 回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6 回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8 回	総括

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、メール、経営者、マネジメント、リーダーシップ
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 * 「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

科目名	経営工学 B (FB221300)
英文科目名	Industrial Engineering B
担当教員名	西敏明 * (にしとしあき *)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について説明する。
2 回	品質管理について説明する。品質を中心とする経営の必要性について説明する。
3 回	品質経営について説明する。
4 回	生産性管理と作業管理について説明する。
5 回	インダストリアル・エンジニアリング (IE) について説明する。
6 回	バリューエンジニアリング (VE) と工学における技術開発について説明する。
7 回	設備管理と数理モデルの考え方について説明する。
8 回	1 - 7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	前回の講義の復習と、テキストの多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
2 回	前回の講義の復習と、テキストの品質管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	前回の講義の復習と、テキストの品質マネジメントについて予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	前回の講義の復習と、テキストの生産性管理と作業管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	前回の講義の復習と、テキストのインダストリアル・エンジニアリング (IE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	前回の講義の復習と、テキストのバリューエンジニアリング (VE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	前回の講義の復習と、テキストの生産管理について予習すること。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	予習として、1 - 7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習して理解しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化（例として、生産管理）の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 上記の事項は、特に4領域の中で「知識・理解」に関係している。
達成目標	・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる（A） ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける（B） ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る（D） *（ ）は教育推進機構 教養教育センターの単位認定の方針（ディプロマポリシーに相当）の対応する項目（教育推進機構 教養教育センターのホームページ参照）
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100点で評価する。 但し、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよくわかる本[第2版] / 菅間正二 / 秀和システム / 4798037303
関連科目	工学系基礎科目
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
授業の運営方針	授業の進め方は、最近の新聞記事から経営工学に関する話題を述べる。次いで、各回の授業内容を義して、最後にまとめをおこなう。 各回の授業終了後、質問がある場合は受け付けるので、積極的に質問をしてください。なお、質問内容で、重複する質問や特徴のある質問については、次回の講義の際に、復習を含めて述べる。このことにより、さらに授業の内容の理解の深化をしていきたい。なお、講義前、講義後に質問も受け付ける。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験を実施後、後半の講義で、模範解答と解説を実施する。 提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきま で、配慮が必要な場合は、必ず事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は、原則認めません(不許可)。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。

科目名	技術マネジメント B (FB221500)
英文科目名	Management of Technology B
担当教員名	西村寿夫* (にしむらひさお*)
対象学年	3 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	論文、特許、報告書の役割を理解する。知的財産権、特許、実用新案について理解する。技術マネジメントAの最終評価試験結果の返還予定日。第3章：知的財産のマネジメント 西村 寿夫*
2 回	企業の価値をどのような観点からみるのか、また会計、原価計算、金融についての考え方を理解する。技術マネジメントAの最終評価試験結果の返還予定日（予備日）。第4章：アカウンティングとファイナンス 西村 寿夫*
3 回	「人材こそが最大かつ唯一の財産である」と謳っている企業がある。この大切な人材を能力、評価、育成に関して、どのように考えたらよいかを理解する。第5章：ヒューマンリソース 西村 寿夫*
4 回	マーケティングの分析方法について理解し、自社の理念やコア技術、プラットフォーム技術との関連について理解する。第6章：マーケティング 西村 寿夫*
5 回	研究開発を推進する時に、どのような考え方をし、どこに注意を働かせるかを理解する。また製品化までの険しい道のりと留意点を理解する。第7章：R&D 西村 寿夫*
6 回	ボーダーレスビジネス環境に打ち勝つ企業が、グローバル企業でもある。通信、流通、金融、市場、技術等のボーダーレス化は著しい。半面、政治、宗教、生活習慣、言語等がボーダーレス化を抑制している。この両面から、適切なボーダーレス化とはを理解し、グローバル企業の条件、あり方を考える。第14章：ボーダーレスビジネス環境 西村 寿夫*
7 回	技術を駆使してのものづくりだけでなく、社会に受け入れられる企業の構築、維持することの重要性を理解する。ものづくりは豊かな社会を築く半面、エネルギーを多く消費している。環境保全にも重きを置いた持続可能な企業の発展がWCEDでも提唱されている。これらのことを理解する。第15章：企業の社会的な活動、第16章：環境マネジメント 西村 寿夫*
8 回	最終評価を行い、試験終了後に出题内容について解説を行う。 西村 寿夫*

回数	準備学習
1 回	知的財産、知的財産権について予習しておくこと。特許を出願する目的を予習しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	企業価値、ROE、貸借対照表について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	人が他人を評価する意味合いと評価方法、やりがいとは何か、人材とは企業経営において、どのような位置づけにあるかを予習しておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	製品のニーズを掴むためには、どのような方法があるかを予習しておくこと。またニーズを採用するための条件を考えておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	企業における研究開発の役割をせいりする。研究開発を順調に推進するために必要なことは何かを予習しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	コストダウンのために人件費の安い国（中国）で製造した場合の問題点を予習、検討しておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	企業は何故、社会に目を向けた活動をするかを考え、CSR、コンプライアンス等の意味を予習しておくこと。我が国の土壌汚染問題を一つ取り上げて説明する。CO2排出量で世界の国々が同調しない一番の大きな理由を考えておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	1～7回までに説明した技術マネジメントBの基礎について復習しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	企業では、全社の体制・組織や末端の部課に至る役割・分担が明確に全社規定に定められている。それを実務体験の浅い若手が十分理解することは、容易ではない。「技術マネジメント（経営）」は通産相で定義されているように「技術を、事業の核とする企業・組織が次世代の事業を継続的に創出し、持続的発展を行うための、創造的、かつ
------	--

	戦略的なイノベーションである。これを理解することで、技術者や研究者を目指す学生が企業における技術者や研究者の立ち位置を俯瞰的に把握でき、将来のリーダーとしての能力を涵養できる。技術マネジメントAでは、ものづくりに関連したMOTの項目を履修した。技術マネジメントBでは技術を核とした企業が、事業を継続的に持続的発展を行うを行うためのMOT項目を取り上げて履修する。 (全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与している。)
達成目標	1. 知的財産権の内容と意図を理解する。(A) 2. 原価計算と会計システムを理解し、企業の原価、業績等を読み取る力を身につける。(A) 3. 人の評価方法を理解する。(A) 4. 市場調査方法とニーズに基づき製品化を理解する。(A) 5. ボーダーレスビジネス環境におけるグローバル企業の在り方を考える能力を身につける。(C) 6. 企業の社会的な役割や環境問題の重要性を理解する。(C) * () 内は全学の「学位授与の方針」の対応する項目を示す。
キーワード	知的財産権、原価と会計システム、ヒューマンリソース、マーケティング、R&D、ボーダーレスビジネス環境、CSR、環境マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎講義のレポート(20%)、最終評価試験(8回目、出題対象: 1回から7回、80%)の総合評価により、60点以上を合格とする。
教科書	技術経営論入門(わかりやすいMOTの考え方)/阿部隆夫/森北出版発行
関連科目	プロジェクト、
参考書	1. 延岡健太郎著/MOT(技術経営)/日本経済新聞社発行 2. グローバルタスクフォース(株)編/通勤大学MBA11 MOTテクノロジーマネジメント/総合法令出版発行 3. 久保豊子著/図解でわかる原価計算いちばん最初に読む本/アニモ出版発行
連絡先	携帯電話; 090-6984-9325
授業の運営方針	1. 授業の撮影、録音は禁止する。1
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	1. 最終試験後に模範解答の説明を行う(約30分)。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 学生の能力を最大限引き出すために、教育ディベロッパーや教務の先生方と連携を密に行い、都度適切な対策を実施する。
実務経験のある教員	元IHI勤務 製品の設計・開発や現場での課題解決の経験を活かして講義する。
その他(注意・備考)	1. 各講義ごとに、与えられた課題に対するレポートを提出する。 講義中にレポートの内容に対しての説明や意見を学生が発表し、コメントを行う。 2. レポートは翌週(原則)にはコメントをつけて返却する。

科目名	身近な物理学 (FB221700)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives II
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	静電気について説明する。正負の電気があり電子の電荷が負とされるに至った過程を述べ、摩擦帯電の演示実験を通して静電気の性質を学ぶ。
2回	クーロンの法則について説明する。静電気力の法則を用いて様々な電気現象が説明できることを示し、箔検電器などを用いてクーロン力の演示実験を行なう。
3回	電場と電位について説明する。電場と電位の関係について述べ、箔検電器を用いた演示実験によりコンデンサーの概念と特性を学ぶ。
4回	電池と電流について説明する。電池とオームの法則について述べ、電池と電気分解の演示実験により電池の動作メカニズムと電流の概念を学ぶ。
5回	磁場について説明する。電流と磁場の関係について述べ、アンペールの法則とファラデーの電磁誘導に関する演示実験を行ない、磁場の概念を学ぶ。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、電磁波について説明する。マクスウェルの理論について述べ、ヘルツの演示実験を行う。
7回	光の特性と正体について説明する。光の反射・屈折・干渉・回折に関する演示実験により全反射・虹・シャボン玉の色・夕陽と空の色などのメカニズムを学ぶ。
8回	これまでのまとめと到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.63～68を読んでノートにまとめ、静電気の性質とその研究の歴史について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.69～70を読んでノートにまとめ、クーロンの法則と静電誘導について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.71～77を読んでノートにまとめ、重力場と比較して電場と電位と電気容量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.78～83を読んでノートにまとめ、電池と電流とオームの法則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.84～88を読んでノートにまとめ、電流と磁場の相互作用に関する法則を予習すること。(標準学習時間60分)
6回	1～5回までの復習をすること。教科書p.89～92を読んでノートにまとめ、アンペール-マクスウェルの法則と電磁波について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.93～105を読んでノートにまとめ、光の性質と正体について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.63～105までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	この授業は、我々の身の回りで生じる身近な物理現象を対象としてその現象を明解に説明するための物理的な考え方を培うことを目的としている。従って、最初に演示実験を行い、その結果から物理法則を導き、その法則を用いて身近な現象が生じる理由を説明する順序で授業を行う。また科学史を参照して、正しい知識を得るために先人達が試行錯誤した足跡をたどり、未知の現象に対応できる柔軟な思考力を培う。では、電気と光に関する授業を展開し、電気・磁気・光に関する法則を導出し、その応用を学ぶ。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物理法則の確立の経緯、物理量の定義、身近な物理現象の原因、実験による物理法則の確認方法)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	静電気、電場、電位、磁場、電磁波、光 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、マクスウェルの方程式、スネルの法則
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(到達目標1～3を確認)を50点満点としてその評価点をx点とし、到達度確認テスト(到達目標1～3を確認)を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、A1号館1階の丸善キャンパスショップで販売する。

関連科目	
参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088-3 / みすず書房
連絡先	masuonakagawa12345@gmail.com
授業の運営方針	・高校における物理学の知識の多少は問わないが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学ぶので、必ず毎回出席してノートに記録すること。出席は、初回に配布する出席カードとバーコードリーダーを用いて毎回講義開始前に確認する。 ・物理学は特に論理的思考を重視する学問であるから、テストにおいても自筆ノートは持ち込み可とする。しかし、テストにおける不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	テストについては、テスト後あるいは次回の講義日に模範解答・解説・評価などのフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料等を提供することがある。 ・講義や演示実験は、大スクリーンに投影したPPT画像やカメラ画像を中心として行い、板書は最小限に留める。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元新コスモス電機(株)コスモス研究所勤務： 企業の研究所におけるセンサー開発の経験を生かして、思考力や創造力を高めるために必要な実践的勉強方法を講義を通して示す。
その他（注意・備考）	・以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある： 基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。 ・「物理学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学 Ⅰ」の履修を避けること。

科目名	身近な物理学 (FB221710)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives II
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	静電気について説明する。正負の電気があり電子の電荷が負とされるに至った過程を述べ、摩擦帯電の演示実験を通して静電気の性質を学ぶ。
2回	クーロンの法則について説明する。静電気力の法則を用いて様々な電気現象が説明できることを示し、箔検電器などを用いてクーロン力の演示実験を行なう。
3回	電場と電位について説明する。電場と電位の関係について述べ、箔検電器を用いた演示実験によりコンデンサーの概念と特性を学ぶ。
4回	電池と電流について説明する。電池とオームの法則について述べ、電池と電気分解の演示実験により電池の動作メカニズムと電流の概念を学ぶ。
5回	磁場について説明する。電流と磁場の関係について述べ、アンペールの法則とファラデーの電磁誘導に関する演示実験を行ない、磁場の概念を学ぶ。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、電磁波について説明する。マクスウェルの理論について述べ、ヘルツの演示実験を行う。
7回	光の特性と正体について説明する。光の反射・屈折・干渉・回折に関する演示実験により全反射・虹・シャボン玉の色・夕陽と空の色などのメカニズムを学ぶ。
8回	これまでのまとめと到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.63～68を読んでノートにまとめ、静電気の性質とその研究の歴史について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.69～70を読んでノートにまとめ、クーロンの法則と静電誘導について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.71～77を読んでノートにまとめ、重力場と比較して電場と電位と電気容量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.78～83を読んでノートにまとめ、電池と電流とオームの法則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.84～88を読んでノートにまとめ、電流と磁場の相互作用に関する法則を予習すること。(標準学習時間60分)
6回	1～5回までの復習をすること。教科書p.89～92を読んでノートにまとめ、アンペール-マクスウェルの法則と電磁波について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.93～105を読んでノートにまとめ、光の性質と正体について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.63～105までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	この授業は、我々の身の回りで生じる身近な物理現象を対象としてその現象を明解に説明するための物理的な考え方を培うことを目的としている。従って、最初に演示実験を行い、その結果から物理法則を導き、その法則を用いて身近な現象が生じる理由を説明する順序で授業を行う。また科学史を参照して、正しい知識を得るために先人達が試行錯誤した足跡をたどり、未知の現象に対応できる柔軟な思考力を培う。では、電気と光に関する授業を展開し、電気・磁気・光に関する法則を導出し、その応用を学ぶ。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物理法則の確立の経緯、物理量の定義、身近な物理現象の原因、実験による物理法則の確認方法)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	静電気、電場、電位、磁場、電磁波、光 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、マクスウェルの方程式、スネルの法則
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(到達目標1～3を確認)を50点満点としてその評価点をx点とし、到達度確認テスト(到達目標1～3を確認)を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、A1号館1階の丸善キャンパスショップで販売する。

関連科目	
参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088-3 / みすず書房
連絡先	masuonakagawa12345@gmail.com
授業の運営方針	・高校における物理学の知識の多少は問わないが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学ぶので、必ず毎回出席してノートに記録すること。出席は、初回に配布する出席カードとバーコードリーダーを用いて毎回講義開始前に確認する。 ・物理学は特に論理的思考を重視する学問であるから、テストにおいても自筆ノートは持ち込み可とする。しかし、テストにおける不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	テストについては、テスト後あるいは次回の講義日に模範解答・解説・評価などのフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料等を提供することがある。 ・講義や演示実験は、大スクリーンに投影したPPT画像やカメラ画像を中心として行い、板書は最小限に留める。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元新コスモス電機(株)コスモス研究所勤務： 企業の研究所におけるセンサー開発の経験を生かして、思考力や創造力を高めるために必要な実践的勉強方法を講義を通して示す。
その他（注意・備考）	・以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある： 基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。 ・「物理学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学 Ⅰ」の履修を避けること。

科目名	身近な化学 (FB221900)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives II
担当教員名	坂根弦太 (さかねげんた)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質の状態は何によって決まるか、説明する。
2 回	身近な気体と溶液のおもしろい性質について説明する。
3 回	化学反応によって新たな物質が生まれることを説明する。
4 回	身の回りの酸と塩基について説明する。
5 回	酸化と還元のおもしろい性質について説明する。
6 回	物質が光を吸収したり放出したりする原理を説明する。
7 回	化学者は物質をどうやってつくるのか、説明する。
8 回	1回～7回までの総括を説明する。到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1 回	物質の状態は何によって決まるのかについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身近な現象から気体と溶液の性質を学ぶ」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
2 回	身近な現象から学ぶ気体と溶液の性質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「化学反応によって新たな物質が生まれる」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
3 回	化学反応によって新たな物質が生まれることについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「身の回りの酸と塩基を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
4 回	身の回りの酸と塩基について復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「酸化と還元のおもしろい性質を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
5 回	酸化と還元のおもしろい性質について復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「光は物質をどう変えるか」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
6 回	光は物質をどう変えるのかについて復習を行うこと。第7回目授業までに身近な物質はどのように作られているのか、調べておくこと (標準学習時間90分)
7 回	身近な物質はどのように作られているのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと (標準学習時間120分)
8 回	ここまで授業内容についての復習を行うこと (標準学習時間120分)

講義目的	身近な物質で、焦げる物質と焦げない物質がある。水に浮く物質と沈む物質がある。温めて融けやすい物質と融けにくい物質がある。水に溶ける物質と溶けない物質がある。物質は他の物質と反応して別の物質になる。物質を構成する原子・分子はイオンになる。物質を特徴づける性質を知り、化学反応を学び、原子・分子・イオンが動いて変化する様子を想像・実感できるようにする。熱、光、電気などが関わる化学の世界を理解できるようにする。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物質の三態、化学反応、酸と塩基、酸化と還元、物質と電磁波の関係)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	気体、液体、固体、エネルギー、溶液、化学反応、酸、塩基、酸化、還元、電池、電気分解、電磁波
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート20%(達成目標1～3を確認)、およびテスト80%(小テスト・到達度確認テスト、達成目標1・3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のおもしろさ / 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編 / 化学同人 / 978-4759810912
関連科目	「身近な化学I」を受講していることが望ましい。
参考書	指定しない
連絡先	A1号館3階318 理科教育センター 坂根弦太 e-mail: gsakane@chem.ous.ac.jp http://www.chem.ous.ac.jp/~gsakane/
授業の運営方針	・ 授業中に行う実験は積極的に参加してください。 ・ 資料は原則としてA4、2つ穴の紙で配布します。資料を綴じるファイルを用意してください。 ・ 予習、授業の記録、復習のためにノートを用意し、分かったことは自分の言葉で、分からなかったことはとりあえずキーワードを書いてください。キーワードはインターネット、図書館、教員(質問)を利用して問題解決し、ノートに追記してください。

	・小テストは教科書、ノート、黒板を参照しながら回答して構いませんが、テスト中に他の人と情報交換してはいけません。 ・レポートは次の授業の開始時を〆切とします。他人のレポートを写してはいけません。 ・到達度確認テストは、教科書やノートなどの持ち込みはできません。 ・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性があります。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるため、「化学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な化学 Ⅰ」の履修を避けてください。
アクティブ・ラーニング	実験・実習、ライティング この科目では、授業の中に組み入れた実験・観察・体験活動、ミニッツ・ペーパーによりアクティブ・ラーニングを実施する。
課題に対するフィードバック	・小テストについては、テスト終了後に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。 ・レポートについては、講義中に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。 ・到達度確認テストについては、テスト終了後に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音／録画は原則として認めません。当別の理由がある場合事前に相談してください。 ・講義中の撮影（静止画）は自由ですが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止とします。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	身近な化学 (FB221910)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives II
担当教員名	森義裕* (もりよしひろ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質の状態は何によって決まるか、説明する。
2回	身近な気体と溶液のおもしろい性質について説明する。
3回	化学反応によって新たな物質が生まれることを説明する。
4回	身の回りの酸と塩基について説明する。
5回	酸化と還元のおもしろい性質について説明する。
6回	物質が光を吸収したり放出したりする原理を説明する。
7回	化学者は物質をどうやってつくるのか、説明する。
8回	1回～7回までの総括を説明する。到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1回	物質の状態は何によって決まるのかについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身近な現象から気体と溶液の性質を学ぶ」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
2回	身近な現象から学ぶ気体と溶液の性質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「化学反応によって新たな物質が生まれる」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
3回	化学反応によって新たな物質が生まれることについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「身の回りの酸と塩基を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
4回	身の回りの酸と塩基について復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「酸化と還元のおもしろい性質を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
5回	酸化と還元のおもしろい性質について復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「光は物質をどう変えるか」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
6回	光は物質をどう変えるのかについて復習を行うこと。第7回目授業までに身近な物質はどのように作られているのか、調べておくこと (標準学習時間90分)
7回	身近な物質はどのように作られているのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと (標準学習時間120分)
8回	ここまで授業内容についての復習を行うこと (標準学習時間120分)

講義目的	身近な物質で、焦げる物質と焦げない物質がある。水に浮く物質と沈む物質がある。温めて融けやすい物質と融けにくい物質がある。水に溶ける物質と溶けない物質がある。物質は他の物質と反応して別の物質になる。物質を構成する原子・分子はイオンになる。物質を特徴づける性質を知り、化学反応を学び、原子・分子・イオンが動いて変化する様子を想像・実感できるようにする。熱、光、電気などが関わる化学の世界を理解できるようにする。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物質の三態、化学反応式、酸・塩基、酸化還元など)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	気体、液体、固体、エネルギー、溶液、化学反応、酸、塩基、酸化、還元、電池、電気分解、電磁波
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート40%(達成目標1～3を確認)、到達度確認テスト60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のおもしろさ / 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編 / 化学同人 / 978-4759810912
関連科目	「身近な化学I」を受講していることが望ましい。
参考書	指定しない
連絡先	e-mail: ymori.ous@gmail.com
授業の運営方針	・事前に教科書を読み、分からない言葉については調べておくこと。 ・講義は、教科書に基づいたテーマに沿ってプロジェクターと板書を用いた形式で行う。 ・講義の最後に、適時レポート作成を行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・講義の最後に、適時レポート作成を行う。 ・レポートについては、翌講義時に解説をし、フィードバックを行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音／録画は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影（静止画）は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が教室定員を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論　・　」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論　・　」の履修生および履修予定学生は「身近な化学　・　」の履修を避けること。

科目名	身近な生物学（FB222100）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives II
担当教員名	森本政秀*（もりもとせいしゅう*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生物と環境はどのように作用しているか、解説する。
2回	生物の個体群はどのように変化するのか、解説する。
3回	生態系の中での物質循環、エネルギーの流れについて解説する。
4回	環境問題について解説する。
5回	動物の行動について解説する。
6回	生物はどのように誕生し、進化したかについて解説する。
7回	生物の進化のしくみ、証拠について解説する。
8回	生き物を系統によつての分類について解説する。

回数	準備学習
1回	生物と環境について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	生物の個体群について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
3回	物質の循環について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
4回	環境について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
5回	動物の行動について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
6回	生物の進化について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
7回	生物の進化のしくみについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
8回	生き物の分類について予習を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、生物群集とそれを取り巻く自然環境、すなわち「生態系」における生物間の相互関係や、生物と環境との間の相互作用について理解し、私たちの生活が他の生物や環境に与える影響や、他の生物や環境の変化が私たちに与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず同種および異種の生物個体間の相互関係について解説し、さらに生物と環境との間の相互作用、およびそれらの結果として起こる生物進化について解説する。（教養教育科目の単位認定方針A知識・理解にもっとも強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（分類、進化、生態系）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	分類、進化、生態系
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出課題50%（達成目標1～3を確認）、および小テスト50%（達成目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 / 羊土社
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定しない
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
授業の運営方針	講義の修了後に課題を提出する。3回以上未提出の場合、単位は不認定となる。小テストは講義が終わる前に行う。課題に2回目以降、講義の始まる前に返却をする。8回の課題は次の講義がないため、学習支援センターまで取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	2回目以降、講義の始まりに、小テストの解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止す

	る。 ・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 ・ 「生物学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論 Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学 Ⅰ」の履修を避けること。 ・ 「身近な生物学 Ⅰ」と「身近な生物学 Ⅱ」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な生物学（FB222110）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives II
担当教員名	森本政秀*（もりもとせいしゅう*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生物と環境はどのように作用しているか、解説する。
2回	生物の個体群はどのように変化するのか、解説する。
3回	生態系の中での物質循環、エネルギーの流れについて解説する。
4回	環境問題について解説する。
5回	動物の行動について解説する。
6回	生物はどのように誕生し、進化したかについて解説する。
7回	生物の進化のしくみ、証拠について解説する。
8回	生き物を系統によつての分類について解説する。

回数	準備学習
1回	生物と環境について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	生物の個体群について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
3回	物質の循環について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
4回	環境について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
5回	動物の行動について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
6回	生物の進化について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
7回	生物の進化のしくみについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
8回	生き物の分類について予習を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、生物群集とそれを取り巻く自然環境、すなわち「生態系」における生物間の相互関係や、生物と環境との間の相互作用について理解し、私たちの生活が他の生物や環境に与える影響や、他の生物や環境の変化が私たちに与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず同種および異種の生物個体間の相互関係について解説し、さらに生物と環境との間の相互作用、およびそれらの結果として起こる生物進化について解説する。（教養教育科目の単位認定方針A知識・理解にもっとも強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（細胞、代謝、多細胞個体のしくみ）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	分類、進化、生態系
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出課題50%（達成目標1～3を確認）、および小テスト50%（達成目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 / 羊土社
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定しない
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
授業の運営方針	講義の修了後に課題を提出する。3回以上未提出の場合、単位は不認定となる。小テストは講義が終わる前に行う。課題に2回目以降、講義の始まる前に返却をする。8回の課題は次の講義がないため、学習支援センターまで取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	2回目以降、講義の始まりに、小テストの解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止す

	る。 ・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員	広島市の加計ビジネス高等専修学校（向陽台高校技能連携校）で生物などの理科科目、英数学館姫路校・加古川校（並木学院高等学校サポート校）で生物などの理科科目の教員であった。
その他（注意・備考）	・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 ・ 「生物学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学 Ⅰ」の履修を避けること。 ・ 「身近な生物学 Ⅰ」と「身近な生物学 Ⅱ」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な地学 (FB222300)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives II
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	先人は、星の明るさと色を手掛かりにしてどのようにして宇宙を知るようになったのか、それを紹介する。
2回	宇宙が膨張していることがどうして分かったのか、また、宇宙にははじまりがあることがどのようにして分かるようになったのか説明する。
3回	宇宙がはじまって、まず物質ができ、星、銀河、太陽系、地球が形成されてきた過程を概説する。さまざまな元素が生成されてきた過程についても説明する。
4回	地球上の生き物は太陽の恩恵を受けて生きている。環境の基本要素である地球表面の温度はどのようにして決まるのか、すじみちを説明する。
5回	どうして風が吹くのか、理解を深める。自転する地球の上で風はどのように吹くのかについて学習する。
6回	暖かい空気と冷たい空気はどのようにして混じるのか、低気圧や台風はどのようにして発生し、発達するのか、説明する。
7回	雨はどのようにして降るのか、メカニズムを説明する。また、陸域の水はどのように循環しているのか、また、それによって生き物が生きていられることについて説明する。
8回	地球温暖化、環境汚染(放射能汚染)など、深刻な環境問題について概説する。後半の0.5コマで「到達度確認テスト」を実施する。

回数	準備学習
1回	人間は、身近に見えるものに対して、遠近をどのようにして感じているのか考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	光が波であること、光の色、波の基本的な特徴についてよく調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
3回	高校で学んだ原子や原子核についてあらましを復習しておくこと。元素の周期律表をよくみておくこと。(標準学習時間: 60分)
4回	ストーブに向かうと暖かく感じ、当たっている正面が熱いのはなぜなのか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5回	空気が暖まるとなぜ軽くなるのか、空気よりも軽い気球や煙はなぜ上昇するのか、よく考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
6回	スプレーや自転車の空気入れから噴出する気体はなぜ冷たく感じるのか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
7回	外気が冷たいとき、窓ガラスに水滴がついたり、車の窓が曇るのはなぜか、考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
8回	「到達度確認テスト」を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。(標準学習時間: 180分)

講義目的	自然界では、さまざまな規模でエネルギーと物質が常に循環している。それによってあらゆる生命活動が維持されている。循環の駆動力は、大きくは太陽と地球のエネルギーによるものであり、大気、海洋では地球規模で循環している。また、大地の下でも、規模の大きい循環が存在しており、火山、地震、温泉として現れている。身の回りの環境は全体の循環システムの中でどのように維持されているのであろうか。講義では、気象、水文、地質に関する身近な現象を実感がもてるように分かりやすく説明し、そのダイナミズムへといざなう。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関連)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(宇宙の進展と物質の創生、地球環境形成の歴史、地球規模の大気と水の循環、大気現象の過程、水文現象の過程)を説明できる。(A) 2. 講義の中で関心をもった内容について具体的に説明できる。(C) 3. 環境問題(地球温暖化など)や自然災害(豪雨、地震、火山など)について科学的に考えることができる。(B)
キーワード	宇宙、太陽系、太陽放射、大気の循環、水の循環、気象、地球環境、地球温暖化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	毎回講義の小レポート50%(到達目標1~3を確認)と到達度確認テスト50%(到達目標1・2)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	身近な物理学 を受講していることが望ましい。

参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
授業の運営方針	準備学習を必ず行い、授業に臨んでください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回講義の小レポートについては次の授業で代表的な意見を紹介してフィードバックを行う。到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。：基礎理学科，生物地球学科。 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。

科目名	身近な地学 (FB222310)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives II
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	先人は、星の明るさと色を手掛かりにしてどのようにして宇宙を知るようになったのか、それを紹介する。
2回	宇宙が膨張していることがどうして分かったのか、また、宇宙にははじまりがあることがどのようにして分かるようになったのか説明する。
3回	宇宙がはじまって、まず物質ができ、星、銀河、太陽系、地球が形成されてきた過程を概説する。さまざまな元素が生成されてきた過程についても説明する。
4回	地球上の生き物は太陽の恩恵を受けて生きている。環境の基本要素である地球表面の温度はどのようにして決まるのか、すじみちを説明する。
5回	どうして風が吹くのか、理解を深める。自転する地球の上で風はどのように吹くのかについて学習する。
6回	暖かい空気と冷たい空気はどのようにして混じるのか、低気圧や台風はどのようにして発生し、発達するのか、説明する。
7回	雨はどのようにして降るのか、メカニズムを説明する。また、陸域の水はどのように循環しているのか、また、それによって生き物が生きていられることについて説明する。
8回	地球温暖化、環境汚染（放射能汚染）など、深刻な環境問題について概説する。後半の0.5コマで「到達度確認テスト」を実施する。

回数	準備学習
1回	人間は、身近に見えるものに対して、遠近をどのようにして感じているのか考えておくこと。（標準学習時間：60分）
2回	光が波であること、光の色、波の基本的な特徴についてよく調べておくこと。（標準学習時間：60分）
3回	高校で学んだ原子や原子核についてあらましを復習しておくこと。元素の周期律表をよくみておくこと。（標準学習時間：60分）
4回	ストーブに向かうと暖かく感じ、当たっている正面が熱いのはなぜなのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
5回	空気が暖まるとなぜ軽くなるのか、空気よりも軽い気球や煙はなぜ上昇するのか、よく考えておくこと。（標準学習時間：60分）
6回	スプレーや自転車の空気入れから噴出する気体はなぜ冷たく感じるのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
7回	外気が冷たいとき、窓ガラスに水滴がついたり、車の窓が曇るのはなぜか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
8回	「到達度確認テスト」を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。（標準学習時間：180分）

講義目的	自然界では、さまざまな規模でエネルギーと物質が常に循環している。それによってあらゆる生命活動が維持されている。循環の駆動力は、大きくは太陽と地球のエネルギーによるものであり、大気、海洋では地球規模で循環している。また、大地の下でも、規模の大きい循環が存在しており、火山、地震、温泉として現れている。身の回りの環境は全体の循環システムの中でどのように維持されているのであろうか。講義では、気象、水文、地質に関する身近な現象を実感もてるように分かりやすく説明し、そのダイナミズムへといざなう。（教養教育科目の単位認定方針Aに強く関連）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（宇宙の進展と物質の創生、地球環境形成の歴史、地球規模の大気と水の循環、大気現象の過程、水文現象の過程）を説明できる。（A） 2. 講義の中で関心をもった内容について具体的に説明できる。（C） 3. 環境問題（地球温暖化など）や自然災害（豪雨、地震、火山など）について科学的に考えることができる。（B）
キーワード	宇宙、太陽系、太陽放射、大気の循環、水の循環、気象、地球環境、地球温暖化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回講義の小レポート50%（到達目標1～3を確認）と到達度確認テスト50%（到達目標1・2）により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	身近な物理学 を受講していることが望ましい。

参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
授業の運営方針	準備学習を必ず行い、授業に臨んでください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回講義の小レポートについては次の授業で代表的な意見を紹介してフィードバックを行う。到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。：基礎理学科，生物地球学科。 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。

科目名	科学技術倫理 B (FB222500)
英文科目名	Science and Engineering Ethics B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、技術者の倫理とはどのようなものであるのかを説明する。
2 回	コンプライアンス (1) —技術者の活動と密接に関わる法令遵守について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
3 回	コンプライアンス (2) —カネミ油症事件について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
4 回	説明責任—技術者が社会に対して果たすべき説明責任について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
5 回	内部告発—組織の不正と技術者個人のジレンマから起こる内部告発について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
6 回	環境と技術者—環境と技術者との関係を「持続可能性」などの観点から説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
7 回	技術者の財産的権利—技術者と組織との間で起こる財産的権利の問題について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	技術者の倫理とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	コンプライアンスとはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	カネミ油症事件について、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	説明責任とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	内部告発とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	環境の「持続可能性」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	技術者の財産的権利について、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	人類の生活を豊かにし、便利にしてきた一方で、様々な問題を引き起こしている科学技術というものを、幅広い視点から理解する。そのうえで、技術者として異分野とも協働しながら倫理的に振舞うための主体性や協調性を身に付ける。本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標とする。 技術者に関わる倫理的な問題について説明することができる。(A) 身につけた知識を、現実にかけているものだけでなく、今後も予想される科学技術上の倫理的な問題にも応用することができる。(B)
キーワード	倫理、法、組織、個人、コンプライアンス、説明責任
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：グループワークへの取り組み 評価割合60%、最終評価試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」と関連しています。科学技術倫理をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」を受講して下さい。
参考書	杉本泰治・高城重厚『技術者の倫理入門』(丸善出版) 北原義典『はじめての技術者倫理』(講談社)
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp

	オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業の前半は、パワーポイントや映像を使用して講義を行う。 ・授業の後半は、グループワークを行う。 ・授業終了時に、各自の意見をまとめた用紙を提出してもらう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・講義の内容についての自分の意見をまとめた後で、4～6人程度のグループに分かれてディスカッションを行い、各自の意見の相互評価、自己評価を行います。 ・ディスカッションの内容については、グループの意見を集約して、代表者に発表してもらいます。
課題に対するフィードバック	・発表に対するコメントを授業内に行う。 ・提出された用紙のリアクションは、次の回の授業の冒頭で行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験の後で行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学D(人工知能への路と社会への影響)(FB222900)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	大西 荘一*(おおにし そういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。続いて、第1次から第4次の産業革命について、それぞれのその原因となった科学技術と社会への影響について概要を学習する。(資料を配布する)
2回	コンピュータの主要な理論の歴史と提唱者について、及び知能について学習する。
3回	ノイマン型コンピュータの原理とICTの進化のポイント及び人工知能の歴史を学習する。
4回	コンピュータ技術の確立とハードウェアの技術革命及び人工知能用コンピュータについて学習する。
5回	日本における電卓開発の背景とその熾烈な開発競争が生み出した偉大な技術が社会に及ぼした影響について学習する。 ソフトウェア発展の歴史の概要とソフトウェア危機の原因と対策、及び教育界への影響について学習する。
6回	インターネット及び人工知能(AI)とIoTが社会に及ぼす影響について学習する。
7回	前半：インターネットの通信技術の概要を学習する。 後半：グループで人工知能をテーマにプレゼンテーションをし、その内容について質疑応答をする。
8回	前半：グループで人工知能をテーマにプレゼンテーションをし、その内容について質疑応答をする。 後半：到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを確認し、学習の過程を把握すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間60分)
2回	予習：前回配布した資料を学習しておくこと、及び、その内容に関連したことをインターネットで検索し学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間180分)
3回	予習：配布資料の「進化のポイント」の項を学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間60分)
4回	予習：配布資料の該当する項を学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間70分)
5回	予習：配布資料の「電卓戦争」及び「ソフトウェア危機」の項を学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間60分)
6回	予習：該当する配布資料を学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間70分)
7回	予習：パワーポイントでプレゼン資料を作成すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間240分)
8回	予習：パワーポイントでプレゼン資料を作成すること。 到達度確認テストにそなえ復習すること。

	(標準学習時間120分)
講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では、主に数学・情報分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主にコンピュータの進化と人工知能を扱う。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。（教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（コンピュータと人工知能の進化及び社会への影響）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	計算機械、コンピュータ、マイクロプロセッサ、パソコン、ソフトウェア、インターネット、電卓、人工知能（AI）、IoT
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート20%（プレゼンテーション形式、到達目標1～3を確認）、および到達度確認テスト80%（45分間の質問形式のペーパーテスト、到達目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	資料及び自作プリントを適宜配付する。
関連科目	高等学校情報科のコンピュータの歴史に関連した個所である。
参考書	人工知能の基本 / 東中竜一郎 / 翔泳社 / ISBN978-4-7981-5153-3 実物でたどるコンピュータの歴史 / 竹内伸 / 東京図書 / ISBN978-4-487-80692-8 コンピュータ200年史 / 山本菊男訳 / 海文堂 / ISBN4303714305-9784303714307 日本のコンピュータ史 / 情報処理学会歴史特別委員会 / オーム社 / コンピュータの時代を開いた天才たち / デニス・シャシャ、キャシー・ラゼール(鈴木良尚訳) / 日経BP社 / ノイマンとコンピュータの起源 / William Aspray 著 杉山 滋郎, 吉田 晴代 共訳 / 産業図書 /
連絡先	mascot_oni@yahoo.co.jp
授業の運営方針	基本的には、配付する自作プリントにそって授業を進める。授業は板書と写真や複雑な図の場合はPCプロジェクトを利用する。授業の理解度確認のため、毎回授業終了前5分程度で小レポートを提出してもらう。小レポートの解説は次回授業で行う。遅刻・欠席については、学内規定にしたがう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション 「人工知能」を課題にプレゼンテーションをする。3～4名のグループで事前学習をし、パワーポイントによるプレゼンテーションをする。各グループのプレゼンテーションに対し、受講生及び担当教員と質疑応答をする。
課題に対するフィードバック	課題についてのプレゼンテーション時に質疑応答をし、内容・スライド作成・話し方に関してアドバイスをする。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影は原則不許可ですが、事情により許可しますので、その場合は申し出てください。
実務経験のある教員	ア) 元大手国際的IT企業の技術者として20年間勤務 イ) 上記企業で、コンピュータの進化を実務で体験した。その経験を講義に生かす。
その他（注意・備考）	・ PowerPointでプレゼンスライドを作成するので、PowerPointが利用できることが望ましい。 ・ 学生が調査内容を発表するので、発表を1回の授業で終わらせるために、50名以上の場合は受講制限する可能性がある。 ・ 情報科学科の学生は、内容が学科必修科目と重複するので、受講を許可しない。 ・ 講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。

--	--

科目名	現代人の科学D(初めてのプログラミング)(FB222910)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	島田英之(しまだひでゆき)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション: ガイダンスを受け、本講義の目的・目標及び授業の進行方法を把握する。
2回	チームビルド: グループワークを実施し、メンバー間の相互理解を深める。
3回	ソフトウェア開発環境と、それを用いた初歩的なソフトウェア開発について学習する。
4回	教材ロボット向けのソフトウェア開発手順について学習し、グループでディスカッションして作品制作に取り組む。
5回	引き続き作品制作を行い、完成後、相互に評価する。
6回	ライントレースのためのプログラム開発に取り組む。
7回	ライントレースのプログラムの性能向上をはかる。
8回	プログラム性能コンテストを実施する。

回数	準備学習
1回	集合場所を把握しておくこと。本シラバスに目を通し、講義全体の概要を把握しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	掲示を確認し、集合場所を把握しておくこと。PDCAサイクルについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	組込みシステム、フローチャートの記述法について調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	配付資料をよく読み、与えられた開発環境を用いてどのような作品を制作したいか、そして、制作したい作品を完成させるためにはどのような処理の流れが必要か、考えておくこと。(標準学習時間90分)
5回	グループでよく相談し、作品の完成イメージを共有しておくこと。(標準学習時間90分)
6回	配付資料をよく読み、ライントレースの原理について理解しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	配付資料をよく読み、ライントレースの性能向上の方法について考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	アルゴリズム、設定すべきパラメータ値に検討の余地がないか、十分に考えておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心を持ち、ある程度のリテラシー(教養)を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー(科学の方法論も含む)の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では、主に数学・情報分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に、グループワークや演習を通じて、プログラミングに関する基本的な考え方を学ぶ。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(組込みシステム、フローチャート、アルゴリズム)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	授業内容に記載
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート70%(達成目標1~3を確認)、およびテスト30%(プレゼンテーションも含むプログラム性能コンテスト、達成目標1を確認)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	書店販売しない。必要に応じて資料を配付する。
関連科目	情報リテラシー
参考書	なし
連絡先	研究室: C4号館5階 島田(英)研究室 直通電話: 086-256-9507 E-Mail: hshimada@ice.ous.ac.jp オフィスアワー: mylogを参照
授業の運営方針	・情報工学科所有の実験室を使用して演習を行うため、20名を超える場合は受講制限をする。 ・情報工学科および情報科学科の学生は、内容が学科必修科目と重複するので受講を許可しない。

アクティブ・ラーニング	課題解決型学習，ディスカッション，プレゼンテーション，グループワーク，ライティング ・ 2人または3人のグループを基本とし，グループワークによるアクティブラーニング型授業を行う。
課題に対するフィードバック	回収したレポートは，適宜コメントを記入して返却することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。 ・ 事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に演習問題を提供することがある。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学E (放射線の科学) (FB223010)
英文科目名	Science Literacy E
担当教員名	花房直志* (はなふさただし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスを行い、放射線利用の歴史と現状について講義する。その後、討論する。
2回	放射線、放射性同位元素の物理と化学の講義を行い、その後、討論する。
3回	放射線、放射性同位元素の物理と化学について講義と演示実験を行い、その後、討論する。
4回	放射線の測定、線量と単位についての講義を行い、その後、討論する。
5回	放射線の測定、線量と単位について講義と演示実験を行い、その後討論する。
6回	放射線の生物作用と健康影響についての講義と演示実験を行い、その後、討論する。
7回	放射線被曝、リスク管理、放射線防護について講義と演示実験を行い、その後、まとめの討論を行う。
8回	到達度確認テストを行い、その後まとめの討論を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでこのコースのテーマを確認し、授業目的、達成目標について把握しておくこと。放射線教育支援サイト「らでい」(https://www.radi-edu.jp)を訪問し、資料集、用語集などに目を通しておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	文部科学省の「新しい放射線副読本、中学生・高校生のための放射線副読本」第2章(http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1344729.htm)に目を通して、放射線の種類と性質について調べておくこと。(標準学習時間90分)
3回	配布資料及び放射線医学総合研究所の「医学教育における被ばく医療関係の教育・学習のための参考資料」(http://www.nirs.go.jp/publication/igaku_siryo/igaku_siryo.pdf)に目を通して、放射線の種類と性質について概要を理解しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	配布資料及び環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(見出し項目 放射線測定と計算)」(http://www.env.go.jp/chemi/rhm/kisoshiryo-01.html)に目を通して、概要を理解しておくこと。(標準学習時間90分)
5回	配布資料及び「原子力百科事典ATOMICA」(http://www.rist.or.jp/atomica/)を訪問して放射線測定で使用される用語について調べておくこと。(標準学習時間90分)
6回	配布資料及び放射線医学総合研究所の「放射線被ばくの早見図」(http://www.nirs.go.jp/data/pdf/hayamizu/j/20150401.pdf)に目を通して、放射線被曝について調べておくこと。(標準学習時間90分)
7回	配布資料及び「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(見出し項目 確定的影響、リスク、防護の原則)」に目を通して、概要を理解しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	配布資料及びこれまで紹介した資料に目を通して復習しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー(教養)を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー(科学の方法論も含む)の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学E」では、主に環境・安全に関する幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に放射線の性質、放射線の人体への影響に関するに関する基本を学ぶ。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(放射線の種類、性質、使用される単位、放射線の生物作用)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で考察したテーマ(放射線被曝)について自分の意見をもち、それを記述できる。(B)
キーワード	放射線、放射能、放射性同位元素、放射線発生装置、半減期、ベクレル、線量、グレイ、シーベルト、放射線検出器、放射線損傷、突然変異、人体影響、急性影響、晩発影響、確率的影響、確定的影響、職業被曝、公衆被曝、放射線防護、リスク、線量限度、安全文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート80%(到達目標1~3を確認)、および到達度確認テスト20%(到達目標1・3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義資料は初回講義時に配布します。

関連科目	現代人の科学（E以外）
参考書	ブルーバックス B-568放射能を考える（危険とその克服）／森永晴彦／講談社 ブルーバックス B-1518 放射線利用の基礎知識（半導体、強化タイヤから品種改良、食品照射まで）／東嶋和子／講談社 ブルーバックス B-860 人は放射線になぜ弱い／近藤宗平／講談社 文春新書 177 放射能は怖いのか（放射線生物学の基礎）／佐藤満彦／文藝春秋 朽ちていった命（被曝治療83日間の記録）／NHK「東海村臨界事故」取材班／新潮文庫
連絡先	花房直志 tel: 086-235-7495, e-mail: hanafusa@okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由ですが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止します。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
課題に対するフィードバック	レポートへのフィードバックは次回講義時に行います。到達度確認テストのフィードバックはテスト終了後に正解を書いた紙を配布することで行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学 E (地球温暖化) (FB223020)
英文科目名	Science Literacy E
担当教員名	山下栄次 * (やましたえいじ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、講義目的、達成目標、講義の進め方、試験の実施、成績評価の方針、資料の配布、教科書・参考書紹介を行う。環境科学が他の科学と異なる点を示し、勉学の方法について説明する。「生物と環境」と「人間と社会」との係りとは何かを説明する。地域環境汚染と地球環境汚染の違いを自然科学的観点と社会科学的観点から概要を説明する。
2 回	環境汚染のメカニズム、環境汚染のリスク、自然的環境汚染、人為的環境汚染、公害、環境基準と排出基準などの環境科学専門用語の概念を説明する。
3 回	浮遊粉じん (SPM、PM2.5) を20年間、岡山 (理科大構内、牛窓、倉敷) で観測した。浮遊粉じんの観測方法と結果を述べる。浮遊粉じんの越境汚染について考える。
4 回	酸性雨を20年間、岡山 (理科大構内、生態植物園林内等) で観測した。酸性雨の観測方法と結果を述べる。酸性雨の越境汚染について考える。
5 回	大気中CO ₂ 、海水中CO ₂ 、水温、pH、塩分を20年間、岡山 (牛窓、渋川) で観測した。その観測方法を説明する。岡山 (固定点) での大気中CO ₂ 等の時刻変化、季節変化の特徴を紹介する。岡山における結果を大気中CO ₂ の観測、マウナロアなどと比較して、CO ₂ が地球規模で挙動しているを説明する。
6 回	大気中CO ₂ 、海水中CO ₂ 等を17年間、神戸大学海事科学部練習船「深江丸」に乗船して、瀬戸内海、四国南岸、九州周辺海域で観測した。日本沿岸海域での、大気と海洋でのCO ₂ の交換量の特徴を紹介する。
7 回	大気中CO ₂ 、海水中CO ₂ 等を、白鳳丸 (東京大学海洋研究所所属) や海洋地球研究船「みらい」 (JAMSTEC) に乗船して、西太平洋熱帯域等に於いて観測した。海洋観測の結果を示す。全球での炭素循環についての説明を行う。 地球温暖化と大気CO ₂ との関係について述べる。
8 回	資料 (岡山の大气質: 山下栄次、第19回OUS技術セミナー資料、2014/2/21) を参考に、地球温暖化のメカニズムを解説する。CO ₂ 等の大気質と人の生活との関わりについて、地学、気象学、行政法律、公衆衛生の観点から説明する。到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを熟読して、内容を知り、内容を守ること。環境科学が他の科学と異なる点を見つけ、自分の意見を持って出席すること。(標準学習時間60分)
2 回	配布する資料をよく読み、環境汚染のメカニズム・リスク、自然的・人為的環境汚染、公害、環境基準と排出基準の違い等、環境科学専門用語の概念や定義を自分の言葉で理解しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	配布する資料をよく読み、浮遊粉じん (SPM、PM2.5) の測定方法と何故濃度変化が起きるのか等について考えておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	配布する資料をよく読み、酸性雨の測定方法や何故濃度変化が起きるのかについて考えておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	配布する資料をよく読み、大気中CO ₂ 、海水中CO ₂ 、水温、pH、塩分の測定方法と何故各項項目に濃度変化が起きるのかについて考えておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	配布する資料をよく読み、瀬戸内海・四国南岸・九州周辺海域での、大気と海水とのCO ₂ の交換量の特徴について考えておくこと。また、なぜ、海域が違えばと各項目の濃度が違うのが考えておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	配布した資料を読み、地球表面の炭素循環の概要を自分の言葉で述べる事が出来るよう、また、地球温暖化とCO ₂ との関係を理解しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	配布した資料を読み、大気質と人の生活との関わりについて自分の言葉で説明することが出来るよう考えておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心を持ち、ある程度のリテラシー (教養) を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リ
------	--

	テラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学E」では、主に環境・安全に関する幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に地球温暖化を中心に環境問題全般を扱う。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 （教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（地球温暖化と環境汚染のメカニズム、リスク、自然的環境汚染、人為的環境汚染、大気質と人の生活との関わり）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で考察したテーマ（地球温暖化、環境汚染）について自分の意見をもち、それを記述できる。（B）
キーワード	生物、環境、人間、社会、地域環境汚染、地球環境汚染、環境変化、炭層循環、温室効果気体、地球温暖化、大気質と人の生活との関わり
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	講義中に行うレポート（50％）と第8回目講義時に行う到達度確認テスト（50％）によって成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	次回の講義内容の資料を配布する。
関連科目	
参考書	図説環境科学 / (社) 環境情報科学センター編 / 朝倉書店 / 4-254-16027-5 C3044. 環境科学概論 / 山下栄次他 / 大学教育出版 / 4-88730-655-5 C 3040 視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録 / 数研出版 / ISBN978-4-410-29092-3-C7037
連絡先	
授業の運営方針	・ 講義資料は講義前に配布する。講義終了後の資料配布請求には原則応じない。 ・ 毎回の講義で配布した資料は活用するので、忘れずに前回のも含め持参すること。 ・ 「準備学習」の欄に提示してある復習を、必ず済ませておくこと。 ・ 毎講義時にレポート提出。 ・ プロジェクターによる図などの説明と板書を組み合わせて講義を進めていく。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。格別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポートは解答例を講義中に説明することでフィードバックを行う。 到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	科学技術と人間 B (FB223300)
英文科目名	Science-Technology and Human Beings B
担当教員名	若村国夫* (わかむらくにお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「こんなに違う日本とヨーロッパの技術思考 伝統水車」 日本とヨーロッパで伝統技術がどのように違うのかを水車を例にとり概観する。水車は世界で共通に使用されてきた唯一の動力源であり、産業革命初期の立役者でもあった。中世に水車の技術を高度化した北西ヨーロッパから科学が興った。水車の技術的側面を日本とヨーロッパとで比較すると、日欧の技術思考の差異をはっきり認識できる。若村の 25 年に及ぶ水車の調査結果も写真と図とで紹介する。
2 回	「こんなに違う日本とヨーロッパの技術思考 : 船に見る日欧技術比較論」 船は世界で唯一共通に使用されてきた運搬装置である。水車と同様、中世の代表的技術であり、これを発展させた西ヨーロッパの人々は世界に活躍し、大航海時代と富の豊かさを得た。日本とヨーロッパの伝統的船にはその使用法や構造が風土や社会の影響が強く現れている。さらに船の修理装置の乾ドックにも船の特徴が反映され、日欧で大きな違いがみられる。若村の 16 年に渡る調査結果を含めて写真と図で分かりやすく紹介する。
3 回	「技術が誘発した社会の激変」 産業革命はイギリスの綿工業から始まり、「鉄は国家なり」と云われた鉄鋼業の発展が続く。イギリスはこれらの先頭を走ったが、イギリス人の熔鉱炉の発明がイギリスを製鉄業の先頭から追い落とし、アメリカ、ドイツが台頭する。旧技術にしがみついたイギリスから新技術に向かうアメリカ、ドイツが次の世代を担った。この歴史や一つの発明が世界を変えた例、アメリカ人が志した発明への評価などを紹介し、次世代の技術発展に何が必要かを考える。
4 回	「技術が生んだ富の増大」 農業技術の発展は農地の拡大が富の増加につながることを教え、農産物の交易はさらなる富を生むことを教えた。交易が生産品により活発化した結果、生産増の方法や船の重要性が認識され、現代ヨーロッパを彩る種々の生活用品が次々持ち込まれた。これらを紹介する。
5 回	「大航海時代と産業革命が生んだ経済学」 大航海時代に富を蓄え、さらに富を増やすための交易品製造の技術に注目が集まった。富の増大は経済学を生み、産業革命では貧富の差の拡大や社会環境、社会生活スタイルの激変が生じた。これらに対して富の分配を如何にすべきかを考えた経済学者が現れた。技術の視点から、アダムスミス、シュンペータ、マルクス、マルサスなど当時の経済学者の考えを紹介し、労働と技術、経済の関係を考える。
6 回	「科学技術の発展と人間疎外」 産業革命による技術発展は大量生産で人々を豊かにしたが、反面、市場競争や原料の獲得競争が生じ、第一次大戦へと進んでいく。大量殺戮、単純労働、児童労働など人間にとって負の要素も増えた。人権を土台として技術の持つ負の要素と、日本とヨーロッパの技術に盛られる人権の差異を紹介する。
7 回	「戦争技術のイノベーションと日欧人権の差異」 戦争には各国の持つ最高レベルの技術が投入される。アルマダの戦いや第一次、第二次世界大戦に典型的に見られたが、その兵器を使用する兵士への人権の有無を日欧で比較する。この差異は現在の日常の技術製品にも見られることを具体例で指摘する。
8 回	講義と最終評価試験 講義：「21 世紀の科学技術を考える」これまで学んだ技術の歴史、技術が社会へ果たした役割、技術の負の側面を振り返り、21 世紀の技術の進む方向はどうあるべきかを考える。日本人にはなじみのない人権と技術、自然破壊する技術などを紹介し、自然科学だけでなく人文科学まで取り込んだ技術思考の必要性を考察する。

回数	準備学習
1 回	特に無し
2 回	知識度にもよるが 30 分ほど第一回講義内容を復習すること
3 回	知識度にもよるが 30 分ほど第 2 回講義内容を復習すること
4 回	知識度にもよるが 30 分ほど第 3 回講義内容を復習すること
5 回	知識度にもよるが 30 分ほど第 4 回講義内容を復習すること
6 回	知識度にもよるが 30 分ほど第 5 回の講義内容を復習すること

7 回	知識度にもよるが30分ほど第 6 回講義内容を復習すること
8 回	試験に対しては第 7 回までの講義内容を二時間以上復習すること

講義目的	科学技術は物理、化学、生物、地球等の諸分野から自然界を総合的に理解する科学を土台とし、経験技術から発展した。技術が科学のみならず社会や宗教、文化等と深く関係してきた事を学び、社会を科学技術を土台として総合的に見る判断力と思考力を養う。技術や科学、社会の歴史の知識と、科学技術が人間の関係する広い分野と強い関係にある事の知識から、社会への正と負の影響、文化の固有性との密接な関係、多様な技術アイデア創出の原因等を日中欧米の社会や風土、関係する歴史等を通して知る。最近の地球温暖化や環境汚染への対応、また科学技術の視点から見える日本人や日本社会の特徴を知り、今後の科学と技術の発展への方向を考察する。写真と図を中心とした画像で話を印象深く進める。
達成目標	物理、化学、生物、地球に渡る総合的科学と技術社会との視点から日本、欧米、中国の歴史を知り、客観的に社会現象を見る眼を養う。地球温暖化軽減の技術の方向や技術社会、人権と技術、技術のグローバル化の未来などを日本の伝統技術思考や産業革命前後の社会の構造変化や西洋の論理などから考察し、技術を幅広く捉えられる知識と思考を養い、21世紀の技術の進むべき方向を自ら考えられる素地を作る。科学や技術の歴史を社会、経済、政治史などと結びつけて見ることで、21世紀の技術社会の方向が見えてくる。
キーワード	日欧中各国技術比較、伝統技術、環境、水車、船、社会、経済、封建制、民主主義、資本主義、産業革命、大英帝国、戦争、人権、技術アイデア、風土、グローバル化、発明
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業ごとの小問試験（成績の12%）と最終評価試験（成績の88%）の得点による。
教科書	科学技術と人間（科学技術の社会史）/若村国夫/書店販売しない
関連科目	特になし
参考書	高校の教科書「日本史」、「世界史」、世界地図
連絡先	非常勤講師控室
授業の運営方針	映像を使用した授業なのでより印象深い写真や図の使用を心掛けている。また、毎回の終わりに重要な箇所の小問で内容を確実にして、次の授業に臨む態勢作りを行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の終わりに行う小問試験の評価と内容の解説を次の講義の最初に行い、前回の講義結果を次に生かす過程を踏んでいく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録画は認める。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・履修希望者が150名程度を越える場合は受講生数の制限をかけることがある。 ・地球温暖化、自然破壊、日本の伝統技術の消滅、近隣諸国との資源争奪戦など、技術立国日本の足下を揺るがす変化が多い中、本講義では科学や技術の視点から歴史や社会を客観的に見る眼を養い、日本はどうあるべきかを考える。このことは、科学技術を学ぶ者にとって大いに必要となっている。学科の専門にとらわれず科学者、技術者、理科教員の品格を得る一助として受講を薦める。本講義は筆者の30年に渡る日欧の伝統技術の研究と最も西洋科学的な物理学的視点とを融合させ、技術と生活の結びつき、歴史や経済、人権などとの関係を加えた構成としている。身近な生活用具や風俗にも技術につながる要素が含まれていることを知ることが必要だ。 ・科学技術と人間A」と「科学技術と人間B」は順序性がありますので、 と の連続受講を推奨します。

科目名	産業課題研究演習（FB223710）
英文科目名	Seminar on project studies of enterprise managements
担当教員名	河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	長期インターンシップに取り組んだ学生が、経験から得た知見を企業と連携して、企業の経営的、技術的課題を考察・研究し、改善や新製品などの開発への提案を行うことを通して、分析力、研究力、報告書作成力、プレゼンテーション力を養う活動を実践する。学生は、長期インターンシップに参加した企業から、企業が抱える問題等の提供、または、インターンの経験から発見した問題点について企業に提示する。問題についての原因やその背景について分析を行う。次に、問題を解決するための案、またその案によって得られる効果について検討を行う。その作業において、グループで取り組める場合は、グループワーキングを行い、検討を行う。必要によっては、実地調査などを行う。提案する事項について、企業との打ち合わせを行う。課題解決の提案事項についてプレゼンテーションを企業または関連する教員等に対して行う。講義として30時間以上を要する。実施の中で、3種類のレポートを提出する。企業が抱える問題のその原因について調べた結果のレポートと、問題を解決するための案を3つ以上提案しレポートにまとめ、解決案を1つに決定しそれによって得られる結果をレポートにて提出する。
準備学習	課題解決に向けて、対応する企業において長期のインターンシップに参加する。インターンシップ期間は1か月以上とし、社会・産業実習の単位認定を得ていること。または、90時間以上のインターンシップに参加して、インターンシップCの認定を得ること。これらのインターンシップの参加が講義を受講するための準備学習である。（標準学習時間：90時間から1か月のインターンシップ）講義は集中講義で行うため、必要な準備をすること。（合計標準学習時間：60時間）
講義目的	企業の経営的、技術的課題を考察・研究し、改善や新製品などの開発への提案を行うことを通して、分析力、研究力、報告書作成力、プレゼンテーション力を身に付ける。 4領域の項目では、「思考・判断・表現」に最も強く関与している。
達成目標	1) 企業の経営的または技術的な課題を考察し、文章で表現することができる。 2) 課題解決のための分析を行い、説明できる。 3) 課題解決のための分析をもとに、解決案を説明できる。 4) 解決案を実行することによって生じる結果を推測することができる。 5) 自分の考えを具体的に説明することができる。
キーワード	インターンシップ、COOP型インターン
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	企業が抱える問題のその原因について調べた結果のレポート（達成目標の1）20%と問題を解決するための案を3つ以上提案しレポートにまとめる（達成目標の2と3）20%と解決案を1つに絞り、その結果を詳細にレポートにまとめる（達成目標の4）20%と最終発表（達成目標の5）40%で評価し、60%以上で合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	企業情報特論A、企業情報特論B、インターンシップA、インターンシップB、インターンシップC、インターンシップ概論、社会・産業実習
参考書	適宜指示する。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター 河野敏行 syusyoku@office.ous.ac.jp 086-256-8435 質問などは9:00-17:00でキャリア支援センターにて受け付ける。
授業の運営方針	社会・産業実習またはインターンシップCを履修し、単位修得したものが履修できる。集中講義で実施するため、履修者に対応する企業との打ち合わせで実施日時を設定する。履修実施期を場合によっては移動してもらうことがある。グループで課題に取り組む場合は、グループワーキングを行う。
アクティブ・ラーニング	グループで課題に取り組む場合は、グループワーキングを行う。
課題に対するフィードバック	レポートの提出に対して、その内容について議論を行うことで、フィードバックする。最終発表に対しては、その場でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	社会・産業実習またはインターンシップCを履修し、単位修得したものが履修できる。集中講義で実施するため、履修者に対応する企業との打ち合わせで実施日時を設定する。履修実施期を企業との打ち合わせによっては移動してもらうことがある。受講マナーや指示に従わない場合は、「不可」とする。

科目名	ワインの歴史と風土・文化（FB223800）
英文科目名	Wine history, climate and culture
担当教員名	金子明裕（かねあきひろ）、川俣昌大（かわまたまさひろ）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義内容の説明と進め方を説明する。ワインをはじめ、世界で造られる酒と地理について説明する。 (金子 明裕)
2回	発酵の基本、発酵・醸造の歴史、世界のワイン事情、ワインの造り方について説明する。 (金子 明裕)
3回	ワインの分類、ブドウの品種と気候・風土について解説する。 (金子 明裕)
4回	フランスワインの歴史、産地、ブドウの品種、気候、法律について説明する。 (金子 明裕)
5回	ヨーロッパ（イタリア、スペイン、ポルトガル、ドイツを中心に）のワインの歴史、産地、ブドウの品種、気候、法律について説明する。 (金子 明裕)
6回	アメリカ合衆国、南米、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカのワインの歴史、産地、ブドウの品種、気候、法律について説明する。 (金子 明裕)
7回	日本のワインについて、歴史、産地、ブドウの品種、気候、法律について説明する。ワインの評価・表現について学習する。 (金子 明裕)
8回	ワインと料理について学習する。全体の復習と最終評価試験を実施する。 (金子 明裕)

回数	準備学習
1回	授業内容の確認。シラバスをよく読んでおくこと。教科書（図解でわかる 発酵の基本）のP8-11をよく読んでおくこと。（標準学習時間30分）
2回	教科書（図解でわかる 発酵の基本）の2章微生物、3章日本酒、ワイン、パン、5章カビ、酵母、乳酸菌の項、教科書（ワインの教科書）の第1章、第5章p94-109をよく読んでおくこと。（標準学習時間45分）
3回	教科書（ワインの教科書）の第2章をよく読んでおくこと。（標準学習時間30分）
4回	教科書（ワインの教科書）の第3章のフランスワインに関するp42-57, p74-77をよく読んでおくこと。（標準学習時間45分）
5回	教科書（ワインの教科書）の第3章のヨーロッパのワインに関するp58-72, p78-83, p90をよく読んでおくこと。（標準学習時間45分）
6回	教科書（ワインの教科書）の第4章のアメリカ、チリ、アルゼンチン、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカのワインに関するp84-87, p91,92、第5章のp134-142をよく読んでおくこと。（標準学習時間30分）
7回	教科書（ワインの教科書）の第1章及び第4章の日本のワインに関するp18,19, p88をよく読んでおくこと。（標準学習時間30分）
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	ワインを学ぶにあたり、発酵・醸造の基礎を学習することで、まず、発酵・醸造についての概略を知る。フランス、ヨーロッパ、新大陸、日本のワインの歴史、風土・文化について学習する。また、ワインの評価・表現、ワインと料理の相性についても学習する。(ディプロマポリシーに対する関与の程度のA知識・理解にもっとも強く関連している)
達成目標	発酵食品の基礎を理解できること。(A), (B) ワインをはじめとした酒類の造り方を理解できること。(A), (B) 世界(フランス、ヨーロッパ、新大陸、日本)のワインを知り、歴史、文化・風土について理解できること。(B), (C) ワインの評価・表現、ワインと料理の相性についての基本を理解できること。(B) ()内は大学の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	ワイン、ワインの造り方、ワインの歴史、世界のワイン、ワインの評価、ワインの表現、発酵食品、醸造
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(80%)及び授業時間の確認テスト(20%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。(達成目標の ~ を確認)
教科書	・図解でよくわかる 発酵の基本/ 舘 博 監修/ 誠文堂新光社 ・配布資料
関連科目	高等学校で「高校生物」「高校化学」「高校地理AもしくはB」を履修していることが望ましい。 (1年次開講科目) ワインの科学、生命の基礎化学、ブドウ栽培学、ワインプロジェクト実習 (2年次開講科目) 生命の化学概論、発酵と微生物、ワイン醸造法、ワインプロジェクト実習 (3年次開講科目) ワインプロジェクト実習
参考書	・ワインの教科書/ 木村克己 著/ 新星出版社 ・ワインは楽しい/ O. Neiman 著/ バイ インターナショナル ・いばんわかりやすい ワイン入門/ 野田宏子 監修/ 日本文芸社 ・基礎から学ぶ田辺由美のワインブック/ 田辺由美 監修/ 飛鳥出版 ・日本ソムリエ協会 教本/ 一般社団法人日本ソムリエ協会教本
連絡先	金子明裕 B1号館2階・ワイン発酵科学センター 電話086-256-6798 E-mail: kaneko(アットマーク)rit.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日および木曜日の昼休み, 3限
授業の運営方針	・講義の配付資料はMomocampusを通じて配布する。 ・予習(配付資料を中心によく読んで)を行ってから授業に臨むこと。 ・授業時間内で「確認試験」を実施するが、不正行為に対して厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	醸造用ブドウの実物を観察・試食する。ワインの実物ラベルのチェック。ワイン用コルクの実物を観察する。(実験・実習)
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、解説をMomocampusに掲載する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	ア)元メルシャン株式会社勤務、元日清ファルマ株式会社勤務イ)実務経験をいかして、発酵・醸造、ワインの歴史等について講義を行う。
その他(注意・備考)	

科目名	ニュース理解 B (FB224700)
英文科目名	
担当教員名	小松原貢* (こまつばらみつぐ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	マスメディアの入門編。マスメディアとは何か、ニュースとは何かを黎明期に遡って考える。
2 回	何を伝えるのか。の前に何を感じているのかを知り、その感情を分析し検証。そのうえで何をどう伝えるのかを考える。(一部ワークショップあり)
3 回	伝える手法。文章と絵画。絵画と写真。写真と動画。それぞれの違いとは何か。著作者が何を言いたいのかを知る。(一部ワークショップあり)
4 回	伝えたいことをどのように伝えていくか。実例に見るニュース番組。ニュース映像と映画の違い。(ドキュメンタリーの視聴とミニレポート)
5 回	5回ニュースとは目の先の事象を表現して伝えるだけではない。事象よりもバックグラウンドが大切なことを知る。ニュースの先に何があるかを考える。
6 回	動画ニュースが行ってきたこと。そのニュースを検証する。(一部ワークショップ有り) パーソナルメディア (Instagram、You tube など) との違いと責任
7 回	7回ニュース映像の中の権利と義務を知る。守られなければならない知る権利と義務。
8 回	1 ~ 7 回を総括して最終評価試験を実施する。試験では資料に基づいて短い記事を書く場合もある。

回数	準備学習
1 回	テレビやスマホの動画ニュースや新聞などを読んで、マスメディアとは何かを考えておくこと。(準備学習時間約60分)
2 回	ニュースソースとして事前に配布する資料をよく読んで、その事象がなぜ起きているのか、現場の人たちはどう対処しているのかを考えておくこと。(準備学習時間約60分)
3 回	ニュースソースとして事前に配布する資料をよく読んで、その事象がなぜ起きているのか、現場の人たちはどう対処しているのかを考えておくこと。(準備学習時間約90分)
4 回	日々のニュースやドキュメンタリー番組などをよく見て、制作者が何を言いたいのかを考えておくこと。(準備学習時間約60分)
5 回	事前に配布する資料をよく読んで、資料に書いてある出来事がなぜ起こったのか、当時の時代背景なども調べておくこと。(準備学習時間約90分)
6 回	事前に配布する資料をよく読み、テレビ・ラジオのニュースや新聞報道に有って、日ごろ使うSNS (Facebook、Twitter、Instagram) などプライベートソースに無いものは何かを考えておくこと。(準備学習時間約90分)
7 回	事前に配布する資料をよく読んでおくこと。(準備学習時間約90分)
8 回	ニュースとは何か、それを見たり読んだりする時はどうすれば良いかを考え、自分で書くなら何に気を付ければ良いかを考えておくこと。(準備学習時間約90分)

講義目的	動画ニュースとは何かを知り、「伝える」という事の本質を考えることのできる力を養う。それによって、日本で、また世界で伝えられているニュースの本質を見抜く力を持った人材になる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	日々流れてくるニュースを理解できる。 疑う目を持つことができる。 過去の流れから将来を予測できる能力を持つことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	マスメディア、パーソナルメディア、動画、ニュース、ドキュメンタリー
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	最終評価試験 (70点) + 中間レポート (30点) 合格基準60点
教科書	特に使用せず、毎回レジュメを配る。
関連科目	科目としてよりも、日々のテレビニュースを視聴する
参考書	特に使用せず、毎回レジュメを配る
連絡先	山陽放送岡山映像ライブラリーセンター 086-225-8622
授業の運営方針	一方的に講義内容を伝えるのではなく、提示したテーマについて一緒に考えていく事を主眼とする。欠席、遅刻を特に咎めるわけではないが、度が過ぎると次の授業が解らなくなる。全出席を基本とし、過度の欠席遅刻は減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	与えた資料や映像をもとにグループで意見を出し合うなどのワークショップを取り入れる。(授業内で行うワークショップとは数人を指名して簡単な思考、作業などを行うもの)

課題に対するフィードバック	7回分の授業をもとに試験を行うが、一方的な採点だけをするのではなく、疑似回答をもとに解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	山陽放送で、記者、カメラマンとして業務を経験。放送局での実務経験を通じ、動画ニュースとは何か、「伝える」という事の本質を考える、ことができるように講義を行う。
その他（注意・備考）	講義内での画像映像は著作権で保護されている場合が有ります。講義内の上映映像の録画、または中継はご遠慮ください。

科目名	教養演習 B (FV22B110)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
3 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(2)
4 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(3)
5 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(4)
6 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(5)
7 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(6)
8 回	これまで演習で実施した発表・討論の講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、発表・討論の進め方を把握しておくこと (3 0 分)。今問題になっている時事問題について事前に調べてくること (6 0 分)。時事問題に関する新聞・雑誌やwebの利用方法を確認し利用できるようなしておくこと (9 0 分)。
2 回	テーマを選定した者 (主報告者) はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること (9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと (9 0 分)。
3 回	テーマを選定した者 (主報告者) はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること (9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと (9 0 分)。
4 回	テーマを選定した者 (主報告者) はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること (9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと (9 0 分)。
5 回	テーマを選定した者 (主報告者) はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること (9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと (9 0 分)。
6 回	テーマを選定した者 (主報告者) はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること (9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと (9 0 分)。

7 回	テーマを選定した者（主報告者）はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること（90分）。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと（90分）。
8 回	これまでの演習で取り上げられた各テーマについて、事前に内容と意見をまとめておくこと（90分）。

講義目的	主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。「教養演習A」に続き、さらなる思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Bでは、受講生自らが作成した資料に基づく発表および討論を中心とする。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」に深く関連する。
達成目標	時事問題について、受講者自らがグループワークを通してディスカッションを実施することができる。 受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）について、簡単な個人発表を通して自分の意見を発表できる。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、ディスカッション、プレゼンテーション、政治、経済、社会、文化、国際問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	個別発表課題（50%）と最終評価試験（50%）を合計100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	2019年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2・準2級対応）/日本ニュース時事能力検定協会監修/毎日新聞出版
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB、プレゼンテーション基礎編AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、その他必要に応じて適宜指示する。

連絡先	獣医学部教育病院棟 4 階 4 1 9 研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の中で主報告者を割り当て、パワーポイント等を用いた報告課題を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 主報告者は10分の口頭発表を行う。 ディスカッション 主報告者の内容をもとに受講者全員で討論を行う。
課題に対するフィードバック	個別発表課題については、授業の中で講評を行う。最終評価試験（レポート形式）については、事前に評価基準を提示することを前提とし、試験結果について希望者に点数を開示し評価の根拠を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	学びの基礎論B (FV22B120)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス リフレクションを通じた学びを理解する
2回	チームワークを高めるコミュニケーションを理解する
3回	チームワークを高めるリーダーシップを理解する
4回	批判的に読解する
5回	文献を分析する
6回	映像を分析する
7回	グループで知識を共有する
8回	まとめと振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを熟読後、リフレクションとは何かについて自分の言葉で整理しておくこと (90分)。
2回	予習として、グループワークにおいてチームワークを高めるためにはどのような行動が求められるかをまとめておくこと (180分)。
3回	予習として、リーダーシップについて調べ、さまざまなリーダーシップ論を整理しておくこと (180分)。
4回	復習として、チームワークを高めるための行動を1600字以上でまとめ、提出すること (240分)。
5回	予習として、資料を分析するためのスキルについて調べ、自分の言葉でまとめておくこと (120分)。
6回	予習として、グループ活動で担当する課題を作成しておくこと (240分)。
7回	予習として、グループ活動で担当する課題を作成しておくこと (240分)。
8回	講義内容を自分の言葉でまとめておくこと (60分)。

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得し、活用することである。内容として、「学びの基礎論A」をふまえて チームビルディングの構築 基本的なアカデミック・スキル (文章表現法、プレゼンテーション) を修得する テーマに対して、グループで協同して課題発表を行う 一人ひとりが、グループの発表に対してルーブリックにより評価を行う。アクティブ・ラーニングを行う。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出 (30%)、中間レポート (30%)、最終レポート (40%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	学びの基礎論Aを履修しておくことが望ましい。
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189

授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション 授業内容に関連するディスカッションをグループで行う ライティング 内容の要約と自分の意見を書く
課題に対するフィードバック	課題に対して、全体的な特徴と改善点を授業中に口頭で説明する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論 B (FV22C110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本の領土問題について学修する。国際法上、領土の帰属はどのように決定されるかについて学修する。そのうえで、日本の領土問題について、各国の主張やその妥当性について学修する。
2 回	日韓請求権問題について学修する。日韓請求権協定の内容を学修したうえで、日韓請求権問題の争点、両国の主張とその妥当性について学修する。
3 回	非裁判手続について学修する。紛争の平和的解決手続のうち、裁判によらない手続について学修する。
4 回	裁判手続について学修する。紛争の平和的解決手続のうち、裁判による手続について学修する。
5 回	国家責任の発生要件について学修する。国家責任の意義とその発生要件について学修する。
6 回	国家責任の追及要件および解除について学修する。発生した国家責任を追及することができるのはどの国か、その国家責任はどうすれば解除されるのかについて学修する。
7 回	国際連合による安全保障について学修する。国際連盟による安全保障の内容とその問題点について学修したうえで、国際連合による安全保障の内容とその問題点について学修する。
8 回	自衛権について学修する。個別的自衛権と集団的自衛権との違い、それぞれの自衛権の行使要件について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、日本の領土問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、日韓請求権問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、非裁判手続に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、裁判手続に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国家責任の発生要件に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国家責任の追及要件および解除に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合による安全保障に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分)

復習として、自衛権に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際紛争の平和的解決や国際安全保障において国際機構が果たしている役割を概観することにより、現在の国際社会の基本的な仕組みや活動内容を解説する。また今後日本が国際社会において貢献できる役割についても考えてみたい。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 国際連合の安全保障制度について説明できるようになること。 ○ 平和維持活動について説明できるようになること。 ○ 自衛権について説明できるようになること ○ 国家責任について説明できるようになること。 ○ 国際司法裁判所の役割について説明できるようになること。
キーワード	国際連合，安全保障，平和維持活動，自衛権，国家責任，国際司法裁判所
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	MOMO-Campusにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	国際社会の特徴や国際連合の概要などの国際関係論の基礎事項は国際関係論Aで講義するので、それを受講してからこの講義を受講するのが望ましい。
参考書	国際連合 - 軌跡と展望 / 明石康 / 岩波書店 / 978-4004310525 : 国際関係論 [第3版] / 佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編 / 弘文堂 / 978-4335002335
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学B (FV22C120)
英文科目名	Literature B
担当教員名	大西好幸* (おおにしよしゆき*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本近代文学の展開を概説する。
2回	近代文学前期(幕開け)として啓蒙主義、写実主義、擬古典主義を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト 近代文学前期(試み)として浪漫主義、自然主義を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト 近代文学前期(確立)として反自然主義、新現実主義を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト 近代文学後期(脈流)としてプロレタリア文学、新感覚派、「文学界」を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト 近代文学後期(再生)として無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代を取り上げ、解説する。
7回	復習小テスト 近代の韻文として近代詩、近代俳句・短歌を取り上げ、解説する。
8回	愛媛に関する文学作品を取り上げ、解説する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。 近代文学作品の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
2回	前回の復習をしておくこと。教科書「啓蒙主義、写実主義、擬古典主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
3回	前回の復習をしておくこと。教科書「浪漫主義、自然主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
4回	前回の復習をしておくこと。教科書「反自然主義、新現実主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
5回	前回の復習をしておくこと。教科書「プロレタリア文学、新感覚派、『文学界』」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
6回	前回の復習をしておくこと。教科書「無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
7回	前回の復習をしておくこと。教科書「近代詩、近代俳句・短歌」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
8回	愛媛に関する文学作品を調べておくこと。 これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間240分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。文学Bは近代以降の文学作品を対象とし、「文学A」に引き続き、風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた近代人の思い、心の動き方、近現代社会での人間模様などを見てゆく。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	(1) 日本近代文学の基礎的な知識を身につける。 (2) 古典文学との関係や西欧文学からの影響について考察し、近代文学の特質を理解する。 (3) 時代背景を手掛かりとして、作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。
キーワード	写実主義、擬古典主義、浪漫主義、自然主義、反自然主義、プロレタリア文学、新感覚派、無頼派、戦後派、近代詩、近代短歌・俳句、日本文学史
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版 / 兵庫県高等学校教育研究会国語部会編 / 京都書房 / ISBN978-4-7637-2204-1

	プリントを適宜配布する。
関連科目	「文学A」を受講していることが望ましい。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	・テキストは問題集を兼ねているので、準備学習時によく読んで予習をしておくと同時に解答しておくこと。 ・講義資料（テキスト補完資料）は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	ライティング、質問 文学作品について学生が感想を書く。また、テキストの内容に関する問題に答える（小テスト）。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、コメントをつけて返却する。 ・小テストについては、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・最終試験評価のフィードバックとして、試験終了後に模範解答及び解説プリントを配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史 B (FV22C130)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	白石成二* (しらいしせいじ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	自己紹介を行う。日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで、授業の進め方について説明する。その後、奈良時代末の称徳・道鏡政権の時代の政変について確認する。その時代、政治は混迷を極めるが、その原因・背景を確認するとともに、この称徳天皇をもって古代の女帝の歴史に幕を下ろすことになったのはなぜかについて検討する。
2 回	桓武天皇の登場のきっかけは父光仁天皇が即位したことであった。政権を掌握するうえで障壁となる勢力を排除していく過程について説明する。桓武天皇の大きな功績は、長岡京・平安京遷都（造都）と東北地方の蝦夷の征圧（征夷）であったが、その二大政策をなぜ実行する必要があったのかについて考える。天皇の天武系の皇統からの転換という意識、渡来系氏族との強い結びつき、怨霊思想などが背景にあったことを説明する。さらにこの桓武天皇の子孫たちが後に「桓武平氏」となっていたのかについても検討する。
3 回	嵯峨天皇の時代は「弘仁の治」と呼ばれ、我が国で唐風化が最も盛んだった時代とされる。その推進役が文人官僚であったことを確認する。そして彼らの知識は遣唐使によって多くもたらされたものであったが、その遣唐使の軌跡を辿ることによって当時の日本外交のあり方を検討する。さらに遣唐使の留学生であった最澄と空海を取り上げ、その仏教の国際性ととも、その後の日本宗教界に与えた影響について説明する。さらに空海信仰のあらわれとして四国に根付いている四国遍路の現代的意味についても考える。
4 回	文人官僚の頂点を極めた菅原道真と藤原氏との対立・抗争の原因や背景について触れ、道真が猛威をふるう怨霊となり、怨霊思想のピークを迎える。それが今日では「学問の神様」となって厚い信仰を受けるようになったのはなぜかを考える。次に平将門と藤原純友の乱を取り上げ、「承平・天慶の乱」から「天慶の乱」への名称変更について説明する。またこの戦乱が、その後の時代にどのような影響をもたらしたか、さらに勇猛さの象徴とされる武士の実像についても検討する。
5 回	平安王朝、摂関政治の全盛期を演出した藤原道長の政権獲得の過程にふれるとともに、源氏の棟梁源頼光や紫式部の父藤原為時らを取り上げ、道長政権を支えたのは受領階級の人々であったことを確認する。道長の「御堂関白記」や藤原実資の「小右記」の記事を取り上げ、当時の貴族たちの実態について説明する。そして当時の末法思想や浄土教の流布の様相を具体的に上げるとともに、安倍晴明に代表される陰陽師たちの実像に迫る。その陰陽道は平安時代だけでなく、今日の社会にも根強く残存していることを確認する。
6 回	摂関政治の文化は国風文化といわれる。その国風文化の具体的に見ていくとともに「国風」の内容についても考える。紫式部の「源氏物語」を例に取り上げ、その中に中国文化が色濃く残されており、東アジアの交流の中で形成された国際性豊かな作品であることを確認する。その一方で、上級貴族たちが誰一人として外国に赴くことがなかったように、我が国の鎖国的体質についても説明する。また当時の女流文学の作品を残した女性のほとんどは受領層の出身者であったが、それはなぜなのかを検討する。
7 回	貴族の時代から武士の時代への大きな転換の時代にいち早く登場した源氏の台頭の経過について触れ、一方、平氏は源氏に遅れをとったものの、やがて源氏を凌駕し、院政を支える重要な軍事力となっていた。その両者が入り乱れて戦った保元の乱や、その後の平治の乱について具体的に説明する。そしてこの戦乱を経過することによって傭兵的存在であった武士が政権の帰趨を決定することが明らかになり、その結果として平清盛による平氏政権が成立する。この保元・平治の乱をもって中世とするのか、また平氏政権は武家政権であったのかという問題についても検討する。
8 回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	孝謙・称徳天皇と道鏡政権については瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、橋本治『日本の女帝の物語』（集英社新書）、北山茂夫『女帝と道鏡』（中公新書）、その時代の政変については倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）、遠山美都男『古代の皇位継承』（吉川弘文館）などがある。どれか一冊を図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
2 回	桓武天皇については、井上満郎『桓武天皇』（ミネルヴァ書房）、高橋昌明『京都「千年の都」の歴史』（岩波新書）、吉田勲『古代の都はどうつくられたか』（吉川弘文館）、山田雄司『跋扈する怨霊』（吉川弘文館）、蝦夷との戦いについては、熊谷公男『古代の蝦夷と城柵』（吉川弘文館）、高橋崇『坂上田村麻呂』（吉川弘文館）、樋口知志『阿弖流為』（ミネルヴァ書房）、高橋富

	雄『辺境』（教育社）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
3回	嵯峨朝の政治については佐々木恵介『平安京の時代』（吉川弘文館）、吉川真司『平安京』（吉川弘文館）、遣唐使については古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、最澄と空海については、篠原資明『空海と日本の思想』（岩波新書）、木内堯大・多田孝正『最澄』（創元社）、後藤昭雄『天台仏教と平安朝文人』（吉川弘文館）、速水侑『呪術宗教の世界』（塙新書）、星野英紀・浅川泰宏『四国遍路』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
4回	菅原道真については坂本太郎『菅原道真』（吉川弘文館）、将門・純友については村上春樹『将門記』（山川出版社）、樋口州男『将門伝説の歴史』（吉川弘文館）、松原弘宣『藤原純友』（吉川弘文館）、下向井龍彦『純友追討記』（山川出版社）、森公章『古代豪族と武士の誕生』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
5回	藤原道長と受領については、北山茂夫『藤原道長』（岩波新書）、山中裕『藤原道長』（吉川弘文館）、臈谷寿『藤原道長』（ミネルヴァ書房）、倉本一宏『藤原道長の日常生活』（講談社現代新書）、同『藤原道長の権力と欲望』（文春新書）、古瀬奈津子『摂関政治』（岩波新書）、森田悌『受領』（教育社）、繁田信一『安倍清明』（吉川弘文館）、元木泰雄『源満仲・頼光』（ミネルヴァ書房）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
6回	平安期の女流文学については、清水好子『紫式部』（岩波新書）、秋山虔『源氏物語』（岩波新書）、臈谷寿『源氏物語の風景』（吉川弘文館）、瀧浪貞子『源氏物語を読む』（吉川弘文館）、岸上慎二『清少納言』（吉川弘文館）、山中裕『和泉式部』（吉川弘文館）、王朝文化については、保立道久『平安王朝』（岩波新書）、木村朗子『女たちの平安宮廷』（講談社選書）、服藤早苗『平安朝女性のライフサイクル』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
7回	武士の成立・台頭については、五味文彦『中世社会のはじまり』（岩波新書）、同『殺生と信仰 - 武士を探る』、元木泰雄『武士の成立』（吉川弘文館）、野口実『列島を翔る平安武士』（吉川弘文館）、保元・平治の乱から平氏政権の成立については、曾我良成『物語がつくった驕れる平家』（臨川書店）、元木泰雄『源頼義』（吉川弘文館）、五味文彦『平清盛』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	「日本史A」に続き、日本列島内における近世以降の歴史を扱い、武士の台頭、明治維新など近現代へとつながる時系列の中で日本がどのような社会を形成してきたか、また文化や信仰・宗教がどのように変遷したかに関して講義を展開する。そのプロセスで歴史的な事象から得られる情報について、批判、そして客観的に再構築できる力を得ることが講義の目的である。諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。（教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	我が国の古代から武家政権の成立、中世の幕開けまでを取り上げ、時系列の中で客観的に把握できる。 因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる。 歴史的な事象とその背景についての分析結果を深く考察できる。
キーワード	「奈良時代」「平安時代」「最澄・空海」「平将門・藤原純友」「摂関政治」「武士」「平安文学」「国風文化」「清和源氏」「桓武平氏」「保元・平治の乱」「平氏政権」
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で資料・プリント等を配布する。
関連科目	日本史A
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	歴史の面白さや深みのある内容を提示することを通して正しい歴史を理解し、正しい歴史認識を持てるようにする。 また、授業の出欠席の取扱いについては以下の通りである。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。 （２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。 （３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング

ゲ	歴史の史料や絵画資料をできるだけ多く使用する。それらを元にして、その時代的背景や歴史的意義を考え、自分でまとめさせる作業を行わせる。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、模範解答を配布する。 最終評価試験の採点結果をグレード別にフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。日本語が十分習得できていない学生に対して、できるだけ丁寧に説明することを心がけるとともに、配布資料や試験においてルビを多くつけてわかりやすくします。また理解が不十分な学生には、別に課題を与えて学習させるようにします。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	元高等学校勤務。学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題についても講義で触れる。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分注意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告書等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。

科目名	外国史 B (FV22C140)
英文科目名	World History B
担当教員名	松澤仁志 * (まつざわひとし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2 回	近代ヨーロッパ世界の成立について概観する。
3 回	近代国民国家の発展について説明する。
4 回	アメリカ合衆国の建国と発展について説明する。
5 回	帝国主義とアジアの民族運動について説明する。
6 回	二つの世界大戦の背景と展開について説明する。
7 回	第二次世界大戦後の世界について説明する。
8 回	第 1 回から第 7 回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと (90 分)
2 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
3 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
4 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
5 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
6 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
7 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
8 回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと (270 分)

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを「外国史 A」に続いて考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代社会は 19 世紀のヨーロッパによる世界侵略がベースとなって形作られていることは確かであるが、その動きに対して世界の各地域の人々がどのように対応してきたのかが世界の現代史を決定づけたともいえよう。本講義では、近代以降の歴史の流れの中で、世界がお互いにどういう形で影響しあってきたのかを中心に解説する。 (教養教育科目の 4 領域のうちの思考・判断・表現に強く関与する)
達成目標	近代から現代までの世界史の流れを説明することができる 近代から現代までの世界史における異なる文明圏同士の相互交流の状況を説明することができる 現代までの世界史の未来につながる歴史的影響力について考察することができる
キーワード	歴史的因果関係、知的好奇心、人物像の考察、歴史的思考力
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	予習・復習プリント (30 %)、最終評価試験 (70 %) により成績を評価し、総計で 60 % 以上を合格とする。
教科書	市民のための世界史 / 桃木 至朗他 / 大阪大学出版会 / ISBN487259469X : ニューステージ世界史詳覧 / / 浜島書店 / ISBN4834320251
関連科目	「外国史 A」を履修していることが望ましい。
参考書	
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。(メールアドレスは講義初回に公開する)
授業の運営方針	授業プリントを毎回事前に配布する。 授業、及び、最終評価試験も授業プリントの内容を中心に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campus に模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学	“ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提

生への対応	供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ”
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 B (FV22C150)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 地域社会、国際社会について概説する。
2 回	地方分権 - 地方自治 - について講義する。
3 回	主要国の政治体制 - 議院内閣制と大統領制 - について講義する。
4 回	国境を超える政治 - 国際政治のアクター - について講義する。
5 回	冷戦の終わってからテロとの戦いへ (1) について講義する。第二次世界大戦後の冷戦期について学習する。
6 回	冷戦の終わってからテロとの戦いへ (2) について講義する。冷戦終結後の現代世界について学習する。
7 回	自由民主主義体制の諸原理 - 日本国憲法における平等 - について講義する。
8 回	これまで扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義の進め方を把握しておくこと。事前に地域社会、国際社会に関する時事問題について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに内容を整理し、特に知らなかったことについて調べること (9 0 分)
2 回	第 5 章「地方分権」を読み、地方自治について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに日本における地方自治の特徴を整理すること (9 0 分)。
3 回	第 8 章の138～146頁を読み、議院内閣制と大統領制を調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに主要国の政治体制の特徴について整理すること (9 0 分)。
4 回	第 1 2 章「国境を超える政治」を読み、国際社会における政治、中心的な機関である国際連合について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに国際政治の特徴、国際連合と連携機関について整理すること (9 0 分)。
5 回	第 1 0 章「冷戦の終わってからテロとの戦いへ」を読み、第二次世界大戦後の冷戦対立について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに冷戦時の国際政治の特徴を整理すること (9 0 分)。
6 回	第 1 0 章「冷戦の終わってからテロとの戦いへ」を読み、冷戦後の世界情勢について調べておくこと

	(9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとにテロや核兵器への取り組みなど現代の国際政治が抱える問題を整理すること (9 0 分)。
7 回	日本国憲法における自由と平等について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに民主主義における基本的人権の意義、人権の具体的な内容について整理すること (9 0 分)。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、特に講義レジュメにおいて理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと (9 0 分)。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、「政治学A」に引き続き、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治の意味をさらに深めて考えたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Bでは、主として、＜政治の仕組み＞及び＜政治と世界＞について学ぶ。教養教育科目の4領域のうち、「知識・理解」に深く関連する。
達成目標	・現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国際社会という視点から政治を理解し基本的な用語を説明できること ・新聞やニュースの記事を正しく理解できること 以上が本講義の目標である。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、地方分権、政治体制、議院内閣制、大統領制、国際政治、自由民主主義、冷戦、テロ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100％）により評価する。60点以上を合格とする。
教科書	はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、国際関係論AB、教養演習AB
参考書	政治学／川出良枝・谷口将紀編／東京大学出版会／978-4-13-032219-5、NEW教科書シリーズ政治学／山田光矢編／弘文堂／978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。

連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各講義で配布する講義レジューメに従って内容を進める。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、試験後に一定期間を設けて解答をポータルサイトの講義資料（今治・獣医学部）の中のフォルダ「政治学B」に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経済学 B (FV22C160)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山中高光 * (やまなかたかみつ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	[オリエンテーション] [マクロ経済をとらえる枠組み]GDP統計、三面等価、物価、経済成長、寄与度、成長方程式、総需要、総供給などマクロ経済の動きをとらえる枠組みを説明する。
2 回	[有効需要と乗数メカニズム]財市場の均衡、短期のGDPの決定メカニズム、有効需要の原理、乗数メカニズムについて説明する。
3 回	[貨幣と金融]貨幣の機能、日本のマネーストック、金融システム、信用創造、貨幣市場の均衡、金融政策について説明する。
4 回	[マクロ経済政策]財市場と貨幣市場(資産市場)の同時均衡、利子率とGDPの決定、財政政策・金融政策の効果、フィリップス曲線について説明する。
5 回	[インフレ・デフレと失業]インフレーション、デフレーション、失業について説明する。
6 回	[経済成長と経済発展]経済成長のメカニズム、ハロッド＝ドーマーの成長モデル。新古典派の成長理論、内省的経済成長モデルについて説明する。
7 回	[国際経済学]比較優位、自由貿易、国際収支、為替レート、マンデル＝フレミングモデルについて説明する。
8 回	[まとめ] 1回から7回までに学んだマクロ経済学の復習とより進んだ学習のために若干のガイダンスを行う。 後半45分で試験を行う。

回数	準備学習
1 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。テキストの予習とともに、GDPや利子率など関連するマクロ経済統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
2 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、GDP速報に関する報道等を読み、GDPの決定に関するエコノミストの見方や関連するマクロ経済統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
3 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、日本銀行に関する報道等を読み、金融政策に関するエコノミストの見方や関連する日銀統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
4 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、財政政策及び金融政策、雇用情勢に関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
5 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、物価や失業の動向及び関連する政府や日銀の政策などに関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
6 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、潜在GDPの動向や政府の成長戦略などに関する報道等を読み、日本経済の将来を展望しつつ、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
7 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、国際収支や外国為替の動向及び関連する政府や日銀の政策などに関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
8 回	復習に3時間以上の時間が必要である。最終評価試験に備えて十分な準備をしておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Bではその中でも特に市場について講義する。また、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論の概略についても講義する。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	1. 学生が基本的な経済理論を理解できる。

	2. 学生が様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	マクロ経済学、GDP統計、乗数モデル、IS - LM分析、マクロ経済政策、財政政策、金融政策、インフレ・デフレ、失業、経済成長、国際経済学
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験で成績評価する。試験は、授業で行った基本的な経済理論を理解できているかどうかを評価するために、基礎的な専門用語の使用及び説明が適切にできるか、科学的・論理的に把握しているかをみるために、仮説的な事象についての正誤の判断、計算に関する問題を課す。60点以上を合格とする。
教科書	入門経済学第4版 / 伊東元重 / 日本評論社 / ISBN 978-4-535-55817-5
関連科目	経済学Aを履修することが望ましい。
参考書	経済学・入門 第3版 / 塩澤 修平 / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-22004-1 : マンキュー入門経済学 第2版 / マンキュー / 東洋経済新報社 / ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
授業の運営方針	教科書と補完する資料等をまとめた資料を事前に配布し、授業ではその解説、議論、練習問題の解答などを行う。定期試験(最終評価試験)は最終授業で行うが、事前に試験に関する説明などを行うので、注意してもらいたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	練習問題(仮題)は可能な限り授業中に解説する。最終評価試験の模範解答と解説は掲示によって行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などの許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講義では、微分を利用する。 試験形態は計算問題も含め筆記試験とする。

科目名	現代人の科学B（FV22D110）
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	財部健一（たからべけんいち）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス、グループ分け。配布資料を参考にインパクトの大きな課題選択と2回目以降の進め方のガイダンス。
2回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定（アクティブラーニング1）
3回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定（アクティブラーニング2）
4回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価（アクティブラーニング3）
5回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価（アクティブラーニング4）
6回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価（アクティブラーニング5）
7回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価とまとめ（アクティブラーニング6）
8回	アクティブラーニング6のまとめの報告

回数	準備学習
1回	講義目的、達成目標を学習し単位目当ての安易な履修は避けること。（標準学習時間30分）
2回	インパクトの大きな課題について、各自の意見を用意しておくこと。（標準学習時間60分）
3回	アクティブラーニング1により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	アクティブラーニング2により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
5回	アクティブラーニング3により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
6回	アクティブラーニング4により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
7回	アクティブラーニング5により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	アクティブラーニング6のまとめの報告準備をしておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学B」では、実験あるいは実習あるいは討論を交えながら、主に物理・化学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	未来社会を創る大学生に求められる新しい価値の創出力に必要なアカデミックスキルであるアクティブラーニング（自ら調べ、チームで考え、新しい価値観である新しい結論を導く）を体験し、問題発掘、対処、解決、浸透法などの習慣を身に付ける事を目標とする。習慣には、人の話を聞く（多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を学ぶ等々）、自分の意見を相手に分かりやすく述べる（順序立てて考え述べる）、議論に積極的に参加する、仲間と強調して一つの課題に取り組む、グループで決めた学習ルールを守る等の態度、方法の習得が含まれる。
キーワード	インパクトの大きな科学、技術課題、説明責任、新しい価値の創出、新しい価値の浸透、アクティブラーニング
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	定期試験は行いません。第8回の報告が60%、各回のアクティブラーニングでの積極性40%とする。
教科書	なし
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、B、「学びの基礎論A、B」、「教養演習A、B」などが平行履修できれば望ましい。
参考書	宇沢弘文/社会的共通資本/岩波新書/2000：アレックス・ペンランド/小林啓倫訳/ソーシャル物理学/草思社/2015
連絡先	岡山キャンパス D2号館3F 財部研究室 電子メール takarabe@das.ous.ac.jp
授業の運営方針	・試験形態はレポート提出とする。 ・提出課題については、講義中の板書で解説を行う。 ・講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、事前に申し出ること。更に取得したデジタルデータについては、個人で利用する場合に限る。他者への再配布（ネットへのアップロードやSNS掲載を含む）は厳に禁止する。
アクティブ・ラーニング	・4人～6人のグループに分ける。

ゲ	・ ほぼ毎回、テーマ（例えば、「ハインツの薬」問題）について、各自の感想表明、グループ内他者の感想との違いあるいは共通性の理解を行う。 ・ 感想表明あるいは意見表明は全員がグループリーダーの差配の基で行う。 ・ 講義最終段階で解決策についての提案書を作成し、発表する。
課題に対するフィードバック	・ 課題に対する解説は講義中に口頭説明により行う。 ・ 受講生から出された意見にはその都度コメントし、フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供します。配慮が必要な場合は、事前に相談して下さい。 ・ 配布資料の多い講義科目です。録画データなどの他者への再配布（SNSなどネットへのアップロードを含む）や転用は禁止します。 ・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討します。事前に相談して下さい。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。講義資料は講義開始時に配布する。ワークショップ形式で行うため、60名以上の場合は受講制限する可能性がある。

科目名	現代人の科学 A (FV22D120)
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	柳井徳磨 (やないとくま)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？はじめに基本的な学びの必要性について、例を挙げて紹介する。
2 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？基本的な学びの姿勢について、学びの仕方を学習する。学びは生き方をどう変えるか？などについて考える機会を提示する。
3 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？基本的な学びの姿勢について、東西の「人類の教師」の学びの仕方を学習する。特に「真理」をどう追求するか？
4 回	哺乳類・人類の誕生 哺乳類の誕生から人類の登場まで、進化の過程および謎について学習する。
5 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本の風土に関するテーマについて科学的側面を中心に解説する。 風土とは何か？ 日本列島の成り立ち 日本人はどこから来たか？ 縄文人と弥生人・神話と日本人
6 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本の風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 日本の歴史と地域性の成り立ち 日本の地域性とその特徴について 日本人およびその文化の特色は何か
7 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本とアジアの風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 アジアの定義と構成要因は？ 東アジア・東南アジアの国々とその風土の特徴について 日本と他のアジアの歴史・文化の比較
8 回	環境・食物に由来する病気 環境およびそこから得られた食物に起因した疾病について概要を学習する。 糖尿病 免疫の鍵をにぎる腸内細菌 発酵食品の効用、日本および世界の発酵食品の種類と特徴

回数	準備学習
1 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し、自分の日頃からの「学び」について考え、さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
2 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し、自分の日頃からの「学び」について考え、さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
3 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し、自分の日頃からの「学び」について考え、さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
4 回	哺乳類の誕生、家畜の源流、人類の誕生、絶滅動物の歴史、など生物の進化と絶滅の歴史について、インターネットを利用して自分なりに考えておく。
5 回	縄文時代が日本人の形成に及ぼした影響について、片山一道著「骨が語る日本人の歴史」などを参考に概略理解しておく。さらに神話の時代における東アジアの環境について概略理解しておく。
6 回	インターネットなどを利用して、日本と東アジアの歴史・文化の差異を自分なりに考えておく。
7 回	インターネットなどを利用して、アジア諸国の歴史・文化の成り立ちを自分なりに考えておく。
8 回	糖尿病、腸内細菌、免疫力などのキーワードを基に、インターネットで疾病概要について調べておく。藤田紘一郎著「人の命は腸が9割」、小泉武夫著「発酵食品礼賛」を参考に、発酵および発酵食品が動物の健康にいかに関与しているかを概略を理解しておく。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、いくつかのトピックス
------	--

	を扱いながら現代科学の到達した自然観の全体的な枠組みを伝える。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 本授業の中で、自分たちを取り巻く環境、風土はどのように形成されたのか、また、身近な環境に何が起きているのか、などを理解することで、専門教科への円滑な導入が可能になり、より深い専門知識の理解と習得が期待できる。また、食の健康に及ぼす影響の重要性を理解することで、長い学生生活における学生自身の健康管理の基本的な要点を学習する。最後に、自分の属する社会、日本の立ち位置を学習することで、日本社会の特色と国際社会における長所を認識し、国際社会で生き抜くための拠り所になる「誇り」を身に着けることができる。
達成目標	まず、学ぶという活動の意義を自覚し、あらためて自分たちの住む環境と風土を知ること、日本人の特性とアジアにおける役割を認識するきっかけとする。 また、自分たちを育ててくれた環境の変化とそれに対する行動の必要性を理解する。さらに、自分の健康を支える食物と腸の役割を腸内環境の観点から認識する。また、伝統的な発酵食品の役割も併せて理解する。人と動物の健康を守るためには、いかに適切な食物を確保する必要があるかを理解しておく。 身近な科学する心の必要性について、自分で考える機会を確保すること。 外国人に日本の風土と歴史を正しく伝えることで、より親密なコミュニケーション力を身に着けさせる。
キーワード	学びの効用、動物および人の進化、日本の成り立ち、風土、食物、発酵食品
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施するミニテストあるいはレポートの結果40%、最終評価試験60%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	人はなぜ学ばなければならないか / 斎藤孝 / 実業の日本社 / ISBN978-4-408-456 18-8 C0237 : 地球・生命 - 138億年の進化 / 谷合稔 / SBクリエイティブ / ISBN : 日本人が教えたい新しい世界史 / 宮脇淳子 / 徳間書店 / ISBN978-4-19-86417 3-3
関連科目	健康の科学
参考書	骨が語る日本人の歴史 / 片山一道 / 筑摩書房 / ISBN978-4-480-06831-6 C0245 : 神社に秘められた日本史の謎 / 新谷尚紀 / 洋泉社 / ISBN978-4-8003-0536-7 C0221 : 歴史が遺してくれた日本人の誇り / 谷沢永一 / 青春出版社 / ISBN978-4-413-04494-3 C0221 : 日本人はなぜ「小さいのち」に感動するのか / 呉善花 / ワック / ISBN978-4-89831-695-5 C0234 : アジア45ヵ国の国民性 / 造事務所 / PHP研究所 / ISBN978-4-569-76340-8 C0139 : 人の命は腸が9割 / 藤田紘一郎 / ワニ・プラス / ISBN978-4-8470-6067-0 C0247 : 発酵食品礼賛 / 小泉武夫 / 文芸春秋 / ISBN978-4-16-660076-2 C0277 : 「森友・加計事件」朝日新聞による戦後最大級の報道犯罪 / 小川榮太郎 / 飛鳥新聞社 / ISBN978-4-86410-574-3
連絡先	t-yanai@vet.ous.ac.jp (研究室425 0898-52-9202)
授業の運営方針	授業内容は可能な限り、最新の情報を取り扱い、授業内容をもとにレポート作成を課し、授業内で行う小テストにて、授業内容の習得状況を確認する。小テストは、基本的な内容を確実に把握する必要がある。
アクティブ・ラーニング	活用に向けて検討する。
課題に対するフィードバック	提出課題、演習等について、採点後のレポートなどを返却、最終評価試験に関しては、採点後の答案を返却し、模範解答および解説を配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 B (FV22F110)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および、心理学で取り扱う、感じる-考える-動くとはなにか？そして自分とはなにか？について概説し、今後の講義方針を説明する
2 回	感じる-注意/感覚/知覚について、概説する
3 回	感じる-感情・情動について、概説する
4 回	考える-認知/記憶について、概説する
5 回	考える-記憶/思考・推論について、概説する
6 回	動く-行動/学習について、概説する
7 回	動く-レスポナント条件づけについて、概説する
8 回	動く-オペラント条件づけについて、概説する

回数	準備学習
1 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、「自分が抱いた感情/とった行動/浮かんだ考え」について、数例まとめておくこと(180分)
2 回	日常生活において、何かを見た/聞いたときの状況について、5W1Hに基づき、数例詳しく記録しておくこと(180分)
3 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、自分がどんな感情をいだいたかについて、数例記録しておくこと(180分)
4 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、思い浮かんだ考えについて、数例記録しておくこと(180分)
5 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、思い浮かんだ考えに基づき自分がどのような判断あるいは考えに至ったかについて、数例記録しておくこと(180分)
6 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、自分がどんな行動をしたかについて、数例記録しておくこと(180分)
7 回	日常生活において、ある対象に好意を持つ、および、ある対象に嫌悪を抱くとき、出来るだけ具体的にその理由となるエピソードを記録しておくこと(180分)
8 回	日常生活において、自分あるいは他者の困っている/改善したい状況について、できるだけ具体的に記述および記録しておくこと(180分)

講義目的	心理学とはなにか？心を扱う学問とはなにか？について、感じる-考える-動くという切り口から、やや深く切り込んで概説する。心理学という学問の深淵に触れることで、より良い人間性の育成を目指す。(教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	感じる-考える-動くという切り口から、心理学についてやや深い知識を理解することで、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	注意、意識、感覚、知覚、認知、行動、学習、記憶、推論、思考、条件づけ、感情、情動、生得的行動、レスポナント、オペラント、行動分析学、随伴性、アフォーダンス
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各講義中の課題(60%) 第8回講義後に提出する最終評価レポート(40%)総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	心理学B
参考書	講義内で指示する
連絡先	講義内で指示する
授業の運営方針	・レポートは期限内に提出すること ・講義資料、あるいはそれに準ずるものは、基本的にはポータルサイトを通じて配布するが、詳細は第1回講義にて説明する ・その他、受講するにあたってのマナーやルールについては、第1回講義にて説明する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中の課題については、模範解答を課題提出後に提示および解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。申し出があれば、それぞれ個別に対応します。詳しくは第1回講義のオリエンテーションにて説明します

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回講義のオリエンテーションにて説明する

科目名	法学B（FV22F120）
英文科目名	Law B
担当教員名	渡邊剛央（わたなべたけひさ）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	民法および契約の基礎について学修する。民法の基本原則と契約の成立要件について学修する。
2回	契約の主体について学修する。誰が契約を締結することができるのかについて学修する。
3回	債務不履行について学修する。契約により生じた債務が履行されない場合のルールについて学修する。
4回	獣医療における医療過誤訴訟について学修する。裁判例をもとに、獣医療における医療過誤訴訟の法律上の問題点について学修する。
5回	獣医療におけるインフォームド・コンセントについて学修する。インフォームド・コンセントの意義や人に対する医療におけるインフォームド・コンセントとの違いなどについて学修する。
6回	家族法について学修する。婚姻および離婚の成立要件や相続に関するルールについて学修する。
7回	刑法の基礎について学修する。罪刑法定主義や違法性阻却事由などの刑法の基本的なルールについて学修する。
8回	行政法の基礎について学修する。行政作用法および行政救済法の基本的なルールについて学修する。

回数	準備学習
1回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、民法および契約の基礎に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
2回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、契約の主体に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
3回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、債務不履行に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
4回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、獣医療における医療過誤訴訟に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
5回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、獣医療におけるインフォームド・コンセントに関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
6回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、家族法に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
7回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、刑法に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
8回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、行政法に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Bで主として取り扱う分野は「民法」と「刑法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 契約に関するルールを説明できるようになること。 ○ 家族法について説明できるようになること。 ○ 刑法の基本原則について説明できるようになること。
キーワード	民法，刑法
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	MOMO-Campusにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	法学の基礎についての学習は法学Aで行うので、それを履修した後でこの講義を受講するのが望ましい。
参考書	民法入門（第7版）／川井健／有斐閣／978-4641136250：刑法入門（岩波新書）／山口厚／岩波書店／978-4004311362
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。

バック	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 B (FV22F130)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 現代社会における「教養」の必要性和日本を取り巻く国際情勢を把握することの意義について説明する。
2 回	TPPが与える日本社会への影響について解説する。
3 回	安全保障法制（集団的自衛権）について解説する。
4 回	地球温暖化対策（パリ協定）が抱える諸問題について解説する。
5 回	日本の領土問題について解説する。
6 回	EUがかかえる諸問題、アジアの政治経済について解説する。
7 回	人権とは何か（人権が目指すもの）について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、事前に講義内容を把握しておくこと（90分）。受講後に、取り上げた具体的事例について図書館やwebを活用し調べること（90分）。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、「市民性＝社会参画の権利と義務」「社会的責任」をテーマにして議論する。題材は、国際的な視野から安全保障法制、地球環境、領土問題、人権問題等の現在進行形の社会時事問題である。受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。教養教育科目の4領域のうちの「思考・判断・表現」と深く関連する。
達成目標	・報道内容をそのまま受け止めるのではなく、自分なりの考えを持って判断できる。 ・国際情勢を踏まえた上で、日本の抱える問題を捉えることができる。 ・問題に対する自分なりの判断を、言葉や文章で表現できること、を目標とする。
キーワード	教養、社会問題、時事、TPP、安全保障、集団的自衛権、地球温暖化、日本の領土、EU、アジア、人権
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート形式の最終評価試験（80％）と毎授業課題（20％）の合計を100点として評価する。60点以上を合格とする。評価基準としては、テーマに関する記述が正しいこと、自己の見解を持ち根拠を示していること、国際的な視野から論じていること、文章作法について適切であることを総合して判断する。
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
関連科目	社会と人間A、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	獣医学部教育病院棟 4 階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の最後に講義を受けた感想、自分の意見を記入したレポートの提出を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や私見を記入することを実施する。
課題に対するフィードバック	講義の中で事前に最終評価試験（レポート形式）の評価基準を示すことを前提とし、試験の結果について希望する者には点数を開示し評価の根拠を提示する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FV22P110)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題 「あなたが自慢できること」について書く。
2 回	課題 「友人から学んだこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
3 回	課題 「今までで最も努力したこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
4 回	課題 「社会人としての責任」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
5 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に修正点を指導する。
7 回	課題 「男女共同参画社会について」 についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと (3 0 分)。 予習：課題 の概要を準備しておくこと (6 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。
2 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (9 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。
3 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (9 0 分)。

	復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
４回	予習：課題 の概要を準備しておくこと（９０分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
５回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること（９０分）。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（９０分）。
６回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（９０分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
７回	予習：課題 について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（９０分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
８回	これまでの授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（９０分）。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%）
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版 / 井下千以子 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4-7664-2107-1
関連科目	文章表現法基礎編A、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。

	グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FV22P120)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) をする。 本授業での自分の目標を発表する。
2回	ポスター発表に向けてテーマと構成を決める。
3回	ポスター作成と発表の基本を理解する
4回	設定したテーマに対するポスターを作成する
5回	ポスター発表をする
6回	グループでの口頭発表に向けて準備する
7回	グループで口頭発表をする
8回	発表と振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認し、本授業での自分の目標を明確にしておくこと(60分)。
2回	予習として、岡山理科大学獣医学部の魅力を考え、高校生に説明できるようにしておくこと(180分)。
3回	予習として、ポスターを作成するうえで必要な内容を調査し、まとめておくこと(180分)。
4回	予習として、グループでポスターを作成しておくこと(60分)。
5回	予習として、ポスターを完成させ、発表の準備をしておくこと(180分)。
6回	予習として、設定したテーマに関して調べておくこと(90分)。 復習として、グループで発表に向けたスライド資料を作成しておくこと(240分)。
7回	予習として、スライド資料を完成させ、発表に向けた準備をしておくこと(180分)。
8回	復習として、自身のグループ発表と学習プロセスを振り返り、よかった点と改善点をまとめる(180分)。

講義目的	本講義の目標は、高度なプレゼンテーションの技法を学び、学会発表や研究発表等が効果的に行えるようにすることである。より実践的にプレゼンテーションのトレーニングを行う。テーマを決め、プレゼンテーションを作成させ、グループ内での発表とクラス全体での発表を組みあわせ、発表の機会を増やす。友人の発表を批判的に見ることで、そこでの気づきを自分のプレゼンテーションに反映させる。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	ポスター発表(40%)、グループでの口頭発表(40%)、最終レポート(20%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	プレゼンテーション基礎編Aを履修しておくことが望ましい
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp

	TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマに関してグループで発表する ディスカッション 発表に向けてグループで議論する
課題に対するフィードバック	グループ発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 グループ発表に対して、学生同士でコメントを書き、ピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	キャリア形成講座B (FV22Q110)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ), 小林忠資(こばやしただし), 戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ディスカッションの進め方について学修する。 (小林 忠資)
2回	第1回PBLを行う。その第1段階として、各グループ内で、シナリオからの課題の発見と各メンバーの調査プランの策定を行う。 (渡邊 剛央)
3回	第1回PBLを行う。その第2段階として、グループ内で、各メンバーが調査結果を発表し、情報を共有する。そのうえで、グループとしての課題の解決策を策定し、その解決策を発表するための準備を行う。 (渡邊 剛央)
4回	第1回PBLを行う。その第3段階として、各グループによる課題の解決策をプレゼンテーションを行う。 (渡邊 剛央)
5回	第2回PBLを行う。その第1段階として、各グループ内で、シナリオからの課題の発見と各メンバーの調査プランの策定を行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
6回	第2回PBLを行う。その第2段階として、グループ内で、各メンバーが調査結果を発表し、情報を共有する。そのうえで、グループとしての課題の解決策を策定し、その解決策を発表するための準備を行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
7回	第2回PBLを行う。その第3段階として、各グループによる課題の解決策をプレゼンテーションを行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
8回	これまでの授業の振り返りを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	予習として、ブレインストーミング、KJ法について調べること。(90分) 復習として、ディスカッションの進め方についてまとめること。(90分)
2回	予習として、ディスカッションの進め方を確認しておくこと。(60分) 復習として、各自で分担する課題についてのレポートを完成させること。(120分)。

3 回	予習として、プレゼンテーションの方法について調べること。(60分) 復習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分)
4 回	予習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分) 復習として、プレゼンテーションの改善策についてまとめること。(60分)
5 回	予習として、前回のディスカッションを踏まえた、ディスカッションの改善策をまとめてくること。(60分)。 復習として、各自で分担する課題についてのレポートを完成させること。(120分)。
6 回	予習として、前回のプレゼンテーションを踏まえた、プレゼンテーションの改善策をまとめてくること。(60分)。 復習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分)
7 回	予習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分) 復習として、プレゼンテーションの改善策についてまとめること。(60分)
8 回	予習として、これまでの授業における自分および他のメンバーの活動を振り返り、良かった点・改善すべき点をまとめてくること。(90分) 復習として、授業の振り返りを通じて、自分の改善点をまとめること。(90分)

講義目的	社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）の理解および習得とレベルアップを講座の目的とする。講義はアクティブラーニング手法による実践的演習を軸として展開し、個人→ペア→チームといった段階的レベルアップワークの徹底により、即戦力人材となるための能力習得を図る。講義は実社会の現場で日々起こるテーマを題材にし、能力の顕在化と実践的応用力の習得も目的とする。加えて、ビジネス心理学、人口問題等の社会動向、国際感覚、CSRマインドなどの現代テーマも盛り込み、課題解決力を身につけるための知識・技術の習得と自らのキャリアをデザインする力の醸成も行う。
達成目標	- 社会問題に対する解決策を生み出せるようになること。 - 他人と協力して目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成，グループ・ディスカッション

試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各回のグループによる発表の評価（比率50％）と個人が提出するレポートの評価（比率50％）を100点満点に換算し，60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	キャリア形成講座A
参考書	ロジカル・ディスカッション—チーム思考の整理術／堀公俊・加藤彰／日本経済新聞出版社／978-4532490805
連絡先	授業代表：渡邊剛央 研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	グループワーク中心なので，積極的にワークに参加することが求められる。また，欠席すると同グループの他のメンバーに迷惑をかけることになり，また，評価も下がることになるので，正当な理由なく欠席しないようにしてほしい。
アクティブ・ラーニング	○ P B L 社会問題を用いた，Ploblem Based Learningを実施する。
課題に対するフィードバック	レポートおよびプレゼンテーションに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので，配慮が必要な場合は，事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが，他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法応用編 B (FV22U210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文に加えて、就職活動におけるエントリーシートの文書作成の方法、その中で自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題 「学生生活で得たこと」について文章を作成する。
2 回	課題 「あなたが挑戦したいこと」について文章を作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
3 回	課題 「失敗から学んだこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
4 回	課題 「地球温暖化について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
5 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」(1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」(2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行った上で、説得力を高め自己の主張を明確に伝えるためのポイントを指導する。
7 回	課題 「地域社会と外国人について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでのグループワークを通して気づいたことや学んだことを含め、文章作成において必要なことを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと(30分)。 予習：課題 の概要を準備しておくこと(60分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
2 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
3 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
4 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
5 回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること(90分)。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること(90分)。
6 回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
7 回	予習：課題 について調べ、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
8 回	これまで授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと(90分)。

講義目的	本講義では文章表現の応用として、就職活動で必要となる文章スキルを確認するとともに、一般社会で求められる文章表現の常識を身につけることをめざす。具体的には、履歴書やエントリーシートについて基本的な注意点や表現のポイントを解説した上で、インクを使った手書きによる作成に取り組むほか、広告文の作成を通じて課題の理解と状況の分析を踏まえたコミュニケーション力を養う。また社会人として必要となるビジネスレターや挨拶状、契約書、企画書といった、さまざまな文章実務の実例も取り上げる。教養教育科目の4領域のうち、「技能」と深く関連する。
達成目標	・履歴書やエントリーシートを作成する上で、それぞれの記入項目が何を求めているのか(意図)を正確に把握し、意図に沿った内容を表現できる。 ・小論文等の課題内容を正確に理解した上で、自分の考えをより魅力的に伝えることができる。 ・自身の考えの根拠を具体的に示した上で、より説得力のある文章を作成できる。 ・レポート、小論文、エントリーシート等の文章について

	、より豊かな表現力を用いて説得力のある文章を作成することができる。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（60％）と最終評価試験（40％）を合計100点とし、60点以上を合格とする。
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版 / 井下千以子 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4-7664-2577-2
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編AB、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション応用編B (FV22V210)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、自己PRのためのプレゼンテーションの方法を説明する。
2回	自身の関心のある職域についての発表資料を作成する。
3回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
4回	探究型テーマの発表の方法を理解する。
5回	発表の内容を検討する。
6回	発表資料を作成する。
7回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習としてシラバスを確認し、就職活動や研究発表に求められるプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと(90分)。
2回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと(180分)。
3回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと(180分)。
4回	自身の関心のテーマについて調べ、問いを10個以上作っておくこと(180分)。
5回	予習として、発表資料を作成するための情報を収集し、整理しておくこと(180分)。
6回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと(180分)。
7回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと(180分)。
8回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと(180分)。

講義目的	本講義では、大学での研究発表や就職活動、就職後のビジネスや職務、地域社会での活動に必要なプレゼンテーションおよびコミュニケーション力を深めることをめざす。具体的には、受講生全体でのディスカッションとディベート、あるいはグループ単位でのディスカッションを通じて、プレゼンテーション技法とコミュニケーション意識を確認する。またその応用事例として、クレームの発生と対応、企業研究、エントリーシートと面接、採用試験の実例等を取り上げながら、受講生が行う演習によって理解度と習熟度を評価し、必要な改善を指導する。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの技法と発想を理解し、コミュニケーションのスキルを身に着ける。 就職活動や研究発表、ビジネスに必要なコミュニケーション力を養う。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出(20%)、中間発表(40%)、最終発表(40%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編B、プレゼンテーション応用編Aを履修しておくことが望ましい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為(私語、立ち歩く等)はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにして下さい。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。

	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマについて発表する
課題に対するフィードバック	発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 発表に対して、学生が紙面でピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	企業と人間B (FV22W120)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	八木力俊* (やぎりきとし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション～日本的経営の「三種の神器」とそれと関連した雇用慣行（新規卒採用と企業内教育）について概説する
2回	キャリア形成1：日本の企業の従業員採用慣行（「就職」）について、「就社」という概念も活用し、説明する
3回	キャリア形成2：「年功制」、「終身雇用」、「内部労働市場」を説明し、賃金制度、昇進制度の視点から、働き方の変化を講述する
4回	キャリア形成3：「コンプライアンス」と「CSR(企業の社会的責任)」を説明し、企業がどのような努力をしているのか紹介する
5回	キャリア形成4：「ワークライフバランス」「タイムマネジメント」を説明し、企業内労働について論述する
6回	キャリア形成5：企業内キャリアを構築する上で間接的作用を果たしている配置転換、ジョブ・ローテーション/エンリッチメント、企業内等級制度などの人材管理・開発施策について説明する
7回	キャリア形成6：従業員教育（企業内教育）のシステムとOJT, OFF-JTをテーマに論述する。マネジメント育成の「カットモデル」についても解説する
8回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行い、その後（45分）で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	「日本的経営」と用語について適切な媒体を通して調べておくこと。（平均学習時間約60分）
2回	就職活動のプロセスやエントリーシートについて事前に調べておくこと（平均学習時間約60分）
3回	父母、きょうだいから「年功制」について、ヒアリングをしておくこと（平均学習時間約60分）
4回	過去の企業のコンプライアンス違反事例をネット等から調べておくこと（平均学習時間約30分）
5回	自身の1日のタイムスケジュールについて表にしておくこと（平均学習時間約30分）
6回	近親者から、配置転換の経験を取材しておくこと（平均学習時間約60分）
7回	「OJT」、「OFF-JT」の違いについて事前に調べておくこと（平均学習時間約60分）
8回	講義ノートの再整理、参考文献の主内容をノートに書き取っておき、試験に備えること。また、理解に至らなかった点について質問できるようメモをしておくこと

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力の習得を促す。また、「経営とは何か」「組織マネジメントの意味」を具体的に理解させることにより、日本のリーディング企業の経営戦略を理解させ「良い会社とは何か」を考えさせる。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業・職業生活の人間形成作用や、キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であることを理解できるようにすること
キーワード	キャリア形成、労働市場、企業内教育、人間関係
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する。 ・達成目標である、「職業生活の人間形成作用」や、「キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であること」への理解度を確認する。 ・100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	キャリア形成講座
参考書	各回に適宜指示する
連絡先	岡山校キャリア支援センター
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める

	・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること
実務経験のある教員	・社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい

科目名	企業情報特論B（FV22X210）
英文科目名	Business Leader Lecture Series B
担当教員名	中村修（なかむらおさむ）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。
2回	講演テーマ 動物高度医療の現状 講師 四国動物医療センター（香川県）
3回	講演テーマ わが国の競馬事情 講師 日本中央競馬会（東京都）
4回	講演テーマ 地域における動物園の役割 講師 福山市立動物園（広島県）
5回	講演テーマ 動物用医薬品の流通と販売 講師 MPアグロ（株）AHSC
6回	講演テーマ 今後の肉用牛戦略 講師 （株）なかやま牧場（広島県）
7回	講演テーマ 驚異のプロボリス 講師 （株）山田養蜂場（岡山県）
8回	講演テーマ 「スマ」に代表される新魚種開発の現状と課題 講師 愛媛県水産研究センター

回数	準備学習
1回	獣医学部の人材養成の理念と目的を再確認すること。（標準学習時間60分）
2回	企業情報特論Aの講義内容全般を復習すること。（標準学習時間60分）
3回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
4回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
5回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
6回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
7回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）
8回	前回の講義について、復習し。概要をまとめること。（標準学習時間120分）

講義目的	先端ライフサイエンス研究分野において、動物のデータから人のデータへという研究プロセスにおいて、複雑な生命現象を統合的に把握する力を身につけている人材へのニーズが高まっている。又、社会のグローバル化の進展により、家畜越境感染症や人獣共通感染症が世界的に拡大するリスクが高まっている。更に高齢化社会を迎え、これらに関係する予防医療や医薬品、医療技術の開発に伴い動物を用いた研究が期待されるなど、獣医学科、獣医保険看護学科を卒業した人材の活躍の場は、社会に大きく広がりを持っている。そのような中、獣医学が関係する様々な分野から講師をお招きして、就業可能性のある職種の概要や幅広い関連知識を学習することにより、将来の方向性や職業選択の広がりや理解すること、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。（全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、Cに強く関与する。）
達成目標	獣医学部の人材の活躍の場が社会に大きく広がりを持っていることを学び 1) 社会との関わりと社会貢献を理解する。（A） 2) 就業の可能性のある職種の概要を知る。（C）
キーワード	ライフサイエンス、公共獣医、食の安全、動物と人、創薬
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、都度毎の講義に関するレポート提出が課せられる。レポート（100%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特になし
関連科目	インターンシップ概論、キャリア形成講座A、キャリア形成講座B
参考書	
連絡先	教学・学生支援部 小野裕紀
授業の運営方針	企業情報特論Aを受講していることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	適宜、優秀レポートを発表することで、フィードバックを行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講師の変更により、講義テーマが変更される場合があります。

科目名	インターンシップ概論 (FV22Y210)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ), 小林忠資 (こばやしただし), 渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。 (戸田 修司)
2 回	自己PRの基礎 (1) について説明する。自己分析について学習する。 (小林 忠資)
3 回	自己PRの基礎 (2) について説明する。効果的な自己PRのまとめ方について学習する。 (渡邊 剛央)
4 回	エントリーシートの書き方のポイントを説明する。 (戸田 修司)
5 回	企業研究 (公務員を含む) について説明する。 (全教員)
6 回	面接におけるポイントを説明する。 (渡邊 剛央)
7 回	社会人としての必要なマナーについて説明する。 (小林 忠資)
8 回	インターンシップに参加するための準備についてポイントを総括する。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスで講義の進め方を把握しておくこと (6 0 分)。 インターンシップの意義について調べ理解しておくこと (1 2 0 分)。
2 回	これまでの自分を振り返り、自己のプロフィールを考えておくこと (1 8 0 分)。
3 回	前回の内容を踏まえて、内容を整理しておくこと (9 0 分)。 受講後に、最終課題レポートに向けて自己PRを推敲しておくこと (9 0 分)。
4 回	エントリーシートの項目を確認し取り上げる内容を選定しておくこと (9 0 分)。 受講後に、最終課題レポートに向けて項目内容を推敲しておくこと (9 0 分)。
5 回	インターンシップとして希望する先を選定しておくこと (9 0 分)。 受講後に、希望先の必要事項を整理しておくこと (9 0 分)
6 回	面接において大切なことは何かを調べておくこと (1 2 0 分)。 受講後に、再度ポイントを確認し実際に練習すること (6 0 分)。
7 回	社会人として求められるマナー (常識) について調べておくこと (1 2 0 分)。 受講後に、ポイントを整理しておくこと (6 0 分)。
8 回	これまでの講義内容を整理し、最終課題レポートを推敲し提出の準備をすること (9 0 分)。

講義目的	インターンシップは、企業や団体等において、学生が就業体験をすることによって社会や企業の実情を知り、自らの職業適性や将来設計を考えるとともに、大学における学習教育目標の達成を向上・促進することを目的とする。本講義では、インターンシップにかかる年間スケジュールや実習時間に応じた単位認定基準を提示し、業界・職種・企業研究や仕事・働くことの意味などについて講義する。また、実際にインターンシップを経験した学生の体験談を聞かせ、インターンシップ実習を行う前にインターンシップについての具体的なイメージを持たせる。教養教育科目の 4 領域のうち、「関心・意欲・態度」に深く関連する。
達成目標	・インターンシップに参加する意義を理解することができる。 ・参加の流れと参加するために必要な知識や技能を身につけることができる。 ・インターンシップに参加する上で必要な社会人としての心構えやマナーを身につけることができる。 インターンシップに参加することで、社会に貢献できる人材になることを目指すことを目標とする

キーワード	インターンシップ、企業、公務員、自己PR、エントリーシート、プレゼンテーション、面接
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の提出課題（20%）と最終課題レポート（80%）を総合し100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	なし マイナビ・HPトップ（→インターンシップ）サイト https://job.mynavi.jp/20/pc/ リクナビ・インターンシップサイト https://job.rikunabi.com/2020/
関連科目	インターンシップA・B・C、キャリア形成講座AB、企業情報特論AB、文章表現法基礎編・応用編AB、プレゼンテーション基礎編・応用編AB、教養演習AB、企業と人間AB
参考書	インターンシップ・キャンパスウェブサイト http://www.campusweb.or.jp/internship/web/ キャリア支援センターホームページ http://www.job.office.ous.ac.jp/
連絡先	管理棟 1 階教学・学生支援課キャリア支援係・インターンシップ担当まで、mail：syusyoku@office.ous.ac.jp 講義については、担当代表戸田まで（獣医学部教育病院棟 4 階 4 1 9 研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp）
授業の運営方針	最後に課題レポート（所定の様式あり）を作成し提出することを課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。 グループワーク 5 名程度を 1 グループとして、講義における課題について話し合い、共同作業・発表などを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の提出課題について、次の講義の最初に全体として講評を行う。最終講義の際に、講義全般の総括を行うことで課題に対する講評とする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務（戸田修司）：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として必要な知識やマナーを身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには、この「インターンシップ概論」を必ず履修し修得しておく必要がある。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1 年間 2 1 0 円）へ必ず加入すること。

科目名	健康の科学 (FB201200)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康の科学15回の目的と内容について学習する。
2 回	人類の誕生と、健康観について学習する。
3 回	人の誕生から思春期について学習する。
4 回	加齢による身体の変化と精神的な変化について学習する。
5 回	生活習慣病について学習をする。
6 回	疾病構造の変化を時代にそって理解する。
7 回	感染症について理解をする。
8 回	現在社会の健康とストレスについて学習をする。
9 回	心身相関のしくみと心身症について学習する。
1 0 回	マズローの欲求階層説について理解する。
1 1 回	人間理解のその としてコンプレックスについて理解する。
1 2 回	人間理解のその として意識と無意識の世界を理解する。
1 3 回	人間理解その として人間とタイプについて学習する。
1 4 回	自然と人間について、特に自然の偉大さについて理解をする。
1 5 回	生涯スポーツの意義について理解する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	自分自身の健康観を考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	妊娠出産の科学と、乳児・幼児の成長の過程、性の確定と二次性徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	年齢による身体の変化と高齢者社会について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ライフスタイルが健康のキーポイントになることの理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	疾病構造が変化した内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	感染症と性感染症について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	社会状況が私たちにおよぼす影響について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	心身症について理解をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	マズローについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	コンプレックスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	心理学者のフロイト、ユングについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	内向・外向、思考・感情・直感・感覚について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	文明が人間にもたらしたもの。自然の偉大さについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	生涯スポーツと健康との関連について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	自己実現を可能にするためにも、自己を見つめる目を養い、健康についての理解を深め生涯におけるヘルスプロモーションについて理解し、実践していく態度を育成する。 私たちをとりまく社会や環境についても理解を深め、地球規模での考えが必要なことを理解し、自己だけでなく、社会や環境との関わりについて考える。(教養教育センター単位認定方針のDのもっとも強く関与する)
達成目標	人間の誕生、乳幼児期、青年期から老年期まで、各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた基礎的なヘルスプロモーションができること。 健康について各自が理解を深め、自己の健康を見つめることの必要性を知ること。 人間理解を深め、個人の可能性を高め、対人関係を見つめる目を養うこと。
キーワード	妊娠・出産、青年期、生活習慣病、疾病、心身相関、欲求、臨床心理学、適応機制、生涯スポーツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題(30%)、最終評価試験(70%)
教科書	プリント類などを適宜配布する
関連科目	生涯スポーツ
参考書	プリント類などを適宜配布する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村(次)研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。

	・携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしまっておくこと。 ・授業で配布する資料の予備については保管しないため、後日の配布には応じない。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護等体験や教育実習等で欠席する場合は事前に届を提出すること。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題については授業中にフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回目の授業には必ず出席すること。 受講者が多数の場合、適宜受講制限を行う可能性がある。

科目名	健康の科学 (FB201220)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康の科学15回の目的と内容について学習する。
2 回	人類の誕生と、健康観について学習する。
3 回	人の誕生から思春期について学習する。
4 回	加齢による身体の変化と精神的な変化について学習する。
5 回	生活習慣病について学習をする。
6 回	疾病構造の変化を時代にそって理解する。
7 回	感染症について理解をする。
8 回	現在社会の健康とストレスについて学習をする。
9 回	心身相関のしくみと心身症について学習する。
1 0 回	マズローの欲求階層説について理解する。
1 1 回	人間理解のその としてコンプレックスについて理解する。
1 2 回	人間理解のその として意識と無意識の世界を理解する。
1 3 回	人間理解その として人間とタイプについて学習する。
1 4 回	自然と人間について、特に自然の偉大さについて理解をする。
1 5 回	生涯スポーツの意義について理解する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	自分自身の健康観を考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	妊娠出産の科学と、乳児・幼児の成長の過程、性の確定と二次性徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	年齢による身体の変化と高齢者社会について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ライフスタイルが健康のキーポイントになることの理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	疾病構造が変化した内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	感染症と性感染症について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	社会状況が私たちにおよぼす影響について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	心身症について理解をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	マズローについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	コンプレックスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	心理学者のフロイト、ユングについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	内向・外向、思考・感情・直感・感覚について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	文明が人間にもたらしたもの。自然の偉大さについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	生涯スポーツと健康との関連について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	自己実現を可能にするためにも、自己を見つめる目を養い、健康についての理解を深め生涯におけるヘルスプロモーションについて理解し、実践していく態度を育成する。 私たちをとりまく社会や環境についても理解を深め、地球規模での考えが必要なことを理解し、自己だけでなく、社会や環境との関わりについて考える。(教養教育センター単位認定方針のDのもっとも強く関与する)
達成目標	人間の誕生、乳幼児期、青年期から老年期まで、各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた基礎的なヘルスプロモーションができること。 健康について各自が理解を深め、自己の健康を見つめることの必要性を知ること。 人間理解を深め、個人の可能性を高め、対人関係を見つめる目を養うこと。
キーワード	妊娠・出産、青年期、生活習慣病、疾病、心身相関、欲求、臨床心理学、適応機制、生涯スポーツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題(30%)、最終評価試験(70%)
教科書	プリント類などを適宜配布する
関連科目	生涯スポーツ
参考書	プリント類などを適宜配布する
連絡先	
授業の運営方針	・グループディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題については授業中にフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第 1 回目の授業には必ず出席すること。 受講者が多数の場合、適宜受講制限を行う可能性がある。

科目名	健康の科学 (FB201230)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康の科学15回の目的と内容について学習する。
2 回	人類の誕生と、健康観について学習する。
3 回	人の誕生から思春期について学習する。
4 回	加齢による身体の変化と精神的な変化について学習する。
5 回	生活習慣病について学習をする。
6 回	疾病構造の変化を時代にそって理解する。
7 回	感染症について理解をする。
8 回	現在社会の健康とストレスについて学習をする。
9 回	心身相関のしくみと心身症について学習する。
1 0 回	マズローの欲求階層説について理解する。
1 1 回	人間理解のその としてコンプレックスについて理解する。
1 2 回	人間理解のその として意識と無意識の世界を理解する。
1 3 回	人間理解その として人間とタイプについて学習する。
1 4 回	自然と人間について、特に自然の偉大さについて理解をする。
1 5 回	生涯スポーツの意義について理解する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	自分自身の健康観を考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	妊娠出産の科学と、乳児・幼児の成長の過程、性の確定と二次性徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	年齢による身体の変化と高齢者社会について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ライフスタイルが健康のキーポイントになることの理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	疾病構造が変化した内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	感染症と性感染症について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	社会状況が私たちにおよぼす影響について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	心身症について理解をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	マズローについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	コンプレックスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	心理学者のフロイト、ユングについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	内向・外向、思考・感情・直感・感覚について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	文明が人間にもたらしたもの。自然の偉大さについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	生涯スポーツと健康との関連について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	自己実現を可能にするためにも、自己を見つめる目を養い、健康についての理解を深め生涯におけるヘルスプロモーションについて理解し、実践していく態度を育成する。 私たちをとりまく社会や環境についても理解を深め、地球規模での考えが必要なことを理解し、自己だけでなく、社会や環境との関わりについて考える。(教養教育センター単位認定方針のDのもっとも強く関与する)
達成目標	人間の誕生、乳幼児期、青年期から老年期まで、各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた基礎的なヘルスプロモーションができること。 健康について各自が理解を深め、自己の健康を見つめることの必要性を知ること。 人間理解を深め、個人の可能性を高め、対人関係を見つめる目を養うこと。
キーワード	妊娠・出産、青年期、生活習慣病、疾病、心身相関、欲求、臨床心理学、適応機制、生涯スポーツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題(30%)、最終評価試験(70%)
教科書	プリント類などを適宜配布する
関連科目	生涯スポーツ
参考書	プリント類などを適宜配布する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村(次)研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。

	・携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしまっておくこと。 ・授業で配布する資料の予備については保管しないため、後日の配布には応じない。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護等体験や教育実習等で欠席する場合は事前に届を提出すること。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題については授業中にフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回目の授業には必ず出席すること。 受講者が多数の場合、適宜受講制限を行う可能性がある。

科目名	健康の科学 (FB201240)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いて、人体の構造について学習し、人体を構成する器官系の働きについて理解する。
2 回	スキャモンの発育・発達曲線について説明する。人間が発育・発達していくプロセスを理解する。さらに、健康づくりに重要な役割を担う体力についても説明する。
3 回	「健康観」と「健康の定義」について説明する。生活の視点から健康を捉え、理解を深めることが重要であることを学習する。
4 回	わが国の疾病構造の変化と平均寿命からみた健康水準の変化について説明する。
5 回	健康寿命について説明する。クオリティー・オブ・ライフという考え方に根ざして、人がどれだけ健康で豊かに生きられるかを表す指標であることを理解する。
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明する。
7 回	肥満の基準と肥満症について説明する。体格指数 (BMI) と標準体重を計算する。
8 回	メタボリックシンドローム (代謝症候群) について説明する。
9 回	主な生活習慣病について説明する。サイレントキラー (沈黙の殺人者) と呼ばれる病気について理解する。
10 回	マズローの欲求階層説について説明する。人が行動を起こすときの原因 (動機) を理解する。
11 回	適応機種の種類と問題点について説明する。日常茶飯事に起きている人間の自然な心理現象を理解する。
12 回	ストレッサーとストレスについて説明する。
13 回	ストレスマネジメント (エネルギーの有効活用法) について説明する。
14 回	心身相関 (自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係) について説明する。
15 回	心身症について説明する。発症や経過に心理社会的ストレスが強くかかった病体であることを理解する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：人体を構成する器官系の働きについてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	予習：スキャモンの発達・発育曲線が表している臓器別の組織特性と体力の構成要素について調べておくこと。復習：健康の中核をなす体力の発達は、諸器官の発育・発達に大きく影響を受けることについてまとめておくこと。標準学習時間120分)
3 回	予習：人間の生活様式と生活環境は、深く健康の問題と関連していることを調べておくこと。復習：疾病の予防や健康の保持増進は、個人の健康維持だけでは達成し得ないことについてまとめ、説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	予習：わが国の疾病構造の変化と平均寿命の変化について調べておくこと。復習：時代や社会の状況によって大きく左右され、その集団の実態を表している健康水準の変化についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	予習：わが国の平均寿命と健康寿命の差について調べておくこと。復習：平均寿命と健康寿命の差が拡大した場合の懸念される影響についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	予習：病気を進行させる生活習慣を調べておくこと。復習：生活習慣病の予防と学生の頃からの生活習慣の適正化についてまとめておくこと。また、“生活習慣病”に関する提出課題を完成させること。(標準学習時間120分)
7 回	予習：BMI (体格指数)、標準体重の計算式を調べておくこと。復習：肥満になる原因 (背景) と肥満の改善についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	予習：メタボリックシンドロームの診断基準について調べておくこと。復習：メタボリックシンドロームの危険因子についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	予習：サイレントキラーと呼ばれる病気について調べておくこと。復習：生活習慣病の恐ろしさについてまとめておくこと。また、“セルフメディケーション”に関する提出課題を完成させること。(標準学習時間120分)
10 回	予習：マズローの欲求階層説について調べておくこと。復習：マズローの欲求階層説についてまとめ、説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	予習：欲求と行動、欲求不満について調べておくこと。復習：適応機種の種類と問題点についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)

1 2 回	予習：自分にとっての、良いストレスと悪いストレスについてまとめておくこと。復習：ストレスとストレスについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	予習：ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について調べておくこと。復習：ストレスマネジメント法についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	予習：心と体の相互に影響し合う関係について調べておくこと。復習：さまざまなシステムの上に心が載って、生命が保たれていることが説明できるようにまとめておくこと。“知っておきたい健康分野の用語”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間120分）
1 5 回	習：心身症として起こりやすい病気について調べておくこと。復習：心身症の特徴についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 6 回	これまでの学習を整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	健康は生涯にわたる自己実現の基盤となる。健康の構成要素として「心（精神）」、「身体」、「社会との関わり」があげられ、これらは密接な関係にある。これらの基礎知識や実践力を身につけて、生涯のライフステージにおける健康の保持増進に主体的に取り組む知識や態度、能力を養う。（教養教育センターの単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する）
達成目標	1) 健康と自己実現との関わりや健康の構成要素について説明できること（知識・理解） 2) 生涯における各ライフステージの特徴とそれに応じた主体的なヘルスプロモーションについて説明できること（知識・理解） 3) 健康と私たちをとりまく環境や社会との関わりについて説明できること（知識・理解）
キーワード	スキヤモンの発達・発育曲線、健康寿命、生活習慣病、メタボリックシンドローム、マズローの欲求階層説、適応機制、メンタルヘルス（精神衛生）、心身相関、心身症
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験70%（達成目標1、2、3を評価）、提出課題30%（主に達成目標1を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	指定しない。
連絡先	研究室 B3号館5階 森 博史研究室 オフィスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は、講義の中で適宜配布する。 ・講義内容の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・課題の提出は期限を守ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックは模範解答を研究室ドアに掲示する。（掲示日時は講義の中で伝達する）
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	企業情報特論（FB203100）
英文科目名	Business Leader Lecture Series
担当教員名	河野敏行（こうのとしゆき）、前川洋子（まえかわようこ）
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。 2回目以降は、毎回、各界で活躍されている委嘱教授による講演を聴講し、それについてレポートを作成し提出する。 （全教員）
2 回	講演者：山陽放送株式会社 報道制作局報道部主査 山下晴海 タイトル：「ローカルTV局は、こんなに面白い！」 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
3 回	講演者：中田宏事務所 前衆議院議員 岡山理科大学客員教授 中田 宏 タイトル：「民間企業と行政の経営における違い」（予定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
4 回	講演者：カバヤ食品株式会社（予定） タイトル：（講義内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
5 回	講演者：（未定） タイトル：（講義内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
6 回	講演者：岡山県警察サイバー犯罪対策課 タイトル：（講義内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
7 回	講演者：岡山信用金庫 専務理事 梶原武 タイトル：（講義内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
8 回	講演者：株式会社ファンケル タイトル：（講義内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
9 回	後半の講義に向けての講義の進め方を説明する。これまで提出したレポートのフィードバックをする。 （全教員）
10 回	講演者：富士ゼロックス岡山株式会社 代表取締役社長 藤田康史 タイトル：「大転換期の企業経営と求める人材」 講演後、質疑応答をする。

	(全教員)
1 1 回	講演者：株式会社天満屋ストア タイトル：「小売業の中の百貨店」 講演後、質疑応答をする。
	(全教員)
1 2 回	講演者：山陽新聞社 代表取締役社長 松田正己 タイトル：「新聞づくりは地域づくり」(予定) 講演後、質疑応答をする
	(全教員)
1 3 回	講演者：三井住友銀行 本店営業部第6部長 太田吉昭 タイトル：(講演内容未定) 講演後、質疑応答をする。
	(全教員)
1 4 回	講演者：株式会社システムズナカシマ 代表取締役社長 中島義雄 タイトル：「ナカシマグループにおける新事業への取り組み」(予定) 講演後、質疑応答をする。
	(全教員)
1 5 回	講演者：株式会社はるやまホールディングス 監査役 佐藤晃司 タイトル：「着こなしのTP0」 講演後、質疑応答をする。
	(全教員)
1 6 回	講演者：リッキービジネスソリューション株式会社 代表取締役 岡山理科大学客員教授 澁谷耕一 タイトル：「創業経営者から学んだこと～伊藤雅俊、今泉嘉久、大竹美喜、南部靖之、孫正義、北尾吉孝～」 講演後、質疑応答をする。
	(全教員)

準備学習	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
講義目的	経済活動や企業間競争のグローバル化の急速な展開に伴い、本質的な市場ニーズを正確に把握し、それに対応した事業戦略・技術開発戦略を構築することが、企業の重要な課題になっている。本科目では、確固たる経営理念のもとに企業や産業界をリードしている卓越した経営者等に、企業活動のあるべき姿、事業・商品戦略、研究開発戦略、求められる技術者像と人材育成、企業と大学の連携や地域貢献、等について、判りやすくお話をいただく。これにより企業や社会に貢献する技術者として持つべき素養を身に付ける。 毎回の講義毎に講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。 4領域の項目では、「知識・理解」に最も強く関与している
達成目標	1) 経営理念と企業活動などを他社と比較できる。(知識・理解) 2) 戦略的経営および商品戦略・技術経営と研究開発戦略などを説明できる。(知識・理解) 3) 企業における人材育成を他社と比較できる。(知識・理解) 4) 企業にとっての地域社会との関わりと社会貢献を比較できる。(知識・理解) 5) 以上の内容を説明できる。(知識・理解) 4領域の項目では、「知識・理解」に最も強く関与している。
キーワード	経営理念、経営戦略、技術マネジメント(MOT)、産学連携
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、各講義に関するレポート提出が課せられる。14回分のレポート(100%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。各講師の方の話に沿って、到達目標の1)2)3)4)5)を評価する。

教科書	使用しない
関連科目	技術マネジメント、インターンシップ
参考書	藤末健三著 「技術経営入門」 日経BP社発行
連絡先	キャリア支援センター（25号館7階）
授業の運営方針	講義は各回ごとに講師を招いて、実施する。出席は提出されるレポートによって、カウントをするため、レポートの提出が無い場合は出席扱いとしない。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポートに対して、個別にフィードバックを行うため、キャリア支援センターに来ること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	講師のほとんどが現役の実務を行っている方で、経験を活かして講義を行う。
その他（注意・備考）	1）教室の収容人数制限により受講者数が制限されることがあります。 2）企業経営者の講義であるから、入社面接の際の注意事項と同様な態度で受講すること。 3）講義中の撮影、録音等を行うことは原則禁止する。 4）講演者は変更となることがある。 委嘱教授は、サービス関係企業経営幹部、文化芸術・産業分野有識者、食品関係企業経営幹部、服飾メーカー経営幹部、繊維・衣料メーカー経営幹部、マスコミ関係経営幹部、システム関係企業経営幹部、政治・社会分野有識者、教育界有識者、金融機関経営幹部等である。 講義を聴く態度、姿勢、適切な質疑応答などが求められる。講演者についての事前知識の収集を十分に行い、毅然とした態度で受講することが臨まれる。

科目名	科学技術と人間（FB204300）
英文科目名	Science-Technology and Human Beings
担当教員名	若村国夫＊（わかむらくにお＊）
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	はじめに： 自己紹介、 テキストの使用、 写真や図を中心とするプロジェクター利用の講義、 関心を持って講義を聴く重要性を述べる。続いて、「日本とヨーロッパでこんなに違う風土と生活」として身近な例を紹介し、風土の役割と、日欧の違いがなぜ生じたのかを考えるきっかけを提供する。
2回	「江戸時代までの技術と生活」江戸時代は日本の伝統技術の礎になっている。現代技術とどのように違うのかを紹介し、それらが作られた歴史と社会背景、特に大量生産を求めなかった江戸時代の封建制と鎖国政策との関係、それらが生活や技術・技能にどのように影響したのかを併せて紹介する。
3回	「幕末から始まった日本の技術の近代化」開国が産業革命最終期に行われた重要性、徳川幕府が大金をはたいて雇った外国人技術者による技術教育、その成果とその後の発展、明治以降の産業技術の果たした役割、特に社会と戦争への影響、戦後の民衆的技術の発展による社会の近代化などを具体的に紹介する。
4回	「中国の技術、考え方とその歴史」 中世まで中国の技術は世界の先頭を走っていた。これがヨーロッパへ伝わり、大航海時代を生み、産業革命や科学の萌芽が生じ、西洋の近代化へとつながる。どのような技術が伝わったのか。技術発祥の基になった中国の伝統的世界観と歴史、中国の技術発展の低さの理由等を紹介する。
5回	「風土から見るヨーロッパ古代から中世の技術と社会」ヨーロッパは地理的に地中海周辺と北西ヨーロッパとに分けられる。地中海を代表するギリシャ、ローマの技術の特徴、船の技術の進歩が呼んだ地中海貿易や十字軍遠征でイタリアは豊かになり、ルネッサンスを生んだ。これら中世までの西洋の歴史を技術の視点から紹介する。
6回	「科学技術の発祥と発展」15、16世紀の大航海時代をきっかけに北西ヨーロッパで花開いた科学。その原因を発明、発見の例から推測する。修道院を通じて広まった水車技術の機工的思考の発展や19世紀の技術から科学への経路を具体例で紹介する。ワットやフルトンが蒸気機関や蒸気船の発明者でないことや、ファラデーの電磁誘導の法則から発電機が生まれた訳でない事等、茶飲み話的ではあっても意味深い隠れた技術史も紹介する。ヨーロッパの人々の考える姿勢がヨーロッパの豊かさを導いたことも示す。
7回	「キリスト教の科学技術への貢献と科学が与えた自由平等の意識」キリスト教は西アジアで生まれたがその教えにはギリシャ人の考えが多く見られる。キリスト教の広まりと共に北西ヨーロッパの人々に自然現象のギリシャ的理解が浸透した。生物学では19世紀においても尚2000年前のギリシャ人の予言が信じられていた。キリスト教の自然科学、技術、芸術、自由平等社会構築へのキリスト教の貢献を紹介する。
8回	講義と中間試験 講義：「アメリカの技術の特徴」 アメリカは17世紀から本格化した移民の国である。当初、技術は無かったが、移住してきた各国からの人々の助け合い、自由平等の意識、技術への関心とレベルアップを目指す姿勢がついに19世紀末、生産量や新技術で世界のトップに躍り出た。これらの内容と発展の歴史を辿り、技術の発展に何が重要かを理解する。
9回	「こんなに違う日本とヨーロッパの技術思考 伝統水車」 日本とヨーロッパで伝統的技術がどのように違うのかを水車を例にとり概観する。水車は世界で共通に使用されてきた唯一の動力源であり、産業革命初期の立役者でもあった。中世に水車の技術を高度化した北西ヨーロッパから科学が興った。水車の技術的側面を日本とヨーロッパとで比較すると、日欧の技術思考の差異をはっきり認識できる。若村の25年に及ぶ水車の調査結果も写真と図で紹介する。
10回	「こんなに違う日本とヨーロッパの技術思考 : 船に見る日欧技術比較論」 船は世界で唯一共通に使用されてきた運搬装置である。水車と同様、中世の代表的技術であり、これを発展させた西ヨーロッパの人々は世界に活躍し、大航海時代と富の豊かさを得た。日本とヨーロッパの伝統的船にはその使用法や構造が風土や社会の影響が強く現れている。さらに船の修理装置の乾ドックにも船の特徴が反映され、日欧の大きな違いがみられる。若村の16年に渡る調査結果を含めて写真と図で分かりやすく紹介する。

1 1 回	「技術が誘発した社会の激変」産業革命はイギリスの綿工業から始まり、「鉄は国家なり」と云われた鉄鋼業の発展が続く。イギリスはこれらの先頭を走ったが、イギリス人の熔鉱炉の発明がイギリスを製鉄業の先頭から追い落とし、アメリカ、ドイツが台頭する。旧技術にしがみつくとイギリスから新技術に向かうアメリカ、ドイツが次の世代を担った。この歴史や一つの発明が世界を変えた例、アメリカ人が志した発明への評価などを紹介し、次世代の技術の発展に何が必要かを考える。
1 2 回	「技術が生んだ富の増大」 農業技術の発展は農地の拡大が富の増加につながることを教え、農産物の交易はさらなる富を生むことを教えた。交易が生産品により活発化した結果、生産増の方法や船の重要性が認識され、現代ヨーロッパ社会を彩る種々の生活用品が次々持ち込まれた。これらを紹介する。
1 3 回	「大航海時代と産業革命が生んだ経済学」 大航海時代に富を蓄えると、さらに富を増やすための交易品製造の技術に注目が集まった。富の増大は経済学を生み、産業革命では貧富の差の拡大や社会環境、社会生活スタイルの激変が生じた。これらに対して富の分配を如何にすべきかを考えた経済学者が現れた。技術の視点から、アダムスミス、シュンペータ、マルクス、マルサスなど当時の経済学者の考えを紹介し、労働と技術、経済の関係を考える。
1 4 回	「科学技術の発展と人間疎外」 産業革命による技術発展は大量生産で人々を豊かにしたが、反面、市場競争や原料の獲得競争が生じ、第一次大戦へと進んでいく。大量殺戮、単純労働、児童労働など人間にとって負の要素も増えた。人権を土台として技術の持つ負の要素と、日本とヨーロッパの技術に盛られる人権の差異を紹介する。
1 5 回	「戦争技術のイノベーションと日欧人権の差異」 戦争には各国の持つ最高レベルの技術が投入される。アルマダの戦いや第一次、第二次世界大戦に典型的に見られたが、その兵器を使用する兵士への人権の有無を日欧で比較する。この差異は現在の日常の技術製品に見られることを具体例で指摘する。
1 6 回	講義と最終評価試験 講義：「21世紀の科学技術を考える」 これまで学んだ技術の歴史、技術が社会へ果たした役割、技術の負の側面を振り返り、21世紀の技術の進む方向はどうあるべきかを考える。日本人にはなじみのない人権と技術、自然破壊する技術などを紹介し、自然科学だけでなく人文科学まで取り込んだ技術思考の必要性を考察する。

回数	準備学習
1 回	特に無し
2 回	身の周りの自然や風俗に関心を持つこと
3 回	知識度にもよるが30分ほど第2回の講義内容を復習すること
4 回	知識度にもよるが30分ほど第3回の講義内容を復習すること
5 回	知識度にもよるが30分ほど第4回の講義内容を復習すること
6 回	知識度にもよるが30分ほど第5回の講義内容を復習すること
7 回	知識度にもよるが30分ほど第6回の講義内容を復習すること
8 回	試験に対しては第7回迄の講義内容を二時間以上復習すること
9 回	知識度にもよるが30分ほど第8回の講義内容を復習すること
1 0 回	知識度にもよるが30分ほど第9回の講義内容を復習すること
1 1 回	知識度にもよるが30分ほど第10回の講義内容を復習すること
1 2 回	知識度にもよるが30分ほど第11回の講義内容を復習すること
1 3 回	知識度にもよるが30分ほど第12回の講義内容を復習すること
1 4 回	知識度にもよるが30分ほど第13回の講義内容を復習すること
1 5 回	知識度にもよるが30分ほど第14回の講義内容を復習すること
1 6 回	知識度にもよるが30分ほど第15回の講義内容を復習すること。試験に対しては9回から15回までの講義内容を二時間以上復習すること。

講義目的	科学技術は物理、化学、生物、地球等の諸分野から自然界を総合的に理解する科学を土台とし、経験技術から発展した。技術が科学のみならず社会や宗教、文化等と深く関係してきた事を学び、社会を科学技術を土台として総合的に見る判断力と思考力を養う。技術や科学、社会の歴史の知識と、科学技術が人間の関係する広い分野と強い関係にある事の知識から、社会への正と負の影響、文化の固有性との密接な関係、多様な技術アイデア創出の原因等を日中欧米の社会や風土等を通して知る。最近の環境問題や技術王国だった中国の技術史、遅れから一気に先頭に躍り出た19世紀末のアメリカの技術政策等を知り、今後の科学と技術の発展を考察する。写真と図を中心とした画像で話を印象深く進める。
達成目標	物理、科学、生物、地学などの総合的な科学や技術の視点から日本、欧米、中国の歴史を知り、客観的に社会現象をみる眼を養う。地球温暖化軽減の技術の方向や技術社会、人権と技術、技術のグローバル化の未来などを日本の伝統技術思考や産業革命前後の社会の構造変化や西洋の論理などが

	ら考察し、技術を幅広く捉えられる知識と思考を養い、21世紀の技術の進むべき方向を自ら考えられる素地を作る。科学や技術の歴史を社会、経済、政治史などと結びつけて見ることで、21世紀の技術社会の方向が見えてくる。
キーワード	日欧米中各国技術比較、伝統技術、環境、水車、船、社会、経済、封建制、民主主義、資本主義、産業革命、大英帝国、戦争、人権、技術アイデア、風土、グローバル化、発明
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業ごとの小問試験(成績の26%)と中間試験(37%)最終評価試験(成績の37%)の得点による。
教科書	科学技術と人間（科学技術の社会史）/若村国夫著/書店販売しない/
関連科目	特になし
参考書	高校の教科書「日本史」、「世界史」、世界地図
連絡先	非常勤講師控室
授業の運営方針	映像を使用した授業なのでより印象深い写真や図の使用を心掛けている。また、毎回の終わりに重要な箇所の小問で内容を確実にして、次の授業に臨む態勢作りを行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の終わりに行う小問試験の評価と内容の解説を次回の講義の最初に行い、前回の講義結果を次に生かす過程を踏んでいく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録画は認める。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・履修希望者が150名程度を越えたときには受講生数制限をかけることがある。 ・地球温暖化、自然破壊、日本の伝統技術の消滅、近隣諸国との資源争奪戦など、技術立国日本の足元を揺るがす変化が多い中、本講義では科学や技術の視点から歴史や社会を客観的にみる眼を養い、日本はどうあるべきかを考える。このことは、科学技術を学ぶ者にとって大いに必要となっている。学科の専門にとらわれず科学者、技術者、理科教員の品格を得る一助として受講を薦める。本講義は筆者の30年に渡る日欧の伝統技術の研究と最も西洋科学的な物理学的視点とを融合させ、技術と生活の結びつき、歴史や経済、人権などとの関係を加えた構成としている。身近な生活用具や風俗にも技術につながる要素が含まれていることを知る必要がある。

科目名	科学技術倫理 (FB206200)
英文科目名	Science and Engineering Ethics
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理とはどのようなものであるのかを説明する。
2 回	技術者の専門性と倫理との関係について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
3 回	安全確保に取り組む組織と個人の関係を説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
4 回	1986年にアメリカで起きたチャレンジャー事故について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
5 回	1999年に起きた東海村JCO臨界事故について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
6 回	社会が技術者に与える資格や現行の制度について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
7 回	倫理的な行動を実現するための効果的な学習方法について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
8 回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9 回	前半の授業を振り返ったうえで、後半の授業のオリエンテーションを行う。そのうえで、技術者の倫理とはどのようなものであるのかを再確認する。
10 回	技術者の活動と密接に関わる法令遵守について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
11 回	カネミ油症事件について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
12 回	技術者が社会に対して果たすべき説明責任について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
13 回	組織の不正と技術者個人のジレンマから起こる内部告発について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
14 回	環境と技術者との関係を「持続可能性」などの観点から説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
15 回	技術者と組織との間で起こる財産的権利の問題について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
16 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「倫理」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	技術者と倫理の関係について、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	技術者にとっての組織と個人の関係について、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	チャレンジャー事故とはどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	東海村JCO臨界事故とはどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	社会が技術者に与える資格にはどのようなものがあるのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	技術者が倫理的に振る舞ううえで何が最も大事であるのかについて、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9 回	技術者の倫理とはどのようなものであるのかについて、復習しておくこと。(標準学習時間 90分)
10 回	コンプライアンスとはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11 回	カネミ油症事件について、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12 回	説明責任とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準

	学習時間 90分)
1 3 回	内部告発とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
1 4 回	環境の「持続可能性」とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
1 5 回	技術者の財産的権利について、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
1 6 回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	人類の生活を豊かにし、便利にしてきた一方で、様々な問題を引き起こしている科学技術というものを、幅広い視点から理解する。そのうえで、技術者として異分野とも協働しながら倫理的に振る舞うための主体性や協調性を身に付ける。本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標とする。 技術者に関わる倫理的な問題について説明することができる。(A) 身につけた知識を、現実にかけているものだけでなく、今後も予想される科学技術上の倫理的な問題にも応用することができる。(B)
キーワード	倫理、法、組織、個人、コンプライアンス、説明責任
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：グループワークへの取り組み 評価割合60%、中間評価試験 評価割合20%、最終評価試験 評価割合20%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」と関連しています。科学技術倫理をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」を受講して下さい。
参考書	杉本泰治・高城重厚『技術者の倫理入門』(丸善出版) 北原義典『はじめての技術者倫理』(講談社)
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業の前半は、パワーポイントや映像を使用して講義を行う。 ・授業の後半は、グループワークを行う。 ・授業終了時に、各自の意見をまとめた用紙を提出してもらう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・講義の内容についての自分の意見をまとめた後で、4～6人程度のグループに分かれてディスカッションを行い、各自の意見の相互評価、自己評価を行います。 ・ディスカッションの内容については、グループの意見を集約して、代表者に発表してもらいます。
課題に対するフィードバック	・発表に対するコメントを授業内に行う。 ・提出された用紙のリアクションは、次の回の授業の冒頭で行う。 ・中間・最終評価試験の模範解答と解説は、各試験の後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	科学ボランティア実践指導 (FB208800)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしなり*), 高見寿*(たかみひさし*), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 春日二郎*(かすがじろう*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレー(くるもふばれりー)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また、本学認定資格「科学ボランティアリーダー」の詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各チームで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この講義では、地域で行われている科学教室等の講師となり、イベントの企画、準備、運営の方法を実践的に学ぶ。また、実践の前後に、イベント毎に決めた指導教員により事前・事後指導を受ける。これらのことを通じて、科学イベントを主宰し、安全かつ効果的に実施する力を身につける。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。
------	--

	(教養教育科目の到達目標Bに最も強く関与)
達成目標	1. 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。(B) 2. 自らの活動・発表の総括を記述できる。(B) 3. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(C) 4. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(D)
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業において提出するレポート20%(到達目標1、2を確認)、企画書の内容20%(到達目標1を確認)、実践活動の内容40%(到達目標1、4を確認)、事後レポート20%(到達目標2、3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと ○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
授業の運営方針	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(=初回の講義)には必ず出席すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・地域での実践は2時間以上行う(現地での準備時間等を含む)。ただし、この中で40分以上の教室形式、またはサイエンスショーの講師を行うこととする。 ・この授業は、受講者の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、プレゼンテーション、実験・実習 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、実践活動でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては、次の講義でコメントすることでフィードバックを行う。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員)、高見寿(元高等学校教員)、武田芳紀(元高等学校教員)、春日二郎(元中学校教員)、糸山嘉彦(人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター) 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FB208810)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしなり*), 高見寿*(たかみひさし*), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 春日二郎*(かすがじろう*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレー(くるもふばれりー)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また、本学認定資格「科学ボランティアリーダー」の詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各チームで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この講義では、地域で行われている科学教室等の講師となり、イベントの企画、準備、運営の方法を実践的に学ぶ。また、実践の前後に、イベント毎に決めた指導教員により事前・事後指導を受ける。 これらのことを通じて、科学イベントを主宰し、安全かつ効果的に実施する力を身につける。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。
------	--

	(教養教育科目の到達目標Bに最も強く関与)
達成目標	1. 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。(B) 2. 自らの活動・発表の総括を記述できる。(B) 3. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(C) 4. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(D)
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業において提出するレポート20%(到達目標1、2を確認)、企画書の内容20%(到達目標1を確認)、実践活動の内容40%(到達目標1、4を確認)、事後レポート20%(到達目標2、3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと ○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
授業の運営方針	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(=初回の講義)には必ず出席すること。ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板で確認すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・事前・事後指導の日時は指導教員と相談して決定する。科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・地域での実践は2時間以上行う(現地での準備時間等を含む)。ただし、この中で40分以上の教室形式、またはサイエンスショーの講師を行うこととする。 ・この授業は、受講者の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、プレゼンテーション、実験・実習 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、実践活動でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては、次の講義でコメントすることでフィードバックを行う。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員)、高見寿(元高等学校教員)、武田芳紀(元高等学校教員)、春日二郎(元中学校教員)、糸山嘉彦(人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター) 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」

科目名	人間を読みとく（文学）（FB212160）
英文科目名	Literature
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方を説明する。
2回	ヨーロッパとドイツについて概説する。
3回	「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。
4回	「エミール・ガロッティ」 近代市民悲劇の誕生について概説する。
5回	「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。
6回	「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。
7回	「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。
8回	「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、中間テストを行う。
9回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
10回	「みづうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
11回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
12回	「トーニオ・クレガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
13回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
14回	ドイツの叙情詩について概説する。
15回	後半部のまとめを行う。
16回	到達度確認テストと今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2回	ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。（標準学習時間120分）
7回	テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
8回	テキストの第六章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。 これまでの重要事項を復習して、中間テストに備えること。（標準学習時間120分）
9回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
10回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。 また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。（標準学習時間120分）
14回	テキストの第十二章に目を通しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	七章から十二章までの重要事項を復習し、テストの準備をしておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	世界（中国またはドイツ、および日本）の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 作品について、基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	各回のミニレポート、中間テスト、学修の到達度確認テスト（50%×2）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、（ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。）

参考書 連絡先	適宜指示します。
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説しつつ、実際に日本語訳の抜粋を読んでいます。講義中心になりますが、ほぼ毎回、最後に課題を与え、それを提出してもらいます。受講マナーをきちんと守ることは最低限の必要条件であり、それが守られない場合は相応の対処をします。
アクティブ・ラーニング	受講生に質問、または文章の音読の指示を行うことがあります。
課題に対するフィードバック	提出課題については、その次の時間の冒頭に教員のコメントとともに紹介することがある。中間テスト、到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明します。

科目名	生涯スポーツ (FB215900)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	田中淳* (たなかじゅん*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4回	バドミントンのゲームをおこなう。
5回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6回	1. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7回	2. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9回	バレーボールのゲームをおこなう。
10回	バレーボールのゲームをおこなう。
11回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
12回	バスケットボールのゲームをおこなう。
13回	バスケットボールのゲームをおこなう。
14回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
15回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215901)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業実施場所、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いてスポーツの意義と役割について説明する。
2 回	施設・設備の利用方法と留意事項について説明する。“体ほぐし運動”を行いながら、「体力」について説明をする。
3 回	バドミントンの歴史と特性、授業の準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、簡易ゲームをする。
4 回	バドミントンのシングルのルールを説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、シングルのゲームをする。
5 回	バドミントンのダブルスのルールを説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ダブルスのゲームをする。
6 回	選択種目 (ソフトボール、テニス) について説明する。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
7 回	バレーボールの歴史と特性、準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、基本的な練習をする。
8 回	6 人制バレーボールのルールと審判法について説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
9 回	6 人制バレーボールのチームワークについて説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、チームワークの向上を話し合いながらゲームをする。
10 回	選択種目 (フットサル、卓球) について説明する。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
11 回	バスケットボールの歴史と特性、準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、基本的な練習をする。
12 回	バスケットボールのルール、オフェンス (攻撃側) とディフェンス (守備側) について説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明する。班に分かれてウォーミングアップ (練習) 後、チームワークの向上を話し合いながらゲームをする。
14 回	選択種目 (ソフトボール、テニス、フットサル、卓球) について説明をする。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。実技テストの説明と練習をする。
15 回	実技テストを行う。講義全体のまとめをする。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：身近な生活の場にスポーツを取り入れることの意義と役割についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	予習：“体ほぐし運動”について調べておくこと。復習：“体力”の構成要素についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	予習：バドミントンの歴史と特性について調べておくこと。復習：バドミントンの基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	予習：バドミントンのシングルのルールについて調べておくこと。復習：シングルのルールとシングルゲームの楽しさをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	予習：バドミントンのダブルスのルールについて調べておくこと。復習：ダブルスのルールとダブルスゲームの楽しさをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	予習：選択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルール、特性、楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	予習：バレーボールの歴史や特性、基本技術について調べておくこと。復習：基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	予習：6 人制バレーボールのルールと審判法について調べておくこと。復習：6 人制ゲームの楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	予習：バレーボールにおけるチームワークの意味について調べておくこと。復習：ゲームでチームワークが良かったと思われる点をまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	予習：択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルール、特性、楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	予習：バスケットボールの歴史や特性、基本技術について調べておくこと。復習：バスケットボール基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)

1 2 回	予習：バスケットボールのルールについて調べておくこと。復習：バスケットボールのオフェンスとディフェンスについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
1 3 回	予習：バスケットボールにおけるチームワークについて調べておくこと。復習：ゲームでチームワークが良かったと思われる点をまとめておくこと。“生涯スポーツ”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間 60 分）
1 4 回	予習：択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルールと特性、楽しさについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
1 5 回	予習：実技テストの準備をしておくこと。復習：今後、生活の場に運動・スポーツを取り入れる習慣や能力を育てることについてまとめること。（標準学習時間 60 分）

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。 （教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与）
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること（知識・理解） 各種スポーツにおいて、チームビルディング（協同）の構築や運営（準備、審判、片づけ、安全管理）について理解し、主体的に実践できること（思考・判断） 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること（技能） 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること（関心・意欲・態度）
キーワード	生涯スポーツ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ルール、マナー、チームワーク
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	積極性（20%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）、課題（10%）により成績を評価（達成目標、を評価する。60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	健康の科学、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	指定しない。
連絡先	研究室 B 3 号館 5 階 森 博史研究室 オフィスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp
授業の運営方針	第1回目の授業は、C 1 号館 2 階（トレーニングルーム 2：柔道場）で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。 体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布してフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	岡山キャンパスと笹ヶ瀬キャンパス間の移動については、第1回目の授業で説明する。

科目名	生涯スポーツ (FB215902)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	田中淳* (たなかじゅん*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4回	バドミントンのゲームをおこなう。
5回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6回	1. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7回	2. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9回	バレーボールのゲームをおこなう。
10回	バレーボールのゲームをおこなう。
11回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
12回	バスケットボールのゲームをおこなう。
13回	バスケットボールのゲームをおこなう。
14回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
15回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215904)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6 回	1 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 0 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 1 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
1 2 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 3 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 4 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
1 5 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215907)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業実施場所、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いてスポーツの意義と役割について説明する。
2 回	施設・設備の利用方法と留意事項について説明する。“体ほぐし運動”を行いながら、「体力」について説明をする。
3 回	バドミントンの歴史と特性、授業の準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、簡易ゲームをする。
4 回	バドミントンのシングルのルールを説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、シングルのゲームをする。
5 回	バドミントンのダブルスのルールを説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ダブルスのゲームをする。
6 回	選択種目 (ソフトボール、テニス) について説明する。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
7 回	バレーボールの歴史と特性、準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、基本的な練習をする。
8 回	6 人制バレーボールのルールと審判法について説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
9 回	6 人制バレーボールのチームワークについて説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、チームワークの向上を話し合いながらゲームをする。
10 回	選択種目 (フットサル、卓球) について説明する。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
11 回	バスケットボールの歴史と特性、準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、基本的な練習をする。
12 回	バスケットボールのルール、オフェンス (攻撃側) とディフェンス (守備側) について説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明する。班に分かれてウォーミングアップ (練習) 後、チームワークの向上を話し合いながらゲームをする。
14 回	選択種目 (ソフトボール、テニス、フットサル、卓球) について説明をする。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。実技テストの説明と練習をする。
15 回	実技テストを行う。講義全体のまとめをする。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：身近な生活の場にスポーツを取り入れることの意義と役割についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	予習：“体ほぐし運動”について調べておくこと。復習：“体力”の構成要素についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	予習：バドミントンの歴史と特性について調べておくこと。復習：バドミントンの基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	予習：バドミントンのシングルのルールについて調べておくこと。復習：シングルのルールとシングルゲームの楽しさをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	予習：バドミントンのダブルスのルールについて調べておくこと。復習：ダブルスのルールとダブルスゲームの楽しさをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	予習：選択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルール、特性、楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	予習：バレーボールの歴史や特性、基本技術について調べておくこと。復習：基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	予習：6 人制バレーボールのルールと審判法について調べておくこと。復習：6 人制ゲームの楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	予習：バレーボールにおけるチームワークの意味について調べておくこと。復習：ゲームでチームワークが良かったと思われる点をまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	予習：択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルール、特性、楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	予習：バスケットボールの歴史や特性、基本技術について調べておくこと。復習：バスケットボール基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)

1 2 回	予習：バスケットボールのルールについて調べておくこと。復習：バスケットボールのオフェンスとディフェンスについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
1 3 回	予習：バスケットボールにおけるチームワークについて調べておくこと。復習：ゲームでチームワークが良かったと思われる点をまとめておくこと。“生涯スポーツ”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間 60 分）
1 4 回	予習：択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルールと特性、楽しさについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
1 5 回	予習：実技テストの準備をしておくこと。復習：今後、生活の場に運動・スポーツを取り入れる習慣や能力を育てることについてまとめること。（標準学習時間 60 分）

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。 （教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与）
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること（知識・理解） 各種スポーツにおいて、チームビルディング（協同）の構築や運営（準備、審判、片づけ、安全管理）について理解し、主体的に実践できること（思考・判断） 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること（技能） 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること（関心・意欲・態度）
キーワード	生涯スポーツ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ルール、マナー、チームワーク
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	積極性（20%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）、課題（10%）により成績を評価（達成目標、を評価する。60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	健康の科学、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	指定しない。
連絡先	研究室 B 3 号館 5 階 森 博史研究室 オフィスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp
授業の運営方針	第1回目の授業は、C 1 号館 2 階（トレーニングルーム 2：柔道場）で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。 体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布してフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	岡山キャンパスと笹ヶ瀬キャンパス間の移動については、第1回目の授業で説明する。

科目名	生涯スポーツ (FB215908)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6 回	1 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 0 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 1 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
1 2 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 3 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 4 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
1 5 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215909)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	藤井健平* (ふじいけんぺい*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4回	バドミントンのゲームをおこなう。
5回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6回	1. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7回	2. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9回	バレーボールのゲームをおこなう。
10回	バレーボールのゲームをおこなう。
11回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
12回	バスケットボールのゲームをおこなう。
13回	バスケットボールのゲームをおこなう。
14回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
15回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215911)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6 回	1 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 0 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 1 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
1 2 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 3 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 4 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
1 5 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	スポーツとフィールド科学（ボウリング）（FB216400）
英文科目名	Sports (Bowling)
担当教員名	吉村直樹＊（よしむらなおき＊）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	生涯スポーツとしてのボウリングの目的、内容、心得を理解させる。
2 回	ボウリング学習の意義と性質、基本動作タイミングを理解する。
3 回	スコア・スペアのとり方 3・6・9 理論、 スペアアングルを理解させる。
4 回	規格について、アドレス、スイング、スタンス、練習投球を理解させる。
5 回	リーグ戦、練習投球について理解させる。
6 回	リーグ戦第 1 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
7 回	リーグ戦第 2 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
8 回	リーグ戦第 3 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
9 回	リーグ戦第 4 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 0 回	リーグ戦第 5 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 1 回	リーグ戦第 6 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 2 回	リーグ戦第 7 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 3 回	リーグ戦第 8 週において投球練習、リーグ戦 2 ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
1 4 回	ゲームの成績により順位決定戦を実施し、より深くボウリングを理解する。
1 5 回	チーム戦を実施し仲間意識の必要性を確認する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し講義の内容を把握しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	ボウリングの歴史、マナー、シューズ、ボウルについて調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
3 回	スコアのつけ方を事前に調べておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	アドレス、スタンス、スイングについて事前に調べイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
5 回	前回の講義の反省点を考えておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
6 回	リーグ戦のやり方について熟知しておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
7 回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
8 回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
9 回	前回の講義の反省をしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 0 回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 1 回	今迄のアベレージスコアを出して、よりスコアを高める為の努力を考えておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 2 回	よりスコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 3 回	自分の得意、不得意が何であるかを考えておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 4 回	自己の技術を振り返りより高等な技術を目指すこと。（標準学習時間 6 0 分）
1 5 回	チーム戦での協力と、表彰式の方法を確認すること。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	より深くボウリングを理解することを目的にする。 専門的にボウリングに取り組むことから生涯スポーツの糸口になるように各自努力する。 （教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する）		
達成目標	初歩から始めて専門的にボウリングを追求することで技術力、調整力、またチームを組みお互いに協力することにより協調性を学び、体を動かすことで、身体的、精神的な健康増進を計ること。 （教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する）		
キーワード	専門の追求、技術、体力、健康、礼儀		
試験実施	実施しない		
成績評価（合格基準 60 点）	スコアのアベレージ（ 6 0 % ）	態度、姿勢、技術等（ 2 0 % ）	ボウリングの知識（ 2 0 % ）
教科書	適宜指示する		
関連科目	健康の科学 生涯スポーツ 、		
参考書	適宜指示する		
連絡先			
授業の運営方針	・ 第 1 回目の授業は C 1 号館 2 階（トレーニングルーム 2：柔道場）で行う。 ・ 6 0 名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため）		

	・場所、経費については第 1 回目に説明する。
アクティブ・ラーニング	グループによるディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第 1 回目の授業には必ず参加のこと。

科目名	伝える力（文章表現法応用編）（FB220400）
英文科目名	Technical Writing (Advanced)
担当教員名	
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	
準備学習	
講義目的	
達成目標	
キーワード	
試験実施	
成績評価（合格基準60点）	
教科書	
関連科目	
参考書	
連絡先	
授業の運営方針	
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	
合理的配慮が必要な学生への対応	
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教職のためのプレゼンテーション (FB220900)
英文科目名	Presentation Skills for the Teaching Profession
担当教員名	皿田琢司 (さらたたくじ)
対象学年	3 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。教員の職責・役割からみた資質能力とプレゼンテーション能力について理解を図る。
2 回	教員採用試験における面接と討論を主題に、出題傾向と評価の基本的観点について理解を図る。
3 回	集団面接の基本。簡単な自己紹介を例に、話し方と聴き方（視線、表情等を含む）に係る評価指標について理解を図る。
4 回	集団面接の練習（１）—自己アピールと志望動機を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
5 回	集団面接の練習（２）—時事問題を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
6 回	集団面接の練習（３）—教育理念・教育政策を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
7 回	集団面接の練習（４）—学習指導の方針・原則を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
8 回	集団面接の練習（５）—具体的場面の対応を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
9 回	討論の基本—教員の資質・能力と期待される役割を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
10 回	討論の練習（１）—最近の青少年の行動傾向を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
11 回	討論の練習（２）—「生きる力」「確かな学力」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
12 回	討論の練習（３）—「地域と学校」「人権教育」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
13 回	討論の練習（４）—キャリア教育と情報教育を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
14 回	討論の練習（５）—生徒指導状の問題事案を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
15 回	集団面接と討論の総括—教員としての継続的な研究と修養（その見直しを含む）の意義について理解の深化を図る。
16 回	最終評価試験を実施する。筆記試験と原則とするが、達成目標に鑑み、口頭試問を加味する場合もある。

回数	準備学習
1 回	受験予定の都道府県市の教員採用試験のうち、過去３年間の面接及び討論の出題内容及び様態を整理しておくこと。（標準学習時間：160分）
2 回	受験予定の都道府県市が公表している教育施策の基本方針と同自治体の求める教師像を整理しておくこと。（標準学習時間：180分）
3 回	前時までに整理した主題から３～４題を選び、それぞれ１分程度で話せるよう要点を整理しておくこと。選択した主題をもとに、生徒にとって理解しやすい話し方（視線や表情を含む）を検討し練習しておくこと。（標準学習時間：180分）
4 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を複数の角度から検討し練習しておくこと。（標準学習時間：180分）
5 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を多面的に検討し練習しておくこと。（標準学習時間：180分）
6 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
7 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
8 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
9 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
10 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
11 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：180分）

1 2 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：180分）
1 3 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：180分）
1 4 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の志向を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：180分）
1 5 回	これまでの学習全体を振り返って学習成果の精力的な活用に努めるとともに、課題の明確化と継続的克服に努めること。（標準学習時間：180分）
1 6 回	これまでに履修した教職関連科目と本科目を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間：200分。継続的に努めることが望ましい）

講義目的	将来教員をめざす者が次の各事項を理解し、口頭で明瞭に表現する技能と方法を習得することを目的とする。 1．志望動機、理想的教師像、教職の意義、担当教科の指導目標・意義・魅力 2．教員に求められる資質と実践的指導力、学校に期待される役割 3．学校現場で想定される具体的な場面における対応の基本的な方針 4．上記に関する自らの課題の明確化と努力の見通し （4領域の項目の「技能」に最も強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。中学校または高等学校教員に必要な知識を活用して口頭で表現する能力に特に関与）
達成目標	授業目的に挙げた各事項について、次のことができるようになること。 ○身に付けた学識・知見を論理的に組み立て、説得的に説明できる。 ○聴取者の理解や思考を深めることを念頭に、表情や語調等にも留意しながら話すことができる。 ○聴取者の理解に即して、表現、用語、構成等を柔軟に調整して話すことができる。 4領域の項目の「技能」に最も強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	教員採用試験、教員の資質・能力、実践的指導力、人物重視、教師力、教育観、教師像
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業各時の面接練習・提出物（50～70％程度）、最終評価試験（40～60％程度）。受講希望者が多数に上り、口頭試問を加味した抽選（注意・備考欄参照）を行う場合には、その試問の結果を約10％加算する。 上記の比率は、達成目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。
教科書	配付資料または提示資料を用いる。刊行物は必要に応じて各自が用意できるよう指示する。
関連科目	○教職関連科目のうち1～2年次開講のもの（基礎理学科生は教育学原論、教育心理学に代えてそれぞれ教育基礎論、学習・発達論）及びプレゼンテーション基礎編・応用編を良好な成績で修得していることが望ましい。 ○3年次秋学期履修の場合、教育実習事前・事後指導を同時に履修中であることが望ましい。 ○4年次春学期履修の場合、教育実習事前・事後指導の成績評価がRであることが望ましい。 ○本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。
参考書	○受験希望（勤務予定）校種の学習指導要領（最新版）。文科省ウェブサイトからダウンロードしてプリントアウトしたものでもよい。同解説については、担当予定教科のもの。 ○受験希望都道府県市の教員採用試験（主として面接・討論）で過去出題された内容（市販の参考書または各自治体の情報公開制度を利用）。
連絡先	○研究室：B2号館（旧13号館）3階東端 ○電子メール：salad@chem.ous.ac.jp（教員との連絡にはOUSメールを用いること） ○電話：086-256-9714（ダイヤルイン）
授業の運営方針	○指導計画（成績評価の配分比率を含む）は、達成目標と受講状況に照らして見直す場合がある。 ○専攻分野に関する学業と読書を励行し、それを学ぶ意義や魅力を平易に伝えられるよう日ごろから伝え方の見直しを習慣づけておくこと。 ○信頼される教員をめざそうとする強い目的意識をもって謙虚にかつ不断に学び続けること。
アクティブ・ラーニング	○第3講以降は、いわゆるアクティブラーニングを基本とする。 ○口頭による表現：中学校または高等学校の生徒を主な対象として、所定の学習目標に沿って話す。 ○相互評価：各回の授業開始時に、前時の振り返りについて互いに学びの支援を試みる。教員採用試験を想定して模擬的な面接・討論・集団活動を行い、互いの取り組みについて批評し合う。 ○グループ別学習：相互評価を通して得られた成果や課題について話し合い、必要に応じて発表し、共有すること等を通して学びを深める。
課題に対するフィードバック	○授業で課された提出物には、受講者間の相互評価を経て、個別に添削することを原則とする。受講者全員に概ね共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
合理的配慮が必要な学	○本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相

生への対応	談すること。 ○ 障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	○ 授業時間外の連絡手段として、OUSメールを送受信できるようにしておくこと。 ○ 概ね30名以内の少人数指導とする。受講希望者が多数に上る場合には、第1回授業出席者のうち面接または討論が特に重視される都道府県市教員採用試験を受験する者を優先する。それでも超過する場合には、口頭試問を加味した選考を行う。 ○ C 1 号館（旧25号館）7 階掲示板を授業日には必ず確認すること。

科目名	科学ボランティア活動 (FB302100)
英文科目名	Science Educational Volunteer Activities
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 衣笠哲也 (きぬがさてつや), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 武田芳紀* (たけだよしのり*), 高見寿* (たかみひさし*), 重松利信 (しげまつとしのぶ), 糸山嘉彦* (いとやまよしひこ*), 春日二郎* (かすがじろう*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 猪口雅彦 (いのぐちまさひこ), 山口一裕 (やまぐちかずひろ), 米田稔 (よねだみのる), クルモフバレリー (くるもふばれりー), 菅野幸夫 (かんのさちお)
対象学年	3 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	科学ボランティア活動の進め方および成果発表会について説明する。科学ボランティアリーダー資格認定について説明する。 (高原 周一)
2 回	地域で24時間以上の科学ボランティア活動を行う。この中で少なくとも1回は、科学ボランティア実践指導 および で扱ったテーマ以外で、科学教室 (サイエンスショーも含む) の講師もしくはブース出展責任者を務めること。 (高原 周一)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティア活動証明書、活動報告書、科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を提出する。成果発表会の発表内容を調整するとともに、発表準備を行う。企画書およびプレゼンテーション用資料を作成する。 (高原 周一)
15 回	成果発表会を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、本学の「科学ボランティアリーダー養成事業」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	参加する科学ボランティア活動の事前申請および準備を行うこと。活動参加後に所定の様式で報告書を作成し、速やかに所定の窓口まで提出すること。(標準学習時間各回90分)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を作成すること。これまでの科学ボランティア活動について総括し、振り返りレポートを作成すること。発表会での発表内容について考えておくこと。(標準学習時間90分)
15 回	企画書を作成すること。成果発表会の準備を行うこと。成果発表会で行う実験・工作等については、必ず事前に予行演習をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	地域で開催される科学イベントや科学実験教室にボランティアとして参加する。また、少なくとも1回は、40分以上の科学教室（サイエンスショーも含む）の講師もしくはブース出展責任者を務める。これらを通じて、受講生自身が、科学・技術全般に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うためのスキルを向上させるとともに、科学ボランティアリーダーとして社会貢献を続ける意欲を育むことを目的とする。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。最後に、これまでの科学ボランティア活動のまとめとして成果発表会を行い、これらの目標が達成されていることを判定する。 （教養教育科目の到達目標Cに最も強く関与）
達成目標	1. 科学ボランティア活動に24時間を超えて積極的に参加している。（C） 2. 科学教室の講師もしくはブース出展責任者として科学ボランティア活動をリーダーとして牽引できる。（B, C, D） 3. 科学ボランティア活動について振り返りを行い、活動の中で培った力を自己評価し、それを今後どう生かしていくか説明できる。（B, C, D） 4. 成果発表会で科学ボランティア活動の様子を再現し、教材をわかりやすく紹介できる。（B, C, D）
キーワード	地域貢献 科学イベント 科学実験教室 成果発表会 科学ボランティアリーダー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	本学および地域で行った科学ボランティア活動の活動時間・件数20%（到達目標1を確認）、活動報告書20%（到達目標2, 3を確認）、振り返りレポート10%（到達目標3を確認）、成果発表会の企画書10%（到達目標2を確認）、成果発表会の発表内容40%（到達目標2～4を確認）により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
授業の運営方針	・ 成果発表会までに科学ボランティア活動の活動時間数が24時間に達する見込みのある学生が履修すること。 ・ 科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導 の単位を修得済か履修中であることが望ましい。 ・ 科学ボランティア活動部分（2～13回目）については1年次から活動を認める。ただし、科学ボランティア活動の説明会（科学・工作ボランティア入門の講義の1回目）に参加するか科学ボランティアセンターでの講習を受けた後に活動すること。 ・ 受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（日時・場所は教務の掲示板に張り出す）に必ず出席すること。 ・ 講義資料は講義中に配布する。 ・ 講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実験・実習 科学ボランティア活動における実習、成果発表会での発表によりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	レポートおよび成果発表会についてのフィードバックは成果発表会の場で行われる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功（元中学校教員）、森田明義（元小学校教員）、高見寿（元高等学校教員）、武田芳紀（元高等学校教員）、春日二郎（元中学校教員）、糸山嘉彦（人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター） 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他（注意・備考）	・ 本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（ http://ridai-svc.org/ ）に説明がある。 ・ この科目の成果発表会は科学ボランティアリーダー資格認定の最終試験を兼ねる。 ・ 「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」

科目名	日本国憲法 (FV25B110)
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	憲法の基本について学修する。まず，そもそも憲法とはいかなる法なのか，憲法は何のために存在するのかについて学修する。そのうえで，立憲主義を支える思想である法の支配について学修する。そして，現在の憲法がどのようにして成立したのかについて学修する。
2 回	国民主権原理と天皇制について学修する。日本国憲法の基本原理の1つである国民主権とは何かを学修する。そして，その国民主権のもとでの天皇制のあり方について学修する。
3 回	人権の意味と限界について学修する。まず，人権とは何か，人権はどのように分類されるのかについて学修する。そして，人権の限界について学修する。
4 回	法の下での平等について学修する。まず，法の下での平等の意味について学修する。そのうえで，判例を題材として，合理的別扱いと不合理な差別との違いについて学修する。
5 回	精神的自由権のうち，内心における精神活動の自由について学修する。思想・良心の自由，信教の自由，学問の自由の具体的な内容とその限界について学修する。
6 回	精神的自由権のうち，外部的な精神活動である表現の自由の意味および内容について学修する。表現の自由を保障する価値や，表現の自由の具体的内容について学修する。
7 回	精神的自由権のうち，外部的な精神活動である表現の自由の限界および集会・結社の自由，通信の秘密について学修する。表現の自由を制限する法律の違憲審査基準について学修する。そして，集会・結社の自由および通信の秘密の内容および限界について学修する。
8 回	経済的自由権について学修する。職業選択の自由，居住・移転の自由，財産権の具体的内容および限界について学修する。
9 回	人身の自由について学修する。基本となる適正手続の保障，被疑者の権利および被告人の権利の具体的内容について学修する。
1 0 回	国務請求権および参政権について学修する。国務請求権に含まれる具体的な権利の内容，選挙権の法的性格，選挙の原則について学修する。
1 1 回	社会権について学修する。基本となる生存権の法的性格，教育を受ける権利および労働基本権の内容について学修する。
1 2 回	新しい人権について学修する。プライバシー権のように憲法に明記されていない権利が保障されるのかについて学修する。
1 3 回	人権享有主体性について学修する。法人や外国人にも人権が保障されるのかについて学修する。
1 4 回	特別な法律関係について学修する。刑事施設収容者や公務員など，一般の国民とは異なる人権制約を受ける者について，そうした特別の制約を受ける根拠や制約の具体的内容について学修する。
1 5 回	人権規定の私人間効力について学修する。人権規定が，会社と従業員というような私人間においても効力を有するかどうかについて学修する。

回数	準備学習
----	------

1 回	予習として、芦部『憲法』の第1章および第2章（3-34頁）を読み、キーワードとその意味についてまとめること。（90分） 復習として、憲法の基本に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
2 回	予習として、芦部『憲法』の第3章および第4章（35-53頁）を読み、キーワードとその意味についてまとめること。（90分） 普及として、国民主権原理および天皇制に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
3 回	予習として、芦部『憲法』の第5章一～三（75-87頁）を読み、キーワードとその意味をまとめること。また、芦部『憲法』第6章一（98-106頁）を読み、公共の福祉の意味に関する学説の内容をまとめること。（90分） 復習として、人権の意味と限界に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
4 回	予習として、芦部『憲法』第7章二（127-148頁）を読み、法の下の平等の意味についてまとめること。また、そこに掲載されている各判例において、何が問題となったのかをまとめること。（90分） 復習として、法の下の平等に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
5 回	予習として、芦部『憲法』第8章（149-174頁）を読み、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由の具体的内容についてまとめること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめること。（90分） 復習として、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
6 回	予習として、芦部『憲法』第9章一および二（175-193頁）を読み、キーワードとその意味をまとめること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめること。（90分） 復習として、表現の自由の意味および内容に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
7 回	予習として、芦部『憲法』第9章三（193-213頁）を読み、各違憲審査基準の内容をまとめること。また、そこに掲載されている判例において、何が問題となったのかをまとめること。さらに、芦部『憲法』第9章四（213-223頁）を読み、キーワードとその意味をまとめること。（90分） 復習として、表現の自由の限界および集会・結社の自由に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
8 回	予習として、芦部『憲法』第10章（224-241頁）を読み、職業選択の自由の規制の合憲性の判定基準、居住・移転の自由の具体的内容、財産権保障の意味、財産権保障の意味、財産権の制限と補償の要否についてまとめること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめること。（90分） 復習として、経済的自由権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
9 回	予習として、芦部『憲法』第11章（242-255頁）を読み、適正手続の保障の内容、被疑者および被告人の具体的な権利の意味についてまとめること。（90分） 復習として、人身の自由に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
10 回	予習として、芦部『憲法』第12章（256-266頁）を読み、国務請求権に含まれる具体的な権利の意味についてまとめること。また、選挙の各原則の意味についてまとめること。（90分） 復習として、国務請求権および参政権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
11 回	予習として、芦部『憲法』第13章（267-283頁）を読み、生存権の法的性格、学習権の意味、教育権の所在に関する学説、労働基本権の具体的内容および法的性格についてまとめること。また、朝日訴訟、旭川学テ事件において、何が問題となったのかをまとめること。（90分） 復習として、社会権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
12 回	予習として、芦部『憲法』第7章一（119-127頁）を読み、キーワードとその意味をまとめること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめること。（90分） 復習として、新しい人権に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
13 回	予習として、芦部『憲法』第5章四（87-97頁）を読み、法人および外国人に対して、保障される人権、逆に、保障されない人権をまとめること。また、そこに掲載されている各判例について、

	何が問題となったのかをまとめてくること。(90分) 復習として、人権享有主体性に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
14回	予習として、芦部『憲法』第6章二(106-110頁)および第13章三3-4(278-283頁)を読み、公務員および刑事施設収容者がどのような人権について特別な制約を受けるのかをまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめてくること。 復習として、特別な法律関係における人権に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
15回	予習として、芦部『憲法』第6章三(110-118頁)を読み、人権規定の私人間効力に関する学説をまとめてくること。また、そこに掲載されている各判例について、何が問題となったのかをまとめてくること。(90分) 復習として、人権規定の私人間効力に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	憲法は、その国のあり方を示し、また国家と国民の関係を規律する国家の基本法であり、最高法規。それでは日本国憲法は、いかなる理念と根本原理に基づいて成立しているのだろうか。またいかなる基本的人権が保障されており、それらの制限・侵害が問題とされた場合、どのように救済されるのだろうか。このような日本国憲法に関する基本的事項を習得しておくことはある意味、この国で生活する者にとっての責務であるともいえるのである。この講義では具体的事件に関わる判例を適宜取り上げ、主に基本的人権と違憲審査制に焦点を当てて、日本国憲法の法理を考察する教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 憲法の目的について説明できるようになること。 ○ 人権とは何かについて説明できるようになること。 ○ 人権の限界について説明できるようになること。 ○ 具体的人権の保障内容について説明できるようになること。 ○ 違憲審査制について説明できるようになること。 ○ 人権制約の可否について判例を踏まえて説明できるようになること。
キーワード	憲法、国民主権、人権
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業時間中に実施する試験(20点満点)と授業時間外に作成して提出するレポート(80点満点)により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	憲法(第6版)/芦部信喜/岩波書店/978-4000227995
関連科目	法学に関する基礎知識については法学Aで学修するので、法学を初めて学ぶ学生は法学Aを同時に履修することが望ましい。また、この授業では憲法の人権問題を扱うので、憲法の統治に関する問題について学修したい学生は、法学Aを履修すること。
参考書	憲法判例百選(第6版)/長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿(編)/有斐閣/978-4641115170: 憲法判例百選(第6版)/長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿(編)/有斐閣/978-4641115187: 憲法(第5版)/野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利/有斐閣/978-4641131187
連絡先	研究室: 獣医学教育病院4階423研究室 オフィスアワー: 火曜2限 メールアドレス: t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号: 0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習

ゲ	毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	生涯スポーツ (FV25P110)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	高橋正行* (たかはしまさゆき*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目・目的・受講の心得、施設・設備の利用方法と留意事項について説明する。)
2回	バドミントンの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
3回	バドミントンのシングルのルール説明を行った後、班に分かれてゲームをする。
4回	バドミントンのダブルスのルール説明を行った後、班に分かれてゲームをする。
5回	バレーボールの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
6回	バレーボールのルール説明を行った後、基本練習をする。
7回	バレーボールの基本練習を行った後、班に分かれてゲームをする。
8回	アーチェリーの用具の準備と片付けの仕方、安全面の説明を行った後、基本技術の練習をする。
9回	アーチェリーのルール説明を行った後、基本技術の練習をする。
10回	アーチェリーの基本練習の後記録をとる。
11回	アーチェリーの基本練習の後記録をとる。
12回	ゴルフの用具の準備と片付けの仕方の説明を行った後、基本技術の練習をする。
13回	ゴルフのルール、エチケット、マナーの説明を行った後、基本技術の練習をする。
14回	ゴルフコースの説明とラウンドのルール、マナーについて確認の後、技術練習をする。
15回	ゴルフコースを回ってスコアをつける。 講義全体の振り返りとまとめ

回数	準備学習
1回	規則正しい生活 (十分な睡眠と食事の摂取) を心がけ、体調を整えて授業に参加すること。
2回	サービス、クリア、ドロップ、スマッシュなどの基本的なことについて理解しておくこと。
3回	個人技術を高めるとともにシングルの試合方法を理解しておくこと。
4回	個人技術を高めるとともにダブルスの試合方法を理解しておくこと。
5回	パス、サーブの基本的な種類を理解しておくこと。
6回	6人制のルールを理解しておくこと。
7回	基本技術とコミュニケーションを生かした展開を心がけること。
8回	アーチェリーについて道具や競技を理解してくること。
9回	個人技術を高めるために、基本を復習してくること。
10回	基射形を相互にアドバイスできるようポイントを復習してくること。
11回	高得点が出るよう学んだことを復習しておくこと。
12回	ゴルフ用具 (クラブ) やゴルフ用語を理解しておくこと。
13回	特にエチケット、マナーについては十分理解しておくこと。
14回	安全面、ルール、マナーについて復習しておくこと。
15回	グループで注意すべき事やルールを理解しておくこと。

講義目的	人生の各ライフステージにおいて、それぞれの立場や技術に応じたスポーツ活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努めることのできる態度や能力を養う。内容として、スポーツ文化を通じて異文化理解を深める 各種目のルールを理解し、ゲームの進行や運営に協同して主体的に関わる スポーツ傷害の予防と基礎的なメディカルチェックの実践 スポーツの楽しみ方 (スポーツ実践、スポーツ支援、観戦、スポーツ情報の獲得) を行う。 (単位認定の方針Dに強く関与する)
達成目標	健康的な生活を送るために、スポーツを実践することによって健康・体力の保持増進を図るための方法を学習する。 1. スポーツ活動に積極的に参加し、生涯にわたってスポーツを楽しむ基礎知識を習得する。 2. スポーツを実践することによって、ルール・エチケット・マナー等を習得する。 3. 各スポーツに必要な運動技能の習得に努めることができる。 4. 仲間とコミュニケーションを図り、班内における役割を果たすことができる。
キーワード	球技、対人競技、個人競技、体力、健康、コミュニケーション
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	実習に取り組む姿勢や実技能力など50%、実習期間中に記入する授業記録50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。プリント等を配布する。
関連科目	健康の科学
参考書	適宜紹介する。

連絡先	授業終了後に実施場所で質問を受け付ける。
授業の運営方針	健康な学生生活と生涯スポーツにつながる授業を展開する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	活動状況や技術習得と各種目の修了ごとにレポートを提出し評価とする。。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	諸般の事情（天候や施設など）により各回の授業内容が変更になる場合がある。

科目名	日本国憲法【月3木3】（FB201706）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもと はる）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・内容・注意事項について説明する。その後、最近の憲法に関する話題について提供し、憲法を学ぶ意義や目的について考えてもらう。
2 回	この授業の対象である「憲法とは何か」について、特に法律との違いとの関連において講義をする。〔内容〕法とは何か、法の役割と種類、憲法と法律との違い
3 回	日本国憲法に特有の性質である「日本国憲法の特質」についての講義をする。〔内容〕個人の尊重、公共の福祉、民主主義、権力分立、最高法規性
4 回	日本国憲法の中心的部分ともいえるべき人権保障について、まずその対象となる人権の意義・性質についての「人権総論」の講義をする。〔内容〕（基本的）人権とは何か、人権の性質
5 回	日本国憲法に定められている「人権の種類」について、7つのグループに分類し、それぞれについて概要を説明する。〔内容〕自由権、社会権、参政権、受益権、包括的基本権、平和的生存権
6 回	日本国憲法の保障する人権は誰に対して認められるのかという「人権の享有主体の問題」について、判例を交えて説明する。〔内容〕法人・外国人の人権、公務員・受刑者の人権
7 回	条文のうえでは14条の1カ条だけであるが、非常に重要な人権である「法の下での平等（平等権）」について、最高裁判例も交えて講義をする。〔内容〕平等の意味、最高裁判例の判断基準、議員定数不均衡（一票の格差）問題
8 回	精神的自由権の中でも特に重要な「表現の自由」について講義を行う。〔内容〕表現の自由の内容、知る権利、二重の基準の理論
9 回	日本国憲法で10カ条近くも使って保障されているにもかかわらず、一般にはなかなか理解されにくい「人身の自由（刑事手続上の諸権利）」についての講義を行う。〔内容〕国家刑罰権の正当性、適正手続の原則と無罪推定の原則、黙秘権・弁護人依頼権など。
10 回	今回から憲法の統治機構の部分に移り、まず三権のうちの立法権を担う「国会」についての講義をする。〔内容〕代表民主制、国会の地位、二院制、衆議院の優越、議員特権
11 回	三権のうち行政権を担う「内閣」についての講義を行う。〔内容〕行政権と内閣、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能と責任
12 回	残りの三権のうち司法権を担う「裁判所」についての講義を行う。〔内容〕司法権およびその限界、司法権の独立、裁判所の組織と権能
13 回	裁判所の持つ最も重要な役割である「違憲審査制」についての講義を行う。〔内容〕裁判所と違憲審査権、違憲審査の方法（付随的違憲審査制）
14 回	「天皇」および「平和主義」についての講義をする。〔内容〕天皇の地位と法的性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
15 回	「憲法改正」についての講義をする。〔内容〕改正の手続、国民投票、改正の限界、憲法改正案の検討
16 回	最終評価試験を行い、その後、試験問題およびレポート課題の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容等を確認し、なぜあなたはこの授業を履修し何を学ぶのか、その目的や意義について考えておくこと。履修希望者は必ずこの初回の授業に参加すること。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容を踏まえて、今一度あなたが憲法を学ぶことの意義や目的について考えておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	前回の授業内容である憲法とはどのような法であるかについて、特に法律との違いについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	前回の授業内容である日本国憲法の特質について、特に公共の福祉の意味について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回の授業内容である人権の意義・性質について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回の授業内容である人権の種類について、7つのグループを正しく理解し、どの人権の条文がどのグループに含まれるのかについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。
7 回	前回の授業内容である人権の享有主体の問題について、それぞれの場合の最高裁判例の考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）

	時間120分)
8 回	前回の授業内容である法の下での平等について、授業で扱った3つの最高裁の違憲判決・決定について、それぞれどうして憲法違反とされたのか、最高裁判例の考え方を復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の授業内容である表現の自由について、それを制約する場合の二重の基準の理論について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	前回の授業内容である人身の自由について、なぜ憲法は10カ条近くも使ってこれを保障しているのか、また基本原則である適正手続原則・無罪推定原則という考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	前回の授業内容である国会について、「唯一の」立法機関の意味、二院制が採られていることの意味、衆議院の優越などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	前回の授業内容である内閣について、議院内閣制の意味と関連条文、内閣の構成員や総理大臣の権限などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	前回の授業内容である裁判所について、司法権(とその独立)の意義、限界、裁判所の組織などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業内容である違憲審査制について、憲法81条の理解の仕方、違憲審査の方法などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	前回の授業内容である天皇および平和主義について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16 回	2回～15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。間違いやすい用語(漢字も含む)なども確認しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	大学で「日本国憲法」を学ぶという、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持つかもしれない。しかし、よく考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国や社会の中で生活しているのである。ということは、自分たちが生活している国や社会がどのようなルールや仕組みになっているのかを知り、また今後どうあるべきかなのかを考えるということは、主権者である私たち国民にとって必要不可欠なことだと言える。この授業では、そのような私たちが現在生活している日本という国・社会の基本法であり、またこの国の最高法規である日本国憲法についての基本的な知識や考え方について、具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一種に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 六法を使って、関連する憲法やその他の法令の条文が検索できる。(知識・理解)(2) 日本国憲法に関する基本的な知識(重要判例も含む)や考え方を習得し、正しく説明することができる。(知識・理解)(3) 具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できる。(知識・理解、思考・判断・表現)4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	日本国憲法、立憲主義的憲法、最高法規、個人の尊重、(基本的)人権、三権分立、違憲審査権、そのほか授業内容欄に記載の用語参照
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業内小テスト計3回:評価割合各10%計30%(達成目標(1)～(2)を確認)、憲法条文プリント(5回目の授業までに提出):評価割合10%(達成目標(1)を確認)、課題レポート:評価割合10%(達成目標(3)を確認)、最終評価試験:評価割合50%(達成目標(1)～(2)を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版/宇賀克也・佐伯仁志(編集代表)/有斐閣/ISBN 978-4-641-00919-6(書き込み等が無いものであれば同六法の30年版でも可)
関連科目	法学A・法学B
参考書	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと)
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。(2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明する。(3) 憲法条文プリント(これについても初回の授業時に説明する)は、5回目の授業の回収時まで提出すること。(4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。(5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引き以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしない(ただし、事前に分かっている場合には相談に応じる)。(6) 小テスト・最終試験・レポート等の授業科

	目名・教員名が正しく書けていないものについては評価対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	授業内容によっては授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行うこともある。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう（再提出までしてはじめて成績評価に加える）。最終試験およびレポートについては最終試験後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（１）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず２回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。（２）教職希望者は教育実習期間中にこの授業を同時に受講しないこと。（３）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている事件や裁判などに関心を持つように努めること。

科目名	日本国憲法【火4金4】（FB201707）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもとはる）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・内容・注意事項について説明する。その後、最近の憲法に関する話題について提供し、憲法を学ぶ意義や目的について考えてもらう。
2 回	この授業の対象である「憲法とは何か」について、特に法律との違いとの関連において講義をする。〔内容〕法とは何か、法の役割と種類、憲法と法律との違い
3 回	日本国憲法に特有の性質である「日本国憲法の特質」についての講義をする。〔内容〕個人の尊重、公共の福祉、民主主義、権力分立、最高法規性
4 回	日本国憲法の中心的部分ともいえるべき人権保障について、まずその対象となる人権の意義・性質についての「人権総論」の講義をする。〔内容〕（基本的）人権とは何か、人権の性質
5 回	日本国憲法に定められている「人権の種類」について、7つのグループに分類し、それぞれについて概要を説明する。〔内容〕自由権、社会権、参政権、受益権、包括的基本権、平和的生存権
6 回	日本国憲法の保障する人権は誰に対して認められるのかという「人権の享有主体の問題」について、判例を交えて説明する。〔内容〕法人・外国人の人権、公務員・受刑者の人権
7 回	条文のうえでは14条の1カ条だけであるが、非常に重要な人権である「法の下での平等（平等権）」について、最高裁判例も交えて講義をする。〔内容〕平等の意味、最高裁判例の判断基準、議員定数不均衡（一票の格差）問題
8 回	精神的自由権の中でも特に重要な「表現の自由」について講義を行う。〔内容〕表現の自由の内容、知る権利、二重の基準の理論
9 回	日本国憲法で10カ条近くも使って保障されているにもかかわらず、一般にはなかなか理解されにくい「人身の自由（刑事手続上の諸権利）」についての講義を行う。〔内容〕国家刑罰権の正当性、適正手続の原則と無罪推定の原則、黙秘権・弁護人依頼権など。
10 回	今回から憲法の統治機構の部分に移り、まず三権のうちの立法権を担う「国会」についての講義をする。〔内容〕代表民主制、国会の地位、二院制、衆議院の優越、議員特権
11 回	三権のうち行政権を担う「内閣」についての講義を行う。〔内容〕行政権と内閣、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能と責任
12 回	残りの三権のうち司法権を担う「裁判所」についての講義を行う。〔内容〕司法権およびその限界、司法権の独立、裁判所の組織と権能
13 回	裁判所の持つ最も重要な役割である「違憲審査制」についての講義を行う。〔内容〕裁判所と違憲審査権、違憲審査の方法（付随的違憲審査制）
14 回	「天皇」および「平和主義」についての講義をする。〔内容〕天皇の地位と法的性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
15 回	「憲法改正」についての講義をする。〔内容〕改正の手続、国民投票、改正の限界、憲法改正案の検討
16 回	最終評価試験を行い、その後、試験問題およびレポート課題の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容等を確認し、なぜあなたはこの授業を履修し何を学ぶのか、その目的や意義について考えておくこと。履修希望者は必ずこの初回の授業に参加すること。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容を踏まえて、今一度あなたが憲法を学ぶことの意義や目的について考えておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	前回の授業内容である憲法とはどのような法であるかについて、特に法律との違いについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	前回の授業内容である日本国憲法の特質について、特に公共の福祉の意味について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回の授業内容である人権の意義・性質について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回の授業内容である人権の種類について、7つのグループを正しく理解し、どの人権の条文がどのグループに含まれるのかについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。
7 回	前回の授業内容である人権の享有主体の問題について、それぞれの場合の最高裁判例の考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）

	時間120分)
8 回	前回の授業内容である法の下での平等について、授業で扱った3つの最高裁の違憲判決・決定について、それぞれどうして憲法違反とされたのか、最高裁判例の考え方を復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の授業内容である表現の自由について、それを制約する場合の二重の基準の理論について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	前回の授業内容である人身の自由について、なぜ憲法は10カ条近くも使ってこれを保障しているのか、また基本原則である適正手続原則・無罪推定原則という考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	前回の授業内容である国会について、「唯一の」立法機関の意味、二院制が採られていることの意味、衆議院の優越などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	前回の授業内容である内閣について、議院内閣制の意味と関連条文、内閣の構成員や総理大臣の権限などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	前回の授業内容である裁判所について、司法権(とその独立)の意義、限界、裁判所の組織などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業内容である違憲審査制について、憲法81条の理解の仕方、違憲審査の方法などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	前回の授業内容である天皇および平和主義について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16 回	2回～15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。間違いやすい用語(漢字も含む)なども確認しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	大学で「日本国憲法」を学ぶというと、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持つかもしれない。しかし、よく考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国や社会の中で生活しているのである。ということは、自分たちが生活している国や社会がどのようなルールや仕組みになっているのかを知り、また今後どうあるべきかなのかを考えるということは、主権者である私たち国民にとって必要不可欠なことだと言える。この授業では、そのような私たちが現在生活している日本という国・社会の基本法であり、またこの国の最高法規である日本国憲法についての基本的な知識や考え方について、具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一種に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 六法を使って、関連する憲法やその他の法令の条文が検索できる。(知識・理解)(2) 日本国憲法に関する基本的な知識(重要判例も含む)や考え方を習得し、正しく説明することができる。(知識・理解)(3) 具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できる。(知識・理解、思考・判断・表現)4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	日本国憲法、立憲主義的憲法、最高法規、個人の尊重、(基本的)人権、三権分立、違憲審査権、そのほか授業内容欄に記載の用語参照
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業内小テスト計3回:評価割合各10%計30%(達成目標(1)～(2)を確認)、憲法条文プリント(5回目の授業までに提出):評価割合10%(達成目標(1)を確認)、課題レポート:評価割合10%(達成目標(3)を確認)、最終評価試験:評価割合50%(達成目標(1)～(2)を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版/宇賀克也・佐伯仁志(編集代表)/有斐閣/ISBN 978-4-641-00919-6(書き込み等が無いものであれば同六法の30年版でも可)
関連科目	法学A・法学B
参考書	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと)
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。(2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明する。(3) 憲法条文プリント(これについても初回の授業時に説明する)は、5回目の授業の回収時まで提出すること。(4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。(5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引き以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしない(ただし、事前に分かっている場合には相談に応じる)。(6) 小テスト・最終試験・レポート等の授業科

	目名・教員名が正しく書けていないものについては評価対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	授業内容によっては授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行うこともある。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう（再提出までしてはじめて成績評価に加える）。最終試験およびレポートについては最終試験後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（１）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず２回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。（２）教職希望者は教育実習期間中にこの授業を同時に受講しないこと。（３）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている事件や裁判などに関心を持つように努めること。

科目名	日本国憲法【火2金2】（FB201708）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもとはる）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・内容・注意事項について説明する。その後、最近の憲法に関する話題について提供し、憲法を学ぶ意義や目的について考えてもらう。
2 回	この授業の対象である「憲法とは何か」について、特に法律との違いとの関連において講義をする。〔内容〕法とは何か、法の役割と種類、憲法と法律との違い
3 回	日本国憲法に特有の性質である「日本国憲法の特質」についての講義をする。〔内容〕個人の尊重、公共の福祉、民主主義、権力分立、最高法規性
4 回	日本国憲法の中心的部分ともいえるべき人権保障について、まずその対象となる人権の意義・性質についての「人権総論」の講義をする。〔内容〕（基本的）人権とは何か、人権の性質
5 回	日本国憲法に定められている「人権の種類」について、7つのグループに分類し、それぞれについて概要を説明する。〔内容〕自由権、社会権、参政権、受益権、包括的基本権、平和的生存権
6 回	日本国憲法の保障する人権は誰に対して認められるのかという「人権の享有主体の問題」について、判例を交えて説明する。〔内容〕法人・外国人の人権、公務員・受刑者の人権
7 回	条文のうえでは14条の1カ条だけであるが、非常に重要な人権である「法の下での平等（平等権）」について、最高裁判例も交えて講義をする。〔内容〕平等の意味、最高裁判例の判断基準、議員定数不均衡（一票の格差）問題
8 回	精神的自由権の中でも特に重要な「表現の自由」について講義を行う。〔内容〕表現の自由の内容、知る権利、二重の基準の理論
9 回	日本国憲法で10カ条近くも使って保障されているにもかかわらず、一般にはなかなか理解されにくい「人身の自由（刑事手続上の諸権利）」についての講義を行う。〔内容〕国家刑罰権の正当性、適正手続の原則と無罪推定の原則、黙秘権・弁護人依頼権など。
10 回	今回から憲法の統治機構の部分に移り、まず三権のうちの立法権を担う「国会」についての講義をする。〔内容〕代表民主制、国会の地位、二院制、衆議院の優越、議員特権
11 回	三権のうち行政権を担う「内閣」についての講義を行う。〔内容〕行政権と内閣、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能と責任
12 回	残りの三権のうち司法権を担う「裁判所」についての講義を行う。〔内容〕司法権およびその限界、司法権の独立、裁判所の組織と権能
13 回	裁判所の持つ最も重要な役割である「違憲審査制」についての講義を行う。〔内容〕裁判所と違憲審査権、違憲審査の方法（付随的違憲審査制）
14 回	「天皇」および「平和主義」についての講義をする。〔内容〕天皇の地位と法的性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
15 回	「憲法改正」についての講義をする。〔内容〕改正の手続、国民投票、改正の限界、憲法改正案の検討
16 回	最終評価試験を行い、その後、試験問題およびレポート課題の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容等を確認し、なぜあなたはこの授業を履修し何を学ぶのか、その目的や意義について考えておくこと。履修希望者は必ずこの初回の授業に参加すること。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容を踏まえて、今一度あなたが憲法を学ぶことの意義や目的について考えておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	前回の授業内容である憲法とはどのような法であるかについて、特に法律との違いについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	前回の授業内容である日本国憲法の特質について、特に公共の福祉の意味について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回の授業内容である人権の意義・性質について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回の授業内容である人権の種類について、7つのグループを正しく理解し、どの人権の条文がどのグループに含まれるのかについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。
7 回	前回の授業内容である人権の享有主体の問題について、それぞれの場合の最高裁判例の考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）

	時間120分)
8 回	前回の授業内容である法の下での平等について、授業で扱った3つの最高裁の違憲判決・決定について、それぞれどうして憲法違反とされたのか、最高裁判例の考え方を復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の授業内容である表現の自由について、それを制約する場合の二重の基準の理論について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	前回の授業内容である人身の自由について、なぜ憲法は10カ条近くも使ってこれを保障しているのか、また基本原則である適正手続原則・無罪推定原則という考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	前回の授業内容である国会について、「唯一の」立法機関の意味、二院制が採られていることの意味、衆議院の優越などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	前回の授業内容である内閣について、議院内閣制の意味と関連条文、内閣の構成員や総理大臣の権限などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	前回の授業内容である裁判所について、司法権(とその独立)の意義、限界、裁判所の組織などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業内容である違憲審査制について、憲法81条の理解の仕方、違憲審査の方法などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	前回の授業内容である天皇および平和主義について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16 回	2回～15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。間違いやすい用語(漢字も含む)なども確認しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	大学で「日本国憲法」を学ぶという、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持つかもしれない。しかし、よく考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国や社会の中で生活しているのである。ということは、自分たちが生活している国や社会がどのようなルールや仕組みになっているのかを知り、また今後どうあるべきかなのかを考えるということは、主権者である私たち国民にとって必要不可欠なことだと言える。この授業では、そのような私たちが現在生活している日本という国・社会の基本法であり、またこの国の最高法規である日本国憲法についての基本的な知識や考え方について、具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一種に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 六法を使って、関連する憲法やその他の法令の条文が検索できる。(知識・理解)(2) 日本国憲法に関する基本的な知識(重要判例も含む)や考え方を習得し、正しく説明することができる。(知識・理解)(3) 具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できる。(知識・理解、思考・判断・表現)4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	日本国憲法、立憲主義的憲法、最高法規、個人の尊重、(基本的)人権、三権分立、違憲審査権、そのほか授業内容欄に記載の用語参照
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業内小テスト計3回:評価割合各10%計30%(達成目標(1)～(2)を確認)、憲法条文プリント(5回目の授業までに提出):評価割合10%(達成目標(1)を確認)、課題レポート:評価割合10%(達成目標(3)を確認)、最終評価試験:評価割合50%(達成目標(1)～(2)を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版/宇賀克也・佐伯仁志(編集代表)/有斐閣/ISBN 978-4-641-00919-6(書き込み等が無いものであれば同六法の30年版でも可)
関連科目	法学A・法学B
参考書	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと)
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。(2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明する。(3) 憲法条文プリント(これについても初回の授業時に説明する)は、5回目の授業の回収時まで提出すること。(4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。(5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引き以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしない(ただし、事前に分かっている場合には相談に応じる)。(6) 小テスト・最終試験・レポート等の授業科

	目名・教員名が正しく書けていないものについては評価対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	授業内容によっては授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行うこともある。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう（再提出までしてはじめて成績評価に加える）。最終試験およびレポートについては最終試験後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（１）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず２回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。（２）教職希望者は教育実習期間中にこの授業を同時に受講しないこと。（３）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている事件や裁判などに関心を持つように努めること。

科目名	日本国憲法【水3水4】（FB201709）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
2回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能をはたしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
3回	民主権と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および民主権との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
4回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法9条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法9条の解釈と集団的自衛権について説明する。
5回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
6回	憲法13条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
7回	憲法14条の「法の下での平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
8回	憲法19条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麹町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
9回	憲法20条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法20条3項および89条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
10回	憲法23条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ボボロ事件」を取り上げることにする。
11回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法21条1項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
12回	憲法22条1項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および29条1項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準の区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
13回	人身の自由の焦点を当てて講義する。具体的には、憲法18条の「奴隷的拘束」からの自由、31条の「適正手続きの保障」、33条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の搜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
14回	憲法25条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
15回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法17条の国家賠償請求権を、後者については、40条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることにする。
16回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。

2 回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
3 回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
4 回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
5 回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
6 回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
7 回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
8 回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分
9 回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
1 0 回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
1 1 回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
1 2 回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分
1 3 回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
1 4 回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
1 5 回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習をしておくこと。60分。
1 6 回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法的问题解決の思考力を身につけること。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート（20点）、小テスト（20点）、最終評価試験（60点）
教科書	テキスト『日本国憲法第4版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2;『法学六法』/石川明・池田真朗等編/信山社
関連科目	法学
参考書	テキスト『法学第4版』（大学教育出版、2018年）等
連絡先	教務課
授業の運営方針	判例を中心に分かりやすい講義を心掛ける。小テストは、受講生を指名し解答とその理由を講義中に尋ねる。
アクティブ・ラーニング	毎回小テストを通じて論点を示し、自分の頭で考える法的思考力を養うように質問をするように指導する。
課題に対するフィードバック	レポートについては解答例を配布し、ポイントの解説を行う。小テストについては、講義中正解を教え、正解となる理由を説明する。最終評価試験については、講義中に重点的に触れた判例等を見直すように指導する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください
実務経験のある教員	元中学校高等学校一貫校教員（英語教諭）。
その他（注意・備考）	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題（小テスト）をマシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。

科目名	科学ボランティア実践指導 (FB208700)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities I
担当教員名	山口一裕(やまぐちかずひろ),吉村功*(よしむらたくみ*),森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしのり*),高見寿*(たかみひさし*),春日二郎*(かすがじろう*), 滝澤昇(たきざわのぼる),高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義内容と進め方の説明)理科大学認定資格:科学ボランティアリーダーとは? 出展可能な科学イベント(科学博物館など)の紹介をする。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員を決定する。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1) チーム毎に他のメンバーに書籍紹介を行う。出展内容を決定する。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2) 実験器具およびプレゼンテーションなどの準備を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3) 発表会予行演習を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4) 発表会予行演習を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
7回	科学イベント準備(5) 発表会準備をほぼ完了させる。事前レポートと実験配布資料(実験書)を完成させる。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
8回	科学イベントを実施する(科学博物館などの科学イベント)。発表会レポート作成と相互評価を実施する。事後指導を行う。事後レポートの作成、事後自己評価と授業アンケートを実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスを読んで授業内容と科学ボランティアリーダーについて理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回授業で紹介された科学イベントでどのような実験をしたいかを考えておくこと。関心のある分野の自然科学の書籍を読んでおくこと。(標準学習時間180分)
3回	チーム内での事前準備 実験内容決定のための情報を書籍やインターネットで収集しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	チーム内での事前準備 実験に必要な器具や予備実験の内容を考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	チーム内での事前準備 発表会での実験の流れと役割分担を考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	チーム内での事前準備 事前レポートと実験配布資料(実験書)作成の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	チーム内での科学イベント発表会の事前準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	事後レポート作成のための準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されている。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。まず、チームを組んで地域などで開催される科学イベント(例えば本学の大学祭企画「科学博物館」など)で科学ボランティア活動を2時間以上実践する(主にブース出展形式)。この科学ボランティア活動を安全
------	--

	かつ効果的に実施できるよう、主にチームごとに決めた指導教員が手厚く事前・事後指導を行う。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（到達目標に対する関与程度の【思考・判断・表現】にもっとも強く関与する）
達成目標	1. 一般の参加者（小学生から大人まで）を相手とする科学イベントにおいて実験の企画立案、情報の収集、実験原理の理解、材料の確保、実験手法の改善を通して自分たちで決めた実験を確実に安全に実行できる。【思考・判断・表現】 2. 自分たちのチームの活動・発表の総括と他のグループの発表の優れた点を記述できる。【思考・判断・表現】 3. チームメンバーと協力し、自らの責任を積極的に果たしたことを説明できる。【思考・判断・表現】 4. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を説明することができる。【思考・判断・表現】 5. 科学イベントにおいて、伝えたいことと一般の参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表で参加者を満足させることができる。【技能】 6. 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション力などをどれだけ身につけられたか判断できる。【関心・意欲・態度】
キーワード	地域での実践 科学博物館 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポートの内容70%（到達目標1～4を確認）、発表会の内容30%（受講生相互の評価と自己評価も加味、到達目標1、5～6を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
関連科目	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	科学ボランティアセンター B4号館 svc〔アトマーク〕ridai-svc.org) もしくは理学部基礎理学科 山口一裕 (D2号館1階、e-mail:kyamaguchi〔アトマーク〕das.ous.ac.jp)
授業の運営方針	・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の予備実験等の材料費は基本的に受講生の自己負担とする。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験・実習、グループワーク 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、グループ内での討論、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発表会での相互評価結果はWeb上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功（元中学校教員）、森田明義（元小学校教員）、高見寿（元高等学校教員）、武田芳紀（元高等学校教員）、春日二郎（元中学校教員）、糸山嘉彦（人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター） 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他（注意・備考）	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（ http://ridai-svc.org/ ）に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FB208710)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities I
担当教員名	山口一裕(やまぐちかずひろ), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしなり*), 高見寿*(たかみひさし*), 重松利信(しげまつとしのぶ), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 滝澤昇(たきざわのぼる), 猪口雅彦(いのぐちまさひこ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレリー(くるもふばれりー), 竹崎誠(たけざきまこと)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義内容と進め方の説明)理科大学認定資格:科学ボランティアリーダーとは? 出展可能な科学イベント(科学博物館など)の紹介をする。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員を決定する。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1) チーム毎に他のメンバーに書籍紹介を行う。出展内容を決定する。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2) 実験器具およびプレゼンテーションなどの準備を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3) 発表会予行演習を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4) 発表会予行演習を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
7回	科学イベント準備(5) 発表会準備をほぼ完了させる。事前レポートと実験配布資料(実験書)を完成させる。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
8回	科学イベントを実施する(科学博物館などの科学イベント)。発表会レポート作成と相互評価を実施する。事後指導を行う。事後レポートの作成、事後自己評価と授業アンケートを実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスを読んで授業内容と科学ボランティアリーダーについて理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回授業で紹介された科学イベントでどのような実験をしたいかを考えておくこと。関心のある分野の自然科学の書籍を読んでおくこと。(標準学習時間180分)
3回	チーム内での事前準備 実験内容決定のための情報を書籍やインターネットで収集しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	チーム内での事前準備 実験に必要な器具や予備実験の内容を考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	チーム内での事前準備 発表会での実験の流れと役割分担を考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	チーム内での事前準備 事前レポートと実験配布資料(実験書)作成の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	チーム内での科学イベント発表会の事前準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	事後レポート作成のための準備をしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されている。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。まず、チームを組
------	--

	んで地域などで開催される科学イベント（例えば本学の大学祭企画「科学博物館」など）で科学ボランティア活動を2時間以上実践する（主にブース出展形式）。この科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実施できるよう、主にチームごとに決めた指導教員が手厚く事前・事後指導を行う。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（到達目標に対する関与程度の【思考・判断・表現】にもっとも強く関与する）
達成目標	1. 一般の参加者（小学生から大人まで）を相手とする科学イベントにおいて実験の企画立案、情報の収集、実験原理の理解、材料の確保、実験手法の改善を通して自分たちで決めた実験を確実に安全に実行できる。【思考・判断・表現】 2. 自分たちのチームの活動・発表の総括と他のグループの発表の優れた点を記述できる。【思考・判断・表現】 3. チームメンバーと協力し、自らの責任を積極的に果たしたことを説明できる。【思考・判断・表現】 4. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を説明することができる。【思考・判断・表現】 5. 科学イベントにおいて、伝えたいことと一般の参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表で参加者を満足させることができる。【技能】 6. 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション力などをどれだけ身につけられたか判断できる。【関心・意欲・態度】
キーワード	地域での実践 科学博物館 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポートの内容70%（到達目標1～4を確認）、発表会の内容30%（受講生相互の評価と自己評価も加味、到達目標1、5～6を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
関連科目	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	科学ボランティアセンター B4号館 svc〔アトマーク〕ridai-svc.org) もしくは理学部基礎理学科 山一裕 (D2号館1階、e-mail:kyamaguchi〔アトマーク〕das.ous.ac.jp)
授業の運営方針	・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の予備実験等の材料費は基本的に受講生の自己負担とする。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験・実習、グループワーク 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、グループ内での討論、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発表会での相互評価結果はWeb上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功（元中学校教員）、森田明義（元小学校教員）、高見寿（元高等学校教員）、武田芳紀（元高等学校教員）、春日二郎（元中学校教員）、糸山嘉彦（人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター） 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他（注意・備考）	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（ http://ridai-svc.org/ ）に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア活動」

科目名	心理学 A (FB210730)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	鉄川大健 * (てつかわひろかつ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	学問としての心理学について知識を深め、心理学の歴史について概説する
2 回	知覚心理学 : 視覚を中心に、感覚・知覚のメカニズムについて視覚体験の中で学ぶ
3 回	知覚心理学 : 視覚以外の感覚・知覚について理解を深める
4 回	認知心理学 : 自由再生実験を通して、記憶のメカニズムについて学ぶ
5 回	学習心理学 : 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
6 回	社会心理学 : 身近な対人関係について学び、日常生活に活かす
7 回	社会心理学 : 集団における心の働きについて学ぶ
8 回	知覚、記憶、学習、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握しておくこと (30分)
2 回	前回の講義内容の復習に加え、ヒトがどのような情報を環境から得ているのかを考えてみること (120分)
3 回	前回の講義内容の復習に加え、身近な錯覚の例を探してみること (120分)
4 回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が行っている記憶方法について考えておくこと (120分)
5 回	前回の講義内容の復習に加え、学習とは何かについて考えておくこと (120分)
6 回	前回の講義内容の復習に加え、友人との関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと (120分)
7 回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が所属する集団について考えておくこと (120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域からスタートし、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	知覚、記憶、学習、社会
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出 (35%) 講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) 上記の2つによって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	心理学B、教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「 (講義開始までに) シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	心理学 A (FB210740)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	鉄川大健 * (てつかわひろかつ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	学問としての心理学について知識を深め、心理学の歴史について概説する
2 回	知覚心理学 : 視覚を中心に、感覚・知覚のメカニズムについて視覚体験の中で学ぶ
3 回	知覚心理学 : 視覚以外の感覚・知覚について理解を深める
4 回	認知心理学 : 自由再生実験を通して、記憶のメカニズムについて学ぶ
5 回	学習心理学 : 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
6 回	社会心理学 : 身近な対人関係について学び、日常生活に活かす
7 回	社会心理学 : 集団における心の働きについて学ぶ
8 回	知覚、記憶、学習、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握しておくこと (30分)
2 回	前回の講義内容の復習に加え、ヒトがどのような情報を環境から得ているのかを考えてみること (120分)
3 回	前回の講義内容の復習に加え、身近な錯覚の例を探してみること (120分)
4 回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が行っている記憶方法について考えておくこと (120分)
5 回	前回の講義内容の復習に加え、学習とは何かについて考えておくこと (120分)
6 回	前回の講義内容の復習に加え、友人との関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと (120分)
7 回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が所属する集団について考えておくこと (120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域からスタートし、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	知覚、記憶、学習、社会
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出 (35%) 講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) 上記の2つによって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	心理学B、教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「 (講義開始までに) シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	心理学 A (FB210750)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	松浦美晴 * (まつうらみはる *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の概要と、「心理学の歴史」について説明する。
2 回	「科学としての心理学」について説明する。
3 回	「知覚のはたらき」について説明する。
4 回	「記憶と学習のメカニズム」について説明する。
5 回	「人間の空間行動」について説明する。
6 回	「パーソナリティと発達」について説明する。
7 回	「心の健康」について説明する。
8 回	「心の危機」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	教科書の目次と、第1章に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	教科書第2章に目を通し、p.14の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)
4 回	教科書第3章に目を通し、「演習」p.25「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
5 回	教科書第4章に目を通し、p.38の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)
6 回	教科書第5章に目を通し、「演習」p.49「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
7 回	教科書第6章に目を通し、「演習」p.63「課題1」、p.65「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解する。 2) 体系的な理論と関連のトピックについて知識を得る。 3) 心理学の理論と、日常の具体的な人間行動との関連を理解する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	こころの理解、知覚、認知、学習、パーソナリティ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	達成目標1)～3)の達成度を評価する最終評価試験(100%)を行う。
教科書	生活にいかす心理学ver.2/古城和子(編著)/ナカニシヤ出版/4888487057
関連科目	特に指定はない。
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学 TEL:086-272-6254(代表)
授業の運営方針	教科書を用いて行う。 教科書中の重要事項やキーワードについて解説するために、パワーポイントによる提示資料を用いる。 提示資料中では、理解を深めるために必要な補足事項について、教科書に記載されていない内容も扱う。 提示資料、配布資料を教員の指定するウェブサイトアップロードするので、授業の復習に利用してほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験について、個別に資料を基に説明を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	哲学A (FB211220)
英文科目名	Philosophy A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2回	西洋哲学(1)―ソクラテス以前の自然哲学者と呼ばれる哲学者たちの思想について説明した後、ソクラテス登場の前提となるソフィストたちの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3回	西洋哲学(2)―ソクラテスとその弟子のプラトンの思想について説明した後、プラトンの弟子であるアリストテレスの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4回	西洋哲学(3)―中世という時代の特徴について説明した後、中世哲学(スコラ哲学、普遍論争等)について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5回	西洋哲学(4)―「近代哲学の父」などとも呼ばれるデカルトの生涯と思想について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6回	西洋哲学(5)―「近代最高の哲学者」などとも呼ばれるカントの生涯と思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7回	西洋哲学(6)―近年もたびたび注目されるニーチェ、そして「20世紀最大の哲学者」などとも呼ばれるハイデガーの生涯と思想について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とは何か、「哲学」とはどのような学問であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	自然哲学者、ソフィストとはどのような人たちであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	ソクラテス、プラトン、アリストテレスとはどのような人物であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	ヨーロッパの中世とはどのような時代であったのか、またその時代の哲学はどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	デカルトとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	カントとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	ニーチェ、ハイデガーとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	西洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識は身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標とする。 西洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、西洋哲学のおおまかな歴史を理解できる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。

関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	哲学A (FB211230)
英文科目名	Philosophy A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2回	西洋哲学(1)―ソクラテス以前の自然哲学者と呼ばれる哲学者たちの思想について説明した後、ソクラテス登場の前提となるソフィストたちの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3回	西洋哲学(2)―ソクラテスとその弟子のプラトンの思想について説明した後、プラトンの弟子であるアリストテレスの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4回	西洋哲学(3)―中世という時代の特徴について説明した後、中世哲学(スコラ哲学、普遍論争等)について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5回	西洋哲学(4)―「近代哲学の父」などとも呼ばれるデカルトの生涯と思想について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6回	西洋哲学(5)―「近代最高の哲学者」などとも呼ばれるカントの生涯と思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7回	西洋哲学(6)―近年もたびたび注目されるニーチェ、そして「20世紀最大の哲学者」などとも呼ばれるハイデガーの生涯と思想について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とは何か、「哲学」とはどのような学問であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	自然哲学者、ソフィストとはどのような人たちであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	ソクラテス、プラトン、アリストテレスとはどのような人物であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	ヨーロッパの中世とはどのような時代であったのか、またその時代の哲学はどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	デカルトとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	カントとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	ニーチェ、ハイデガーとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	西洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識は身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標とする。 西洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、西洋哲学のおおまかな歴史を理解できる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。

関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	論理学 A (FB211510)
英文科目名	Logic A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、論理学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2 回	論理とは何かを説明した後、命題とはどのようなものかと、命題の真・偽について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
3 回	否定とは何かを説明した後、矛盾律・排中律、「かつ」と「または」の用法、ド・モルガンの法則について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
4 回	条件文とは何かを説明した後、必要条件・十分条件、同値について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
5 回	「逆」「裏」「対偶」といった概念について説明した後、推論 (演繹・帰納・仮説形成) について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
6 回	命題論理とは何かを説明した後、推移律、前件・後件肯定式、選言的三段論法、構成的両刀論法、背理法について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
7 回	述語論理とは何かについて説明した後、「すべて」と「ある」の用法、述語論理の推論や論理法則、帰納や仮説形成の評価について説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「論理」とは何か、「論理学」とはどのような学問であるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	命題とはどのようなものかと、命題の真・偽について、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	論理学における否定、矛盾律と排中律、ド・モルガンの法則について、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	必要条件、十分条件、同値について、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	「逆」「裏」「対偶」といった概念、演繹、帰納、仮説形成について、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	命題論理とはどのようなものであるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	述語論理とはどのようなものであるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	論理学という学問の初歩をひと通り理解し、その知識を身につけたうえで、他のすべての学問を学ぶ際や日常生活においても、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標としている。 論理学の学習に最低限必要な知識を身につけ、論理学の概要を説明することができる。(A) 論理的な知識に基づいて思考し、物事を考えるうえで適切な判断を下すことができる。(B)
キーワード	論理、述語論理、命題論理
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。論理学をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	野矢茂樹『入門！ 論理学』（中公新書） 仲島ひとみ『それゆけ！ 論理さん』（筑摩書房） 野矢茂樹『論理学』（東京大学出版会）

連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・練習問題はプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 A (FB211730)
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	一神教の倫理 (1) —ユダヤ教、キリスト教の倫理を、ヘブライ語聖書、新約聖書の記述に基づいて説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	一神教の倫理 (2) —イスラーム教の倫理を、クルアーンの記述に基づいて説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	哲学者と倫理 (1) —義務論を中心に、カントの倫理学を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	哲学者と倫理 (2) —ベンサム、ミルの思想を中心に、功利主義を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	哲学者と倫理 (3) —徳倫理学を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	現代の倫理—ピーター・シンガーの思想を中心に、動物の生命についての様々な考え方を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	ユダヤ教、キリスト教というのはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	イスラーム教とはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	カントというのはどのような人物であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	功利主義とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	徳倫理学とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	動物倫理とはどのような考え方であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」とも最も強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp

	オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 A (FB211740)
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことからであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死
2 回	善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪
3 回	ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義 “幸福と善の関係”
4 回	善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類
5 回	古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷
6 回	善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義
7 回	善と理性との関係について、カントの思想を通して学ぶ。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながら考える。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義 “義務としての善”
8 回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書の1-9ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2 回	教科書27-28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3 回	教科書27-28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4 回	これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
5 回	教科書の28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
6 回	前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
7 回	教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
8 回	ノートを中心に復習を行い、講義全体の理解を深めておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」とも最も強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。（A） 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。（B） 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。（B・C）
キーワード	倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	柘植尚則『ブレップ倫理学』（弘文堂）
関連科目	哲学
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
授業の運営方針	基本的に大教室の講義形式であるため、学生の理解度を見極めにくい面があるが、講義内で配布し記述してもらうペーパーの内容から、学生からの反応を見極めつつ講義を進めて行く。また講義後の質問なども積極的に受け付ける。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義内で行う思考実験などの結果については、次の講義でフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。また、講義内容の録音、板書の撮影を許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 A (FB211750)
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	一神教の倫理 (1) —ユダヤ教、キリスト教の倫理を、ヘブライ語聖書、新約聖書の記述に基づいて説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	一神教の倫理 (2) —イスラーム教の倫理を、クルアーンの記述に基づいて説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	哲学者と倫理 (1) —義務論を中心に、カントの倫理学を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	哲学者と倫理 (2) —ベンサム、ミルの思想を中心に、功利主義を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	哲学者と倫理 (3) —徳倫理学を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	現代の倫理—ピーター・シンガーの思想を中心に、動物の生命についての様々な考え方を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	ユダヤ教、キリスト教というのはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	イスラーム教とはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	カントというのはどのような人物であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	功利主義とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	徳倫理学とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	動物倫理とはどのような考え方であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」とも最も強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp

	オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学A (FB211930)
英文科目名	Literature A
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方を説明する。
2回	ヨーロッパとドイツについて概説する。
3回	「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。
4回	「エミーリア・ガロッティー」 近代市民悲劇の誕生について説明する。
5回	「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。
6回	「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。
7回	「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。
8回	「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、到達度確認テストとそのフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2回	ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
7回	テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テキストの第六章までに目を通して、重要事項を把握しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜3時限(春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説します。講義中心になりますが、受講マナーをきちんと守ることを必要条件としておきます。
アクティブ・ラーニング	テキストの部分的な朗読や、内容についての簡単な質問に対する回答を課すことがあります。
課題に対するフィードバック	到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。

科目名	文学 A (FB211940)
英文科目名	Literature A
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス。講義の進め方を説明する。
2 回	ヨーロッパとドイツについて概説する。
3 回	「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。
4 回	「エミーリア・ガロッティー」 近代市民悲劇の誕生について説明する。
5 回	「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。
6 回	「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。
7 回	「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。
8 回	「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、到達度確認テストとそのフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2 回	ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間 120 分)
7 回	テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	テキストの第六章までに目を通して、重要事項を把握しておくこと。(標準学習時間 120 分)

講義目的	世界 (中国またはドイツ、および日本) の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 作品について、基本的な事柄 (内容、時代背景など) を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	学修の到達度確認テスト 100% により成績を評価し、60% 以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館 8 階、内線 4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜 3 時限 (春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説します。講義中心になりますが、受講マナーをきちんと守ることを必要条件としておきます。
アクティブ・ラーニング	テキストの部分的な朗読や、内容についての簡単な質問に対する回答を課すことがあります。
課題に対するフィードバック	到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。

科目名	文学A (FB211950)
英文科目名	Literature A
担当教員名	浅野純一 (あさのじゅんいち)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：この講義についてと中国文学のうち、詩歌の特徴について説明する。
2回	詩経について説明する。
3回	楚辞と漢賦について、具体例をあげながら説明する。
4回	六朝の詩人陶淵明について説明する。
5回	唐代の詩人李白について説明する。
6回	唐代の詩人杜甫について李白と比較しながら説明する。
7回	中唐・晩唐の詩人白居易、李賀、李商隠について説明する。
8回	到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回の教材を読み直し、また、自分の好きな楽曲などを聞いて、押韻、対句などについて理解を確認すること。(120分)
3回	詩経について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
4回	楚辞について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
5回	陶淵明について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
6回	李白について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
7回	李白と杜甫についてその違いを意識しながら、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
8回	授業中に説明したキーワードを確認し、授業中に指示した通りテストの準備をしておくこと。(150分)

講義目的	中国の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 (DP4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。)
達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。(4領域の「知識・理解」) 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。(4領域の「知識・理解」) 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。(4領域の「知識・理解」)
キーワード	文学、中国、詩歌、漢詩、
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2,3を評価)、得点率60%以上を合格とする。
教科書	授業時にプリントを配布する。
関連科目	文学B、中国語()、比較文化論
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B3号館3階浅野研究室 E-mail: asanoj (アットマーク) big.ous.ac.jp オフィスアワー：mylogで確認してください。
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・飲食は原則禁止(ただし、飲料は必要であれば可)
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	日本史 A (FB212210)
英文科目名	Japanese History A
担当教員名	小林博昭 * (こばやしひろあき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。授業の進め方を説明する。その後、弥生時代の特色や、この時代の時期区分について説明する。
2 回	弥生時代に海外から伝播した技術について、水田によるコメ作り技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
3 回	前回に続いて、水田によるコメ作りの技術について説明し、さらにガラス加工技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、青銅器加工技術についても説明する。
4 回	前回から続いて、弥生時代におこなわれた青銅器加工技術と青銅製武器の変遷過程について説明した後、鉄器の加工技術と製品についてOHCを用いながら、配布プリントを中心に説明する。
5 回	青銅器や鉄器加工技術の補足説明と、それら製品を説明した後、古墳時代へつなげる意味で、弥生時代の墓制の変遷について、西日本の各地域における例を説明する。今回は、そのなかで北部九州の具体例にスポットを当てて、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
6 回	畿内の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について、さらに日本海側、とくに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
7 回	瀬戸内地域、とくに岡山県の特設集団墓について説明する。さらに後期中頃から出現する規模の大きなそれらの墓とその特徴について具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、初回以降、今回までの授業内容の整理とまとめをおこない、受講生の当授業内容への理解の深化を促す。
8 回	第1回目から第7回目までの授業で扱った歴史的な事象についての補足説明をおこなう。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。弥生時代の特色、そして時期区分の方法についてノートを中心に復習すること。弥生時代のコメ作りについて、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	弥生時代の水田によるコメ作り技術について十分に復習すること。弥生時代のガラス製品について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	弥生時代のコメ作りやガラス加工技術について、復習すること。弥生時代に製作、使用された青銅器について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	青銅器加工技術や青銅製武器の移り変わり、そして鉄器の加工技術と製品について、配布プリントを中心に十分復習すること。弥生時代の鉄器についてどのような種類があるのか、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	北部九州の弥生時代の墓制について復習をおこなうこと。畿内の弥生時代の墓制、とくに方形周溝墓について図書館等で予習しておくこと。さらに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その構築技術などを図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	畿内、および出雲地域の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について説明できるように復習をおこなうこと。くわえて、岡山県の弥生時代の特定集団墓について、予習をしておくこと(標準学習時間120分)
7 回	第1回目から第7回目までの授業のポイントを各自まとめて再度確認し、内容を十分理解しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、列島の弥生時代から各地の首長連合によるヤマト政権による国家的事業としての古墳発生前後までの時代における人々が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を抽出できる。 2) 歴史という時系列の中で、抽出した諸要素を客観的に把握できる。 3) 諸要素相互の因果関係や、その背景について分析できる。 4) それらの分析結果について深く考察できる。

	4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“ 古代史 ”、“ 弥生時代 ”、“ 古墳時代 ”、“ 日本史 ”
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（達成目標 1 ～ 4 ）100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
関連科目	日本史B
参考書	授業の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1) 毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2) (1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3) 出欠は、毎回とる。 (4) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。 (5) 授業中に私語をする受講生や、他の受講生に迷惑がかかるような受講態度が悪い受講生に対しては、即刻退場や以降の受講を断る場合がある。 (6) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	マスメディア論 A (FB212620)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice A
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして授業の内容、進め方、成績評価の方針について把握する。続いて、メディアとは何か、情報を伝える媒体としての特性について理解する。
2 回	メディアとは何かについて、ウォルター・リップマンやマーシャル・マクルーハンの提唱した概念について理解する。
3 回	新聞の歴史と特性について理解する。
4 回	ラジオの歴史と特性について理解する。
5 回	映画の歴史と特性について理解する。
6 回	テレビの歴史と特性について理解する。
7 回	出版の歴史と特性について理解する。
8 回	最終評価試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説を配布する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：メディアの役割について授業の内容をまとめたノートを作ること (標準学習時間 90 分)
2 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：リップマンが唱えた「疑似環境」、マクルーハンの提唱した「メディアはメッセージである」といったメディアに関する概念についてまとめておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：グーテンベルグの活版印刷術の発明を契機に大量の印刷物が出回るようになる中で始まった新聞の歴史と紙媒体ならではの特性についてまとめておくこと。 (標準学習時間 120 分)
4 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：電子技術の進化の中で生まれたラジオが歴史上、果たした役割、音声媒体ならではの特性についてまとめておくこと。 (標準学習時間 120 分)
5 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：映画の歴史や映像という強いインパクトを持つ媒体としての特性、娯楽や芸術として発展してきたことをまとめておくこと。 (標準学習時間 120 分)
6 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：映画やラジオの黄金時代に登場したテレビが急速に普及し、お茶の間に浸透した歴史や、人々の暮らしや生活習慣にまで影響を与えたことをまとめておくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：戦後の日本社会で出版物が教養や娯楽をもたらした歴史や、近年の本離れの実態についてまとめておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	予習：これまでの授業を振り返り、試験準備をする。

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてのマスメディアの存在は欠かせない。その特性を知り、情報の取舍選択に生かしていくことは実社会を生きていく上で重要な要素となる。インターネットの普及で情報革命ともいわれる新しい環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身に付ける。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	1) マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。(知識・理解) 2) マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り適切な接し方を身に付ける。(知識・理解) 3) 正しい情報の使い方、発言する側の責任など情報モラルの大切さを身につける(知識・理解)
キーワード	媒体、疑似環境、情報環境、紙、音声、映像、身体、拡張
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	授業中に毎回書いてもらう小レポート 10% (達成目標 1、3 を評価)、最終評価試験 90% (達成目標 1、2、3 を評価) により成績を評価し、総計で得点率 60% 以上を合格とする。
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	現代のメディア、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK 出版: たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまブリタニカ新書
連絡先	A 1 号館 6 F 八木研究室 086-256-9758 E-mail yagi@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日 3 時限

授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小レポートは毎回、時事問題について書いてもらうので、日ごろから新聞やテレビなどでニュースに接しておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務：新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	マスメディア論 A (FB212630)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice A
担当教員名	高下義彦* (こうげよしひこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	マスメディア論のいわば入門編。イントロダクション「現代人とマスメディア」講義の進め方、試験の方法や評価方法、マスメディアの概略について説明する。
2 回	「メディアと日本人」幕末に創刊された新聞から現在のインターネットまで、日本人がどのようにメディアを受け入れてきたかを学習する。
3 回	「新聞」日本や世界の新聞の誕生から変遷や現状を学習する。
4 回	「新聞」日本の新聞社の組織、新聞の作り方を、山陽新聞を例に見ていく。取材、編集から制作までを学習し、ニュースの価値判断について考察する。
5 回	「新聞」新聞はどのように読まれているか、どのように評価されているか。日本新聞協会が行った「全国メディア接触・評価調査」の結果から、日本人の新聞との付き合い方を学習する。
6 回	「放送」日本の放送の歴史と現状をテレビを中心に学習する。
7 回	「出版」日本の出版産業の歴史と現状を学習する。
8 回	1～7回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
2 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
3 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
4 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
5 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
6 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
7 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
8 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート(時事ニュースなどについて)10%
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版:メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書:鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書:ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社:メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター

	岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp
授業の運営方針	最初にその日の講義で使う資料と出席票を1人1枚とって着席。私語が激しい場合、注意しても直らない場合退出を求める。出席票が明らかに代筆と認められる場合は、両人を欠席扱いとすることがある。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に、「最近気になったニュース」を記入する。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音、録画、撮影は許可する。
実務経験のある教員	山陽新聞社で30年超、取材記者、紙面制作記者及び両部門のデスク、管理職を経験。現在は、新聞制作システムから印刷、発送までの流れを管轄する編集局製作管理センター長を務める。
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 A (FB212910)
英文科目名	Political Science A
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「政治とは」：権力と権威、そして支配の正統性について説明する。
2 回	「国家」：市民革命と国民国家、主権概念について説明する。
3 回	「政治体制とイデオロギー」：自由民主主義やファシズム、権威主義、マルクス主義といった政治体制やイデオロギーについて説明する。
4 回	「選挙と民主主義」：日本の選挙制度を事例とし、選挙制度について説明する。
5 回	「議院内閣制と大統領制」：日本と米国を事例として、議院内閣制と大統領制の特徴について説明する。
6 回	「議会と政党システム」：一党優位制や二大政党制、多党制などの政党システムについて説明する。
7 回	「官僚制と利益団体」：政策過程に関与する官僚と利益団体について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞やTV、インターネットを通じ政治ニュースに触れて、政治問題に関心を持つよう努力すること (標準学習時間30分)
2 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
3 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
4 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
5 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
6 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
7 回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
8 回	これまでの講義内容についてしっかり復習しておくこと (標準学習時間60分)

講義目的	政治学の基礎知識、そしてその発展の歴史を学ぶことによって、現代社会がいかに複雑かつ多くのアクターの関与で成り立っているのか理解できるようになることを目標とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	政治学におけるワードや基本的概念について説明できる。 今日 の政治制度がどのように歴史的に展開し成立しているのか説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	現代政治、政治体制、政治イデオロギー、議院内閣制、大統領制、政党システム、政治過程
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	上記達成目標の到達度を第8回講義内の最終評価試験 (100%) で評価する。
教科書	・現代政治学 [第4版] / 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 / 有斐閣 / 978-4641124554 ・政治学 / 川出良枝・谷口将紀 (編) / 東京大学出版会 / 978-4130322195
関連科目	政治学B、国際関係論A / B
参考書	適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・日常生活と政治は日々密接化しており、現代の人びとは政治にまったく無関心でいられない。それゆえに、現代政治を理解することは社会人として極めて重要である。この講義では、受講生が現代政治への関心と理解を少しでも多く得られるように実施していく。そのため、受講生も新聞やニュースなどで、日々の政治動向に対して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回の授業に関するレジュメ・資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論A (FB213110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations A
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション「国際関係理論とは？」：国際政治の理解に必要な一般的諸理論について紹介する。
2回	国際政治のアクター1「主権国家」：国際政治の基本アクターである「国家」の歴史的展開について説明する。
3回	国際政治のアクター2「国際連合」：国際連合の国際政治における意義と役割について説明する。
4回	国際政治のアクター3「世界銀行とIMF」：20世紀から今日までの国際経済金融体制の歴史とともに、当該体制における世界銀行とIMFの役割について説明する。
5回	国際政治のアクター4「EU」：20世紀後半、地域統合の模範とされたEUの歴史とともに、今日起きているその諸問題についても説明する。
6回	国際政治のアクター5「NGOとCSO（市民社会組織）」：今日、国際社会において大きな役割を果たすようになったNGOの意義について、1970～1980年代の東西冷戦終結プロセスをもとに説明する。
7回	国際政治のアクター6「企業とCSR（企業の社会的責任）」：グローバル経済化した今日における企業の責任について、国連グローバル・コンパクト成立の観点から説明する。
8回	最終評価試験を実施する。最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1回	新聞やTV、インターネットを通じ国際ニュースに触れて、現在、国際社会でどんな事が起きているのか、そしてどんな問題があるのか目を通しておくこと（標準学習時間30分）
2回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
3回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
4回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
5回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
6回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
7回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
8回	これまでの講義内容についてしっかり復習しておくこと（標準学習時間60分）

講義目的	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターが関与し、そしてどのような役割を果たしているのかを理解できるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	国際政治に関与する諸アクターとその意義・役割について説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	主権国家、第1次・第2次世界大戦、東西冷戦、国際機構、市民社会
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	上記達成目標の到達度を第8回講義内の最終評価試験(100%)で評価する。
教科書	・新グローバル公共政策〔改訂版〕／庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編）／晃洋書房／978-4771027480 ・グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域／グローバルガバナンス学会（編）／法律文化社／978-4589038814
関連科目	国際関係論B、政治学A/B
参考書	マイノリティ保護のクロアチア政治史／山川卓／晃洋書房／978-4771031432 その他の参考書については適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・国際社会における諸国家間の行動や態度または出来事について、受講生の「何でだろう」という疑問に応えるような授業にしていく。そのため、受講生には新聞やニュースなどで、世界情勢に関して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回

	の授業に関するレジュメ・資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	経済学 A (FB213620)
英文科目名	Economics A
担当教員名	横尾昌紀 * (よこおまさのり *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	経済学の概要とゲーム理論の関係について
2 回	囚人のジレンマ
3 回	戦略形ゲームとナッシュ均衡 (標準学習時間 4 0 分)
4 回	戦略形ゲームの応用例：価格競争，家事の分担，OS の選択等
5 回	混合戦略のナッシュ均衡：ジャンケンの「必勝法」
6 回	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
7 回	展開形ゲームの応用例 (1)：参入阻止ゲーム，ネズミ講，チェインストアパラドクス
8 回	まとめ， 最終評価試験

回数	準備学習
1 回	教科書の第 1 章を授業の前か後に読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
2 回	教科書の第 2 章と第 5 章の最初の節を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
3 回	教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
4 回	教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
5 回	教科書の第 4 章と 5 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
6 回	教科書の第 6 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
7 回	教科書の第 6 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
8 回	いままでのところを復習してください。 (標準学習時間 4 0 分)

講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況，すなわち，駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステムティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて，「戦略的思考」を身につけることを目的とします。（教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し，「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	・戦略形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める。 ・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める。 ・展開形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し，「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	経済学，戦略，戦略的状況，戦略的思考，ゲーム理論，ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡。
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準 60 点）	課題提出（ 2 0 % ），中間試験（ 2 0 % ），最終評価試験（ 6 0 % ）
教科書	ゲーム理論・入門 / 岡田章著 / 有斐閣アルマ / 9784641123625
関連科目	社会と人間
参考書	『ゲーム理論 ワークブック』，岡田章他，有斐閣
連絡先	電子メール： yokoo@e.okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	講義形式で行います。
アクティブ・ラーニング	

ゲ	
課題に対するフィードバック	下の注意事項を参照ください．
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	ポータルサイト 共有スペース 学部共通 「経済学（横尾）後期」のフォルダーに過去の試験問題や演習問題が入っていますので、必ず確認してください．

科目名	経済学 A (FB213630)
英文科目名	Economics A
担当教員名	山下賢二 * (やましたけんじ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	経済学とは何かについての概要を講義する。
2 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に消費者行動の原則と効用の概念について講義する。
3 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に効用関数について講義する。
4 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に無差別曲線について講義する。
5 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点の導出について講義する。
6 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点を解析的に求める方法について講義する。
7 回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に所得消費曲線、需要曲線、補償需要曲線について講義する。
8 回	これまでの 7 回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (内容は何でもよい。) (標準学習時間 60 分)
2 回	1. 微分の復習をしておくこと 2. 第 1 回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと (標準学習時間 60 分)
3 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間 60 分)
4 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間 60 分)
5 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間 60 分)
6 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間 60 分)
7 回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間 60 分)
8 回	すべての講義を復習しておくこと (標準学習時間 120 分)

講義目的	経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	・ 基本的な経済理論を理解できる ・ 様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	ミクロ経済学、家計
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60)	最終評価試験 (100%)

点)	
教科書	1 からの経済学 / 中谷武・中村保編著 / 碩学舎 / 中央経済社 / 9784502680809 プリント (ホームページからダウンロード。URLは第 1 回目の講義で指示する。
関連科目	ミクロ経済学
参考書	適宜指示する。
連絡先	岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室kenyamashi ta@po.osu.ac.jp
授業の運営方針	プリントを中心に進めていく。 試験は試験期間中に行い、筆記試験 (100%) で評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	年度最後の追再試終了後に模範解答・解説 (プリント当該箇所指示) をWeb上に上げる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	講義では、微分 (偏微分・全微分含む) を多用する。高校で微分をすでに学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験は試験期間中に行い、筆記試験 (100%) で評価する。

科目名	環境と社会 A (FB213920)
英文科目名	Environment and Society A
担当教員名	剣持堅志 * (けんもつかたし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能 (AI) の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
2 回	日本で発生した深刻な公害 (足尾鉍毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど) や PCB によるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
3 回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかに努力し、克服したかについてについて講義する。
4 回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
5 回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
6 回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、岡山県真備町の豪雨災害の原因など、身近に迫ってきた地球温暖化対策の影響について講義する。
7 回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びディメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても実際の体験を踏まえて講義する。
8 回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施

回数	準備学習
1 回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書 の構成と目次 (4 ~ 9) などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 (標準学習時間60分)
4 回	参考書 第2 ~ 3 章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
5 回	地球レベルの環境破壊について、参考書 3 - 4、3 - 6 章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
6 回	地球温暖化の原因と現状について、参考書 3 - 1 章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
7 回	原子力発電所事故等について、参考書 3 - 8 章などを勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
8 回	再生可能エネルギーについて、参考書 3 - 2 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。(標準学習時間120分) 評価試験の範囲は 1 ~ 8 回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを
------	--

	知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、E S D教育、E S G投資、ライフスタイルの変革
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	16回受講者については、中間評価試験(1~8回)及び最終評価試験(9~16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)® 公式松井孝典テキスト/東京商工会議所/日本能率会マネジメントセンター/ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)
授業の運営方針	講生に今今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい者学生支援に関するガイドライン」に基づいて合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に申し出ること。
実務経験のある教員	環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。
その他(注意・備考)	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	環境と社会 A (FB213930)
英文科目名	Environment and Society A
担当教員名	剣持堅志 * (けんもつかたし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能 (AI) の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
2 回	日本で発生した深刻な公害 (足尾鉍毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど) や PCB によるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
3 回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにより努力し、克服したかについてについて講義する。
4 回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
5 回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
6 回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、岡山県真備町の豪雨災害の原因など、身近に迫ってきた地球温暖化対策の影響について講義する。
7 回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びデメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても実際の体験を踏まえて講義する。
8 回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施

回数	準備学習
1 回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書 の構成と目次 (4 ~ 9) などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 (標準学習時間60分)
4 回	参考書 第2 ~ 3 章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
5 回	地球レベルの環境破壊について、参考書 3 - 4、3 - 6 章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
6 回	地球温暖化の原因と現状について、参考書 3 - 1 章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
7 回	原子力発電所事故等について、参考書 3 - 8 章などを勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
8 回	再生可能エネルギーについて、参考書 3 - 2 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。(標準学習時間120分) 評価試験の範囲は 1 ~ 8 回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを
------	--

	知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	16回受講者については、中間評価試験(1~8回)及び最終評価試験(9~16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)® 公式松井孝典テキスト / 東京商工会議所 / 日本能率会マネジメントセンター / ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)
授業の運営方針	講生に今今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。
その他(注意・備考)	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	法学 A (FB214130)
英文科目名	Law A
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法とは何かについての講義をする。 [内容] 社会規範としての法、法と道德の違い
2 回	六法の使い方についての説明をする。 [内容] 六法とは?、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
3 回	法の体系についての講義をする。 [内容] 法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
4 回	法の分類についての講義をする。 [内容] 法の内容による分類 (公法と私法、一般法と特別法など)
5 回	法の効力についての講義をする。 [内容] 法の効力とは?、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消
6 回	法の適用についての講義をする。 [内容] 法の適用とは?、事実認定の必要性和重要性
7 回	法の解釈 についての講義をする。 [内容] 文理解釈、論理 (目的) 解釈
8 回	最終評価試験を行い、その後、テストの解説およびこれまでの授業の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。初回の授業までに各自でなぜこの授業を履修し、この授業を通じて何を学ぶのかについて考えてから初回の授業に臨むこと (標準学習時間60分)
2 回	第 1 回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。 (例えば、どんな法令が幾つ収録されているか? 国語や英語の辞書と違う点は何か? など) ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	第1回および第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 2 回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	第3回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 3 回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと (授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	第4回の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 4 回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 5 回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと (特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	第6回の授業内容の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 6 回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと (特に事実認定の必要性・重要性など)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	第 7 回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと (解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと)。また、中間テストを行うので、第 1 回から第 7 回までの内容を復習しておくこと。 (標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか法律というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法や法律がとりまく社会の中で生活していて、将来、法や法律に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や法律に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や法律に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や法律についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や法律に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。 (教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる (知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる (知識・理解)。

	(3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる(知識・理解、思考・判断・表現)。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、法律、六法、成文法、法の効力、法の適用・解釈など、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業確認プリント[計6回:30%](達成目標1~2を確認)+授業内小テスト[計2回:20%](到達目標1~3を確認)+最終評価試験[50%](到達目標1~3を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6 (書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可)
関連科目	法学B、日本国憲法
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと) 連絡については直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。 (2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 (3) 復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 (4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 (5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする(ただし事前に分かっている場合には相談に応じる)。
アクティブ・ラーニング	(1) 授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 (2) 授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、返却し、訂正・復習をしてもらったうえで再提出してもらう(再提出までして成績評価に加える)。 授業確認プリントについては、後日、解答・解説をアップする。 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	(1) 履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 (2) 上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので(ただしテストを除く)、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 (3) テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 (4) 新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	考古学 A (FB214310)
英文科目名	Archaeology A
担当教員名	白石純 (しらいしじゅん)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義概要として講義内容と講義の進め方を説明する。 考古学がなぜ必要かについて講義する。
2 回	考古学はどんな学問か。考古学の定義について講義する。
3 回	考古学の研究対象・時間的範囲・地域的範囲について講義する。
4 回	いろいろな考古学(時代・地域・宗教・その他)について講義する。
5 回	考古学はどのように発達したかについて講義する。
6 回	考古学資料の種類(遺跡・遺構・遺物)について講義する。
7 回	考古学の研究方法(型式学・一括遺物と共存関係)について講義する。
8 回	考古学で用いられる年代測定法(放射性炭素法・考古地磁気法・年輪年代法)について講義する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義内容を理解しておくこと。図書館等で「考古学」について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	前回の講義内容について復習し「考古学の目的・定義」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	前回の講義内容について復習し「考古学が対象とするものや年代の範囲」について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
4 回	前回の講義内容について復習し「考古学は時代・地域・その他で区分されている」この区分について調べておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	前回の講義内容について復習し「考古学が古代からどのように発達してきたか」について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
6 回	前回の講義内容について復習し「考古学が取り扱う資料にはどのような物があるか」調べておくこと。 (標準学習時間60分)
7 回	前回の講義内容について復習し「考古学の研究方法」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	前回の講義内容について復習し「考古学で用いられる年代測定」について、どのような測定法があるか調べておくこと。また、1～7回までの講義内容を復習し、よく理解しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのかを理解する。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように講義する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について講義し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解する。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解することで、考古学が人文科学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを理解する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断力・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 理系、文系を問わず、歴史について説明できる。 2) さまざまな知識、学問に応用することができる。 3) 発想や資料分析法の仕方に応用することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験100点(達成目標1～3を評価)により成績を評価する。合格基準は100点満点のうち60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。 講義資料を適宜、配付する。
関連科目	日本考古学、環境考古学
参考書	考古学ゼミナール / 江上波夫 / 山川出版社 : 考古学の基礎知識 / 広瀬和雄 / 角川選書
連絡先	C2号館6階 白石研究室 shiraish@big.ous.ac.jp 086-256-9655 オフィスアワー 月曜5・6時限

授業の運営方針	・プロジェクターにより図を提示し、視覚的な説明と板書を組み合わせで講義を進めていく。 ・講義資料を適宜、配付する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験の解説は試験終了後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論A (FB214610)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と講義の概略を示す。
2回	日本映画における「嘘」について考察する。
3回	外国映画における「嘘」について考察し、日本映画と比較する。
4回	外国映画に描かれた日本や日本文化を検証する。
5回	日本映画に描かれた外国や外国文化を分析する。
6回	日本映画と台湾映画における「桃太郎」のイメージを比較する。
7回	戦時下の映画における「桃太郎」のイメージを分析する。最終評価試験について説明する。
8回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：テキスト第1章、第8章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：テキスト第4章～第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	予習：テキスト第7章、第12章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：テキスト第9章、第11章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習：テキスト第10章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	・少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。 ・「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説ける。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	岡山、映画、アニメ、比較文化、表象文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(最終評価試験100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「まあ映画な、岡山じゃ県2」 / 蜻文庫
関連科目	比較文化論B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 参考映像をめぐる各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	比較文化論 A (FB214620)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ドイツと日本を比較することの意味について概説するとともに、講義の進め方、成績評価などについても説明する。
2 回	ドイツという国について概観する。
3 回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(1)(車社会、ルール、マイスター制度を中心に)
4 回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(2)(メディア、余暇、環境問題をを中心に)
5 回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(3)(結婚、育児、学生生活をを中心に)
6 回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(4)(大学、68年世代、サッカーを中心に)
7 回	ドイツの食文化について説明する。
8 回	ドイツの街道と都市およびショッピング事情について説明する。 学修の到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、比較文化に関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	テキストの9～24ページを読み、ドイツという国について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	テキストの25～35ページを読み、車社会、ルール、マイスター制度などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	テキストの35～44ページを読み、メディア、余暇、環境問題などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	テキストの44～52ページを読み、結婚、育児、学生生活などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	テキストの52～66ページを読み、大学、68年世代、サッカーなどについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	テキストの67～78ページを読み、ドイツの食文化について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	テキストの79～98ページを読み、ドイツの街道と都市およびショッピング事情について質問事項を整理しておくこと。テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2)「日本では」「XX国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、異文化、比較文化、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ ― その文化・歴史・社会 / 高橋 憲 / 郁文堂 / 978-4-261-01265-1
関連科目	比較文化論B、文学
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限

授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・ 新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。

科目名	比較文化論 A (FB214630)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ドイツと日本を比較することの意味について概説するとともに、講義の進め方、成績評価などについても説明する。
2 回	ドイツという国について概観する。
3 回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(1)(車社会、ルール、マイスター制度を中心に)
4 回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(2)(メディア、余暇、環境問題をを中心に)
5 回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(3)(結婚、育児、学生生活を中心に)
6 回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(4)(大学、68年世代、サッカーを中心に)
7 回	ドイツの食文化について説明する。
8 回	ドイツの街道と都市およびショッピング事情について説明する。 学修の到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、比較文化に関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	テキストの9～24ページを読み、ドイツという国について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	テキストの25～35ページを読み、車社会、ルール、マイスター制度などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	テキストの35～44ページを読み、メディア、余暇、環境問題などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	テキストの44～52ページを読み、結婚、育児、学生生活などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	テキストの52～66ページを読み、大学、68年世代、サッカーなどについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	テキストの67～78ページを読み、ドイツの食文化について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	テキストの79～98ページを読み、ドイツの街道と都市およびショッピング事情について質問事項を整理しておくこと。テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2)「日本では」「XX国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、異文化、比較文化、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ ― その文化・歴史・社会 / 高橋 憲 / 郁文堂 / 978-4-261-01265-1
関連科目	比較文化論B、文学
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限

授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・ 新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。

科目名	比較文化論A (FB214670)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス・文化についての解説をする。
2回	テキストの解説と考え方についてを講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて講義する。
4回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編1)について解説する。
5回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編2)について解説する。
6回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編3)について解説する。
7回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編4)について解説する
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身で「文化」の定義を考えておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。

点)	達成目標 1、2 を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論A (FB214680)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス・文化についての解説をする。
2回	テキストの解説と考え方についてを講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて講義する。
4回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編1)について解説する。
5回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編2)について解説する。
6回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編3)について解説する。
7回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編4)について解説する
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身で「文化」の定義を考えておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。

点)	達成目標 1、2 を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論A (FB214690)
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス・文化についての解説をする。
2回	テキストの解説と考え方についてを講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて講義する。
4回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編1)について解説する。
5回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編2)について解説する。
6回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編3)について解説する。
7回	太平洋圏の文化(日本・沖縄編4)について解説する
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身で「文化」の定義を考えておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。

点)	達成目標 1、2 を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 A (FB214950)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	榎原 宥* (えばら ゆたか*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義オリエンテーションー私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何かというテーマで講義内容を説明する。
2 回	第一回講義の続きー「市民性の授業」の解説と憲法改正を含む政治の大きな流れについて、政権の動きを時系列で捉え、説明する。
3 回	立法への市民参加 (1) - 私たち周りにある究極の、また共通のルール = 憲法と、憲法改定論議について解説する。憲法は何のためにあるのかを共に考える。
4 回	立法への市民参加 (2) - 憲法の前文と第九条について、特に、自衛権の問題について解説する。
5 回	立法への市民参加 (3) - 民主主義とは何か、立憲主義とは何か、また、統治行為論とは何かについて解説し、現行憲法の意味合いを今一度共に考える。
6 回	ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説「荒野の 40 年」を題材に、第二次世界大戦敗戦国日本とドイツの戦後処理について解説する。
7 回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこへ向かおうとしているのか、今からの 50 年で君たちは何を体験するのか想像する。どのような「市民性」を発揮できるのか考える。
8 回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2 回	憲法改定についての自分の意見を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 講義期間は常にその意識を確認すること。また、その間、関連するニュースをチェックすること。)
3 回	日本国憲法の前文と第九条を読んでおくこと。(標準学習時間: 60 分)
4 回	自衛隊の歴史と、何のために存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60 分)
5 回	第 3 回、第 4 回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間: 60 分)
6 回	靖国神社問題の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60 分)
7 回	現在社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何かを考えておくこと。
8 回	第 1 回から第 7 回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120 分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務 = 社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、「三権」の内「立法」への市民参加について論ずる。皆に共通の社会ルールである日本国憲法を題材として、眼の前に迫る改憲に対する議論を様々な社会的側面より論議をする。今夏には参議院議員選挙が行われる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な(論理的で破綻のない)言葉や文章で表現出来ること。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義、立憲主義
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	最終試験100%で評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	社会と人間 B: 社会と人間 A では「三権」の内「立法」を取り上げるが、この関連科目の社会と人間 B では「行政」と「司法」への市民参加の課題を講義する。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	多人数の履修が予想されるため、講義(講師からの情報提供)中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分らなくなる可能性があるため、毎回の出席を心がけること。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。
実務経験のある教員	ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。
その他（注意・備考）	関連科目の「社会と人間B」の履修を要望する。

科目名	社会と人間 A (FB214960)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	榎原 宥* (えばら ゆたか*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義オリエンテーションー私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何かというテーマで講義内容を説明する。
2 回	第一回講義の続きー「市民性の授業」の解説と憲法改正を含む政治の大きな流れについて、政権の動きを時系列で捉え、説明する。
3 回	立法への市民参加 (1) - 私たち周りにある究極の、また共通のルール = 憲法と、憲法改定論議について解説する。憲法は何のためにあるのかを共に考える。
4 回	立法への市民参加 (2) - 憲法の前文と第九条について、特に、自衛権の問題について解説する。
5 回	立法への市民参加 (3) - 民主主義とは何か、立憲主義とは何か、また、統治行為論とは何かについて解説し、現行憲法の意味合いを今一度共に考える。
6 回	ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説「荒野の40年」を題材に、第二次世界大戦敗戦国日本とドイツの戦後処理について解説する。
7 回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこへ向かうかおもうとしているのか、今からの50年で君たちは何を体験するのか想像する。どのような「市民性」を発揮できるのか考える。
8 回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2 回	憲法改定についての自分の意見を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 講義期間は常にその意識を確認すること。また、その間、関連するニュースをチェックすること。)
3 回	日本国憲法の前文と第九条を読んでおくこと。(標準学習時間: 60分)
4 回	自衛隊の歴史と、何のために存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5 回	第3回、第4回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
6 回	靖国神社問題の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
7 回	現在社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何かを考えておくこと。
8 回	第1回から第7回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、「三権」の内「立法」への市民参加について論ずる。皆に共通の社会ルールである日本国憲法を題材として、目の前に迫る改憲に対する議論を様々な社会的側面より論議をする。今夏には参議院議員選挙が行われる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な(論理的で破綻のない)言葉や文章で表現出来ること。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義、立憲主義
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	最終試験100%で評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	社会と人間B: 社会と人間Aでは「三権」の内「立法」を取り上げるが、この関連科目の社会と人間Bでは「行政」と「司法」への市民参加の課題を講義する。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	多人数の履修が予想されるため、講義(講師からの情報提供)中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分らなくなる可能性があるため、毎回の出席を心がけること。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているため、 配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。
実務経験のある教員	ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。
その他（注意・備考）	関連科目の「社会と人間B」の履修を要望する。

科目名	社会と人間A (FB214970)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	市場恵子* (いちばけいこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【自尊感情とジェンダー】性に関するキーワード「sex, gender, sexuality」を理解し、エンパワメントの理念を学ぶ。
2回	【性の多様性と可変性】性同一性障害（性別違和）・性分化疾患・性的指向（同性愛・両性愛・無性愛）など、性的少数者への理解を深める。
3回	【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】妊娠・出産・中絶・不妊など、生殖に関する基本的知識や、「性的自己決定権」を尊重し合う関係を学ぶ。性暴力や売買春についても検証する。
4回	【障がいとともに生きる】「障がい」とは？ 自らの差別感や社会のバリアを検証する。
5回	【DVと虐待】アニメ『パパ、ママをぶたないで』を観て、DVや虐待について考える。DVのサイクル、子どもへの影響、被害者の救済と加害者の更生などを学ぶ。
6回	【デートDV】暴力や支配のない、お互いに尊重し合える対等なパートナーシップを学ぶ。
7回	【キャンパス・ハラスメント】キャンパスハラスメントとは？ハラスメントの防止対策を考える。
8回	【憲法とは何か？】（前半45分間講義）日本国憲法を守る義務を負うのは誰？ 憲法にはどんな役割があるのか。わかりやすい口語訳で解説する。
【試験】（後半45分間試験）	

回数	準備学習
1回	【自尊感情とジェンダー】シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。
2回	【性の多様性と可変性】テレビ番組や雑誌などで、性的少数者を差別・侮蔑・嘲笑したりする場面はないか、チェックしておくこと。同性婚が認められている国、日本の現状を調べておくこと。
3回	【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】男性性器・女性性器の科学的名称、避妊の方法、性感染症など、復習しておくこと。
4回	【障がいとともに生きる】大学や駅、公共施設などに設置されたトイレ・エレベーター・自販機など、障がいをもつ人にとって住みよい環境が整備されているかチェックしておくこと。
5回	【DVと虐待】DV（夫婦間暴力）や虐待はなぜ起きるのか。暴力の種類や影響について調べておくこと。
6回	【デートDV】交際中のカップルの間でどんな暴力が起きているのか、調べておくこと。
7回	【キャンパス・ハラスメント】本学ではセクハラ・アカハラ・パワハラを防止するために、どんな対策が行われているか、ガイドラインや相談窓口を調べておくこと。
8回	【憲法とは何か？】日本国憲法の前文と9条・12条・13条・14条・24条を読んでおくこと。
【試験】1～7回の資料にもう一度目を通しておくこと。	

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	自尊感情、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、性的少数者、性同一性障害、性的指向、インターセックス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ、避妊、性感染症、性暴力、売買春、障がい、発達障害、虐待、いじめ、DV、デートDV、セクハラ、アカハラ、パワハラ、日本国憲法
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回講義後に提出するミニレポート50%、中間試験25%、最終評価試験25%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	憲法学・心理学・社会学など
参考書	山口のり子『愛する・愛される～デートDVをなくす若者のレッスン7』、砂川秀樹『カミングアウトレターズ』、安積遊歩『いのちに贈る超自立論』、熊谷晋一郎・綾屋紗月『発達障害当事者研究』、夾竹桃ジン『コミックちいさいひと（1～6巻）』、井上ひさし『けんぼうのおはなし』、谷

	口真由美『日本国憲法～大阪おばちゃん語訳～』
連絡先	P C メール：kei3@po1.oninet.ne.jp T & F：086-277-7522
授業の運営方針	社会と人間に関する情報や枠組みを提供し、自分の心と頭で感じたり考えたりすることを促す。 毎回、コメントペーパーを書いて提出してもらい、質問や異論があれば、次回講義の冒頭でできるだけ答えるようにする。 試験は資料・ノートの持ち込みで行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	質問や異論があれば、コメントペーパーに書いてもらい、次回講義で答える。 最終試験の模範解答と解説は、教務課と相談の上で公開する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影も事前の打ち合わせで必要とあれば許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 A (FB214980)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。 * 国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* 古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。
3 回	* 古典とする環境問題/人口論について説明する。
4 回	* 人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
5 回	* 世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
6 回	* 日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。 * 基本的な国際時事用語を学ぶ。
7 回	* 水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。
8 回	* 「人口」と「食糧」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。 * 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。日本の置かれている立場について最低限の知識をつけておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食糧」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国というの立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを通じて具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	40年以上 日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	福祉環境論 A (FB215120)
英文科目名	Welfare Environmental Science A
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義のガイダンス (福祉の目的、意義、講義概要) をする。 マズローの「自己実現」について説明する。
2 回	現代社会の深刻な課題である少子高齢化や介護等の福祉環境について説明する。 人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人間の「幸せ」について説明する。
3 回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について説明する。「障がい」とは何か、について説明する。
4 回	障がい者差別解消法について説明する。「人にやさしい街づくり」について説明する (DVD等)。
5 回	「バリアフリー」や「誰もが使いやすい道具」「ユニバーサルデザイン」について説明する。
6 回	視覚障がい者の疑似体験をする。「人にやさしい家づくり」について説明する (DVD等)。
7 回	「人にやさしい道づくり」について説明する (DVD等)。
8 回	これまでのまとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。受講者調整の可能性があるので必ず出席のこと。(標準学習時間60分)
2 回	福祉の目的、意義について復習すること。人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人生の「幸せとは何か」について考え、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	福祉に関する条約や法規について復習すること。「人にやさしい街づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	「人にやさしい街づくり」の内容について復習すること。「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について復習すること。「人にやさし家づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	「人にやさしい道づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
8 回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法について学び、「障がい」理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の意味や自己実現、合理的配慮の適切な提供について理解する。 (4領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
達成目標	1)「障がい」、「障がい者」の本質的意味について説明できること。2)「支援される人」、「支援する人」、「社会」におけるそれぞれのバリアについて理解し、支援についての適切な合理的配慮の提供を説明できること。3)一人ひとりの人間の生涯と「障がい」が深く関わっていることを理解し、それが社会全体の共通課題として説明できること。 (4領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、障がい者差別解消法
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	課題提出 2 回 (30%)、グループディスカッションワークシート (10%) 最終評価試験 (60%)
教科書	適宜配布する。
関連科目	健康の科学。生涯スポーツ (ヨット) およびスポーツと フィールド科学 (ヨット) では、障がいのある学生も受講できるように ユニバーサルデザインのヨット用いて授業のバリアフリー化を図っている。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	B 3 号館 3 階 西村 (次) 研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。

	・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	ワークシートや視覚教材を用いて、ペアやグループによるディスカッションを行い授業を進めていきます。「障がい」の疑似体験ではグループディスカッションを行い意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題や最終試験のフィードバックとして、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	受講者の積極性を期待している。 ・知識を応用し、体験により考え、創造性の育成を図っている。 ・本講義ではアクティブラーニングを行うため、受講者が多数の場合は受講者制限をする場合がある。

科目名	福祉環境論 A (FB215130)
英文科目名	Welfare Environmental Science A
担当教員名	土橋恵美子* (つちはしえみこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目的、進め方、平等と公平について説明する。
2 回	障害者差別解消法と合理的配慮について説明する。
3 回	聴覚障がいとその程度・二次障害について説明する。
4 回	聴覚障がいおよび視覚障がいの疑似体験を実施する。
5 回	重複障がいの疑似体験を実施する。
6 回	聴覚障がい学生支援について説明する。
7 回	手話通訳の起源とろう文化について説明する。
8 回	第 1 回から第 7 回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	障がい者の差別に関する日本の現状について考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	聴覚障がいについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	聴覚障がいおよび視覚障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	重複障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	聴覚障がい学生支援について考えておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	手話の歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第 1 から第 7 回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法等を学び、障がい理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の本質的意味、自己実現や合理的配慮の適切な提供について理解する。
達成目標	「障がい」、「障がい者」の本質的意味について、説明できること。 「支援される人」、「支援する人」、「社会」における、それぞれのバリア（障壁）について理解し、支援について適切な合理的配慮の提供を説明できること。 生きていくことと「障がい」は深く関わっていることを理解し、一人ひとりの人間や社会全体の共通課題として説明できること。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	グループワーク（ディスカッション）への貢献40%、講義最終日の試験（最終評価試験）60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
関連科目	健康の科学
参考書	適宜紹介する
連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	・授業で重視するのは覚えることより、疑似体験を通して知り、理論を用いて説明できること。 ・グループワーク（ディスカッション）を通して、積極的に参加する態度を求める。 ・クラスメイトの意見から新たな気づきを得、自分の言葉で説明できること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、ペアワーク ・疑似体験や事例紹介の後、自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。
課題に対するフィードバック	グループワークやディスカッションの発表は、その場で模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。
実務経験のある教員	現在、同志社大学障がい学生支援室勤務。同障がい学生支援室における15年のコーディネート経験を活かし、高等教育における障がい学生支援の状況、および課題とその対策方法について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	芸術A (FB215700)
英文科目名	Arts A
担当教員名	津上崇* (つがみたかし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の進め方について説明する。楽譜を理解するための音楽の基礎知識（音の高さ）を説明する。
2回	スピーチや歌声のための発声の仕組みを理解し呼吸法を実施する。楽譜を理解するための音楽の基礎知識（音の長さ）を説明する。
3回	歌における美しい日本語の発音を学習すると共に呼吸法、体操を実施し発声法を理解する。様々な音楽ジャンルを鑑賞し音楽の流れを学習する。
4回	呼吸法や体操を通してスピーチなどでよく伝わる声を学習する。世界各国の音楽文化における発声法を鑑賞を通して学習する。
5回	魅力的な声とは何かを学習しミュージカルなどの芸術作品を鑑賞する（1）。合唱曲を例に歌うことを実践する。
6回	合唱曲をパート別に練習し、ハーモニーの魅力を感じながら演奏する。ミュージカルなどの芸術作品を鑑賞する（2）。
7回	合唱曲、アンサンブルを練習しより良い声の響き方を学び演奏する。ミュージカルなどの芸術作品を鑑賞する（3）。
8回	第1回から第7回までの総括をする。実技発表で合唱やアンサンブル演奏をする。文化としての音楽、良い声とは何かをまとめ発表する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認。音楽の基礎知識について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	呼吸練習と音楽の基礎知識について復習しておくこと。（標準学習時間90分）
3回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。プリントの歌詞を読んでおくこと。（標準学習時間90分）音楽ジャンルをまとめて理解しておくこと。
4回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。プリントのテキストを読んで練習しておくこと。（標準学習時間90分）各国の音楽文化をまとめて理解しておくこと。
5回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。鑑賞作品について内容を理解し感想をまとめておくこと。プリントの歌詞を読んでおくこと。（標準学習時間90分）
6回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。鑑賞作品について内容を理解し感想をまとめておくこと。プリントの歌詞を読んでおくこと。（標準学習時間90分）
7回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。鑑賞作品について内容を理解し感想をまとめておくこと。自分のパートの音を確認しておくこと。（標準学習時間90分）
8回	発声法について、音楽と自分のこれからの関わりについて、自分の考えをまとめておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	人類の文化遺産の一つでもある音楽は、喜びや感動を与え、夢中にさせ、そして悲しみを癒してくれる。唱歌や合唱曲を実際に演奏し、歌唱実技を通じて音楽をより身近なものとし、より良い感性を身に付ける。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)発声の基礎的技術と身体の機能を学ぶことで自分自身の「こえ」を楽器として使い、また歌うことだけに限らず「声」を発する力をつけることができる。 2)音楽を愛好することで想像力を育むことができる。 3)音楽の美を感受するために優れた音楽作品と演奏に触れ感受力を高めることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与している。
キーワード	音楽 声楽 合唱 発声
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	課題への取り組み 60%、実技発表 40%、 総計で60%以上を合格とする。
教科書	適宜プリントを配布する。
関連科目	文化と芸術
参考書	
連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	音楽教室(ML教室)の使用マナーに注意する。発声や朗読など実技が伴う授業であるから積極的な参加が必要である。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	実技に関してはその都度課題点をあげレッスンを行う。提出課題においては授業を理解し自分の考えが述べられた内容であること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音／録画／撮影は原則認められない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	音楽室定員４８人より受講者数を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	スポーツとフィールド科学（ゴルフ）【木1木2】（FB216230）
英文科目名	Sports (Golf)
担当教員名	藤井健平*（ふじいけんぺい*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス（授業目的、達成目標、評価、内容説明）を行い、ゴルフの歴史、ルール、マナーについて説明する。
2回	・ゴルフ練習場の施設利用や使用マナーについて説明する。 ・クラブの握り方（グリップ）、スタンス・姿勢、クラブの振り方について説明する。 ・SW（サンドウエッジ）を使って基礎練習をする。
3回	・グリーン上でのパターを使ったパッティング練習をする。 ・グリップ、スタンス、姿勢、ルール、マナーについて説明をする。 ・SW（サンドウエッジ）を使って距離の打ち分け等の基礎練習をする。
4回	ショートコースにおいて、起伏のある芝での打撃練習をする。 バンカー練習場においてバンカーの打撃練習をする。 打撃練習場で打撃練習をする。
5回	・様々な立地条件下での打撃練習をする。 ・ルールやマナーを確認、説明する。 ・ショートアイアン、ミドルアイアンの打撃練習をする。
6回	・グループに分かれ、パッティング、バンカー、ショートコースでの練習をする。 ・ふり返りと課題解決のグループディスカッションを行う。 ・ドライバー、フェアウェイウッドの打撃練習をする。
7回	・グループに分かれ、ショートコースにおいてグループ対抗のコンペを行う。
8回	・ゴルフ場コースにおいて、グループ対抗コンペを実施する。 ・ゴルフ場のコース管理やマネジメントについても体験する。

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、講義概要を把握しておくこと。ゴルフの文化、ルール、マナーについて予習を行うこと。（標準学習時間60分）
2回	姿勢やグリップ、身体の使い方等の基本技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3回	クラブの種類と特徴について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
4回	ショートアイアンの基本的な技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
5回	ショートアイアンの基本的な技術について復習すること。ゴルフのルールやマナーについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
6回	グリーン上でのルールやマナーについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
7回	ルールについてまとめておくこと。（標準学習時間60分）
8回	ゴルフ場の管理、運営について調べておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	・ゴルフの基本的な技術やコースマネジメントを修得するとともに、ルールやマナーを身につけ実践力を養う。 ・生涯スポーツとして、ゴルフを実践できる能力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	・ゴルフの基本的な技術を習得するとともに、ルールやマナーも身につける。 ・ショートコースやゴルフ場コースでラウンドができること。 ・生涯スポーツの基礎として、ショートコース9ホールでスコア55を達成目標とする。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	アイアンクラブ、パター、バンカー、グリーン、ルール、マナー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	技術、ショートコーススコア（60%）、ルール、マナーなどの知識（40%）
教科書	適宜指示する
関連科目	生涯スポーツ
参考書	適宜指示する
連絡先	B3号館 3階 西村（次）研究室
授業の運営方針	・受講者が30人以上の場合は、人数制限の抽選を行う（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 ・1回目の授業には必ず出席のこと。

アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして、グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	提出課題等のフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を行う。 配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・初回はC 1号館柔道場で行います。・2回目以降は山陽みのるゴルフ練習場で実施します。 ・ゴルフクラブ、ゴルフ靴は貸し出します。 ・ショートコースとゴルフ場コースに出てラウンドします。 ・外部施設を利用するので、経費が必要となります（初回に説明）。

科目名	スポーツとフィールド科学（ゴルフ）【金1金2】（FB216240）
英文科目名	Sports (Golf)
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（授業目的、達成目標、評価、内容説明）を行い、ゴルフの歴史、ルール、マナーについて説明する。
2 回	・ゴルフ練習場の施設利用や使用マナーについて説明する。 ・クラブの握り方（グリップ）、スタンス・姿勢、クラブの振り方について説明する。 ・SW（サンドウエッジ）を使って基礎練習をする。
3 回	・グリーン上でのパターを使ったパッティング練習をする。 ・グリップ、スタンス、姿勢、ルール、マナーについて説明をする。 ・SW（サンドウエッジ）を使って距離の打ち分け等の基礎練習をする。
4 回	ショートコースにおいて、起伏のある芝での打撃練習をする。 バンカー練習場においてバンカーの打撃練習をする。 打撃練習場で打撃練習をする。
5 回	・様々な立地条件下での打撃練習をする。 ・ルールやマナーを確認、説明する。 ・ショートアイアン、ミドルアイアンの打撃練習をする。
6 回	・グループに分かれ、パッティング、バンカー、ショートコースでの練習をする。 ・ふり返りと課題解決のグループディスカッションを行う。 ・ドライバー、フェアウェイウッドの打撃練習をする。
7 回	・グループに分かれ、ショートコースにおいてグループ対抗のコンペを行う。
8 回	・ゴルフ場コースにおいて、グループ対抗コンペを実施する。 ・ゴルフ場のコース管理やマネジメントについても体験する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、講義概要を把握しておくこと。ゴルフの文化、ルール、マナーについて予習を行うこと。（標準学習時間60分）
2 回	姿勢やグリップ、身体の使い方等の基本技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	クラブの種類と特徴について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	ショートアイアンの基本的な技術について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	ショートアイアンの基本的な技術について復習すること。ゴルフのルールやマナーについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	グリーン上でのルールやマナーについて予習しておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	ルールについてまとめておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	ゴルフ場の管理、運営について調べておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	・ゴルフの基本的な技術やコースマネジメントを修得するとともに、ルールやマナーを身につけ実践力を養う。 ・生涯スポーツとして、ゴルフを実践できる能力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	・ゴルフの基本的な技術を習得するとともに、ルールやマナーも身につける。 ・ショートコースやゴルフ場コースでラウンドができること。 ・生涯スポーツの基礎として、ショートコース9ホールでスコア55を達成できること。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	アイアンクラブ、パター、バンカー、グリーン、ルール、マナー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	技術、ショートコーススコア（60％）、ルール、マナーなどの知識（40％）
教科書	適宜指示する
関連科目	生涯スポーツ
参考書	適宜指示する
連絡先	B3号館 3階 西村（次）研究室
授業の運営方針	・受講者が30人以上の場合は、人数制限の抽選を行う（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 ・1回目の授業には必ず出席のこと。

アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして、グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	提出課題等のフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を行う。 配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・初回はC 1号館柔道場で行います。・2回目以降は山陽みのるゴルフ練習場で実施します。 ・ゴルフクラブ、ゴルフ靴は貸し出します。 ・ショートコースとゴルフ場コースに出てラウンドします。 ・外部施設を利用するので、経費が必要となります（初回に説明）。

科目名	スポーツとフィールド科学（テニス）【水3水4】（FB216300）
英文科目名	Sports (Tennis)
担当教員名	森博史（もりひろし）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業実施場所、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いてテニスの歴史、用具等について説明する。
2 回	テニス場の利用方法とマナーについて説明する。続いてラケットの握り方（グリップ）、立ち方（スタンス）、ラケットの振り方（スイング）について説明する。ボールになれる練習を行う。グラウンドストローク（フォアハンド、バックハンド）の練習をする。
3 回	グラウンドストロークで簡易ゲームをする。サーブとレシーブの説明をする。サーブ・レシーブから始める、グラウンドストロークでの簡易ゲームをする。
4 回	ネットプレー（ボレー、スマッシュ）について説明をする。ボレー、スマッシュの練習をする。ゲームでネットプレーが使われる場面について説明をした後、パターン練習とゲームをする。
5 回	シングルのルールと審判法について説明する。シングルのプレースタイルについて説明をする。シングルのゲームをする。
6 回	ダブルスのルールと陣形（フォーメーション）について説明をする。ダブルスのゲームをする。実技テストの説明と練習をする。
7 回	実技テストを行う。続いて、戦術を考えながらゲーム（シングル、ダブルス）をする。
8 回	リーグ戦形式でゲーム（シングル、ダブルス）をする。講義全体の振り返りとまとめをする。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：テニスの歴史、用具等についてまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
2 回	予習：グラウンドストロークについて調べておくこと。復習：テニス場の利用方法とマナー、グリップ、スタンス、スイングについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
3 回	予習：サーブとレシーブについて調べておくこと。復習：グラウンドストローク、サーブ、レシーブについてまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
4 回	予習：ネットプレー（ボレー、スマッシュ）について調べておくこと。復習：ゲームでネットプレーが使われる場面についてまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
5 回	予習：シングルのルールと審判法について調べておくこと。復習：シングルのプレースタイルについてまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
6 回	予習：ダブルスについて調べておくこと。復習：ダブルスのルールとフォーメーションについてまとめておくこと。“テニス”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間 1 2 0 分）
7 回	予習：ゲーム（シングル、ダブルス）の戦術について調べておくこと。復習：ゲームで行った戦術をまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）
8 回	予習：リーグ戦の組み方について調べておくこと。復習：テニスを通して生涯スポーツの意義と役割についてまとめておくこと。（標準学習時間 6 0 分）

講義目的	テニスの技術を習得すると同時に、体力の向上や公正・協力・責任などの社会的態度を身につけ、生涯を通じて継続的にスポーツや運動を実践していける習慣や態度を育てる。（人間・社会科学教育科目の到達目標に対する関与程度の関心・意欲・態度にもっとも強く関与する）
達成目標	1) テニスの基本技術を習得する。（技能） 2) シングル、ダブルスのルールと審判法を習得する。（知識・理解） 3) プレースタイルや陣形（フォーメーション）、戦術を考えられる能力を身につける。（思考・判断・表現） 4) ルールを順守する態度やマナー、安全への配慮などを身につける。（思考・判断・表現）
キーワード	グラウンドストローク、サーブ、レシーブ、ネットプレー、シングル、ダブルス、ルール、マナー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	積極性（20%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）、課題（10%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	健康の科学、生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	使用しない。
連絡先	研究室 B3号館5階 森 博史研究室 スアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp

オフィ

授業の運営方針	1 回目の授業はC1号館 2 階（トレーニングルーム 2：柔道場）で行う。 1 回目の授業には必ず出席すること。 3 0 名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 2 回目以降は笹ヶ瀬キャンパスのテニスコートで行う。雨天時は加計記念体育館で行う（体育館シューズを必ず用意すること）。 ラケット、ボールは貸し出す。 グループに分かれて授業を行うことがあるので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	岡山キャンパスと笹ヶ瀬キャンパス間の移動については、第1回目の授業で説明する。

科目名	ボランティア論 A (FB216610)
英文科目名	Introduction to Volunteer A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。受講生のボランティア体験についてディスカッションする。
2 回	受講シートの記入に取り組み、ボランティアのイメージとその背景について考察する。
3 回	ボランティアを行う動機とその具体的な事例について検証する。
4 回	近代社会の成立とそれに付随する社会問題を概観し、近代的ボランティアの発生と歴史について解説する。
5 回	ボランティアの具体的な事例を取り上げ、その問題点について検証する。
6 回	ボランティアの特徴とその可能性について解説する。
7 回	ボランティアをめぐる今後の課題を示し、最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：必ずシラバスに目を通しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。 (標準学習時間15分)
2 回	予習：自身のボランティア体験やボランティアに対するイメージをまとめておくこと。復習：ボランティアについての多様なイメージ、視点を確認すること。(標準学習時間30分)
3 回	予習：ボランティアに参加するきっかけについて考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：近代社会の特徴と、ボランティアの発生・歴史について調べておくこと。復習：ボランティアの歴史を整理すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習：ボランティアの現状と問題点について考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：ボランティアの特徴について考えておくこと。復習：ボランティアを定義するさまざまな特徴を整理すること(標準学習時間60分)
7 回	予習：ボランティアの意義について考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を整理し、最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	被災地での支援活動や地域のコミュニティ活動など、現代社会においてボランティアが果たす役割の重要度は増しているが、その一方で安易なボランティア募集や活動現場でのトラブルも多発している。本講義ではボランティアの具体的な事例を取り上げながら、参加の動機や活動の背景を分析するとともに、ボランティアの歴史と特徴およびその意義について多角的に検証し、理解を深める。4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
達成目標	1. ボランティアの語源と歴史を説明できる。 2. ボランティアに参加する多様な動機を説明できる。 3. ボランティアの現状と問題点、およびそれらの背景を説明できる。 4. ボランティアの特徴と意義を説明できる。 5. 上記1-4を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題についての考えを明確に述べることができる。 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
キーワード	ボランティア、NPO、社会貢献、フェアトレード、映画
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-5)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「ボランティアへの視線 - 映画を手がかりにして考える(改定版)」(ピンク版) / 蜻文庫
関連科目	ボランティア論 B
参考書	必要に応じて講義内で指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. ボランティアの事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。

	5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. ボランティアをめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役、現・NPO法人地域文化研究所代表理事 2. 企業による社会貢献活動の経験とNPO活動の経験を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席し、受講上の注意を確認すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 受講に際してボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	ボランティア論A (FB216620)
英文科目名	Introduction to Volunteer A
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち), 猪口雅彦(いのぐちまさひこ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【中継】 なし 【教室内】 講義の概要について説明する。 (全教員)
2回	【中継】 テレビ会議システムを使ったライブ配信により、改めてこの講義の進め方等について説明する。(予定講師: 山陽学園大学・澁谷俊彦教授) 【教室内】 グループを決定し、グループ内で自己紹介を行う。自分が行ってきたボランティア活動の内容およびボランティア活動のイメージについて出し合う。 (全教員)
3回	【中継】 大学コンソーシアム岡山の地域貢献活動について紹介する。(予定講師: 岡山商科大学・大崎統一教授) 【教室内】 学生が参画する地域貢献活動の企画案をグループ内で出し合う。 (全教員)
4回	【中継】 岡山県下の様々な地域貢献ボランティア活動について紹介する。また、現代社会におけるボランティア活動の意義と魅力について説明する。(予定講師: ゆうあいセンター職員) 【教室内】 学生が参画する地域貢献活動の企画案についてグループごとに発表する。 (全教員)
5回	【中継】 大学コンソーシアム岡山主催の「日ようび子ども大学」について全体的な説明を行う。(予定講師: 岡山理科大学・高原周一教授) 【教室内】 「日ようび子ども大学」の改善案をグループ内で出し合う。 (全教員)
6回	【中継】 「日ようび子ども大学」での実践を学生が報告する(1回目)。 【教室内】 「日ようび子ども大学」の改善案をグループごとに発表する。 (全教員)
7回	【中継】 「日ようび子ども大学」での実践を学生が報告する(2回目)。「日ようび子ども大学」の改善案について他大学の学生も交えて討論する。 【教室内】 これまでの授業内容を振り返る。 (全教員)
8回	【中継】 岡山市のESD(持続可能な開発のための教育)活動について説明する。(予定講師: 岡山市役所市民協働局ESD推進課職員) 【教室内】 学生が参画するESD活動の企画案をグループ内で出し合う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。大学コンソーシアム岡山についてインターネットで検索して調べておくこと。(標準学習時間30分)
2回	これまで自分が行ってきたボランティア活動についてまとめておくこと。ボランティア活動の経験がない人は、自分がボランティア活動に対して持っているイメージをまとめておくこと。(標準学習時間30分)
3回	学生が参画する地域貢献活動の企画案を考えておくこと。(標準学習時間30分)
4回	学生が参画する地域貢献活動の企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。(標準学習時間30分)
5回	岡山県下の様々な地域貢献ボランティア活動について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	「日ようび子ども大学」の改善案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。(標準学習時間30分)

7 回	「日ようび子ども大学」の改善案について、他のグループの発表内容も踏まえて再度考えておくこと。（標準学習時間30分）
8 回	ESD（持続可能な開発のための教育）について調べておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	大学コンソーシアム岡山が行っている子ども・環境・災害復興等に関係した地域貢献ボランティア活動を紹介し、その改善案・新規提案を考える中で、ボランティア活動についての実践的な知識と参加意欲を高めることを目的とする。岡山県内の複数の大学（本学・岡山商科大学・山陽学園大学・中国学園大学）をテレビ会議システムで結び、双方向ライブ型遠隔授業として実施する。講義の内容は、4大学を中心に、大学コンソーシアム岡山が共同で制作する。ボランティア論Aでは主に「日ようび子ども大学」を取り上げる。 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与。
達成目標	1. 大学コンソーシアム岡山がおこなっている地域貢献ボランティア活動について、その改善策もしくは新規の企画を提案することができる。（C） 2. 地域貢献ボランティア活動に関心を持ち、自分の感想・質問・意見を積極的に発言できる。（C） 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与
キーワード	大学コンソーシアム岡山 地域貢献活動 ボランティア活動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の授業で作成するレポートの内容85%（到達目標1を確認）、および発言の内容15%（到達目標2を確認）で評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	ボランティア活動A・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	高原周一：A1号館3階、 takahara[at]ped.ous.ac.jp 猪口雅彦：A1号館7階、 ino[at]dbc.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業は毎週約50分間の共同制作・同時中継の時間帯（授業内容欄では【中継】と表記）と、その前後で教室内で40分おこなう大学独自の内容（授業内容欄では【教室内】と表記）の合わせて90分からなる。【中継】の時間帯には外部講師の講義を聞くとともに他大学の学生と大いに情報交換する。【教室内】の時間帯には主にグループ討議・発表などのアクティブ・ラーニングを行う。受講生自身が講義を作り上げていくという意識で、積極的に講義に参加すること。グループ討議を含むので、欠席は極力避けること。欠席する場合は事前に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション グループ討議・発表という形式でアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業で提出するレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発言についてはその場でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	ボランティア論Bを続けて受講することが望ましい。

科目名	日本の文化と歴史 A (FB217300)
英文科目名	Culture and History of Japan II A
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：講義の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について、説明する。その後、日本文化の始まりの時代ー旧石器時代ーを概観する。さらにこの時代の日本列島と極東アジアの地形的な関係や、それに起因する日本列島への人類、動物などの移動にもついてもふれる。受講生の理解を促進するために、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示する。
2回	旧石器時代の文化を補足説明する。その後、次の時代である縄文時代を概観する。そして、この時代の文化について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
3回	前回に続いて、縄文時代の文化の補足説明の後、弥生時代を概観しこの時代に海外から入ってきた様々な文化について説明する。とくに我が国の基層文化である稲作文化が、弥生時代から開始されており、この文化について詳しく説明する
4回	古墳時代を概観し、いつからいつまでの時代なのかをまず説明する。その後、古墳とは何か、加えてこの時代の開始を告げる古墳について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
5回	前回に続いて、この時代の文化について、古墳自体の移り変わりや、当時の人々が作り出した様々なモノについて、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
6回	古墳時代の文化について補足説明をした後、奈良時代を概観する。そして、この時代の文化について、建築物、美術、書物、当時の首都の様子、そのあり方等について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
7回	奈良時代の文化について、補足説明をする。さらにこれまでの講義内容の整理とまとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた日本の文化とその歴史の補足説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	日本の旧石器時代について、図書館などで予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
2回	旧石器時代の文化について、ノートを中心に復習し、縄文時代の文化の内容を図書館等で、予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	弥生時代の文化について、ノートを中心に復習すること。古墳時代の文化について図書館等で、予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	古墳時代の文化について、ノートを中心に復習すること。古墳時代の文化の内容についてさらに詳しく図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	古墳時代の文化について、ノートを中心に復習すること。また次回の奈良時代の文化について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	奈良時代の文化について、ノートを中心に復習すること。また、第1回目から今までの講義の内容のまとめと整理を各自おこない、そして疑問点などがあれば、次回の講義時に質問すること。(標準学習時間 120分)
7回	第1回から第7回までの講義のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容についての復習を十分におこなうこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	日本人の過去の生活から生み出され、醸成されてきた日本の様々な文化について、原始古代から奈良時代までの各時代におけるその特色や、歴史的な形成過程をみていく。このことによって、外国人留学生の日本文化に対する理解を深め、さらには日本人や、日本の生活に一層の理解と親近感を増してもらうことを目的とする。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1. 日本の文化や、日本人の暮らしぶりを説明できる。 2. 日本の歴史について、概略を説明できる。 3. 日本の文化と母国の文化との差違、類似点を説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“日本史”、“日本文化史”、“日本思想史”
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（達成目標1～3）100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義の進行過程で資料をプリント等で配布する。
関連科目	”日本の文化と歴史IA”、”日本の文化と歴史IIA”、”日本の文化と歴史IIB”
参考書	講義の進行過程で、適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1)毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2)(1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3)出欠は毎回とる。 (4)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。もし無い場合は欠席扱いとなる。 (5)講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。 (6)毎回、日本語の辞書(電子辞書でも可)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この科目は、外国人留学生を対象とする科目であり、日本人学生は対象外となる。（学生便覧参照）

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217517)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2 回	「自己の将来設計」について、文書を作成し、その意味を考える。
3 回	「レポートの書き方」について説明する。
4 回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5 回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6 回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7 回	「知る」ことと「人生」について説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8 回	「言葉の違い」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
2 回	将来の目標について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
3 回	レポート作成の基本的な構成の型や、留意点について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
4 回	「作文」と「小論文」の違いについて、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
5 回	現代社会の「キーワード」「用語」について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
6 回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120分)
7 回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
8 回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、 調べておくこと。 (標準学習時間 120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 180分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。		
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。		
キーワード	1. 目的意識	2. 基礎知識	3. 実行力

	4．復習する 5．確認の徹底 6．授業内容の「ポイント」は、必ずメモを取る。 7．文章を書く「目的・意義」の完全な理解
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50％）、ワークシート（50％）
教科書	「60歳からの健康人生」／執筆者代表 崎重敏幸／ ／株式会社 ライフ・サポート／ ／ISBN978 - 4 - 9 9 0 7 1 1 0 - 0 - 9 ●授業に必要な「資料」「プリント」を、適宜、配布する。
関連科目	
参考書	●プレゼンテーション基礎編
連絡先	●適宜、指示する
	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	● 最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容について、質問や要望についての、やり取りができるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次の授業の最初に配布し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。 ● 授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。また、プリント内容は、復習資料としても活用できることも考慮している。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	● 授業における「提出課題」については、授業終了後に提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。 ● 時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締切後の二週間後の授業の最初に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	● 合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。
実務経験のある教員	● 講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。 ● 高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画の特色や重要性なども紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある、「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217518)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3 回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4 回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6 回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7 回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3 回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4 回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	予習：「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習：「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7 回	予習：「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習：「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8 回	予習：「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習：「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠を示
------	--

	し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。 最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができている場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217519)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方 (自己紹介、自分史作成の準備) を説明する。
2 回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3 回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6 回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7 回	グループで協同学習した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと (標準学修時間120分)
3 回	配布資料を読んで予習をしておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと (標準学修時間120分)
4 回	予習として、配布資料を熟読し、その内容をマインドマップを使い整理してくること (標準学修時間120分)
5 回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと (標準学修時間120分)
6 回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと (標準学修時間120分)
7 回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習しておくこと (標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだ内容を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと (標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、大学での学びにおいて必要となる文章作成の基本的なスキルや知識を習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これら学術的な文章を作成するための基本的なスキルや知識は、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ 授業中に作成したワークシートの提出 (30%) ・ 小テスト (30%) ・ 課題提出 (40%)

	より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本講義は、文章表現法基礎編Bを受講することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217520)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3 回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4 回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6 回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7 回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3 回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4 回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	予習：「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習：「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7 回	予習：「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習：「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8 回	予習：「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習：「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠を示
------	--

	し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。 最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができている場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217521)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2 回	「自己の将来設計」について、文書を作成し、その意味を考える。
3 回	「レポートの書き方」について説明する。
4 回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5 回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6 回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7 回	「知る」ことと「人生」について説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8 回	「言葉の違い」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
2 回	将来の目標について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
3 回	レポート作成の基本的な構成の型や、留意点について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
4 回	「作文」と「小論文」の違いについて、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
5 回	現代社会の「キーワード」「用語」について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
6 回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120分)
7 回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
8 回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、 調べておくこと。 (標準学習時間 120分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 180分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。		
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。		
キーワード	1. 目的意識	2. 基礎知識	3. 実行力

	4．復習する 5．確認の徹底 6．授業内容の「ポイント」は、必ずメモを取る。 7．文章を書く「目的・意義」の完全な理解
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50％）、ワークシート（50％）
教科書	「60歳からの健康人生」／執筆者代表 崎重敏幸／ ／株式会社 ライフ・サポート／ ／ISBN978 - 4 - 9 9 0 7 1 1 0 - 0 - 9 ●授業に必要な「資料」「プリント」を、適宜、配布する。
関連科目	
参考書	●プレゼンテーション基礎編
連絡先	●適宜、指示する
	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	● 最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容について、質問や要望についての、やり取りができるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次回の授業の最初に配布し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。 ● 授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。また、プリント内容は、復習資料としても活用できることも考慮している。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	● 授業における「提出課題」については、授業終了後に提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。 ● 時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締切後の二週間後の授業の最初に返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	● 合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。
実務経験のある教員	● 講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。 ● 高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画の特色や重要性なども紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある、「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217522)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方 (自己紹介、自分史作成の準備) を説明する。
2 回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3 回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6 回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7 回	グループで協同学習した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと (標準学修時間120分)
3 回	配布資料を読んで予習をしておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと (標準学修時間120分)
4 回	予習として、配布資料を熟読し、その内容をマインドマップを使い整理してくること (標準学修時間120分)
5 回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと (標準学修時間120分)
6 回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと (標準学修時間120分)
7 回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習しておくこと (標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだ内容を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと (標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、大学での学びにおいて必要となる文章作成の基本的なスキルや知識を習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これら学術的な文章を作成するための基本的なスキルや知識は、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ 授業中に作成したワークシートの提出 (30%) ・ 小テスト (30%) ・ 課題提出 (40%)

	より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本講義は、文章表現法基礎編Bを受講することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217523)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方 (自己紹介、自分史作成の準備) を説明する。
2 回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3 回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6 回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7 回	グループで協同学習した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと (標準学修時間120分)
3 回	配布資料を読んで予習をしておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと (標準学修時間120分)
4 回	予習として、配布資料を熟読し、その内容をマインドマップを使い整理してくること (標準学修時間120分)
5 回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと (標準学修時間120分)
6 回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと (標準学修時間120分)
7 回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習しておくこと (標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだ内容を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと (標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、大学での学びにおいて必要となる文章作成の基本的なスキルや知識を習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これら学術的な文章を作成するための基本的なスキルや知識は、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ 授業中に作成したワークシートの提出 (30%) ・ 小テスト (30%) ・ 課題提出 (40%)

	より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本講義は、文章表現法基礎編Bを受講することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217524)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方 (自己紹介、自分史作成の準備) を説明する。
2 回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3 回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6 回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7 回	グループで協同学習した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと (標準学修時間120分)
3 回	配布資料を読んで予習をしておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと (標準学修時間120分)
4 回	予習として、配布資料を熟読し、その内容をマインドマップを使い整理してくること (標準学修時間120分)
5 回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと (標準学修時間120分)
6 回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと (標準学修時間120分)
7 回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習しておくこと (標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだ内容を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと (標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、大学での学びにおいて必要となる文章作成の基本的なスキルや知識を習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これら学術的な文章を作成するための基本的なスキルや知識は、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・授業中に作成したワークシートの提出 (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%)

	より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本講義は、文章表現法基礎編Bを受講することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217525)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方 (自己紹介、自分史作成の準備) を説明する。
2 回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3 回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5 回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6 回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7 回	グループで協同学習した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと (標準学修時間120分)
3 回	配布資料を読んで予習をしておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと (標準学修時間120分)
4 回	予習として、配布資料を熟読し、その内容をマインドマップを使い整理してくること (標準学修時間120分)
5 回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと (標準学修時間120分)
6 回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと (標準学修時間120分)
7 回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習しておくこと (標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだ内容を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと (標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、大学での学びにおいて必要となる文章作成の基本的なスキルや知識を習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これら学術的な文章を作成するための基本的なスキルや知識は、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ 授業中に作成したワークシートの提出 (30%) ・ 小テスト (30%) ・ 課題提出 (40%)

	より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本講義は、文章表現法基礎編Bを受講することが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217526)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「文章表現法」講義概説 をする。
2 回	文章の構成、アウトライン をする。
3 回	アウトライン作成 をする。
4 回	アウトラインの推敲 をする。
5 回	アウトラインの完成 をする。
6 回	序論・本論・結論の作成 1 をする。
7 回	序論・本論・結論の作成 2 をする。
8 回	小論文構成の再確認、 中間試験をする。
9 回	序論・本論・結論の作成 4 をする。
10 回	800 字小論文の完成・提出 をする。
11 回	別テーマによる二本目論文の作成 をする。
12 回	アウトライン添削・修正 をする。
13 回	800 字小論文作成 をする。
14 回	800 字小論文添削・修正 をする。
15 回	800 字小論文の完成 をする。
16 回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする。

回数	準備学習
1 回	学内PCにログインが出来るようにID/Passを用意しておく
2 回	各自PCにログインし、課題提出ページ・操作が出来るように確認しておく
3 回	課題テーマの草案 をすること。(標準学習時間60分)
4 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
5 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
6 回	アウトラインの仕上げ すること。(標準学習時間60分)
7 回	800 字小論文、序論の作成 すること。(標準学習時間60分)
8 回	800 字小論文、本論の作成 学習内容の再確認すること。(標準学習時間60分)
9 回	800 字小論文、結論の作成 すること。(標準学習時間60分)
10 回	800 字小論文の仕上げ すること。(標準学習時間60分)
11 回	アウトラインの復習 すること。(標準学習時間60分)
12 回	アウトライン作成 1 すること。(標準学習時間60分)
13 回	アウトライン作成 2 すること。(標準学習時間60分)
14 回	800 字小論文作成 すること。(標準学習時間60分)
15 回	800 字小論文仕上げ をすること。(標準学習時間60分)
16 回	800 字小論文、本論の作成 学習内容の再確認をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。

	9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％）・課題提出（50％）の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	プレゼンテーション
参考書	必要に応じて教室にて指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	論文という領域での客観的、論理的文章は、他の領域で綴られる文章とは別物であるということを知識として学習するだけではなく、実際に文章作成の練習を重ねて実感、体感しつつ体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	学習した客観的な論文文章の書き方に関する知識だけにとどまらず、それらを実際に項目ごと、ステップごとに作成作業の練習を繰り返す。試行錯誤の中で客観的かつ論理的な思考パターンと文章表現力を実感しながら獲得していく。
課題に対するフィードバック	論文の文章作成練習のステップごとに、提出された課題例文を、毎回教室全体で確認チェックし、自分の練習内容だけではなく、その他多くの具体的実例を参考に自分の文章作成を常にステップアップさせることが出来るようにする。 そのため、PC教室では一つのファイルにすべての課題提出例をまとめ、モニター画面でスクロールさせながら、そのステップごとのポイントを確認チェック、添削を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217527)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義ガイダンス (文章の書き方の基本説明) の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2 回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3 回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4 回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ (第一章段P5 ~ P7の5行目まで) を解釈する。
5 回	第一章段P7の 6 行目 ~ P10を解釈する。
6 回	P11 ~ P13の2行目までを緻密に解釈する。
7 回	P13の3行目 ~ P15までを緻密に解釈する。
8 回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。

回数	準備学習
1 回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2 回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3 回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8 回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (50%) ・課題提出 (50%) 教えたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」= プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」= 浅田次郎/朝日文庫
関連科目	文章表現法基礎編Bは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成 (表現) 能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、

	文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで文章表現基礎編Aではまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。従ってAのみではなく、Bも併せて受講してほしい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217528)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。課題作成について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。課題を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	課題文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217529)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。課題作成について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。課題を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	課題文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信機器の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217530)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義ガイダンス (文章の書き方の基本説明) の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2 回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3 回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4 回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ (第一章段P5 ~ P7の5行目まで) を解釈する。
5 回	第一章段P7の 6 行目 ~ P10を解釈する。
6 回	P11 ~ P13の2行目までを緻密に解釈する。
7 回	P13の3行目 ~ P15までを緻密に解釈する。
8 回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。

回数	準備学習
1 回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2 回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3 回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8 回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (50%) ・課題提出 (50%) 教えたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」= プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」= 浅田次郎/朝日文庫
関連科目	文章表現法基礎編Bは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成 (表現) 能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、

	文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで文章表現基礎編Aではまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。従ってAのみではなく、Bも併せて受講してほしい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217531)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。課題作成について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。課題を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	課題文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信機器の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217532)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義ガイダンス (文章の書き方の基本説明) の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2 回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3 回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4 回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ (第一章段P5 ~ P7の5行目まで) を解釈する。
5 回	第一章段P7の 6 行目 ~ P10を解釈する。
6 回	P11 ~ P13の2行目までを緻密に解釈する。
7 回	P13の3行目 ~ P15までを緻密に解釈する。
8 回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。

回数	準備学習
1 回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2 回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3 回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7 回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8 回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (50%) ・課題提出 (50%) 教えたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」= プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」= 浅田次郎/朝日文庫
関連科目	文章表現法基礎編Bは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成 (表現) 能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、

	文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで文章表現基礎編Aではまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。従ってAのみではなく、Bも併せて受講してほしい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217533)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。課題作成について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。課題を作成する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽 / 新・文章表現法 基礎編（群青色版） / 蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki（アットマーク）xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限（春学期、秋学期とも）
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	課題文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217534)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	佐藤美穂* (さとうみほ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス 講義の概要、進め方、評価方法等を理解する。 効果的な自己紹介のしかたについてポイントを学習し、書けるようにする。
2 回	自己紹介をする。 文章の記号と原稿用紙の使い方を理解し使えるようにする。 原稿用紙に書いた自己紹介文を推敲する。
3 回	文体 文の種類と文体、連用中止形を学習し使えるようにする。
4 回	話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の表現の違いを理解する。
5 回	正しい文の構造 主語と述語の関係、修飾する言葉とされる言葉の関係を理解する。
6 回	正しい文の構造 文末の制限を学習する。簡潔な文を書く練習をする。
7 回	先生宛でのEメールの書き方についてのポイントを学習し適切な文章が書けるようにする。
8 回	中間的な評価をするための試験を実施する。 知識の定着を図るため、試験後フィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認をすること。 第 2 回授業までに原告用紙に自己紹の文を書くこと。(標準学習時間60分)
2 回	原稿用紙の書き方、表記のルールについて復習すること。原稿用紙の書き方、表記のルールについて小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
3 回	復習により一つの文章に一つの文体が使われることを確認すること。また連用中止形の作り方と使い方を復習すること。これらについて小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
4 回	日本語で話すときと書くときの言葉の使い分けを復習すること。これについて小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
5 回	復習により、わかりやすい文を書くために必要な言葉の関係を確認すること。これについて小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
6 回	復習により文末の制限について確認すること。簡潔な文を書くために必要な事項を確認し、文章を書くこと。(標準学習時間60分)
7 回	復習により先生宛でのEメールの書き方のポイントを確認し、文章を書くこと。(標準学習時間60分)
8 回	文章の表記のしかたを確認すること。文の種類に合わせた文体、文型、語彙の使い分けを確認すること。話し言葉と書き言葉の違いと使い分けを確認すること。正しい文の構造を確認すること。(標準学習時間90分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	書き方のルール、構造、読み手、文章表現
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験 50% 課題提出 30% 小テスト 20% により評価し、総計で60%以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は授業開始後20分まで。それ以降の入室は欠席とする。早退は授業終了の20分前以降。それ以前の退出は欠席とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	本科目に引き続き「文章表現法基礎編B」を履修することが望ましい。 プレゼンテーション ・ 、日本語関連授業
参考書	適宜指示する
連絡先	mihosato0919@yahoo.co.jp
授業の運営方針	毎回出席して積極的に授業に取り組むこと。授業開始時に確認テストとして「小テスト」を実施するが遅刻すると受験できないので注意すること。また事後テストは行わない。課題が成績に大きく関わるので、期限を守って提出すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク 文章を書くにあたって、グループでディスカッションを行い、グループごとに意見を発表する。また互いに文章を推敲しあう活動を行う。
課題に対するフィードバック	授業時間内に実施する小テストは実施日に、課題は評価後にフィードバックする。 最終評価試験は実施日に模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中に配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は、出席者の資料をコピーすること。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け取る。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部、シラバスを変更する場合がある。受講者数の上限を50名とする。

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217535)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	生田夏樹 * (いくたなつき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章 (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する(1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2 回	文章 を要約する(2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3 回	文章 (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する(1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4 回	文章 を要約する(2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5 回	与えられたテーマA(「協力のあり方について」) の文章を作成する(1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6 回	与えられたテーマAの文章を作成する(2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7 回	与えられたテーマAの文章を作成する(3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8 回	与えられたテーマAの文章を作成する(4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施する
成績評価(合格基準)	60・ワークシート(50%)

点)	・課題提出(50%)
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法基礎編B」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」
参考書	プリント(資料)を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題(アウトライン作成または本文作成)に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	文章表現法基礎編 A (FB217536)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2 回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4 回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5 回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6 回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7 回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2 回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5 回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6 回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習: 最終評価試験について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽 / 新・文章表現法 基礎編（群青色版） / 蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・ 毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・ 出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・ 30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・ 提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・ 授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・ 提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。初回に出席していない学生の受講については制限する場合がある。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション基礎編 A (FB217830)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について説明する。 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	プレゼンテーションの準備について説明する。 プレゼンテーションを行うため、どのような準備をすればよいかを説明する。また、プレゼンテーションの構成や心得について説明する。
3 回	プレゼンテーションの進め方について説明する。 話し方やコミュニケーション（非言語も含む）について説明する。
4 回	効果的なプレゼンテーションの技法を説明する。 PowerPoint 実習を行いつつ、相手に伝わるスライドの構成について学ぶ。
5 回	スライド作成の実践 趣味の紹介のスライド作成を行う。趣味の概要、趣味の楽しさ、趣味の奥深さ、自分の趣味への誘いの 4 枚のスライドを作成する。
6 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
7 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8 回	1回目から7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。また、これまで学んだことで、関連する内容を復習しておくこと（標準学習時間120分）
2 回	よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションについて説明できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
3 回	プレゼンテーションの基本的構造を理解できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
4 回	プレゼンテーションにおけるコミュニケーション言動の要素について理解できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
5 回	PowerPoint の操作について不明な点が内容に操作方法について復習しておくこと（標準学習時間120分）
6 回	PowerPoint を使ってプレゼンスライドを完成させ、発表の準備を整えておくこと（標準学習時間120分）
7 回	復習として、目的を明確にした内容になるように、まとめておくこと。 予習として、相手を引き付ける工夫を考えておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	これまでの学んだ内容を整理し、復習しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。 （4 領域の項目では「技能」に最も強く関与している。）
達成目標	パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 自分の考えや主張を相手に伝えることができる。 （4 領域の項目では「技能」に最も強く関与している。）
キーワード	コミュニケーション、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・趣味の紹介パワーポイントの作成（25%） ・実際のプレゼンテーションを評価する（50%） 発表評価の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・ワークシート（25%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。

教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	プレゼンテーション基礎編B、文章表現法基礎編A・B、学びの基礎論A・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）等の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・プレゼンテーション基礎編Bを受講することが望ましい。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	プレゼンテーション基礎編A (FB217840)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概説 をする
2回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6回	PowerPoint資料の改良 をする
7回	PowerPoint資料を使ったりリハーサル・プレゼンテーション をする
8回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	PCにログインできるようID・PASSを手元に準備しておく
2回	スクリプト準備 すること
3回	スクリプト修正 すること
4回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5回	プレゼンテーション改良 すること
6回	PowerPointの作成 すること
7回	PowerPointの修正 すること
8回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	受講者は、 1. プレゼンテーションが何かを認識できる。 2. 代表的アプリケーションのPowerPointを理解、運用が出来る。 3. 実際に模擬発表の形でプレゼンテーションを体験し、質的向上を実現できる。 (パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、明確なアピールポイント) 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終提出(20%)の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
参考書	必要に応じて配布、指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	「プレゼンテーション」とは何か?をより明確に認識すること。プレゼンテーションに関する知識だけではなく、実際に模擬発表を重ねていくことでより認識を深め、知識に踏まえて技能を体感、体得することを目指す。 抽象的で主観的な話題で意味のないおしゃべりをして時間を過ごすことと、明確なアピールポイントをふまえた、論理的、戦略的なプレゼンテーションの区別を体感すること、そしてその認識の上で少しでも上質なプレゼンテーションの実現を、実感、体感、体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	講義で学習したプレゼンテーション全般に関する知識だけにとどまらず、それらをもとに、実際に発表可能な内容を構成し作り上げ、最終的な模擬発表を繰り返し行う中で、プレゼンテーションに関する知識を確かな認識とし、多くの人前での発表の経験値を多く獲得していく。
課題に対するフィードバック	授業ではプレゼンテーションに関する知識を得るだけではなく、それら知識をもとに、居室にて実際にほぼ毎回「模擬発表」を重ねていく。 模擬発表では、個々に必要な点、不可欠な点を確認チェックしていく。自分の模擬発表だけではなく、他人の模擬発表の問題点も、「たにんごと」ではなく「明日は我が身」と緊張感をもって学習できることを目指す。
合理的配慮が必要な学生	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供

生への対応	していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。

科目名	教養演習 A (FB218130)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	テキストの概要について説明するとともに、授業の進め方、成績評価などについても説明する。
2 回	哲学への誤解について議論する。
3 回	哲学と日常について議論する。
4 回	哲学の出発点について議論する。
5 回	哲学と時間について議論する。
6 回	哲学の歪みについて議論する。
7 回	哲学の存在理由について議論する。
8 回	学修の到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、教養関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	テキストの 1 ~ 1 4 ページを読み、哲学への誤解について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	テキストの 1 4 ~ 3 1 ページを読み、哲学と日常について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	テキストの 3 1 ~ 4 6 ページを読み、哲学の出発点について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	テキストの 4 6 ~ 5 7 ページを読み、哲学と時間について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	テキストの 5 7 ~ 7 0 ページを読み、哲学の歪みについて自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	テキストの 7 1 ~ 8 1 ページを読み、哲学の存在理由について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)自分の考えを整理できる。 2)説得力のある発言を行なえる。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	討論、思考、表現
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト(100%) (達成目標1,2を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	哲学の使い方 / 鷲田 清一 / 岩波新書 / 978-4-00-431500-1
関連科目	教養演習B、比較文化論AB、文学AB
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション: テキストおよび新聞記事に基づき受講者による討論を行なう。
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	企業と人間 A (FB218407)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業のイメージについてディスカッションする。
2 回	資本主義について基本的な説明を行い、受講シートの記入に取り組む。
3 回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行い、職業の事例を紹介する。
4 回	就活や雇用における日本的なシステムを分析する。
5 回	企業の社会的責任について考え、職業の事例を紹介する。
6 回	CSRの具体的な事例について検証し、職業の事例を紹介する。
7 回	ISOが示す企業の姿について考察し、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2 回	予習：資本主義の原理について調べておくこと。復習：資本主義の問題点をまとめること。(標準学習時間45分)(標準学習時間45分)
3 回	予習：会社の組織について調べておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：日本の企業風土について調べておくこと。復習：日本のシステムについてまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：企業倫理について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：企業の社会的責任について考えておくこと。復習：CSRの事例をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	予習：ISOについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間45分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」(黒版) / 蜻文庫
関連科目	企業と人間B、ボランティア論A・B、技術者の社会人基礎A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 A (FB218409)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業のイメージについてディスカッションする。
2 回	資本主義について基本的な説明を行い、受講シートの記入に取り組む。
3 回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行い、職業の事例を紹介する。
4 回	就活や雇用における日本的なシステムを分析する。
5 回	企業の社会的責任について考え、職業の事例を紹介する。
6 回	CSRの具体的な事例について検証し、職業の事例を紹介する。
7 回	ISOが示す企業の姿について考察し、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2 回	予習：資本主義の原理について調べておくこと。復習：資本主義の問題点をまとめること。(標準学習時間45分)(標準学習時間45分)
3 回	予習：会社の組織について調べておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：日本の企業風土について調べておくこと。復習：日本のシステムについてまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：企業倫理について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：企業の社会的責任について考えておくこと。復習：CSRの事例をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	予習：ISOについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間45分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」(黒版) / 蜻文庫
関連科目	企業と人間B、ボランティア論A・B、技術者の社会人基礎A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 A (FB218410)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。

	定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 A (FB218411)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。

	ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 A (FB218412)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。

	定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 A (FB218413)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。

	ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 A (FB218414)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2 回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3 回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4 回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5 回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6 回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7 回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。

	ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	キャリア形成講座A (FB218720)
英文科目名	Career Design A
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 (講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める) (演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク) (具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など) (全教員)
2回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 (桑田 朋美*)
3回	【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 (飯田 哲司*)
4回	【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 (桑田 朋美*)
5回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 (飯田 哲司*)
6回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 (飯田 哲司*)
7回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を高めると共に表現力アップを理解・実践する。 【中間レポート配布】翌週に提出 (回収) (桑田 朋美*)
8回	【発想力養成トレーニング】 これから求める人材の能力要件として注目度の高い「発想力」「思考力 (特にラテラルシンキング)」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理し

	て臨むこと。（標準学習時間 60分）
6 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。（標準学習時間 60分）
7 回	「第一印象：「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。（標準学習時間 60分）
8 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして除くこと。（標準学習時間 60分）

講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・8回目レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育関連企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	キャリア形成講座A (FB218730)
英文科目名	Career Design A
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 (講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める) (演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク) (具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など) (全教員)
2回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 (桑田 朋美*)
3回	【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 (飯田 哲司*)
4回	【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 (桑田 朋美*)
5回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 (飯田 哲司*)
6回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 (飯田 哲司*)
7回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を高めると共に表現力アップを理解・実践する。 【中間レポート配布】翌週に提出 (回収) (桑田 朋美*)
8回	【発想力養成トレーニング】 これから求める人材の能力要件として注目度の高い「発想力」「思考力 (特にラテラルシンキング)」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理し

	て臨むこと。（標準学習時間 60分）
6 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。（標準学習時間 60分）
7 回	「第一印象：「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。（標準学習時間 60分）
8 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして除くこと。（標準学習時間 60分）

講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・8回目レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司：元生命保険会社 管理職、元教育関連企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美：元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	地域フィールドスタディ A (FB219300)
英文科目名	Community Field Study A
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション (大学) 講義の概要、進め方、評価方法等の説明をする。この講義の目標設定を行う (学びはじめシートへの記入)。
2 回	グループ活動によるルール作り (大学) グループ活動を活性化し、やる気を持続させる方法について検討する。ブレインストーミング等、グループ活動をよりよいものにするための知識を説明する。
3 回	シーカヤックをツールとした実体験型教育 (安全教育、船の科学) (大学) 船の科学 (浮力、浮心、重心、抵抗、復元力) を知ることで、カヤックを安全に操作するための基本的な知識について説明する。その際、知識と経験を結びつける大切さも学ぶ。
4 回	シーカヤックをツールとした実体験型教育 (チームビルディング) (現地研修) カヤックの操作の基礎、安全な航行のための知識の基礎、実践を行う。
5 回	シーカヤックをツールとした実体験型教育 (チームビルディング) (現地研修) 学びへのレディネスを整えたうえで、海上でのチームによるカヤック航行を行う。
6 回	地域創生について学ぶ (大学) 地域創生とは何か、地域の特性について説明する。
7 回	地域創生について学ぶ (大学) 地域創生の事例について説明する。
8 回	フィールドワークの計画を作成 (大学) 目的や計画等を記入したワークシートを作成する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
2 回	チームビルディングに必要な力について考えておくこと(標準学修時間120分)
3 回	船の科学 (浮力、浮心、重心、抵抗、復元力) について調べておくこと(標準学修時間120分)
4 回	シーカヤックの操作方法について理解しておくこと(標準学修時間120分)
5 回	これまでの学びの理解を深め、体調管理をしておくこと(標準学修時間120分)
6 回	瀬戸内市牛窓町の地域の特性について調べておくこと(標準学修時間120分)
7 回	地域創生の事例を調べておくこと(標準学修時間120分)
8 回	瀬戸内市牛窓町における課題を考えておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	瀬戸内市牛窓町地域を対象として、フィールドワークを行う。地域創生をテーマとし視察や調査を通じて、学生自らが課題や問題を発見することから始める。グループでの活動が中心になるため、チーム作りを行うためにシーカヤックを活用する。また、牛窓地域の自然を実体験する機会にもなる。このようなアクティブ・ラーニングにより、主体的に学ぶこと、課題解決能力を育成する。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	主体的な学びへのレディネス (態勢づくり) を整えることができる (E) 地域の活性化に向けて、調査対象に即した課題設定ができる (E) 調査研究や課題解決において他者との協働ができる (E)
キーワード	地域、シーカヤック、コミュニケーション、チームワーク
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	課題への取り組み (10%) 現地実習 (30%) レポート (30%) 課題研究発表 (30%)
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法A・B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村 (次) 研究室: jiro@ee.ous.ac.jp
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。・課題については、期限内に提出のこと。・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションや共同による自然体験型授業、グループ発表を行う。
課題に対するフィードバック	課題提出等のフィードバックは、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本科目の受講は「学びの基礎論」A・B単位修得者に限る。・本科目の実習費用については自己負担になる。詳細は初回の講義時に説明する。・実習の日程および内容は関係者等の調整により、変更する可能性がある。・講義中の録音/録画/撮影は認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。・集中講義で実習は岡山県瀬戸内市牛窓町において行う。

科目名	インターンシップ概論 (FB219809)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	出席率80%、提出物20%により評価する。
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/株式会社理想経営/株式会社理想経営
関連科目	インターンシップA・B・C、社会・産業実習、産業課題研究演習、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	株式会社CDLキャリアデザイン研究所 代表取締役 元東京ディズニーランド勤務 大学教育歴22年、10年間でのべ1万人を超える生徒の個別指導の実績を持つ 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 前期博士課程修了（社会福祉学修士） ・「人材教育支援事業」（管理者研修、役職者研修、新人社員、中堅社員、新人フォローアップ）等 ・「人材育成支援事業」（大学・短大・専門・高校・小中学校、父母、PTA）等
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219810)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	出席率80%、提出物20%により評価する。
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/株式会社理想経営/株式会社理想経営
関連科目	インターンシップA・B・C、社会・産業実習、産業課題研究演習、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	株式会社CDLキャリアデザイン研究所 代表取締役 元東京ディズニーランド勤務 大学教育歴22年、10年間でのべ1万人を超える生徒の個別指導の実績を持つ 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 前期博士課程修了（社会福祉学修士） ・「人材教育支援事業」（管理者研修、役職者研修、新人社員、中堅社員、新人フォローアップ）等 ・「人材育成支援事業」（大学・短大・専門・高校・小中学校、父母、PTA）等
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219811)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の提出物20%、レポート80%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	経営コンサルタントでの経験を活かして、企業の考え方、採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219812)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の提出物20%、レポート80%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	経営コンサルタントでの経験を活かして、企業の考え方、採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	文章表現法応用編 A (FB220230)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
2 回	文章表現の注意点 : リライトのポイントを解説する。
3 回	小論文を書く : 文章の組み立てを説明する。
4 回	小論文を書く : 準備した材料を使って文章化する。
5 回	ストーリーを書く : ストーリーを構想する。
6 回	ストーリーを書く : ストーリーを書く。
7 回	文章表現の注意点 : 表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。復習: 受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習: 文章表現で大切な点をまとめること。復習: リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3 回	予習: 文章の組み立て方を理解しておくこと。復習: 文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習: 指示されたテーマについて調べておくこと。復習: 組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習: ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習: ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習: ストーリーの構想を準備してくること。復習: 自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。復習: 表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8 回	予習: 指示されたテーマについて準備しておくこと。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかりと書くことができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編 B、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。

合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法応用編 A (FB220240)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
2 回	文章表現の注意点 : リライトのポイントを解説する。
3 回	小論文を書く : 文章の組み立てを説明する。
4 回	小論文を書く : 準備した材料を使って文章化する。
5 回	ストーリーを書く : ストーリーを構想する。
6 回	ストーリーを書く : ストーリーを書く。
7 回	文章表現の注意点 : 表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: シラバスを読んでおくこと。復習: 受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習: 文章表現で大切な点をまとめること。復習: リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3 回	予習: 文章の組み立て方を理解しておくこと。復習: 文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習: 指示されたテーマについて調べておくこと。復習: 組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習: ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習: ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習: ストーリーの構想を準備してくること。復習: 自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7 回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。復習: 表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8 回	予習: 指示されたテーマについて準備しておくこと。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかりと書くことができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編 B、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。

合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法応用編 A (FB220250)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。文章スキルの大切さについて解説する。
2 回	文章表現の注意点 (1) リライトのポイントを解説する。受講シートの記入に取り組む。
3 回	小論文を書く (1) : 文章の組み立てを説明する。
4 回	小論文を書く (2) : 準備した材料を使って文章化する。
5 回	ストーリーを書く (1) : ストーリーを構想する。
6 回	ストーリーを書く (2) : ストーリーを書く。
7 回	文章表現の注意点 (2) : 表記や表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習 : シラバスを読んでおくこと。復習 : 受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2 回	予習 : 文章表現で大切な点をまとめること。復習 : リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3 回	予習 : 文章の組み立て方を理解しておくこと。復習 : 文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習 : 指示されたテーマについて調べておくこと。復習 : 組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習 : ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習 : ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習 : ストーリーの構想を準備してくること。復習 : 自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7 回	予習 : 文章表現の注意点について考えておくこと。復習 : 表記や表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8 回	予習 : 最終評価試験の準備をしておくこと。復習 : 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1. 文章表現の基本を身につけている。 2. 自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3. 状況に応じた文章を書くことができる。 4. 文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	学修 (達成目標1-4) の到達度確認試験 (最終評価試験100%) により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編B、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、文章のポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション応用編A（FB220500）
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) A
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。プレゼンテーションの基本について解説する。
2回	パワーポイントの功罪について解説し、グループディスカッションを行う。受講シートの記入に取り組む。
3回	指示されたテーマについてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションの準備をする。
4回	プレゼンテーション演習を行う。
5回	プレゼンテーション演習を講評し、グループワークを行う。
6回	プレゼンテーションのツールと効果について解説し、自己分析に取り組む。
7回	指示されたテーマについて、グループディスカッションを行い、グループプレゼンテーションを準備する。最終評価試験について説明する。
8回	最終評価試験を実施する。試験後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意とプレゼンテーションの基本を確認すること。（標準学習時間15分）
2回	予習：パワーポイントの特徴について考えておくこと。復習：パワーポイントとディスカッションの内容についてまとめること。（標準学習時間45分）
3回	予習：指示されたテーマについて考えをまとめておくこと。復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。（標準学習時間60分）
4回	予習：指示されたテーマでプレゼンテーションを準備してくること。復習：プレゼンテーション演習の自己点検をすること。（標準学習時間120分）
5回	予習：プレゼンテーション演習の反省点をまとめてくこと。復習：グループワークの内容を整理すること。（標準学習時間60分）
6回	予習：プレゼンテーションのツールについて確認しておくこと。復習：自己分析の結果をまとめること。（標準学習時間45分）
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：ディスカッションの内容をまとめること。（標準学習時間60分）
8回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	プレゼンテーションの発想と応用範囲を確認し、就職活動や研究発表、社会生活に必要な社会人基礎力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する） 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1. プレゼンテーションの技法を実践できる。 2. プレゼンテーションに必要な発想と応用を理解できている。 3. 自らプレゼンテーションのテーマを見つけることができる。 4. 他と協力してミーティングやプレゼンテーションを企画運営できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学、研究発表、社会人基礎力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験（最終評価試験100％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション応用編B、プレゼンテーション基礎編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。

アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 受講生同士で各自の演習について感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内の講評やディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	技術者の社会人基礎 A (FB221040)
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。技術者の位置づけと現状を概観する。
2 回	技術者の社会人基礎力について解説する。受講シートの記入に取り組む。
3 回	文章表現の基本について解説する。自分の考えを文章化する。
4 回	情報や資料を理解し、その要点を自分の言葉で伝える。
5 回	プレゼンの基本について解説する。ディスカッションによって自分の考えを検証する。
6 回	プレゼン演習を行い、レポートに取り組む。
7 回	日本語の使い方について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を行う。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2 回	予習：技術者に必要なものは何か、考えておくこと。復習：社会人基礎力についてまとめること。(標準学習時間30分)
3 回	予習：テキスト「文章スキル編」第1章を読んで来ること。復習：自分の文章を点検しておくこと。(標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：指示されたテーマについて自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	予習：テキスト「プレゼン編」第1章を読んで来ること。復習：ディスカッションの内容を整理しておくこと。(標準学習時間45分)
6 回	予習：指示されたテーマでプレゼンを準備してくる。復習：プレゼンのレポートをまとめること。(標準学習時間90分)
7 回	予習：テキスト「文章スキル編」39頁を調べておくこと。復習：日本語の使い方についてまとめること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	技術者に求められる役割を理解するとともに、社会人基礎力の中核である「読む・聴く・書く・話す」というコミュニケーション能力の重要性について学ぶ。また就職活動や大学院進学に必要な一般社会でのマナーや常識、言葉遣いを身につける。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与する。
達成目標	1. 社会で必要となるマナーの基本が身についている。 2. 現代社会における技術者の役割について説明できる。 3. 自分で問題を見つけ、それを文章でわかりやすく表現できる。 4. 自分で問題を分析し、それを大勢の相手に話して伝えることができる。 5. 他人と協調してコミュニケーションをとることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与する。
キーワード	文章表現、日本語、社会人、技術者、プレゼンテーション、マナー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-5)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	技術者の社会人基礎B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、企業と人間A・B、ボランティア論A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、社会人としての基礎を具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を70名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	技術者の社会人基礎 A (FB221050)
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
2 回	* ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
3 回	* テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
4 回	* 手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 * 封書 (宛名・差出人) の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
5 回	* テーマに基づいた手紙を作成する。(標準学習時間 120分)
6 回	* 手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
7 回	* テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
8 回	まとめ

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2 回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。(標準学習時間 120分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4 回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 (標準学習時間 120分)
5 回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
6 回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 (標準学習時間 120分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ビジネスマナーにのっとった電話対応ができる。 コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、企業と人間
参考書	適宜、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を70名とする。

科目名	技術者の社会人基礎 A (FB221060)
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
2 回	* ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
3 回	* テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
4 回	* 手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 * 封書 (宛名・差出人) の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
5 回	* テーマに基づいた手紙を作成する。(標準学習時間 120 分)
6 回	* 手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
7 回	* テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
8 回	まとめ

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120 分)
2 回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
5 回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
6 回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ビジネスマナーにのっとった電話対応ができる。 コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、企業と人間
参考書	適宜、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を70名とする。

科目名	技術者の社会人基礎 A (FB221070)
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
2 回	* ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
3 回	* テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
4 回	* 手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 * 封書 (宛名・差出人) の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
5 回	* テーマに基づいた手紙を作成する。(標準学習時間 120 分)
6 回	* 手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
7 回	* テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
8 回	まとめ

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120 分)
2 回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
5 回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
6 回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ビジネスマナーにのっとた電話対応ができる。 コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、企業と人間
参考書	適宜、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を70名とする。

科目名	経営工学 A (FB221210)
英文科目名	Industrial Engineering A
担当教員名	西敏明* (にしとしあき*), 堀内満* (ほりうちみつる*), 柏原拓史* (かしはらたくし*), 加藤佑弥* (かとうゆうや*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「これからの10年間で逆算するための基礎講座」と題し、講師自身の10年間のキャリアを例としてキャリア戦略の重要性を説明する。 講義を通じて、受講者自身の今後の10年間で演繹的、帰納的に予測し、今後のキャリア戦略を各々が創出することを期待する。 (加藤 佑弥*)
2 回	1、建設生産の特徴 (建設業とは?) 「ものづくり」産業のひとつである建設生産の特徴、日本の建設業のしくみについて説明する。 2、建設生産における管理手法の特徴 建設業における「品質管理」「原価管理」の特徴を手順などを交えて紹介する。 3、最近の就職活動について思うこと 年々加熱する就職活動 (採用活動) について、採用に携わる身として思うことを紹介する。 (堀内 満*)
3 回	多様なキャリアとして、本業を持ちながら、NPO法人などで働くダブルキャリアが広がりつつある。大学で環境について学び、気象予報士として環境教育を仕事にしながら、若者支援のNPO法人を立ち上げ運営をしてきた経緯とその働き方について紹介する。その上で、これからの誰も体験したことがないスピードで変化する社会をどのように生きていくのか、どのような考え方を持つ必要があるかを説明する。 (柏原 拓史*)
4 回	経営と工学：工学からアプローチする際の経営の考え方、および経営工学の概略を説明する。 (西 敏明*)
5 回	ものづくりの取り巻く環境 (生産、しくみ、経済状況、地球環境) について説明する。 (西 敏明*)
6 回	オペレーションリサーチ、納期管理と工程管理について説明する。 (西 敏明*)
7 回	トヨタ生産方式について説明する。 (西 敏明*)
8 回	1-7回までの総括を解説し、説明する。また、ここまでの講義内容について振り返ると同時にここまでの講義内容について最終評価試験を実施する。 (西 敏明*)

回数	準備学習
1 回	自らの範となる人物 (例えば経営者・科学者・武将・偉人など) を選択し、20歳から30歳までの生涯を調べておくこと。 また、何故その人物を選択したか、一言で説明出来るように準備すること。(標準学習時間60分)
2 回	・建築物 (ビル、住宅) には、どのような材料や機器が使われているかについて調べておくこと。 ・「品質管理」「安全管理」「原価管理」の言葉の意味を調べておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	以下のことについて考えていくこと ・自分にとって働くとはどういうことか ・どのような人生を送りたいか ・自分の能力は何か (何が得意か、何が強みか) ・自分の熱意は何か (何をすることに熱くなるか)

	(標準学習時間60分)
4回	テキストの内容を目次と索引からどういう用語が使われているかを予習しておくこと。 講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
5回	前回の講義の復習と、テキストの「生産と生産現場を取り巻く環境」について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	前回の講義の復習と、テキストの納期管理と工程管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	前回の講義の復習と、テキストのトヨタ生産方式について予習しておくこと。講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
8回	今まで講義中に配布したテキスト、プリントを事前に予習しておくこと。 講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、理解しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化(例として、生産管理)の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 上記の事項は、特に4領域の中で「知識・理解」に関係している。
達成目標	・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる(A) ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける(B) ・企業などの実務家教員の講義により、社会や企業、技術者の役割についての関心を持つ(C) ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る(D) * ()は教育推進機構 教養教育センターの単位認定の方針(ディプロマポリシーに相当)の対応する項目(教育推進機構 教養教育センターのホームページ参照)
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験60点(4~7回分)とレポート40点(1~3回分)を合計し、その合計点で総合的に評価する。 但し、合計点において、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよくわかる本[第2版] / 菅間正二 / 秀和システム / 4798037303
関連科目	工学系基礎科目
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
授業の運営方針	授業の進め方は、最近の新聞記事から経営工学に関する話題を述べる。次いで、各回の授業内容を義して、最後にまとめをおこなう。 各回の授業終了後、質問がある場合は受け付けるので、積極的に質問をしてください。なお、質問内容で、重複する質問や特徴のある質問については、次回の講義の際に、復習を含めて述べる。このことにより、さらに授業の内容の理解の深化をしていきたい。なお、講義前、講義後に質問も受け付ける。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験を実施後、後半の講義で、模範解答と解説を実施する。 提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきま で、配慮が必要な場合は、必ず事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は、原則認めません(不許可)。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	加藤は田中貴金属工業株式会社勤務、堀内は株式会社大本組勤務、柏原はNPO法人だっぴ勤務、製品の設計・開発や現場での課題解決の実務経験を活かして、社会や企業、技術者の役割について

	説明する。
その他（注意・備考）	・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。

科目名	経営工学 A (FB221220)
英文科目名	Industrial Engineering A
担当教員名	西敏明* (にしとしあき*)、國田真由美* (くにたまゆみ*)、在本倫規* (ありもとみちのり*)、丸勇史* (まるいさふみ*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	製造業の経営要素である5M (人・機械・方法・材料+測定) を取り上げ、製品が完成するまでの流れを紹介する。 各工程での管理すべきポイントの説明を加えながら、工程間のハンドリングや荷姿、適切な在庫量について現場目線でお伝えする。 (在本 倫規*)
2 回	備前化成 (株) を紹介するとともに、食品の三次機能である生体調節機能を活かした機能性食品の市場動向について概説する。 また、皆さんが知る機能性食品がどのようにして生まれたのか、その開発の経緯や方法について説明し、研究者の視点から市場展開について講義する。 (丸 勇史*)
3 回	企業の「ヒト」に関する法律専門家として「知っておきたい働く時の基礎知識」というテーマで、社会に出る前に知っておくべき知識を身に付けるために、働く時のルールや保険制度などの仕組みを説明する。 (國田 真由美*)
4 回	経営と工学：工学からアプローチする際の経営の考え方、および経営工学の概略を説明する。 (西 敏明*)
5 回	ものづくりの取り巻く環境 (生産、しくみ、経済状況、地球環境) について説明する。 (西 敏明*)
6 回	オペレーションリサーチ、納期管理と工程管理について説明する。 (西 敏明*)
7 回	トヨタ生産方式について説明する。 (西 敏明*)
8 回	1-7回までの総括を解説し、説明する。また、ここまでの講義内容について振り返ると同時にここまでの講義内容について最終評価試験を実施する。 (西 敏明*)

回数	準備学習
1 回	オカネツ工業㈱ホームページにて事業内容を確認の上、自動車等に使用されるデファレンシャル機構について調べておくこと (標準学習時間60分)
2 回	特定保健用食品、機能性表示食品または栄養機能食品の何れかをコンビニエンスストアや量販店 (スーパーマーケット等) で探し、どのような商品があるか調べておくこと。 また、何れ1商品について、表面・裏面の記載内容をよく読んでおくこと (ネットで調べることも可)。 (標準学習時間60分)
3 回	社会で働く自分の将来像を描く上で、正社員とそれ以外 (契約社員・派遣社員・フリーランス) それぞれの違いとメリットとデメリットがどのようなものかを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	テキストの内容を目次と索引からどういう用語が使われているかを予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	前回の講義の復習と、テキストの「生産と生産現場を取り巻く環境」について予習しておくこと。

	講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	前回の講義の復習と、テキストの納期管理と工程管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
7回	前回の講義の復習と、テキストのトヨタ生産方式について予習しておくこと。講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
8回	今まで講義中に配布したテキスト、プリントを事前に予習しておくこと。 講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、理解しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化(例として、生産管理)の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 上記の事項は、特に4領域の中で「知識・理解」に関係している。
達成目標	・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる(A) ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける(B) ・企業などの実務家教員の講義により、社会や企業、技術者の役割についての関心を持つ(C) ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る(D) * ()は教育推進機構 教養教育センターの単位認定の方針(ディプロマポリシーに相当)の対応する項目(教育推進機構 教養教育センターのホームページ参照)
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験60点(4~7回分)とレポート40点(1~3回分)を合計し、その合計点で総合的に評価する。 但し、合計点において、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよくわかる本[第2版] / 菅間正二 / 秀和システム / 4798037303
関連科目	工学系基礎科目
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
授業の運営方針	授業の進め方は、最近の新聞記事から経営工学に関する話題を述べる。次いで、各回の授業内容を義して、最後にまとめをおこなう。 各回の授業終了後、質問がある場合は受け付けるので、積極的に質問をしてください。なお、質問内容で、重複する質問や特徴のある質問については、次回の講義の際に、復習を含めて述べる。このことにより、さらに授業の内容の理解の深化をしていきたい。なお、講義前、講義後に質問も受け付ける。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験を実施後、後半の講義で、模範解答と解説を実施する。 提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していき、配慮が必要な場合は、必ず事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は、原則認めません(不許可)。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	在本はオカネット工業株式会社勤務、丸は備前化成株式会社勤務、國田はみらいエール社会保険労務士法人勤務、 製品の設計・開発や現場での課題解決の実務経験を活かして、社会や企業、技術者の役割について説明する。
その他(注意・備考)	・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。

科目名	技術マネジメント A (FB221410)
英文科目名	Management of Technology A
担当教員名	中村修 (なかむらおさむ)
対象学年	3 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	企業活動を付加価値を創成することとして捉え、何故、企業経営に技術マネジメントが必要かなどを説明する。(第 1 章: MOT (技術経営))
2 回	いわゆるテクノロジーについて、技能、技術、科学の違いを説明し、さらに、付加価値の創成に必要な経営資源としての技術、何が継続的な付加価値の創成に必要なか?などを説明する。又、技術的なイノベーションについて説明する。(第 2 章: テクノロジー)
3 回	企業における知的財産及び知的財産権について、説明する。特許制度、特許化することの意味、要件について説明する。又、近年、問題となっている特許の対価について、404 特許問題を例に説明する。(第 3 章: 知的財産のマネジメント) レポート課題を提示する。
4 回	会社において、その企業の価値を高めるために(短期的には)、利益を上げる施策がしばしば要求される。このような企業の価値を考えるため、企業の総資産、純資産、自己資本などを学び、損益計算書、貸借対照表などについて、説明する。又、原価について説明する。又、短期的な利益を追求することが、長期的にどのような影響を及ぼす可能性があるか説明する。又、(第 4 章: アカウティングとファイナンス)
5 回	人材は企業にとって、重要な財産である。そこで、人能力評価や、更にモチベーションに重要な動機付けについて説明する。(第 5 章: ヒューマンリソース)
6 回	動機付けやモチベーションを高める方法を前回とは別の切り口で説明する。企業(組織)の出す成果を高める方法としてコーポレートコーチングについて説明する。(第 5 章: ヒューマンリソース、プリント配付)
7 回	製品開発になぜマーケティングが必要か。マーケティングとは何かを説明する。お客様にとって、魅力ある製品を次々に上市するために、その基礎となる技術シーズを継続的に作りだす必要がある。その手段としての研究開発や、その目標設定やテーマ設定や立ち塞がる 死の谷、ダ・ウインの海について説明する。(第 6 章: マーケティング 第 7 章: R&D)
8 回	簡単な総括とレポート課題の説明をする。最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義目的、講義内容、達成目標を把握しておくこと。GDP、GNPなどの用語を調べておくこと(標準学習時間60分)
2 回	付加価値とは何か復習すること。何故、企業経営に技術マネジメントが何故必要かを復習すること。技術的なイノベーションを復習すること(標準学習時間120分)
3 回	技術とは何かを理解し、経営資源としての技術の価値とは何か、また技術のロードマップの例としてのムーアの法則、技術的なイノベーションについて復習すること。(標準学習時間120分)
4 回	特許制度、特許化することの意味、特許の対価について、復習すること。(標準学習時間120分)
5 回	企業の総資産、純資産、自己資本、損益計算書、貸借対照表などについて復習すること。原価について復習すること。短期的な利益を追求することが、長期的にどのような影響を及ぼすかについて、自分なりに考えて見ること。(標準学習時間120分)
6 回	人が能力を発揮する上でモチベーションが重要であることを復習すること。又、動機付けやモチベーションについて復習すること。(標準学習時間120分)
7 回	企業にとっての研究開発の必要性、その目標設定やテーマ設定や立ち塞がる 死の谷、ダ・ウインの海について予習すること。(標準学習時間120分)
8 回	1～7回までに説明した技術マネジメントAについて復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	企業活動とは、単純に言えば、企業が生産などの活動によって新たに加えられた価値(=付加価値)を生み出す行為(製造業の場合、仕入れた原材料に付加価値を加える行為)のことである。この講義では、製造業における企業活動にまとをしばり、付加価値の創成に必要な経営資源としての技術を理解すること、知的財産及び知的財産権を理解することを目的とする。又、企業の価値を考えるため、企業の総資産、純資産、自己資本などを理解すること、企業などの組織が効率良く、利益を生み出すための人材育成重要性や仕組みなどを理解することを目的とする。(全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、B,Cに強く関与する。)
達成目標	1)付加価値及びGDP,GNPについて、説明できる。技術的なイノベーションとは何か説明できる(A)。 2)知的財産権を説明できる(A)。 3)企業の総資産、純資産、自己資本、原価を説明できる(A)。 4)組織の成果と組織の構成員のモチベーションの関係を説明できる(C)。

	5) 研究開発における 死の谷、ダ - ウインの海について説明できる (B)。
キーワード	付加価値、テクノロジー、イノベーション、原価、人材、モチベーション、死の谷、ダ - ウインの海
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	レポート (達成目標4) を評価 10%)、最終評価試験 (達成目標1) から5) を評価 90%) の総合評価により、総計60%以上を合格とする。
教科書	技術経営論入門 (わかりやすいIMOTの考え方) / 阿部隆夫 / 森北出版 / 978-4-627-87121-2C3050
関連科目	技術マネジメントB
参考書	技術経営入門 / 藤木健三 / 日経BP社 / 4-8222-4387-7-C2034 コーポレートコーチング (上) / 苅米地英人 / 開拓者 / 978-4-7589-7011-2
連絡先	メール o-nakamura@pub.ous.ac.jp 1階 研究・社会連携センター オフィスアワー 月1時限 C7号館2F 研究室 オフィスアワー 水3時限 A1号館
授業の運営方針	講義資料は必要に応じて講義開始時に配付する場合がある。後日配付にも応じるので、できるだけ、早く申し出ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	第3回のレポート課題に対しては、8回目の講義で解説等のフィードバックを行う。 最終評価試験終了後、フィードバックとして、採点結果を最終試験終了後1週間以内に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ○講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、他者への再配布 (ネットへのアップロードを含む) は禁止する。○講義中の録音 / 録画 / は事前に相談すること。他者への再配布 (ネットへのアップロードを含む) は禁止する。
実務経験のある教員	元カシオ計算機、凸版印刷の研究開発部門勤務の経験を活かし、製造業勤務者が専門以外のことで、知っておくべきこと、入社後の社員教育で十分な知識が得られないことを講義する。それ以外にも、社員のモチベーションがいかに重要かも講義する。
その他 (注意・備考)	

科目名	身近な物理学 (FB221620)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives I
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	天体の運動について説明する。どのような考えにより天動説が主張されたのか、またどのような観測結果に基づいて地動説が正しいとされたのかを説明する。
2回	地上の物体の運動について説明する。ガリレオが実証と論証に基づいて慣性の法則や落体・放物体の運動を明らかにした経緯を述べ、演示実験で確認する。
3回	ニュートンの運動の第1・第2・第3法則について説明する。演示実験により慣性の法則を確認し、また実験的にニュートンの第2・第3法則を検証する。
4回	円運動と万有引力の法則について説明する。円運動に関わる演示実験を行う。天体の運動に基づいて万有引力の法則が導出された過程を詳述する。
5回	仕事とエネルギーについて説明する。仕事とエネルギーの定義の妥当性、位置・運動エネルギーについて述べ、エネルギー保存則の演示実験を行う。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、温度と熱について説明する。温度と熱の相違や熱の正体に関する演示実験を行う。
7回	気体分子の運動と比熱について説明する。ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式が確立される過程について述べ、関連する演示実験を行う。
8回	これまでのまとめと到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.1~7を読んでノートにまとめ、天体の運動について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.8~17を読んでノートにまとめ、慣性の法則、速度・加速度の概念、落体・放物体の運動について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.18~23を読んでノートにまとめ、慣性や力の概念、力と加速度の関係、作用反作用と運動量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.24~30を読んでノートにまとめ、万有引力の法則、慣性質量と重力質量、円運動と角運動量保存則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.31~38を読んでノートにまとめ、仕事とエネルギーの概念、位置・運動エネルギー保存則の予習と、(標準学習時間60分)
6回	1~5回までの復習をすること。教科書p.39~47を読んでノートにまとめ、熱容量と熱の概念、熱の正体について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.48~62を読んでノートにまとめ、気体分子運動論や比熱、熱力学の法則について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.1~62までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	この授業は、我々の身の回りで生じる身近な物理現象を対象としてその現象を明解に説明するための物理的な考え方を培うことを目的としている。従って、最初に演示実験を行い、その結果から物理法則を導き、その法則を用いて身近な現象が生じる理由を説明する順序で授業を行う。また科学史を参照して、正しい知識を得るために先人達が試行錯誤した足跡をたどり、未知の現象に対応できる柔軟な思考力を培う。では、力学と熱に関係する授業を展開し、運動・エネルギー・熱に関する法則を導出し、その応用を学ぶ。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物理法則の確立の経緯、物理量の定義、身近な物理現象の原因、実験による物理法則の確認方法)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	速度、加速度、力、運動量、質量、仕事、エネルギー、温度、熱 ニュートンの運動の第1第・2第・3法則、万有引力の法則、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則、ボイル・シャルルの法則、熱力学の第1・第2法則
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(到達目標1~3を確認)を50点満点としてその評価点をx点とし、到達度確認テスト(到達目標1~3を確認)を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、A1号館1階の丸善キャンパスショップで販売する。
関連科目	

参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088-3 / みすず書房
連絡先	masuonakagawa12345@gmail.com
授業の運営方針	・高校における物理学の知識の多少は問わないが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学ぶので、必ず毎回出席してノートに記録すること。出席は、初回に配布する出席カードとバーコードリーダーを用いて毎回講義開始前に確認する。 ・物理学は特に論理的思考を重視する学問であるから、テストにおいても自筆ノートは持ち込み可とする。しかし、テストにおける不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	テストについては、テスト後あるいは次回の講義日に模範解答・解説・評価などのフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料等を提供することがある。 ・講義や演示実験は、大スクリーンに投影したPPT画像やカメラ画像を中心として行い、板書は最小限に留める。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元新コスモス電機(株)コスモス研究所勤務： 企業の研究所におけるセンサー開発の経験を生かして、思考力や創造力を高めるために必要な実践的勉強方法を講義を通して示す。
その他（注意・備考）	・以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある： 基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。 ・「物理学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学 Ⅰ」の履修を避けること。

科目名	身近な物理学 (FB221630)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives I
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	天体の運動について説明する。どのような考えにより天動説が主張されたのか、またどのような観測結果に基づいて地動説が正しいとされたのかを説明する。
2回	地上の物体の運動について説明する。ガリレオが実証と論証に基づいて慣性の法則や落体・放物体の運動を明らかにした経緯を述べ、演示実験で確認する。
3回	ニュートンの運動の第1・第2・第3法則について説明する。演示実験により慣性の法則を確認し、また実験的にニュートンの第2・第3法則を検証する。
4回	円運動と万有引力の法則について説明する。円運動に関わる演示実験を行う。天体の運動に基づいて万有引力の法則が導出された過程を詳述する。
5回	仕事とエネルギーについて説明する。仕事とエネルギーの定義の妥当性、位置・運動エネルギーについて述べ、エネルギー保存則の演示実験を行う。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、温度と熱について説明する。温度と熱の相違や熱の正体に関する演示実験を行う。
7回	気体分子の運動と比熱について説明する。ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式が確立される過程について述べ、関連する演示実験を行う。
8回	これまでのまとめと到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.1~7を読んでノートにまとめ、天体の運動について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.8~17を読んでノートにまとめ、慣性の法則、速度・加速度の概念、落体・放物体の運動について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.18~23を読んでノートにまとめ、慣性や力の概念、力と加速度の関係、作用反作用と運動量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.24~30を読んでノートにまとめ、万有引力の法則、慣性質量と重力質量、円運動と角運動量保存則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.31~38を読んでノートにまとめ、仕事とエネルギーの概念、位置・運動エネルギー保存則の予習と、(標準学習時間60分)
6回	1~5回までの復習をすること。教科書p.39~47を読んでノートにまとめ、熱容量と熱の概念、熱の正体について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.48~62を読んでノートにまとめ、気体分子運動論や比熱、熱力学の法則について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.1~62までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	この授業は、我々の身の回りで生じる身近な物理現象を対象としてその現象を明解に説明するための物理的な考え方を培うことを目的としている。従って、最初に演示実験を行い、その結果から物理法則を導き、その法則を用いて身近な現象が生じる理由を説明する順序で授業を行う。また科学史を参照して、正しい知識を得るために先人達が試行錯誤した足跡をたどり、未知の現象に対応できる柔軟な思考力を培う。では、力学と熱に関係する授業を展開し、運動・エネルギー・熱に関する法則を導出し、その応用を学ぶ。(教養教育科目の単位認定方針A1に強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物理法則の確立の経緯、物理量の定義、身近な物理現象の原因、実験による物理法則の確認方法)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	速度、加速度、力、運動量、質量、仕事、エネルギー、温度、熱 ニュートンの運動の第1第・2第・3法則、万有引力の法則、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則、ボイル・シャルルの法則、熱力学の第1・第2法則
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(到達目標1~3を確認)を50点満点としてその評価点をx点とし、到達度確認テスト(到達目標1~3を確認)を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、A1号館1階の丸善キャンパスショップで販売する。
関連科目	

参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088-3 / みすず書房
連絡先	masuonakagawa12345@gmail.com
授業の運営方針	・高校における物理学の知識の多少は問わないが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学ぶので、必ず毎回出席してノートに記録すること。出席は、初回に配布する出席カードとバーコードリーダーを用いて毎回講義開始前に確認する。 ・物理学は特に論理的思考を重視する学問であるから、テストにおいても自筆ノートは持ち込み可とする。しかし、テストにおける不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	テストについては、テスト後あるいは次回の講義日に模範解答・解説・評価などのフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料等を提供することがある。 ・講義や演示実験は、大スクリーンに投影したPPT画像やカメラ画像を中心として行い、板書は最小限に留める。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元新コスモス電機(株)コスモス研究所勤務： 企業の研究所におけるセンサー開発の経験を生かして、思考力や創造力を高めるために必要な実践的勉強方法を講義を通して示す。
その他（注意・備考）	・以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある： 基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。 ・「物理学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学 Ⅰ」の履修を避けること。

科目名	身近な化学 (FB221820)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives I
担当教員名	森義裕* (もりよしひろ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質は粒子からできていることを説明する。
2回	身の回りの物質は、いろいろと分類できることを説明する。
3回	物質の性質の調べ方、混合物を純物質に分ける方法について説明する。
4回	元素・周期表と原子・電子について説明する。
5回	物質中で原子はどう結びついているか、説明する。
6回	分子は原子の結合によってできていることを説明する。
7回	化学者は分子の形をどうやって調べるのか、説明する。
8回	1回～7回までの総括を説明する。到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1回	物質は粒子からできていることについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身の回りの物質を考える」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
2回	身の回りの物質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「物質を特徴づけるものは何か」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
3回	物質を特徴づけるものについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「すべての物質は原子からできている」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
4回	すべての物質は原子からできていることについて復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「物質中で原子はどう結びついているか」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
5回	物質中で原子はどう結びついているかについて復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「分子は原子の結合によってできる」について予習を行うこと(標準学習時間90分)
6回	分子は原子の結合によってできていることについて復習を行うこと。第7回目授業までに分子の形はどうやって分かるのか、調べておくこと(標準学習時間90分)
7回	分子の形はどうやって分かるのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと(標準学習時間120分)
8回	ここまで授業内容についての復習を行うこと(標準学習時間120分)

講義目的	私たちが認識する物質は、すべて原子という粒子からできている。しかしその粒子は小さすぎて、私たちが直接実感することは難しい。原子には種類があり、その種類のことを元素という。元素で種類分けされた複数の原子が結合して、様々な形の分子になる。身近な物質がどのような原子・分子からできているかを知り、小さすぎて見えない原子・分子の世界を想像し、実感できるようにする。身近な物質を化学の視点で認識できるようにする。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(原子、元素、分子、電子、物質)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	物質、元素、原子、分子、電子、周期表、化学結合、金属、イオン、物質質量
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート40%(達成目標1～3を確認)、到達度確認テスト60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ/日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編/化学同人/978-4759810912
関連科目	本科目に引き続き「身近な化学II」を履修することが望ましい。
参考書	指定しない
連絡先	e-mail: ymori.ous@gmail.com
授業の運営方針	・事前に教科書を読み、分からない言葉については調べておくこと。 ・講義は、教科書に基づいたテーマに沿ってプロジェクターと板書を用いた形式で行う。 ・講義の最後に、適時レポート作成を行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・講義の最後に、適時レポート作成を行う。 ・レポートについては、必要に応じて翌講義時に解説をし、フィードバックを行う。

合理的配慮が必要な学生 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供

生への対応	していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音／録画は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影（静止画）は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が教室定員を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論　・　」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論　・　」の履修生および履修予定学生は「身近な化学　・　」の履修を避けること。

科目名	身近な化学 (FB221830)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives I
担当教員名	林宏哉* (はやしこうや*), 金谷輝人* (かなだにてると*), 尾堂順一 (おどうじゆんいち), 中村忠* (なかむらただし*), 北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義のガイダンスを行う。化学は物質を扱う学問であること、そして物質が原子で構成されていること、原子には沢山の種類があり元素記号で区別されていることなどを概説する。 (林 宏哉*)
2回	幸せな元素と不幸な元素。人の歴史の中で重用されてきた元素がある一方で、あまりいい用途につかわれてこなかった元素もある。元素に責任があるのだろうか。全ての元素を幸せにして、受講者すべてが幸せになるような元素との付き合い方について話をします。 (林 宏哉*)
3回	化学実験等を通じて観測されるデータの型や整理の手法について解説する。 (中村 忠*)
4回	データに基づいて、その奥に潜んでいる法則・規則等を解析する手法について解説する。 (中村 忠*)
5回	身の回りの物質や、地球、太陽は、どんな元素からできているのか、宇宙と地球の歴史をたどりながら、物質の生成から現在の地球環境が形成されてきた過程を概説し、環境について考えるきっかけを与える。 (北岡 豪一*)
6回	天然には同じ元素でありながら質量の異なる原子(同位体)が存在する。水分子を構成する水素と酸素の同位体濃度を測定することによって、その水がたどってきた経歴を推定することができる。 (北岡 豪一*)
7回	金属材料セラミックス材料、高分子材料の物理的、化学的性質の違いを結合様式、構成原子、分子、様々な欠陥・不純物などの観点から説明する。 (金谷 輝人*)
8回	水が示す性質はどのようにユニークなのか、またそれらは水分子のどのような性質に基づくのかについて学習し、理解する。 (尾堂 順一)

回数	準備学習
1回	元素記号と元素名を10個以上ノートに書いてくること。(標準学習時間50分)
2回	鉄、シリコン、炭素、酸素、窒素、砒素、カドミウム、水銀の元素記号を書いてくること。(標準学習時間50分)
3回	実際の化学実験で、どんなデータが得れているのかを調べておくこと。(標準学習時間50分)
4回	平均、分散、ヒストグラムについて調べておくこと。(標準学習時間50分)
5回	自分の身体や環境がおもにどのような元素でできているのか、書籍やネットなどから調べておくこと。また、毎日、自分の身体を出入りする元素についても考えておくこと。(標準学習時間50分)
6回	元素や原子量について復習しておくこと。(標準学習時間50分)
7回	さびができる物質、場所をできるだけ多くノートに書いて持ってくること。(標準学習時間50分)
8回	水の蒸発熱(気化熱)、比熱(熱容量)、表面張力などが他の分子性液体に比べて大きいこと、氷が水に浮かぶこと、4℃で密度が最大になることなどについて考えておくこと。(標準学習時間50分)

講義目的	私たちが認識する物質は、すべて原子という粒子でできている。しかしその粒子は小さすぎて、私たちが直接実感することは難しい。原子には種類があり、その種類のことを元素という。元素で種類分けされた複数の原子が結合して、様々な形の分子になる。身近な物質がどのような原子・分子からできているかを知り、小さすぎて見えない原子・分子の世界を想像し、実感できるようにする。身近な物質を化学の視点で認識できるようにする。化学合成技術と分析技術の進歩により、21世
------	---

	紀は新しい物質の創生と発見で物質にあふれている。そして今現在も新しい物質がどんどん誕生している。地球上ですべての物質を把握している人は存在しない。それにもかかわらず、物質の理解がないと犯罪者になるかもしれないのだ。今日、物質を理解することは、地球を守ることでもあり、また家族も自分も守ることに繋がる。この講義は、化学、数学、地球科学、生物化学を専門にする5名の教員がそれぞれの立場で物質化学を説明し、安心安全に物質社会を生きて行くための物質の理解力を身につけるようにする。 (教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(元素と原子の違い、原子量と原子の質量の違い、データから規則を見つける、身の回りの物質の構成原子10以上、水の性質3つ以上)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	原子、元素、物質、材料
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート70%(達成目標1~3を確認)、およびテスト30%(達成目標1・3を確認)によって評価する。総計で60%以上の得点で合格とする。 講義の段落ごとにレポートまたは小テストを行う。
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
関連科目	身近な化学
参考書	
連絡先	林 宏哉 E-mail: koyahayashi@gmail.com
授業の運営方針	・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論」の一部の内容が重複する可能性があるため、これらの科目の履修生および履修予定者はこの科目の履修を避けること。 ・講義中の録音/録画/撮影の許可は各講義の担当教員に願い出ること。 ・講義資料の配布は講義ごとに必要に応じて行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポートおよび小テストのフィードバックは提出日の翌週に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	身近な生物学（FB222020）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	森本政秀*（もりもとせいしゅう*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生命の最小単位である細胞の構造と機能について解説する。
2回	生命体を構成している物質について解説する。
3回	遺伝子の構造と機能から、どのようにタンパク質をつくるのか解説する。
4回	生物が生きて活動していくためのエネルギーをどのようにつくるのか解説する。
5回	植物が行う光合成と窒素同化について解説する。
6回	細胞の数を増やす体細胞分裂について解説する。
7回	生物の個体数を殖やす生殖のしくみ、また受精から体ができるまでを解説する。
8回	生物の自己維持機構と遺伝のしくみについて解説する。

回数	準備学習
1回	細胞の構造、はたらきについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	地殻を構成している物質と生命体を構成している物質の違いについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
3回	DNAの構造について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
4回	代謝について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
5回	光合成について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
6回	体細胞分裂について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
7回	発生について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
8回	生命体の反応と調節について予習を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、単細胞の微生物からヒトまで等しく生物が「生きている」しくみについて理解し、私たち自身が健康に生活するために必要なことや私たちの生活が他の生物に与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず生物全体に共通する細胞の成り立ちや、細胞自体が生きているしくみについて解説する。その上で、我々ヒトのような多細胞からなる生物が個体としてバランスをとって生きるしくみを解説する。（教養教育科目の単位認定方針A知識・理解にもっとも強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（細胞、代謝、多細胞個体のしくみ）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	細胞、代謝、多細胞個体
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の提出課題50%、毎回行う小テストの結果50%を評価し、総計で60%以上を合格とする。最終評価試験は行わない。（達成目標の1～3を確認）
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 / 羊土社
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定はしない。
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
授業の運営方針	講義の修了後に課題を提出する。3回以上未提出の場合、単位は不認定となる。小テストは講義が終わる前に行う。課題に2回目以降、講義の始まる前に返却をする。8回の課題は次の講義がないため、学習支援センターまで取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	2回目以降、講義の始まりに、小テストの解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する。

	・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 ・ 「生物学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論 Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学 Ⅰ」の履修を避けること。 ・ 「身近な生物学 Ⅰ」と「身近な生物学 Ⅱ」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な生物学 (FB222030)
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	猪口雅彦 (いのぐちまさひこ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【ヒトはなぜ食事を摂るのか～生体物質】なぜバランスの良い食事を定期的に摂らなければならないのか？生物を構成する化学物質（生体物質）の種類と役割について解説する。
2 回	【あなたの設計図～遺伝子】遺伝子とは遺伝（親から子への性質の継承）だけに働くものではない。むしろ、今生きているあなたを維持するために常に働いている。遺伝子の意義と働きについて解説する。
3 回	【生命のユニット構造～細胞】すべての生物は共通した基本構造単位である細胞からなる。一方で、私たちの体は多様な細胞からなる。細胞の構造と機能について解説する。
4 回	【エネルギーを得るしくみ～呼吸と光合成】生物が生きていくためにはエネルギーが必要である。食物からエネルギーを生み出すしくみ（呼吸）とエネルギーから食物を作り出すしくみ（光合成）について解説する。
5 回	【細胞同士のコミュニケーション～多細胞体の維持】ヒトのように体が多く細胞からなる生き物（多細胞生物）が上手く生きていくためには、細胞同士のコミュニケーションが欠かせない。多細胞生物の体内での細胞間コミュニケーションと、それによって体の状態を一定に保つしくみについて解説する。
6 回	【外敵から身体を守る～免疫】ヒトは多くの生物に囲まれて生活している。その中には私たちの健康を害する病原体も存在する。病気を防ぐ免疫のしくみについて解説する。
7 回	【いのちをつなぐ～生殖】私たちには寿命がある。個体の寿命がくる前に新しい個体を生み出すことで種族を維持する。新しい個体を生み出す生殖のしくみについて解説する。
8 回	【生き物の能力を利用する～バイオテクノロジー】生き物をもつさまざまな能力を利用して私たちの生活に役立てる技術が開発されてきた。遺伝子組換えや再生医療などのバイオテクノロジーについて解説する。

回数	準備学習
1 回	[予習課題] なし [事後課題] カロリーにならない人工甘味料を含む食品・飲料をコンビニなどで探し、その商品名と含まれる人工甘味料の名称を調べること。 (標準学習時間：30分)
2 回	[予習課題] ヒトのゲノムに含まれている遺伝子の個数を調べること。 [事後課題] ヒトゲノムマップを見て興味を持った遺伝子について調べること。 (標準学習時間：計40分)
3 回	[予習課題] 肉眼で観察できる「1個の細胞」の例と、そのおよその大きさを調べること。 [事後課題] 講義中に指定したのノーベル生理学・医学賞について調べ、簡潔に説明すること。 (標準学習時間：計40分)
4 回	[予習課題] ヒト1人が1日に消費するエネルギー量について調べること。 [事後課題] 嫌気呼吸（発酵）を利用して作られる食品について調べること。 (標準学習時間：計40分)
5 回	[予習課題] ヒト1人に含まれる細胞の個数と種類数を調べること。 [事後課題] ヒトの体内の環境（物理・化学的な状態）が一定に保たれているしくみをひとつ調べること。 (標準学習時間：計40分)
6 回	[予習課題] ヒトに病気を起こす生物にはどのような種類があるか調べること。 [事後課題] 予防接種法に基づいてワクチンの定期接種が行われている病気の例を一つ挙げ、その病気に罹患した場合の危険性について調べること。 (標準学習時間：計40分)
7 回	[予習課題] 生物が増えるしくみにはどのような方法があるか調べること。 [事後課題] ヒト以外の哺乳動物の半数体細胞の染色体数を調べること。 (標準学習時間：計40分)
8 回	[予習課題] バイオテクノロジーとして現代社会で利用されている例を一つ挙げ、技術の概要や利用法、利点・欠点などを調べること。 [事後課題] 遺伝子組換え作物を原料に使っていると考えられる「食品」について調べること。 (標準学習時間：計40分)

講義目的	本講義では、単細胞の微生物からヒトまで等しく生物が「生きている」しくみについて理解し、私
------	--

	たち自身が健康に生活するために必要なことや私たちの生活が他の生物に与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず生物全体に共通する細胞の成り立ちや、細胞自体が生きているしくみについて解説する。その上で、我々ヒトのような多細胞からなる生物が個体としてバランスをとって生きているしくみを解説する。（教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（細胞、代謝、多細胞個体のしくみ）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	細胞、代謝、多細胞個体
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出課題50%（達成目標1～3を確認）、および小テスト50%（達成目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	大学で学ぶ 身近な生物学 / 吉村 成弘 / 羊土社 / ISBN-13: 978-4758120609
連絡先	A1号館7階730号室, ino@dbc.ous.ac.jp オフィスアワー mylog参照
授業の運営方針	・課題の提出や小テストを含め全面的にMOMO CAMPUSを利用する。 ・毎回講義後に課す課題（調査課題）の提出回数と小テストの受験回数のいずれか一方でも6回未満の場合は履修を放棄したものとする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、アクティブラーニング（クリッカー） ・講義中にWeb上のサービスを利用したアクティブラーニング（即時アンケートなど）を行うので、スマートフォン、タブレット端末、ラップトップPCなどのインターネットに接続されたモバイル端末を用意することが望ましい（無くても単位認定には関わらない）。 ・一部、アクティブラーニングとして受講者によるワークショップやグループディスカッションを含む回がある。
課題に対するフィードバック	提出された課題についてのフィードバックと小テストの正答開示もMOMO CAMPUSの機能を用いて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する。 ・正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生命医療工学科, 生物地球学科 ・「生物学基礎論」の一部の内容が重複する可能性があるため、「生物学基礎論」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学」の履修を避けること。 ・「身近な生物学」と「身近な生物学」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な生物学（FB222040）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	森本政秀*（もりもとせいしゅう*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生命の最小単位である細胞の構造と機能について解説する。
2回	生命体を構成している物質について解説する。
3回	遺伝子の構造と機能から、どのようにタンパク質をつくるのか解説する。
4回	生物が生きて活動していくためのエネルギーをどのようにつくるのか解説する。
5回	植物が行う光合成と窒素同化について解説する。
6回	細胞の数を増やす体細胞分裂について解説する。
7回	生物の個体数を殖やす生殖のしくみ、また受精から体ができるまでを解説する。
8回	生物の自己維持機構と遺伝のしくみについて解説する。

回数	準備学習
1回	細胞の構造、はたらきについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	地殻を構成している物質と生命体を構成している物質の違いについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
3回	DNAの構造について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
4回	代謝について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
5回	光合成について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
6回	体細胞分裂について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
7回	発生について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
8回	生命体の反応と調節について予習を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、単細胞の微生物からヒトまで等しく生物が「生きている」しくみについて理解し、私たち自身が健康に生活するために必要なことや私たちの生活が他の生物に与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず生物全体に共通する細胞の成り立ちや、細胞自体が生きているしくみについて解説する。その上で、我々ヒトのような多細胞からなる生物が個体としてバランスをとって生きるしくみを解説する。（教養教育科目の単位認定方針A知識・理解にもっとも強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（細胞、代謝、多細胞個体のしくみ）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	細胞、代謝、多細胞個体
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の提出課題50%、毎回行う小テストの結果50%を評価し、総計で60%以上を合格とする。最終評価試験は行わない。（達成目標1～3を確認）
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 / 羊土社
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定はしない。
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
授業の運営方針	講義の修了後に課題を提出する。3回以上未提出の場合、単位は不認定となる。小テストは講義が終わる前に行う。課題に2回目以降、講義の始まる前に返却をする。8回の課題は次の講義がないため、学習支援センターまで取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	2回目以降、講義の始まりに、小テストの解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止する。

	・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 ・ 「生物学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論 Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学 Ⅰ」の履修を避けること。 ・ 「身近な生物学 Ⅰ」と「身近な生物学 Ⅱ」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な地学 (FB222220)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives I
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	人類はどのようにして「科学」を手に入れたのか、天動説から地動説への道筋を例にして、先人の苦難の足跡をたどりながら学習する。
2回	地球がどのようにして誕生し、大地、大気、水がどのようにして生まれ、そして地球表層の環境がどのように変遷してきたかを概説する。
3回	地球の重力について学習する。地球のかたちや、地球表層の大陸と海洋、大山脈と海溝の分布のからくり、重力の分布を測定することによって地下の構造が分かることを理解する。
4回	地震波(たて波、よこ波、表面波)の伝播のしかたについて学習し、地球内部の層構造が明らかにされてきた過程を説明する。
5回	地球の磁場の生命への恩恵について学習する。また、大陸移動や海洋底拡大の考え方がどのような証拠に基づいて生まれたのか、その歴史を紹介する。
6回	プレートテクトニクスの視点から、日本列島でなぜ火山と地震が多いのか、そのメカニズムを紹介し、最新の地球科学へといざなう。
7回	大地を構成している岩石がどのようにして作られ、それが、風化、移動、堆積、変形、変成しながら、地球規模で循環している姿を学習する。
8回	前半は、地球の歴史と日本列島がどのようにして形成されたのか、概観する。後半の0.5コマ分で「到達度確認テスト」を実施する。

回数	準備学習
1回	自分なりに不思議に思ういろいろな自然現象について考えておくこと。(標準学習時間:60分)
2回	先週の科学の歴史を復習しながら、科学的なものの考え方とは何かについてよく納得しておくこと。(標準学習時間:60分)
3回	重力は日常生活において極めて重要な概念であるから、書物やネットを通してよく理解しておくこと。(標準学習時間:60分)
4回	波にはいろいろなものがあるが、どのような波があり、その伝わり方について予習しておくこと。(標準学習時間:60分)
5回	電磁石は身の回りでいろいろと利用されているが、どのようなものに利用され、また、磁石はどうしてできるのか、予習しておくこと。(標準学習時間:60分)
6回	書物やネットの図を見ながら、地球上の火山と地震の震源分布をじっくり見比べておくこと。(標準学習時間:60分)
7回	身近にある岩石、砂、土がどのようにして作られ、どうしてここにあるのか、考えてみること。(標準学習時間:60分)
8回	「到達度確認テスト」を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。(標準学習時間:180分)

講義目的	科学は、身近な自然現象の中で不思議さを感じ、それを分かろうとする人びとによって生み出された。科学が発達した現代でも、身近な自然の中に数知れない不思議さが秘められており、それが科学を進展させるもとになっている。科学への関心は、生のすばらしい自然(現象)との出会いと感動にはじまるといえる。本講義では、大気、大地とそれらをつなぐ水文に関する身近な現象の中から面白い題材を系統的に分かりやすく導入して、サイエンスへの興味と関心が深まる方向の手引きを与える。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(地球の歴史、重力、地磁気、プレートテクトニクス、地震、火山、岩石、鉱物)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を図を用いるなどして具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識や考え方をもとに、現在進行中の環境問題(地球温暖化、環境汚染)について考えることができる。(B)
キーワード	地球、地球内部、火山、地震、重力、地磁気、プレートテクトニクス、岩石、科学史
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回講義の小レポート50%(到達目標1~3を確認)と到達度確認テスト50%(到達目標1・2)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	身近な生物学を受講していることが望ましい。
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp

授業の運営方針	準備学習を必ず行い、授業に臨んでください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回講義の小レポートについては次の授業で代表的な意見を紹介してフィードバックを行う。到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。：基礎理学科，生物地球学科。 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。

科目名	身近な地学 (FB222230)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives I
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	人類はどのようにして「科学」を手に入れたのか、天動説から地動説への道筋を例にして、先人の苦難の足跡をたどりながら学習する。
2回	地球がどのようにして誕生し、大地、大気、水がどのようにして生まれ、そして地球表層の環境がどのように変遷してきたかを概説する。
3回	地球の重力について学習する。地球のかたちや、地球表層の大陸と海洋、大山脈と海溝の分布のからくり、重力の分布を測定することによって地下の構造が分かることを理解する。
4回	地震波(たて波、よこ波、表面波)の伝播のしかたについて学習し、地球内部の層構造が明らかにされてきた過程を説明する。
5回	地球の磁場の生命への恩恵について学習する。また、大陸移動や海洋底拡大の考え方がどのような証拠に基づいて生まれたのか、その歴史を紹介する。
6回	プレートテクトニクスの視点から、日本列島でなぜ火山と地震が多いのか、そのメカニズムを紹介し、最新の地球科学へといざなう。
7回	大地を構成している岩石がどのようにして作られ、それが、風化、移動、堆積、変形、変成しながら、地球規模で循環している姿を学習する。
8回	前半は、地球の歴史と日本列島がどのようにして形成されたのか、概観する。後半の0.5コマ分で「到達度確認テスト」を実施する。

回数	準備学習
1回	自分なりに不思議に思ういろいろな自然現象について考えておくこと。(標準学習時間:60分)
2回	先週の科学の歴史を復習しながら、科学的なものの考え方とは何かについてよく納得しておくこと。(標準学習時間:60分)
3回	重力は日常生活において極めて重要な概念であるから、書物やネットを通してよく理解しておくこと。(標準学習時間:60分)
4回	波にはいろいろなものがあるが、どのような波があり、その伝わり方について予習しておくこと。(標準学習時間:60分)
5回	電磁石は身の回りでいろいろと利用されているが、どのようなものに利用され、また、磁石はどうしてできるのか、予習しておくこと。(標準学習時間:60分)
6回	書物やネットの図を見ながら、地球上の火山と地震の震源分布をじっくり見比べておくこと。(標準学習時間:60分)
7回	身近にある岩石、砂、土がどのようにして作られ、どうしてここにあるのか、考えてみること。(標準学習時間:60分)
8回	「到達度確認テスト」を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。(標準学習時間:180分)

講義目的	科学は、身近な自然現象の中で不思議さを感じ、それを分かろうとする人びとによって生み出された。科学が発達した現代でも、身近な自然の中に数知れない不思議さが秘められており、それが科学を進展させるもとになっている。科学への関心は、生のすばらしい自然(現象)との出会いと感動にはじまるといえる。本講義では、大気、大地とそれらをつなぐ水文に関する身近な現象の中から面白い題材を系統的に分かりやすく導入して、サイエンスへの興味と関心が深まる方向の手引きを与える。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(地球の歴史、重力、地磁気、プレートテクトニクス、地震、火山、岩石、鉱物)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を図を用いるなどして具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識や考え方をもとに、現在進行中の環境問題(地球温暖化、環境汚染)について考えることができる。(B)
キーワード	地球、地球内部、火山、地震、重力、地磁気、プレートテクトニクス、岩石、科学史
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回講義の小レポート50%(到達目標1~3を確認)と到達度確認テスト50%(到達目標1・2)により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	身近な生物学を受講していることが望ましい。
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp

授業の運営方針	準備学習を必ず行い、授業に臨んでください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回講義の小レポートについては次の授業で代表的な意見を紹介してフィードバックを行う。到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。：基礎理学科，生物地球学科。 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。

科目名	科学技術倫理 A (FB222410)
英文科目名	Science and Engineering Ethics A
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理とはどのようなものであるのかを説明する。
2 回	技術者と倫理—技術者の専門性と倫理との関係について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
3 回	組織の中の個人の役割 (1)—安全確保に取り組む組織と個人の関係を説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
4 回	組織の中の個人の役割 (2)—1986年にアメリカで起きたチャレンジャー事故について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
5 回	技術者のアイデンティティ—1999年に起きた東海村JCO臨界事故について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
6 回	技術者の資格—社会が技術者に与える資格や現行の制度について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
7 回	倫理実行の方法—倫理的な行動を実現するための効果的な学習方法について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「倫理」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	技術者と倫理の関係について、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	技術者にとっての組織と個人の関係について、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	チャレンジャー事故とはどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	東海村JCO臨界事故とはどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	社会が技術者に与える資格にはどのようなものがあるのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	技術者が倫理的に振る舞ううえで何が最も大事であるのかについて、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	人類の生活を豊かにし、便利にしてきた一方で、様々な問題を引き起こしている科学技術というものを、幅広い視点から理解する。そのうえで、技術者として異分野とも協働しながら倫理的に振る舞うための主体性や協調性を身に付ける。本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標とする。 技術者に関わる倫理的な問題について説明することができる。(A) 身につけた知識を、現実に行き起きているものだけでなく、今後も予想される科学技術上の倫理的な問題にも応用することができる。(B)
キーワード	倫理、法、組織、個人
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業時間内の試験：グループワークへの取り組み 評価割合60%、最終評価試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」と関連しています。科学技術倫理をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」を受講して下さい。
参考書	杉本泰治・高城重厚『技術者の倫理入門』(丸善出版) 北原義典『はじめての技術者倫理』(講談社)
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み

授業の運営方針	・授業の前半は、パワーポイントや映像を使用して講義を行う。 ・授業の後半は、グループワークを行う。 ・授業終了時に、各自の意見をまとめた用紙を提出してもらう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・講義の内容についての自分の意見をまとめた後で、4～6人程度のグループに分かれてディスカッションを行い、各自の意見の相互評価、自己評価を行います。 ・ディスカッションの内容については、グループの意見を集約して、代表者に発表してもらいます。
課題に対するフィードバック	・発表に対するコメントを授業内に行う。 ・提出された用紙のリアクションは、次の回の授業の冒頭で行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験の後で行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学C(観察でわかる自然の仕組み)(FB222810)
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	山口一裕(やまぐちかずひろ),吉村功*(よしむらたくみ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 講義の進め方やレポート課題について説明する。身近な自然の観察方法や観点について説明する。 (全教員)
2回	里山と忘れられる植物文化 戦前まで山里に暮らす人々が利用して知っていた植物の知識や動物との絡みについて観察を交えて説明する。 (全教員)
3回	地面から学ぶ 化石のでき方や地層を観察することにより、また、何の変哲もない石ころからその地域の太古の歴史を探る。 (全教員)
4回	発光生物はなぜ光る ホタルやウミホタルだけでなく様々な生物の発光現象をとおして生物が発光する意味について考える。ホタルの人工発光やウミホタルの発光を観察する。 (全教員)
5回	身近な動植物のもつ毒や危険 校庭周辺や家庭の周りにある毒物や危険物を観察をしながら知る。 (全教員)
6回	自然を感じる仕組みの進化 動物がもつ視覚、聴覚、嗅覚の進化を仕組みの観察をとおして知識を深める。 (全教員)
7回	身の回りの放射線を見る 放射線の基礎知識を知り、身近な物質がもつ放射線を観察することから放射線との関係のあり方を考える。 (全教員)
8回	ドングリの科学 様々なドングリを観察したり、簡単な実験をして日本人がどのようにドングリを利用してきたかを探る。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	紙や布、薬草について知っていることを思い出すこと。インターネット等でこれらのことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	化石や生物の進化について知っていることがあればまとめておくこと。インターネット等でこれらのことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	どんな生物が発光するか調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	身近に危険物や毒物がないか調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	魚の耳や昆虫の眼などについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	自然の中で放射線を出すものがあるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	ドングリを校内で3種以上みつけておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	自然の何気ない事象や物質から自然の成り立ちや仕組みを読み解く力を身につける。(到達目標に対する関与程度の【関心・意欲・態度】にもっとも強く関与する)
達成目標	1) 身近にある自然の成り立ちについて自分の考えと意見を説明できる。【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】【知識・理解】 2) 自然の仕組みや人間の生活とどのように関わっているかを自分の考えと意見を説明できる。【思考・判断・表現】【知識・理解】【】は到達目標に対する関与の程度を示します。
キーワード	自然を感じる仕組み、自然から得られる恵みの物質、危険物
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60)	授業時に作成する8回分の課題レポート 100% (達成目標1),2)を確認)で評価し、60%以上を

点)	合格とする。
教科書	使用しない。授業プリントを配布する。
関連科目	特になし
参考書	授業中で紹介する。
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは 高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・D2号館3階理科実験室（収容定員50名）を使用して実験・観察を行う。・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講である。「現代人の科学」との合計の受講希望者が収容定員の50名を超える場合はガイダンス参加者から受講生を選抜することがあるので、必ず初回の授業に出席すること。その際、「現代人の科学」の受講生を優先する。その次に、内容が専門と異なる学科の学生の受講を優先する。・講義資料は講義中に配布する。講義科目ではあるが、自然について深く理解するため実物の観察や実験を実施するので、受講制限をかける場合はある。そのために初回の授業には必ず出席すること。最終評価試験は実施せず、授業時に作成するレポートで成績評価を行うのでしっかりしたレポートを提出すること。レポートの書き方については初回の授業時に説明する。
アクティブ・ラーニング	実験、アクティブ・ラーニング（観察） 授業中に実物の観察や実験を行うことで内容を理解度を高める。
課題に対するフィードバック	課題については、次の講義のはじめにコメントを返すことによってフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功（元中学校教員） 中学校の理科教員としての経験を生かして、物理学、化学、生物学、地学分野について観察や実験を通して自然の仕組みを分かりやすく授業する。
その他（注意・備考）	・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。

科目名	現代人の科学C(実験・観察で知る身近な科学)(FB222820)
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち),吉村功*(よしむらたくみ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 講義の進め方やレポート課題について説明する。身近な自然の観察方法や観点について説明する。 (全教員)
2回	里山と忘れられる植物文化 戦前まで山里に暮らす人々が利用して知っていた植物の知識や動物との絡みについて観察を交えて説明する。 (全教員)
3回	地面から学ぶ 化石のでき方や地層を観察することにより、また、何の変哲もない石ころからその地域の太古の歴史を探る。 (全教員)
4回	発光生物はなぜ光る ホタルやウミホタルだけでなく様々な生物の発光現象をとおして生物が発光する意味について考える。ホタルの人工発光やウミホタルの発光を観察する。 (全教員)
5回	身近な動植物のもつ毒や危険 校庭周辺や家庭の周りにある毒物や危険物を観察をしながら知る。 (全教員)
6回	自然を感じる仕組みの進化 動物がもつ視覚、聴覚、嗅覚の進化を仕組みの観察をとおして知識を深める。 (全教員)
7回	身の回りの放射線を見る 放射線の基礎知識を知り、身近な物質がもつ放射線を観察することから放射線との関係のあり方を考える。 (全教員)
8回	ドングリの科学 様々なドングリを観察したり、簡単な実験をして日本人がどのようにドングリを利用してきたかを探る。 到達度確認テストを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	紙や布、葉草について知っていることを思い出すこと。インターネット等でこれらのことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	化石や生物の進化について知っていることがあればまとめておくこと。インターネット等でこれらのことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	どんな生物が発光するか調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	身近に危険物や毒物がないか調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	魚の耳や昆虫の眼などについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	自然の中で放射線を出すものがあるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	ドングリを校内で3種以上みつつけておくこと。これまでの内容を復習しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラ
------	--

	シー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。 「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。 「現代人の科学C」では、主に生物・地学分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に自然の何気ない事象や物質から自然の成り立ちや仕組みを読み解く力を身につける。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 （教養教育科目の到達目標Aに最も強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（自然を感じる仕組み、自然から得られる恵みの物質、危険物）について説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 科学を学ぶ意義、科学と社会との関係について自分の意見を持ち、それを記述できる。（B）
キーワード	自然を感じる仕組み、自然から得られる恵みの物質、危険物
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート80%（到達目標1～3を確認）、および到達度確認テスト20%（到達目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	特になし
参考書	なし
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは 高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・D2号館3階理科実験室（収容定員50名）を使用して実験・観察を行う。 ・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講である。「現代人の科学」との合計の受講希望者が収容定員の50名を超える場合はガイダンス参加者から受講生を選抜することがあるので、必ずガイダンスに出席すること。その際、「現代人の科学」の受講生を優先する。その次に、内容が専門と異なる学科の学生の受講を優先する。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学 F (迷信と科学) (FB223130)
英文科目名	Science Literacy F
担当教員名	武田芳紀* (たけだよしのり*), 高見寿* (たかみひさし*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 授業の概要、進め方、毎回レポートなどについて説明する。 授業の概要： この授業では古くて新しい問題である＜迷信と科学＞について、考えていきます。本来、迷信と科学とは相容れないもののはずですが、科学や文明の進んだ21世紀にあっても、昔からの「迷信」が幅を利かせていたり、超能力（超常現象）が、いかにも「（本物の）科学」であるかのように、繰り返しマスコミを賑わせたりします。今回の講座ではそれらに＜ダマされない＞をキーワードに、考えていくことにします。 ○差別と迷信 なぜ、「迷信」をとりあげるのか？ 実社会で体験する迷信にはどんなものがあるか、そして、なぜ人びとが迷信にとらわれるのか、その理由を受講者の経験も出し合いながら考える。 (武田 芳紀*)
2 回	○星占い 多くの世代に人気がある星占い。誕生日の星座。その仕組みを、天文学の知識と星座から考える。 (高見 寿*)
3 回	○「丙午迷信」とその影響 昔の暦から派生した、日本で生まれた最悪の迷信である「丙午迷信」とその影響について考える。迷信は、はたして愚かな因習の所産なのか？ あるいは・・・、データを見ながら考える。 (武田 芳紀*)
4 回	○暦と迷信 日本の迷信は、暦と深い関わりがある。旧暦の仕組み（作り方）を学んで考える。なぜ、昔の暦（旧暦）にまつわる迷信が生まれたか、中国で生まれた陰陽五行説とのかかわりを探る。 (高見 寿*)
5 回	○「コックリさん」とは何か 多くの人たちが、小中学生の時代に経験したことのあると思われる「コックリさん」。動くのはなぜか？ その謎を探りながら、迷信とのつきあい方を考える。 (武田 芳紀*)
6 回	○科学教育と「超能力」 迷信と並んで、大きな影響をもたらす「超能力(超常現象)」。70年代に登場した「スプーン曲げ」をはじめ、いくつかの事例を、力学の立場からその秘密をさぐる。科学的とは何か、だまされないための条件を考える。 (高見 寿*)
7 回	○「妖怪博士」＝井上円了の先駆的業績 明治の時代に、日本に入ってきた新しい迷信の問題をいち早く解明し、日本の迷信を徹底的に調査研究した庶民とともに生きた哲学者の話。 (武田 芳紀*)
8 回	○正しい科学 非科学的だと切り捨てられることはいいが、科学の言葉を使って説明されると、うまく反論できないこともある。また、サンタクロースはいるか、UFOはいるか、STAP細胞はあるか、などにどう答えるか。正しい科学の使い方を考える。 (高見 寿*)

回数	準備学習
----	------

1 回	このシラバスを読んで、授業の進め方と授業概要を承知しておくこと。（標準学習時間：20分） 迷信について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
2 回	星占いについて書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
3 回	丙午迷信について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
4 回	暦と迷信について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
5 回	「コックリさん」について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
6 回	「超能力」について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
7 回	これまで学んだことを復習し、それを今後はどう生かすかを、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
8 回	これまで学んだことを復習し、それを今後はどう生かすかを、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学F」では、主に科学論（科学の方法論・科学と社会の関係など）に関する幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主に＜迷信と科学＞を題材に＜ダマされない＞ための科学的な思考を身につけることを目指す。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。（教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（批判的思考力、似非科学）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で考察したテーマ（迷信と科学）について自分の意見をもち、それを説明できる。（B）
キーワード	批判的思考力、似非科学、自分の考えをまとめて他人に伝える力（コミュニケーション力、プレゼンテーション力）
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート80%（毎回授業で提出するレポートと振り返りレポート、到達目標1～3を確認）、および発表20%（到達目標1～3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	特にありません。授業に関する資料は、授業時間中に配布します。
関連科目	
参考書	・気になる科学／元村有希子／毎日新聞社／1500円（税別） ・季刊「理科の探究（RikaTan）」2014春号／文理／1400円（雑誌） ・もうダマされないための「科学」講義／菊池 他出版社／光文社／4334036449 その他、各テーマに関する参考書や資料、その他の情報は、図書館やインターネット上において各自で検索すること。科学ボランティアセンターにも多くの参考となる図書を置いています。
連絡先	武田芳紀：yo-takeda[アトマーク]office.ous.ac.jp 高見寿：h-takami[アトマーク]office.ous.ac.jp 居室は科学ボランティアセンター（B4号館1階）
授業の運営方針	高見・武田それぞれの受け持ちの最終回の講義で、それまで学んだことや、それを今後はどう生かすかをテーマに発表をしてもらいます。 実験・体験活動を伴うので、50名以上の場合は受講制限する可能性があります。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ライティング
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは授業の中で代表的な意見・感想にコメントすることでフィードバックを行う。 発表については、発表後に教員が講評することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	科学技術と人間 A (FB223210)
英文科目名	Science-Technology and Human Beings A
担当教員名	中村修 (なかむらおさむ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	IC(集積回路)とLSI (大規模な集積回路) に関する話題を3回に分けて講義する。1回目はトランジスタの誕生の背景、又、誕生が社会に与えた影響。関連産業の発展について説明する。
2 回	IC(集積回路)とLSI (大規模な集積回路) に関する話題を3回に分けて講義する。その2回目として、社会背景としての電卓戦争とそれが半導体産業に及ぼした影響について説明する。
3 回	IC(集積回路)とLSI (大規模な集積回路) に関する話題を3回に分けて講義する。その3回目として、日本におけるLSI産業の攻勢と衰退と復活に向けて。何故 エルピーダは破綻したのか? 日本の現状、日本のLSI産業の復活への足がかりなどを説明する。
4 回	液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。1回目はディスプレイとしての液晶の歴史について説明する。初期のTV用の液晶ディスプレイについて説明する。
5 回	液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。その2回目として、薄膜トランジスタ開発の経緯、それが液晶ディスプレイ産業に与えた影響、社会に与えた影響について説明する。
6 回	液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。その3回目として、量産化されなかったディスプレイ技術、例えば、電子放出素子を使用したディスプレイ等について説明する。その後、必ずしも、よりきれいな表示をするディスプレイが、世の中に普及した訳ではないことを説明する。ディスプレイ産業の今後について、その展望を説明する。レポート課題を提示する。
7 回	青色LED (発光ダイオード)、白色LED (発光ダイオード) の技術と産業の発展について説明する。又、白色LEDの発明のタイミングとそれが産業や社会に与えた影響について説明する。
8 回	科学技術と人間について、これまでの講義を振り返り総括をする。レポート課題の説明をする。又最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞やニュースで、日本のエレクトロニクス産業の話題に触れること。トランジスタラジオについて、おおまかな初期の製造年代を調べて予習を行うこと。(標準学習 60分)
2 回	トランジスタの誕生の背景、又、誕生が社会に与えた影響。関連産業の発展について復習をすること。予習として電卓戦争とは何か調べること。(標準学習 120分)
3 回	電卓戦争とそれが半導体産業に及ぼした影響について復習すること。予習としてエルピーダやマイクログループが何を作る(作っていた)会社かについて調べること。(標準学習 120分)
4 回	日本におけるLSI産業の攻勢と衰退について復習すること。予習として液晶とは何か調べること。(標準学習 120分)
5 回	液晶の歴史について、初期のTV用の液晶ディスプレイについて復習すること。予習として、身の回りにある液晶ディスプレイを列挙すること。(標準学習 120分)
6 回	薄膜トランジスタ開発の経緯、それが液晶ディスプレイ産業に与えた影響、社会に与えた影響について復習すること。予習としてブラウン管のTVが、いつごろから日本で生産されなくなったか調べること。(標準学習 120分)
7 回	量産化されなかったディスプレイ技術について復習すること。必ずしも、よりきれいな表示をするディスプレイが、世の中に普及した訳ではないことを復習して理解すること。予習として自分の身の回りでの照明としての白色LEDの普及の程度を調べること。ニュースや新聞でその話題に触れること。(標準学習 120分)
8 回	第1回から7回目までの講義の復習をすること。(標準学習 180分)

講義目的	一般的には、科学技術の進歩が社会に変化をもたらすと考えがちであり、且つ、事実でもあるが、一方では、科学技術の進歩はその社会背景に依存することが多いことも事実である。例えば、1960-1980年に日本で隆盛を極めた日本のIC、LSI技術と産業の発展は日本特有の電卓戦争(と呼ばれた)という社会背景に依存していた。本講義はこのような観点から科学技術と人間社会について講義する。ただし、エレクトロニクス分野の特定の科学技術にまとを絞り講義する。特定の例を知ること、科学技術と人間社会の関わりについて知することを目的とする。(全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、Bに強く関与する。)
達成目標	1)トランジスタの誕生が社会に与えた影響を説明できる(A)。 2)日本において、比較的早い時期にLSI産業が立ち上がった経緯を説明できる(A)。 3)日本におけるDRAM産業が衰退した原因を説明できる(B)。

	4)液晶ディスプレイの発展の経緯を説明できる(A)。 5)日本における液晶ディスプレイ産業の衰退の原因を説明できる(B)。 6)青色発光ダイオードの発明が社会に与えた影響を説明できる(A)。
キーワード	トランジスタ、集積回路(LSI)、液晶、ディスプレイ、白色LED、青色LED、
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート(達成目標2),3),4)を評価 10%)、最終評価試験(達成目標1)~6)を評価 90%)により成績を評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。適宜、講義資料(プリント)を配付
関連科目	特になし
参考書	日本型モノづくりの敗北/湯之上隆著/文藝春秋/978-4-16-660942-0: 超LSIへの挑戦/垂井康夫/工業調査会/4-7693-1181-8: 液晶の歴史/デイビット・ダンマー、ティム・スラッキン著/朝日新聞出版/978-4-02-259982-7
連絡先	メール o-nakamura@pub.ous.ac.jp A1号館 1階 研究・社会連携センター オフィスアワー 月1時限 C7号館2F 研究室 オフィスアワー 水3時限
授業の運営方針	講義資料(プリント)は必要に応じて講義開始時に配付する。後日配付にも応じるので、できるだけ、早く、申し出ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	第6回のレポート課題に対しては、8回目の講義で解説等のフィードバックを行う。 最終評価試験終了後、フィードバックとして、採点結果を1週間以内に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ○講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。○講義中の録音/録画/は事前に相談すること。他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
実務経験のある教員	元カシオ計算機、凸版印刷の研究開発部門勤務のエレクトロニクス分野等での実務経験を活かし、科学技術と人間社会の関わりについて講義を行う。
その他(注意・備考)	

科目名	地球型惑星の歴史と物質科学【火3金3】（FB223500）
英文科目名	History and Material Science of Planet Earth
担当教員名	豊田新（とよだしん）、畠山唯達（はたけやまだひろ）、石垣忍（いしがきのぶ）、實吉玄貴（さねよしもとたか）、青木一勝（あおきかずまさ）、今山武志（いまやまたけし）、那須浩郎（なすひろお）、蜷川清隆（にながわきよたか）、小林祥一（こばやししやういち）、西戸裕嗣（にしどひろつぐ）、兵藤博信（ひょうどうひろのぶ）、能美洋介（のうみようすけ）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	地球型惑星の歴史（1）隕石と太陽系誕生史について学ぶ。（蜷川 清隆） （全教員）
2回	地球型惑星の歴史（2）地球の形成と進化について学ぶ。（青木 一勝） （全教員）
3回	地球型惑星の歴史（3）古生代の地球について学ぶ。（今山 武志） （全教員）
4回	地球型惑星の歴史（4）中生代の地球について学ぶ。（石垣 忍） （全教員）
5回	研究トピック（1）隕石衝突による地球環境変化について学ぶ。（西戸 裕嗣） （全教員）
6回	地球型惑星の歴史（5）新生代の地球について学ぶ。（那須 浩郎） （全教員）
7回	地球型惑星の要素（1）気候変動の物理的要因について学ぶ。（豊田 新） （全教員）
8回	地球型惑星の要素（2）岩石と鉱物について学ぶ。（西戸 裕嗣） （全教員）
9回	地球惑星構成物質分析法・X線回折について学ぶ。（小林 祥一） （全教員）
10回	地球型惑星の要素（3）地球内部構造について学ぶ。（兵藤 博信） （全教員）
11回	年代測定法（1）同位体年代測定法について学ぶ。（兵藤 博信） （全教員）
12回	年代測定法（2）フィッシュントラック年代測定法について学ぶ。（能美 洋介） （全教員）
13回	年代測定法（3）古地磁気年代推定法について学ぶ。（畠山 唯達） （全教員）
14回	年代測定法（4）捕獲電子年代測定法について学ぶ。（豊田 新） （全教員）
15回	研究トピック（2）恐竜時代の古環境について学ぶ。（實吉 玄貴） （全教員）

回数	準備学習
1回	太陽系の構成を調べておくこと（標準学習時間60分）
2回	隕石と太陽系誕生史について復習し、始生代及び原生代の地球の歴史を調べておくこと（標準学習時間90分）

3 回	地球の形成と初期の進化について復習し、古生代に地球で起きた事件を調べておくこと（標準学習時間90分）
4 回	古生代に地球で起きた事件について復習し、中生代の地球の様子について調べておくこと（標準学習時間90分）
5 回	中生代の地球上の生物の特質について復習し、地球への隕石衝突によって引き起こされた環境変化について調べておくこと（標準学習時間90分）
6 回	隕石衝突による地球環境変化について復習し、新生代、特に第四紀における地球に起きたイベントについて調べておくこと（標準学習時間90分）
7 回	第四紀の地球の歴史について復習し、その時代の環境変動の特質について調べておくこと（標準学習時間90分）
8 回	地球の気候変動の要因について復習し、地殻をつくる岩石を構成する主な10種類ほどの造岩鉱物について調べておくこと（標準学習時間90分）
9 回	地殻を構成する岩石と鉱物について復習し、その解析手段としてのX線回折の原理について調べておくこと（標準学習時間90分）
10 回	X線回折の原理について復習し、地震波(P波, S波)について調べておくこと（標準学習時間90分）
11 回	地球内部構造について復習し、同位体を用いた年代測定法とその基礎となる放射能、放射線について調べておくこと（標準学習時間90分）
12 回	同位体年代測定法について復習し、フィッシュン・トラックについて調べておくこと（標準学習時間90分）
13 回	フィッシュン・トラック年代測定法について復習し、地球の古地磁気について調べておくこと（標準学習時間90分）
14 回	古地磁気を用いた年代推定法について復習し、電子スピン共鳴、熱ルミネッセンス、光刺激ルミネッセンスについて調べておくこと（標準学習時間90分）
15 回	捕獲電子を用いた年代測定法について復習し、地球史における恐竜の時代の環境の特徴を調べておくこと（標準学習時間90分）

講義目的	地球環境の問題がクローズアップされている現代において、過去の地球・惑星の歴史を調べることが、未来予測につながる。地球型惑星の歴史、それを構成する物質の科学、歴史を調べる年代測定法について講義を行う。（学位授与方針Cに最も強く関連）
達成目標	46億年の地球史全体の概略、その歴史を調べる年代測定法、それに密接に関連する地球惑星の構成物質の性質及びその分析法について、その原理と特性について 1) 関心を持ち、自ら進んで調べ、それを記述できる(C) 2) 議論するのに必要な基礎的な知識を持ち、それを説明できる(A) 3) 自分なりの考えを持ち、それを記述できる(B)
キーワード	隕石 地球史 年代測定 放射線 古環境 恐竜 人類
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各授業についての課題の提出(A,B,C)により、総合点の60点以上を合格とする。
教科書	必要な資料は授業時に、あるいはMomo Campus によって配布する。
関連科目	なし
参考書	岩波講座 地球惑星科学 1 - 14
連絡先	D4号館3階 西戸裕嗣研究室 nishido@big.ous.ac.jp / D4号館3階 豊田 新研究室 toyoda@dap.ous.ac.jp アイソトープ実験施設2階 兵藤博信研究室 hhyodo@rins.ous.ac.jp D4号館3階 能美洋介研究室 y_noumi@big.ous.ac.jp A2号館5階 畠山唯達研究室 hatake@center.ous.ac.jp D4号館2階 實吉玄貴研究室 saneyoshi@big.ous.ac.jp D2号館6階 小林祥一研究室 kobayashi@das.ous.ac.jp C2号館5階 石垣忍研究室 d2号館 6 階 青木一勝研究室 kazumasa@das.ous.ac.jp C4号館 2 階 今山研究室 imayama@rins.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業資料、課題の提示にMomo Campusを使用する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題についての総評をMomo campusを通じて配布します。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	産業課題研究演習（FB223720）
英文科目名	Seminar on project studies of enterprise managements
担当教員名	河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	3 年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	長期インターンシップに取り組んだ学生が、経験から得た知見を企業と連携して、企業の経営的、技術的課題を考察・研究し、改善や新製品などの開発への提案を行うことを通して、分析力、研究力、報告書作成力、プレゼンテーション力を養う活動を実践する。学生は、長期インターンシップに参加した企業から、企業が抱える問題等の提供、または、インターンの経験から発見した問題点について企業に提示する。問題についての原因やその背景について分析を行う。次に、問題を解決するための案、またその案によって得られる効果について検討を行う。その作業において、グループで取り組める場合は、グループワーキングを行い、検討を行う。必要によっては、実地調査などを行う。提案する事項について、企業との打ち合わせを行う。課題解決の提案事項についてプレゼンテーションを企業または関連する教員等に対して行う。講義として30時間以上を要する。実施の中で、3種類のレポートを提出する。企業が抱える問題のその原因について調べた結果のレポートと、問題を解決するための案を3つ以上提案しレポートにまとめ、解決案を1つに決定しそれによって得られる結果をレポートにて提出する。
準備学習	課題解決に向けて、対応する企業において長期のインターンシップに参加する。インターンシップ期間は1か月以上とし、社会・産業実習の単位認定を得ていること。または、90時間以上のインターンシップに参加して、インターンシップCの認定を得ること。これらのインターンシップの参加が講義を受講するための準備学習である。（標準学習時間：90時間から1か月のインターンシップ）講義は集中講義で行うため、必要な準備をすること。（合計標準学習時間：60時間）
講義目的	企業の経営的、技術的課題を考察・研究し、改善や新製品などの開発への提案を行うことを通して、分析力、研究力、報告書作成力、プレゼンテーション力を身に付ける。 4領域の項目では、「思考・判断・表現」に最も強く関与している。
達成目標	1) 企業の経営的または技術的な課題を考察し、文章で表現することができる。 2) 課題解決のための分析を行い、説明できる。 3) 課題解決のための分析をもとに、解決案を説明できる。 4) 解決案を実行することによって生じる結果を推測することができる。 5) 自分の考えを具体的に説明することができる。
キーワード	インターンシップ、COOP型インターン
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	企業が抱える問題のその原因について調べた結果のレポート（達成目標の1）20%と問題を解決するための案を3つ以上提案しレポートにまとめる（達成目標の2と3）20%と解決案を1つに絞り、その結果を詳細にレポートにまとめる（達成目標の4）20%と最終発表（達成目標の5）40%で評価し、60%以上で合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	企業情報特論A、企業情報特論B、インターンシップA、インターンシップB、インターンシップC、インターンシップ概論、社会・産業実習
参考書	適宜指示する。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター 河野敏行 syusyoku@office.ous.ac.jp 086-256-8435 質問などは9:00-17:00でキャリア支援センターにて受け付ける。
授業の運営方針	社会・産業実習またはインターンシップCを履修し、単位修得したものが履修できる。集中講義で実施するため、履修者に対応する企業との打ち合わせで実施日時を設定する。履修実施期を場合によっては移動してもらうことがある。グループで課題に取り組む場合は、グループワーキングを行う。
アクティブ・ラーニング	グループで課題に取り組む場合は、グループワーキングを行う。
課題に対するフィードバック	レポートの提出に対して、その内容について議論を行うことで、フィードバックする。最終発表に対しては、その場でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	社会・産業実習またはインターンシップCを履修し、単位修得したものが履修できる。集中講義で実施するため、履修者に対応する企業との打ち合わせで実施日時を設定する。履修実施期を企業との打ち合わせによっては移動してもらうことがある。受講マナーや指示に従わない場合は、「不可」とする。

科目名	ワインの科学 (FB223900)
英文科目名	Wine science
担当教員名	川俣昌大 (かわまたまさひろ), 金子明裕 (かねこあきひろ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義内容と進め方を説明する。ワインのラベルの読み方について説明する。 (川俣 昌大)
2 回	ワイン用ブドウ品種と主な世界のブドウ栽培地について説明する。 (川俣 昌大)
3 回	ワイン用ブドウ栽培の概要について説明する。 (川俣 昌大)
4 回	ワイン中の成分 (香り、味) について説明する。 (川俣 昌大)
5 回	ワインの評価方法 (テイスティング) について説明する。 (川俣 昌大)
6 回	ワイン (白ワイン、赤ワイン、その他) のつくり方の概要について説明する。 (川俣 昌大)
7 回	日本ワインをはじめとする、身近なワインについてと、最近の話題について説明する。 (川俣 昌大)
8 回	最終評価試験を実施する。 (川俣 昌大)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み授業内容を確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	教科書 (ワインは楽しい!) p71-93、p129-175をよく読んでおくこと。(標準学習時間90分)
3 回	教科書 (ワインは楽しい!) p94-97をよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
4 回	教科書 (ワインは楽しい!) p40-51をよく読んでおくこと。(標準学習時間60分)
5 回	教科書 (ワインは楽しい!) p52-69をよく読んでおくこと。(標準学習時間60分)
6 回	教科書 (ワインは楽しい!) p108-121をよく読んでおくこと。(標準学習時間60分)
8 回	これまでの授業内容について復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	ブドウ栽培からワインづくりまでの、ワインについての基礎的な知識を理解する。ワイン中の成分とテイスティング方法を知り、ワインの楽しみ方を学習する。(ディプロマポリシーに対する関与の程度のA知識・理解にもっとも強く関連している)
達成目標	ブドウ栽培からワインづくりまでの、ワインについての基礎的な知識を理解できること。(A) ワイン中の成分を知り、テイスティング方法について理解していること。(A),(B) ()内は大学の「学位授与の方針」の対応する項目。
キーワード	ラベル、ブドウ栽培、品種、成分、テイスティング、ワインのつくり方
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準点)	最終評価試験 (80%) 及び授業時間の確認テスト (20%) により成績を評価し、統計で60%以上を合格とする。(達成目標の ~ を確認)
教科書	ワインは楽しい! 絵で読むワイン教本 / オフェリー・ネマン / パイ インターナショナル / 9784756247384
関連科目	(1 年次開講科目) ワインの歴史と風土・文化、ブドウ栽培学、生命の基礎化学、ワインプロジェクト実習 (2 年次開講科目) 生命の化学概論、発酵と微生物、ワイン醸造法、ワインプロジェクト実習 (3 年次開講科目) ワインプロジェクト実習
参考書	
連絡先	川俣昌大 B1号館2階・ワイン発酵科学センター
授業の運営方針	講義の配布資料などは、必要に応じてMomocampusに掲載する

アクティブ・ラーニング	ワイン中の成分の香りを実際に嗅ぐことで、香りの違いを理解する。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、解説をMomocampusに掲載する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音／録画／撮影は原則認めませんが、理由がある場合は事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 元マンスワイン株式会社勤務 イ) 実務経験をいかして、ブドウ栽培からワインづくりまでの、ワインについての基礎的な知識を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経営学 (FB224200)
英文科目名	Fundamental Business
担当教員名	山口隆久 (やまぐちたかひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。講義の進め方を説明する。経営学の全体像について説明する。
2 回	経営学の全体像について説明する。
3 回	ヒトのマネジメント・・・従業員満足を高める新たな人的資源管理について説明する。
4 回	モノのマネジメント・・・価値共創を基軸とした商品開発について説明する。
5 回	カネのマネジメント・・・資金の調達と運用について説明する。
6 回	情報のマネジメント・・・生活世界の顧客情報の収集と分析について説明する。
7 回	組織のマネジメント・・・について説明する。
8 回	具体的な事例をもとに、プロモーション戦略について学習する。続いて第1回から第8回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認と復習 企業の役割について予習しておくこと (標準学習時間90分)
2 回	企業の機能について復習すること 企業が機能しなければ我々の生活はどのようなになってしまうかを考えておくこと (標準学習時間90分)
3 回	企業の役割や形態について復習すること 自分が働くということについて、考えておくこと (標準学習時間90分)
4 回	企業で働くことについて復習すること 何を基準にモノを購入しているかについて、考えておくこと (標準学習時間90分)
5 回	使用してく段階の価値共創と何かについて復習すること 企業の資金調達について、考えておくこと (標準学習時間90分)
6 回	企業が上場する意味について復習すること 私たちの生活において情報の必要性とは何かについて、考えておくこと (標準学習時間90分)
7 回	ナレッジマネジメントについて復習すること 自分が組織では働くということについて、考えておくこと (標準学習時間90分)
8 回	予習として第1回から第7回までの学習内容についてまとめておくこと。復習として組織のマネジメントについてまとめておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	本講義は、経営学部以外の学部学科生向けに、はじめて経営学を本格的に学ぶ人を対象に、経営学の基礎的概念を学ぶ。本講義の目的は、第一に社会で活動する企業について興味・関心を持つこと、第二に経営学に関する基礎的な知識や基本的な考え方を身につけることとする。特に本講義では、サービス社会におけるマネジメント・システムに焦点を当て、経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報を中心に理解を深め、様々な分野におよぶ経営学理論について、企業事例を用いながら丁寧に解説する。また、これに関連する企業を中心とした社会的事例について適宜取り扱う。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	1) 各企業が展開している経営活動について具体的に説明できる。 2) 企業経営に関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
キーワード	経営学、マーケティング、経営戦略、経営組織
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	定期試験 (100%) によって評価する (教科書、ノート持ち込み可)。
教科書	「サービス社会のマネジメント」村松潤一・山口隆久編著 同文館出版 (平成30年12月) ISBN978-4495-64941-8
関連科目	マーケティング (本講義後開始)
参考書	適宜指示する。
連絡先	A1号館7F 山口隆久研究室 t-yama@mgt.ous.ac.jp 086-256-9752
授業の運営方針	この授業では経営学を始めて学ぶ学生を対象としているので、授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	本講義では演習を多用した授業となり、ここではチームワークやライティングなど受講生の能動的な活動が求められる。

課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	銀行にて金融業務、企画立案業務に20年以上携わってきた経験がある教員（山口隆久）が、その実務経験、及びマネジメント分野での博士学位取得の両方を活かして、具体的な戦略課題や立案の視点を理論的に講義し、戦略策定の能力の向上等を指導する。
その他（注意・備考）	* 経営学科の学生は受講できませんので注意してください。 * 経営学や経済学の知識は全く必要ありません。 * ペア科目で本講義終了後、「マーケティング論」が開講される。同じ教科書「サービス社会のマネジメント」を使用することからも、是非、受講して欲しい。

科目名	身近な数学 (FB224400)
英文科目名	Mathematics closely related to our daily lives I
担当教員名	濱谷義弘 (はまやよしひろ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	不思議な数たちを理解する。
2 回	ダビンチ・コードー黄金比を理解する。
3 回	お見合いの戦略を理解する。
4 回	総合演習とその解説をする。
5 回	恋愛の数理の解説をする。
6 回	ゲーム理論を理解する。
7 回	少子化問題、結婚の数理を理解する。
8 回	学習達成度確認試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書第 2、3 章を読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
2 回	教科書第 4、5 章を読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
3 回	教科書第 7 章を読んでおくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	第 1 から 3 回の講義ノートの復習を行うこと。(標準学習時間 2 時間)
5 回	教科書第 12 章を読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
6 回	教科書第 14 章を読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
7 回	第 5、6 回のノートを読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
8 回	第 1 回から第 7 回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間 3 時間)

講義目的	本講義では、日常生活での出来事や社会の仕組みに関連する事柄に内在する数学的論理および数学的思考を紹介する。また、身近に起こる事柄をどのように数理モデル化するかについても紹介する。それらを通して、各種の数理モデルを理解することが目的である。(学習評価 4 領域の「知識・理解、関心・意欲・態度」に強く関与する)
達成目標	1. 黄金比について説明できる(知識・理解) 2. 期待値について説明できる(知識・理解) 3. システムの平衡解を求めることができる(技能) 4. ゲーム理論について説明できる(知識・理解) 5. システムの安定性を判定することができる(技能) 6. 数理モデルが日常生活でどのように使われているかを説明できる(関心・意欲・態度および知識・理解)
キーワード	フィボナッチ数列、期待値、ゲーム理論、数理モデル、安定性
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	総合演習 評価割合30%(達成目標1,2,3を確認)、学修達成度確認試験 評価割合70%(達成目標4,5,6を確認)により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	数理と社会(身近な数学でリフレッシュ)/河添 健/数学書房/978-4-903342-82-5
関連科目	なし
参考書	使用しない
連絡先	B5号館 3階 濱谷研究室 (オフィスアワーは mylog を参照のこと)
授業の運営方針	・授業は基本的にOHP形式で進めるので、ノートをしっかりと取ること。 ・講義だけでなく演習を重視し、授業中に演習時間を十分設けます。 ・何度かレポートを課し、自分で考え、問題解決の努力が出来ているかどうかをチェックします。 ・授業は学習への意欲を持って臨んでください。授業中の質問は随時受け付けます。分からないことをそのままにしないようにしてください。 ・応用数学科、基礎理学科、情報科学科の学生に対しては、内容が専門に近いので受講を許可しないことがある。また、100名を超える場合も受講制限することがある。
アクティブ・ラーニング	・演習 講義の説明や例題などから理解した解答方法を適用して、演習問題を解きます。演習後、解答を発表してもらう場合があります。 担当教員の解説を聞き、自分のやり方が正しかったかどうかを判断し、理解を深めます。
課題に対するフィードバック	・課題・レポートの提出後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。 ・総合演習、学修達成度確認試験を行った後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	身近な数学 (FB224410)
英文科目名	Mathematics closely related to our daily lives I
担当教員名	濱谷義弘 (はまやよしひろ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	不思議な数たちを理解する。
2 回	ダビンチ・コードー黄金比を理解する。
3 回	お見合いの戦略を理解する。
4 回	総合演習とその解説をする。
5 回	恋愛の数理の解説をする。
6 回	ゲーム理論を理解する。
7 回	少子化問題、結婚の数理を理解する。
8 回	学習達成度確認試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書第 2、3 章を読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
2 回	教科書第 4、5 章を読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
3 回	教科書第 7 章を読んでおくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	第 1 から 3 回の講義ノートの復習を行うこと。(標準学習時間 2 時間)
5 回	教科書第 12 章を読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
6 回	教科書第 14 章を読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
7 回	第 5、6 回のノートを読んでおくこと。(標準学習時間 1 時間)
8 回	第 1 回から第 7 回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間 3 時間)

講義目的	本講義では、日常生活での出来事や社会の仕組みに関連する事柄に内在する数学的論理および数学的思考を紹介する。また、身近に起こる事柄をどのように数理モデル化するかについても紹介する。それらを通して、各種の数理モデルを理解することが目的である。(学習評価 4 領域の「知識・理解、関心・意欲・態度」に強く関与する)
達成目標	1. 黄金比について説明できる(知識・理解) 2. 期待値について説明できる(知識・理解) 3. システムの平衡解を求めることができる(技能) 4. ゲーム理論について説明できる(知識・理解) 5. システムの安定性を判定することができる(技能) 6. 数理モデルが日常生活でどのように使われているかを説明できる(関心・意欲・態度および知識・理解)
キーワード	フィボナッチ数列、期待値、ゲーム理論、数理モデル、安定性
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	総合演習 評価割合30%(達成目標1,2,3を確認)、学修達成度確認試験 評価割合70%(達成目標4,5,6を確認)により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	数理と社会(身近な数学でリフレッシュ)/河添 健/数学書房/978-4-903342-82-5
関連科目	なし
参考書	使用しない
連絡先	B5号館 3階 濱谷研究室 (オフィスアワーは mylog を参照のこと)
授業の運営方針	・授業は基本的にOHP形式で進めるので、ノートをしっかりと取ること。 ・講義だけでなく演習を重視し、授業中に演習時間を十分設けます。 ・何度かレポートを課し、自分で考え、問題解決の努力が出来ているかどうかをチェックします。 ・授業は学習への意欲を持って臨んでください。授業中の質問は随時受け付けます。分からないことをそのままにしないようにしてください。 ・応用数学科、基礎理学科、情報科学科の学生に対しては、内容が専門に近いので受講を許可しないことがある。また、100名を超える場合も受講制限することがある。
アクティブ・ラーニング	・演習 講義の説明や例題などから理解した解答方法を適用して、演習問題を解きます。演習後、解答を発表してもらう場合があります。 担当教員の解説を聞き、自分のやり方が正しかったかどうかを判断し、理解を深めます。
課題に対するフィードバック	・課題・レポートの提出後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。 ・総合演習、学修達成度確認試験を行った後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論 A (FV23B110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations A
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	国際社会の特徴と国際法の法源について学修する。国内社会と比較することにより国際社会の特徴について学修する。そのうえで、国際法がいかなる形式で存在し、どのようにして成立するのかという国際法の法源論について学修する。
2 回	国際組織の萌芽について学修する。国際組織が成立する以前の国際社会において、組織化がどのように進展したのかについて学修する。
3 回	国際連盟について学修する。国際連盟の成立の経緯、組織、活動について学修する。
4 回	国際連合について学修する。国際連合の成立の経緯、組織について学修する。
5 回	国際連合に関する諸問題について学修する。国際連合の権限、表決制度、決議の法的拘束力について学修する。
6 回	国際的な経済体制について学修する。貿易や金融などに関する国際的な制度の内容について学修する。
7 回	国際的な人権保障について学修する。人権問題について国際社会がどのように取り組んでいるのかについて学修する。
8 回	欧州連合について学修する。欧州連合の成立の経緯、組織、活動について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際社会の特徴および国際法の法源に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際組織の萌芽に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連盟に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合の諸問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際的な経済体制に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分)

	復習として、国際的な人権保障に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）
8回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。（90分） 復習として、欧州連合に関する課題についてのレポートを完成させること。（90分）

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際関係の歴史を概観した後に、国際機構、特に国際連合成立の経緯、組織構造をみていくことで、現在の国際社会の基本的な仕組みを解説する。そして、そこに込められた人々の平和への願いを読み解き、国際化の真の意味を理解することを目指す。 教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 国際社会の特徴について説明できるようになること。 ○ 国際社会の成り立ちについて説明できるようになること。 ○ 国際連合の組織および機能について説明できるようになること。 ○ 国際経済体制について説明できるようになること。 ○ 国際的な人権保障制度について説明できるようになること。
キーワード	国際連盟、国際連合、世界貿易機関、国際通貨基金、人権、欧州連合
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	mylogにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	国際関係論B
参考書	国際連合 - 軌跡と展望 / 明石康 / 岩波書店 / 978-4004310525 : 国際組織法 / 佐藤哲夫 / 有斐閣 / 978-4641046344
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、mylogから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教養演習 A (FV23B120)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生に、自己PRを含む 5 分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。(1)
3 回	受講生に、自己PRを含む 5 分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。(2)
4 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(1)
5 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(2)
6 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(3)
7 回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。(4)
8 回	これまで演習で実施したディスカッションの講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、演習の進め方を把握しておくこと(3 0 分)。今問題になっている時事問題について事前に調べてくること(6 0 分)。受講後に、図書館やwebの利用方法を確認し利用できるようにしておくこと(9 0 分)。
2 回	自己PRと最近関心を持った時事問題について、事前に整理し簡潔にまとめておくこと(9 0 分)。受講後に、講義の中で取り上げられた時事問題について調べておくこと(9 0 分)。
3 回	自己PRと最近関心を持った時事問題について、事前に整理し簡潔にまとめておくこと(9 0 分)。受講後に、講義の中で取り上げられた時事問題について調べておくこと(9 0 分)。
4 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと(9 0 分)。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと(9 0 分)。
5 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと(9 0 分)。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと(9 0 分)。

6 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと（90分）。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと（90分）。
7 回	演習で取り上げるテーマについて事前に調べ、自身の意見をまとめておくこと（90分）。受講後に、講義で取り上げたテーマについて特に知らなかったことを中心に調べておくこと（90分）。
8 回	これまでの演習で取り上げられた各テーマについて、事前に内容と意見をまとめておくこと（90分）。

講義目的	主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。上記のことにより思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Aでは、主に新聞記事などを題材に自由な議論を行なう。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」に深く関連する。
達成目標	教員側が選定した時事問題について自分で調べ正確な内容を把握できる。 受講者が自己PRやディスカッションにおいて、自分の意見を発表できる。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、ディスカッション、プレゼンテーション、政治、経済、社会、文化、国際問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	個別発表課題（50%）と最終評価試験（50%）を合計100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	2019年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2・準2級対応）/日本ニュース時事能力検定協会監修/毎日新聞出版
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB、プレゼンテーション基礎編AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業の中で取り上げる各テーマにつき主報告者を割り当て、パワーポイント等を用いた報告課題を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

ゲ	主報告者は10分の口頭発表を行う。 ディスカッション 主報告者の内容をもとに受講者全員で討論を行う。
課題に対するフィードバック	個別発表課題については、授業の中で講評を行う。最終評価試験（レポート形式）については、事前に評価基準を提示することを前提とし、試験結果について希望者に点数を開示し評価の根拠を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	学びの基礎論 A (FV23B130)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) と「大学の学び」への招待 学士力、社会人基礎力、グローバル化等をキーワードに、大学での学びについて考察し、自分が今後獲得すべき能力について目標を設定する。
2 回	コミュニケーショントレーニングと人間理解 コミュニケーションの意味と価値を理解し、良好な人間関係を保つためのコミュニケーションについて説明する。
3 回	聴く方法、情報のまとめ方 ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考えることで、情報を能動的に受け取る姿勢を理解する。
4 回	コミュニケーショントレーニング コミュニケーションを理解したうえで、立場の違いによるコミュニケーションを説明する。
5 回	コミュニケーショントレーニング 事例を用い、コミュニケーション力を測定する。
6 回	アカデミックライティング レポートと感想の違いについて検討し、アカデミックライティングの構造や特質について説明する。
7 回	社会に求められる人材、グローバル人材になるためには交渉力、異文化理解、異文化コミュニケーションについて説明する。
8 回	講義の総括をする。

回数	準備学習
1 回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認し、大学で学ぶ意義について考えておくこと (90 分) 復習として、自身の大学で学ぶ意義をまとめておくこと (90 分)
2 回	予習としてテキストの第 1 章 (1 - 36 頁) を熟読し、内容をまとめておくこと (180 分)
3 回	予習としてテキストの第 3・4 章 (66 - 117 頁) を熟読し、内容をまとめておくこと (180 分)
4 回	予習としてテキストの第 5・6 章 (120 - 168 頁) を熟読し、内容をまとめておくこと (180 分)
5 回	予習としてテキストの終章 (202 - 225 頁) を熟読し、内容をまとめておくこと (180 分)
6 回	復習として、大学生に求められる学習スキルに関する課題レポートを完成すること (180 分)
7 回	復習として、グローバル化に求められる人材について考えておくこと (180 分)
8 回	これまでの講義の振り返り、学んだことをまとめ、疑問点があれば明確にしておくこと (180 分)

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。内容として、生涯にわたる「学び」を深めるために 人生の一回性の認識や学びの意味、生涯にわたる学び、自己実現、至高経験について考察する コミュニケーション力を高めるために、状況判断力、情報伝達力、情報獲得力、傾聴力、人間関係構築力、問題解決力について考察する。(教養教育科目の 4 領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	授業中に作成したワークシートの提出 (30%)、課題小レポート (40%)、最終レポート (30%) により成績を評価し、総計で得点率 60% 以上を合格とする。

教科書	学びとは何か - <探究人> になるために / 今井むつみ / 岩波書店 / ISBN 978-4-00-431596-4
関連科目	本科目に引き続き「学びの基礎論B」を履修することが望ましい。
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・ 他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・ 授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・ バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・ 許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・ 欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・ 学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	ライティング、ディスカッション、プレゼンテーション 学習内容に関する意見をワークシートに書き、グループでディスカッションを行う。その後、グループごとに意見を発表する。
課題に対するフィードバック	ワークシートについては、代表的なコメントを次回の授業開始時に提示し、フィードバックを行う。 課題レポートについては、ルーブリック等を用いてフィードバックを行う。 最終レポートについては、Momo-campusに解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学A (FV23C110)
英文科目名	Literature A
担当教員名	大西好幸* (おおにしよしゆき*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本古典文学の展開を概説する。
2回	上代の文学として『古事記』『万葉集』を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト 中古の文学(和歌・物語)として『古今和歌集』『源氏物語』を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト 中古の文学(日記・随筆・説話)として『土佐日記』『枕草子』『今昔物語集』を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト 中世の文学(物語・和歌)として『平家物語』『新古今和歌集』を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト 中世の文学(随筆・能・狂言)として『徒然草』『風姿花伝』を取り上げ、解説する。連歌にも触れる。
7回	復習小テスト 近世の文学(俳諧)として『奥の細道』を取り上げ、解説する。
8回	近世の文学(小説・浄瑠璃)として井原西鶴、近松門左衛門を取り上げ、解説する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。日本古典の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
2回	教科書「上代の文学」の章を読んで予習をしておくこと。『万葉集』の中から好きな一首を選び、感想をまとめておくこと。【標準学習時間180分】
3回	教科書「中古の文学」(和歌・物語)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
4回	教科書「中古の文学」(日記・随筆・説話)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
5回	教科書「中世の文学」(物語・説話・和歌)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
6回	教科書「中世の文学」(随筆・能・狂言・連歌)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
7回	教科書「近世の文学」(俳諧)の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テストの準備をしておくこと。【標準学習時間180分】
8回	教科書「近世の文学」(小説・浄瑠璃)の箇所を読んで予習をしておくこと。これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間240分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。「文学A」は近代以前の文学作品を対象とし、それぞれの地域によって異なる風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた人々の思い、心の動き方、社会の中で展開される人間模様などを見てゆく。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	(1) 日本古典文学の基礎的な知識を身につける。(知識・理解) (2) 古典文学を生み出した歴史的背景や上代から近世までどうつながり、どのように展開しているかそのダイナミズムを理解する。(思考・判断・表現) (3) 古典作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。(関心・意欲・態度)
キーワード	上代、中古、中世、近世、日本文学史、詩、詞
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版 / 兵庫県高等学校教育研究会国語部会編 / 京都書房 / ISBN978-4-7637-2204-1

	プリントを適宜配布する。
関連科目	本科目に引き続き「文学B」を履修することが望ましい。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	・テキストは問題集を兼ねているので、準備学習時によく読んで予習をしておくと同時に解答しておくこと。 ・講義資料（テキスト補完資料）は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	ライティング、質問 文学作品について学生が感想を書く。また、テキストの内容に関する問題に答える（小テスト）。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、コメントをつけて返却する。 ・小テストについては、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答及び解説プリントを配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史 A (FV23C120)
英文科目名	Japanese History A
担当教員名	白石成二* (しらいしせいじ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	初めに自己紹介を行う。獣医学部の立地する愛媛県や今治市に対する理解を深めるために、伊予国の大まかな歴史や国指定史跡をはじめとする貴重な文化財の紹介を行う。次に日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで授業の進め方について説明する。その後、旧石器時代の具体的内容や、その特色について確認するとともに、考古学の捏造事件を取り上げ、一方的な情報を盲信することの危険性についても触れる。
2 回	近年の発掘成果によって「貧しい縄文文化」「遅れた縄文文化」のイメージが大きく変化していることを説明する。また縄文時代には一万年にわたって戦争がなかった要因を検討したうえで、縄文時代から現代へのメッセージについて考える。また弥生時代の具体的内容に触れるとともに、その結果、縄文時代にはなかった大規模な戦争が起こるようになったことを確認し、今日各地で起こっている戦争の問題に引きつけて説明する。
3 回	古墳時代の前期・中期・後期の内容と特色について触れ、巨大な前方後円墳や八角形墳などがなぜ築かれたのかを説明する。そしてそのあり方は現代日本人の死生観に通じるものがあることを確認する。また古代日本と大陸との交渉のなかで渡来人が多くやってきて文化形成に大きな役割を果たした。現在、国境を越えた人の交流が進んでいる。古代の渡来人の歴史を踏まえ、「日本人とは何か」について検討する。
4 回	聖徳太子研究の深化によって推古・厩戸時代のイメージが大きく変容している。その時代の具体的内容の理解とともに、歴史の虚像と実像について触れ、また大化の改新についても木簡の出土によって新しい事実が明らかになり、従来のイメージの転換がおこっている。さらに木簡等によって『日本書紀』の内容について、再検討が進められていることにも触れる。今日、多くの虚実の情報が行き交う中で、その受け取り方について考える。
5 回	古代最大の対外戦争がなぜ起こったのか、その敗北によってどれほどの大きな影響があったのかを具体的に説明する。また古代最大の内戦である壬申の乱の背景や経過や結果について触れる。そしてその両方の戦争を経ることによって、古代文明のグローバルスタンダードである律令制に基づく天皇中心の国家体制が成立する。それは文明国の仲間入りであるとともに、かつての「倭国」から新たな国号「日本」の誕生であったことを確認する。
6 回	古代の七・八世紀は実に多くの女帝が誕生した。その理由を考えるとともに、論争となっている女帝の「中継ぎ論」と「中継ぎ見直し論」について触れる。その歴史理解うえで現在の皇室をめぐる議論についても考える。次に世紀の発見と言われた長屋王家木簡の出土によって、長屋王という上流貴族の実態が具体的に明らかになってきたことに触れる。新しい史料の発見によって従来の歴史理解が見直されるものであることを確認する。
7 回	古代の日本の外交について遣唐使を通して検討する。とりわけ阿倍仲麻呂や井真成の個人的な活動や実質的に最後の遣唐使となる「承和の遣唐使」についてふれ、遣唐使の役割についてみていく。その遣唐使にみられる古代外交の特色が、現代の外交とも重なっていることを確認する。次に奈良時代の精華とされる天平文化の具体的内容に触れるとともに、その文化が仏教のような宗教文化だけでなく、衣食住の全般にわたって大陸の強い影響を受けていることを説明する。
8 回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	我が国で初めて旧石器時代の存在を確認した相沢忠洋の『岩宿の発見』に目を通すこと。また全体を通しての参考文献である網野善彦『日本社会の歴史(上)』(岩波新書)の旧石器時代の部分を読んで予習しておくこと。(標準学習時間180分)
2 回	縄文時代については、田中・佐原真『考古学の散歩道』(岩波新書)、上田篤『縄文人に学ぶ』(新潮新書)、小林達雄『縄文の思考』(ちくま新書)、瀬川拓郎『アイヌと縄文』(ちくま書房)など、弥生時代については、石川日出志『農耕社会の成立』(岩波新書)、東潮『邪馬台国の考古学』などがあり、どれか一冊を図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間180分)
3 回	古墳時代については松木武彦『古墳とは何か』(角川選書)、外池昇『天皇陵の誕生』(祥伝社新書)、ヤマト王権と渡来人については吉村武彦『ヤマト王権』(岩波新書)、加藤謙吉『渡来氏族の謎』(祥伝社新書)、同『大和の豪族と渡来人』(吉川弘文館)などがあり、図書館で読んで予習しておくこと。(標準学習時間180分)
4 回	推古・厩戸の時代については、聖徳太子虚像説の立場を代表するのが、大山誠一『「聖徳太子」の誕生』(吉川弘文館)、谷沢永一『聖徳太子はいなかった』(新潮新書)で、实在説の立場から吉

	村武彦『聖徳太子』（岩波新書）、東野治之『聖徳太子』（岩波ジュニア新書）であり、必読の書である。大化の改新については遠山美都男『天智と持統』（講談社現代新書）、倉本一宏『蘇我氏』（中公新書）、武光誠『蘇我氏の古代史』（平凡社新書）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
5 回	白村江の戦いについては、鬼頭清明『白村江』、壬申の乱については遠山美都男『壬申の乱』（中公新書）、早川万年『壬申の乱を読み解く』（吉川弘文館）、律令制の成立については大山誠一『天孫降臨の夢』がある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
6 回	古代の女帝については、吉村武彦『女帝の古代日本』（岩波新書）、仁藤敦史『女帝の世紀』（角川選書）、瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、長屋王の変については寺崎保広『長屋王』（吉川弘文館）、遠山美都男『検証平城京の政変と内乱』（学研新書）、倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
7 回	遣唐使をめぐる東アジア外交については、東野治之『遣唐使』（岩波新書）、『遣唐使阿倍仲麻呂の夢』（角川選書）、古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、森公章『遣唐使の光芒』（角川選書）など、天平文化については、直木孝次郎『万葉集と古代史』（吉川弘文館）、東野治之『正倉院』（岩波新書）、同『鑑真』などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
8 回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	日本列島内における古代史から、中世に至る時代を扱う。日本列島では弥生時代を経て、各地の酋長連合によるヤマト政権による国家的事業としての古墳時代を迎えた。その後、極東アジア地域からさまざまな文化を導入し、国のかたちを整えていった。中でも律令制は、国家形成等にかかわる重要な制度であり、日本史の方向性を決定したといっても過言ではないだろう。この講義では、日本列島の地勢的状况、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 （教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	我が国の国家形成等に関わる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握できる。因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる。歴史的な事象とその背景についての分析結果を深く考察できる。
キーワード	「旧石器時代」、「縄文時代」、「古墳時代」、「飛鳥時代」、「大化の改新」、「白村江の戦い」、「壬申の乱」、「律令制」、「女帝」、「木簡」、「遣唐使」、「天平文化」
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料やプリントを配布する。
関連科目	日本史Bを続けて履修することが望ましい。
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	歴史の面白さや深みのある内容を提示することを通して正しい歴史を理解し、正しい歴史認識を持てるようにする。 また、授業の出欠席の取扱いについては以下の通りである。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。 （２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。 （３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング 歴史の史料や絵画資料をできるだけ多く使用する。それらを元にして、その時代的背景や歴史的意義を考え、自分でまとめさせる作業を行わせる。
課題に対するフィードバック	最終評価試験の採点結果をグレード別にフィードバックする。そして今後学ぶべき参考文献などを提示し、授業後においても人の歴史だけではなく、獣医として必要な動物に関する歴史についても興味を持てるようにする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。日本語が十分習得できていない学生に対して、できるだけ丁寧に説明することを心がけるとともに、配布資料や試験においてルビを多くつけてわかりやすくします。また理解が不十分な学生には、別に課題を与えて学習させるようにします。
実務経験のある教員	元高等学校勤務。学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題についても講義で触れる。
その他（注意・備考）	（１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席し

	た場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。(3) これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
--	--

科目名	外国史 A (FV23C130)
英文科目名	World History A
担当教員名	松澤仁志* (まつざわひとし*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2 回	オリエントと地中海世界について概観する。
3 回	アジアの古典文明をインド、中国（秦漢帝国まで）の歴史を中心に説明する。
4 回	イスラーム世界の形成と発展について説明する。
5 回	ヨーロッパ世界の形成と発展について説明する。
6 回	東アジア世界の形成と展開について説明する。
7 回	中世から近世にかけてのヨーロッパ世界の形成と展開について説明する。
8 回	第 1 回から第 7 回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと（90分）
2 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
3 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
4 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
5 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
6 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
7 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（180分）
8 回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと（270分）

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代は民主主義、資本主義、科学主義などを基本的な要素とした近代社会であるが、これらが世界の各地域においてどのように形作られ、どのような展開を見せたかということを講義する。その後、それらを形成し、各国の世界観や文化に影響を与えたそれぞれの世界の歴史について、古代文明や中世社会の構造とその変質および科学革命などについて解説する。 （教養教育科目の 4 領域のうちの思考・判断・表現に強く関与する）
達成目標	近世までの世界史の流れを説明することができる 近世までの世界史における異なる文明圏同士の相互交流の状況を説明することができる 近世までの世界史の現代につながる歴史的影響力について考察することができる。
キーワード	歴史的因果関係、知的好奇心、人物像の考察、歴史的思考力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	予習・復習プリント（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	市民のための世界史 / 桃木 至朗他 / 大阪大学出版会 / ISBN487259469X : ニューステージ世界史詳覧 / 浜島書店 / ISBN4834320251
関連科目	本科目に引き続き「外国史 B」を履修することが望ましい。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
授業の運営方針	・ 授業プリントを毎回事前に配布する。 ・ 授業、及び、最終評価試験も授業プリントの内容を中心に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学	“ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提

生への対応	供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ”
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 A (FV23D110)
英文科目名	Political Science A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 政治、民主政治、民主主義の発展について概説する。
2 回	権力分立 (1) - 三権分立と議院内閣制 - について講義する。
3 回	国会について講義する。
4 回	内閣と内閣総理大臣について講義する。
5 回	権力分立 (2) - 権力相互の抑制と均衡 - について講義する。
6 回	選挙政治 - 選挙制度 - について講義する。
7 回	政党と圧力団体について講義する。
8 回	これまで講義で扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義の進め方を把握しておくこと。事前に政治、民主政治、民主主義の意味について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに内容を整理し、特に知らなかったことについて調べる (9 0 分)。
2 回	第 7 章の121～125頁を読み、議院内閣制について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに日本における議院内閣制の特徴を整理すること (9 0 分)。
3 回	第 7 章「国会」を読み、国会について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに日本における国会の特徴を整理すること (9 0 分)。
4 回	第 8 章「内閣と総理大臣」を読み、内閣制度について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに日本における内閣制度の特徴について整理すること (9 0 分)。
5 回	権力分立について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに日本における権力分立の特徴を整理すること (9 0 分)。
6 回	第 4 章「選挙と政治」を読み、選挙制度について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに日本における選挙制度の特徴について整理すること (9 0 分)。

7 回	第 4 章「選挙と政治」を読み、政党と圧力団体を調べておくこと（90 分）。受講後に、講義レジュメをもとに日本における政党と圧力団体の特徴を整理すること（90 分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、特に講義レジュメにおいて理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90 分）。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、そこに凝縮されている政治、社会の本質について考えることで、現代政治の意味を理解する手掛かりとしたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学 A では、主として＜政治と経済＞及び＜政治と社会＞について学ぶ。教養教育科目の 4 領域のうち、「知識・理解」に深く関連する。
達成目標	本講義の目標は、現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国内の政治について基本的な用語を説明できることである。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、民主政治、民主主義、権力分立、議院内閣制、国会、内閣、選挙政治、政党、圧力団体
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100％）により評価する。60点以上を合格とする。
教科書	はじめて出会う政治学【第 3 版】 / 真淵・久米・北山著 / 有斐閣アルマ / 978-4-641123687
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、国際関係論AB、教養演習AB
参考書	政治学 / 川出良枝・谷口将紀編 / 東京大学出版会 / 978-4-13-032219-5、NEW教科書シリーズ政治学 / 山田光矢編 / 弘文堂 / 978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	獣医学部教育病院棟 4 階 4 1 9 研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各講義で配布する講義レジュメに従って内容を進める。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	

ゲ	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、試験後に一定期間を設けて解答をポータルサイトの講義資料（今治・獣医学部）の中のフォルダ「政治学A」に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経済学 A (FV23D120)
英文科目名	Economics A
担当教員名	山中高光 * (やまなかたかみつ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	[オリエンテーション] [経済学とは何か] 経済をとらえる経済学の基本的枠組み・考え方(市場経済、家計、企業、政府、ミクロ経済学、マクロ経済学など)を概観する。 [需要と供給] 需要・供給分析の基礎を説明し、その応用として消費税の負担を考える。
2 回	[需要曲線と消費者行動] 需要曲線とは何か。家計の選択、消費者余剰を説明する。
3 回	[供給曲線と企業行動] 供給曲線とは何か。生産、費用、完全競争市場における企業の行動。消費者余剰を説明する。
4 回	[市場取引と資源配分] 市場と価格メカニズム、余剰分析、資源配分の歪み、市場と経済発展について説明する。
5 回	[独占と競争の理論] 完全競争、独占、独占的競争について説明する。
6 回	[市場の失敗] 市場の失敗、外部効果、公共財について説明する。
7 回	[不確実性と不完全情報の経済理論] 不確実性と経済現象、不確実性の経済理論、情報の不完全性について説明する。
8 回	前半で授業全体の復習を行う。後半45分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。テキストの予習とともに、市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
2 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。家計消費の動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
3 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。企業活動の動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
4 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場取引や価格動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
5 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場形態による取引の利害や価格動向などを新聞やTV等で把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
6 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。市場の失敗の具体例、特に外部効果と公共財、について身の回りから把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
7 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。不確実性に起因する経済事象の具体例について身の回りから把握しておくこと。配布資料及びテキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
8 回	復習に3時間以上の時間が必要である。最終評価試験に備えて十分な準備をしておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Aではその中でも特に家計と企業の行動について講義する。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	1. 学生が基本的な経済理論を理解できる。 2. 学生が様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	ミクロ経済学、資源配分、需要、供給、家計、企業、政府、消費者理論、生産者理論、市場経済、価格メカニズム、完全競争、独占、独占的競争、市場の失敗、不確実性
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	最終評価試験で成績評価する。試験は、授業で行った基本的な経済理論を理解できているかどうかを評価するために、基礎的な専門用語の使用及び説明が適切にできるか、科学的・論理的に把握しているかをみるために、仮説的な事象についての正誤の判断、計算に関する問題を課す。60点以上を合格とする。

教科書	入門経済学第4版 / 伊東元重 / 日本評論社 / ISBN 978-4-535-55817-5
関連科目	経済学Bの履修が望ましい。
参考書	経済学・入門 第3版 / 塩澤 修平 / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-22004-1 : マンキュー入門経済学 第2版 / マンキュー / 東洋経済新報社 / ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する。
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
授業の運営方針	教科書と補完する資料等をまとめた資料を事前に配布し、授業ではその解説、議論、練習問題の解答などを行う。定期試験(最終評価試験)は最終授業で行うが、事前に試験に関する説明などを行うので、注意してもらいたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	練習問題(仮題)は可能な限り授業中に解説する。最終評価試験の模範解答と解説は掲示によって行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などの許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を利用する。 定期試験(最終評価試験)は計算問題も含め筆記試験とする。

科目名	法学 A (FV23F110)
英文科目名	Law A
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	法とは何かについて学修する。社会には様々なルールがあるが，その中で法はどのような特徴を持ったルールなのかを学修する。そのうえで，法が社会においてどのような形式で存在しているのかを学修する。
2 回	法の解釈について学修する。なぜ法の解釈が必要なのか，解釈にはどのような方法があるのかについて学修する。
3 回	憲法とは何かについて学修する。憲法の目的とは何か，現在の憲法と大日本帝国憲法との違いは何かについて学修する。
4 回	国会について学修する。国会の地位，国会の活動，国会の権限，議院の権限，国会議員の地位について学修する。
5 回	内閣について学修する。内閣の地位，内閣総理大臣の地位，内閣の権限について学修する。
6 回	裁判所について学修する。司法権とは何か，司法権の限界，裁判所の組織について学修する。
7 回	財政について学修する。財政立憲主義，予算制度について学修する。
8 回	地方自治について学修する。地方自治の存在意義，地方自治制度の内容，住民の権利について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，法とは何かに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，法の解釈に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，憲法とは何かに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，国会に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，内閣に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として，授業プリントを読み，キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として，裁判所に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、財政に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、地方自治に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Aで取り扱う分野は主として「法の解釈」と「日本国憲法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。 。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 法とは何かについて説明できるようになること。 ○ 法の解釈方法について説明できるようになること。 ○ 憲法に定められている統治機構について説明できるようになること。
キーワード	法学，法の解釈，日本国憲法，大日本帝国憲法，国会，内閣，裁判所，財政，地方自治
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	mylogにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	この講義では憲法の統治機構を中心に扱うので、人権に興味がある学生は日本国憲法を履修すること。法学B
参考書	現代法学入門（第4版）／伊藤正巳・加藤一郎／有斐閣／978-4641112568：憲法（第6版）／芦部信喜／岩波書店／978-4000227995
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、mylogから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読ん

	で予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 A (FV23F120)
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 「教養（リベラル・アーツ）」を学ぶ意義、「社会」に興味関心を持ち積極的に関わる必要性について説明する。
2 回	憲法改正に関する諸問題について解説する。
3 回	アベノミクスの現状と課題について解説する。
4 回	地方が抱える諸問題（地方創生）について解説する
5 回	日本とアメリカが抱える諸問題について解説する。
6 回	働き方改革・社会保障について解説する。
7 回	東日本大震災復興の現状と課題について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、事前に講義内容を把握しておくこと（90分）。受講後に、取り上げた具体的事例について図書館やwebを活用し調べる（90分）。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べる（90分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、改正公職選挙法の成立により、18歳での選挙権が認められた現実を鑑み、若者の「市民性＝社会参画の権利と義務」の重要性を論じる。皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議する。これらの教材を通して、受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」と深く関連する。
達成目標	・新聞や報道などで取り上げられる用語・内容を理解し、自分で説明できる。 ・日本の抱える諸問題を捉えることができる。 ・問題の背景にある原因を正しく把握し、根拠に基づく自分なりの判断ができる。
キーワード	教養、社会問題、時事、憲法改正、アベノミクス、地方創生、日米問題、働き方改革、社会保障、震災
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート形式の最終評価試験（80％）と毎授業課題（20％）の合計を100点として評価する。60点以上を合格とする。評価基準としては、テーマに関する記述が正しいこと、自己の見解を持ち根拠を示していること、文章作法について適切であることを総合して判断する。
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
関連科目	社会と人間B、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail：s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の最後に講義を受けた感想、自分の意見を記入したレポートの提出を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や私見を記入することを実施する。
課題に対するフィードバック	講義の中で事前に最終評価試験（レポート形式）の評価基準を示すことを前提とし、試験の結果について希望する者には点数を開示し評価の根拠を提示する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	スポーツとフィールド科学（テニス）（FV23P110）
英文科目名	Sports (Tennis)
担当教員名	明比孝善＊（あけびたかよし＊）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	講義実施場所、内容、目的、受講の心得 テニスの歴史、用具等について説明する。 テニス場の使用方法とマナーについて説明する。ラケットとボールに慣れる練習をする。
2回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
3回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークの復習を行う。 バックハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
4回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォア・バックハンドストロークの復習を行う。 ストロークを使って、ラリーが出来るようになることを目的とした簡易ゲームをする。
5回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 フォア・バックハンドボレーについて説明を行った後、練習する。
6回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 スマッシュについて説明の後、練習する。
7回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 サービスについて説明を行った後、練習する。
8回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ダブルスのルールの審判法について説明を行った後、ゲーム形式を行う。
9回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 前衛・後衛のポジション・役割について説明の後、ゲーム形式をする。
10回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ボーチの役割について説明の後、練習する。
11回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーを復習する。 ロビングショットの役割を説明の後、練習する。
12回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 アプローチの説明の後、練習する。
13回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 平行陣の説明の後、ゲーム形式を行う。
14回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 戦術の説明の後、ゲーム形式を行う。
15回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 講義全体の振り返りとまとめをする。チーム分けの後、試合を行う。
16回	最終評価のため、試合を行う。

回数	準備学習
1回	授業内容・目的の確認テニスの歴史と用具について復習を行うこと。テニスのマナーについて予習を行うこと。
2回	マナーについて復習を行うこと。フォアハンドストロークについて復習を行うこと。
3回	バックハンドストロークについて復習を行うこと。
4回	フォア・バックハンドストロークについて復習を行うこと。
5回	ボレーについて復習を行うこと。

6 回	スマッシュについて復習を行うこと。
7 回	サービスについて復習を行うこと。
8 回	ルール・審判法について復習を行うこと。
9 回	ダブルスでのポジションについて復習を行うこと。
10 回	ボーチについて復習を行うこと。
11 回	ロビングとポジションチェンジについて復習を行うこと。
12 回	アプローチについて復習を行うこと。
13 回	平行陣について復習を行うこと。
14 回	戦術について復習を行うこと。
15 回	講義全体について復習を行うこと。テニスを通じて得たものを考えること。
16 回	テニスを通じて得たものを考えること。

講義目的	テニスの技術を修得すると同時に、体力の向上や、公正・協力・責任などの社会的態度を身につけ、生涯を通じて継続的にスポーツ（運動）を実践していける習慣や態度を育てる。内容として テニスの技術（グラウンドストローク、サーブ、レシーブ、ボレー、スマッシュ）を習得すること シングルス、ダブルスのゲームのルールと審判法を習得すること テニスを楽しむため、プレースタイルや戦術を考えられる能力を身に付けること ルールを遵守する態度やマナーを身に付けることを目指す。 （単位認定の方針Dに強く関与する）
達成目標	テニスのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防が出来ること。
キーワード	硬式テニス・軟式テニス・スポーツ傷害
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	積極性（30%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）
教科書	使用しない
関連科目	生涯スポーツ
参考書	指定しない
連絡先	授業終了時にテニスコートで質問を受け付ける。
授業の運営方針	授業計画に沿って講義を進めていくが、学生個々の技術の修得状況を考慮し、レベルに応じた班分けなど対応していく。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業時間内で実技試験、発表、演習等を課すので、評価を確認したい学生には次の講義で対応する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	授業は、テニスコートで行う。第1回目の授業には必ず出席すること。雨天により体育館に場所を変更になることがあります。

科目名	心理学 A (FV23P120)
英文科目名	Psychology A
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および、心理学とは何か？について概説し、今後の講義方針について説明する
2 回	心理学における心と身体の扱いについて、概説する
3 回	科学としての心理学、および心を測ることについて、概説する
4 回	動物と心理学との関係について、概説する
5 回	人間の一生および発達と心理学について、概説する
6 回	人を取りまく環境と心理学について、概説する
7 回	対人援助技術と心理学について、概説する
8 回	性格と心理学について、概説する

回数	準備学習
1 回	心理学という学問について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
2 回	心とは何か？あるいは身体とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
3 回	科学とは何か？心を測ることはできるのか？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
4 回	動物とは何か？ 人間とそれ以外の動物との違いは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
5 回	発達とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
6 回	環境とは何か？集団とは何か？社会とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
7 回	人を助けるとは何か？について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)
8 回	自分とは何か？性格とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(180分)

講義目的	初めて心理学という学問に触れる学生を対象に、特定の学派や立場に偏らないように、多様な切り口から概説する。心理学という学問を体系的に学び、理解することで、より良い人間性の育成を目指す。(教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	心理学についての基本的な知識を理解し、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	脳、アフォーダンス、操作的定義、アセスメント、動物行動学、発達、遺伝、環境、発達障害、社会、感覚、知覚、認知、行動、行動経済学、認知バイアス、対人援助職、エビデンス、ナラティブ、動機づけ、行動分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各講義中の課題(60%) 第8回講義後に提出する最終評価レポート(40%)総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	心理学B
参考書	講義内で指示する
連絡先	講義内で指示する
授業の運営方針	・レポートは期限内に提出すること ・講義資料、あるいはそれに準ずるものは、基本的にはポータルサイトを通じて配布するが、詳細は第1回講義にて説明する ・その他、受講するにあたってのマナーやルールについては、第1回講義にて説明する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中の課題については、模範解答を課題提出後に提示および解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。申し出があれば、それぞれ個別

	に対応します。詳しくは第1回講義のオリエンテーションにて説明します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回講義のオリエンテーションにて説明する

科目名	キャリア形成講座 A (FV23P130)
英文科目名	Career Design A
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ)、小林忠資(こばやしただし)、戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	アイスブレイクを通して他人とコミュニケーションをとることへの抵抗感をなくす。 (渡邊 剛央)
2 回	テストを通して自己分析をする。 (小林 忠資)
3 回	自分史の作成を通して自己分析をする。 (小林 忠資)
4 回	社会人として求められている能力(コンピテンシー)について知る。 (戸田 修司)
5 回	自分の大学での目標を明確にする。 (戸田 修司)
6 回	映像から将来に必要な能力を理解する。 (小林 忠資)
7 回	自分の将来像を明確にする。 (渡邊 剛央)
8 回	これまでの授業を振り返る。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	予習として、自己PRを考えてくること。(90分) 復習として、他人とのコミュニケーションをとるうえでの改善策とより自己PRを行うための改善策を考えること。(90分)
2 回	自分の能力、性格、価値観、興味についてそれぞれ整理し、自己理解を深めてくること(180分)
3 回	これまでの自分の歩みを振り返り、自分の年表を作成すること(90分)。また、自分にとっての10大ニュースを選び、その理由をまとめてくること(90分)
4 回	予習として、コンピテンシーとは何か、具体的な内容について調べておくこと。(60分) 復習として、目標シートを完成させてくること。(120分)
5 回	大学における自己の目標を整理しておくこと。(90分)大学生活の目標に基づく今後の具体的なプランを考えること。(90分)
6 回	社会人として働くうえで必要な能力について自分の意見をまとめてくること(180分)。
7 回	予習として、自分の将来像(20年度の自分)を考えてくること(90分)。復習として、授業の振り返りを通じて、自分の将来像を見直すこと。(90分)
8 回	予習として、これまで授業を振り返り、学んだことをまとめる。(90分) 復習として、今後自分が成長するために必要なことをまとめる。(90分)

講義目的	社会で必要とされる力(コミュニケーション力・表現力・チームワーク力)を実践的な演習を通じて習得する。段階的なスキルアップワークと発表機会を通じて、主張力・傾聴力・展開力を強化し、就活対策のみならず、社会人となって以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ。達成目標は下記の通りである。 コミュニケーション力、表現力、チームワーク力、プレゼン力のレベルアップを、ペアワークおよびグループワークを通じて実現すること。 自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむこと。 発想～ミーティング～プレゼンの過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特性・強み・弱みを知ること。 教養教育科目4領域の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 他人と積極的にコミュニケーションをとることができるようになること。

	○ 自分の意見を分かりやすく他人に伝えることができるようになること。 ○ 他人と協力をして目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成，コミュニケーション力，表現力，チームワーク力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回個人が提出するレポートにより，きちんと振り返りができたかどうかを評価し，60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	キャリア形成講座B
参考書	実践キャリア考―体験からキャリアを考える／一般財団法人全国大学実務教育協会／実教出版／978-4407332261
連絡先	授業代表：渡邊 剛央 研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	ワーク中心の授業なので，積極的にワークに参加することがもとめられる。
アクティブ・ラーニング	○ ディスカッション グループや教室全体で，様々なテーマに関するディスカッションを行う。 ○ ライティング 毎回，授業を振り返るためのレポートを作成する。
課題に対するフィードバック	レポートに対するフィードバックは授業中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので，配慮が必要な場合は，事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが，他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学C (FV23P140)
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	吉川泰弘 (よしかわやすひろ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	宇宙の誕生、膨張と銀河系、地球と太陽の誕生、そして生命の誕生。細菌の多様性は、大まかにいえば化学合成独立栄養細菌、嫌気性従属栄養細菌、嫌気性光合成独立栄養細菌、好気性従属栄養細菌というような順序で出来上がってきたと考えられる。その間に、真正細菌から古細菌が分岐し、由来は、現在でも明らかではないがウイルスが出現した。この経緯を紹介する。
2 回	モネラ界（原核細胞の世界、細菌）の生物から、核と核膜、ミトコンドリアあるいは葉緑体、その他細胞内小器官（リソソーム、ゴルジ体など）を持つ単細胞の真核細胞生物（原生動物、藻類）が出現した。真核細胞の出現機構はまだ不明であるが、原核生物（2種類の細菌、あるいは古細菌と真正細菌）が合体した可能性が考えられる。ミトコンドリアはαプロテオ菌由来、葉緑体はシアノバクテリア由来と考えられる。真核細胞の特性を紹介する。
3 回	10億年くらい前に、単細胞生物は多細胞生物となった。単細胞生物が群をなし、表層と内層に分かれて、体細胞と生殖細胞、組織・器官を形成するようになった。ミトコンドリアを保有する多細胞群は真菌、あるいは2胚葉性動物、3胚葉性の扁形動物、線形動物（条虫や吸虫、線虫）となった。藻類から多細胞化したものが植物となり、5界説がすべて揃う過程を学修する。
4 回	旧口動物の扁形動物は軟体動物に進化し、線形動物は甲殻類（エビ、カニ）からさらに節足動物（昆虫類）に進化して1つの頂点に立つ。新口動物は棘皮動物から、脊索動物を経て、脊椎動物への進化を進める。無顎類から、軟骨魚類、硬骨魚類に進化する。生体防御の最終段階の細胞性免疫、液性免疫を獲得するのが魚類である。魚類から四肢を発達させ、陸上に上がるのが両生類である。陸上で生活するためには鰓呼吸から肺呼吸へと大変化を遂げる。循環器系、内分泌系、神経系の原型はほぼ完成する過程を学修する。
5 回	爬虫類類は恐竜として全盛をむかえ、翼竜は空を飛び、爬虫類の頂点といえる鳥類が分岐する。進化はネオテニー（幼形成熟）と言われるように、幼形で成熟する特質を持つ。空を飛ぶための機能的進化は、昆虫に類似した側面を持つ。また、形態的には哺乳類で空を飛び、翼手目にも類似している。爬虫類と分岐した哺乳類は、卵生から胎生へと変化し、哺乳により子を育てる。齧歯類に類似した祖先から、多くの哺乳類が分岐した経緯を学修する。
6 回	サル類：霊長類は約220種といわれている。7000万年前くらいに霊長類として分岐し、原猿類と真猿類が分かれ、オラウータン、ゴリラが分岐し、ヒトともっとも近いチンパンジーと別れたのが500～700万年前といわれている。現生人類の直接の祖先は6万年前にアフリカ大陸を出たと思われる。ここでは人はどこまでサルか？について比較生物学を展開する。
7 回	6回までで生物進化の概要を講義した。進化の過程をゲノム、増殖・生殖戦略の共通性と多様性、組織・臓器の機能・形態、神経系・生体防御系、内分泌系などの進化という見方で振り返ってみる。それはまた、受精卵からの個体発生とダブる側面を持っていることを学修する。
8 回	このように、生物進化は多様性を生み、現在もその末裔が生物界を作り上げている。同一空間に多くの生物種が存在するためには、共生、寄生、感染といった相互作用を持ち、食料・環境の循環を

	基盤に、一つの世界を作り上げている。8回では、これまでの講義を振り返り、生物学では生物進化における共通性と独自性、多様性を理解し生物間の相互作用を理解することであることを学修する。
--	---

回数	準備学習
1 回	細菌は一般にバイキンと呼ばれて嫌われてるが、空気中の窒素や酸素の産生、吸収に重要である。またバイオマスで注目されるように資源循環にも役立っている。確かに感染症の病原体として問題もあるが、細菌感染症などを統御する抗生物質も細菌や真菌によってつくられるものがほとんどである。細菌が出現しなければ、その後の生命体は存在しなかったかもしれない。細菌の役割を調べてみる。
2 回	真核生物のうち動物、植物、真菌を除いたものを原生生物という、ややネガティブな定義である。さらに原生生物のうち葉緑体をもって光合成をするものが藻類、ミトコンドリアを持つ従属栄養体が原生動物である。原生動物のうちで病原性を持つものを原虫と定義している。このステージでは無性生殖で増殖するもの、無性生殖と有性生殖をするものが出現する。原虫の生活環を類型化すること。
3 回	扁形動物である条虫、吸虫は、複雑な生活環を持つものが多い。1つ、2つといった中間宿主を持つ。終宿主で交配、受精卵を排出し、中間宿主で無性生殖するという戦略を持つもの、また雌雄同体のものが多い。線虫では雌雄異体のものが増える。吸血昆虫などを利用して、感染域を広げる戦略をとるものもある。寄生虫と中間宿主の関係を整理すること。
4 回	甲殻類、昆虫はウイルス、細菌、原虫などの立派な宿主である。一方で吸血昆虫はウイルスや細菌、原虫などを運び、ダニなどはミツバチの幼虫に感染する寄生虫である。また、十分な免疫系が発達していないにも拘らず蜂や蟻などは巨大な社会を形成し問題なく暮らしている。彼らがどのような能力を持っているのかは興味ある課題である。また海から陸上に上がったのは両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類だけでなく昆虫類やカタツムリ、ナメクジのような陸生巻貝もある。環境変化にどのように適応したか調べる。
5 回	鳥類は爬虫類から進化した一つの頂点といえる。しかし、哺乳類と比較すると、多くの点で共通する部分と異なる点がある。また鳥類でも空を飛ぶものと飛ばないものがあり、昼行性のものと夜行性のものがある。その点は哺乳類も同じである。生活空間の類似した哺乳類と鳥類で形態と機能を比較してみる。
6 回	最も身近なサル類は多くの点でヒトに類似している。大きな違いがあるとすればやはり、脳構造であろう。しかし、構造といっても量的な違いである。ヒトとサル類（原猿、新世界ザル、旧世界ザル、特に尾長ザル、チンパンジー）とヒトの脳についてどのような違いがあるか整理してみる。また脳に関連する機能や社会性の違いも比較してみる。
7 回	神経系、生体防御系、内分泌系、呼吸器系、造血系、消化器系（肝臓、膵臓を含む）、泌尿器系（腎臓）、骨格・筋肉系を多細胞動物について、どれでもよいから、1～2つほど進化的にどのように変わったかを纏めてみる。
8 回	最近、国際的にOne World, One Healthという言葉が使われるようになっている。ここで学んだ生物進化と多様性が、このコンセプトとどのように関連しているか考え、まとめる。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものも含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・
------	--

	技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学C」では、観察も交えながら、主に生物・地学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 地球上に最初に現れた生物は細菌（約40億年前）で、地球の生命の歴史の約半分は細菌の世界である（ウイルスは30億年くらい前に出現したと考えられている）。約20億年前に真核生物（原生生物：原生動物と藻類）が登場し、10億年前に多細胞生物（真菌、寄生虫）が登場した。寄生虫は節足動物や軟体動物へと進化し、5～6億年前のカンブリア紀の後に高等多細胞生物が出現し、脊椎動物が魚類から哺乳類へと進化、霊長類の中から人類へと進化した。生命の連続性と多様性を基盤として、単純系から複雑系への生物変化を学修する。
達成目標	地球上に生存する様々な生物の多様性を理解すること。またその多様性がどのような経緯をたどってきたのか、それぞれの生物種は他の生物種とどのような関係を持っているのか？将来の進路を考えて、生物多様性の中でも、通常病原体と言われているような地球の初期から出現した生物群と宿主と言われる最後に出現した生物群（ヒトや家畜）に至るまでの連続性を理解し、説明できること。
キーワード	細菌、原虫、真菌、寄生虫、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施する質疑応答20%、解答の説明能力（メール回答）30%、定期試験（正誤課題、5択問題）50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。スライドと討議、質疑応答で授業を進める。
関連科目	獣医の専門科目、獣医保健看護の専門科目の基礎となる。感染症学、病原体科学、組織形態・機能学等に関連する。
参考書	生物進化の謎と感染症 / 吉川泰弘 / NHK出版 / 978-4-14-910914-5 講義内容と質疑応答例は、ホームページ(https://www.ayyoshi.com 、現代生物進化)あるいはポータルサイトの「講義資料」にアップロードしている。
連絡先	獣医学部棟 6 階学部長室
授業の運営方針	パワーポイントで説明、試験は広範囲なので本質的なことを理解する。 講義内容を予習し、質問等を考えておくこと。
アクティブ・ラーニング	https://www.ayyoshi.com の「現代生物進化」をみて、自分の理解度をチェックする。
課題に対するフィードバック	模範回答はネットおよびポータルサイトに公開します。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。←必ずご記入してください。
実務経験のある教員	ア) 国立予防衛生研究所 イ) 感染症法の作成に関与、狂犬病予防法の改正、食品安全委員会でのBSEトレサビ法等について国民に解説し、動物医薬事害議会で議長として生物製剤の害議を進めた。

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	文章表現法基礎編 A (FV23Q120)
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題 「あなたの趣味・特技」について文章を作成する。
2 回	課題 「他者と話すときに心がけていること」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
3 回	課題 「今までで一番印象に残る出来事」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
4 回	課題 「社会人になるにあたっての抱負」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
5 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイント指導する。
6 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に修正点を指導する。
7 回	課題 「少子高齢化について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと (3 0 分)。 予習：課題 の概要を準備しておくこと (6 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。
2 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (9 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。
3 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (9 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。

4 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと（90分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
5 回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること（90分）。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（90分）。
6 回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（90分） 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
7 回	予習：課題 について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（90分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（90分）。
8 回	これまでの授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（90分）。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%）
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版 / 井下千以子 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4-7664-2107-1
関連科目	文章表現法基礎編B、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分

	以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。 グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション基礎編 A (FV23Q130)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	さまざまなプレゼンテーションの構成を理解する。
3 回	設定したテーマをもとにプレゼンの構成を検討する。
4 回	スライド資料を作成する
5 回	スライド資料を作成する
6 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
7 回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
8 回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習としてシラバスを確認し、優れたプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2 回	予習として複数のプレゼンテーションの動画をWEBサイト等から視聴し、それぞれのプレゼンテーションの構成と工夫についてまとめておくこと (180分)。
3 回	予習として、授業で紹介したプレゼンテーションの動画を視聴し、優れている点と改善点を整理しておくこと (180分)。
4 回	予習として、授業で紹介した効果的なスライド資料の作成方法に関するWEBサイトを閲覧し、スライド資料を作成するうえでの基本を整理しておくこと (180分)。
5 回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
6 回	プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
7 回	プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。

8 回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと（180分）。
-----	---

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画・方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、よいプレゼンテーションの例として、TED等の動画の視聴を課題として出し、よいプレゼンテーションとは何かを自分で考えさす機会も設ける（教養教育科目の4領域のうちの技能に技能に最も強く関与する）。
達成目標	パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 自分の考えや主張を相手に伝えることができる。
キーワード	コミュニケーション、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	ワークシート10%、提出課題40%、プレゼンテーション50%により成績を評価し、総計で得率60%以上で合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	プレゼンテーション基礎編Bを継続して履修することがのぞましい
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合があります。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 与えられたテーマに対して、資料を作成して個人発表を行う。
課題に対するフィードバック	各個人発表の後に、口頭でフィードバックを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

--	--

科目名	プレゼンテーション応用編 A (FV23U210)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) A
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2 回	聴衆に合わせたプレゼンテーションの方法を理解する。
3 回	発表資料を作成する。
4 回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
5 回	企画案のプレゼンテーションについて説明する。
6 回	発表資料を作成する。
7 回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8 回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習としてシラバスを確認し、就職活動や研究発表に求められるプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと (90分)。
2 回	MOMO CAMPUS上にあるプレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編Bの配付資料を読み、プレゼンテーションの基本を整理しておくこと (180分)
3 回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
4 回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
5 回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。
6 回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと (180分)。
7 回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと (180分)。
8 回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと (180分)。

講義目的	本講義では、大学での研究発表や就職活動、就職後のビジネスや職務、地域社会での活動に必要なプレゼンテーションおよびコミュニケーション力の養成をめざす。具体的には、まずプレゼンテーション用ツールの長所と短所、コミュニケーションにおける自己分析の大切さを理解した上で、必要となる情報の収集と整理のポイント、スクリプト作成上の注意点、プレゼンテーションで用いる技法とその効果について解説する。そして受講生による演習を通じて、プレゼンテーション技法とコミュニケーション意識のレベルを確認し、必要な改善を指導する。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの技法と発想を理解し、コミュニケーションのスキルを身に着ける。 就職活動や研究発表、ビジネスに必要なコミュニケーション力を養う。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出 (20%)、中間発表 (40%)、最終発表 (40%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編Bを履修しておくことが望ましい。
参考書	適宜紹介する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為 (私語、立ち歩く等) はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。

	・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマについて発表する
課題に対するフィードバック	発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 発表に対して、学生が紙面でピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法応用編 A (FV23V210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。レポートおよび小論文に加えて、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の方法、その中で自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。課題 「学生生活で苦労したこと」について文章を作成する。
2 回	課題 「あなたの長所と短所」について文章を作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
3 回	課題 「あなたを成長させたこと」についてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
4 回	課題 「災害に強いまちづくりについて」についてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
5 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」について (1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行った上で、説得力を高め自己の主張を明確に伝えるためのポイントを指導する。
7 回	課題 「地域産業の振興について」についてレポートを作成する。グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでのグループワークを通して気づいたことや学んだことを含め、文章作成において必要なことを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと (30 分)。 予習：課題 の概要を準備しておくこと (60 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
2 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
3 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
4 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
5 回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料を準備してくること (90 分)。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること (90 分)。
6 回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
7 回	予習：課題 について調べ、レポートの概要をまとめておくこと (90 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (90 分)。
8 回	これまで授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと (90 分)。

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、さまざまな種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な対応力を養う。エントリーシートや筆記課題の文章がしっかり書けることを目標とする。具体的には、文章スキルの大切さ、文章表現の注意点 リライトのポイント、表記・表現のポイント、小論文を書く (800字の組み立ての説明・文章化)、ストーリーを書く (400字・800字のストーリーを構想)、広告文を書く (指示されたテーマで広告コピーを構想と講評)、文章実務の実例 (ビジネスレターや履歴書、エントリーシートのポイント、エントリーシート作成、契約書や企画書) 等をテーマに取り上げる。教養教育科目の4領域のうち、「技能」と深く関連する。
達成目標	・文章作成上の基本的なルールを身につけ表現できる。 ・個々のテーマに沿って、自身の考えを文章で表現できる。 ・自身の考えの根拠を具体的に示した上で文章を作成できる。 ・レポート、小論文、エントリーシート等の字数制限など作成条件のある文章を、条件を満たした上で適切に作

	成することができる。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出(60%)、最終評価試験(40%)により評価する。
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版 / 井下千以子 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4-7664-2577-2
関連科目	文章表現法応用編B、文章表現法基礎編AB、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学D (FV23W110)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	澤見英男 (さわみひでお)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	アラビア数字、漢数字、ローマ数字などの数詞による数値表現と十進数の接頭辞について理解する
2 回	n 桁のr進数を用いた四則演算について理解をし、減算を上位桁から行うといった日常でも使える補数のプチ応用についても学ぶ
3 回	コンピュータの歴史について学び、計算機の応用例として、多桁乗算により精度が百桁以上になる階乗の値を計算できることと高精度の除算と加算による指数関数の底 (ネイピア数) の求め方を学習し、精度百万桁以上の円周率の求め方についても学ぶ
4 回	統計処理で用いる、母集団、平均、標準偏差、偏差値などについて学習をし、簡単な例題を通して、母集団からの乖離の程度を偏差値表により評価できることを理解する
5 回	座標系と座標変換について学び、日常生活に密着した応用例として、夏至と冬至の日の出と日没時間 (日照時間) の求め方と、高緯度地域で白夜の現れることを理解する
6 回	照明光でもある太陽光の性質と、黒体放射の理論式に基づく白色光の三原色を用いた表現方法について理解し、ケルビン単位とした照明光の色温度および三原色と人間の視覚特性との関係を学ぶ
7 回	英文書籍におけるアルファベット文字の出現頻度を基に、0 と 1 の組み合わせにより英文を符号化・復号化できることを学び、情報量 (エントロピ) をビットで評価することの意味を理解する
8 回	総合演習として模範解答の板書を通した相互学習により学習してきた内容の理解度を確認した後、最終評価試験を受ける

回数	準備学習
1 回	インターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料およびインターネット検索により予備知識を得ておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでに学習してきたことを確認しておくこと (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー (知識のみならず科学的なものの見方も含む) を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では、コンピュータに関係する分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	日常的に用いているアラビア数字、漢数字、ローマ数字を用いた計算法について理解する。応用例のひとつとして、高精度なネイピア数や円周率を求めるための多桁計算アルゴリズムについて理解する。偏差値表を用いた簡単な統計処理を行えるようになる。アルファベットの頻度分布を用いた符号化・復号化の演習を通して情報量の単位ビットという概念を理解する。人間の視覚特性と照明光の色温度の単位ケルビンについて理解する。コンピュータグラフィックスで多用される座標変換、右手系と左手系について理解を深める。
キーワード	数詞と数値、アラビア数字、漢数字、ローマ数字、接頭辞、進数、コンピュータの歴史、多桁計算、階乗、ネイピア数、円周率、ガウス分布、偏差値表、情報量、エントロピ、座標変換、黒体放射、色温度、ケルビン、人間の視覚特性
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	演習 (評価割合30%) とレポート (評価割合30%) および試験 (評価割合40%) の総計が60%以上を合格とする
教科書	講義開始時に必要なプリントを配布するが、必要な資料は講義用サーバーからダウンロードして用いることができる (http://café.mis.ous.ac.jp/Veterinary/)
関連科目	現代人の科学A,B,C
参考書	なし
連絡先	電子メール: sawami@mis.ous.ac.jp (件名および発信者名または学番は必須)

授業の運営方針	板書を含む演習を通して習熟度の確認をしながら進めて行く。演習課題は期限内に提出すること。配布資料の該当部分をよく読んでおくことを必要とする。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習課題の板書を通じて理解度を確認できるようにする
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	レポート課題により受講生の理解の度合いを確認し、演習問題や板書による模範解答の提示により理解のレベルを揃えるようにする

科目名	企業と人間 A (FV23W120)
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	八木力俊 * (やぎりきとし*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション～企業組織とキャリア：授業の進め方を解説した後、企業（組織）の中でのキャリアデザインについて学習する
2 回	企業寿命と人間の管理：企業が経営(存続)する意味と、そこで働く人間の管理について、現代の企業を例に概観する
3 回	企業組織における職場の人間関係：階層化、専門分化された企業組織における人間の職務について解説する。また、相互理解の取り方や協力することについて学習する
4 回	職場の人間関係・従業員の心理的側面：企業・職場における人と人との関りについて学びと同時に、従業員の社会心理的な側面（傾向）について概説する
5 回	企業組織でのコミュニケーション：階層構造や年齢の違い、外部との交渉など、様々な立場での意思疎通について学び、対話の基本を学習する
6 回	組織における合意形成と決定：組織内で階層の違いで変化する職務内容を学び、ミーティングなどで合意形成を行うためのスキルを学習する
7 回	従業員の職業価値へのアプローチ：H. マズローやD. マクレガーなどの従業員の価値に注目した事例を紹介しつつ、自己分析を通じて仕事に対する価値観（職業観）を確認する
8 回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行い、その後（45分）で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1 回	キャリアデザインとは何か事前にWeb等で学習しておくこと（平均学習時間約30分）
2 回	企業の存在理由について事前にWeb等で学習しておくこと（平均学習時間約60分）
3 回	企業組織の階層や専門分化などの組織図をWeb等で調べておくこと（平均学習時間約30分）
4 回	「アサーティブ」の技術及び「メンタルヘルス」問題について、事前にWeb等で調べておくこと（平均学習時間約60分）
5 回	会話と対話の違いについて調べておくこと（平均学習時間約30分）
6 回	「管理職の職務」、「ファシリテーション」、について、事前にWeb等で調べておくこと（平均学習時間約60分）
7 回	日本人の仕事に対する考え方（職業観）の特徴について、働くときの意識と就業行動（総務省）などから観察しておくこと（平均学習時間約60分）
8 回	講義ノートを整理しなおし、参考書等を図書館等で読み、重要な事柄をノートしなおしておくこと。また、質問事項について纏めておくこと

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力、コミュニケーションスキルの習得を促す。また状況に応じた最適な判断をするための方法として、資料を読み解く力、データを分析する力を養い、文章力や読解力の向上も目指したい（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業と人間をめぐる社会現象（。。。問題）を学問的に解釈し、あわせて自己の卒業後の企業社会における職業人生の送り方をデザインする際の基礎を養うこと
キーワード	科学的管理、官僚制、リーダーシップ、キャリア形成、マネジメント、コミュニケーション
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する 達成目標である、「企業と人間をめぐる社会現象」の理解と、「自己の職業人生の送り方をデザイン力」を確認する 100点満点中60点以上を合格とする
教科書	使用しない
関連科目	キャリア形成講座
参考書	各回に適宜指示する
連絡先	岡山校キャリア支援センター
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい。 ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める。

	・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい。 ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること
実務経験のある教員	・社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する。
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい

科目名	日本国憲法【火2金2】（FB201710）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもと はる）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・内容・注意事項について説明する。その後、最近の憲法に関する話題について提供し、憲法を学ぶ意義や目的について考えてもらう。
2 回	この授業の対象である「憲法とは何か」について、特に法律との違いとの関連において講義をする。〔内容〕法とは何か、法の役割と種類、憲法と法律との違い
3 回	日本国憲法に特有の性質である「日本国憲法の特質」についての講義をする。〔内容〕個人の尊重、公共の福祉、民主主義、権力分立、最高法規性
4 回	日本国憲法の中心的部分ともいえるべき人権保障について、まずその対象となる人権の意義・性質についての「人権総論」の講義をする。〔内容〕（基本的）人権とは何か、人権の性質
5 回	日本国憲法に定められている「人権の種類」について、7つのグループに分類し、それぞれについて概要を説明する。〔内容〕自由権、社会権、参政権、受益権、包括的基本権、平和的生存権
6 回	日本国憲法の保障する人権は誰に対して認められるのかという「人権の享有主体の問題」について、判例を交えて説明する。〔内容〕法人・外国人の人権、公務員・受刑者の人権
7 回	条文のうえでは14条の1カ条だけであるが、非常に重要な人権である「法の下での平等（平等権）」について、最高裁判例も交えて講義をする。〔内容〕平等の意味、最高裁判例の判断基準、議員定数不均衡（一票の格差）問題
8 回	精神的自由権の中でも特に重要な「表現の自由」について講義を行う。〔内容〕表現の自由の内容、知る権利、二重の基準の理論
9 回	日本国憲法で10カ条近くも使って保障されているにもかかわらず、一般にはなかなか理解されにくい「人身の自由（刑事手続上の諸権利）」についての講義を行う。〔内容〕国家刑罰権の正当性、適正手続の原則と無罪推定の原則、黙秘権・弁護人依頼権など。
10 回	今回から憲法の統治機構の部分に移り、まず三権のうちの立法権を担う「国会」についての講義をする。〔内容〕代表民主制、国会の地位、二院制、衆議院の優越、議員特権
11 回	三権のうち行政権を担う「内閣」についての講義を行う。〔内容〕行政権と内閣、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能と責任
12 回	残りの三権のうち司法権を担う「裁判所」についての講義を行う。〔内容〕司法権およびその限界、司法権の独立、裁判所の組織と権能
13 回	裁判所の持つ最も重要な役割である「違憲審査制」についての講義を行う。〔内容〕裁判所と違憲審査権、違憲審査の方法（付随的違憲審査制）
14 回	「天皇」および「平和主義」についての講義をする。〔内容〕天皇の地位と法的性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
15 回	「憲法改正」についての講義をする。〔内容〕改正の手続、国民投票、改正の限界、憲法改正案の検討
16 回	最終評価試験を行い、その後、試験問題およびレポート課題の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容等を確認し、なぜあなたはこの授業を履修し何を学ぶのか、その目的や意義について考えておくこと。履修希望者は必ずこの初回の授業に参加すること。（標準学習時間60分）
2 回	1 回目の授業内容を踏まえて、今一度あなたが憲法を学ぶことの意義や目的について考えておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	前回の授業内容である憲法とはどのような法であるかについて、特に法律との違いについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	前回の授業内容である日本国憲法の特質について、特に公共の福祉の意味について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回の授業内容である人権の意義・性質について正しく説明できるように復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回の授業内容である人権の種類について、7つのグループを正しく理解し、どの人権の条文がどのグループに含まれるのかについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。
7 回	前回の授業内容である人権の享有主体の問題について、それぞれの場合の最高裁判例の考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。（標準学習時間120分）

	時間120分)
8 回	前回の授業内容である法の下での平等について、授業で扱った3つの最高裁の違憲判決・決定について、それぞれどうして憲法違反とされたのか、最高裁判例の考え方を復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の授業内容である表現の自由について、それを制約する場合の二重の基準の理論について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	前回の授業内容である人身の自由について、なぜ憲法は10カ条近くも使ってこれを保障しているのか、また基本原則である適正手続原則・無罪推定原則という考え方について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	前回の授業内容である国会について、「唯一の」立法機関の意味、二院制が採られていることの意味、衆議院の優越などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	前回の授業内容である内閣について、議院内閣制の意味と関連条文、内閣の構成員や総理大臣の権限などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	前回の授業内容である裁判所について、司法権(とその独立)の意義、限界、裁判所の組織などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業内容である違憲審査制について、憲法81条の理解の仕方、違憲審査の方法などについて復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容の予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	前回の授業内容である天皇および平和主義について復習しておくこと。ブログの配布レジュメで次回の授業内容を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16 回	2回～15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。間違いやすい用語(漢字も含む)なども確認しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	大学で「日本国憲法」を学ぶというと、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持つかもしれない。しかし、よく考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国や社会の中で生活しているのである。ということは、自分たちが生活している国や社会がどのようなルールや仕組みになっているのかを知り、また今後どうあるべきかなのかを考えるということは、主権者である私たち国民にとって必要不可欠なことだと言える。この授業では、そのような私たちが現在生活している日本という国・社会の基本法であり、またこの国の最高法規である日本国憲法についての基本的な知識や考え方について、具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一種に考えてもらうことを目的とする。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 六法を使って、関連する憲法やその他の法令の条文が検索できる。(知識・理解)(2) 日本国憲法に関する基本的な知識(重要判例も含む)や考え方を習得し、正しく説明することができる。(知識・理解)(3) 具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できる。(知識・理解、思考・判断・表現)4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	日本国憲法、立憲主義的憲法、最高法規、個人の尊重、(基本的)人権、三権分立、違憲審査権、そのほか授業内容欄に記載の用語参照
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業内小テスト計3回:評価割合各10%計30%(達成目標(1)～(2)を確認)、憲法条文プリント(5回目の授業までに提出):評価割合10%(達成目標(1)を確認)、課題レポート:評価割合10%(達成目標(3)を確認)、最終評価試験:評価割合50%(達成目標(1)～(2)を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版/宇賀克也・佐伯仁志(編集代表)/有斐閣/ISBN 978-4-641-00919-6(書き込み等が無いものであれば同六法の30年版でも可)
関連科目	法学A・法学B
参考書	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと)
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。(2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明する。(3) 憲法条文プリント(これについても初回の授業時に説明する)は、5回目の授業の回収時まで提出すること。(4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。(5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引き以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしない(ただし、事前に分かっている場合には相談に応じる)。(6) 小テスト・最終試験・レポート等の授業科

	目名・教員名が正しく書けていないものについては評価対象としない場合がある。
アクティブ・ラーニング	授業内容によっては授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行うこともある。
課題に対するフィードバック	小テストについては採点の後、いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう（再提出までしてはじめて成績評価に加える）。最終試験およびレポートについては最終試験後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（１）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず２回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。（２）教職希望者は教育実習期間中にこの授業を同時に受講しないこと。（３）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている事件や裁判などに関心を持つように努めること。

科目名	日本国憲法【水3水4】（FB201711）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
2回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能を果たしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
3回	民主主義と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および民主主義との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
4回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法9条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法9条の解釈と集団的自衛権について説明する。
5回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
6回	憲法13条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
7回	憲法14条の「法の下での平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
8回	憲法19条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麹町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
9回	憲法20条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法20条3項および89条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
10回	憲法23条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ボボロ事件」を取り上げることにする。
11回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法21条1項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
12回	憲法22条1項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および29条1項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準の区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
13回	人身の自由に焦点を当てて講義する。具体的には、憲法18条の「奴隷的拘束」からの自由、31条の「適正手続きの保障」、33条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の搜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
14回	憲法25条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
15回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法17条の国家賠償請求権を、後者については、40条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることにする。
16回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。

2 回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
3 回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
4 回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
5 回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
6 回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
7 回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
8 回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分
9 回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
1 0 回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
1 1 回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
1 2 回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分
1 3 回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
1 4 回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
1 5 回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習をしておくこと。60分。
1 6 回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法的问题解決の思考力を身につけること。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート（20点）、小テスト（20点）、最終評価試験（60点）
教科書	テキスト『日本国憲法第4版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2;『法学六法』/石川明・池田真朗等編/信山社
関連科目	法学
参考書	テキスト『法学第4版』（大学教育出版、2018年）等
連絡先	教務課
授業の運営方針	判例を中心に分かりやすい講義を心掛ける。小テストは、受講生を指名し解答とその理由を講義中に尋ねる。
アクティブ・ラーニング	毎回小テストを通じて論点を示し、自分の頭で考える法的思考力を養うように質問をするように指導する。
課題に対するフィードバック	レポートについては解答例を配布し、ポイントの解説を行う。小テストについては、講義中正解を教え、正解となる理由を説明する。最終評価試験については、講義中に重点的に触れた判例等を見直すように指導する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください
実務経験のある教員	元中学校高等学校一貫校教員(英語教諭)。
その他（注意・備考）	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題(小テスト)をマシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。

科目名	心理学 B (FB210830)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	パーソナリティ心理学：心理検査を基に自分の性格について考え、自己理解を進める
2 回	発達心理学：発達の理論を概説し、人の心の発達について考える
3 回	発達心理学：母子間の愛着の理論を概説し、対人関係を読み解く
4 回	感情心理学：人の感情や欲求の生起メカニズムについて学ぶ
5 回	健康心理学：ストレスについて学び、人のメンタルヘルスについて考える
6 回	臨床心理学：心理的な疾患・障害や心理療法について概説し、心理的な多様性について理解を深める
7 回	臨床心理学：臨床心理学の現場について知り、自分自身の将来に役立てる
8 回	性格、発達、感情、健康、臨床心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握し、自分自身について知っていることを整理しておくこと (120分)
2 回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身がこれまでどのように発達してきたかを振り返っておくこと (120分)
3 回	前回の授業内容の復習に加え、これまでに形成してきた親子関係について振り返っておくこと (120分)
4 回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身が感じる感情の種類について考えておくこと (120分)
5 回	前回の授業内容の復習に加え、ストレスをどのように感じ、それにどのように対処しているのかを考えておくこと (120分)
6 回	前回の授業内容の復習に加え、既知の心理的な疾患や障害について理解を深めておくこと (120分)
7 回	前回の授業内容の復習に加え、心理学の現場についての疑問を明らかにし、整理しておくこと (120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎であるパーソナリティや感情などの領域から応用である健康、臨床などの領域にわたる、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎～応用領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	パーソナリティ、発達、感情、健康、臨床
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出 (35%) 講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) 以上の2点によって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	心理学A、教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「(講義開始までに) シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 B (FB210840)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	パーソナリティ心理学：心理検査を基に自分の性格について考え、自己理解を進める
2 回	発達心理学：発達の理論を概説し、人の心の発達について考える
3 回	発達心理学：母子間の愛着の理論を概説し、対人関係を読み解く
4 回	感情心理学：人の感情や欲求の生起メカニズムについて学ぶ
5 回	健康心理学：ストレスについて学び、人のメンタルヘルスについて考える
6 回	臨床心理学：心理的な疾患・障害や心理療法について概説し、心理的な多様性について理解を深める
7 回	臨床心理学：臨床心理学の現場について知り、自分自身の将来に役立てる
8 回	性格、発達、感情、健康、臨床心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握し、自分自身について知っていることを整理しておくこと (120分)
2 回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身がこれまでどのように発達してきたかを振り返っておくこと (120分)
3 回	前回の授業内容の復習に加え、これまでに形成してきた親子関係について振り返っておくこと (120分)
4 回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身が感じる感情の種類について考えておくこと (120分)
5 回	前回の授業内容の復習に加え、ストレスをどのように感じ、それにどのように対処しているのかを考えておくこと (120分)
6 回	前回の授業内容の復習に加え、既知の心理的な疾患や障害について理解を深めておくこと (120分)
7 回	前回の授業内容の復習に加え、心理学の現場についての疑問を明らかにし、整理しておくこと (120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎であるパーソナリティや感情などの領域から応用である健康、臨床などの領域にわたる、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎～応用領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	パーソナリティ、発達、感情、健康、臨床
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出 (35%) 講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) 以上の2点によって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	心理学A、教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「(講義開始までに) シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 B (FB210850)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	松浦美晴 * (まつうらみはる *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の概要と、「情動と動機づけ」について説明する。
2 回	「対人認知・対人魅力と態度変容」について説明する。
3 回	「援助行動・攻撃行動」について説明する。
4 回	「集団と個人」について説明する。
5 回	「リーダーシップと集団間葛藤」について説明する。
6 回	「人間のコミュニケーション行動」について説明する。
7 回	「情報と人間行動」について説明する。
8 回	「情報化社会での人間行動の変化」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	教科書第7章のp.69～76に目を通し、「演習」p.81「課題1」を行ってくること。(標準学習時間120分)
3 回	教科書第7章のp.77～80に目を通し、「演習」p.83「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
4 回	教科書第8章のp.85～89に目を通し、「演習」p.95「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
5 回	教科書第8章のp.89～92に目を通し、「演習」p.96「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
6 回	教科書第9章に目を通し、「演習」p.107「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
7 回	教科書第10章に目を通してこくること。(標準学習時間60分)
8 回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解する。 2) 体系的な理論と関連のトピックについて知識を得る。 3) 心理学の理論と、日常の具体的な人間行動との関連を理解する。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	こころの理解、認知、感情、集団、社会行動
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	達成目標 1) ～ 3) の達成度を評価する最終評価試験 (100%) を行う。
教科書	生活にいかす心理学ver.2 / 古城和子 (編著) / ナカニシヤ出版 / 4888487057
関連科目	特に指定はない。
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学 TEL : 086-272-6254 (代表)
授業の運営方針	教科書を用いて行う。 教科書中の重要事項やキーワードについて解説するために、パワーポイントによる提示資料を用いる。 提示資料中では、理解を深めるために必要な補足事項について、教科書に記載されていない内容も扱う。 提示資料、配布資料を教員の指定するウェブサイトアップロードするので、授業の復習に利用してほしい。 アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	個別に資料を基に説明を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	哲学B (FB211320)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2 回	インド哲学 (1) —インド文明の誕生の経緯やヴェーダ聖典について説明した後、ヴェーダを批判した沙門たちの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	インド哲学 (2) —インドの「六派哲学」と呼ばれる、6つの学派の思想について説明した後、西洋思想との類似点について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	中国哲学 (1) —古代中国の「諸子百家」と呼ばれる様々な思想家の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	中国哲学 (2) —日本も含む東アジアに大きな影響を与えた朱子学と陽明学の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	イスラーム哲学 (1) —イスラーム哲学者の中からキンディーとファーラービーという2人の人物の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	イスラーム哲学 (2) —イスラーム哲学者の中からイブン・スィナーとガザーリーという2人の人物の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「哲学」とは何か、「哲学」とはどのような学問であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	ヴェーダ聖典とはどのようなものであるのか、バラモン、沙門とはどのような人たちであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	六派哲学とはどのようなものであり、どんな学派が含まれるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	諸子百家とはどのような者たちであり、彼らが登場した時代背景はどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	朱子学、陽明学とはどのような学問であったのか、またその日本への影響などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	イスラーム教とはどのような宗教であるのか、またキンディーとファーラービーとはどのような人物であったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	イブン・スィナーとガザーリーとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	東洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識は身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 東洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、東洋哲学のおおまかな歴史を理解できる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し

点)	、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	哲学B (FB211330)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2回	インド哲学(1)―インド文明の誕生の経緯やヴェーダ聖典について説明した後、ヴェーダを批判した沙門たちの思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3回	インド哲学(2)―インドの「六派哲学」と呼ばれる、6つの学派の思想について説明した後、西洋思想との類似点について説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4回	中国哲学(1)―古代中国の「諸子百家」と呼ばれる様々な思想家の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5回	中国哲学(2)―日本も含む東アジアに大きな影響を与えた朱子学と陽明学の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6回	イスラーム哲学(1)―イスラーム哲学者の中からキンディーとファーラービーという2人の人物の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7回	イスラーム哲学(2)―イスラーム哲学者の中からイブン・スィナーとガザーリーという2人の人物の思想を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とは何か、「哲学」とはどのような学問であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	ヴェーダ聖典とはどのようなものであるのか、バラモン、沙門とはどのような人たちであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	六派哲学とはどのようなものであり、どんな学派が含まれるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	諸子百家とはどのような者たちであり、彼らが登場した時代背景はどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	朱子学、陽明学とはどのような学問であったのか、またその日本への影響などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	イスラーム教とはどのような宗教であるのか、またキンディーとファーラービーとはどのような人物であったのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	イブン・スィナーとガザーリーとはどのような人物であったのか、またその代表的な著作などを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	東洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識は身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 東洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、東洋哲学のおおまかな歴史を理解できる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し

点)	、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	論理学 B (FB211610)
英文科目名	Logic B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋の論理学というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	インドの医学書『チャラカ・サンヒター』やニヤーヤ学派の根本経典『ニヤーヤ・スートラ』に見られる論理学説を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
3 回	『ヴァイダリヤ論』や『中論』の記述に基づいて、ナーガールジュナの帰謬法を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
4 回	『プラマーナ・サムッチャヤ』などの記述に基づいて、ディグナーガの論理学を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
5 回	『プラマーナ・ヴァールツェティカ』などの記述に基づいて、ダルマキールティの論理学を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
6 回	公孫竜や墨家集団の唯名論的思想を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
7 回	荀子の実念論的思想を説明する。そのうえで、学習した概念が理解できているかどうかを確認するための練習問題を解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	東洋の論理学とはどのようなものであるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	インドの医学書『チャラカ・サンヒター』、ニヤーヤ学派の根本経典『ニヤーヤ・スートラ』とはどのようなものであるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	ナーガールジュナとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	ディグナーガとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	ダルマキールティとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	公孫竜とはどのような人物であり、墨家とはどのような集団であるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	荀子とはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、インターネット、事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。

講義目的	論理学という学問の初歩をひと通り理解し、その知識を身につけたうえで、他のすべての学問を学ぶ際や日常生活においても、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標としている。 論理学の学習に最低限必要な知識を身につけ、論理学の概要を説明することができる。(A) 論理的な知識に基づいて思考し、物事を考えるうえで適切な判断を下すことができる。(B)
キーワード	論理、インド論理学、仏教論理学、名実論争
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、最終試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。論理学をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	桂紹隆『インド人の論理学』(中公新書) 加地伸行『中国人の論理学』(ちくま学芸文庫)
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。

	・練習問題はプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 B (FB211830)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	古代インド宗教の倫理—バラモン教、沙門宗教の倫理を、戒律、業の法則などを中心に説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
3 回	古代中国宗教の倫理—儒教の倫理を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
4 回	日本の伝統的倫理—日本の倫理思想史をたどることにより、日本の伝統的倫理を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
5 回	現代の倫理 (1) —死刑問題を取り上げて、存置派・反対派双方の意見を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
6 回	現代の倫理 (2) —自死問題、そしてその延長線上にある尊厳死・安楽死問題を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
7 回	現代の倫理 (3) —脳死・臓器移植問題を取り上げて、推進派・反対派双方の意見を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかをチェックするための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	東洋の「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	バラモン教、沙門宗教というのはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	儒教とはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	日本の伝統的倫理とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	死刑制度の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	自死、尊厳死、安楽死の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	脳死・臓器移植の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を理解できる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題に関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。

	・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 B (FB211840)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学ぶ。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志
2 回	現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学ぶ。ベンサム、基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、現代社会との関係について学ぶ。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義 “善と快楽”
3 回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学んでいく。キーワード：トロッコケース、9.11
4 回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証する。キーワード：GDP、幸福度調査
5 回	科学技術や医療の発展がもたらす課題について考える。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学ぶ。キーワード：科学技術、医療の発展
6 回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学ぶ。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析する。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
7 回	「愛」と「善」の関係について考える。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習する。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩
8 回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2 回	教科書の28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3 回	教科書の30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4 回	これまでの講義内容の復習しておくこと。（標準学習時間30分）
5 回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
6 回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
7 回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
8 回	ノートを中心にして復習を行い、講義全体の理解を深めておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。（A） 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。（B） 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。（B・C）
キーワード	倫理、現代社会、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由、自己愛、カント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	柘植尚則『ブレッツ倫理学』（弘文堂）
関連科目	哲学
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
授業の運営方針	多くの学生を対象として行う講義形式であるため、完全に理解度を把握して講義を進めるのは困難な面があるが、講義内で書いてもらうペーパーの内容を確認し、学生の理解度や関心を測りつつ、講義を進める。講義後の質問なども積極的に受け付ける。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィード	講義内で思考実験などを行いペーパーに記述したものを回収するが、その結果については、次回の

バック	講義にてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。また、講義内容の録音、板書の撮影を許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 B (FB211850)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2 回	古代インド宗教の倫理—バラモン教、沙門宗教の倫理を、戒律、業の法則などを中心に説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかを確認するための確認テストを解く。
3 回	古代中国宗教の倫理—儒教の倫理を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかを確認するための確認テストを解く。
4 回	日本の伝統的倫理—日本の倫理思想史をたどることにより、日本の伝統的倫理を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかを確認するための確認テストを解く。
5 回	現代の倫理 (1)—死刑問題を取り上げて、存置派・反対派双方の意見を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかを確認するための確認テストを解く。
6 回	現代の倫理 (2)—自死問題、そしてその延長線上にある尊厳死・安楽死問題を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかを確認するための確認テストを解く。
7 回	現代の倫理 (3)—脳死・臓器移植問題を取り上げて、推進派・反対派双方の意見を説明する。そのうえで、学習した内容が理解できているかどうかを確認するための確認テストを解く。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	東洋の「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	バラモン教、沙門宗教というのはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	儒教とはどのような宗教であるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	日本の伝統的倫理とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	死刑制度の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	自死、尊厳死、安楽死の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	脳死・臓器移植の問題点を、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを出しておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、倫理思想を理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を理解できる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題に関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、最終評価試験 評価割合50%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。

	・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、第8回のテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学B (FB212030)
英文科目名	Literature B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
2回	「みずうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
3回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
4回	「トーニオ・クレガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
5回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
6回	ドイツの叙情詩について概説する。
7回	ドイツ文学のまとめを行う。
8回	到達度確認テストとそのフィードバック、および今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
6回	テキストの第十二章に目を通して、詩の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	重要事項を把握して、テストの準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜3時限(春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説します。講義中心になりますが、受講マナーをきちんと守ることを必要条件としておきます。
アクティブ・ラーニング	テキストの部分的な朗読や、内容についての簡単な質問に対する回答を課することがあります。
課題に対するフィードバック	到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	それぞれのケースに応じて合理的な配慮を行うので、必要な場合は申し出てください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。

科目名	文学B (FB212040)
英文科目名	Literature B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
2回	「みずうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
3回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
4回	「トーニオ・クレガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
5回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
6回	ドイツの叙情詩について概説する。
7回	ドイツ文学のまとめを行う。
8回	到達度確認テストとそのフィードバック、および今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
6回	テキストの第十二章に目を通して、詩の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	重要事項を把握して、テストの準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜3時限(春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説します。講義中心になりますが、受講マナーをきちんと守ることを必要条件としておきます。
アクティブ・ラーニング	テキストの部分的な朗読や、内容についての簡単な質問に対する回答を課することがあります。
課題に対するフィードバック	到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	それぞれのケースに応じて合理的な配慮を行うので、必要な場合は申し出てください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。

科目名	文学B (FB212050)
英文科目名	Literature B
担当教員名	浅野純一 (あさのじゅんいち)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	『論語』と儒教について説明する。
2回	老子と莊子、道教について説明する。
3回	『史記』と司馬遷について、文学的側面から説明する。
4回	六朝の志人小説『世説新語』について説明する。
5回	六朝志怪小説『搜神記』について説明する。
6回	唐代伝奇小説『杜子春伝』について説明する。
7回	明代四大奇書『三国志演義』『西遊記』『水滸伝』『金瓶梅』、および清代の『紅樓夢』について概説する。
8回	到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	『論語』と儒教について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認し、さらに理解を深めること。(120分)
3回	儒教と道教の違いを確認し、配布されたプリントを元に、老子と莊子についてネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
4回	『史記』と司馬遷について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
5回	『世説新語』について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
6回	志人小説と志怪小説の違いを意識しながら、『搜神記』について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
7回	創作としての小説を意識しながら『杜子春伝』について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。また、芥川龍之介『杜子春』も読んでおくこと。(120分)
8回	授業中に説明したキーワードを確認し、授業中に指示した通りテストの準備をしておくこと。(150分)

講義目的	中国の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 (DP4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。)
達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。(4領域の「知識・理解」) 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。(4領域の「知識・理解」) 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。(4領域の「知識・理解」)
キーワード	文学、中国、散文、小説
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2,3を評価)、得点率60%以上を合格とする。
教科書	授業時にプリントを配布する。
関連科目	文学A、中国語()、比較文化論
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B3号館3階浅野研究室 E-mail: asanoj (アットマーク) big.ous.ac.jp オフィスアワー: mylogで確認してください。
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・飲食は原則禁止(ただし、飲料は必要であれば可)
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。

合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史 B (FB212310)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	小林博昭 * (こばやしひろあき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。授業の進め方を説明したのち、古墳時代の概要や、この時代の時期区分について、OHC等を用いて説明する。
2 回	古墳出現前夜の様相について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに箸墓を中心に、出現期古墳の特色を説明する。
3 回	古墳時代、前期、中期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
4 回	前回到続いて、古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
5 回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景についての追加説明をする。これに加えて、古墳時代に残された金石文について、そこから読み取れる大陸との交渉の状況等、それら具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
6 回	前回到続いて、金石文のなかから、具体例を説明する。さらに、古墳時代末期について説明する。これらの説明には、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用する。
7 回	古墳時代末期の補足説明と、古墳時代のロジスティクス(物流)について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
8 回	今まで扱ってきた歴史事象の補足説明をする。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。古墳時代の概要や特徴をノートを中心に復習し、さらに古墳出現前夜の様子を図書館等で、調べておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	古墳出現前夜の様相について、また箸墓などの出現期古墳の特色を説明できるように復習すること。くわえて、古墳時代の文化と駆使された技術を中心に図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	古墳時代前期、中期の物質文化やそれらに採用された技術について、復習しておくこと。さらに古墳時代後期の物質文化と採用された技術について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代に残された文字資料について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、そして習った金石文について配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代終末期の様子を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	これまでの授業で扱った金石文と、古墳時代末期の内容について十分に復習をすること。また、古墳時代の物流について、図書館等で予習しておくこと。 さらに、第1回からこれまで習ったことの内容のまとめと整理を各自おこない、質問などをノートにメモしておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	古墳時代の物流と、第1回から第7回までの授業のポイントを各自まとめて、十分復習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、我が国の国家形成史上、最もミステリアスな時代といわれる古墳時代前期から乙巳の変後の大化の薄葬令発布前後までの時代における人類が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を抽出できる。 2) 歴史という時系列の中で、抽出した諸要素を客観的に把握できる。 3) 諸要素相互の因果関係や、その背景について分析できる。 4) それらの分析結果について深く考察できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。

キーワード	“ 古代史 ”、 “ 古墳時代 ”、 “ 前方後円墳 ”、 “ ヤマト政権 ”
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（達成目標 1 ～ 4 ）100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
関連科目	日本史A
参考書	授業の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1) 毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2) (1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3) 出欠は毎回とる。 (4) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。 (5) 授業中に私語をする受講生や、他の受講生に迷惑がかかるような受講態度が悪い受講生に対しては、即刻退場や以降の受講を断る場合がある。 (6) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	マスメディア論 B (FB212720)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice B
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方や評価方法などについて把握する。続いて、インターネットの歴史と特性について理解する。
2 回	前回に続き、インターネットによる光と影について理解する。情報環境が大きく変化して便利になった半面、様々な問題点も浮上しており、革命的とも言えるネット社会について理解する。
3 回	マスメディアの発展とともに進化してきた広告について、その歴史と特性について理解する。
4 回	前回に続き、広告の歴史と特性に加えて、ネット時代の新しい広告について理解する。
5 回	メディアのもたらす影響や効果に関する研究について理解する
6 回	活字メディアと映像メディアの特性について学習し、情報操作やプロパガンダとしてメディアが利用された歴史や現状について理解する。
7 回	メディアリテラシーの意義と役割について理解する。
8 回	最終評価試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説を配布する。

回数	準備学習
1 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：インターネットが始まった歴史や既存メディアとは異なる特性についてまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：インターネットの浸透は、既存のメディアに大きな影響を及ぼしており、特に新聞、出版といった活字メディアの衰退につながっていることをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
3 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接し、広告にも注意しておくこと。復習：広告の歴史はメディアの歴史であり、技術やデザインの発展とともに歩んできたことをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接するとともに、広告にも注意しておくこと。復習：ネット時代になり、広告のシステムが様変わりし、既存のメディアにも影響を及ぼしていることをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：弾丸効果論や限定効果論など主に米国で研究が進んだメディアの効果研究についてまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：メディアが世論に影響を与え、ときに政治に利用された歴史があることをまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：メディアの特性を学んできたことを踏まえ、リテラシー能力を高めて、情報に接していくことの重要性をまとめておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	予習：授業を振り返り、試験に備えること。

講義目的	メディアの特性を知り、情報とどう接していくかは実社会に生きていく上で重要である。特に急速に進化しているネットメディアと既存のメディアの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につける。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	1) マスメディアが現代社会に果たす役割を理解する。(知識・理解) 2) マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。(知識・理解) 3) 正しい情報の扱い方、発言する側の責任など情報モラルの大切さを理解する。(知識・理解)
キーワード	ソーシャルメディア、情報革命、弾丸効果論、限定効果論、世論、メディアリテラシー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に毎回書いてもらう小レポート 10% (達成目標 1、3 を評価)、最終評価試験 90% (達成目標 1、2、3 を評価) により成績を評価し、総計で得点率 60% 以上を合格とする。
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	現代のメディア、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK出版: たった一つの「真実」なんてない/森達也/ちくまプリマー新書
連絡先	A 1 号館 6 F 八木研究室 直通電話086-256-9758 E-mail: yagi@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日 3 時限
授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小レポートは毎回、時事問題について書いてもらうので、日ごろから新聞やテレビでニュースに接しておくこと。

アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点後、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務：新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	マスメディア論 B (FB212730)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice B
担当教員名	高下義彦* (こうげよしひこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	マスメディア論のいわば入門編。マスメディア論 A の試験解答と結果を解説する。「広告」2016 年の統計数字を中心に日本の広告について考察する。
2 回	「インターネット」インターネットの歴史、概観、現状を学習する。
3 回	「インターネット」ネットの世界と現実世界の違い、関係、問題、課題を学習する。
4 回	「ソーシャルメディア」現代人にとって不可欠になったソーシャルメディアの歴史からキャンペーンについて学習する。
5 回	「ソーシャルメディア」ソーシャルメディアにおける権利、IoT、規制問題、教育とのかかわりなどを考察する。
6 回	「音楽」日本の音楽の変遷、CD 市場、配信、カラオケまで歴史と現況を学習する。
7 回	「映画」映画の誕生、変遷、動向、市場などを日本を中心に考察する。
8 回	1～7 回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
2 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
3 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
4 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
5 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
6 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
7 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
8 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。 教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート(時事ニュースなどについて)10%
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版:メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書:鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書:ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社:

	メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター 岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp
授業の運営方針	最初にその日の講義で使う資料と出席票を1人1枚とって着席。私語が激しい場合、注意しても直らない場合退出を求める。出席票が明らかに代筆と認められる場合は、両人を欠席扱いとすることがある。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に、「最近気になったニュース」を記入する。
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音、録画、撮影は許可する。
実務経験のある教員	山陽新聞社で30年超、取材記者、紙面制作記者及び両部門のデスク、管理職を経験。現在は、新聞制作システムから印刷、発送までの流れを管轄する編集局製作管理センター長を務める。
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 B (FB213010)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「政治の多元化」：政治における国際化と地域化、市民社会の役割の増大といった政治の多元化について概説する。
2 回	「地方政治」：地方自治体と地方分権について説明する。
3 回	「福祉」：リベラリズムとリバタリアニズムの観点から福祉国家について説明する。
4 回	「市民社会」：今日のNGO/NPOの意義と役割について説明する。
5 回	「マスメディア」：政治におけるマスメディアの役割について説明する。
6 回	「国際化」：移民・難民問題や多文化主義の観点から「国際化」について説明する。
7 回	「民主主義の限界？」：政治的無関心とポピュリズムについて説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞やTV、インターネットを通じ政治ニュースに触れて、政治問題に関心を持つように努力すること（標準学習時間30分）
2 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
3 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
4 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
5 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
6 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
7 回	講義終了時に、次回の範囲（テキスト等の該当ページ）を指定するので、予習しておくこと（標準学習時間30分）
8 回	これまでの講義内容についてしっかり復習しておくこと（標準学習時間60分）

講義目的	今日、現代社会が抱える問題は拡大し複雑化している。それは多くの個人や組織が交通・情報革命によって国境を越えるなどし、その活動領域が飛躍的に拡大しているからである。これら諸問題を分析・解決するには、利害調整と妥協を重視する政治学の知識が欠かせない。この講義では、「政治」を学ぶことによって、現代社会の諸問題に対する考察と、自分なりの解決策の模索ができるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	社会の政治問題領域が現在、拡大し続けていることを理解し説明できる。 政治学の知識を用いて、現代社会の問題を分析し、自分なりの解決策を考え出せるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	現代政治、地方自治、市民社会、マスメディア、福祉政治、国際化、ポピュリズム
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	上記達成目標の到達度を第8回講義内の最終評価試験(100%)で評価する。
教科書	・現代政治学 [第4版] / 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 / 有斐閣 / 978-4641124554 ・政治学 / 川出良枝・谷口将紀 (編) / 東京大学出版会 / 978-4130322195
関連科目	政治学A、国際関係論A / B
参考書	適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・日常生活と政治は日々密接化しており、現代の人びとは政治にまったく無関心でいられない。それゆえに、現代政治を理解することは社会人として極めて重要である。この講義では、受講生が現代政治への関心と理解を少しでも多く得られるように実施していく。そのため、受講生も新聞やニュースなどで、日々の政治動向に対して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回の授業に関するレジュメ・資料を配布する。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論B (FB213210)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	国際政治と問題領域1「国家の安全保障」：国家安全保障が軍事や経済など伝統的領域だけでなく、今日、情報や技術など様々な領域へと拡大している現状について説明する。
2回	国際政治と問題領域2「人間の安全保障」：冷戦終結後、新しい安全保障概念として登場した「人間の安全保障」の歴史的展開について説明する。
3回	国際政治と問題領域3「軍備管理」：NPT体制やNGO主導で成立した対人地雷禁止条約を紹介し、今日の軍備管理問題について説明する。
4回	国際政治と問題領域4「内戦とテロリズム」：1990年代の民族問題に起因する内戦と、ISやアルカイダ等に見られるグローバルに拡大したテロリズムについて説明する。
5回	国際政治と問題領域5「民主化と人権」：OSCEの活動を紹介することによって、今日の国際社会の民主化への努力について説明する。
6回	国際政治と問題領域6「資源」：石油や天然ガスに着目することによって、エネルギー資源の国際政治へ与えるインパクトについて説明する。
7回	国際政治と問題領域7「開発と環境」：旧ソ連の開発によるアラル海消失問題を題材にし、開発と環境問題について考える。
8回	最終評価試験を実施する。最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1回	指定の教科書を事前に読んでおくこと(標準学習時間40分)
2回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
3回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
4回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
5回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
6回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
7回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
8回	これまでの講義内容についてしっかり復習しておくこと(標準学習時間60分)

講義目的	国際社会における様々な問題には、どのようなアクターが関与しているのかを理解し、そして解決のためには何が必要かを考察できるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	今日の国際政治における基本的な諸問題について説明できる。 国際社会がグローバルな問題に対してどのように取り組もうとしているのか説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	安全保障、人権、資源問題、環境問題
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	上記達成目標の到達度を第8回講義内の最終評価試験(100%)で評価する。
教科書	・新グローバル公共政策[改訂版]/庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆(編)/晃洋書房/978-4771027480 ・グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域/グローバルガバナンス学会(編)/法律文化社/978-4589038814
関連科目	国際関係論A、政治学A/B
参考書	マイノリティ保護のクロアチア政治史/山川卓/晃洋書房/978-4771031432 その他の参考書については適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・国際社会における諸国家間の行動や態度または出来事について、受講生の「何でだろう」という疑問に応えるような授業にしていく。そのため、受講生には新聞やニュースなどで、世界情勢に関して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに

	歓迎する。 の授業に関するレジュメ・資料を配布する。 ・ 毎回授業開始時にその回
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	経済学 B (FB213720)
英文科目名	Economics B
担当教員名	横尾昌紀 * (よこおまさのり *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	展開形ゲームと戦略形ゲームの関係について
2 回	展開系ゲームの応用例：「裁量ルールか？」あるいは「なぜ大学のシラバスが必要なのか？」
3 回	混合戦略のナッシュ均衡：じゃんけん
4 回	非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡
5 回	労働市場の分析 (1) : エイジェンシー問題，あるいは「なぜブラック企業が跋扈するのか？」
6 回	労働市場の分析：シグナリングゲーム，あるいは「あなたはなぜ大学へ行くのか？」
7 回	進化と合理性
8 回	まとめ 最終評価試験

回数	準備学習
1 回	教科書の第 1 章を授業の前か後に読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
2 回	教科書の第 2 章と第 5 章の最初の節を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
3 回	教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
4 回	教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
5 回	教科書の第 4 章と 5 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
6 回	教科書の第 6 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
7 回	教科書の第 6 章を読んでおいてください。 (標準学習時間 4 0 分)
8 回	いままでのところを復習してください。 (標準学習時間 4 0 分)

講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況，すなわち，駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステムティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて，「戦略的思考」を身につけることを目的とします。（教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	・戦略形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める。 ・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める。 ・展開形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める。 ・非対称情報ゲームでベイズ完全均衡を求める。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	経済学，戦略，戦略的状況，戦略的思考，ゲーム理論，ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡，ベイズ完全均衡。
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準 60 点）	課題提出（ 2 0 % ），中間試験（ 2 0 % ），最終評価試験（ 6 0 % ）
教科書	ゲーム理論・入門 / 岡田章著 / 有斐閣アルマ / 9784641123625
関連科目	社会と人間
参考書	『ゲーム理論 ワークブック』，岡田章他，有斐閣
連絡先	電子メール： yokoo@e.okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	講義形式で行います。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	下の注意事項を参照ください．
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	ポータルサイト 共有スペース 学部共通 「経済学（横尾）後期」のフォルダーに過去の試験問題や演習問題が入っていますので、必ず確認してください．

科目名	経済学 B (FB213730)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山下賢二 * (やましたけんじ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に企業行動の原則と生産関数について講義する。
2 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と等量曲線の関係について講義する。
3 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と費用関数の関係について講義する。
4 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に S 字型短期費用関数を用いた損益分岐点、操業停止点の導出について講義する。
5 回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に完全競争市場、厚生分析について講義する。
6 回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に独占市場について講義する。
7 回	マクロ経済理論の基礎を講義する。 特に短期と長期の違いを強調する。
8 回	7 回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (標準学習時間60分)
2 回	1. 微分の復習をしておくこと 2. 第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと (標準学習時間60分)
3 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
4 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
5 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
6 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
7 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
8 回	全体の復習をしておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。経済学Bでは、ミクロ経済学のうち企業理論と市場理論を講義し、マクロ経済学の基本的な部分を講義する。 (教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
------	--

達成目標	・ 基本的な経済理論を理解できる ・ 様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	ミクロ経済学・マクロ経済学・企業・政府・消費・投資・市場・国民所得・経済政策
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験(100%)
教科書	1 からの経済学 / 中谷武・中村保編著 / 碩学舎 / 中央経済社 / 9784502680809 プリント(ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)
関連科目	ミクロ経済学・マクロ経済学
参考書	適宜指示する。
連絡先	岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室 kenyamashita@po.osu.ac.jp
授業の運営方針	プリントを中心に進めていく。 試験は試験期間中に行い、筆記試験（100％）で評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	年度最後の追再試終了後に模範解答・解説（プリント当該箇所指示）をWeb上に上げる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を多用する。高校で微分をすでに学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験は試験期間中に行い、筆記試験（100％）で評価する。

科目名	経済学 B (FB213740)
英文科目名	Economics B
担当教員名	野村證券* (のむらしょうけん*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	証券投資のリスク・リターン
2 回	ポートフォリオ・マネジメント
3 回	外国為替相場とその変動要因について
4 回	債券市場の役割と投資の考え方
5 回	株式市場の役割と投資の考え方
6 回	投資信託の役割とその仕組み
7 回	ライフプランニングとNISA
8 回	まとめ・最終評価試験

回数	準備学習
1 回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分)
2 回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分)
3 回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分)
4 回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分)
5 回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分)
6 回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分)
7 回	メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分)
8 回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと (標準学習時間90分)

講義目的	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク＆リターンの考え方、株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法など実務の観点から解説します。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	経済において証券市場が果たす役割はきわめて大きいものであるが、その実態はどのようなものかを現場の鋭い実務感覚をベースに分かりやすく解説していきたい。証券市場と証券投資の現実を知ること、将来の資産運用に役立つ知識を得るだけではなく、生きた経済を肌で感じる機会に出会うことでもある。多くの意欲的な学生諸君が受講して、自らの学問的感覚を磨いてくれることを期待している。(教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
キーワード	金融、企業、経営
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	最終評価試験 (100%)。得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
教科書	適宜、資料をコピーして配布
関連科目	ミクロ経済学・マクロ経済学
参考書	「証券投資の基礎」 野村証券投資情報部 編 / 丸善株式会社
連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	資本市場について、複数の野村証券社員により、講義を行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中にフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。←
実務経験のある教員	ア) 野村証券 株式会社 イ) 経済における証券市場が果たす役割等について講義を行う。
その他 (注意・備考)	・企業の方による講義のため、講義計画は変更になる場合がある。 ・企業の方による講義のため、講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合、事前相談すること。 ・講義資料は講義開始時に配布する。特別な事情がない限り、後日の配布は応じない。

科目名	環境と社会 B (FB214020)
英文科目名	Environment and Society B
担当教員名	劔持堅志 * (けんもつかたし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
3 回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
4 回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3 R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））の現状とその課題について講義する。
5 回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術、県民の安全と安心を確保するために実施されている常時監視システムについて講義する。
6 回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
7 回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能（AI）、IT技術などの進歩がもたらす経済・社会への衝撃について講義する。
8 回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 ライフスタイルの変革、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資など現の社会の変化について言及し、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
16 回	

回数	準備学習
1 回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）、大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状や越境汚染問題について調査しておくこと。
3 回	化学物質汚染について、参考書 3-7 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
4 回	循環型社会について、参考書 3-5 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
6 回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
7 回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめ

	ておくこと。 （標準学習時間60分）
8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回 16回	各主体の役割と取り組みについて、参考書5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間120分） 後期評価試験の範囲は8～16回
講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 （教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する）
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 （教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する）
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能（AI）の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	16回受講者については、中間評価試験（1～8回）及び最終評価試験（9～16回）を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	・改定6版 eco検定（環境社会検定試験）® 公式松井孝典テキスト / 東京商工会議所 / 日本能率会マネジメントセンター / ISBN : 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実（アルゴア著、ランダムハウス講談社） ISBN 978-4270001813） ・地球システムの崩壊（松井 孝典、新潮選書） ・生命の多様性（エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫）
連絡先	（個人メール） katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com（講義資料等に関する問合せ）
授業の運営方針	講生に今今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会（AI技術、自動運転など）について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営（座長）、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。

その他（注意・備考）	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	環境と社会 B (FB214030)
英文科目名	Environment and Society B
担当教員名	剣持堅志 * (けんもつかたし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
3 回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
4 回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））の現状とその課題について講義する。
5 回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術、県民の安全と安心を確保するために実施されている常時監視システムについて講義する。
6 回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
7 回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能（AI）、IT技術などの進歩がもたらす経済・社会への衝撃について講義する。
8 回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 ライフスタイルの変革、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資など現の社会の変化について言及し、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
16 回	

回数	準備学習
1 回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）、大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状や越境汚染問題について調査しておくこと。
3 回	化学物質汚染について、参考書 3-7 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
4 回	循環型社会について、参考書 3-5 章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
6 回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
7 回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめ

	ておくこと。 （標準学習時間60分）
8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回 16回	各主体の役割と取り組みについて、参考書5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間120分） 後期評価試験の範囲は8～16回
講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能（AI）の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	16回受講者については、中間評価試験（1～8回）及び最終評価試験（9～16回）を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)® 公式松井孝典テキスト / 東京商工会議所 / 日本能率会マネジメントセンター / ISBN : 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実 (アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊 (松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性 (エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)
授業の運営方針	講生に今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会（AI技術、自動運転など）について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営（座長）、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。
その他（注意・備考）	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	法学B (FB214230)
英文科目名	Law B
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	司法制度についての概説の講義をする。 [内容] 裁判所の種類と関係、三審制度
2 回	国民の司法参加についての講義をする。 [内容] 諸外国の国民の司法参加の種類 (陪審制、参審制)、日本の裁判員制度とその問題点、検察審査会
3 回	模擬裁判員 (陪審員) 体験授業を行い、裁判のルールに従った自身の判定について授業内レポートにまとめてもらう。
4 回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策
5 回	刑罰制度の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑罰の本質、刑罰の種類、死刑および刑務所の実情と問題点
6 回	民事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
7 回	司法制度へのアクセス (利用方法) についての講義をする。 [内容] 法律家 (法曹 3 者) について、日本司法支援センター (法テラス)、国選弁護士制度、当番弁護士制度
8 回	最終評価試験を行い、その後、試験の解説とこれまでの授業の総括を行う。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。インターネットで最高裁判所のHPを探し、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。(標準学習時間60分)
2 回	第 1 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。裁判所のHPで裁判員制度および検察審査会の概要について、あらかじめ各自で調べておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	第 2 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	第 3 回の模擬裁判員体験授業で出てきた刑事裁判の判定方法について復習しておくこと。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	第 4 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	第 5 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	第 6 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第 7 回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第 1 回から第 7 回までの授業内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。(教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる (知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる (知識・理解)。 (3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる (知識・理解、思考・判断・表現)。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度など、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。

試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業確認プリント〔計6回：30%〕（達成目標1～2を確認）＋授業内レポート〔20%〕（到達目標1～3を確認）＋最終評価試験〔50%〕（到達目標1～3を確認）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6（書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可）
関連科目	日本国憲法、法学A。この授業のみ履修する場合、既に当教員による前記科目において六法の基本的な使い方、条文の読み方をマスターしていることが望ましい。
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B 3 号館 4 階佐藤研究室（オフィスアワーについてはマイログを参照） 連絡は直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	（1）指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること（事前に図書館で借りてきた場合も同様）。無断で六法なしで受講しないこと。 （2）テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF（レジュメ）を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 （3）復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 （4）授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 （5）（大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の）遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする（ただし事前に分かっている場合には相談に応じる）。
アクティブ・ラーニング	（1）ビデオを用いた模擬裁判員（陪審員）の体験授業を行う（時間的に余裕があれば、それに基づいた評議（ディスカッション）も行う）。 （2）授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 （3）授業内容によっては、授業準備として事前に裁判所HPなどで基本的事項について各自で主体的に調べてきてもらう。 （4）授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィードバック	授業確認プリントおよび授業内レポートについては、後日、解答・解説をアップする。最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（1）履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 （2）上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので（ただしテストを除く）、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 （3）テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 （4）新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	考古学 B (FB214410)
英文科目名	Archaeology B
担当教員名	白石純 (しらいしじゅん)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義概要として講義内容と講義の進め方を説明する。 旧石器時代前半について実例を挙げながら講義する。
2 回	旧石器時代後半について実例を挙げながら講義する。
3 回	縄文時代草創期、早期、前期について講義する。
4 回	縄文時代中期、後期、晩期について講義する。
5 回	弥生時代前期、中期について講義する。
6 回	弥生時代後期について講義する。
7 回	古墳時代前期について講義する。
8 回	古墳時代中期・後期について講義する。 これまでの講義内容につて総括をする。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義内容を理解しておくこと。 日本の旧石器時代について、発見・時代・生活文化を図書館等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	事前の講義内容について復習し「日本の旧石器時代について、石器・製作技法・狩猟方法」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	事前の講義内容について復習し「縄文時代について、定義・年代・生業」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	事前の講義内容について復習し「縄文時代の住居と集落・墓地と埋葬・土器」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	事前の講義内容について復習し「弥生時代の定義・年代・生業」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	事前の講義内容について復習し「弥生時代の住居と集落・墓地と埋葬・土器からみた地域性」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	事前の講義内容について復習し「古墳時代の年代・古墳の種類と埋葬施設」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	の講義内容について復習し「古墳時代の住居・生活様式」について調べておくこと。また、1～7回までの講義内容を復習し、よく理解しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのかを理解する。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように講義する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について講義し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解する。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解することで、考古学が人文科学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを理解する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断力・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 理系、文系を問わず、歴史について説明できる。 2) さまざまな知識、学問に応用することができる。 3) 発想や資料分析法の仕方に応用することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験100%(達成目標1～3を評価)により成績を評価する。合格基準は100点満点のうち60%以上を合格とする。
教科書	・使用しない。 ・講義資料を適宜、配付する。
関連科目	日本考古学、先史考古学
参考書	考古学ゼミナール / 江上波夫 / 山川出版社 : 考古学の基礎知識 / 広瀬和雄 / 角川選書

連絡先	C2号館6階 白石研究室 shiraish@big.ous.ac.jp 086-256-9655 オフィスアワー 月曜5・6時限
授業の運営方針	・プロジェクターにより図を提示し、視覚的な説明と板書を組み合わせて講義を進めていく。 ・講義資料を適宜、配付する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	終評価試験の解説は試験終了後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論B (FB214710)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画分析の実例を示す。
2回	日本映画における「引用・オマージュ・模倣」を分析する。
3回	外国映画における「引用・オマージュ・模倣」を分析し、日本映画と比較する。
4回	日本のアニメ映画史を概観する(1) 誕生から戦時下まで
5回	日本のアニメ映画史を概観する(2) 東映動画と虫プロ
6回	日本のアニメ映画史を概観する(3) アニメブームの盛衰と現在
7回	「世界のクロサワ」を分析し、その影響について概観する。最終評価試験について説明する。
8回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：テキスト第1章、第8章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：テキスト第4章～第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
6回	予習：テキストの第17章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習：テキストの第24章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
8回	予習：後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	・少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。 ・「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説ける。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	岡山、映画、アニメ、比較文化、表象文化
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(最終評価試験100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「まあ映画な、岡山じゃ県2」 / 蜻文庫
関連科目	比較文化論A
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 参考映像をめぐる各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。

課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	比較文化論 B (FB214720)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ドイツにおける代表的王、芸術家について説明する。
2 回	ドイツにおける宗教の問題について説明する。
3 回	オーストリア事情について説明する。
4 回	ドイツの今後の課題について説明する。(1)(再統一の影響、文化の多元性を中心に)
5 回	ドイツの今後の課題について説明する。(2)(多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶を中心に)
6 回	ドイツの今後の課題について説明する。(3)(EUとユーロを中心に)
7 回	ドイツおよび周辺諸国の変貌について説明する。
8 回	日本とドイツの共通点・相違点について総括的に説明する。 学修の到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	テキストの100～118ページを読み、王、芸術家について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	テキストの119～130ページを読み、宗教の問題について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	テキストの131～142ページを読みオーストリア事情について、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	テキストの143～150ページを読み、再統一の影響、文化の多元性などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	テキストの150～165ページを読み、多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	テキストの165～178ページを読み、EUとユーロなどについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	テキストの180～184ページを読み、ドイツおよび周辺諸国の変貌について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2)「日本では」「XX国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、異文化、比較文化、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ ― その文化・歴史・社会 / 高橋 憲 / 郁文堂 / 978-4-261-01265-1
関連科目	比較文化論A、文学
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike(アットマーク)dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・ 新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。

科目名	比較文化論 B (FB214730)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ドイツにおける代表的王、芸術家について説明する。
2 回	ドイツにおける宗教の問題について説明する。
3 回	オーストリア事情について説明する。
4 回	ドイツの今後の課題について説明する。(1)(再統一の影響、文化の多元性を中心に)
5 回	ドイツの今後の課題について説明する。(2)(多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶を中心に)
6 回	ドイツの今後の課題について説明する。(3)(EUとユーロを中心に)
7 回	ドイツおよび周辺諸国の変貌について説明する。
8 回	日本とドイツの共通点・相違点について総括的に説明する。 学修の到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	テキストの100～118ページを読み、王、芸術家について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	テキストの119～130ページを読み、宗教の問題について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	テキストの131～142ページを読みオーストリア事情について、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	テキストの143～150ページを読み、再統一の影響、文化の多元性などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	テキストの150～165ページを読み、多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	テキストの165～178ページを読み、EUとユーロなどについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	テキストの180～184ページを読み、ドイツおよび周辺諸国の変貌について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2)「日本では」「XX国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、異文化、比較文化、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認テスト(100%)(達成目標1,2を評価)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ ― その文化・歴史・社会 / 高橋 憲 / 郁文堂 / 978-4-261-01265-1
関連科目	比較文化論A、文学
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike(アットマーク)dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・ 新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。

科目名	比較文化論B (FB214770)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)について解説する。
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)について解説する。
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)について解説する。
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)について解説する。
5回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5)について解説する。
6回	信仰と宗教文化論1について解説する。
7回	信仰と宗教文化論2について解説する。
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、死の定義、心移植、落語
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。 達成目標1、2を評価。
教科書	なし
関連科目	比較文化論A
参考書	文化人類学辞典(弘文堂)

連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。途中退出、私語に関しては厳しく接する。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで、遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後に簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。録音、録画はSNSに上げない条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論B (FB214780)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)について解説する。
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)について解説する。
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)について解説する。
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)について解説する。
5回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5)について解説する。
6回	信仰と宗教文化論1について解説する。
7回	信仰と宗教文化論2について解説する。
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、死の定義、心移植、落語
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	比較文化論A
参考書	文化人類学辞典(弘文堂)

連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。途中退出、私語に関しては厳しく接する。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで、遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後に簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。録音、録画はSNSに上げない条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論B (FB214790)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア1)について解説する。
2回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア2)について解説する。
3回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア3)について解説する。
4回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア4)について解説する。
5回	太平洋圏の歴史と文化(東南アジア・ミクロネシア5)について解説する。
6回	信仰と宗教文化論1について解説する。
7回	信仰と宗教文化論2について解説する。
8回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。
2回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	< 予習 > 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 < 復習 > 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、死の定義、心移植、落語
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度確認試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。 達成目標1、2を評価。
教科書	なし
関連科目	比較文化論A
参考書	文化人類学辞典(弘文堂)

連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。途中退出、私語に関しては厳しく接する。 質問・相談があればB3号館4階辻研究室まで、遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後に簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。録音、録画はSNSに上げない条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 B (FB215050)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	榎原 宥* (えばら ゆたか*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義オリエンテーション—私たちの社会参画の意義と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方＝市民性の発揮＝について解説する。
2 回	行政への市民参加 (1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について、国際比較を交えながら解説する。
3 回	第 2 回講義の続き—ワークシェアリングの説明と、今話題の働き方改革、同一労働同一賃金、生産年齢人口等との関連を解説する。
4 回	行政への市民参加 (2) - 地球環境問題、日本のエネルギー政策、原子力発電 (再稼働問題を含む) に私たち (君たち) はどう向かい合っていくのかを共に考える。
5 回	第 4 回講義の続き—日本のエネルギー政策に関連し、福島原発事故を経験した今、電力会社、国、市民 (私たち、あるいは君たち) の社会的責任を考える。
6 回	第 5 回講義の続き - 企業の社会的責任をより詳しく、福島原発を持つ東京電力を題材に説明する。
7 回	司法への市民参加—日本の裁判員制度とその課題について解説する。
8 回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。「三権分立」の基礎知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60 分)
2 回	アフーマティブ・アクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間: 60 分)
3 回	ワーク・ライフ・バランスとは何かを調べておくこと。(標準学習時間: 60 分)
4 回	「パリ協定」の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60 分)
5 回	あなたは原子力発電の将来の姿についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間: 60 分)
6 回	企業の社会的責任とはどのようなものを指すのか調べてくること。(標準学習時間: 60 分)
7 回	日本の裁判員制度の概要を調べておくこと。(標準学習時間: 60 分)
8 回	第 1 回から第 7 回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120 分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、「三権」の内「行政」と「司法」への市民参加について論ずる。題材として、女性の社会進出課題、地球環境、原発再稼働、裁判員制度等の現在進行形の時事問題を取り上げる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ (教養教育センターの到達目標 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)。
達成目標	憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な (論理的で破綻のない) 言葉や文章で表現出来る。 4 領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	市民性、ルールと秩序、社会的責任
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	最終試験 100% で評価し、60% 以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	社会と人間 A: この講義では、「行政」と「司法」への市民参加の課題を講義するが、社会と人間 A では「立法」との関わりを取り上げる。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	多人数の履修が予想されるため、講義 (講師からの情報提供) 中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の

	講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分からなくなる可能性があるので、毎回の出席を心がけること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。
実務経験のある教員	ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。
その他（注意・備考）	関連科目の「社会と人間A」の履修を要望する。

科目名	社会と人間B (FB215060)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	榎原 宥* (えばら ゆたか*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義オリエンテーション—私たちの社会参画の意義と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方＝市民性の発揮＝について解説する。
2 回	行政への市民参加(1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について、国際比較を交えながら解説する。
3 回	第2回講義の続き—ワークシェアリングの説明と、今話題の働き方改革、同一労働同一賃金、生産年齢人口等との関連を解説する。
4 回	行政への市民参加(2) - 地球環境問題、日本のエネルギー政策、原子力発電(再稼働問題を含む)に私たち(君たち)はどう向かい合っていくのかを共に考える。
5 回	第4回講義の続き—日本のエネルギー政策に関連し、福島原発事故を経験した今、電力会社、国、市民(私たち、あるいは君たち)の社会的責任を考える。
6 回	第5回講義の続き - 企業の社会的責任をより詳しく、福島原発を持つ東京電力を題材に説明する。
7 回	司法への市民参加—日本の裁判員制度とその課題について解説する。
8 回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。「三権分立」の基礎知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
2 回	アフーマティブ・アクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
3 回	ワーク・ライフ・バランスとは何かを調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
4 回	「パリ協定」の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
5 回	あなたは原子力発電の将来の姿についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
6 回	企業の社会的責任とはどのようなものを指すのか調べてくること。(標準学習時間: 60分)
7 回	日本の裁判員制度の概要を調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
8 回	第1回から第7回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、「三権」の内「行政」と「司法」への市民参加について論ずる。題材として、女性の社会進出課題、地球環境、原発再稼働、裁判員制度等の現在進行形の時事問題を取り上げる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)。
達成目標	憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な(論理的で破綻のない)言葉や文章で表現出来る。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する
キーワード	市民性、ルールと秩序、社会的責任
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	最終試験100%で評価し、60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	社会と人間A: この講義では、「行政」と「司法」への市民参加の課題を講義するが、社会と人間Aでは「立法」との関わりを取り上げる。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	多人数の履修が予想されるため、講義(講師からの情報提供)中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の

	講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分からなくなる可能性があるので、毎回の出席を心がけること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。
実務経験のある教員	ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。
その他（注意・備考）	関連科目の「社会と人間A」の履修を要望する。

科目名	社会と人間B (FB215070)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	市場恵子* (いちばけいこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【震災と原発】3.11から8年。原発の「安全・安心・必要」神話を問い直し、真の豊かさとは何かを問う。
2回	【「慰安婦」問題とメディア】戦時性暴力は今も繰り返されている。不処罰の連鎖を断つための試みとメディアの対応を検証する。
3回	【「ホームレス」と貧困】若者による「ホームレス」襲撃事件や、野宿生活者の実態を知り、「貧困」を生み出す社会的背景を考える。
4回	【犯罪と更生～暴力の被害と加害に向き合う】アメリカの受刑者更生施設「アミティ」の実践（治療共同体）を知り、加害者の更生には何が必要かを学ぶ。
5回	【育児とジェンダー】映画『クレマー・クレマー』を観て、「ワーク・ライフ・バランス」や父親の育児参加を促す。
6回	【介護とジェンダー】近年、ひとりぐらしの高齢者が増加。介護を担う人の4人に1人が男性という時代。介護疲れから虐待・心中に追い込まれる人もいる。『折り梅』を観て、これからの高齢者問題を考える。
7回	【アサーティブ・トレーニング】コミュニケーションパターンを学び、自分のクセに気づく。「Iメッセージ」と「YOUメッセージ」の違いを学び、2人組になって自他を尊重する会話や、「ノー」と言う練習もする。
8回	【ディーセントワーク】（前半45分間講義）人間らしい働き方とはどんな働き方か。労働基準法も併せて検討する。 【期末試験】（後半45分間試験）

回数	準備学習
1回	【震災と原発】原発事故後の報道がどんなものだったか、チェルノブイリ原発事故による外部被ばく・内部被ばくがどんなものだったか、自然エネルギーにはどんなものがあるか、調べておくこと。
2回	【日本軍「慰安婦」問題とメディア】「慰安婦」とは何を意味する言葉か、新聞報道やTV番組ではどう扱われてきたか、調べておくこと。
3回	【「ホームレス」と貧困】野宿生活者はなぜ野宿に至ったのか、どんなところでどんな生活をしているか、調べたり、考えてみる。岡山の野宿生活者の実態や支援活動についても調べておくこと。
4回	【犯罪と更生】日本では少年院や刑務所に入った人は、どのような教育を受けて、社会復帰しているのか、調べておくこと。
5回	【育児とジェンダー】将来、子育てをするとき、父として母としてどんな社会や職場が望ましいか、考えてくること。
6回	【介護とジェンダー】高齢者を誰が介護しているか？ 介護者の悩みは？ 身近な介護問題を調べてくること。
7回	【アサーティブ・トレーニング】あなたはイヤなことに「ノー」と言えているだろうか。自分の気持ちや欲求を率直に伝えられているだろうか。日常の会話を振り返ってみること。
8回	【ディーセントワーク】人間らしい働き方は？ 労働者の権利を守るために国内にはどんな法律があるか調べておく。 【期末試験】9～15回の資料に目を通しておく。

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	震災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、育児、介護、認知症、傾聴、Iメッセージ・YOUメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革

試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回講義後に提出するミニレポート50%、中間試験25%、最終評価試験25%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	憲法学・心理学・社会学など
参考書	小出裕章『原発のない世界へ』、坂上香『ライフアーズ』、北村年子『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』、VAWW-NETジャパン『NHK番組改変と政治介入』、上野千鶴子『おひとりさまの老後』、森田汐生『ことばに出そう！自分の気持ち』、阿部彩『子どもの貧困II』（岩波新書）
連絡先	PCメール：kei3@po1.oninet.ne.jp T & F：086-277-7522
授業の運営方針	社会と人間に関する情報や枠組みを提供し、自分の心と頭で感じたり考えたりすることを促す。毎回、コメントペーパーを書いて提出してもらい、質問や異論があれば、次回講義の冒頭でできるだけ答えるようにする。 試験は資料・ノートの持ち込みで行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	質問や異論があれば、コメントペーパーに書いてもらい、次回講義で答える。 最終試験の模範解答と解説は、教務課と相談の上で公開する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影も事前の打ち合わせで必要とあれば許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間B (FB215080)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法の説明をする。 * 「世界経済」「民族と宗教」に関する自己知識のレベルを把握し、予習/復習計画の立案を行う。
2回	* 世界経済の全体像を概説する。 * 世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
3回	* 世界経済の要である金融機関の種類とその目的を説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
4回	* 世界経済/通貨について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
5回	* アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 * 国際時事用語を学ぶ。
6回	* 宗教と民族紛争の関連を分析する。 * 国際時事用語を学ぶ。
7回	* 「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
8回	* 総括 * 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間120分)
3回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの講義内容を振り返りよく理解しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食糧」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。
------	--

	る。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国というの立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを活用して具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	長年にわたり、日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、 刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	福祉環境論 B (FB215220)
英文科目名	Welfare Environmental Science B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義のガイダンス (福祉の目的、意義、講義概要) をする。
2 回	心と身体、DMD 症について説明する。
3 回	「身体障がい者補助犬法」と生きがい感の創造について説明する (DVD 等)。
4 回	「障がい者スポーツ」について説明する (DVD 等)。
5 回	福祉機器、車いすの疑似体験を行う。
6 回	高齢者の心と身体の特徴について説明する。人間のライフサイクルについても説明する。
7 回	自己実現、至高経験、創造的人間について説明する。
8 回	これまでのまとめと最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。DMD 症の原因、診断方法、臨床症状について予習を行うこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	DMD 児の心の課題について予習を行うこと。(標準学習時間 100 分)
3 回	「身体障がい者補助犬法」について予習を行うこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	「身体障がい者補助犬法」について復習すること。「障がい者スポーツ」について予習を行うこと。(標準学習時間 120 分)
5 回	大学内の施設のチェックポイントの確認をしておくこと。(標準学習時間 120 分)
6 回	人間のライフサイクルについて予習を行うこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	人間のライフサイクルについて復習をすること。マスローの自己実現や至高経験について予習を行うこと。(標準学習時間 100 分)
8 回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間 180 分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法について学び、「障がい」理解のための疑似体験や教材を通して「障がい」、「障がい者」の意味や自己実現、合理的配慮の適切な提供について理解する。 (4 領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
達成目標	障がい者や高齢者の課題について、それらは限定された特別なものではなく、社会全体や一人ひとりの人間の共通課題として捉え、説明できること。MD 症児について説明できること。福祉機器やユニバーサルデザインについて理解を深め、説明できること。世界人権宣言、障がい者の権利宣言、幸福追求の権利等について説明できること。現代社会の福祉環境の課題について要約できること。 (4 領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準 60 点)	課題提出 2 回 (30%)、グループディスカッション (10%)、最終評価試験 (60%)
教科書	講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。
関連科目	健康の科学。生涯スポーツ (ヨット) およびスポーツと フィールド科学 (ヨット) では、障がいのある学生も受講できるように ユニバーサルデザインのヨットを使っています。
参考書	適宜紹介する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村 (次) 研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。

アクティブ・ラーニング	ワークシートや視覚教材を用いて、ペアやグループによるディスカッションを行い授業を進めていきます。「障がい」の疑似体験ではグループディスカッションを行い意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題や最終試験のフィードバックとして、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	受講者の積極性を期待しています。知識だけでなく実際に見て、触れて、考えましょう。 ・

科目名	福祉環境論 B (FB215230)
英文科目名	Welfare Environmental Science B
担当教員名	土橋恵美子* (つちはしえみこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション：後期講義の目的、進め方について説明する。 手話について実技（入門）をとおして説明する。
2 回	手話について実技（入門）をとおして説明する
3 回	ノートテイクについて実技をとおして説明する。
4 回	パソコン通訳について実技をとおして説明する。
5 回	障がいへの理解に関する映像を視聴する。
6 回	支援すること・されることについてグループワークをとおして考察する。
7 回	障がいを自分のこととしてとらえ、合理的配慮の視点から考察する。
8 回	第 1 回から第 7 回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。 指文字について自分の名前を調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	話実技で覚えた表現を繰り返し練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	速く・正しく・読みやすく書くための方法を考えること。(標準学習時間120分)
4 回	パソコン通訳（パソコンテイク）について調べておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	障がいへの理解を新聞記事や番組（NHK教育テレビ「手話ニュース」など）をとおして考えること。(標準学習時間120分)
6 回	支援すること・されることについて考えること。(標準学習時間120分)
7 回	合理的配慮の視点と考え方を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第 1 回から第 7 回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法等を学び、障がい理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の本質的意味、自己実現や合理的配慮の適切な提供について理解する。
達成目標	「障がい」、「障がい者」の本質的意味について、説明できること。 「支援される人」、「支援する人」、「社会」における、それぞれのバリア（障壁）について理解し、支援について適切な合理的配慮の提供を説明できること。 生きていくことと「障がい」は深く関わっていることを理解し、一人ひとりの人間や社会全体の共通課題として説明できること。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	グループワーク（ディスカッション）への貢献40%、講義最終日の試験（最終評価試験）60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
関連科目	健康の科学
参考書	適宜紹介する
連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	・授業で重視するのは覚えることより、疑似体験を通して知り、理論を用いて説明できること。 ・グループワーク（ディスカッション）を通して、積極的に参加する態度を求める。 ・クラスメイトの意見から新たな気づきを得、自分の言葉で説明できること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、ペアワーク ・疑似体験や事例紹介の後、自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。
課題に対するフィードバック	グループワークやディスカッションの発表は、その場で模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。
実務経験のある教員	現在、同志社大学障がい学生支援室勤務。同障がい学生支援室における15年のコーディネート経験を活かして、高等教育における障がい学生支援の状況、および課題とその対策方法について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	ボランティア論 B (FB216710)
英文科目名	Introduction to Volunteer B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。ボランティアの現状について考察し、ディスカッションを行う。
2 回	海外ボランティアの事例を取り上げ、その意義と問題点を分析する。
3 回	ボランティアと報酬について考察し、報酬の定義と無償性の根拠、その問題点を分析する。
4 回	ボランティアの事例を取り上げ、現場での様々な困難やトラブルの可能性を検証する。
5 回	ボランティアをめぐる批判・反発・葛藤について考える。
6 回	NPO (特定非営利活動) の歴史と法的根拠、組織について解説する。
7 回	NPO の現状と問題点について考察し、最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：ボランティアの現状について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：海外ボランティアの制度について調べておくこと。復習：海外ボランティアの制度と現状を整理すること。(標準学習時間60分)
3 回	予習：ボランティアの無償性について考えておくこと。復習：ボランティアの報酬についてまとめること。(標準学習時間60分)
4 回	ボランティアが直面する問題について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)
5 回	予習：ボランティアに対する批判について考えておくこと。復習：ボランティアを受ける立場から見た問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
6 回	予習：NPO について調べておくこと。復習：NPO の定義についてまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習：NPO の現状と問題点について考えておくこと。復習：NPO をめぐる諸問題と現代社会の仕組みを整理すること。(標準学習時間90分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を整理し、最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	被災地での支援活動や地域のコミュニティ活動など、現代社会においてボランティアが果たす役割の重要度は増しているが、その一方で安易なボランティア募集や活動現場でのトラブルも多発している。本講義ではボランティアの具体的な事例を取り上げながら、参加の動機や活動の背景を分析するとともに、ボランティアの歴史と特徴およびその意義について多角的に検証し、理解を深める。4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
達成目標	1. ボランティアの語源と歴史を説明できる。 2. ボランティアに参加する多様な動機を説明できる。 3. ボランティアの現状と問題点、およびそれらの背景を説明できる。 4. ボランティアの特徴と意義を説明できる。 5. 上記1-4を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題についての考えを明確に述べることができる。 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
キーワード	ボランティア、NPO、社会貢献、フェアトレード、映画
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-5)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「ボランティアへの視線 - 映画を手がかりにして考える(改定版)」(ピンク版) / 蜻蛉文庫
関連科目	ボランティア論 A
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. ボランティアの事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。

	4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. ボランティアをめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役、現・NPO法人地域文化研究所代表理事 2. 企業による社会貢献活動の経験とNPO活動の経験を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席し、受講上の注意を確認すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 受講に際してボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	ボランティア論 B (FB216720)
英文科目名	Introduction to Volunteer B
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち), 猪口雅彦(いのぐちまさひこ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【中継】 大学コンソーシアム岡山主催の「エコナイト」について全体的な説明をする。 (予定講師: 山陽学園大学・澁谷俊彦教授) 【教室内】 この講義の概要を説明する。学生が参画するESD活動の企画案をグループごとに発表する。 (全教員)
2 回	【中継】 「エコナイト」での実践を学生が報告する(1回目)。 【教室内】 「エコナイト」に関する改善案をグループ内で出し合う。 (全教員)
3 回	【中継】 「エコナイト」での実践を学生が報告する(2回目)。 【教室内】 「エコナイト」に関する改善案をグループごとに発表する。 (全教員)
4 回	【中継】 災害復興支援ボランティアの取り組みと今後の課題について説明する。(1回目, 予定講師: 岡山経済同友会・黒住宗道氏) 【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループ内で出し合う。 (全教員)
5 回	【中継】 災害復興支援ボランティアの取り組みと今後の課題について説明する。(2回目, 予定講師: NPO法人AMDA職員) 【教室内】 AMDAの方との質疑応答を行う。感想をレポートにまとめる。AMDAは岡山に本拠地を置く国際人道支援活動(主に保健医療関係)を行っているNPO法人で、東日本大震災復興支援活動も行っている。 (全教員)
6 回	【中継】 災害復興支援ボランティアに参加した学生が活動内容を報告する。 【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループごとに発表する。 (全教員)
7 回	【中継】 各大学で行われているボランティア・地域貢献活動について学生が発表する。 【教室内】 学生でもできるボランティア・地域貢献活動をグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。 (全教員)
8 回	【中継】 受講学生の一言発表・教員一言まとめを行う。 【教室内】 この講義についての良かった点、改善すべき点を出し合う。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでこれからの講義内容を把握しておくこと。各地で行われている様々なエコ啓発活動について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	「エコナイト」について復習しておくこと。各地で行われている様々なエコ啓発活動について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間30分)
3 回	「エコナイト」に関する改善案を検討しておくこと。(標準学習時間30分)
4 回	東日本大震災および西日本豪雨の復興状況について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	AMDAについて、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間30分)
6 回	災害復興支援および防災に役立つ企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。(標準学習時間30分)
7 回	学生でもできるボランティア・地域貢献活動について考えておくこと。(標準学習時間30分)
8 回	これまでの講義で感じたことをまとめ、一言発表ができるようにしておくこと。(標準学習時間30分)

	分)
講義目的	大学コンソーシアム岡山が行っている子ども・環境・災害復興等に関係した地域貢献ボランティア活動を紹介し、その改善案・新規提案を考える中で、ボランティア活動についての実践的な知識と参加意欲を高めることを目的とする。岡山県内の複数の大学（本学・岡山商科大学・山陽学園大学・中国学園大学）をテレビ会議システムで結び、双方向ライブ型遠隔授業として実施する。講義の内容は、4大学を中心に、大学コンソーシアム岡山が共同で制作する。ボランティア論Bでは主に「エコナイト」「災害復興支援」を取り上げる。 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与
達成目標	1. 大学コンソーシアム岡山がおこなっている地域貢献ボランティア活動について、その改善策もしくは新規の企画を提案することができる。（C） 2. 地域貢献ボランティア活動に関心を持ち、自分の感想・質問・意見を積極的に発言できる。（C） 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与
キーワード	大学コンソーシアム岡山 地域貢献活動 ボランティア活動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回の授業で作成するレポートの内容85%（到達目標1を確認）、および発言の内容15%（到達目標2を確認）で評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	ボランティア活動A・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	高原周一：A1号館3階、takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp 猪口雅彦：A1号館7階、ino[アトマーク]dbc.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業は毎週約50分間の共同制作・同時中継の時間帯（授業内容欄では【中継】と表記）と、その前後で教室内で40分おこなう大学独自の内容（授業内容欄では【教室内】と表記）の合わせて90分からなる。【中継】の時間帯には外部講師の講義を聞くとともに他大学の学生と大いに情報交換する。【教室内】の時間帯には主にグループ討議・発表などのアクティブ・ラーニングを行う。受講生自身が講義を作り上げていくという意識で、積極的に講義に参加すること。グループ討議を含むので、欠席は極力避けること。欠席する場合は事前に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション グループ討議・発表という形式でアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業で提出するレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発言についてはその場でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	ボランティア論Aとセットで受講することが望ましい。

科目名	日本の文化と歴史 B (FB217400)
英文科目名	Culture and History of Japan II B
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：講義の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について説明する。その後、平安時代を概観し、この時代の諸文化についてOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
2回	前回に続いて、平安時代の文化を説明した後、時間的余裕があれば、鎌倉時代を概観する
3回	鎌倉時代の文化について、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
4回	鎌倉時代の文化を補足説明した後、室町時代を概観し、その文化についてOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
5回	室町時代の文化について補足説明の後、安土桃山時代を概観し、その文化についてOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
6回	安土桃山時代の文化について補足説明した後、江戸時代を概観し、この時代の文化をOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
7回	江戸時代の文化の補足説明の後、明治時代の概観とその文化について、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。さらに、これまでの講義内容の整理と、まとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた日本の文化とその歴史の補足説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスの注意事項を熟読し、さらに平安時代の文化について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
2回	平安時代の文化をノートを中心に復習すること。鎌倉時代の文化について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	鎌倉時代の文化について、ノートを中心に復習すること。室町時代の文化について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	室町時代の文化について、ノートを中心に復習し、安土桃山時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	安土桃山時代の文化について、ノートを中心に復習し、江戸時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	江戸時代の文化について、ノートを中心に復習し、明治時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第1回からこれまでに習った事柄のまとめと整理を各自おこない、疑問点があれば次回に質問すること。(標準学習時間 120分)
7回	明治時代の文化について、ノートを中心に復習すること。第1回からこれまでの講義のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	この回を含めて、いままでの講義内容についての復習を各自おこなうこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	日本人の過去の生活から生み出され、醸成されてきた日本の様々な文化について、平安時代から明治時代までの各時代におけるその特色や、歴史的な形成過程をみていく。このことによって、外国人留学生の日本文化に対する理解を深め、さらには日本人や、日本の生活に一層の理解と親近感を増してもらうことを目的とする。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1. 日本の文化や、日本人の暮らし方を説明できる。 2. 日本の歴史について、概略を説明できる。 3. 日本の文化と母国の文化との差違、類似点を説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“日本史”、“日本文化史”、“日本思想史”
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	最終評価試験(達成目標1～3)100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。

教科書	使用しない。講義の進行過程で資料をプリント等で配布する。
関連科目	日本の文化と歴史IA、日本の文化と歴史IB、日本の文化と歴史IIA
参考書	講義の進行過程で、適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1) 毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2) (1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3) 出欠は毎回とる。 (4) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。 (5) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。 (6) 毎回、辞書(電子辞書で良い)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この科目は、外国人留学生を対象とする科目であり、日本人学生は対象外となる。(学生便覧参照)

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217617)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「日本を知る (1)」について説明する。
2 回	「日本を知る (2)」について説明する。
3 回	「日本を知る (3)」について説明する。
4 回	「読書のすすめ」について説明する。
5 回	「自己啓発 (1)」について説明する。
6 回	「自己啓発 (2)」について説明する。
7 回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
8 回	「敬語の使い方」について説明する。 ● 最終評価試験

回数	準備学習
1 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準時間 1 2 0 分)
3 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) ● 今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 1 8 0 分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	1 . 目的意識 2 . 基礎知識 3 . 実行力 4 . 復習する 5 . 確認の徹底 6 . 授業内容のポイント「ポイント」は、必ず

	メモを取る。 7. 文章を書く「目的・意義」の完全理解
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50％）、ワークシート（50％）
教科書	●「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / 株式会社 ライフ・サポート / ISBN978-4-9907110-110—0-9 ●授業に必要な「資料」（プリント）を、適宜、配布する。
関連科目	●プレゼンテーション基礎編
参考書	●適宜、指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	●最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容についての質問や要望などについて、やり取りできるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次の授業の最初に返却し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。 ●授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。またプリント内容は、復習資料としても活用できることも考慮している。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	●授業における「提出課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。 ●時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締め切り後の二週間後の授業の初めに返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	●合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。 ●講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。
実務経験のある教員	●高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画や重要性などを紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編B (FB217618)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「最近の関心事」を通じて自己分析を指導する。
2回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「最近の関心事」を指導する。
3回	「最近の関心事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4回	「ターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
5回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「ターニングポイント」を指導する。
6回	「ターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7回	「将来したい事」を通じて自己分析を指導する。
8回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「最近の関心事」を考えておくこと。 復習：「最近の関心事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：「最近の関心事」アウトラインを修正すること。 復習：「最近の関心事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：「最近の関心事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「最近の関心事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
4回	予習：「ターニングポイント」アウトラインを作成すること。 復習：「ターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：「ターニングポイント」文章を作成すること。 復習：「ターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6回	予習：「ターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。 復習：「将来したい事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7回	予習：「将来したい事」アウトラインを修正すること。 復習：「将来したい事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8回	予習：「将来したい事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠を示
------	--

	し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	テーマ別エントリーシート)「最近の関心事」「将来したい事」「ターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。 最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができている場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217619)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2 回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3 回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4 回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5 回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6 回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7 回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2 回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3 回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4 回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5 回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6 回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7 回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。

連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・文章表現法基礎編Aを履修していることが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217620)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	尾崎美恵 * (おざきみえ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「最近の関心事」を通じて自己分析を指導する。
2 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「最近の関心事」を指導する。
3 回	「最近の関心事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4 回	「ターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
5 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「ターニングポイント」を指導する。
6 回	「ターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7 回	「将来したい事」を通じて自己分析を指導する。
8 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「最近の関心事」を考えておくこと。 復習：「最近の関心事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：「最近の関心事」アウトラインを修正すること。 復習：「最近の関心事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3 回	予習：「最近の関心事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「最近の関心事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4 回	予習：「ターニングポイント」アウトラインを作成すること。 復習：「ターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	予習：「ターニングポイント」文章を作成すること。 復習：「ターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	予習：「ターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。 復習：「将来したい事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7 回	予習：「将来したい事」アウトラインを修正すること。 復習：「将来したい事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8 回	予習：「将来したい事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠を示
------	--

	し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	テーマ別エントリーシート)「最近の関心事」「将来したい事」「ターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。 最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができていない場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217621)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「日本を知る (1)」について説明する。
2 回	「日本を知る (2)」について説明する。
3 回	「日本を知る (3)」について説明する。
4 回	「読書のすすめ」について説明する。
5 回	「自己啓発 (1)」について説明する。
6 回	「自己啓発 (2)」について説明する。
7 回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
8 回	「敬語の使い方」について説明する。 ● 最終評価試験

回数	準備学習
1 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準時間 1 2 0 分)
3 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) ● 今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 1 8 0 分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	1 . 目的意識 2 . 基礎知識 3 . 実行力 4 . 復習する 5 . 確認の徹底 6 . 授業内容のポイント「ポイント」は、必ず

	メモを取る。 7. 文章を書く「目的・意義」の完全理解
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50％）、ワークシート（50％）
教科書	●「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / 株式会社 ライフ・サポート / ISBN978-4-9907110-110—0-9 ●授業に必要な「資料」（プリント）を、適宜、配布する。
関連科目	●プレゼンテーション基礎編
参考書	●適宜、指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	●最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容についての質問や要望などについて、やり取りできるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次の授業の最初に返却し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。 ●授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。またプリント内容は、復習資料としても活用できることも考慮している。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	●授業における「提出課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。 ●時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締め切り後の二週間後の授業の初めに返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	●合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。 ●講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。
実務経験のある教員	●高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画や重要性などを紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編B (FB217622)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。

連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・文章表現法基礎編Aを履修していることが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編B (FB217623)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。

連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・文章表現法基礎編Aを履修していることが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217624)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2 回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3 回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4 回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5 回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6 回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7 回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8 回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2 回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3 回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4 回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5 回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6 回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7 回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8 回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。

連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・文章表現法基礎編Aを履修していることが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編B (FB217625)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。

連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・文章表現法基礎編Aを履修していることが望ましい。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217626)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「文章表現法」講義概説 をする。
2 回	文章の構成、アウトライン をする。
3 回	アウトライン作成 をする。
4 回	アウトラインの推敲 をする。
5 回	アウトラインの完成 をする。
6 回	序論・本論・結論の作成 1 をする。
7 回	序論・本論・結論の作成 2 をする。
8 回	小論文構成の再確認、 中間試験をする。
9 回	序論・本論・結論の作成 4 をする。
10 回	800 字小論文の完成・提出 をする。
11 回	別テーマによる二本目論文の作成 をする。
12 回	アウトライン添削・修正 をする。
13 回	800 字小論文作成 をする。
14 回	800 字小論文添削・修正 をする。
15 回	800 字小論文の完成 をする。
16 回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする。

回数	準備学習
1 回	学内PCにログインが出来るようにID/Passを用意しておく
2 回	各自PCにログインし、課題提出ページ・操作が出来るように確認しておく
3 回	課題テーマの草案 をすること。(標準学習時間60分)
4 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
5 回	アウトラインの作成、修正 すること。(標準学習時間60分)
6 回	アウトラインの仕上げ すること。(標準学習時間60分)
7 回	800 字小論文、序論の作成 すること。(標準学習時間60分)
8 回	800 字小論文、本論の作成 学習内容の再確認すること。(標準学習時間60分)
9 回	800 字小論文、結論の作成 すること。(標準学習時間60分)
10 回	800 字小論文の仕上げ すること。(標準学習時間60分)
11 回	アウトラインの復習 すること。(標準学習時間60分)
12 回	アウトライン作成 1 すること。(標準学習時間60分)
13 回	アウトライン作成 2 すること。(標準学習時間60分)
14 回	800 字小論文作成 すること。(標準学習時間60分)
15 回	800 字小論文仕上げ をすること。(標準学習時間60分)
16 回	800 字小論文、本論の作成 学習内容の再確認をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。

	9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％）・課題提出（50％）の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	プレゼンテーション
参考書	必要に応じて教室にて指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	論文という領域での客観的、論理的文章は、他の領域で綴られる文章とは別物であるということを知識として学習するだけではなく、実際に文章作成の練習を重ねて実感、体感しつつ体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	学習した客観的な論文文章の書き方に関する知識だけにとどまらず、それらを実際に項目ごと、ステップごとに作成作業の練習を繰り返す。試行錯誤の中で客観的かつ論理的な思考パターンと文章表現力を実感しながら獲得していく。
課題に対するフィードバック	論文の文章作成練習のステップごとに、提出された課題例文を、毎回教室全体で確認チェックし、自分の練習内容だけではなく、その他多くの具体的実例を参考に自分の文章作成を常にステップアップさせることが出来るようにする。 そのため、PC教室では一つのファイルにすべての課題提出例をまとめ、モニター画面でスクロールさせながら、そのステップごとのポイントを確認チェック、添削を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）

科目名	文章表現法基礎編B (FB217627)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒～90秒以内で自己紹介をする。
2回	自己紹介の続きをする。
3回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
4回	3回目の続きをする。
5回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことをする。
6回	下書きチェックをする。
7回	清書のチェックをする。
8回	清書をする。

回数	準備学習
1回	自己紹介文を考えておくこと。
2回	自己紹介文を考えておくこと。
3回	語彙力を高めておくこと。
4回	語彙力を高めておくこと。
5回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
6回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
7回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
8回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	語彙力、原稿用紙の使い方、故事成語、ことわざ、論文の書き方、論説の書き方、自己紹介
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%) 教えてきたことがどこまで理解できているかを確認するため一人ひとりその場でチェックし、点数化する。
教科書	なし
関連科目	文章表現法基礎編Aは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成(表現)能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 文章表現基礎編Bでは、自分の言葉で他人にきちんと考えを伝えられるところから始め、ことわ

	ざや故事成語などを使って短文を作成するところから始め、最終的にはインスタやブログなどにまとめた文章をアップできるようになるまでのレベルに上げてゆく。 文章表現法Aで培ったノウハウを応用するので、BだけではなくAも併せて履修することが望ましい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あれば遠慮なくB3号館4階辻研究室まで来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、注意点を言う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217628)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のバターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のバターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のバターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	個人の体験、時事問題に関する体験を文章化する作業が中心となる。 また、慣用表現、ことわざ、時事用語などについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217629)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	個人の体験、時事問題に関する体験を文章化する作業が中心となる。 また、慣用表現、ことわざ、時事用語などについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編B (FB217630)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒～90秒以内で自己紹介をする。
2回	自己紹介の続きをする。
3回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
4回	3回目の続きをする。
5回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことをする。
6回	下書きチェックをする。
7回	清書のチェックをする。
8回	清書をする。

回数	準備学習
1回	自己紹介文を考えておくこと。
2回	自己紹介文を考えておくこと。
3回	語彙力を高めておくこと。
4回	語彙力を高めておくこと。
5回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
6回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
7回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
8回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	語彙力、原稿用紙の使い方、故事成語、ことわざ、論文の書き方、論説の書き方、自己紹介
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%) 教えてきたことがどこまで理解できているかを確認するため一人ひとりその場でチェックし、点数化する。
教科書	なし
関連科目	文章表現法基礎編Aは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成(表現)能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 文章表現基礎編Bでは、自分の言葉で他人にきちんと考えを伝えられるところから始め、ことわ

	ざや故事成語などを使って短文を作成するところから始め、最終的にはインスタやブログなどにまともな文章をアップできるようになるまでのレベルに上げてゆく。 文章表現法Aで培ったノウハウを応用するので、BだけではなくAも併せて履修することが望ましい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あれば遠慮なくB3号館4階辻研究室まで来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、注意点を言う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217631)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	個人の体験、時事問題に関する体験を文章化する作業が中心となる。 また、慣用表現、ことわざ、時事用語などについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫（出版者記号：904789）共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信機器の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編B (FB217632)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒～90秒以内で自己紹介をする。
2回	自己紹介の続きをする。
3回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
4回	3回目の続きをする。
5回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことをする。
6回	下書きチェックをする。
7回	清書のチェックをする。
8回	清書をする。

回数	準備学習
1回	自己紹介文を考えておくこと。
2回	自己紹介文を考えておくこと。
3回	語彙力を高めておくこと。
4回	語彙力を高めておくこと。
5回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
6回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
7回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
8回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	語彙力、原稿用紙の使い方、故事成語、ことわざ、論文の書き方、論説の書き方、自己紹介
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%) 教えてきたことがどこまで理解できているかを確認するため一人ひとりその場でチェックし、点数化する。
教科書	なし
関連科目	文章表現法基礎編Aは必ず履修してほしい
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階辻研究室
授業の運営方針	文章作成(表現)能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 文章表現基礎編Bでは、自分の言葉で他人にきちんと考えを伝えられるところから始め、ことわ

	ざや故事成語などを使って短文を作成するところから始め、最終的にはインスタやブログなどにまとめた文章をアップできるようになるまでのレベルに上げてゆく。 文章表現法Aで培ったノウハウを応用するので、BだけではなくAも併せて履修することが望ましい。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あれば遠慮なくB3号館4階辻研究室まで来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、注意点を言う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217633)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 基礎編（群青色版）／蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki（アットマーク）xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限（春学期、秋学期とも）
授業の運営方針	個人の体験、時事問題に関する体験を文章化する作業が中心となる。 また、慣用表現、ことわざ、時事用語などについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217634)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	佐藤美穂* (さとうみほ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	段落 段落の中心文と支持文が何か学び、段落内の構造について学習する。 接続詞と指示詞について学習し、練習をする。
2 回	段落 段落の中心文と支持文、段落のつながりを学習する。複数の段落のある文章を書く準備をする。
3 回	要約文 1段落の文章や複数の段落の文章の要約の仕方を学習する。
4 回	意見文を書く 意見文には意見と、意見に説得力を持たせるための根拠が必要であることを学習する。また意見文を書くための表現を学習する。
5 回	意見文を書く 意見文のアウトラインについて学習し、作成する。アウトラインのモデル文と意見文のモデル文から意見文の書き方を学習する。
6 回	自分をアピールする文を書く 就職するための自己アピール文の効果的な書き方を学習する。必要な表現を学習する。
7 回	自分をアピールする文を書く 自分をアピールする文を書くために必要な自己分析表を完成させる。モデル文にある表現について確認する。
8 回	最終評価試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説をする。

回数	準備学習
1 回	復習により、段落内の構造、接続詞、指示詞について確認し、小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
2 回	復習として授業で準備したことをもとに文章を書くこと。一貫性のある文章を書くためには段落のつながりを考える必要があることを確認すること。(標準学習時間60分)
3 回	復習により1段落の要約の仕方、複数の段落の要約の仕方を確認し、小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
4 回	復習により意見文には意見とその根拠が必要であることを確認すること。意見文を書くための表現について小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
5 回	復習により意見文の書き方を確認し、意見文を書くこと。(標準学習時間60分)
6 回	復習により、就職するための自己アピール文を効果的に書くために必要な事項や表現を確認すること。小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
7 回	復習により、モデル文にある表現を確認し、自己分析表見ながら自己アピール文を書くこと。(標準学習時間60分)
8 回	読みやすく適切な文章を書くために必要な事項や表現を復習すること。(標準学習時間90分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	書き方のルール、構造、読み手、文章表現
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験 50% 課題提出 30% 小テスト 20% により評価し、総計で60%以上を合格とする。 5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は授業開始後20分まで。それ以降の入室は欠席とする。早退は授業終了の20分前以降。それ以前の退出は欠席とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	「文章表現法基礎編A」を受講していることが望ましい。 プレゼンテーション ・ 、日本語関連授業
参考書	適宜指示する
連絡先	mihosato0919@yahoo.co.jp
授業の運営方針	毎回出席して積極的に授業に取り組むこと。授業開始時に確認テストとして「小テスト」を実施するが遅刻すると受験できないので注意すること。また事後テストは行わない。課題が成績に大きく関わるので、期限を守って提出すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク 文章を書くにあたって、グループでディスカッションを行い、グループごとに意見を発表する。また互いに文章を推敲しあう活動を行う。
課題に対するフィードバック	授業時間内に実施する小テストは実施日に、課題は評価後にフィードバックする。 最終評価試験は実施日に模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中に配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は、出席者の資料をコピーすること。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け取る。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部、シラバスを変更する場合がある。受講者数の上限を50名とする。

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217635)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	生田夏樹 * (いくたなつき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第 9 課題: アウトラインを作成する。
2 回	与えられたテーマB (「私の職業観」) の文章を作成する (1) 第 10 課題: 本文を作成する。
3 回	与えられたテーマC (「創造性について」) の文章を作成する (1) 第 11 課題: アウトライン1 回目を作成する。
4 回	与えられたテーマC の文章を作成する (1) 第 12 課題: アウトライン2 回目を作成する。
5 回	与えられたテーマC の文章を作成する (2) 第 13 課題: 本文を作成する。
6 回	与えられたテーマD (「情報について」) の文章を作成する (1) 第 14 課題: アウトライン1 回目を作成する。
7 回	与えられたテーマD の文章を作成する (2) 第 15 課題: アウトライン2 回目を作成する。
8 回	与えられたテーマD の文章を作成する (3) 第 16 課題: 本文を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間 120 分)
2 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
3 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみる。こと。(標準学習時間 120 分)
4 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
5 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
6 回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみる。こと。(標準学習時間 120 分)
7 回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)
8 回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間 120 分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。

	6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％） ・課題提出（50％）
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法基礎編A」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題（アウトライン作成または本文作成）に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FB217636)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 課題作成を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している

キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽 / 新・文章表現法 基礎編（群青色版） / 蜻文庫
関連科目	文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・ 毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・ 出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・ 30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・ 提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・ 授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション（作成したものの発表）。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB217930)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) グループの編成を行う。
2回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決定する。
3回	調査内容をまとめる 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する。
4回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。
5回	よいプレゼンテーションについて説明する プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。
6回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。
7回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
8回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解しておくこと(標準学修時間120分)
2回	課題を考えてくること(標準学修時間120分)
3回	決定した方法にしたがい、参考文献の収集を行いながら調べ学習をしておくこと (標準学修時間120分)
4回	スライドの構成を考えてくること(標準学修時間120分)
5回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること(標準学修時間120分)
6回	プレゼンテーションの練習を行うこと(標準学修時間120分)
7回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること(標準学修時間120分)
8回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、発表のフィードバックを行うことで改善点を検討し、学会発表や研究発表等で効果的に行えるようにプレゼンテーションスキルの修得を目指す。 (4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)
達成目標	特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる。 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる。 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。 (4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(25%) ・実際のプレゼンテーションを評価する(50%) 発表内容の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・小テスト(25%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、文章表現法基礎編A・B、学びの基礎論A・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F(松尾研究室) E-Mail: matsuo@are.ous.ac.jp

授業の運営方針	・3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていないかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・プレゼンテーション基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB217940)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概説 (確認) をする
2回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6回	PowerPoint資料の改良 をする
7回	PowerPoint資料を使ったりリハーサル・プレゼンテーション をする
8回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	PCにログインできるようID・PASSを手元に準備しておく
2回	スクリプト準備 すること
3回	スクリプト修正 すること
4回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5回	プレゼンテーション改良 すること
6回	PowerPointの作成 すること
7回	PowerPointの修正 すること
8回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	受講者は、 1. プレゼンテーションが何かを認識できる。 2. 代表的アプリケーションのPowerPointを理解、運用が出来る。 3. 実際に模擬発表の形でプレゼンテーションを体験し、質的向上を実現できる。 (パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、明確なアピールポイント) 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	課題添削・修正作業 (40%)、中間提出 (40%)、最終提出 (20%) の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	プレゼンテーションB受講者はプレゼンテーションAを履修済みか、相当の経験のあるものとする 文章表現法
参考書	必要に応じて配布、指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	「プレゼンテーション」とは何か? をより明確に認識すること。プレゼンテーションに関する知識だけではなく、実際に模擬発表を重ねていくことでより認識を深め、知識に踏まえて技能を体感、体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	講義で学習したプレゼンテーション全般に関する知識だけにとどまらず、それらをもとに、実際に発表可能な内容を構成し作り上げ、最終的な模擬発表を繰り返し行う中で、プレゼンテーションに関する知識を確かな認識とし、多くの人前での発表の経験値を多く獲得していく。
課題に対するフィードバック	授業ではプレゼンテーションに関する知識を得るだけではなく、それら知識をもとに、居室にて実際にほぼ毎回「模擬発表」を重ねていく。 模擬発表では、個々に必要な点、不可欠な点を確認チェックしていく。自分の模擬発表だけではなく、他人の模擬発表の問題点も、「たにんごと」ではなく「明日は我が身」と緊張感をもって学習できることを目指す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。

科目名	教養演習 B (FB218230)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	哲学と二十世紀について議論する。
2 回	哲学の知について議論する。
3 回	哲学と教養について議論する。
4 回	トランスサイエンスの時代について議論する。
5 回	教養としての哲学について議論する。
6 回	哲学の現場について議論する。
7 回	方法への懐疑について議論する。
8 回	学修の到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	テキストの 8 1 ~ 9 1 ページを読み、哲学と二十世紀について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
2 回	テキストの 9 1 ~ 1 0 3 ページを読み、哲学の知について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	テキストの 1 0 4 ~ 1 1 5 ページを読み、哲学と教養について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	テキストの 1 1 5 ~ 1 2 4 ページを読み、トランスサイエンスの時代について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	テキストの 1 2 4 ~ 1 3 8 ページを読み、教養としての哲学について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	テキストの 1 3 9 ~ 1 5 5 ページを読み、哲学の現場について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	テキストの 1 5 5 ~ 1 6 3 ページを読み、方法への懐疑について自らの考えをを整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自らの考えを整理できる。 2) 説得力のある発言を行なえる。 4 領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	討論、思考、表現
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	学修の到達度確認テスト (100%) (達成目標1,2を評価) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	哲学の使い方 / 鷲田 清一 / 岩波新書 / 978-4-00-431500-1
関連科目	教養演習A、比較文化論AB、文学AB
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室: B 1 号館 2 階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日 2 時限
授業の運営方針	・ テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・ やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション: テキストおよび新聞記事に基づき受講者による討論を行なう。
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	企業と人間 B (FB218507)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業や組織の不祥事についてディスカッションする。
2 回	就職活動の現状と海外の就職事情について概観する。
3 回	就活市場の仕組みを分析し、職業の事例を紹介する。
4 回	食の安全と企業利益について考察し、職業の事例を紹介する。
5 回	外国人労働者をめぐる問題について考察する。
6 回	フランチャイズシステムを分析し、その現状と問題点を検証する。
7 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：企業の不祥事についてまとめること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：就職活動について考えておくこと。復習：就職活動の現状についてまとめること。(標準学習時間45分)
3 回	予習：日本的就職活動の問題点を考えておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめておくこと。(標準学習時間45分)
4 回	予習：食をめぐる現状について考えておくこと。復習：食の安全についてまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：外国人労働者について調べておくこと。復習：外国人労働者をめぐる問題についてまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：フランチャイズシステムについて調べておくこと。復習：フランチャイズの問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べることができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」(黒版) / 蜻文庫
関連科目	企業と人間A、ボランティア論A・B、技術者の社会人基礎A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 B (FB218509)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業や組織の不祥事についてディスカッションする。
2 回	就職活動の現状と海外の就職事情について概観する。
3 回	就活市場の仕組みを分析し、職業の事例を紹介する。
4 回	食の安全と企業利益について考察し、職業の事例を紹介する。
5 回	外国人労働者をめぐる問題について考察する。
6 回	フランチャイズシステムを分析し、その現状と問題点を検証する。
7 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：企業の不祥事についてまとめること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：就職活動について考えておくこと。復習：就職活動の現状についてまとめること。(標準学習時間45分)
3 回	予習：日本的就職活動の問題点を考えておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめておくこと。(標準学習時間45分)
4 回	予習：食をめぐる現状について考えておくこと。復習：食の安全についてまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：外国人労働者について調べておくこと。復習：外国人労働者をめぐる問題についてまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：フランチャイズシステムについて調べておくこと。復習：フランチャイズの問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」(黒版) / 蜻文庫
関連科目	企業と人間A、ボランティア論A・B、技術者の社会人基礎A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。

	2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツ取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 B (FB218510)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 B (FB218511)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 B (FB218512)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 B (FB218513)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 120 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 B (FB218514)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
2 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
3 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
4 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
5 回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
6 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
8 回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) 前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。
2 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える。
------	--

	機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	キャリア形成講座 B (FB218820)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「コンセンサス力（合意力）」の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
2 回	【表現力・展開力の強化演習】 集団の中での自分の活かしたかを知る基礎であるブレインストーミングを通じて、表現力・展開力・要約力と整理力の強化を図る演習を実施する。 (桑田 朋美*)
3 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「課題解決」のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
4 回	【セルフコントロール】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
5 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学（行動経済学）」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 (飯田 哲司*)
6 回	【目標達成のための行動計画】 自己目標の達成のための具体的な行動計画作成シートの作成を、発想展開ツールを用いて個働～協働のステップで実施する。またグループ内での行動宣言により自己肯定力の醸成・共有も図る。 (飯田 哲司*)
7 回	【国際感覚を身につける】 人口問題・世界情勢をテーマに国際感覚の意識拡大と、課題発見のための視野・視点の拡大を図る。 (飯田 哲司*)
8 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「合意力」の強化と共に、「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	達成したい目標（短期目標・長期目標）とその達成のための行動イメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	海を越えた意識・感覚について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)

8 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。
講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間レポートと最終課題レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	キャリア形成講座 B (FB218830)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「コンセンサス力（合意力）」の強化を目的に、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
2 回	【表現力・展開力の強化演習】 集団の中での自分の活かしたかを知る基礎であるブレインストーミングを通じて、表現力・展開力・要約力と整理力の強化を図る演習を実施する。 (桑田 朋美*)
3 回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「課題解決」のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
4 回	【セルフコントロール】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
5 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学（行動経済学）」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 (飯田 哲司*)
6 回	【目標達成のための行動計画】 自己目標の達成のための具体的な行動計画作成シートの作成を、発想展開ツールを用いて個働～協働のステップで実施する。またグループ内での行動宣言により自己肯定力の醸成・共有も図る。 (飯田 哲司*)
7 回	【国際感覚を身につける】 人口問題・世界情勢をテーマに国際感覚の意識拡大と、課題発見のための視野・視点の拡大を図る。 (飯田 哲司*)
8 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「合意力」の強化と共に、「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	達成したい目標（短期目標・長期目標）とその達成のための行動イメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	海を越えた意識・感覚について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)

8 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。
講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間レポートと最終課題レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンドラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	地域フィールドスタディ B (FB219400)
英文科目名	Community Field Study B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス 講義の概要、進め方、評価方法等の説明をする。
2 回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 牛窓町の自然、歴史文化、産業等、多角的側面から視察する。
3 回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 課題や問題を発見し、その中からテーマ設定を行い、研究の目的を明確にする。
4 回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 課題解決を行うための方法を検討する。
5 回	地域創生をテーマとした地域研究 (瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 課題解決において、関連する情報を探し集め整理する。
6 回	課題研究 (大学) プレゼンテーション資料を作成する。
7 回	課題研究発表と振り返り (大学) 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを行う。
8 回	課題研究発表と振り返り (大学) 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを行う。

回数	準備学習
1 回	予習として、シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。また、これまで学んだことを復習しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	予習として、課題解決に向けて、工程表の点検を行っておくこと。 (標準学修時間120分)
3 回	予習として、牛窓地域の課題や問題について、整理しておくこと (標準学修時間120分)
4 回	予習として、課題解決を行うための方法を考えて整理しておくこと (標準学修時間120分)
5 回	予習として、目的を明確にし、論理的に内容をまとめておくこと。 (標準学修時間120分)
6 回	予習として、パソコンの操作 (パワーポイント等) に慣れておくこと。わからない点は、復習をしておくこと (標準学修時間120分)
7 回	予習として、決められた手順と制限時間にしがって、発表ができるようにしておくこと。 (標準学修時間120分)
8 回	予習として決められた手順と制限時間にしがって、発表ができるようにしておくこと。 (標準学修時間120分)

講義目的	瀬戸内市牛窓町地域を対象として、フィールドワークを行う。地域創生をテーマとし視察や調査を通じて、学生自らが課題や問題を発見することから始める。グループでの活動が中心になるため、チーム作りを行うためにシーカヤックを活用する。また、牛窓地域の自然を実体験する機会にもなる。チーム作りの後に、チーム毎にテーマを設定し、課題解決にあたる。このようなアクティブ・ラーニングにより、主体的に学ぶこと、課題解決能力を育成する。最後にチームで研究した内容をプレゼンテーションする。これは、自分の考えや主張を伝える機会になる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	主体的な学びへのレディネス(態勢づくり)を整えることができる(E)。地域の活性化に向けて、調査対象に即した課題設定ができる(E)。課題を解決するために、フィールドワーク、文献や統計等の二次資料を用いて分析できる(E)。独自の考察を加えたレポート作成およびプレゼンテーション発表ができる(E)。調査研究や課題解決において他者との協働ができる(E)。地域の生涯学習社会の構築に寄与できること(E)。
キーワード	地域、シーカヤック、コミュニケーション、問題解決、チームワーク
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題への取り組み(10%) 現地実習(30%) レポート(30%) 課題研究発表(30%)
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	学びの基礎論A・B、地域フィールドスタディA、文章表現法A・B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村(次)研究室: jiro@ee.ous.ac.jp
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。

	・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションや共同による自然体験型授業、グループ発表を行う。
課題に対するフィードバック	課題提出等のフィードバックは、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・本科目の受講は「学びの基礎論A・B」単位修得者に限る。・「地域フィールドスタディA」の受講をしておくことが望ましい。・本科目の実習費用については自己負担になる。詳細は初回の講義時に説明する。・実習の日程および内容は関係者等の調整により、変更する可能性がある。・提出課題については講義においてフィードバックする。・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。・この授業ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。・手中講義で、実習は岡山県瀬戸内市牛窓町で行う。

科目名	インターンシップ概論 (FB219813)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	出席率80%、提出物20%により評価する。
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/ 株式会社理想経営 / 株式会社理想経営
関連科目	インターンシップA・B・C、社会・産業実習、産業課題研究演習、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	株式会社CDLキャリアデザイン研究所 代表取締役 元東京ディズニーランド勤務 大学教育歴22年、10年間でのべ1万人を超える生徒の個別指導の実績を持つ 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 前期博士課程修了（社会福祉学修士） ・「人材教育支援事業」（管理者研修、役職者研修、新人社員、中堅社員、新人フォローアップ）等 ・「人材育成支援事業」（大学・短大・専門・高校・小中学校、父母、PTA）等
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219814)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	出席率80%、提出物20%により評価する。
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/ 株式会社理想経営 / 株式会社理想経営
関連科目	インターンシップA・B・C、社会・産業実習、産業課題研究演習、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	株式会社CDLキャリアデザイン研究所 代表取締役 元東京ディズニーランド勤務 大学教育歴22年、10年間でのべ1万人を超える生徒の個別指導の実績を持つ 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 前期博士課程修了（社会福祉学修士） ・「人材教育支援事業」（管理者研修、役職者研修、新人社員、中堅社員、新人フォローアップ）等 ・「人材育成支援事業」（大学・短大・専門・高校・小中学校、父母、PTA）等
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219815)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の提出物20%、レポート80%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	経営コンサルタントでの経験を活かして、企業の考え方、採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	インターンシップ概論 (FB219816)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間: 60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(関心・意欲・態度) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(知識・理解) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめるとともに、プレゼンテーションができること(知識・理解) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(知識・理解)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の提出物20%、レポート80%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。 ・グループワークでの結果を発表し、その発表の相互評価、自己評価を行います。
課題に対するフィードバック	・提出された課題について解説を行いながらフィードバックする。 ・グループワークを中心に随時フィードバックを行い自己理解を深めていく。

合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	経営コンサルタントでの経験を活かして、企業の考え方、採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する。
その他（注意・備考）	履修登録：「インターンシップA・B・C」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること。

科目名	文章表現法応用編 B (FB220330)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8 回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2 回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3 回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。
達成目標	4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。 エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編 A、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	・提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法応用編 B (FB220340)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の実例 : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く : エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く : エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の実例 : 契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8 回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習: 広告表現の実例を収集しておくこと。復習: 広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2 回	予習: 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習: 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3 回	予習: ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習: ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習: エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習: エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習: 自己分析を行っておくこと。復習: エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習: 契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習: 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習: 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習: 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	予習: ここまでの講義内容を確認すること。復習: 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。
達成目標	4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。 エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	演習・提出課題(40%)、最終評価試験(60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編 A、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	

課題に対するフィードバック	・提出した課題については、必ず添削をし、場合によってはコメントを付記した上で返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法応用編 B (FB220350)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。広告文を書く (1) : 指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く (2) : 広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の事例 (1) : ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く (1) : エントリーシートの事例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く (2) : エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の事例 (2) : 契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習 : シラバスを読んでおくこと。復習 : 受講上の注意を確認すること。広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
2 回	予習 : 指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習 : 広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
3 回	予習 : ビジネスレターや履歴書の事例に触れておくこと。復習 : ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4 回	予習 : エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習 : エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
5 回	予習 : 自己分析を行っておくこと。復習 : エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
6 回	予習 : 契約書や企画書の事例に触れておくこと。復習 : 契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
7 回	予習 : 実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習 : 文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	予習 : 後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習 : 最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1. 文章表現の基本を身につけている。 2. 自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3. 状況に応じた文章を書くことができる。 4. 文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	学修 (達成目標1-4) の到達度確認試験 (最終評価試験100%) により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング

ゲ	1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、社会で必要となる文章スキルをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション応用編B（FB220600）
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) B
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。プレゼンテーションの基本について解説する。
2回	パワーポイントの功罪について解説し、グループディスカッションを行う。受講シートの記入に取り組む。
3回	指示されたテーマについてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションの準備をする。
4回	プレゼンテーション演習（1）を行う。
5回	プレゼンテーション演習（1）を講評し、グループワークを行う。
6回	プレゼンテーションのツールと効果について解説し、自己分析に取り組む。
7回	指示されたテーマについて、グループディスカッションを行い、グループプレゼンテーションを準備する。最終評価試験について説明する。
8回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意とプレゼンテーションの基本を確認すること。（標準学習時間15分）
2回	予習：パワーポイントの特徴について考えておくこと。復習：パワーポイントとディスカッションの内容についてまとめること。（標準学習時間45分）
3回	予習：指示されたテーマについて考えをまとめておくこと。復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。（標準学習時間60分）
4回	予習：指示されたテーマでプレゼンテーションを準備してくること。復習：プレゼンテーション演習の自己点検をすること。（標準学習時間120分）
5回	予習：プレゼンテーション演習の反省点をまとめてくこと。復習：グループワークの内容を整理すること。（標準学習時間60分）
6回	予習：プレゼンテーションのツールについて確認しておくこと。復習：自己分析の結果をまとめること。（標準学習時間45分）
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：ディスカッションの内容をまとめること。（標準学習時間60分）
8回	予習：グループプレゼンテーションを準備しておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	プレゼンテーションの発想と応用範囲を確認し、就職活動や研究発表、社会生活に必要な社会人基礎力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する） 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1. プレゼンテーションの技法を実践できる。 2. プレゼンテーションに必要な発想と応用を理解できている。 3. 自らプレゼンテーションのテーマを見つけることができる。 4. 他と協力してミーティングやプレゼンテーションを企画運営できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学、研究発表、社会人基礎力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験（最終評価試験100％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション応用編A、プレゼンテーション基礎編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。

アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 受講生同士で各自の演習について感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内の講評やディスカッションを通じて行う。 2. 最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB221140)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	世良利和 * (せらとしかず *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。技術者をめぐる諸問題を提示する。
2 回	日本の技術について考え、技術者の役割についてディスカッションする。
3 回	文章スキルの向上について解説する。実務文書に取り組む。
4 回	情報や資料を分析し、自ら問題や独自の視点を見つける。
5 回	プレゼンのスキル向上について解説する。ディスカッションによって自分の考えを検証する。
6 回	プレゼン演習を行い、相互評価に取り組む。
7 回	企業や社会におけるマナーについて解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：技術者をめぐる問題についてまとめておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	予習：日本の伝統技術について調べておくこと。復習：技術者の役割についてまとめること。(標準学習時間30分)
3 回	予習：テキスト「文章スキル」第3章を読んでおくこと。復習：実務文書の課題に取り組むこと。(標準学習時間60分)
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：分析結果をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	予習：テキスト「プレゼン編」第2・第3章を読んでおくこと。復習：ディスカッションの結果をまとめること。(標準学習時間60分)
6 回	予習：プレゼンの準備をしておくこと。復習：プレゼンのレポートをまとめること。(標準学習時間90分)
7 回	予習：敬語や挨拶文について調べておくこと。復習：一般社会のマナーについてまとめること。(標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義をまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	技術者に求められる役割を理解するとともに、社会人基礎力の中核である「読む・聴く・書く・話す」というコミュニケーション能力の重要性について学ぶ。また就職活動や大学院進学に必要な一般社会でのマナーや常識、言葉遣いを身につける。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与する。
達成目標	1. 社会で必要となるマナーの基本が身についている。 2. 現代社会における技術者の役割について説明できる。 3. 自分で問題を見つけ、それを文章でわかりやすく表現できる。 4. 自分で問題を分析し、それを大勢の相手に話して伝えることができる。 5. 他人と協調してコミュニケーションをとることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与する。
キーワード	文章表現、日本語、社会人、技術者、プレゼンテーション、マナー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-5)の到達度確認試験(最終評価試験100%)により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」(緑版) / 蜻文庫
関連科目	技術者の社会人基礎A、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B、企業と人間A・B、ボランティア論A・B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング

ゲ	1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、社会人としての基礎を具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を70名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB221150)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2 回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6 回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8 回	総括

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、メール、経営者、マネジメント、リーダーシップ
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 * 「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB221160)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2 回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6 回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7 回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8 回	総括

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、メール、経営者、マネジメント、リーダーシップ
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 * 「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

科目名	技術者の社会人基礎 B (FB221170)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2 回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5 回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6 回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やより良い人間関係の在り方を学ぶ。
7 回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8 回	総括

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5 回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7 回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8 回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル(非言語)のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、メール、経営者、マネジメント、リーダーシップ
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	非公開を希望する

授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みむことで、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 但し、止むを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる対応を取る場合がある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 *「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

科目名	経営工学 B (FB221310)
英文科目名	Industrial Engineering B
担当教員名	西敏明 * (にしとしあき *)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について説明する。
2 回	品質管理について説明する。品質を中心とする経営の必要性について説明する。
3 回	品質経営について説明する。
4 回	生産性管理と作業管理について説明する。
5 回	インダストリアル・エンジニアリング (IE) について説明する。
6 回	バリューエンジニアリング (VE) と工学における技術開発について説明する。
7 回	設備管理と数理モデルの考え方について説明する。
8 回	1 - 7 回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	前回の講義の復習と、テキストの多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
2 回	前回の講義の復習と、テキストの品質管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	前回の講義の復習と、テキストの品質マネジメントについて予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	前回の講義の復習と、テキストの生産性管理と作業管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	前回の講義の復習と、テキストのインダストリアル・エンジニアリング (IE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	前回の講義の復習と、テキストのバリューエンジニアリング (VE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	前回の講義の復習と、テキストの生産管理について予習すること。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	予習として、1 - 7 回までの内容をよく理解し整理しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習して理解しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化（例として、生産管理）の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 上記の事項は、特に4領域の中で「知識・理解」に関係している。
達成目標	・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる（A） ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける（B） ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る（D） *（ ）は教育推進機構 教養教育センターの単位認定の方針（ディプロマポリシーに相当）の対応する項目（教育推進機構 教養教育センターのホームページ参照）
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100点で評価する。 但し、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよくわかる本[第2版] / 菅間正二 / 秀和システム / 4798037303
関連科目	工学系基礎科目
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
授業の運営方針	授業の進め方は、最近の新聞記事から経営工学に関する話題を述べる。次いで、各回の授業内容を義して、最後にまとめをおこなう。 各回の授業終了後、質問がある場合は受け付けるので、積極的に質問をしてください。なお、質問内容で、重複する質問や特徴のある質問については、次回の講義の際に、復習を含めて述べる。このことにより、さらに授業の内容の理解の深化をしていきたい。なお、講義前、講義後に質問も受け付ける。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験を実施後、後半の講義で、模範解答と解説を実施する。 提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきま で、配慮が必要な場合は、必ず事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は、原則認めません(不許可)。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。

科目名	経営工学 B (FB221320)
英文科目名	Industrial Engineering B
担当教員名	西敏明 * (にしとしあき *)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について説明する。
2 回	品質管理について説明する。品質を中心とする経営の必要性について説明する。
3 回	品質経営について説明する。
4 回	生産性管理と作業管理について説明する。
5 回	インダストリアル・エンジニアリング (IE) について説明する。
6 回	バリューエンジニアリング (VE) と工学における技術開発について説明する。
7 回	設備管理と数理モデルの考え方について説明する。
8 回	1 - 7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	前回の講義の復習と、テキストの多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
2 回	前回の講義の復習と、テキストの品質管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	前回の講義の復習と、テキストの品質マネジメントについて予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	前回の講義の復習と、テキストの生産性管理と作業管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	前回の講義の復習と、テキストのインダストリアル・エンジニアリング (IE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	前回の講義の復習と、テキストのバリューエンジニアリング (VE) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	前回の講義の復習と、テキストの生産管理について予習すること。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	予習として、1 - 7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習して理解しておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化（例として、生産管理）の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 上記の事項は、特に4領域の中で「知識・理解」に関係している。
達成目標	・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる（A） ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける（B） ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る（D） *（ ）は教育推進機構 教養教育センターの単位認定の方針（ディプロマポリシーに相当）の対応する項目（教育推進機構 教養教育センターのホームページ参照）
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100点で評価する。 但し、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよくわかる本[第2版] / 菅間正二 / 秀和システム / 4798037303
関連科目	工学系基礎科目
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
授業の運営方針	授業の進め方は、最近の新聞記事から経営工学に関する話題を述べる。次いで、各回の授業内容を義して、最後にまとめをおこなう。 各回の授業終了後、質問がある場合は受け付けるので、積極的に質問をしてください。なお、質問内容で、重複する質問や特徴のある質問については、次回の講義の際に、復習を含めて述べる。このことにより、さらに授業の内容の理解の深化をしていきたい。なお、講義前、講義後に質問も受け付ける。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験を実施後、後半の講義で、模範解答と解説を実施する。 提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していきま で、配慮が必要な場合は、必ず事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は、原則認めません(不許可)。当別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。

科目名	技術マネジメントB (FB221510)
英文科目名	Management of Technology B
担当教員名	中村修 (なかむらおさむ)
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	製品開発のプロセスについて、戦略的なものづくり、製品開発のカギ、製品の3要素、製品のライフサイクル、先行者利益などについて説明する。(第8章：プロダクト)
2回	品質管理、TQC、TQM、ISO9000について説明する。統計的品質管理を説明する。過剰品質が衰退を招いた例として、日本のDRAM産業を取り上げ、適切な品質とはなにか説明する。(第9章：クオリティマネジメント)
3回	企業におけるリスク、それに対するマネージメント、リスクコントロール、リスクマネージメントの責任者について説明する。プロジェクトマネージメント、プロジェクトチームの編成について説明する。(第11章：リスクマネジメント第12章プロジェクトマネジメント)
4回	イノベーションについて3回連続で講義する。その1回目として、バリューネットワークとはなにかについて説明した後でクリステンセン氏の破壊型イノベーションについて説明する。又、破壊型イノベーションがいかに優良企業を失敗に導くかを説明する。最後に山口栄一氏のパラダイム破壊型イノベーションについて説明する。レポート課題を提示する。(プリント配付)
5回	イノベーションについて3回連続で講義する。その2回目として、「パラダイム破壊型イノベーション」の立場から青色発光ダイオードを説明する。日本におけるイノベーションシステムの変遷について説明する。社員の知的創造へのモチベーションと企業価値との相関について説明する。(プリント配付)
6回	イノベーションについて3回連続で講義する。その3回目として、イノベーション政策として、米国SBIR制度を説明する。日本のSBIR制度とその効果について説明する。日本の半導体産業の盛衰の原因を説明する。(プリント配付)
7回	近年、企業の環境問題への取り組みに社会の目が注がれている。ここでは地球温暖化問題、大気汚染問題、土壌汚染問題、水汚染問題を説明する。又、多くの企業が取り組んでいるISO14001について、環境保全にも重きを置いた持続可能な企業の発展の観点から説明する。(第16章：環境マネジメント)
8回	簡単な総括とレポート課題の説明をする。最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的、講義内容、達成目標を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	戦略的なものづくり、製品開発のカギ、製品の3要素、製品のライフサイクル、先行者利益などについて復習すること。(標準学習時間120分)
3回	品質管理、TQC、TQM、ISO9000について復習すること。品質と日本のDRAM産業の衰退について復習すること。(標準学習時間120分)
4回	企業におけるリスクマネージメント、リスクコントロールについて復習すること。プロジェクトマネージメント、プロジェクトチームの編成について復習すること。(標準学習時間120分)
5回	破壊型イノベーションが企業に与える影響や山口栄一氏のパラダイム破壊型イノベーションについて復習すること。(標準学習時間120分)
6回	「パラダイム破壊型イノベーション」の例として青色発光ダイオードの復習をすること。日本におけるイノベーションシステムの変遷について、社員の知的創造へのモチベーションと企業価値との相関について復習すること。(標準学習時間120分)
7回	イノベーション政策として、米国SBIR制度の復習。日本のSBIR制度とその効果について復習すること。(標準学習時間120分)
8回	1～7回までに説明した技術マネジメントAの基礎について復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	企業活動とは、単純に言えば、企業が生産などの活動によって新たに加えられた価値(=付加価値)を生み出す行為(製造業の場合、仕入れた原材料に付加価値を加える行為)のことである。技術マネジメントBでは製品開発、品質管理を取り上げる。その上で、企業が付加価値を永続的に作り出すために、リスク管理や社会的なパラダイムの変化に対応する必要があること、又、各種イノベーションの考え方や環境マネージメントの重要性を理解することを目的とする。(全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、B,Cに強く関与する。)
達成目標	1)戦略的なものづくり、製品開発のカギである、製品の3要素、製品のライフサイクルや先行者利益を理解する(A)。 2)品質管理を理解した上で、過剰品質の問題点を理解する(A)。 3)破壊型イノベーションやパラダイム破壊型イノベーションが社会や企業にもたらす影響を理解する(A)。

	る(B)。 4)社員のモチベーションと企業価値の関係を理解する(C)。 5)環境問題及び企業の環境への取り組みを理解する(A)。
キーワード	先行者利益、品質管理、過剰品質、破壊型イノベーション、パラダイム破壊型イノベーション、環境問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート（達成目標3）を評価 10%）、最終評価試験（達成目標1）から5）を評価 90%）の総合評価により、総計60%以上を合格とする。
教科書	技術経営論入門（わかりやすいIMOTの考え方）／阿部隆夫／森北出版／978-4-627-87121-2C3050
関連科目	技術マネジメントA
参考書	イノベーション 破壊と共鳴／山口栄一著／NTT出版／4-7571-2174-1 イノベーション政策の科学／山口栄一著／東京大学出版会／978-4-13-046155-3-C3034
連絡先	メール o-nakamura@pub.ous.ac.jp A1号館 1階 研究・社会連携センター オフィスアワー 月1時限 C7号館2F 研究室 オフィスアワー 水3時限
授業の運営方針	講義資料は必要に応じて講義開始時に配付する場合がある。後日配付にも応じるので、できるだけ早く申し出ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	第4回のレポート課題に対しては、8回目の講義で解説等のフィードバックを行う。 最終評価試験終了後、フィードバックとして、採点結果を最終試験終了後1週間以内に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ○講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。○講義中の録音／録画／は事前に相談すること。他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元カシオ計算機、凸版印刷の研究開発部門勤務の経験を活かし、製造業勤務者が専門以外のことで、知っておくべきこと、入社後の社員教育で十分な知識が得られないことを講義する。それ以外にも、社員のモチベーションがいかに重要かも講義する。、
その他（注意・備考）	

科目名	身近な物理学 (FB221720)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives II
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	静電気について説明する。正負の電気があり電子の電荷が負とされるに至った過程を述べ、摩擦帯電の演示実験を通して静電気の性質を学ぶ。
2回	クーロンの法則について説明する。静電気力の法則を用いて様々な電気現象が説明できることを示し、箔検電器などを用いてクーロン力の演示実験を行なう。
3回	電場と電位について説明する。電場と電位の関係について述べ、箔検電器を用いた演示実験によりコンデンサーの概念と特性を学ぶ。
4回	電池と電流について説明する。電池とオームの法則について述べ、電池と電気分解の演示実験により電池の動作メカニズムと電流の概念を学ぶ。
5回	磁場について説明する。電流と磁場の関係について述べ、アンペールの法則とファラデーの電磁誘導に関する演示実験を行ない、磁場の概念を学ぶ。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、電磁波について説明する。マクスウェルの理論について述べ、ヘルツの演示実験を行う。
7回	光の特性と正体について説明する。光の反射・屈折・干渉・回折に関する演示実験により全反射・虹・シャボン玉の色・夕陽と空の色などのメカニズムを学ぶ。
8回	これまでのまとめと到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.63～68を読んでノートにまとめ、静電気の性質とその研究の歴史について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.69～70を読んでノートにまとめ、クーロンの法則と静電誘導について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.71～77を読んでノートにまとめ、重力場と比較して電場と電位と電気容量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.78～83を読んでノートにまとめ、電池と電流とオームの法則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.84～88を読んでノートにまとめ、電流と磁場の相互作用に関する法則を予習すること。(標準学習時間60分)
6回	1～5回までの復習をすること。教科書p.89～92を読んでノートにまとめ、アンペール-マクスウェルの法則と電磁波について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.93～105を読んでノートにまとめ、光の性質と正体について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.63～105までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	この授業は、我々の身の回りで生じる身近な物理現象を対象としてその現象を明解に説明するための物理的な考え方を培うことを目的としている。従って、最初に演示実験を行い、その結果から物理法則を導き、その法則を用いて身近な現象が生じる理由を説明する順序で授業を行う。また科学史を参照して、正しい知識を得るために先人達が試行錯誤した足跡をたどり、未知の現象に対応できる柔軟な思考力を培う。では、電気と光に関する授業を展開し、電気・磁気・光に関する法則を導出し、その応用を学ぶ。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物理法則の確立の経緯、物理量の定義、身近な物理現象の原因、実験による物理法則の確認方法)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	静電気、電場、電位、磁場、電磁波、光 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、マクスウェルの方程式、スネルの法則
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(到達目標1～3を確認)を50点満点としてその評価点をx点とし、到達度確認テスト(到達目標1～3を確認)を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、A1号館1階の丸善キャンパスショップで販売する。

関連科目	
参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088-3 / みすず書房
連絡先	masuonakagawa12345@gmail.com
授業の運営方針	・高校における物理学の知識の多少は問わないが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学ぶので、必ず毎回出席してノートに記録すること。出席は、初回に配布する出席カードとバーコードリーダーを用いて毎回講義開始前に確認する。 ・物理学は特に論理的思考を重視する学問であるから、テストにおいても自筆ノートは持ち込み可とする。しかし、テストにおける不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	テストについては、テスト後あるいは次回の講義日に模範解答・解説・評価などのフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料等を提供することがある。 ・講義や演示実験は、大スクリーンに投影したPPT画像やカメラ画像を中心として行い、板書は最小限に留める。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元新コスモス電機(株)コスモス研究所勤務： 企業の研究所におけるセンサー開発の経験を生かして、思考力や創造力を高めるために必要な実践的勉強方法を講義を通して示す。
その他（注意・備考）	・以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある： 基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。 ・「物理学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学 Ⅰ」の履修を避けること。

科目名	身近な物理学 (FB221730)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives II
担当教員名	中川益生* (なかがわますお*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	静電気について説明する。正負の電気があり電子の電荷が負とされるに至った過程を述べ、摩擦帯電の演示実験を通して静電気の性質を学ぶ。
2回	クーロンの法則について説明する。静電気力の法則を用いて様々な電気現象が説明できることを示し、箔検電器などを用いてクーロン力の演示実験を行なう。
3回	電場と電位について説明する。電場と電位の関係について述べ、箔検電器を用いた演示実験によりコンデンサーの概念と特性を学ぶ。
4回	電池と電流について説明する。電池とオームの法則について述べ、電池と電気分解の演示実験により電池の動作メカニズムと電流の概念を学ぶ。
5回	磁場について説明する。電流と磁場の関係について述べ、アンペールの法則とファラデーの電磁誘導に関する演示実験を行ない、磁場の概念を学ぶ。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、電磁波について説明する。マクスウェルの理論について述べ、ヘルツの演示実験を行う。
7回	光の特性と正体について説明する。光の反射・屈折・干渉・回折に関する演示実験により全反射・虹・シャボン玉の色・夕陽と空の色などのメカニズムを学ぶ。
8回	これまでのまとめと到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.63～68を読んでノートにまとめ、静電気の性質とその研究の歴史について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書p.69～70を読んでノートにまとめ、クーロンの法則と静電誘導について予習すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書p.71～77を読んでノートにまとめ、重力場と比較して電場と電位と電気容量について予習すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書p.78～83を読んでノートにまとめ、電池と電流とオームの法則について予習すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書p.84～88を読んでノートにまとめ、電流と磁場の相互作用に関する法則を予習すること。(標準学習時間60分)
6回	1～5回までの復習をすること。教科書p.89～92を読んでノートにまとめ、アンペール-マクスウェルの法則と電磁波について予習すること。(標準学習時間120分)
7回	教科書p.93～105を読んでノートにまとめ、光の性質と正体について予習すること。(標準学習時間60分)
8回	教科書p.63～105までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	この授業は、我々の身の回りで生じる身近な物理現象を対象としてその現象を明解に説明するための物理的な考え方を培うことを目的としている。従って、最初に演示実験を行い、その結果から物理法則を導き、その法則を用いて身近な現象が生じる理由を説明する順序で授業を行う。また科学史を参照して、正しい知識を得るために先人達が試行錯誤した足跡をたどり、未知の現象に対応できる柔軟な思考力を培う。では、電気と光に関する授業を展開し、電気・磁気・光に関する法則を導出し、その応用を学ぶ。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物理法則の確立の経緯、物理量の定義、身近な物理現象の原因、実験による物理法則の確認方法)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	静電気、電場、電位、磁場、電磁波、光 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、マクスウェルの方程式、スネルの法則
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に行う小テスト(到達目標1～3を確認)を50点満点としてその評価点をx点とし、到達度確認テスト(到達目標1～3を確認)を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門 / 中川益生 / 内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、A1号館1階の丸善キャンパスショップで販売する。

関連科目	
参考書	古典物理学を創った人々 / エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳 / 4-622-04088-3 / みすず書房
連絡先	masuonakagawa12345@gmail.com
授業の運営方針	・高校における物理学の知識の多少は問わないが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学ぶので、必ず毎回出席してノートに記録すること。出席は、初回に配布する出席カードとバーコードリーダーを用いて毎回講義開始前に確認する。 ・物理学は特に論理的思考を重視する学問であるから、テストにおいても自筆ノートは持ち込み可とする。しかし、テストにおける不正行為に対しては厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	テストについては、テスト後あるいは次回の講義日に模範解答・解説・評価などのフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・事前相談により特別配慮が必要と認められた場合に限り、事前に参考資料等を提供することがある。 ・講義や演示実験は、大スクリーンに投影したPPT画像やカメラ画像を中心として行い、板書は最小限に留める。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元新コスモス電機(株)コスモス研究所勤務： 企業の研究所におけるセンサー開発の経験を生かして、思考力や創造力を高めるために必要な実践的勉強方法を講義を通して示す。
その他（注意・備考）	・以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある： 基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。 ・「物理学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論 Ⅰ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学 Ⅰ」の履修を避けること。

科目名	身近な化学 (FB221920)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives II
担当教員名	森義裕* (もりよしひろ*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質の状態は何によって決まるか、説明する。
2回	身近な気体と溶液のおもしろい性質について説明する。
3回	化学反応によって新たな物質が生まれることを説明する。
4回	身の回りの酸と塩基について説明する。
5回	酸化と還元のおもしろい性質について説明する。
6回	物質が光を吸収したり放出したりする原理を説明する。
7回	化学者は物質をどうやってつくるのか、説明する。
8回	1回～7回までの総括を説明する。到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1回	物質の状態は何によって決まるのかについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身近な現象から気体と溶液の性質を学ぶ」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
2回	身近な現象から学ぶ気体と溶液の性質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「化学反応によって新たな物質が生まれる」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
3回	化学反応によって新たな物質が生まれることについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「身の回りの酸と塩基を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
4回	身の回りの酸と塩基について復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「酸化と還元のおもしろい性質を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
5回	酸化と還元のおもしろい性質について復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「光は物質をどう変えるか」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
6回	光は物質をどう変えるかについて復習を行うこと。第7回目授業までに身近な物質はどのように作られているのか、調べておくこと (標準学習時間90分)
7回	身近な物質はどのように作られているのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと (標準学習時間120分)
8回	ここまで授業内容についての復習を行うこと (標準学習時間120分)

講義目的	身近な物質で、焦げる物質と焦げない物質がある。水に浮く物質と沈む物質がある。温めて融けやすい物質と融けにくい物質がある。水に溶ける物質と溶けない物質がある。物質は他の物質と反応して別の物質になる。物質を構成する原子・分子はイオンになる。物質を特徴づける性質を知り、化学反応を学び、原子・分子・イオンが動いて変化する様子を想像・実感できるようにする。熱、光、電気などが関わる化学の世界を理解できるようにする。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(物質の三態、化学反応式、酸・塩基、酸化還元など)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	気体、液体、固体、エネルギー、溶液、化学反応、酸、塩基、酸化、還元、電池、電気分解、電磁波
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート40%(達成目標1～3を確認)、到達度確認テスト60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のおもしろいこと / 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編 / 化学同人 / 978-4759810912
関連科目	「身近な化学I」を受講していることが望ましい。
参考書	指定しない
連絡先	e-mail: ymori.ous@gmail.com
授業の運営方針	・事前に教科書を読み、分からない言葉については調べておくこと。 ・講義は、教科書に基づいたテーマに沿ってプロジェクターと板書を用いた形式で行う。 ・講義の最後に、適時レポート作成を行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・講義の最後に、適時レポート作成を行う。 ・レポートについては、翌講義時に解説をし、フィードバックを行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音／録画は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影（静止画）は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が教室定員を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論　・　」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論　・　」の履修生および履修予定学生は「身近な化学　・　」の履修を避けること。

科目名	身近な化学 (FB221930)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives II
担当教員名	野崎浩* (のざきひろし*), 小林祥一 (こばやししよういち), 大谷槻男* (おおたにつきお*), 平岡裕* (ひらおかゆたか*), 丸山糸美 (まるやまいとみ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義のガイダンスを行う。匂いの本体は化学物質(分子)で、我々の受容体(嗅覚細胞)を刺激することで感知される。いろいろな匂いの分子について講義を行う。 (野崎 浩*)
2回	蟻はなぜ一列になって歩くのか? 生物個体間に見られる相互作用を化学の目(分子、原子)で考察して行く。 (野崎 浩*)
3回	電気、熱、音、光などが伝わる現象は、化学反応と同様に、エネルギーの変化・変換として整理できる。ここではそれらの現象の仕組みについて説明する。 (平岡 裕*)
4回	さまざまな金属材料および非金属材料における腐食・劣化挙動について説明する。また、金属材料に見られるさまざまな色合いについて紹介する。 (平岡 裕*)
5回	エネルギーなしで永久に動き続ける永久機関は存在しない。その理由を解説する。 (大谷 槻男*)
6回	植物の光合成により空気中の二酸化炭素が減り、酸素が増えた。それにより生命がいかに守られてきたかを説明する。 (大谷 槻男*)
7回	アルカロイドを利用した薬剤に関する英文を読み、その効果や副作用について学ぶ。 (丸山 糸美)
8回	ヒト体内には微量の鉄イオンが存在する。この鉄イオンの生体内での働きについて解説する。ヒトはなぜ鉄イオンなしでは生きては行けないのか、鉄イオンの重要性について理解する。 (小林 祥一)

回数	準備学習
1回	鼻から感じる匂い、口に入れて感じる匂いを身近にあるもので確かめておくこと。(準備学習時間50分)
2回	毎日の生活の中で植物、動物、昆虫の生態を観察しておくこと。観察結果をまとめておくこと。(標準学習時間50分)
3回	エネルギーにはどのような物があるか調べ、整理しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	鉄鋼材料、アルミニウム、銅といった代表的な金属材料について、腐食・劣化現象を整理しておくこと。(標準学習時間90分)
5回	エネルギーとは何かを予習しておくこと。(標準学習時間50分)
6回	光合成について予習しておくこと。(標準学習時間50分)
7回	アルカロイドについて、ネットなどで事前に情報を得ておくこと。(標準学習時間50分)
8回	予習: 鉄イオンは、ヒト体内でどこにどのような状態で存在しているのか調べておくこと。 復習: ヒト体内での鉄イオンの存在状態とその働きについてまとめておくこと。(標準学習時間50分)

講義目的	身近な物質で、焦げる物質と焦げない物質がある。水に浮く物質と沈む物質がある。温めて融けやすい物質と融けにくい物質がある。水に溶ける物質と溶けない物質がある。物質は他の物質と反応して別の物質になる。物質を構成する原子・分子はイオンになる。物質を特徴づける性質を知り、化学反応を学び、原子・分子・イオンが動いて変化する様子を想像・実感できるようにする。熱、光、電気などが関わる化学の世界を理解できるようにする。
------	---

	(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(原子、分子、化学反応)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	原子、分子、イオン、化学反応
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート70%(達成目標1~3を確認)、およびテスト30%(達成目標1・3を確認)によって評価する。 。総計で60%以上の得点で合格とする。 講義の段落ごとにレポートまたは小テストを行う。
教科書	教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配布する。
関連科目	身近な化学
参考書	
連絡先	野崎 浩 E-mail :nozaki@dbc.ous.ac.jp
授業の運営方針	・ 第7回の講義には、英語の辞書を持参すること。 ・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, バイオ・応用化学科 ・ 「化学基礎論」の一部の内容が重複する可能性があるため、これらの科目の履修生および履修予定者はこの科目の履修を避けること。 ・ 講義中の録音/録画/撮影の許可は各講義の担当教員に願い出ること。 ・ 講義資料の配布は講義ごとに必要に応じて行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	レポートおよび小テストのフィードバックは提出日の翌週に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	身近な生物学（FB222120）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives II
担当教員名	森本政秀*（もりもとせいしゅう*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生物と環境はどのように作用しているか、解説する。
2回	生物の個体群はどのように変化するのか、解説する。
3回	生態系の中での物質循環、エネルギーの流れについて解説する。
4回	環境問題について解説する。
5回	動物の行動について解説する。
6回	生物はどのように誕生し、進化したかについて解説する。
7回	生物の進化のしくみ、証拠について解説する。
8回	生き物を系統によつての分類について解説する。

回数	準備学習
1回	生物と環境について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	生物の個体群について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
3回	物質の循環について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
4回	環境について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
5回	動物の行動について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
6回	生物の進化について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
7回	生物の進化のしくみについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
8回	生き物の分類について予習を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、生物群集とそれを取り巻く自然環境、すなわち「生態系」における生物間の相互関係や、生物と環境との間の相互作用について理解し、私たちの生活が他の生物や環境に与える影響や、他の生物や環境の変化が私たちに与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず同種および異種の生物個体間の相互関係について解説し、さらに生物と環境との間の相互作用、およびそれらの結果として起こる生物進化について解説する。（教養教育科目の単位認定方針A知識・理解にもっとも強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（分類、進化、生態系）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	分類、進化、生態系
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出課題50%（達成目標1～3を確認）、および小テスト50%（達成目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 / 羊土社
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定しない
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
授業の運営方針	講義の修了後に課題を提出する。3回以上未提出の場合、単位は不認定となる。小テストは講義が終わる前に行う。課題に2回目以降、講義の始まる前に返却をする。8回の課題は次の講義がないため、学習支援センターまで取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	2回目以降、講義の始まりに、小テストの解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止す

	る。 ・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 ・ 「生物学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論 Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学 Ⅰ」の履修を避けること。 ・ 「身近な生物学 Ⅰ」と「身近な生物学 Ⅱ」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な生物学 (FB222130)
英文科目名	Biology closely related to our daily lives II
担当教員名	猪口雅彦 (いのぐちまさひこ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【生き物の世界の多様性と秩序～系統と分類】地球には多様な生物が生きている。互いに似ているものもあれば、非常に異なっているように見えるものもある。生物の種とは何か、系統と分類について解説する。
2 回	【宇宙の誕生から生命の誕生へ～生命の起源と初期進化】地球における生命の誕生は、宇宙の進化の結果である。そして、地球上での生物の進化は地球環境の変化の結果である。生命の起源と初期進化の過程について解説する。
3 回	【地球環境の変化と生物の変化～生物進化】生物種は長い時間のうちに変化することを免れない。そのような生物種の変化を進化とよぶ。生物進化の原理について解説する。
4 回	【生物と生物、生物と環境の関係～生態系】私たちは周りの生物はお互いに関係をもっている。私たちは生活する環境に影響を受けると同時に、私たちの生活も環境に影響を与える。生態系について全般的に解説する。
5 回	【多様な環境が生む多様な生態系～バイオーム】生態系は地域の環境によって異なった様相を示す。さまざまな環境に見られる生物群集について解説する。
6 回	【多様な生き物とうまく付き合うために～生物間相互作用】私たちはさまざまな生物を食べて生きている。また、食物や生活場所をめぐる他の生物と争う。生態系における生物間の相互作用について解説する。
7 回	【この世は「弱肉強食」？いいえ、「全肉全食」です～生態系の物質循環とエネルギーの流れ】地球の生態系の物質は完全にリサイクルされている。物質の変化にはエネルギーの変化が伴う。生態系における物質の循環とエネルギーの流れについて解説する。
8 回	【私たちが生き続けることのできる環境を維持するために～地球環境の保全】これまでの学習を通して振り返り、地球環境の保全の意義と、そのために私たちが何をなすべきかについてグループディスカッションを行う。

回数	準備学習
1 回	[予習課題] なし [事後課題] 講義中に指定した生物の種類の中から「1種」選び、その種の和名と学名および特徴を調べること。 (標準学習時間 : 30分)
2 回	[予習課題] 宇宙の誕生、地球の誕生、地球上の生命の誕生がそれぞれ何億年前に起こったと考えられているか調べること。 [事後課題] 生命の起源の仮説をひとつ調べること。 (標準学習時間 : 計40分)
3 回	[予習課題] 地球が誕生してから現在までの大気中の酸素濃度の変化を調べること。 [事後課題] 真核細胞の進化における細胞内共生説の根拠を調べること。 (標準学習時間 : 計40分)
4 回	[予習課題] 地球環境の変化が生物に大きな影響を与えた例と、私たち人類の生活が自然環境に大きな影響を与えた (与えている) 例をそれぞれひとつずつ調べること。 [事後課題] 講義中に指定した地質年代に起こった生物進化上のイベント (例えば、新生代であれば「現生人類の誕生」のような出来事) をひとつ調べること。 (標準学習時間 : 計40分)
5 回	[予習課題] 自分の出身都道府県の地域の原生林の主な樹種を調べること。 [事後課題] 改めて、自分の出身地のバイオームと、その代表的な樹種について調べること。 (標準学習時間 : 計40分)
6 回	[予習課題] 野生動物とヒトの生活との間で問題になっている事例をひとつ調べること。 [事後課題] 講義中に指定した関係にある 2 種類の生物の具体例を調べること。 (標準学習時間 : 計40分)
7 回	[予習課題] 自分が日頃からたくさん食べている生き物の種類を調べること。 [事後課題] 地球全体の生態系における窒素の循環において人類の営みが果たす役割を調べること。 (標準学習時間 : 計40分)
8 回	[予習課題] 自分が気にかかる「環境問題」について具体例をひとつ挙げて、その原因を調べ、解決策について考えること。 [事後課題] 第8回講義でグループで討議した内容について簡潔にまとめること。

(標準学習時間：計40分)	
講義目的	本講義では、生物群集とそれを取り巻く自然環境、すなわち「生態系」における生物間の相互関係や、生物と環境との間の相互作用について理解し、私たちの生活が他の生物や環境に与える影響や、他の生物や環境の変化が私たちに与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず同種および異種の生物個体間の相互関係について解説し、さらに生物と環境との間の相互作用、およびそれらの結果として起こる生物進化について解説する。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(分類、進化、生態系)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	分類、進化、生態系
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出課題50%(達成目標1~3を確認)、および小テスト50%(達成目標1・3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定しない。
連絡先	A1号館7階730号室, ino@dbc.ous.ac.jp オフィスアワー mylog参照
授業の運営方針	・課題の提出や小テストを含め全面的にMOMO CAMPUSを利用する。 ・毎回講義後に課す課題(調査課題)の提出回数と小テストの受験回数のいずれか一方でも6回未満の場合は履修を放棄したものとする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、アクティブラーニング(クリッカー) ・講義中にWeb上のサービスを利用したアクティブラーニング(即時アンケートなど)を行うので、スマートフォン、タブレット端末、ラップトップPCなどのインターネットに接続されたモバイル端末を用意することが望ましい(無くても単位認定には関わらない)。 ・一部、アクティブラーニングとして受講者によるワークショップやグループディスカッションを含む回がある。
課題に対するフィードバック	提出された課題についてのフィードバックと小テストの正答開示もMOMO CAMPUSの機能を用いて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・障がいに応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)や転用は禁止する。 ・正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生命医療工学科, 生物地球学科 ・「生物学基礎論」の一部の内容が重複する可能性があるため、「生物学基礎論」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学」の履修を避けること。 ・「身近な生物学」と「身近な生物学」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な生物学（FB222140）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives II
担当教員名	森本政秀*（もりもとせいしゅう*）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生物と環境はどのように作用しているか、解説する。
2回	生物の個体群はどのように変化するのか、解説する。
3回	生態系の中での物質循環、エネルギーの流れについて解説する。
4回	環境問題について解説する。
5回	動物の行動について解説する。
6回	生物はどのように誕生し、進化したかについて解説する。
7回	生物の進化のしくみ、証拠について解説する。
8回	生き物を系統によつての分類について解説する。

回数	準備学習
1回	生物と環境について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	生物の個体群について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
3回	物質の循環について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
4回	環境について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
5回	動物の行動について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
6回	生物の進化について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
7回	生物の進化のしくみについて予習を行うこと。（標準学習時間90分）
8回	生き物の分類について予習を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、生物群集とそれを取り巻く自然環境、すなわち「生態系」における生物間の相互関係や、生物と環境との間の相互作用について理解し、私たちの生活が他の生物や環境に与える影響や、他の生物や環境の変化が私たちに与える影響について合理的に考えることができるようになることを目的とする。そのために、まず同種および異種の生物個体間の相互関係について解説し、さらに生物と環境との間の相互作用、およびそれらの結果として起こる生物進化について解説する。（教養教育科目の単位認定方針A知識・理解にもっとも強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（分類、進化、生態系）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	分類、進化、生態系
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出課題50%（達成目標1～3を確認）、および小テスト50%（達成目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 / 羊土社
関連科目	身近な生物学、その他生物系基礎科目全般
参考書	特に指定しない
連絡先	C1号館5階 学習支援センター 086-256-8438
授業の運営方針	講義の修了後に課題を提出する。3回以上未提出の場合、単位は不認定となる。小テストは講義が終わる前に行う。課題に2回目以降、講義の始まる前に返却をする。8回の課題は次の講義がないため、学習支援センターまで取りに来ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	2回目以降、講義の始まりに、小テストの解答の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。 ・ 配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止す

	る。 ・ 正当な理由から、ディスカッションやプレゼンテーションが困難と認められる場合には、レポート等による代替措置を検討するので、事前に相談すること。 ・ 配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能です。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	・ 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 ・ 「生物学基礎論 Ⅰ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論 Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学 Ⅰ」の履修を避けること。 ・ 「身近な生物学 Ⅰ」と「身近な生物学 Ⅱ」はある程度の連続性・順序性があるため、連続受講を推奨する。

科目名	身近な地学 (FB222320)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives II
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	先人は、星の明るさと色を手掛かりにしてどのようにして宇宙を知るようになったのか、それを紹介する。
2回	宇宙が膨張していることがどうして分かったのか、また、宇宙にははじまりがあることがどのようにして分かるようになったのか説明する。
3回	宇宙がはじまって、まず物質ができ、星、銀河、太陽系、地球が形成されてきた過程を概説する。さまざまな元素が生成されてきた過程についても説明する。
4回	地球上の生き物は太陽の恩恵を受けて生きている。環境の基本要素である地球表面の温度はどのようにして決まるのか、すじみちを説明する。
5回	どうして風が吹くのか、理解を深める。自転する地球の上で風はどのように吹くのかについて学習する。
6回	暖かい空気と冷たい空気はどのようにして混じるのか、低気圧や台風はどのようにして発生し、発達するのか、説明する。
7回	雨はどのようにして降るのか、メカニズムを説明する。また、陸域の水はどのように循環しているのか、また、それによって生き物が生きていられることについて説明する。
8回	地球温暖化、環境汚染（放射能汚染）など、深刻な環境問題について概説する。後半の0.5コマで「到達度確認テスト」を実施する。

回数	準備学習
1回	人間は、身近に見えるものに対して、遠近をどのようにして感じているのか考えておくこと。（標準学習時間：60分）
2回	光が波であること、光の色、波の基本的な特徴についてよく調べておくこと。（標準学習時間：60分）
3回	高校で学んだ原子や原子核についてあらましを復習しておくこと。元素の周期律表をよくみておくこと。（標準学習時間：60分）
4回	ストーブに向かうと暖かく感じ、当たっている正面が熱いのはなぜなのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
5回	空気が暖まるとなぜ軽くなるのか、空気よりも軽い気球や煙はなぜ上昇するのか、よく考えておくこと。（標準学習時間：60分）
6回	スプレーや自転車の空気入れから噴出する気体はなぜ冷たく感じるのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
7回	外気が冷たいとき、窓ガラスに水滴がついたり、車の窓が曇るのはなぜか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
8回	「到達度確認テスト」を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。（標準学習時間：180分）

講義目的	自然界では、さまざまな規模でエネルギーと物質が常に循環している。それによってあらゆる生命活動が維持されている。循環の駆動力は、大きくは太陽と地球のエネルギーによるものであり、大気、海洋では地球規模で循環している。また、大地の下でも、規模の大きい循環が存在しており、火山、地震、温泉として現れている。身の回りの環境は全体の循環システムの中でどのように維持されているのであろうか。講義では、気象、水文、地質に関する身近な現象を実感もてるように分かりやすく説明し、そのダイナミズムへといざなう。（教養教育科目の単位認定方針Aに強く関連）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（宇宙の進展と物質の創生、地球環境形成の歴史、地球規模の大気と水の循環、大気現象の過程、水文現象の過程）を説明できる。（A） 2. 講義の中で関心をもった内容について具体的に説明できる。（C） 3. 環境問題（地球温暖化など）や自然災害（豪雨、地震、火山など）について科学的に考えることができる。（B）
キーワード	宇宙、太陽系、太陽放射、大気の循環、水の循環、気象、地球環境、地球温暖化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回講義の小レポート50%（到達目標1～3を確認）と到達度確認テスト50%（到達目標1・2）により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	身近な物理学 を受講していることが望ましい。

参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
授業の運営方針	準備学習を必ず行い、授業に臨んでください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回講義の小レポートについては次の授業で代表的な意見を紹介してフィードバックを行う。到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。：基礎理学科，生物地球学科。 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。

科目名	身近な地学 (FB222330)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives II
担当教員名	北岡豪一* (きたおかこういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	先人は、星の明るさと色を手掛かりにしてどのようにして宇宙を知るようになったのか、それを紹介する。
2回	宇宙が膨張していることがどうして分かったのか、また、宇宙にははじまりがあることがどのようにして分かるようになったのか説明する。
3回	宇宙がはじまって、まず物質ができ、星、銀河、太陽系、地球が形成されてきた過程を概説する。さまざまな元素が生成されてきた過程についても説明する。
4回	地球上の生き物は太陽の恩恵を受けて生きている。環境の基本要素である地球表面の温度はどのようにして決まるのか、すじみちを説明する。
5回	どうして風が吹くのか、理解を深める。自転する地球の上で風はどのように吹くのかについて学習する。
6回	暖かい空気と冷たい空気はどのようにして混じるのか、低気圧や台風はどのようにして発生し、発達するのか、説明する。
7回	雨はどのようにして降るのか、メカニズムを説明する。また、陸域の水はどのように循環しているのか、また、それによって生き物が生きていられることについて説明する。
8回	地球温暖化、環境汚染（放射能汚染）など、深刻な環境問題について概説する。後半の0.5コマで「到達度確認テスト」を実施する。

回数	準備学習
1回	人間は、身近に見えるものに対して、遠近をどのようにして感じているのか考えておくこと。（標準学習時間：60分）
2回	光が波であること、光の色、波の基本的な特徴についてよく調べておくこと。（標準学習時間：60分）
3回	高校で学んだ原子や原子核についてあらましを復習しておくこと。元素の周期律表をよくみておくこと。（標準学習時間：60分）
4回	ストーブに向かうと暖かく感じ、当たっている正面が熱いのはなぜなのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
5回	空気が暖まるとなぜ軽くなるのか、空気よりも軽い気球や煙はなぜ上昇するのか、よく考えておくこと。（標準学習時間：60分）
6回	スプレーや自転車の空気入れから噴出する気体はなぜ冷たく感じるのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
7回	外気が冷たいとき、窓ガラスに水滴がついたり、車の窓が曇るのはなぜか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
8回	「到達度確認テスト」を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。（標準学習時間：180分）

講義目的	自然界では、さまざまな規模でエネルギーと物質が常に循環している。それによってあらゆる生命活動が維持されている。循環の駆動力は、大きくは太陽と地球のエネルギーによるものであり、大気、海洋では地球規模で循環している。また、大地の下でも、規模の大きい循環が存在しており、火山、地震、温泉として現れている。身の回りの環境は全体の循環システムの中でどのように維持されているのであろうか。講義では、気象、水文、地質に関する身近な現象を実感がもてるように分かりやすく説明し、そのダイナミズムへといざなう。（教養教育科目の単位認定方針Aに強く関連）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（宇宙の進展と物質の創生、地球環境形成の歴史、地球規模の大気と水の循環、大気現象の過程、水文現象の過程）を説明できる。（A） 2. 講義の中で関心をもった内容について具体的に説明できる。（C） 3. 環境問題（地球温暖化など）や自然災害（豪雨、地震、火山など）について科学的に考えることができる。（B）
キーワード	宇宙、太陽系、太陽放射、大気の循環、水の循環、気象、地球環境、地球温暖化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回講義の小レポート50%（到達目標1～3を確認）と到達度確認テスト50%（到達目標1・2）により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし
関連科目	身近な物理学 を受講していることが望ましい。

参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
授業の運営方針	準備学習を必ず行い、授業に臨んでください。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回講義の小レポートについては次の授業で代表的な意見を紹介してフィードバックを行う。到達度確認テストについてはテスト終了時に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。：基礎理学科，生物地球学科。 「地学基礎論 ・ 」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学 ・ 」の履修を避けること。

科目名	科学技術倫理 B (FB222510)
英文科目名	Science and Engineering Ethics B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、技術者の倫理とはどのようなものであるのかを説明する。
2 回	コンプライアンス (1) —技術者の活動と密接に関わる法令遵守について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
3 回	コンプライアンス (2) —カネミ油症事件について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
4 回	説明責任—技術者が社会に対して果たすべき説明責任について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
5 回	内部告発—組織の不正と技術者個人のジレンマから起こる内部告発について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
6 回	環境と技術者—環境と技術者との関係を「持続可能性」などの観点から説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
7 回	技術者の財産的権利—技術者と組織との間で起こる財産的権利の問題について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を積極的に発表してもらう。
8 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	技術者の倫理とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	コンプライアンスとはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	カネミ油症事件について、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	説明責任とはどのようなものを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	内部告発とはどのようなものを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	環境の「持続可能性」とはどのようなものを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	技術者の財産的権利について、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	人類の生活を豊かにし、便利にしてきた一方で、様々な問題を引き起こしている科学技術というものを、幅広い視点から理解する。そのうえで、技術者として異分野とも協働しながら倫理的に振舞うための主体性や協調性を身に付ける。本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標とする。 技術者に関わる倫理的な問題について説明することができる。(A) 身につけた知識を、現実にかけているものだけでなく、今後も予想される科学技術上の倫理的な問題にも応用することができる。(B)
キーワード	倫理、法、組織、個人、コンプライアンス、説明責任
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：グループワークへの取り組み 評価割合60%、最終評価試験 評価割合40%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」と関連しています。科学技術倫理をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」を受講して下さい。
参考書	杉本泰治・高城重厚『技術者の倫理入門』(丸善出版) 北原義典『はじめての技術者倫理』(講談社)
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp

	オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業の前半は、パワーポイントや映像を使用して講義を行う。 ・授業の後半は、グループワークを行う。 ・授業終了時に、各自の意見をまとめた用紙を提出してもらう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・講義の内容についての自分の意見をまとめた後で、4～6人程度のグループに分かれてディスカッションを行い、各自の意見の相互評価、自己評価を行います。 ・ディスカッションの内容については、グループの意見を集約して、代表者に発表してもらいます。
課題に対するフィードバック	・発表に対するコメントを授業内に行う。 ・提出された用紙のリアクションは、次の回の授業の冒頭で行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、試験の後で行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学B(実験で理解する原子論の世界)(FB222700)
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち), 森田明義*(もりたあきよし*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス, ものとその重さ: 授業の進め方について説明したあと、質量保存の法則やその適応範囲について、実験を交えて解説する。 (全教員)
2回	三態変化(1): 固体を熱したときの变化について、身近な固体の加熱実験を交えて解説する。 (全教員)
3回	三態変化(2): 気体・液体・固体の様々な状態変化について、加圧したり加熱したりする実験を交えて解説する。 (全教員)
4回	三態変化(3): 気象と三態変化の関係を、実験を交えて解説する。 (全教員)
5回	温度と分子運動(1): 熱と分子運動の関係について、実験を交えて解説する。 (全教員)
6回	温度と分子運動(2): 水の蒸発と温度変化の関係について、分子運動の観点から実験を交えて解説する。 (全教員)
7回	温度と分子運動(3): 水以外の液体の蒸発と温度変化の関係や、水蒸気が液体にもどるときの温度変化と分子運動の関係を、実験を交えて解説する。 (全教員)
8回	本講義のまとめを行う。到達度確認テストを実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	前回配布された資料を読んで、質量保存の法則について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回配布された資料を読んで、固体を熱したときの变化について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回配布された資料を読んで、気体・液体・固体の状態変化について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回配布された資料を読んで、気象と三態変化の関係について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回配布された資料を読んで、熱と分子運動の関係について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回配布された資料を読んで、水の蒸発と温度変化の関係について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回までに配布された資料を読んで、この授業全体の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー(教養)を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。 「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー(科学の方法論も含む)の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。 「現代人の科学B」では、主に物理・化学分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスで
------	---

	は原子論、質量保存則、分子運動などの近代科学の最も基礎的な概念を予測→討論→実験による検証というパターンの学生参加型の授業（仮説実験授業）により、実感をもって修得することを目的とする。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。 （教養教育科目の到達目標Aに最も強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（原子論、質量保存則、三態変化、温度、分子運動）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 日常的な経験や修得した内容をもとに実験結果を予想し、その理由を説明することができる。（B）
キーワード	原子論、質量保存則、三態変化、温度、分子運動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回の授業の最後に提出してもらったレポート60%（到達目標1～3を確認）、授業中の発言5%（到達目標3を確認）、および到達度確認テスト35%（到達目標1・2を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	なし。必要に応じてプリントを配布する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
参考書	なし。
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは 高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[at]ped.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・D2号館3階理科実験室（収容定員50名）を使用して実験・観察を行う。 ・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講である。「現代人の科学」との合計の受講希望者が収容定員の50名を超える場合はガイダンス参加者から受講生を選抜することがあるので、必ずガイダンスに出席すること。その際、「現代人の科学」の受講生を優先する。その次に、内容が専門と異なる学科の学生の受講を優先する。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、実験・実習、質問 この講義では実験結果についての予想を聞き、その予想の理由を討論し、実験によって正解を確かめるという形でアクティブラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に提出してもらったレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。到達度確認テストについては、テスト終了後に正答を発表することでフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学D(コンピュータで理解する周期表の世界)(FB222920)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	坂根弦太(さかねげんた)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。この講義でのコンピュータの基本的な使い方(教育用原子軌道・分子軌道計算システムeduDVの使い方)について解説する。
2回	現代の生活において、元素という概念がどのように使われているか、説明する。元素と周期表の関係についても説明する。
3回	元素と原子の違い、原子の内部構造について説明する。原子の大きさをコンピュータで計算し、周期表との関係を説明する。
4回	いろいろな原子のいろいろな電子の姿をコンピュータで三次元可視化し、小さすぎて見えないミクロの世界をコンピュータ画面で立体的に眺めながら解説する。
5回	現代の生活における身近な分子を紹介し、コンピュータで分子の構造を描き、三次元可視化しながら分子の形について解説する。
6回	現代の生活における身近な物質の色について、なぜその色なのか、コンピュータで計算し、その原理を解説する。
7回	液体酸素は磁石にくっつかないが、液体酸素は磁石にくっつく。なぜ物質の種類によって磁性が違うのか、コンピュータで計算し、その原理を解説する。
8回	1回～7回までの総括を説明する。到達度確認テストを行う。

回数	準備学習
1回	波動関数の三次元可視化の仕方について復習を行うこと。第2回目授業までに、参考書などにより、元素と周期表に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
2回	元素と周期表について復習を行うこと。第3回目授業までに、参考書などにより、原子の内部構造(陽子、中性子、電子)に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
3回	原子の内部構造について復習を行うこと。第4回目授業までに、参考書などにより、原子軌道に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
4回	原子軌道について復習を行うこと。第5回目授業までに、参考書などにより、分子軌道に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
5回	分子軌道について復習を行うこと。第6回目授業までに、参考書などにより、電子遷移(色の原因)に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
6回	電子遷移について復習を行うこと。第7回目授業までに、参考書などにより、磁性(磁石にくっつく物質、くっつかない物質)に関し予習を行うこと(標準学習時間90分)
7回	磁性について復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと(標準学習時間120分)
8回	ここまで授業内容についての復習を行うこと(標準学習時間120分)

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー(教養)を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー(科学の方法論も含む)の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では、主に数学・情報分野の幾つかのトピックスを取り上げる。具体的には、コンピュータを使い、原子・分子・電子の世界を計算して三次元可視化することにより、ミクロの不思議な世界を実感し、マクロの物質の世界をミクロの視点から人に説明できるようになることを目的とする。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。(教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与)
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項(元素、原子、分子、電子、周期表など)を説明できる。(A) 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。(C) 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。(B)
キーワード	コンピュータ、周期表、元素、原子、電子、量子論、分子、三次元可視化、電磁波、磁性
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート20%(達成目標1～3を確認)、およびテスト80%(小テスト・到達度確認テスト、達成目標1・3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	特定の分野の基礎知識の習得を前提としない。

参考書	新版はじめての電子状態計算 - DV-X α 分子軌道計算への入門 - / 足立裕彦、小笠原一禎、小和田善之、坂根弦太、水野正隆 / 三共出版 / 978-4782707678
連絡先	A1号館3階318 理科教育センター 坂根弦太 e-mail: gsakane@chem.ous.ac.jp http://www.chem.ous.ac.jp/~gsakane/
授業の運営方針	・ 1人1台のパソコンを使いながら授業を進めます。OSはWindowsです。 ・ 概念を見て触って実感するため、授業中に実験を行うことがあります。授業中に行う実験は、積極的に参加してください。 ・ 授業内容を補足する資料は原則としてA4サイズ、2つ穴の紙で配布します。 ・ 予習、授業の記録、復習のためにノートを用意し、分かったことは自分の言葉で、分からなかったことはとりあえずキーワードを書いてください。分からなかったキーワードはインターネット、図書館、教員（質問）を利用して問題解決し、ノートに追記してください。 ・ 小テストはノートを参照しながら回答して構いませんが、テスト中に他の人と情報交換してはいけません。 ・ レポートは、指定したメットを守ってください。レポートは自分で作成してください。他人のレポートを写してはいけません。 ・ 到達度確認テストは、教科書やノートなどの持ち込みはできません。 ・ 情報処理センター演習室を使用する必要があるため、部屋の収容定員を超える場合は受講制限をします。
アクティブ・ラーニング	実験・実習、ライティング この科目では、授業の中に組み入れた実験・観察・体験活動、ミニッツ・ペーパーによりアクティブ・ラーニングを実施する。
課題に対するフィードバック	・ 小テストについては、テスト終了後に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。 ・ レポートについては、講義中に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。 ・ 到達度確認テストについては、テスト終了後に模範解答を配布することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・ 講義中の録音／録画は原則として認めません。当別の理由がある場合事前に相談してください。 ・ 講義中の撮影（静止画）は自由ですが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止とします。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学D(人工知能への道と社会への影響)(FB222930)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	大西 荘一*(おおにし そういち*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。続いて、第1次から第4次の産業革命について、それぞれのその原因となった科学技術と社会への影響について概要を学習する。(資料を配布する)
2回	コンピュータの主要な理論の歴史と提唱者について、及び知能について学習する。
3回	ノイマン型コンピュータの原理とICTの進化のポイント及び人工知能の歴史を学習する。
4回	コンピュータ技術の確立とハードウェアの技術革命及び人工知能用コンピュータについて学習する。
5回	日本における電卓開発の背景とその熾烈な開発競争が生み出した偉大な技術が社会に及ぼした影響について学習する。 ソフトウェア発展の歴史の概要とソフトウェア危機の原因と対策、及び教育界への影響について学習する。
6回	インターネット及び人工知能(AI)とIoTが社会に及ぼす影響について学習する。
7回	前半：インターネットの通信技術の概要を学習する。 後半：グループで人工知能をテーマにプレゼンテーションをし、その内容について質疑応答をする。
8回	前半：グループで人工知能をテーマにプレゼンテーションをし、その内容について質疑応答をする。 後半：到達度確認テストを実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを確認し、学習の過程を把握すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間60分)
2回	予習：前回配布した資料を学習しておくこと、及び、その内容に関連したことをインターネットで検索し学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間180分)
3回	予習：配布資料の「進化のポイント」の項を学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間60分)
4回	予習：配布資料の該当する項を学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間70分)
5回	予習：配布資料の「電卓戦争」及び「ソフトウェア危機」の項を学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間60分)
6回	予習：該当する配布資料を学習すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間70分)
7回	予習：パワーポイントでプレゼン資料を作成すること。 復習：配布プリントと講義の内容を確認すること。 (標準学習時間240分)
8回	予習：パワーポイントでプレゼン資料を作成すること。 到達度確認テストにそなえ復習すること。

	(標準学習時間120分)
講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学技術に関心をもち、ある程度のリテラシー（教養）を身に付けておくことが望ましい。日常生活や社会には科学があふれており、科学を理解することで適切な判断が下せることも多い。また、新しい現象を既知の事実や原理を踏まえて分析的・総合的に考察するといった科学的な思考は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で益々重要になってくる。「現代人の科学」は、様々な分野のトピックスを題材にし、科学技術リテラシー（科学の方法論も含む）の向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では、主に数学・情報分野の幾つかのトピックスを取り上げる。このクラスでは主にコンピュータの進化と人工知能を扱う。なお、この科目では科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。（教養教育科目の単位認定方針Aに強く関与）
達成目標	1. 本授業で扱った主要な事項（コンピュータと人工知能の進化及び社会への影響）を説明できる。（A） 2. 本授業の中で関心をもった内容を具体的に記述できる。（C） 3. 本授業で得た知識を用いて、応用的な問題を解くことができる。（B）
キーワード	計算機械、コンピュータ、マイクロプロセッサ、パソコン、ソフトウェア、インターネット、電卓、人工知能（AI）、IoT
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	レポート20%（プレゼンテーション形式、到達目標1～3を確認）、および到達度確認テスト80%（45分間の質問形式のペーパーテスト、到達目標1・3を確認）によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	資料及び自作プリントを適宜配付する。
関連科目	高等学校情報科のコンピュータの歴史に関連した個所である。
参考書	人工知能の基本 / 東中竜一郎 / 翔泳社 / ISBN978-4-7981-5153-3 実物でたどるコンピュータの歴史 / 竹内伸 / 東京図書 / ISBN978-4-487-80692-8 コンピュータ200年史 / 山本菊男訳 / 海文堂 / ISBN4303714305-9784303714307 日本のコンピュータ史 / 情報処理学会歴史特別委員会 / オーム社 / コンピュータの時代を開いた天才たち / デニス・シャシャ、キャシー・ラゼール(鈴木良尚訳) / 日経BP社 / ノイマンとコンピュータの起源 / William Aspray 著 杉山 滋郎, 吉田 晴代 共訳 / 産業図書 /
連絡先	mascot_oni@yahoo.co.jp
授業の運営方針	基本的には、配付する自作プリントにそって授業を進める。授業は板書と写真や複雑な図の場合はPCプロジェクトを利用する。授業の理解度確認のため、毎回授業終了前5分程度で小レポートを提出してもらう。小レポートの解説は次回授業で行う。遅刻・欠席については、学内規定にしたがう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション 「人工知能」を課題にプレゼンテーションをする。3～4名のグループで事前学習をし、パワーポイントによるプレゼンテーションをする。各グループのプレゼンテーションに対し、受講生及び担当教員と質疑応答をする。
課題に対するフィードバック	課題についてのプレゼンテーション時に質疑応答をし、内容・スライド作成・話し方に関してアドバイスをする。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影は原則不許可ですが、事情により許可しますので、その場合は申し出てください。
実務経験のある教員	ア) 元大手国際的IT企業の技術者として20年間勤務 イ) 上記企業で、コンピュータの進化を実務で体験した。その経験を講義に生かす。
その他（注意・備考）	・ PowerPointでプレゼンスライドを作成するので、PowerPointが利用できることが望ましい。 ・ 学生が調査内容を発表するので、発表を1回の授業で終わらせるために、50名以上の場合は受講制限する可能性がある。 ・ 情報科学科の学生は、内容が学科必修科目と重複するので、受講を許可しない。 ・ 講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。

--	--

科目名	科学技術と人間 B (FB223310)
英文科目名	Science-Technology and Human Beings B
担当教員名	中村修 (なかむらおさむ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	現在の白色LEDについて簡単に説明する。青色LED、白色LEDに使用されているGaN系の実用化以前、LEDの材料として有望だと考えられており、単結晶まで量産化したZnSeの開発について説明する。バックライトとして白色LEDがメインになって以降、使用されなくなった冷陰極管について説明する。
2 回	一家に一台のプリンターを当たり前にしたインクジェットプリンターの原理と発展について説明する。
3 回	現在の日本のエネルギー動向を説明する。その解決策としての再生エネルギーについて、種類と意義、課題について説明した後で、太陽光発電に焦点を当て説明する。レポート課題を提示する。
4 回	水素エネルギーの日本における社会的意義、現状と展望について説明する。その後、水素エネルギー技術 (製造・貯蔵・輸送・利用) について説明する。現在の日本のエネルギー問題の解決策としての水素社会を説明する。
5 回	燃料電池の原理と種類について説明する。住宅用と車用の燃料電池について説明する。エレクトロニクス分野での実用化について問題点を説明し、何故、この分野の開発が停滞しているのかについて説明する。
6 回	水素社会に対する批判とその反論、化石燃料の枯渇に関する水素エネルギーの意義、各国の取り組みや社会の受容性の説明をする。これらを通じて燃料電池 = 水素社会が実現するための条件について説明する。
7 回	再生エネルギーと水素エネルギーについて、これまでの講義で取り上げなかったトピックス的な話題を取り上げ説明する。
8 回	中間評価以降の講義の総括とレポート課題の説明を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習として、蛍光灯が白色に光る原理を調べる。又、熱陰極管、冷陰極管についてそれぞれどこに使われているか調べる。(標準学習 60分)
2 回	ZnSeの開発について復習すること。バックライトとしての冷陰極管について復習をすること。予習として、水の沸騰現象について調べる。(標準学習 120分)
3 回	インクジェットプリンターの原理と発展について復習すること。予習として、科学的なエネルギーの定義やエネルギー保存則を調べる。新聞等で使用される " エネルギー " という言葉の使われ方を調べる。(標準学習 120分)
4 回	再生エネルギーについて、種類と意義、課題について復習すること。太陽光発電の問題を復習すること。予習として水素の燃焼エネルギーについて調べる。水素貯蔵合金とはなにか調べる。(標準学習 120分)
5 回	水素エネルギーの日本における社会的意義、水素エネルギー技術 (製造・貯蔵・輸送・利用) について復習すること。予習として水の電気分解について、調べる。(標準学習 120分)
6 回	燃料電池の原理と種類について復習すること。住宅用と車用の燃料電池について、エレクトロニクス分野での実用化の問題点を復習すること。予習として水素の危険性、特に、爆発限界濃度について調べる。(標準学習 120分)
7 回	水素社会に対する批判とその反論、化石燃料の枯渇に関する水素エネルギーの意義、各国の取り組みや社会の受容性について復習すること。予習として再生エネルギー、水素エネルギーに関する最近の話題を調べる。(標準学習 120分)
8 回	第 9 回から 15 回目までの講義の復習をすること。(標準学習 180分)

講義目的	一般的には、科学技術の進歩が社会に変化をもたらすと考えがちであり、且つ、事実でもあるが、一方では、科学技術の進歩はその社会背景に依存することが多いことも事実である。本講義では、近年、急速に忘れ去られつつある技術として、冷陰極管を取り上げ、生活に大きな影響を与えた技術としてインクジェットプリンターを取り上げる。又、社会的な受容性や今後の社会構造の変化が求められる技術として、再生エネルギーや水素エネルギー技術を取り上げる。特定の例を知ることによって、科学技術と人間社会の関わりについて知ることを目的とする。(全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、Bに強く関与する。)
達成目標	1) 青色発光ダイオードの発明に対して、破れ去った技術、衰退した産業を説明できる (A)。 2) インクジェットプリンター市場に新規メーカーが参入できない理由を説明できる (B)。 3) 太陽光に関係した再生エネルギーを説明できる (A)。

	4)水素エネルギーが求められている理由を説明できる(A)。 5)エネファームが高効率である理由を説明できる(A)。 6)燃料電池自動車の普及に対する、社会的受容性を説明できる(B)。
キーワード	冷陰極管、インクジェットプリンター、再生エネルギー、太陽電池、水素社会、燃料電池
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	レポート(達成目標1),2)を評価(10%)、最終評価試験(達成目標1)~6)を評価(90%)により成績を評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。適宜、講義資料(プリント)を配付
関連科目	特になし
参考書	再生エネルギー技術白書 / NEDO編 / 森北出版 / 978-4-627-62502-0C3053:水素エネルギー白書 / 日刊工業新聞社 / 978-4-526-07356-4C3050その他の参考書については講義で適宜説明する。
連絡先	メール o-nakamura@pub.ous.ac.jp 1階 研究・社会連携センター オフィスアワー 月1時限 C7号館2F 研究室 オフィスアワー 水3時限 A1号館
授業の運営方針	講義資料(プリント)は必要に応じて講義開始時に配付する。後日配付にも応じるので、できるだけ、早く、申し出ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	第3回のレポート課題に対しては、8回目の講義で解説等のフィードバックを行う。 最終評価試験終了後、フィードバックとして、採点結果を1週間以内に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ○講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。 ○講義中の録音/録画/は事前に相談すること。他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
実務経験のある教員	元カシオ計算機、凸版印刷の研究開発部門勤務のエレクトロニクス分野等での実務経験を活かし、科学技術と人間社会の関わりについて講義を行う。
その他(注意・備考)	

科目名	産業課題研究演習（FB223730）
英文科目名	Seminar on project studies of enterprise managements
担当教員名	河野敏行（こうのとしゆき）
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	長期インターンシップに取り組んだ学生が、経験から得た知見を企業と連携して、企業の経営的、技術的課題を考察・研究し、改善や新製品などの開発への提案を行うことを通して、分析力、研究力、報告書作成力、プレゼンテーション力を養う活動を実践する。学生は、長期インターンシップに参加した企業から、企業が抱える問題等の提供、または、インターンの経験から発見した問題点について企業に提示する。問題についての原因やその背景について分析を行う。次に、問題を解決するための案、またその案によって得られる効果について検討を行う。その作業において、グループで取り組める場合は、グループワーキングを行い、検討を行う。必要によっては、実地調査などを行う。提案する事項について、企業との打ち合わせを行う。課題解決の提案事項についてプレゼンテーションを企業または関連する教員等に対して行う。講義として30時間以上を要する。実施の中で、3種類のレポートを提出する。企業が抱える問題のその原因について調べた結果のレポートと、問題を解決するための案を3つ以上提案しレポートにまとめ、解決案を1つに決定しそれによって得られる結果をレポートにて提出する。
準備学習	課題解決に向けて、対応する企業において長期のインターンシップに参加する。インターンシップ期間は1か月以上とし、社会・産業実習の単位認定を得ていること。または、90時間以上のインターンシップに参加して、インターンシップCの認定を得ること。これらのインターンシップの参加が講義を受講するための準備学習である。（標準学習時間：90時間から1か月のインターンシップ）講義は集中講義で行うため、必要な準備をすること。（合計標準学習時間：60時間）
講義目的	企業の経営的、技術的課題を考察・研究し、改善や新製品などの開発への提案を行うことを通して、分析力、研究力、報告書作成力、プレゼンテーション力を身に付ける。 4領域の項目では、「思考・判断・表現」に最も強く関与している。
達成目標	1) 企業の経営的または技術的な課題を考察し、文章で表現することができる。 2) 課題解決のための分析を行い、説明できる。 3) 課題解決のための分析をもとに、解決案を説明できる。 4) 解決案を実行することによって生じる結果を推測することができる。 5) 自分の考えを具体的に説明することができる。
キーワード	インターンシップ、COOP型インターン
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	企業が抱える問題のその原因について調べた結果のレポート（達成目標の1）20%と問題を解決するための案を3つ以上提案しレポートにまとめる（達成目標の2と3）20%と解決案を1つに絞り、その結果を詳細にレポートにまとめる（達成目標の4）20%と最終発表（達成目標の5）40%で評価し、60%以上で合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	企業情報特論A、企業情報特論B、インターンシップA、インターンシップB、インターンシップC、インターンシップ概論、社会・産業実習
参考書	適宜指示する。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター 河野敏行 syusyoku@office.ous.ac.jp 086-256-8435 質問などは9:00-17:00でキャリア支援センターにて受け付ける。
授業の運営方針	社会・産業実習またはインターンシップCを履修し、単位修得したものが履修できる。集中講義で実施するため、履修者に対応する企業との打ち合わせで実施日時を設定する。履修実施期を場合によっては移動してもらうことがある。グループで課題に取り組む場合は、グループワーキングを行う。
アクティブ・ラーニング	グループで課題に取り組む場合は、グループワーキングを行う。
課題に対するフィードバック	レポートの提出に対して、その内容について議論を行うことで、フィードバックする。最終発表に対しては、その場でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	社会・産業実習またはインターンシップCを履修し、単位修得したものが履修できる。集中講義で実施するため、履修者に対応する企業との打ち合わせで実施日時を設定する。履修実施期を企業との打ち合わせによっては移動してもらうことがある。受講マナーや指示に従わない場合は、「不可」とする。

科目名	マーケティング（FB224300）
英文科目名	Marketing
担当教員名	張セイ（ちょうせい）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方等について確認する。さらに、マーケティングの基本的な考え方について学習する。
2回	マーケティング誕生の背景や発展、および役割について学習する。
3回	マーケティングの基礎概念について学習する。
4回	戦略的マーケティングの概念について学習する。
5回	具体的な事例をもとに、製品戦略について学習する。
6回	具体的な事例をもとに、価格戦略について学習する。
7回	具体的な事例をもとに、流通戦略について学習する。
8回	具体的な事例をもとに、プロモーション戦略について学習する。続いて第1回から第8回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。

回数	準備学習
1回	予習としてシラバスおよび教科書により授業内容全体について理解しておくこと。復習としてマーケティングの基本的な考え方についてまとめておくこと。（標準学習時間60分）
2回	予習としてマーケティングの誕生について内容をまとめておくこと。復習としてマーケティングの役割についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
3回	予習としてマーケティングの基礎概念についてまとめておくこと。復習としてSTPについてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
4回	予習として戦略的マーケティングについて内容をまとめておくこと。復習として優れたマーケティングを行っている企業を一つ上げ、その活動についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
5回	予習として製品戦略についてまとめておくこと。復習として過去のヒット商品の優れている点についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
6回	予習として価格戦略についてまとめておくこと。復習として価格戦略を考える上で重要なポイントについてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
7回	予習として流通戦略についてまとめておくこと。復習としてチャネルの種類や特徴についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
8回	予習として第1回から第7回までの学習内容についてまとめておくこと。復習としてプロモーションミックスについてまとめておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	企業活動は、大きく内的活動と外的活動に分けられる。特に、外的活動は、消費者や顧客に対する活動であり、主にマーケティングが中心となる。企業の利益が、顧客・消費者による自社製品の購買からもたらされることを考えると、外的活動は非常に重要である。そこで、マーケティングに関する基礎的概念や理論的枠組みについて理解することを本講義の目的とする。そのために、具体的な事例を多く取り上げ、実際の企業のマーケティング活動と理論を結び付けることにより、マーケティングに関する基礎的な理論やその背景、マーケティング活動について理解を深めていく。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	1) 各企業が展開しているマーケティング活動について具体的に説明できる。 2) マーケティングに関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
キーワード	マーケティング、消費者行動、顧客価値
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験（第8回目に実施する確認テスト100%（達成目標1）および2）を確認）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	サービス社会のマーケティングと経営/村松潤一・山口隆久編著/同文館/ISBN978-4495-64941-8 * 秋1学期開講の「経営学」と同じ教科書になりますので、購入している学生はそのまま使用します。
関連科目	「経営学」と関連。
参考書	必要に応じて指示する。

連絡先	A1号館7階 張研究室 E-mail:j-zhang (アットマーク) mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	この授業ではマーケティングを始めて学ぶ学生を対象としているので、授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	企業にてマーケティング業務に20年以上携わってきた経験がある教員（山口隆久）が、その実務経験、及び経営学分野での博士学位取得の両方を活かして、具体的な戦略課題や立案の視点を理論的に講義する。
その他（注意・備考）	* 経営学科の学生は受講できませんので注意してください。 * 経営学やマーケティングの知識は全く必要ありません。 * ペア科目で秋1学期に「経営学」が開講される。同じ教科書「サービス社会のマネジメント」を使用することからも、是非、受講して欲しい。

科目名	身近な数学 (FB224500)
英文科目名	Mathematics closely related to our daily lives II
担当教員名	中川重和(なかがわしげかず)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	A4用紙の三つ折-白銀比を理解する-
2回	お見合いの戦略-期待値を理解する-
3回	ドント方式-議席の配分方法を理解する-
4回	総合演習とその解説をする。
5回	出会いの確率-モンテカルロ法を理解する-
6回	暗号の歴史とモジュラスの世界-ユークリッドの互除法を理解する-
7回	公開鍵の仕組み-公開鍵暗号とは何かを理解する-
8回	学習達成度確認試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書第3章を読んでおくこと(標準学習時間45分)
2回	教科書第7章を読んでおくこと(標準学習時間45分)
3回	教科書第13章を読んでおくこと(標準学習時間60分)
4回	第3回の講義ノートの復習を行うこと(標準学習時間120分)
5回	教科書第12章を読んでおくこと(標準学習時間45分)
6回	教科書第9, 10章を読んでおくこと(標準学習時間60分)
7回	教科書第11章を読んでおくこと(標準学習時間60分)
8回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	本講義では、日常生活での出来事や社会の仕組みに関連する事柄に内在する数学的論理および数学的思考を紹介する。また、身近に起こる事柄をどのように数理モデル化するかについても紹介する。それらを通して、各種の数理モデルを理解することが目的である。(学習評価4領域の「知識・理解、関心・意欲・態度」に強く関与する)
達成目標	1. 白銀比について説明できる(知識・理解) 2. 期待値について説明できる(知識・理解) 3. 議席の配分方法を求めることができる(技能) 4. モンテカルロ法について説明できる(知識・理解) 5. ユークリッドの互除法で最大公約数を求めることができる(技能) 6. 公開鍵暗号が日常生活でどのように使われているかを説明できる(関心・意欲・態度および知識・理解)
キーワード	ピタゴラス数, 期待値, 公開鍵暗号, モンテカルロ法, ドント方式
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	総合演習 評価割合30%(達成目標1,2,3を確認)、学修達成度確認試験 評価割合70%(達成目標4,5,6を確認)により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	数理と社会(身近な数学でリフレッシュ)/河添 健/数学書房/978-4-903342-82-5
関連科目	なし
参考書	使用しない
連絡先	B3号館4階 中川研究室(オフィスアワーはmylogを参照のこと)
授業の運営方針	・授業は基本的に板書形式で進めるので、ノートをしっかりと取ること。 ・講義だけでなく演習を重視し、授業中に演習時間を十分設けます。 ・何度かレポートを課し、自分で考え、問題解決の努力が出来ているかどうかをチェックします。 ・授業は学習への意欲を持って臨んでください。授業中の質問は随時受け付けます。分からないことをそのままにしないようにしてください。 ・応用数学科、基礎理学科、情報科学科の学生に対しては、内容が専門に近いので受講を許可しないことがある。また、100名を超える場合も受講制限することがある。
アクティブ・ラーニング	・演習 講義の説明や例題などから理解した解答方法を適用して、演習問題を解きます。演習後、解答を発表してもらう場合があります。 担当教員の解説を聞き、自分のやり方が正しかったかどうかを判断し、理解を深めます。
課題に対するフィードバック	・課題・レポートの提出後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。 ・総合演習、学修達成度確認試験を行った後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	身近な数学 (FB224510)
英文科目名	Mathematics closely related to our daily lives II
担当教員名	中川重和 (なかがわしげかず)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	A4用紙の三つ折-白銀比を理解する-
2 回	お見合いの戦略-期待値を理解する-
3 回	ドント方式-議席の配分方法を理解する-
4 回	総合演習とその解説をする。
5 回	出会いの確率-モンテカルロ法を理解する-
6 回	暗号の歴史とモジュラスの世界-ユークリッドの互除法を理解する-
7 回	公開鍵の仕組み-公開鍵暗号とは何かを理解する-
8 回	学習達成度確認試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書第 3 章を読んでおくこと (標準学習時間45分)
2 回	教科書第 7 章を読んでおくこと (標準学習時間45分)
3 回	教科書第 1 3 章を読んでおくこと (標準学習時間60分)
4 回	第 3 回の講義 ノートの復習を行うこと (標準学習時間120分)
5 回	教科書第 1 2 章を読んでおくこと (標準学習時間45分)
6 回	教科書第 9 , 1 0 章を読んでおくこと (標準学習時間60分)
7 回	教科書第 1 1 章を読んでおくこと (標準学習時間60分)
8 回	第1回から第 7 回までの内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)

講義目的	本講義では、日常生活での出来事や社会の仕組みに関連する事柄に内在する数学的論理および数学的思考を紹介する。また、身近に起こる事柄をどのように数理モデル化するかについても紹介する。それらを通して、各種の数理モデルを理解することが目的である。(学習評価 4 領域の「知識・理解、関心・意欲・態度」に強く関与する)
達成目標	1. 白銀比について説明できる(知識・理解) 2. 期待値について説明できる(知識・理解) 3. 議席の配分方法を求めることができる(技能) 4. モンテカルロ法について説明できる(知識・理解) 5. ユークリッドの互除法で最大公約数を求めることができる(技能) 6. 公開鍵暗号が日常生活でどのように使われているかを説明できる(関心・意欲・態度および知識・理解)
キーワード	ピタゴラス数, 期待値, 公開鍵暗号, モンテカルロ法, ドント方式
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	総合演習 評価割合30%(達成目標1,2,3を確認)、学修達成度確認試験 評価割合70%(達成目標4,5,6を確認)により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	数理と社会(身近な数学でリフレッシュ)/河添 健/数学書房/978-4-903342-82-5
関連科目	なし
参考書	使用しない
連絡先	B3 号館 4 階 中川研究室 (オフィスアワーは mylog を参照のこと)
授業の運営方針	・授業は基本的に板書形式で進めるので、ノートをしっかりと取ること。 ・講義だけでなく演習を重視し、授業中に演習時間を十分設けます。 ・何度かレポートを課し、自分で考え、問題解決の努力が出来ているかどうかをチェックします。 ・授業は学習への意欲を持って臨んでください。授業中の質問は随時受け付けます。分からないことをそのままにしないようにしてください。 ・応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科の学生に対しては、内容が専門に近いので受講を許可しないことがある。また, 100名を超える場合も受講制限することがある。
アクティブ・ラーニング	・演習 講義の説明や例題などから理解した解答方法を適用して、演習問題を解きます。演習後、解答を発表してもらう場合があります。 担当教員の解説を聞き、自分のやり方が正しかったかどうかを判断し、理解を深めます。
課題に対するフィードバック	・課題・レポートの提出後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。 ・総合演習、学修達成度確認試験を行った後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際関係論 B (FV24B110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本の領土問題について学修する。国際法上、領土の帰属はどのように決定されるかについて学修する。そのうえで、日本の領土問題について、各国の主張やその妥当性について学修する。
2 回	日韓請求権問題について学修する。日韓請求権協定の内容を学修したうえで、日韓請求権問題の争点、両国の主張とその妥当性について学修する。
3 回	非裁判手続について学修する。紛争の平和的解決手続のうち、裁判によらない手続について学修する。
4 回	裁判手続について学修する。紛争の平和的解決手続のうち、裁判による手続について学修する。
5 回	国家責任の発生要件について学修する。国家責任の意義とその発生要件について学修する。
6 回	国家責任の追及要件および解除について学修する。発生した国家責任を追及することができるのはどの国か、その国家責任はどうすれば解除されるのかについて学修する。
7 回	国際連合による安全保障について学修する。国際連盟による安全保障の内容とその問題点について学修したうえで、国際連合による安全保障の内容とその問題点について学修する。
8 回	自衛権について学修する。個別的自衛権と集団的自衛権との違い、それぞれの自衛権の行使要件について学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、日本の領土問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、日韓請求権問題に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、非裁判手続に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、裁判手続に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国家責任の発生要件に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国家責任の追及要件および解除に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、国際連合による安全保障に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分)

復習として、自衛権に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際紛争の平和的解決や国際安全保障において国際機構が果たしている役割を概観することにより、現在の国際社会の基本的な仕組みや活動内容を解説する。また今後日本が国際社会において貢献できる役割についても考えてみたい。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 国際連合の安全保障制度について説明できるようになること。 ○ 平和維持活動について説明できるようになること。 ○ 自衛権について説明できるようになること ○ 国家責任について説明できるようになること。 ○ 国際司法裁判所の役割について説明できるようになること。
キーワード	国際連合，安全保障，平和維持活動，自衛権，国家責任，国際司法裁判所
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	MOMO-Campusにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	国際社会の特徴や国際連合の概要などの国際関係論の基礎事項は国際関係論Aで講義するので、それを受講してからこの講義を受講するのが望ましい。
参考書	国際連合 - 軌跡と展望 / 明石康 / 岩波書店 / 978-4004310525 : 国際関係論 [第3版] / 佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編 / 弘文堂 / 978-4335002335
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教養演習 B (FV24B120)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
3 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(2)
4 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(3)
5 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(4)
6 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(5)
7 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(6)
8 回	これまで演習で実施した発表・討論の講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、発表・討論の進め方を把握しておくこと(3 0 分)。今問題になっている時事問題について事前に調べてくること(6 0 分)。時事問題に関する新聞・雑誌やwebの利用方法を確認し利用できるようにしておくこと(9 0 分)。
2 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(9 0 分)。
3 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(9 0 分)。
4 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(9 0 分)。
5 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(9 0 分)。
6 回	テーマを選定した者(主報告者)はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること(9 0 分)。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと(9 0 分)。

7 回	テーマを選定した者（主報告者）はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を熟読し、質問事項を考えてくること（90分）。受講後に、授業で取り上げたテーマについて図書館やwebを利用し調べておくこと（90分）。
8 回	これまでの演習で取り上げられた各テーマについて、事前に内容と意見をまとめておくこと（90分）。

講義目的	主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。「教養演習A」に続き、さらなる思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Bでは、受講生自らが作成した資料に基づく発表および討論を中心とする。教養教育科目の4領域のうち、「思考・判断・表現」に深く関連する。
達成目標	時事問題について、受講者自らがグループワークを通してディスカッションを実施することができる。 受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）について、簡単な個人発表を通して自分の意見を発表できる。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、ディスカッション、プレゼンテーション、政治、経済、社会、文化、国際問題
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	個別発表課題（50%）と最終評価試験（50%）を合計100点として評価する。60点以上を合格とする。
教科書	2019年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2・準2級対応）/日本ニュース時事能力検定協会監修/毎日新聞出版
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB、プレゼンテーション基礎編AB
参考書	『最新時事用語&問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、その他必要に応じて適宜指示する。

連絡先	獣医学部教育病院棟 4 階 4 1 9 研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の中で主報告者を割り当て、パワーポイント等を用いた報告課題を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 主報告者は10分の口頭発表を行う。 ディスカッション 主報告者の内容をもとに受講者全員で討論を行う。
課題に対するフィードバック	個別発表課題については、授業の中で講評を行う。最終評価試験（レポート形式）については、事前に評価基準を提示することを前提とし、試験結果について希望者に点数を開示し評価の根拠を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	学びの基礎論B (FV24B130)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス リフレクションを通じた学びを理解する
2回	チームワークを高めるコミュニケーションを理解する
3回	チームワークを高めるリーダーシップを理解する
4回	批判的に読解する
5回	文献を分析する
6回	映像を分析する
7回	グループで知識を共有する
8回	まとめと振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを熟読後、リフレクションとは何かについて自分の言葉で整理しておくこと (90分)。
2回	予習として、グループワークにおいてチームワークを高めるためにはどのような行動が求められるかをまとめておくこと (180分)。
3回	予習として、リーダーシップについて調べ、さまざまなリーダーシップ論を整理しておくこと (180分)。
4回	復習として、チームワークを高めるための行動を1600字以上でまとめ、提出すること (240分)。
5回	予習として、資料を分析するためのスキルについて調べ、自分の言葉でまとめておくこと (120分)。
6回	予習として、グループ活動で担当する課題を作成しておくこと (240分)。
7回	予習として、グループ活動で担当する課題を作成しておくこと (240分)。
8回	講義内容を自分の言葉でまとめておくこと (60分)。

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得し、活用することである。内容として、「学びの基礎論A」をふまえて チームビルディングの構築 基本的なアカデミック・スキル (文章表現法、プレゼンテーション) を修得する テーマに対して、グループで協同して課題発表を行う 一人ひとりが、グループの発表に対してルーブリックにより評価を行う。アクティブ・ラーニングを行う。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出 (30%)、中間レポート (30%)、最終レポート (40%) により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	学びの基礎論Aを履修しておくことが望ましい。
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189

授業の運営方針	・ 他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・ 授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・ バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・ 許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・ 欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・ 学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション 授業内容に関連するディスカッションをグループで行う ライティング 内容の要約と自分の意見を書く
課題に対するフィードバック	課題に対して、全体的な特徴と改善点を授業中に口頭で説明する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学B (FV24C110)
英文科目名	Literature B
担当教員名	大西好幸* (おおにしよしゆき*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本近代文学の展開を概説する。
2回	近代文学前期(幕開け)として啓蒙主義、写実主義、擬古典主義を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト 近代文学前期(試み)として浪漫主義、自然主義を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト 近代文学前期(確立)として反自然主義、新現実主義を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト 近代文学後期(脈流)としてプロレタリア文学、新感覚派、「文学界」を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト 近代文学後期(再生)として無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代を取り上げ、解説する。
7回	復習小テスト 近代の韻文として近代詩、近代俳句・短歌を取り上げ、解説する。
8回	愛媛に関する文学作品を取り上げ、解説する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。 近代文学作品の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
2回	前回の復習をしておくこと。教科書「啓蒙主義、写実主義、擬古典主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
3回	前回の復習をしておくこと。教科書「浪漫主義、自然主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
4回	前回の復習をしておくこと。教科書「反自然主義、新現実主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
5回	前回の復習をしておくこと。教科書「プロレタリア文学、新感覚派、『文学界』」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
6回	前回の復習をしておくこと。教科書「無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
7回	前回の復習をしておくこと。教科書「近代詩、近代俳句・短歌」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間180分】
8回	愛媛に関する文学作品を調べておくこと。 これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間240分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。文学Bは近代以降の文学作品を対象とし、「文学A」に引き続き、風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた近代人の思い、心の動き方、近現代社会での人間模様などを見てゆく。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	(1) 日本近代文学の基礎的な知識を身につける。 (2) 古典文学との関係や西欧文学からの影響について考察し、近代文学の特質を理解する。 (3) 時代背景を手掛かりとして、作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。
キーワード	写実主義、擬古典主義、浪漫主義、自然主義、反自然主義、プロレタリア文学、新感覚派、無頼派、戦後派、近代詩、近代短歌・俳句、日本文学史
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版 / 兵庫県高等学校教育研究会国語部会編 / 京都書房 / ISBN978-4-7637-2204-1

	プリントを適宜配布する。
関連科目	「文学A」を受講していることが望ましい。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	・テキストは問題集を兼ねているので、準備学習時によく読んで予習をしておくと同時に解答しておくこと。 ・講義資料（テキスト補完資料）は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	ライティング、質問 文学作品について学生が感想を書く。また、テキストの内容に関する問題に答える（小テスト）。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、コメントをつけて返却する。 ・小テストについては、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 ・最終試験評価のフィードバックとして、試験終了後に模範解答及び解説プリントを配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史 B (FV24C120)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	白石成二* (しらいしせいじ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	自己紹介を行う。日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで、授業の進め方について説明する。その後、奈良時代末の称徳・道鏡政権の時代の政変について確認する。その時代、政治は混迷を極めるが、その原因・背景を確認するとともに、この称徳天皇をもって古代の女帝の歴史に幕を下ろすことになったのはなぜかについて検討する。
2 回	桓武天皇の登場のきっかけは父光仁天皇が即位したことであった。政権を掌握するうえで障壁となる勢力を排除していく過程について説明する。桓武天皇の大きな功績は、長岡京・平安京遷都（造都）と東北地方の蝦夷の征圧（征夷）であったが、その二大政策をなぜ実行する必要があったのかについて考える。天皇の天武系の皇統からの転換という意識、渡来系氏族との強い結びつき、怨霊思想などが背景にあったことを説明する。さらにこの桓武天皇の子孫たちが後に「桓武平氏」となっていたのかについても検討する。
3 回	嵯峨天皇の時代は「弘仁の治」と呼ばれ、我が国で唐風化が最も盛んだった時代とされる。その推進役が文人官僚であったことを確認する。そして彼らの知識は遣唐使によって多くもたらされたものであったが、その遣唐使の軌跡を辿ることによって当時の日本外交のあり方を検討する。さらに遣唐使の留学生であった最澄と空海を取り上げ、その仏教の国際性ととも、その後の日本宗教界に与えた影響について説明する。さらに空海信仰のあらわれとして四国に根付いている四国遍路の現代的意味についても考える。
4 回	文人官僚の頂点を極めた菅原道真と藤原氏との対立・抗争の原因や背景について触れ、道真が猛威をふるう怨霊となり、怨霊思想のピークを迎える。それが今日では「学問の神様」となって厚い信仰を受けるようになったのはなぜかを考える。次に平将門と藤原純友の乱を取り上げ、「承平・天慶の乱」から「天慶の乱」への名称変更について説明する。またこの戦乱が、その後の時代にどのような影響をもたらしたか、さらに勇猛さの象徴とされる武士の実像についても検討する。
5 回	平安王朝、摂関政治の全盛期を演出した藤原道長の政権獲得の過程にふれるとともに、源氏の棟梁源頼光や紫式部の父藤原為時らを取り上げ、道長政権を支えたのは受領階級の人々であったことを確認する。道長の「御堂関白記」や藤原実資の「小右記」の記事を取り上げ、当時の貴族たちの実態について説明する。そして当時の末法思想や浄土教の流布の様相を具体的に上げるとともに、安倍晴明に代表される陰陽師たちの実像に迫る。その陰陽道は平安時代だけでなく、今日の社会にも根強く残存していることを確認する。
6 回	摂関政治の文化は国風文化といわれる。その国風文化の具体的に見ていくとともに「国風」の内容についても考える。紫式部の「源氏物語」を例に取り上げ、その中に中国文化が色濃く残されており、東アジアの交流の中で形成された国際性豊かな作品であることを確認する。その一方で、上級貴族たちが誰一人として外国に赴くことがなかったように、我が国の鎖国的体質についても説明する。また当時の女流文学の作品を残した女性のほとんどは受領層の出身者であったが、それはなぜなのかを検討する。
7 回	貴族の時代から武士の時代への大きな転換の時代にいち早く登場した源氏の台頭の経過について触れ、一方、平氏は源氏に遅れをとったものの、やがて源氏を凌駕し、院政を支える重要な軍事力となっていた。その両者が入り乱れて戦った保元の乱や、その後の平治の乱について具体的に説明する。そしてこの戦乱を経過することによって傭兵的存在であった武士が政権の帰趨を決定することが明らかになり、その結果として平清盛による平氏政権が成立する。この保元・平治の乱をもって中世とするのか、また平氏政権は武家政権であったのかという問題についても検討する。
8 回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	孝謙・称徳天皇と道鏡政権については瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、橋本治『日本の女帝の物語』（集英社新書）、北山茂夫『女帝と道鏡』（中公新書）、その時代の政変については倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）、遠山美都男『古代の皇位継承』（吉川弘文館）などがある。どれか一冊を図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間180分）
2 回	桓武天皇については、井上満郎『桓武天皇』（ミネルヴァ書房）、高橋昌明『京都「千年の都」の歴史』（岩波新書）、吉田勲『古代の都はどうつくられたか』（吉川弘文館）、山田雄司『跋扈する怨霊』（吉川弘文館）、蝦夷との戦いについては、熊谷公男『古代の蝦夷と城柵』（吉川弘文館）、高橋崇『坂上田村麻呂』（吉川弘文館）、樋口知志『阿弓流為』（ミネルヴァ書房）、高橋富

	雄『辺境』（教育社）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
3 回	嵯峨朝の政治については佐々木恵介『平安京の時代』（吉川弘文館）、吉川真司『平安京』（吉川弘文館）、遣唐使については古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、最澄と空海については、篠原資明『空海と日本の思想』（岩波新書）、木内堯大・多田孝正『最澄』（創元社）、後藤昭雄『天台仏教と平安朝文人』（吉川弘文館）、速水侑『呪術宗教の世界』（塙新書）、星野英紀・浅川泰宏『四国遍路』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
4 回	菅原道真については坂本太郎『菅原道真』（吉川弘文館）、将門・純友については村上春樹『将門記』（山川出版社）、樋口州男『将門伝説の歴史』（吉川弘文館）、松原弘宣『藤原純友』（吉川弘文館）、下向井龍彦『純友追討記』（山川出版社）、森公章『古代豪族と武士の誕生』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
5 回	藤原道長と受領については、北山茂夫『藤原道長』（岩波新書）、山中裕『藤原道長』（吉川弘文館）、臈谷寿『藤原道長』（ミネルヴァ書房）、倉本一宏『藤原道長の日常生活』（講談社現代新書）、同『藤原道長の権力と欲望』（文春新書）、古瀬奈津子『摂関政治』（岩波新書）、森田悌『受領』（教育社）、繁田信一『安倍清明』（吉川弘文館）、元木泰雄『源満仲・頼光』（ミネルヴァ書房）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
6 回	平安期の女流文学については、清水好子『紫式部』（岩波新書）、秋山虔『源氏物語』（岩波新書）、臈谷寿『源氏物語の風景』（吉川弘文館）、瀧浪貞子『源氏物語を読む』（吉川弘文館）、岸上慎二『清少納言』（吉川弘文館）、山中裕『和泉式部』（吉川弘文館）、王朝文化については、保立道久『平安王朝』（岩波新書）、木村朗子『女たちの平安宮廷』（講談社選書）、服藤早苗『平安朝女性のライフサイクル』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
7 回	武士の成立・台頭については、五味文彦『中世社会のはじまり』（岩波新書）、同『殺生と信仰 - 武士を探る』、元木泰雄『武士の成立』（吉川弘文館）、野口実『列島を翔る平安武士』（吉川弘文館）、保元・平治の乱から平氏政権の成立については、曾我良成『物語がつくった驕れる平家』（臨川書店）、元木泰雄『源頼義』（吉川弘文館）、五味文彦『平清盛』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間180分）
8 回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	「日本史A」に続き、日本列島内における近世以降の歴史を扱い、武士の台頭、明治維新など近現代へとつながる時系列の中で日本がどのような社会を形成してきたか、また文化や信仰・宗教がどのように変遷したかに関して講義を展開する。そのプロセスで歴史的な事象から得られる情報について、批判、そして客観的に再構築できる力を得ることが講義の目的である。諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。（教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する）
達成目標	我が国の古代から武家政権の成立、中世の幕開けまでを取り上げ、時系列の中で客観的に把握できる。 因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる。 歴史的な事象とその背景についての分析結果を深く考察できる。
キーワード	「奈良時代」「平安時代」「最澄・空海」「平将門・藤原純友」「摂関政治」「武士」「平安文学」「国風文化」「清和源氏」「桓武平氏」「保元・平治の乱」「平氏政権」
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。授業の進行過程で資料・プリント等を配布する。
関連科目	日本史A
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	歴史の面白さや深みのある内容を提示することを通して正しい歴史を理解し、正しい歴史認識を持てるようにする。 また、授業の出欠席の取扱いについては以下の通りである。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。 （２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。 （３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング 歴史の史料や絵画資料をできるだけ多く使用する。それらを元にして、その時代的背景や歴史的意

	義を考え、自分でまとめさせる作業を行わせる。
課題に対するフィードバック	最終評価試験の採点結果をグレード別にフィードバックする。そして今後学ぶべき参考文献などを提示し、授業後においても人の歴史だけではなく、獣医として必要な動物に関する歴史についても興味を持てるようにする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。日本語が十分習得できていない学生に対して、できるだけ丁寧に説明することを心がけるとともに、配布資料や試験においてルビを多くつけてわかりやすくします。また理解が不十分な学生には、別に課題を与えて学習させるようにします。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	元高等学校勤務。学校現場の経験を活かして、今日的な教育的な課題についても講義で触れる。 （１）第１回目から毎回出席をとるので、十分注意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告書等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。

科目名	外国史 B (FV24C130)
英文科目名	World History B
担当教員名	松澤仁志 * (まつざわひとし *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2 回	近代ヨーロッパ世界の成立について概観する。
3 回	近代国民国家の発展について説明する。
4 回	アメリカ合衆国の建国と発展について説明する。
5 回	帝国主義とアジアの民族運動について説明する。
6 回	二つの世界大戦の背景と展開について説明する。
7 回	第二次世界大戦後の世界について説明する。
8 回	第 1 回から第 7 回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと (90 分)
2 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
3 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
4 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
5 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
6 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
7 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (180 分)
8 回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと (270 分)

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを「外国史 A」に続いて考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代社会は 19 世紀のヨーロッパによる世界侵略がベースとなって形作られていることは確かであるが、その動きに対して世界の各地域の人々がどのように対応してきたのかが世界の現代史を決定づけたともいえよう。本講義では、近代以降の歴史の流れの中で、世界がお互いにどういう形で影響しあってきたのかを中心に解説する。 (教養教育科目の 4 領域のうちの思考・判断・表現に強く関与する)
達成目標	近代から現代までの世界史の流れを説明することができる 近代から現代までの世界史における異なる文明圏同士の相互交流の状況を説明することができる 現代までの世界史の未来につながる歴史的影響力について考察することができる
キーワード	歴史的因果関係、知的好奇心、人物像の考察、歴史的思考力
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準 60 点)	予習・復習プリント (30 %)、最終評価試験 (70 %) により成績を評価し、総計で 60 % 以上を合格とする。
教科書	市民のための世界史 / 桃木 至朗他 / 大阪大学出版会 / ISBN487259469X : ニューステージ世界史詳覧 / / 浜島書店 / ISBN4834320251
関連科目	「外国史 A」を履修していることが望ましい。
参考書	
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。(メールアドレスは講義初回に公開する)
授業の運営方針	授業プリントを毎回事前に配布する。 授業、及び、最終評価試験も授業プリントの内容を中心に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campus に模範解答の提示と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学	“ 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提

生への対応	供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ”
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	現代人の科学A (FV24D110)
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	柳井徳磨 (やないとくま)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？はじめに基本的な学びの必要性について、例を挙げて紹介する。
2 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？基本的な学びの姿勢について、学びの仕方を学習する。学びは生き方をどう変えるか？などについて考える機会を提示する。
3 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか？基本的な学びの姿勢について、東西の「人類の教師」の学びの仕方を学習する。特に「真理」をどう追求するか？
4 回	哺乳類・人類の誕生 哺乳類の誕生から人類の登場まで、進化の過程および謎について学習する。
5 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本の風土に関するテーマについて科学的側面を中心に解説する。 風土とは何か？ 日本列島の成り立ち 日本人はどこから来たか？ 縄文人と弥生人・神話と日本人
6 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本の風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 日本の歴史と地域性の成り立ち 日本の地域性とその特徴について 日本人およびその文化の特色は何か
7 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本とアジアの風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 アジアの定義と構成要因は？ 東アジア・東南アジアの国々とその風土の特徴について 日本と他のアジアの歴史・文化の比較
8 回	環境・食物に由来する病気 環境およびそこから得られた食物に起因した疾病について概要を学習する。 糖尿病 免疫の鍵をにぎる腸内細菌 発酵食品の効用、日本および世界の発酵食品の種類と特徴

回数	準備学習
1 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し、自分の日頃からの「学び」について考え、さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
2 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し、自分の日頃からの「学び」について考え、さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
3 回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し、自分の日頃からの「学び」について考え、さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
4 回	哺乳類の誕生、家畜の源流、人類の誕生、絶滅動物の歴史、など生物の進化と絶滅の歴史について、インターネットを利用して自分なりに考えておく。
5 回	縄文時代が日本人の形成に及ぼした影響について、片山一道著「骨が語る日本人の歴史」などを参考に概略理解しておく。さらに神話の時代における東アジアの環境について概略理解しておく。
6 回	インターネットなどを利用して、日本と東アジアの歴史・文化の差異を自分なりに考えておく。
7 回	インターネットなどを利用して、アジア諸国の歴史・文化の成り立ちを自分なりに考えておく。
8 回	糖尿病、腸内細菌、免疫力などのキーワードを基に、インターネットで疾病概要について調べておく。藤田紘一郎著「人の命は腸が9割」、小泉武夫著「発酵食品礼賛」を参考に、発酵および発酵食品が動物の健康にいかに関与しているかを概略を理解しておく。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、いくつかのトピックス
------	--

	を扱いながら現代科学の到達した自然観の全体的な枠組みを伝える。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 本授業の中で、自分たちを取り巻く環境、風土はどのように形成されたのか、また、身近な環境に何が起きているのか、などを理解することで、専門教科への円滑な導入が可能になり、より深い専門知識の理解と習得が期待できる。また、食の健康に及ぼす影響の重要性を理解することで、長い学生生活における学生自身の健康管理の基本的な要点を学習する。最後に、自分の属する社会、日本の立ち位置を学習することで、日本社会の特色と国際社会における長所を認識し、国際社会で生き抜くための拠り所になる「誇り」を身に着けることができる。
達成目標	まず、学ぶという活動の意義を自覚し、あらためて自分たちの住む環境と風土を知ること、日本人の特性とアジアにおける役割を認識するきっかけとする。 また、自分たちを育ててくれた環境の変化とそれに対する行動の必要性を理解する。さらに、自分の健康を支える食物と腸の役割を腸内環境の観点から認識する。また、伝統的な発酵食品の役割も併せて理解する。人と動物の健康を守るためには、いかに適切な食物を確保する必要があるかを理解しておく。 身近な科学する心の必要性について、自分で考える機会を確保すること。 外国人に日本の風土と歴史を正しく伝えることで、より親密なコミュニケーション力を身に着けさせる。
キーワード	学びの効用、動物および人の進化、日本の成り立ち、風土、食物、発酵食品
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	成績は講義期間中に実施するミニテストあるいはレポートの結果40%、最終評価試験60%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	人はなぜ学ばなければならないか / 斎藤孝 / 実業の日本社 / ISBN978-4-408-456 18-8 C0237 : 地球・生命 - 138億年の進化 / 谷合稔 / SBクリエイティブ / ISBN : 日本人が教えたい新しい世界史 / 宮脇淳子 / 徳間書店 / ISBN978-4-19-86417 3-3
関連科目	健康の科学
参考書	骨が語る日本人の歴史 / 片山一道 / 筑摩書房 / ISBN978-4-480-06831-6 C0245 : 神社に秘められた日本史の謎 / 新谷尚紀 / 洋泉社 / ISBN978-4-8003-0536-7 C0221 : 歴史が遺してくれた日本人の誇り / 谷沢永一 / 青春出版社 / ISBN978-4-413-04494-3 C0221 : 日本人はなぜ「小さいのち」に感動するのか / 呉善花 / ワック / ISBN978-4-89831-695-5 C0234 : アジア45ヵ国の国民性 / 造事務所 / PHP研究所 / ISBN978-4-569-76340-8 C0139 : 人の命は腸が9割 / 藤田紘一郎 / ワニ・プラス / ISBN978-4-8470-6067-0 C0247 : 発酵食品礼賛 / 小泉武夫 / 文芸春秋 / ISBN978-4-16-660076-2 C0277 : 「森友・加計事件」朝日新聞による戦後最大級の報道犯罪 / 小川榮太郎 / 飛鳥新聞社 / ISBN978-4-86410-574-3
連絡先	t-yanai@vet.ous.ac.jp (研究室425 0898-52-9202)
授業の運営方針	授業内容は可能な限り、最新の情報を取り扱い、授業内容をもとにレポート作成を課し、授業内で行う小テストにて、授業内容の習得状況を確認する。小テストは、基本的な内容を確実に把握する必要がある。
アクティブ・ラーニング	活用に向けて検討する。
課題に対するフィードバック	提出課題、演習等について、採点後のレポートなどを返却、最終評価試験に関しては、採点後の答案を返却し、模範解答および解説を配布する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 B (FV24D120)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 地域社会、国際社会について概説する。
2 回	地方分権 - 地方自治 - について講義する。
3 回	主要国の政治体制 - 議院内閣制と大統領制 - について講義する。
4 回	国境を超える政治 - 国際政治のアクター - について講義する。
5 回	冷戦の終わってからテロとの戦いへ (1) について講義する。第二次世界大戦後の冷戦期について学習する。
6 回	冷戦の終わってからテロとの戦いへ (2) について講義する。冷戦終結後の現代世界について学習する。
7 回	自由民主主義体制の諸原理 - 日本国憲法における平等 - について講義する。
8 回	これまで扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し講義の進め方を把握しておくこと。事前に地域社会、国際社会に関する時事問題について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに内容を整理し、特に知らなかったことについて調べること (9 0 分)
2 回	第 5 章「地方分権」を読み、地方自治について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに日本における地方自治の特徴を整理すること (9 0 分)。
3 回	第 8 章の138～146頁を読み、議院内閣制と大統領制を調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに主要国の政治体制の特徴について整理すること (9 0 分)。
4 回	第 1 2 章「国境を超える政治」を読み、国際社会における政治、中心的な機関である国際連合について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに国際政治の特徴、国際連合と連携機関について整理すること (9 0 分)。
5 回	第 1 0 章「冷戦の終わってからテロとの戦いへ」を読み、第二次世界大戦後の冷戦対立について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに冷戦時の国際政治の特徴を整理すること (9 0 分)。
6 回	第 1 0 章「冷戦の終わってからテロとの戦いへ」を読み、冷戦後の世界情勢について調べておくこと

	(9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとにテロや核兵器への取り組みなど現代の国際政治が抱える問題を整理すること (9 0 分)。
7 回	日本国憲法における自由と平等について調べておくこと (9 0 分)。受講後に、講義レジュメをもとに民主主義における基本的人権の意義、人権の具体的な内容について整理すること (9 0 分)。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、特に講義レジュメにおいて理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと (9 0 分)。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、「政治学A」に引き続き、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治の意味をさらに深めて考えたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Bでは、主として、＜政治の仕組み＞及び＜政治と世界＞について学ぶ。教養教育科目の4領域のうち、「知識・理解」に深く関連する。
達成目標	・現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国際社会という視点から政治を理解し基本的な用語を説明できること ・新聞やニュースの記事を正しく理解できること 以上が本講義の目標である。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、地方分権、政治体制、議院内閣制、大統領制、国際政治、自由民主主義、冷戦、テロ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100％）により評価する。60点以上を合格とする。
教科書	はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、国際関係論AB、教養演習AB
参考書	政治学／川出良枝・谷口将紀編／東京大学出版会／978-4-13-032219-5、NEW教科書シリーズ政治学／山田光矢編／弘文堂／978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。

連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各講義で配布する講義レジューメに従って内容を進める。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験については、試験後に一定期間を設けて解答をポータルサイトの講義資料（今治・獣医学部）の中のフォルダ「政治学B」に掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	経済学 B (FV24D130)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山中高光 * (やまなかたかみつ *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	[オリエンテーション] [マクロ経済をとらえる枠組み]GDP統計、三面等価、物価、経済成長、寄与度、成長方程式、総需要、総供給などマクロ経済の動きをとらえる枠組みを説明する。
2 回	[有効需要と乗数メカニズム]財市場の均衡、短期のGDPの決定メカニズム、有効需要の原理、乗数メカニズムについて説明する。
3 回	[貨幣と金融]貨幣の機能、日本のマネーストック、金融システム、信用創造、貨幣市場の均衡、金融政策について説明する。
4 回	[マクロ経済政策]財市場と貨幣市場(資産市場)の同時均衡、利子率とGDPの決定、財政政策・金融政策の効果、フィリップス曲線について説明する。
5 回	[インフレ・デフレと失業]インフレーション、デフレーション、失業について説明する。
6 回	[経済成長と経済発展]経済成長のメカニズム、ハロッド＝ドーマーの成長モデル。新古典派の成長理論、内省的経済成長モデルについて説明する。
7 回	[国際経済学]比較優位、自由貿易、国際収支、為替レート、マンデル＝フレミングモデルについて説明する。
8 回	[まとめ] 1回から7回までに学んだマクロ経済学の復習とより進んだ学習のために若干のガイダンスを行う。 後半45分で試験を行う。

回数	準備学習
1 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。テキストの予習とともに、GDPや利子率など関連するマクロ経済統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
2 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、GDP速報に関する報道等を読み、GDPの決定に関するエコノミストの見方や関連するマクロ経済統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
3 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、日本銀行に関する報道等を読み、金融政策に関するエコノミストの見方や関連する日銀統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
4 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、財政政策及び金融政策、雇用情勢に関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
5 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、物価や失業の動向及び関連する政府や日銀の政策などに関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
6 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、潜在GDPの動向や政府の成長戦略などに関する報道等を読み、日本経済の将来を展望しつつ、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
7 回	予習と復習合わせて3時間以上の時間が必要である。配布資料及びテキストの予習とともに、国際収支や外国為替の動向及び関連する政府や日銀の政策などに関する報道等を読み、エコノミストの見方や関連する統計の推移を把握し、テキストの練習問題を解き、疑問点などを明確にしておくこと。
8 回	復習に3時間以上の時間が必要である。最終評価試験に備えて十分な準備をしておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Bではその中でも特に市場について講義する。また、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論の概略についても講義する。 (教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	1. 学生が基本的な経済理論を理解できる。

	2. 学生が様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	マクロ経済学、GDP統計、乗数モデル、IS - LM分析、マクロ経済政策、財政政策、金融政策、インフレ・デフレ、失業、経済成長、国際経済学
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験で成績評価する。試験は、授業で行った基本的な経済理論を理解できているかどうかを評価するために、基礎的な専門用語の使用及び説明が適切にできるか、科学的・論理的に把握しているかをみるために、仮説的な事象についての正誤の判断、計算に関する問題を課す。60点以上を合格とする。
教科書	入門経済学第4版 / 伊東元重 / 日本評論社 / ISBN 978-4-535-55817-5
関連科目	経済学Aを履修することが望ましい。
参考書	経済学・入門 第3版 / 塩澤 修平 / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-22004-1 : マンキュー入門経済学 第2版 / マンキュー / 東洋経済新報社 / ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
授業の運営方針	教科書と補完する資料等をまとめた資料を事前に配布し、授業ではその解説、議論、練習問題の解答などを行う。定期試験(最終評価試験)は最終授業で行うが、事前に試験に関する説明などを行うので、注意してもらいたい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	練習問題(仮題)は可能な限り授業中に解説する。最終評価試験の模範解答と解説は掲示によって行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音 / 録画 / 撮影などの許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講義では、微分を利用する。 試験形態は計算問題も含め筆記試験とする。

科目名	法学B (FV24F110)
英文科目名	Law B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	民法および契約の基礎について学修する。民法の基本原則と契約の成立要件について学修する。
2 回	契約の主体について学修する。誰が契約を締結することができるのかについて学修する。
3 回	債務不履行について学修する。契約により生じた債務が履行されない場合のルールについて学修する。
4 回	獣医療における医療過誤訴訟について学修する。裁判例をもとに、獣医療における医療過誤訴訟の法律上の問題点について学修する。
5 回	獣医療におけるインフォームド・コンセントについて学修する。インフォームド・コンセントの意義や人に対する医療におけるインフォームド・コンセントとの違いなどについて学修する。
6 回	家族法について学修する。婚姻および離婚の成立要件や相続に関するルールについて学修する。
7 回	刑法の基礎について学修する。罪刑法定主義や違法性阻却事由などの刑法の基本的なルールについて学修する。
8 回	行政法の基礎について学修する。行政作用法および行政救済法の基本的なルールについて学修する。

回数	準備学習
1 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、民法および契約の基礎に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
2 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、契約の主体に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
3 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、債務不履行に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
4 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、獣医療における医療過誤訴訟に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
5 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、獣医療におけるインフォームド・コンセントに関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
6 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、家族法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
7 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、刑法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)
8 回	予習として、授業プリントを読み、キーワードとその意味についてまとめてくること。(90分) 復習として、行政法に関する課題についてのレポートを完成させること。(90分)

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Bで主として取り扱う分野は「民法」と「刑法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。教養教育科目4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与する。
達成目標	○ 契約に関するルールを説明できるようになること。 ○ 家族法について説明できるようになること。 ○ 刑法の基本原則について説明できるようになること。
キーワード	民法，刑法
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に実施する試験（20点満点）と授業時間外に作成して提出するレポート（80点満点）により成績を評価し、合計点が60点以上で合格とする。試験およびレポートは毎回課す。
教科書	MOMO-Campusにおいて配布する授業プリントを使用する。
関連科目	法学の基礎についての学習は法学Aで行うので、それを履修した後でこの講義を受講するのが望ましい。
参考書	民法入門（第7版）／川井健／有斐閣／978-4641136250：刑法入門（岩波新書）／山口厚／岩波書店／978-4004311362
連絡先	研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	毎回講義の冒頭で試験を実施するので、MOMO-campusから授業プリントをあらかじめ入手し、それを読んで予習をしてから授業に臨むこと。授業中に授業プリントは配布しない。なお、試験は一切の参照不可で実施する。
アクティブ・ラーニング	○ 演習 毎回授業の冒頭において試験を実施する。 ○ ライティング 毎回レポート課題を課す。
課題に対するフィードバック	試験およびレポートに対するフィードバックは授業時間内に行う。

バック	
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 B (FV24F120)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 現代社会における「教養」の必要性和日本を取り巻く国際情勢を把握することの意義について説明する。
2 回	TPPが与える日本社会への影響について解説する。
3 回	安全保障法制（集団的自衛権）について解説する。
4 回	地球温暖化対策（パリ協定）が抱える諸問題について解説する。
5 回	日本の領土問題について解説する。
6 回	EUがかかえる諸問題、アジアの政治経済について解説する。
7 回	人権とは何か（人権が目指すもの）について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、事前に講義内容を把握しておくこと（90分）。受講後に、取り上げた具体的事例について図書館やwebを活用し調べること（90分）。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと（90分）。講義内容について理解を深めるため、受講後関連する新聞記事等を調べること（90分）。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと（90分）。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、「市民性＝社会参画の権利と義務」「社会的責任」をテーマにして議論する。題材は、国際的な視野から安全保障法制、地球環境、領土問題、人権問題等の現在進行形の社会時事問題である。受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。教養教育科目の4領域のうちの「思考・判断・表現」と深く関連する。
達成目標	・報道内容をそのまま受け止めるのではなく、自分なりの考えを持って判断できる。 ・国際情勢を踏まえた上で、日本の抱える問題を捉えることができる。 ・問題に対する自分なりの判断を、言葉や文章で表現できること、を目標とする。
キーワード	教養、社会問題、時事、TPP、安全保障、集団的自衛権、地球温暖化、日本の領土、EU、アジア、人権
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	レポート形式の最終評価試験（80％）と毎授業課題（20％）の合計を100点として評価する。60点以上を合格とする。評価基準としては、テーマに関する記述が正しいこと、自己の見解を持ち根拠を示していること、国際的な視野から論じていること、文章作法について適切であることを総合して判断する。
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
関連科目	社会と人間A、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	獣医学部教育病院棟 4 階419研究室、e-mail:s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	各授業の最後に講義を受けた感想、自分の意見を記入したレポートの提出を課す。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や私見を記入することを実施する。
課題に対するフィードバック	講義の中で事前に最終評価試験（レポート形式）の評価基準を示すことを前提とし、試験の結果について希望する者には点数を開示し評価の根拠を提示する。

合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、幅広く教養・社会常識を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 B (FV24P110)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	矢野葉子* (やのようこ*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および、心理学で取り扱う、感じる-考える-動くとはなにか？そして自分とはなにか？について概説し、今後の講義方針を説明する
2 回	感じる-注意/感覚/知覚について、概説する
3 回	感じる-感情・情動について、概説する
4 回	考える-認知/記憶について、概説する
5 回	考える-記憶/思考・推論について、概説する
6 回	動く-行動/学習について、概説する
7 回	動く-レスポナント条件づけについて、概説する
8 回	動く-オペラント条件づけについて、概説する

回数	準備学習
1 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、「自分が抱いた感情/とった行動/浮かんだ考え」について、数例まとめておくこと(180分)
2 回	日常生活において、何かを見た/聞いたときの状況について、5W1Hに基づき、数例詳しく記録しておくこと(180分)
3 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、自分がどんな感情をいだいたかについて、数例記録しておくこと(180分)
4 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、思い浮かんだ考えについて、数例記録しておくこと(180分)
5 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、思い浮かんだ考えに基づき自分がどのような判断あるいは考えに至ったかについて、数例記録しておくこと(180分)
6 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、自分がどんな行動をしたかについて、数例記録しておくこと(180分)
7 回	日常生活において、ある対象に好意を持つ、および、ある対象に嫌悪を抱くとき、出来るだけ具体的にその理由となるエピソードを記録しておくこと(180分)
8 回	日常生活において、自分あるいは他者の困っている/改善したい状況について、できるだけ具体的に記述および記録しておくこと(180分)

講義目的	心理学とはなにか？心を扱う学問とはなにか？について、感じる-考える-動くという切り口から、やや深く切り込んで概説する。心理学という学問の深淵に触れることで、より良い人間性の育成を目指す。(教養教育科目の4領域のうちの知識・理解に強く関与する)
達成目標	感じる-考える-動くという切り口から、心理学についてやや深い知識を理解することで、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	注意、意識、感覚、知覚、認知、行動、学習、記憶、推論、思考、条件づけ、感情、情動、生得的行動、レスポナント、オペラント、行動分析学、随伴性、アフォーダンス
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各講義中の課題(60%) 第8回講義後に提出する最終評価レポート(40%)総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	心理学B
参考書	講義内で指示する
連絡先	講義内で指示する
授業の運営方針	・レポートは期限内に提出すること ・講義資料、あるいはそれに準ずるものは、基本的にはポータルサイトを通じて配布するが、詳細は第1回講義にて説明する ・その他、受講するにあたってのマナーやルールについては、第1回講義にて説明する
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中の課題については、模範解答を課題提出後に提示および解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。申し出があれば、それぞれ個別に対応します。詳しくは第1回講義のオリエンテーションにて説明します

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回講義のオリエンテーションにて説明する

科目名	キャリア形成講座B (FV24P120)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ), 小林忠資(こばやしただし), 戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ディスカッションの進め方について学修する。 (小林 忠資)
2回	第1回PBLを行う。その第1段階として、各グループ内で、シナリオからの課題の発見と各メンバーの調査プランの策定を行う。 (渡邊 剛央)
3回	第1回PBLを行う。その第2段階として、グループ内で、各メンバーが調査結果を発表し、情報を共有する。そのうえで、グループとしての課題の解決策を策定し、その解決策を発表するための準備を行う。 (渡邊 剛央)
4回	第1回PBLを行う。その第3段階として、各グループによる課題の解決策をプレゼンテーションを行う。 (渡邊 剛央)
5回	第2回PBLを行う。その第1段階として、各グループ内で、シナリオからの課題の発見と各メンバーの調査プランの策定を行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
6回	第2回PBLを行う。その第2段階として、グループ内で、各メンバーが調査結果を発表し、情報を共有する。そのうえで、グループとしての課題の解決策を策定し、その解決策を発表するための準備を行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
7回	第2回PBLを行う。その第3段階として、各グループによる課題の解決策をプレゼンテーションを行う。 (小林 忠資, 戸田 修司)
8回	これまでの授業の振り返りを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	予習として、ブレインストーミング、KJ法について調べること。(90分) 復習として、ディスカッションの進め方についてまとめること。(90分)
2回	予習として、ディスカッションの進め方を確認しておくこと。(60分) 復習として、各自で分担する課題についてのレポートを完成させること。(120分)。

3 回	予習として、プレゼンテーションの方法について調べること。(60分) 復習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分)
4 回	予習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分) 復習として、プレゼンテーションの改善策についてまとめること。(60分)
5 回	予習として、前回のディスカッションを踏まえた、ディスカッションの改善策をまとめてくること。(60分)。 復習として、各自で分担する課題についてのレポートを完成させること。(120分)。
6 回	予習として、前回のプレゼンテーションを踏まえた、プレゼンテーションの改善策をまとめてくること。(60分)。 復習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分)
7 回	予習として、プレゼンテーションの準備を行うこと。(120分) 復習として、プレゼンテーションの改善策についてまとめること。(60分)
8 回	予習として、これまでの授業における自分および他のメンバーの活動を振り返り、良かった点・改善すべき点をまとめてくること。(90分) 復習として、授業の振り返りを通じて、自分の改善点をまとめること。(90分)

講義目的	社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）の理解および習得とレベルアップを講座の目的とする。講義はアクティブラーニング手法による実践的演習を軸として展開し、個人→ペア→チームといった段階的レベルアップワークの徹底により、即戦力人材となるための能力習得を図る。講義は実社会の現場で日々起こるテーマを題材にし、能力の顕在化と実践的応用力の習得も目的とする。加えて、ビジネス心理学、人口問題等の社会動向、国際感覚、CSRマインドなどの現代テーマも盛り込み、課題解決力を身につけるための知識・技術の習得と自らのキャリアをデザインする力の醸成も行う。
達成目標	- 社会問題に対する解決策を生み出せるようになること。 - 他人と協力して目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成，グループ・ディスカッション

試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	各回のグループによる発表の評価（比率50％）と個人が提出するレポートの評価（比率50％）を100点満点に換算し，60点以上で合格とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	キャリア形成講座A
参考書	ロジカル・ディスカッション—チーム思考の整理術／堀公俊・加藤彰／日本経済新聞出版社／978-4532490805
連絡先	授業代表：渡邊剛央 研究室：獣医学教育病院4階423教室 オフィスアワー：火曜2限 メールアドレス：t-watanabe@vet.ous.ac.jp 研究室直通電話番号：0898-52-9200
授業の運営方針	グループワーク中心なので，積極的にワークに参加することが求められる。また，欠席すると同グループの他のメンバーに迷惑をかけることになり，また，評価も下がることになるので，正当な理由なく欠席しないようにしてほしい。
アクティブ・ラーニング	○ P B L 社会問題を用いた，Ploblem Based Learningを実施する。
課題に対するフィードバック	レポートおよびプレゼンテーションに対するフィードバックは授業時間内に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので，配慮が必要な場合は，事前に相談すること。講義中の録音／録画／撮影は自由であるが，他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法基礎編 B (FV24Q110)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題 「あなたが自慢できること」について書く。
2 回	課題 「友人から学んだこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
3 回	課題 「今までで最も努力したこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
4 回	課題 「社会人としての責任」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
5 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」 (2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に修正点を指導する。
7 回	課題 「男女共同参画社会について」 についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと (3 0 分)。 予習：課題 の概要を準備しておくこと (6 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。
2 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (9 0 分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること (9 0 分)。
3 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと (9 0 分)。

	復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
４回	予習：課題 の概要を準備しておくこと（９０分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
５回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること（９０分）。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること（９０分）。
６回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと（９０分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
７回	予習：課題 について調べ、レポートの概要をまとめておくこと（９０分）。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること（９０分）。
８回	これまでの授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと（９０分）。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	レポート、小論文、エントリースート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%）
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版 / 井下千以子 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4-7664-2107-1
関連科目	文章表現法基礎編A、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。

	グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FV24Q120)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) をする。 本授業での自分の目標を発表する。
2 回	ポスター発表に向けてテーマと構成を決める。
3 回	ポスター作成と発表の基本を理解する
4 回	設定したテーマに対するポスターを作成する
5 回	ポスター発表をする
6 回	グループでの口頭発表に向けて準備する
7 回	グループで口頭発表をする
8 回	発表と振り返りをする。

回数	準備学習
1 回	予習として、シラバスを確認し、本授業での自分の目標を明確にしておくこと (60分)。
2 回	予習として、岡山理科大学獣医学部の魅力を考え、高校生に説明できるようにしておくこと (180分)。
3 回	予習として、ポスターを作成するうえで必要な内容を調査し、まとめておくこと (180分)。
4 回	予習として、グループでポスターを作成しておくこと (60分)。
5 回	予習として、ポスターを完成させ、発表の準備をしておくこと (180分)。
6 回	予習として、設定したテーマに関して調べておくこと (90分)。 復習として、グループで発表に向けたスライド資料を作成しておくこと (240分)。
7 回	予習として、スライド資料を完成させ、発表に向けた準備をしておくこと (180分)。
8 回	復習として、自身のグループ発表と学習プロセスを振り返り、よかった点と改善点をまとめる (180分)。

講義目的	本講義の目標は、高度なプレゼンテーションの技法を学び、学会発表や研究発表等が効果的に行えるようにすることである。より実践的にプレゼンテーションのトレーニングを行う。テーマを決め、プレゼンテーションを作成させ、グループ内での発表とクラス全体での発表を組みあわせ、発表の機会を増やす。友人の発表を批判的に見ることで、そこでの気づきを自分のプレゼンテーションに反映させる。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	ポスター発表(40%)、グループでの口頭発表(40%)、最終レポート(20%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない
関連科目	プレゼンテーション基礎編Aを履修しておくことが望ましい
参考書	適宜指示する
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp

	TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為（私語、立ち歩く等）はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマに関してグループで発表する ディスカッション 発表に向けてグループで議論する
課題に対するフィードバック	グループ発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 グループ発表に対して、学生同士でコメントを書き、ピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	プレゼンテーション応用編B (FV24U210)
英文科目名	Presentation Skills (Advanced) B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、自己PRのためのプレゼンテーションの方法を説明する。
2回	自身の関心のある職域についての発表資料を作成する。
3回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
4回	探究型テーマの発表の方法を理解する。
5回	発表の内容を検討する。
6回	発表資料を作成する。
7回	プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	自身のプレゼンテーションの振り返りをする。

回数	準備学習
1回	予習としてシラバスを確認し、就職活動や研究発表に求められるプレゼンテーションとはどのようなものかをまとめておくこと(90分)。
2回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと(180分)。
3回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと(180分)。
4回	自身の関心のテーマについて調べ、問いを10個以上作っておくこと(180分)。
5回	予習として、発表資料を作成するための情報を収集し、整理しておくこと(180分)。
6回	予習として、Power Pointを用いて設定したテーマに対するスライド資料案を作成しておくこと(180分)。
7回	予習として、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと(180分)。
8回	予習として、自身のプレゼンテーションに対するフィードバックをもとに優れていた点と改善点をまとめておくこと(180分)。

講義目的	本講義では、大学での研究発表や就職活動、就職後のビジネスや職務、地域社会での活動に必要なプレゼンテーションおよびコミュニケーション力を深めることをめざす。具体的には、受講生全体でのディスカッションとディベート、あるいはグループ単位でのディスカッションを通じて、プレゼンテーション技法とコミュニケーション意識を確認する。またその応用事例として、クレームの発生と対応、企業研究、エントリーシートと面接、採用試験の実例等を取り上げながら、受講生が行う演習によって理解度と習熟度を評価し、必要な改善を指導する。(教養教育科目の4領域のうちの技能に最も強く関与する)
達成目標	プレゼンテーションの技法と発想を理解し、コミュニケーションのスキルを身に着ける。 就職活動や研究発表、ビジネスに必要なコミュニケーション力を養う。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業中に作成したワークシートの提出(20%)、中間発表(40%)、最終発表(40%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じて指示する。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション基礎編B、プレゼンテーション応用編Aを履修しておくことが望ましい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	獣医学教育病院棟4階418 オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限 E-mail t-kobayashi@vet.ous.ac.jp TEL 0898-52-9189
授業の運営方針	・他人に迷惑をかける行為(私語、立ち歩く等)はしないで下さい。 ・授業中、携帯電話はマナーモードにしてください。 ・バッグ等は膝の上に抱えず、床に置くか、机や椅子にかけて下さい。 ・許可された場合以外に、授業中の食事はしないで下さい。飲料は飲んでも構いません。 ・欠席者分の配布資料は保管しません。欠席時は、他の受講者にコピーさせてもらってください。 ・学問的な不誠実な行為に対しては厳格に対処します。

	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 設定したテーマについて発表する
課題に対するフィードバック	発表に対して、教員が口頭でフィードバックを行う。 発表に対して、学生が紙面でピア・フィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法応用編 B (FV24V210)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文に加えて、就職活動におけるエントリーシートの文書作成の方法、その中で自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 課題 「学生生活で得たこと」について文章を作成する。
2 回	課題 「あなたが挑戦したいこと」について文章を作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
3 回	課題 「失敗から学んだこと」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
4 回	課題 「地球温暖化について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるかを話し合い、そこで得たポイントを基に課題 を修正するポイントを指導する。
5 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」(1) グループワークを行い、各自が選定したニュースの概要・問題点・私見について話し合う。内容が伝わり説得力のある文章を書くにはどうすればよいのかについて、グループワークで出た意見を踏まえてポイントを指導する。
6 回	課題 「最近印象に残ったニュースについて」(2) 前回の講義内容を踏まえて、各自が選定したニュースについてレポートを作成する。グループワークを行った上で、説得力を高め自己の主張を明確に伝えるためのポイントを指導する。
7 回	課題 「地域社会と外国人について」についてレポートを作成する。 グループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでのグループワークを通して気づいたことや学んだことを含め、文章作成において必要なことを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと(30分)。 予習：課題 の概要を準備しておくこと(60分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
2 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
3 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
4 回	予習：課題 の概要を準備しておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
5 回	予習：取り上げたいニュースを選定し、事前に調べ資料等を準備してくること(90分)。 受講後に、講義の中で学んだことを整理し、必要があれば追加の資料を準備すること(90分)。
6 回	予習：前回の講義を踏まえて、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
7 回	予習：課題 について調べ、レポートの概要をまとめておくこと(90分)。 復習：課題 について、授業内容を反映させて修正すること(90分)。
8 回	これまで授業において学んだ文章作成のポイントをまとめて、自身の課題を確認しておくこと(90分)。

講義目的	本講義では文章表現の応用として、就職活動で必要となる文章スキルを確認するとともに、一般社会で求められる文章表現の常識を身につけることをめざす。具体的には、履歴書やエントリーシートについて基本的な注意点や表現のポイントを解説した上で、インクを使った手書きによる作成に取り組むほか、広告文の作成を通じて課題の理解と状況の分析を踏まえたコミュニケーション力を養う。また社会人として必要となるビジネスレターや挨拶状、契約書、企画書といった、さまざまな文章実務の実例も取り上げる。教養教育科目の4領域のうち、「技能」と深く関連する。
達成目標	・履歴書やエントリーシートを作成する上で、それぞれの記入項目が何を求めているのか(意図)を正確に把握し、意図に沿った内容を表現できる。 ・小論文等の課題内容を正確に理解した上で、自分の考えをより魅力的に伝えることができる。 ・自身の考えの根拠を具体的に示した上で、より説得力のある文章を作成できる。 ・レポート、小論文、エントリーシート等の文章について

	、より豊かな表現力を用いて説得力のある文章を作成することができる。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	提出課題（60％）と最終評価試験（40％）を合計100点とし、60点以上を合格とする。
教科書	思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版 / 井下千以子 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4-7664-2577-2
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編AB、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	獣医学部教育病院棟4階419研究室、e-mail : s-toda@vet.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業における6回分の課題については提出を課し、成績評価に入れる。遅刻は、講義開始から30分以内までとし、それ以後は欠席とみなす。
アクティブ・ラーニング	ライティング 各講義における課題について、指導内容に沿ったレポート作成を行う。グループワーク 3～4名を1グループとし、課題に関する意見交換や作成したレポートに関する輪読と話し合いを行う。
課題に対するフィードバック	6回分の提出課題については、講義の中で総括を行う。最終評価試験については、講義の中で評価基準を提示することを前提とし、希望者には点数を開示し評価の根拠を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音や録画は正当な理由があれば許可するが、SNSに掲載することは禁止する。
実務経験のある教員	元公務員専門学校勤務：公務員試験対策や就職に必要な社会人としての素養を指導してきた実務経験を活かして、社会人として通用する文書の書き方を身につける方法を講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	企業と人間 B (FV24W120)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	八木力俊 * (やぎりきとし*)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション～日本的経営の「三種の神器」とそれと関連した雇用慣行（新規卒採用と企業内教育）について概説する
2 回	キャリア形成1：日本の企業の従業員採用慣行（「就職」）について、「就社」という概念も活用し、説明する
3 回	キャリア形成2：「年功制」、「終身雇用」、「内部労働市場」を説明し、賃金制度、昇進制度の視点から、働き方の変化を講述する
4 回	キャリア形成3：「コンプライアンス」と「CSR(企業の社会的責任)」を説明し、企業がどのような努力をしているのか紹介する
5 回	キャリア形成4：「ワークライフバランス」「タイムマネジメント」を説明し、企業内労働について論述する
6 回	キャリア形成5：企業内キャリアを構築する上で間接的作用を果たしている配置転換、ジョブ・ローテーション/エンリッチメント、企業内等級制度などの人材管理・開発施策について説明する
7 回	キャリア形成6：従業員教育（企業内教育）のシステムとOJT, OFF-JTをテーマに論述する。マネジメント育成の「カットモデル」についても解説する
8 回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行い、その後（45分）で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1 回	「日本的経営」と用語について適切な媒体を通して調べておくこと。（平均学習時間約60分）
2 回	就職活動のプロセスやエントリーシートについて事前に調べておくこと（平均学習時間約60分）
3 回	父母、きょうだいから「年功制」について、ヒアリングをしておくこと（平均学習時間約60分）
4 回	過去の企業のコンプライアンス違反事例をネット等から調べておくこと（平均学習時間約30分）
5 回	自身の1日のタイムスケジュールについて表にしておくこと（平均学習時間約30分）
6 回	近親者から、配置転換の経験を取材しておくこと（平均学習時間約60分）
7 回	「OJT」、「OFF-JT」の違いについて事前に調べておくこと（平均学習時間約60分）
8 回	講義ノートの再整理、参考文献の主内容をノートに書き取っておき、試験に備えること。また、理解に至らなかった点について質問できるようメモをしておくこと

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力の習得を促す。また、「経営とは何か」「組織マネジメントの意味」を具体的に理解させることにより、日本のリーディング企業の経営戦略を理解させ「良い会社とは何か」を考えさせる。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業・職業生活の人間形成作用や、キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であることを理解できるようにすること
キーワード	キャリア形成、労働市場、企業内教育、人間関係
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する。 ・達成目標である、「職業生活の人間形成作用」や、「キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であること」への理解度を確認する。 ・100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	使用しない
関連科目	キャリア形成講座
参考書	各回に適宜指示する
連絡先	岡山校キャリア支援センター
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める

	・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること
実務経験のある教員	・社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい

科目名	健康の科学 (FB201210)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いて、人体の構造について学習し、人体を構成する器官系の働きについて理解する。
2 回	スキャモンの発育・発達曲線について説明する。人間が発育・発達していくプロセスを理解する。さらに、健康づくりに重要な役割を担う体力についても説明する。
3 回	「健康観」と「健康の定義」について説明する。生活の視点から健康を捉え、理解を深めることが重要であることを学習する。
4 回	わが国の疾病構造の変化と平均寿命からみた健康水準の変化について説明する。
5 回	健康寿命について説明する。クオリティー・オブ・ライフという考え方に根ざして、人がどれだけ健康で豊かに生きられるかを表す指標であることを理解する。
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明する。
7 回	肥満の基準と肥満症について説明する。体格指数 (BMI) と標準体重を計算する。
8 回	メタボリックシンドローム (代謝症候群) について説明する。
9 回	主な生活習慣病について説明する。サイレントキラー (沈黙の殺人者) と呼ばれる病気について理解する。
10 回	マズローの欲求階層説について説明する。人が行動を起こすときの原因 (動機) を理解する。
11 回	適応機種の種類と問題点について説明する。日常茶飯事に起きている人間の自然な心理現象を理解する。
12 回	ストレッサーとストレスについて説明する。
13 回	ストレスマネジメント (エネルギーの有効活用法) について説明する。
14 回	心身相関 (自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係) について説明する。
15 回	心身症について説明する。発症や経過に心理社会的ストレスが強くかかった病体であることを理解する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：人体を構成する器官系の働きについてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	予習：スキャモンの発達・発育曲線が表している臓器別の組織特性と体力の構成要素について調べておくこと。復習：健康の中核をなす体力の発達は、諸器官の発育・発達に大きく影響を受けることについてまとめておくこと。標準学習時間120分)
3 回	予習：人間の生活様式と生活環境は、深く健康の問題と関連していることを調べておくこと。復習：疾病の予防や健康の保持増進は、個人の健康維持だけでは達成し得ないことについてまとめ、説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	予習：わが国の疾病構造の変化と平均寿命の変化について調べておくこと。復習：時代や社会の状況によって大きく左右され、その集団の実態を表している健康水準の変化についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	予習：わが国の平均寿命と健康寿命の差について調べておくこと。復習：平均寿命と健康寿命の差が拡大した場合の懸念される影響についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	予習：病気を進行させる生活習慣を調べておくこと。復習：生活習慣病の予防と学生の頃からの生活習慣の適正化についてまとめておくこと。また、“生活習慣病”に関する提出課題を完成させること。(標準学習時間120分)
7 回	予習：BMI (体格指数)、標準体重の計算式を調べておくこと。復習：肥満になる原因 (背景) と肥満の改善についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	予習：メタボリックシンドロームの診断基準について調べておくこと。復習：メタボリックシンドロームの危険因子についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	予習：サイレントキラーと呼ばれる病気について調べておくこと。復習：生活習慣病の恐ろしさについてまとめておくこと。また、“セルフメディケーション”に関する提出課題を完成させること。(標準学習時間120分)
10 回	予習：マズローの欲求階層説について調べておくこと。復習：マズローの欲求階層説についてまとめ、説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	予習：欲求と行動、欲求不満について調べておくこと。復習：適応機種の種類と問題点についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)

1 2 回	予習：自分にとっての、良いストレスと悪いストレスについてまとめておくこと。復習：ストレスとストレスについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	予習：ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について調べておくこと。復習：ストレスマネジメント法についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	予習：心と体の相互に影響し合う関係について調べておくこと。復習：さまざまなシステムの上に心が載って、生命が保たれていることが説明できるようにまとめておくこと。“知っておきたい健康分野の用語”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間120分）
1 5 回	習：心身症として起こりやすい病気について調べておくこと。復習：心身症の特徴についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 6 回	これまでの学習を整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	健康は生涯にわたる自己実現の基盤となる。健康の構成要素として「心（精神）」、「身体」、「社会との関わり」があげられ、これらは密接な関係にある。これらの基礎知識や実践力を身につけて、生涯のライフステージにおける健康の保持増進に主体的に取り組む知識や態度、能力を養う。（教養教育センターの単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する）
達成目標	1) 健康と自己実現との関わりや健康の構成要素について説明できること（知識・理解） 2) 生涯における各ライフステージの特徴とそれに応じた主体的なヘルスプロモーションについて説明できること（知識・理解） 3) 健康と私たちをとりまく環境や社会との関わりについて説明できること（知識・理解）
キーワード	スキヤモンの発達・発育曲線、健康寿命、生活習慣病、メタボリックシンドローム、マズローの欲求階層説、適応機制、メンタルヘルス（精神衛生）、心身相関、心身症
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験70%（達成目標1、2、3を評価）、提出課題30%（主に達成目標1を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	指定しない。
連絡先	研究室 B3号館5階 森 博史研究室 オフィスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は、講義の中で適宜配布する。 ・講義内容の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・課題の提出は期限を守ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックは模範解答を研究室ドアに掲示する。（掲示日時は講義の中で伝達する）
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	健康の科学 (FB201250)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	健康の科学15回の目的と内容について学習する。
2 回	人類の誕生と、健康観について学習する。
3 回	人の誕生から思春期について学習する。
4 回	加齢による身体の変化と精神的な変化について学習する。
5 回	生活習慣病について学習をする。
6 回	疾病構造の変化を時代にそって理解する。
7 回	感染症について理解をする。
8 回	現在社会の健康とストレスについて学習をする。
9 回	心身相関のしくみと心身症について学習する。
1 0 回	マズローの欲求階層説について理解する。
1 1 回	人間理解のその としてコンプレックスについて理解する。
1 2 回	人間理解のその として意識と無意識の世界を理解する。
1 3 回	人間理解のその として人間とタイプについて学習する。
1 4 回	自然と人間について、特に自然の偉大さについて理解をする。
1 5 回	生涯スポーツの意義について理解する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	自分自身の健康観を考えておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	妊娠出産の科学と、乳児・幼児の成長の過程、性の確定と二次性徴について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	年齢による身体の変化と高齢者社会について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	ライフスタイルが健康のキーポイントになることの理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	疾病構造が変化した内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	感染症と性感染症について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	社会状況が私たちにおよぼす影響について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	心身症について理解をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	マズローについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	コンプレックスについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	心理学者のフロイト、ユングについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	内向・外向、思考・感情・直感・感覚について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	文明が人間にもたらしたもの。自然の偉大さについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	生涯スポーツと健康との関連について理解を深めておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	自己実現を可能にするためにも、自己を見つめる目を養い、健康についての理解を深め生涯におけるヘルスプロモーションについて理解し、実践していく態度を育成する。 私たちをとりまく社会や環境についても理解を深め、地球規模での考えが必要なことを理解し、自己だけでなく、社会や環境との関わりについて考える。(教養教育センター単位認定方針のDのもっとも強く関与する)
達成目標	人間の誕生、乳幼児期、青年期から老年期まで、各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた基礎的なヘルスプロモーションができること。 健康について各自が理解を深め、自己の健康を見つめることの必要性を知ること。 人間理解を深め、個人の可能性を高め、対人関係を見つめる目を養うこと。
キーワード	妊娠・出産、青年期、生活習慣病、疾病、心身相関、欲求、臨床心理学、適応機制、生涯スポーツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題(30%)、最終評価試験(70%)
教科書	プリント類などを適宜配布する
関連科目	生涯スポーツ
参考書	プリント類などを適宜配布する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村(次)研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。

	・携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしまっておくこと。 ・授業で配布する資料の予備については保管しないため、後日の配布には応じない。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護等体験や教育実習等で欠席する場合は事前に届を提出すること。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題については授業中にフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第1回目の授業には必ず出席すること。 受講者が多数の場合、適宜受講制限を行う可能性がある。

科目名	健康の科学 (FB201260)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。生涯にわたる健康の意味とマスローの自己実現について理解する。
2 回	自己実現の基礎となる、心（精神）と身体、社会との関わりについて説明する。ライフステージの特徴について説明する。人生の一回性の認識と生きがい感の創造について説明する。
3 回	脳と神経の働き、欲求不満と適応機制、心身相関とストレス、ストレスへの対処について説明する。
4 回	性格、人格、人間理解について説明する。
5 回	Y G 性格検査を行い、性格検査について説明する。
6 回	カウンセリングについて説明する。
7 回	至高経験、創造的人間、楽しむということ、マスロー、チクセントミハイについて説明する。
8 回	中間試験とこれまでのまとめ。ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。
9 回	スポーツの根源的な意味や自己実現、ライフステージとの関わりについて説明する。
1 0 回	生涯スポーツ、競技スポーツ、障がい者スポーツについて説明する。
1 1 回	ドーピング（禁止薬物使用）について説明する。
1 2 回	古代オリンピックと近代オリンピックについて説明する。
1 3 回	ライフステージにおける健康と体力の保持、増進について説明する。
1 4 回	性感染症について説明する。。
1 5 回	環境と健康について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。健康の意味とマスローの自己実現についてまとめておくこと。復習：マスローの欲求段階についてまとめておくこと。受講者多数の場合、人数制限をするので必ず出席のこと。（標準学習時間120分）
2 回	生涯における健康と自己実現の意味について、マスローの考え方を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	マズローの自己実現について復習すること。欲求や不適応、ストレスについて予習を行うこと。（標準学習時間120分）
4 回	心身相関やストレス、ストレスへの対処について復習すること。性格、人格、人間理解の意味について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
5 回	性格や人格、人間理解について復習すること。Y G 性格検査について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
6 回	YG性格検査について、ふり返りをする。カウンセリングの目的について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7 回	カウンセリングの目的と内容について復習すること。マスロー、チクセントミハイについて予習を行うこと。（標準学習時間120分）
8 回	これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）
9 回	現代スポーツの特徴について予習しておくこと。（標準学習時間（60分）
1 0 回	スポーツの根源的な意味や身体活動と自己実現について復習すること。生涯スポーツの意味と特徴について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	競技スポーツについて復習すること。ドーピング（禁止薬物使用）について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	ドーピング（禁止薬物使用）の問題点について復習すること。古代オリンピックと近代オリンピックについて予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	古代オリンピックと近代オリンピックの特徴について復習すること。体力の意味について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	ライフステージと体力について復習すること。性感染症の種類と臨床症状について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	主な性感染症について復習すること。環境と健康について予習を行うこと。（標準学習時間100分）
1 6 回	これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	健康は生涯にわたる自己実現の基盤となる。健康の構成要素として「心（精神）」、「身体」、「社会との関わり」があげられ、これらは密接な関係にある。これらの基礎知識や実践力を身につけて、生涯の各ライフステージにおける健康の保持増進に主体的に取り組む態度や能力を養う。（教養教育センター単位認定方針のA「知識、理解」にもっとも強く関与する）
達成目標	1) 健康と自己実現との関わりや健康の構成要素について理解し、説明できること（A） 2) 生涯における各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた主体的なヘルスプロモーションについて説明できること（A） 3) 健康について、私たちをとりまく環境や社会がおよぼす影響について理解し、説明できること（A）
キーワード	自己実現、至高経験、マズロー、健康、ストレス、スポーツ、オリンピック、体力、性感染症
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出3回（30%）、中間試験および最終評価試験（70%）（達成目標の1）～3）を確認）
教科書	適宜配布する
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜配布する。
連絡先	B3号館 3階 西村（次）研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備については保管しないため、後日の配布には応じない。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護等体験や教育実習等で欠席する場合は事前に届を提出すること。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	・この講義ではアクティブラーニングの一環として、グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	アクティブラーニング型授業を行うので、受講希望者が100名を超える場合、受講制限をする場合がある。

科目名	健康の科学 (FB201270)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。生涯にわたる健康の意味とマスローの自己実現について理解する。
2 回	自己実現の基礎となる、心（精神）と身体、社会との関わりについて説明する。ライフステージの特徴について説明する。人生の一回性の認識と生きがい感の創造について説明する。
3 回	脳と神経の働き、欲求不満と適応機制、心身相関とストレス、ストレスへの対処について説明する。
4 回	性格、人格、人間理解について説明する。
5 回	Y G 性格検査を行い、性格検査について説明する。
6 回	カウンセリングについて説明する。
7 回	至高経験、創造的人間、楽しむということ、マスロー、チクセントミハイについて説明する。
8 回	中間試験とこれまでのまとめ。ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。
9 回	スポーツの根源的な意味や自己実現、ライフステージとの関わりについて説明する。
1 0 回	生涯スポーツ、競技スポーツ、障がい者スポーツについて説明する。
1 1 回	ドーピング（禁止薬物使用）について説明する。
1 2 回	古代オリンピックと近代オリンピックについて説明する。
1 3 回	ライフステージにおける健康と体力の保持、増進について説明する。
1 4 回	性感染症について説明する。。
1 5 回	環境と健康について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。健康の意味とマスローの自己実現についてまとめておくこと。復習：マスローの欲求段階についてまとめておくこと。受講者多数の場合、人数制限をするので必ず出席のこと。（標準学習時間120分）
2 回	生涯における健康と自己実現の意味について、マスローの考え方を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	マズローの自己実現について復習すること。欲求や不適応、ストレスについて予習を行うこと。（標準学習時間120分）
4 回	心身相関やストレス、ストレスへの対処について復習すること。性格、人格、人間理解の意味について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
5 回	性格や人格、人間理解について復習すること。Y G 性格検査について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
6 回	YG性格検査について、ふり返りをする。カウンセリングの目的について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7 回	カウンセリングの目的と内容について復習すること。マスロー、チクセントミハイについて予習を行うこと。（標準学習時間120分）
8 回	これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）
9 回	現代スポーツの特徴について予習しておくこと。（標準学習時間（60分）
1 0 回	スポーツの根源的な意味や身体活動と自己実現について復習すること。生涯スポーツの意味と特徴について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	競技スポーツについて復習すること。ドーピング（禁止薬物使用）について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	ドーピング（禁止薬物使用）の問題点について復習すること。古代オリンピックと近代オリンピックについて予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	古代オリンピックと近代オリンピックの特徴について復習すること。体力の意味について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	ライフステージと体力について復習すること。性感染症の種類と臨床症状について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	主な性感染症について復習すること。環境と健康について予習を行うこと。（標準学習時間100分）
1 6 回	これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	健康は生涯にわたる自己実現の基盤となる。健康の構成要素として「心（精神）」、「身体」、「社会との関わり」があげられ、これらは密接な関係にある。これらの基礎知識や実践力を身につけて、生涯の各ライフステージにおける健康の保持増進に主体的に取り組む態度や能力を養う。（教養教育センター単位認定方針の知識、理解にもっとも強く関与する）
達成目標	1) 健康と自己実現との関わりや健康の構成要素について理解し、説明できること（A） 2) 生涯における各ライフステージの特徴を理解し、それに応じた主体的なヘルスプロモーションについて説明できること（A） 3) 健康について、私たちをとりまく環境や社会がおよぼす影響について理解し、説明できること（A）
キーワード	自己実現、至高経験、マズロー、健康、ストレス、スポーツ、オリンピック、体力、性感染症
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出3回（30％）、中間試験および最終評価試験（70％）
教科書	適宜配布する
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜配布する。
連絡先	B3号館 3階 西村（次）研究室
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備については保管しないため、後日の配布には応じない。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護等体験や教育実習等で欠席する場合は事前に届を提出すること。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	・この講義ではアクティブラーニングの一環として、グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	アクティブラーニング型授業を行うので、受講希望者が100名を超える場合、受講制限をする場合がある。

科目名	健康の科学 (FB201280)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いて、人体の構造について学習し、人体を構成する器官系の働きについて理解する。
2 回	スキャモンの発育・発達曲線について説明する。人間が発育・発達していくプロセスを理解する。さらに、健康づくりに重要な役割を担う体力についても説明する。
3 回	「健康観」と「健康の定義」について説明する。生活の視点から健康を捉え、理解を深めることが重要であることを学習する。
4 回	わが国の疾病構造の変化と平均寿命からみた健康水準の変化について説明する。
5 回	健康寿命について説明する。クオリティー・オブ・ライフという考え方に根ざして、人がどれだけ健康で豊かに生きられるかを表す指標であることを理解する。
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明する。
7 回	肥満の基準と肥満症について説明する。体格指数 (BMI) と標準体重を計算する。
8 回	メタボリックシンドローム (代謝症候群) について説明する。
9 回	主な生活習慣病について説明する。サイレントキラー (沈黙の殺人者) と呼ばれる病気について理解する。
10 回	マズローの欲求階層説について説明する。人が行動を起こすときの原因 (動機) を理解する。
11 回	適応機種の種類と問題点について説明する。日常茶飯事に起きている人間の自然な心理現象を理解する。
12 回	ストレッサーとストレスについて説明する。
13 回	ストレスマネジメント (エネルギーの有効活用法) について説明する。
14 回	心身相関 (自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係) について説明する。
15 回	心身症について説明する。発症や経過に心理社会的ストレスが強くかかった病体であることを理解する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：人体を構成する器官系の働きについてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	予習：スキャモンの発達・発育曲線が表している臓器別の組織特性と体力の構成要素について調べておくこと。復習：健康の中核をなす体力の発達は、諸器官の発育・発達に大きく影響を受けることについてまとめておくこと。標準学習時間120分)
3 回	予習：人間の生活様式と生活環境は、深く健康の問題と関連していることを調べておくこと。復習：疾病の予防や健康の保持増進は、個人の健康維持だけでは達成し得ないことについてまとめ、説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	予習：わが国の疾病構造の変化と平均寿命の変化について調べておくこと。復習：時代や社会の状況によって大きく左右され、その集団の実態を表している健康水準の変化についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	予習：わが国の平均寿命と健康寿命の差について調べておくこと。復習：平均寿命と健康寿命の差が拡大した場合の懸念される影響についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	予習：病気を進行させる生活習慣を調べておくこと。復習：生活習慣病の予防と学生の頃からの生活習慣の適正化についてまとめておくこと。また、“生活習慣病”に関する提出課題を完成させること。(標準学習期間120分)
7 回	予習：BMI (体格指数)、標準体重の計算式を調べておくこと。復習：肥満になる原因 (背景) と肥満の改善についてまとめておくこと。(標準学習期間120分)
8 回	予習：メタボリックシンドロームの診断基準について調べておくこと。復習：メタボリックシンドロームの危険因子についてまとめておくこと。(標準学習期間120分)
9 回	予習：サイレントキラーと呼ばれる病気について調べておくこと。復習：生活習慣病の恐ろしさについてまとめておくこと。また、“セルフメディケーション”に関する提出課題を完成させること。(標準学習時間120分)
10 回	予習：マズローの欲求階層説について調べておくこと。復習：マズローの欲求階層説についてまとめ、説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	予習：欲求と行動、欲求不満について調べておくこと。復習：適応機種の種類と問題点についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)

1 2 回	予習：自分にとっての、良いストレスと悪いストレスについてまとめておくこと。復習：ストレスとストレスについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	予習：ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について調べておくこと。復習：ストレスマネジメント法についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	予習：心と体の相互に影響し合う関係について調べておくこと。復習：さまざまなシステムの上に心が載って、生命が保たれていることが説明できるようにまとめておくこと。“知っておきたい健康分野の用語”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間120分）
1 5 回	習：心身症として起こりやすい病気について調べておくこと。復習：心身症の特徴についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 6 回	これまでの学習を整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	健康は生涯にわたる自己実現の基盤となる。健康の構成要素として「心（精神）」、「身体」、「社会との関わり」があげられ、これらは密接な関係にある。これらの基礎知識や実践力を身につけて、生涯のライフステージにおける健康の保持増進に主体的に取り組む知識や態度、能力を養う。（教養教育センターの単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する）
達成目標	1) 健康と自己実現との関わりや健康の構成要素について説明できること（知識・理解） 2) 生涯における各ライフステージの特徴とそれに応じた主体的なヘルスプロモーションについて説明できること（知識・理解） 3) 健康と私たちをとりまく環境や社会との関わりについて説明できること（知識・理解）
キーワード	スキヤモンの発達・発育曲線、健康寿命、生活習慣病、メタボリックシンドローム、マズローの欲求階層説、適応機制、メンタルヘルス（精神衛生）、心身相関、心身症
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験70%（達成目標1、2、3を評価）、提出課題30%（主に達成目標1を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	指定しない。
連絡先	研究室 B3号館5階 森 博史研究室 オフィスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は、講義の中で適宜配布する。 ・講義内容の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・課題の提出は期限を守ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックは模範解答を研究室ドアに掲示する。（掲示日時は講義の中で伝達する）
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	健康の科学 (FB201290)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いて、人体の構造について学習し、人体を構成する器官系の働きについて理解する。
2 回	スキャモンの発育・発達曲線について説明する。人間が発育・発達していくプロセスを理解する。さらに、健康づくりに重要な役割を担う体力についても説明する。
3 回	「健康観」と「健康の定義」について説明する。生活の視点から健康を捉え、理解を深めることが重要であることを学習する。
4 回	わが国の疾病構造の変化と平均寿命からみた健康水準の変化について説明する。
5 回	健康寿命について説明する。クオリティ・オブ・ライフという考え方に根ざして、人がどれだけ健康で豊かに生きられるかを表す指標であることを理解する。
6 回	病気を進行させる生活習慣と生活習慣病の予防について説明する。
7 回	肥満の基準と肥満症について説明する。体格指数 (BMI) と標準体重を計算する。
8 回	メタボリックシンドローム (代謝症候群) について説明する。
9 回	主な生活習慣病について説明する。サイレントキラー (沈黙の殺人者) と呼ばれる病気について理解する。
10 回	マズローの欲求階層説について説明する。人が行動を起こすときの原因 (動機) を理解する。
11 回	適応機種の種類と問題点について説明する。日常茶飯事に起きている人間の自然な心理現象を理解する。
12 回	ストレッサーとストレスについて説明する。
13 回	ストレスマネジメント (エネルギーの有効活用法) について説明する。
14 回	心身相関 (自律神経系、内分泌系、免疫系と心の関係) について説明する。
15 回	心身症について説明する。発症や経過に心理社会的ストレスが強くかかった病体であることを理解する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：人体を構成する器官系の働きについてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	予習：スキャモンの発達・発育曲線が表している臓器別の組織特性と体力の構成要素について調べておくこと。復習：健康の中核をなす体力の発達は、諸器官の発育・発達に大きく影響を受けることについてまとめておくこと。標準学習時間120分)
3 回	予習：人間の生活様式と生活環境は、深く健康の問題と関連していることを調べておくこと。復習：疾病の予防や健康の保持増進は、個人の健康維持だけでは達成し得ないことについてまとめ、説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	予習：わが国の疾病構造の変化と平均寿命の変化について調べておくこと。復習：時代や社会の状況によって大きく左右され、その集団の実態を表している健康水準の変化についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	予習：わが国の平均寿命と健康寿命の差について調べておくこと。復習：平均寿命と健康寿命の差が拡大した場合の懸念される影響についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	予習：病気を進行させる生活習慣を調べておくこと。復習：生活習慣病の予防と学生の頃からの生活習慣の適正化についてまとめておくこと。また、“生活習慣病”に関する提出課題を完成させること。(標準学習期間120分)
7 回	予習：BMI (体格指数)、標準体重の計算式を調べておくこと。復習：肥満になる原因 (背景) と肥満の改善についてまとめておくこと。(標準学習期間120分)
8 回	予習：メタボリックシンドロームの診断基準について調べておくこと。復習：メタボリックシンドロームの危険因子についてまとめておくこと。(標準学習期間120分)
9 回	予習：サイレントキラーと呼ばれる病気について調べておくこと。復習：生活習慣病の恐ろしさについてまとめておくこと。また、“セルフメディケーション”に関する提出課題を完成させること。(標準学習時間120分)
10 回	予習：マズローの欲求階層説について調べておくこと。復習：マズローの欲求階層説についてまとめ、説明できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	予習：欲求と行動、欲求不満について調べておくこと。復習：適応機種の種類と問題点についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)

1 2 回	予習：自分にとっての、良いストレスと悪いストレスについてまとめておくこと。復習：ストレスとストレスについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	予習：ストレスマネジメント（エネルギーの有効活用法）について調べておくこと。復習：ストレスマネジメント法についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	予習：心と体の相互に影響し合う関係について調べておくこと。復習：さまざまなシステムの上に心が載って、生命が保たれていることが説明できるようにまとめておくこと。“知っておきたい健康分野の用語”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間120分）
1 5 回	習：心身症として起こりやすい病気について調べておくこと。復習：心身症の特徴についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
1 6 回	これまでの学習を整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	健康は生涯にわたる自己実現の基盤となる。健康の構成要素として「心（精神）」、「身体」、「社会との関わり」があげられ、これらは密接な関係にある。これらの基礎知識や実践力を身につけて、生涯のライフステージにおける健康の保持増進に主体的に取り組む知識や態度、能力を養う。（教養教育センターの単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する）
達成目標	1) 健康と自己実現との関わりや健康の構成要素について説明できること（知識・理解） 2) 生涯における各ライフステージの特徴とそれに応じた主体的なヘルスプロモーションについて説明できること（知識・理解） 3) 健康と私たちをとりまく環境や社会との関わりについて説明できること（知識・理解）
キーワード	スキヤモンの発達・発育曲線、健康寿命、生活習慣病、メタボリックシンドローム、マズローの欲求階層説、適応機制、メンタルヘルス（精神衛生）、心身相関、心身症
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験70%（達成目標1、2、3を評価）、提出課題30%（主に達成目標1を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	指定しない。
連絡先	研究室 B3号館5階 森 博史研究室 オフィスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp
授業の運営方針	・講義資料は、講義の中で適宜配布する。 ・講義内容の録音・録画・撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・課題の提出は期限を守ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・提出課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックは模範解答を研究室ドアに掲示する。（掲示日時は講義の中で伝達する）
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	科学技術と人間（FB204310）
英文科目名	Science-Technology and Human Beings
担当教員名	中村修（なかむらおさむ）
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	IC(集積回路)とLSI（大規模な集積回路）に関する話題を3回に分けて講義する。1回目はトランジスターの誕生の背景、又、誕生が社会に与えた影響。関連産業の発展について説明する。
2 回	IC(集積回路)とLSI（大規模な集積回路）に関する話題を3回に分けて講義する。その2回目として、社会背景としての電卓戦争とそれが半導体産業に及ぼした影響について説明する。
3 回	IC(集積回路)とLSI（大規模な集積回路）に関する話題を3回に分けて講義する。その3回目として、日本におけるLSI産業の攻勢と衰退と復活に向けて。何故 エルピーダは破綻したのか？ 日本の現状、日本のLSI産業の復活への足がかりなどを説明する。
4 回	液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。1回目はディスプレイとしての液晶の歴史について説明する。初期のTV用の液晶ディスプレイについて説明する。
5 回	液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。その2回目として、薄膜トランジスター開発の経緯、それが液晶ディスプレイ産業に与えた影響、社会に与えた影響について説明する。
6 回	液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。その3回目として、量産化されなかったディスプレイ技術、例えば、電子放出素子を使用したディスプレイ等について説明する。その後、必ずしも、よりきれいな表示をするディスプレイが、世の中に普及した訳ではないことを説明する。ディスプレイ産業の今後について、その展望を説明する。レポート課題を提示する。
7 回	青色LED（発光ダイオード）、白色LED（発光ダイオード）の技術と産業の発展について説明する。又、白色LEDの発明のタイミングとそれが産業や社会に与えた影響について説明する。
8 回	科学技術と人間について、これまでの講義を振り返り、レポート課題の説明をする。同時にこれまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。
9 回	現在の白色LEDについて簡単に説明する。青色LED、白色LEDに使用されているGaN系の実用化以前、LEDの材料として有望だと考えられており、単結晶まで量産化したZeSeの開発について説明する。バックライトとして白色LEDがメインになって以降、使用されなくなった冷陰極管について説明する。
1 0 回	一家に一台のプリンターを当たり前にしたインクジェットプリンターの原理と発展について説明する。
1 1 回	現在の日本のエネルギー動向を説明する。その解決策としての再生エネルギーについて、種類と意義、課題について説明した後で、太陽光発電に焦点を当て説明する。レポート課題を提示する。
1 2 回	水素エネルギーの日本における社会的意義、現状と展望について説明する。その後、水素エネルギー技術（製造・貯蔵・輸送・利用）について説明する。現在の日本のエネルギー問題の解決策としての水素社会を説明する。
1 3 回	燃料電池の原理と種類について説明する。住宅用と車用の燃料電池について説明する。エレクトロニクス分野での実用化について問題点を説明し、何故、この分野の開発が停滞しているのかについて説明する。
1 4 回	水素社会に対する批判とその反論、化石燃料の枯渇に関する水素エネルギーの意義、各国の取り組みや社会の受容性の説明をする。これらを通じて燃料電池＝水素社会が実現するための条件について説明する。
1 5 回	再生エネルギーと水素エネルギーについて、これまでの講義で取り上げなかったトピック的な話題を取り上げ説明する。
1 6 回	中間評価以降の講義の総括とレポート課題の説明を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	新聞やニュースで、日本のエレクトロニクス産業の話題に触れること。トランジスタラジオについて、おおまかな初期の製造年代を調べて予習を行うこと。（標準学習 60分）
2 回	トランジスタの誕生の背景、又、誕生が社会に与えた影響。関連産業の発展について復習をすること。予習として電卓戦争とは何か調べること。（標準学習 120分）
3 回	電卓戦争とそれが半導体産業に及ぼした影響について復習すること。予習としてエルピーダやマイクロロンが何を作る（作っていた）会社かについて調べること。（標準学習 120分）
4 回	日本におけるLSI産業の攻勢と衰退について復習すること。予習として液晶とは何か調べること。（標準学習 120分）
5 回	液晶の歴史について、初期のTV用の液晶ディスプレイについて復習すること。予習として、身の回りにある液晶ディスプレイを列挙すること。（標準学習 120分）

6 回	薄膜トランジスター開発の経緯、それが液晶ディスプレイ産業に与えた影響、社会に与えた影響について復習すること。予習としてブラウン管のTVが、いつごろから日本で生産されなくなったか調べること。(標準学習 120分)
7 回	量産化されなかったディスプレイ技術について復習すること。必ずしも、よりきれいな表示をするディスプレイが、世の中に普及した訳ではないことを復習して理解すること。予習として自分の身の回りでの照明としての白色LEDの普及の程度を調べること。ニュースや新聞でその話題に触れること。(標準学習 120分)
8 回	第1回から7回目までの講義の復習をすること。(標準学習 180分)
9 回	予習として、蛍光灯が白色に光る原理を調べる。又、熱陰極管、冷陰極管についてそれぞれどこに使われているか調べる。(標準学習 60分)
10 回	ZeSeの開発について復習すること。バックライトとしての冷陰極管について復習をすること。予習として、水の沸騰現象について調べる。(標準学習 120分)
11 回	インクジェットプリンターの原理と発展について復習すること。予習として、科学的なエネルギーの定義やエネルギー保存則を調べる。新聞等で使用される「エネルギー」という言葉の使われ方を調べる。(標準学習 120分)
12 回	再生エネルギーについて、種類と意義、課題について復習すること。太陽光発電の問題を復習すること。予習として水素の燃焼エネルギーについて調べる。水素貯蔵合金とはなにか調べる。(標準学習 120分)
13 回	水素エネルギーの日本における社会的意義、水素エネルギー技術(製造・貯蔵・輸送・利用)について復習すること。予習として水の電気分解について、調べる。(標準学習 120分)
14 回	燃料電池の原理と種類について復習すること。住宅用と車用の燃料電池について、エレクトロニクス分野での実用化の問題点を復習すること。予習として水素の危険性、特に、爆発限界濃度について調べる。(標準学習 120分)
15 回	水素社会に対する批判とその反論、化石燃料の枯渇に関する水素エネルギーの意義、各国の取り組みや社会の受容性について復習すること。予習として再生エネルギー、水素エネルギーに関する最近の話題を調べる。(標準学習 120分)
16 回	第9回から15回目までの講義の復習をすること。(標準学習 180分)

講義目的	一般的には、科学技術の進歩が社会に変化をもたらすと考えがちであり、且つ、事実でもあるが、一方では、科学技術の進歩はその社会背景に依存することが多いことも事実である。例えば、1960-1980年に日本で隆盛を極めた日本のIC、LSI技術と産業の発展は日本特有の電卓戦争(と呼ばれた)という社会背景に依存していた。又、ある科学技術が社会に定着する場合に社会に定着できないで数多くの技術が消滅していることは余り知られていない。更に、社会的な受容性や社会構造の変化が求められる場合もある。本講義では以上の観点から科学技術と人間社会について講義する。ただし、エレクトロニクス分野やエネルギー分野の特定の科学技術にまとを絞り講義する。特定の例を知ること、科学技術と人間社会の関わりについて知ることを目的とする。(全学のディプロマポリシーのうち、Aに最も強く関与し、Bに強く関与する。)
達成目標	1)トランジスターの誕生が社会に与えた影響を説明できる(A)。2)日本において、比較的早い時期にLSI産業が立ち上がった経緯を説明できる(A)。3)日本におけるDRAM産業が衰退した原因を説明できる(B)。4)液晶ディスプレイの発展の経緯を説明できる(A)。5)日本における液晶ディスプレイ産業の衰退の原因を説明できる(B)。6)青色発光ダイオードの発明が社会に与えた影響を説明できる(A)。7)青色発光ダイオードの発明に対して、破れ去った技術、衰退した産業を説明できる(A)。8)インクジェットプリンター市場に新規メーカーが参入できない理由を説明できる(B)。9)太陽光に関係した再生エネルギーを説明できる(A)。10)水素エネルギーが求められている理由を説明できる(A)。11)エネファームが高効率である理由を説明できる(A)。12)燃料電池自動車の普及に対する、社会的受容性を説明できる(B)。
キーワード	トランジスター、集積回路(LSI)、液晶、ディスプレイ、白色LED、青色LED、インクジェットプリンター、再生エネルギー、太陽電池、燃料電池、水素社会
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	2回のレポート(達成目標2),3),4)及び7),8)を評価 10%)、中間試験(達成目標1)~6)を評価 45%)、最終評価試験(達成目標7)~12)を評価 45%)により成績を評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。適宜、講義資料(プリント)を配付
関連科目	特になし
参考書	日本型モノづくりの敗北/湯之上隆著/文藝春秋/978-4-16-660942-0:超LSIへの挑戦/垂井康夫/工業調査会/4-7693-1181-8:液晶の歴史/デイビット・ダンマー、ティム・スラッキン著/朝日新聞出版/978-4-02-259982-7:再生エネルギー技術白書/NEDO編/森北出版/978-4-627-62502-0C3053:水素エネルギー白書/日刊工業新聞社/978-4-526-07356-4C3050その他の参考書については講義で適宜説明する。
連絡先	メール o-nakamura@pub.ous.ac.jp 1階 研究・社会連携センター オフィスアワー 月1時限 C7号館2F 研究室 オフィスアワー 水3時限 A1号館

授業の運営方針	講義資料（プリント）は必要に応じて講義開始時に配付する。後日配付にも応じるので、できるだけ、早く、申し出ること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	第 6 回のレポート課題に対しては、8 回目の講義で解説等のフィードバックを行う。 第 11 回のレポート課題に対しては、16 回目の講義で解説等のフィードバックを行う。 中間試験及び最終評価試験終了後、フィードバックとして、採点結果を1週間以内に 掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ○講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ○講義中の録音／録画／は事前に相談すること。他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
実務経験のある教員	元カシオ計算機、凸版印刷の研究開発部門勤務のエレクトロニクス分野等での実務経験を活かし、科学技術と人間社会の関わりについて講義を行う。
その他（注意・備考）	

科目名	科学技術倫理 (FB206210)
英文科目名	Science and Engineering Ethics
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理とはどのようなものであるのかを説明する。
2 回	技術者の専門性と倫理との関係について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
3 回	安全確保に取り組む組織と個人の関係を説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
4 回	1986年にアメリカで起きたチャレンジャー事故について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
5 回	1999年に起きた東海村JCO臨界事故について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
6 回	社会が技術者に与える資格や現行の制度について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
7 回	倫理的な行動を実現するための効果的な学習方法について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
8 回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9 回	前半の授業を振り返ったうえで、後半の授業のオリエンテーションを行う。そのうえで、技術者の倫理とはどのようなものであるのかを再確認する。
10 回	技術者の活動と密接に関わる法令遵守について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
11 回	カネミ油症事件について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
12 回	技術者が社会に対して果たすべき説明責任について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
13 回	組織の不正と技術者個人のジレンマから起こる内部告発について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
14 回	環境と技術者との関係を「持続可能性」などの観点から説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
15 回	技術者と組織との間で起こる財産的権利の問題について説明する。そのうえで、グループワークを行い、自分の意見を発表してもらう。
16 回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1 回	「倫理」とはどのようなものであるのかを、インターネットや事典などを参照して調べたうえで、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
2 回	技術者と倫理の関係について、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
3 回	技術者にとっての組織と個人の関係について、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
4 回	チャレンジャー事故とはどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5 回	東海村JCO臨界事故とはどのようなものであったのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6 回	社会が技術者に与える資格にはどのようなものがあるのかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7 回	技術者が倫理的に振る舞ううえで何が最も大事であるのかについて、自分なりの答えを考えておくこと。(標準学習時間 90分)
8 回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9 回	技術者の倫理とはどのようなものであるのかについて、復習しておくこと。(標準学習時間 90分)
10 回	コンプライアンスとはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11 回	カネミ油症事件について、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12 回	説明責任とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準

	学習時間 90分)
1 3 回	内部告発とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
1 4 回	環境の「持続可能性」とはどのようなものかを、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
1 5 回	技術者の財産的権利について、インターネットや事典などを参照して調べておくこと。(標準学習時間 90分)
1 6 回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	人類の生活を豊かにし、便利にしてきた一方で、様々な問題を引き起こしている科学技術というものを、幅広い視点から理解する。そのうえで、技術者として異分野とも協働しながら倫理的に振る舞うための主体性や協調性を身に付ける。本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「知識・理解」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標とする。 技術者に関わる倫理的な問題について説明することができる。(A) 身につけた知識を、現実に行き起しているものだけでなく、今後も予想される科学技術上の倫理的な問題にも応用することができる。(B)
キーワード	倫理、法、組織、個人、コンプライアンス、説明責任
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：グループワークへの取り組み 評価割合60%、中間評価試験 評価割合20%、最終評価試験 評価割合20%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」と関連しています。科学技術倫理をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」を受講して下さい。
参考書	杉本泰治・高城重厚『技術者の倫理入門』(丸善出版) 北原義典『はじめての技術者倫理』(講談社)
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	・授業の前半は、パワーポイントや映像を使用して講義を行う。 ・授業の後半は、グループワークを行う。 ・授業終了時に、各自の意見をまとめた用紙を提出してもらう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・講義の内容についての自分の意見をまとめた後で、4～6人程度のグループに分かれてディスカッションを行い、各自の意見の相互評価、自己評価を行います。 ・ディスカッションの内容については、グループの意見を集約して、代表者に発表してもらいます。
課題に対するフィードバック	・発表に対するコメントを授業内に行う。 ・提出された用紙のリアクションは、次の回の授業の冒頭で行う。 ・中間・最終評価試験の模範解答と解説は、各試験の後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	科学ボランティア実践指導 (FB208820)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしのり*), 高見寿*(たかみひさし*), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 春日二郎*(かすがじろう*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレー(くるもふばれりー)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また、本学認定資格「科学ボランティアリーダー」の詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各チームで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この講義では、地域で行われている科学教室等の講師となり、イベントの企画、準備、運営の方法を実践的に学ぶ。また、実践の前後に、イベント毎に決めた指導教員により事前・事後指導を受ける。これらのことを通じて、科学イベントを主宰し、安全かつ効果的に実施する力を身につける。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。
------	--

	(教養教育科目の到達目標Bに最も強く関与)
達成目標	1. 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。(B) 2. 自らの活動・発表の総括を記述できる。(B) 3. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(C) 4. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(D)
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業において提出するレポート20%(到達目標1、2を確認)、企画書の内容20%(到達目標1を確認)、実践活動の内容40%(到達目標1、4を確認)、事後レポート20%(到達目標2、3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと ○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
授業の運営方針	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(=初回の講義)には必ず出席すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・地域での実践は2時間以上行う(現地での準備時間等を含む)。ただし、この中で40分以上の教室形式、またはサイエンスショーの講師を行うこととする。 ・この授業は、受講者の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、プレゼンテーション、実験・実習 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、実践活動でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては、次の講義でコメントすることでフィードバックを行う。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員)、高見寿(元高等学校教員)、武田芳紀(元高等学校教員)、春日二郎(元中学校教員)、糸山嘉彦(人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター) 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」

科目名	科学ボランティア実践指導 (FB208830)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 武田芳紀*(たけだよしなり*), 高見寿*(たかみひさし*), 糸山嘉彦*(いとやまよしひこ*), 春日二郎*(かすがじろう*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 米田稔(よねだみのる), 高原周一(たかはらしゅういち), クルモフバレー(くるもふばれりー)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また、本学認定資格「科学ボランティアリーダー」の詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各チームで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	この講義では、地域で行われている科学教室等の講師となり、イベントの企画、準備、運営の方法を実践的に学ぶ。また、実践の前後に、イベント毎に決めた指導教員により事前・事後指導を受ける。これらのことを通じて、科学イベントを主宰し、安全かつ効果的に実施する力を身につける。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。
------	--

	(教養教育科目の到達目標Bに最も強く関与)
達成目標	1. 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。(B) 2. 自らの活動・発表の総括を記述できる。(B) 3. 自らが感じている科学ボランティア活動の魅力を記述することができる。(C) 4. 発表会において、伝えたいことと参加者の知識・関心等を踏まえて、効果的でわかりやすい発表を行い、参加者を満足させることができる。(D)
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業において提出するレポート20%(到達目標1、2を確認)、企画書の内容20%(到達目標1を確認)、実践活動の内容40%(到達目標1、4を確認)、事後レポート20%(到達目標2、3を確認)によって評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと ○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
授業の運営方針	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス(=初回の講義)には必ず出席すること。ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板で確認すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・事前・事後指導の日時は指導教員と相談して決定する。科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・地域での実践は2時間以上行う(現地での準備時間等を含む)。ただし、この中で40分以上の教室形式、またはサイエンスショーの講師を行うこととする。 ・この授業は、受講者の主体的な学修(アクティブ・ラーニング)により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、web上からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音/録画/撮影は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、プレゼンテーション、実験・実習 実験内容の決定から準備・実施、実験手法の改善のための試行錯誤、実践活動でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートについては、次の講義でコメントすることでフィードバックを行う。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功(元中学校教員)、森田明義(元小学校教員)、高見寿(元高等学校教員)、武田芳紀(元高等学校教員)、春日二郎(元中学校教員)、糸山嘉彦(人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター) 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他(注意・備考)	・本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ(http://ridai-svc.org/)に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」

科目名	人間を読みとく（文学）（FB212170）
英文科目名	Literature
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方を説明する。
2回	ヨーロッパとドイツについて概説する。
3回	「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。
4回	「エミール・ガロッティ」 近代市民悲劇の誕生について概説する。
5回	「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。
6回	「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。
7回	「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。
8回	「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、中間テストを行う。
9回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
10回	「みづうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
11回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
12回	「トーニオ・クレガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
13回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
14回	ドイツの叙情詩について概説する。
15回	後半部のまとめを行う。
16回	到達度確認テストと今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2回	ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。（標準学習時間120分）
7回	テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
8回	テキストの第六章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。 これまでの重要事項を復習して、中間テストに備えること。（標準学習時間120分）
9回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
10回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。 また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。（標準学習時間120分）
14回	テキストの第十二章に目を通しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	七章から十二章までの重要事項を復習し、テストの準備をしておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	世界（中国またはドイツ、および日本）の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 作品について、基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	各回のミニレポート、中間テスト、学修の到達度確認テスト（50%×2）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、（ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。）

参考書 連絡先	適宜指示します。
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説しつつ、実際に日本語訳の抜粋を読んでいます。講義中心になりますが、ほぼ毎回、最後に課題を与え、それを提出してもらいます。受講マナーをきちんと守ることは最低限の必要条件であり、それが守られない場合は相応の対処をします。
アクティブ・ラーニング	受講生に質問、または文章の音読の指示を行うことがあります。
課題に対するフィードバック	提出課題については、その次の時間の冒頭に教員のコメントとともに紹介することがある。中間テスト、到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音／録画／撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明します。

科目名	生涯スポーツ (FB215905)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6 回	1 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 0 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 1 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
1 2 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 3 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 4 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
1 5 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215912)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	田中淳* (たなかじゅん*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4回	バドミントンのゲームをおこなう。
5回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6回	1. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7回	2. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9回	バレーボールのゲームをおこなう。
10回	バレーボールのゲームをおこなう。
11回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
12回	バスケットボールのゲームをおこなう。
13回	バスケットボールのゲームをおこなう。
14回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
15回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215913)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	田中淳* (たなかじゅん*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4回	バドミントンのゲームをおこなう。
5回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6回	1. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7回	2. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9回	バレーボールのゲームをおこなう。
10回	バレーボールのゲームをおこなう。
11回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
12回	バスケットボールのゲームをおこなう。
13回	バスケットボールのゲームをおこなう。
14回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
15回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215915)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6 回	1 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 0 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 1 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
1 2 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 3 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 4 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
1 5 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村(次)研究室
授業の運営方針	第1回目の授業は、C 1 号館 2 階(トレーニングルーム 2 : 柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215916)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業実施場所、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いてスポーツの意義と役割について説明する。
2 回	施設・設備の利用方法と留意事項について説明する。“体ほぐし運動”を行いながら、「体力」について説明をする。
3 回	バドミントンの歴史と特性、授業の準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、簡易ゲームをする。
4 回	バドミントンのシングルのルールを説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、シングルのゲームをする。
5 回	バドミントンのダブルスのルールを説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ダブルスのゲームをする。
6 回	選択種目 (ソフトボール、テニス) について説明する。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
7 回	バレーボールの歴史と特性、準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、基本的な練習をする。
8 回	6 人制バレーボールのルールと審判法について説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
9 回	6 人制バレーボールのチームワークについて説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、チームワークの向上を話し合いながらゲームをする。
10 回	選択種目 (フットサル、卓球) について説明する。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
11 回	バスケットボールの歴史と特性、準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、基本的な練習をする。
12 回	バスケットボールのルール、オフェンス (攻撃側) とディフェンス (守備側) について説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明する。班に分かれてウォーミングアップ (練習) 後、チームワークの向上を話し合いながらゲームをする。
14 回	選択種目 (ソフトボール、テニス、フットサル、卓球) について説明をする。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。実技テストの説明と練習をする。
15 回	実技テストを行う。講義全体のまとめをする。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：身近な生活の場にスポーツを取り入れることの意義と役割についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	予習：“体ほぐし運動”について調べておくこと。復習：“体力”の構成要素についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	予習：バドミントンの歴史と特性について調べておくこと。復習：バドミントンの基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	予習：バドミントンのシングルのルールについて調べておくこと。復習：シングルのルールとシングルゲームの楽しさをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	予習：バドミントンのダブルスのルールについて調べておくこと。復習：ダブルスのルールとダブルスゲームの楽しさをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	予習：選択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルール、特性、楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	予習：バレーボールの歴史や特性、基本技術について調べておくこと。復習：基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	予習：6 人制バレーボールのルールと審判法について調べておくこと。復習：6 人制ゲームの楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	予習：バレーボールにおけるチームワークの意味について調べておくこと。復習：ゲームでチームワークが良かったと思われる点をまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	予習：択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルール、特性、楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	予習：バスケットボールの歴史や特性、基本技術について調べておくこと。復習：バスケットボール基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)

1 2 回	予習：バスケットボールのルールについて調べておくこと。復習：バスケットボールのオフェンスとディフェンスについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
1 3 回	予習：バスケットボールにおけるチームワークについて調べておくこと。復習：ゲームでチームワークが良かったと思われる点をまとめておくこと。“生涯スポーツ”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間 60 分）
1 4 回	予習：択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルールと特性、楽しさについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
1 5 回	予習：実技テストの準備をしておくこと。復習：今後、生活の場に運動・スポーツを取り入れる習慣や能力を育てることについてまとめること。（標準学習時間 60 分）

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。 （教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与）
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること（知識・理解） 各種スポーツにおいて、チームビルディング（協同）の構築や運営（準備、審判、片づけ、安全管理）について理解し、主体的に実践できること（思考・判断） 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること（技能） 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること（関心・意欲・態度）
キーワード	生涯スポーツ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ルール、マナー、チームワーク
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	積極性（20%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）、課題（10%）により成績を評価（達成目標、を評価する。60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	健康の科学、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	指定しない。
連絡先	研究室 B 3 号館 5 階 森 博史研究室 オフィスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp
授業の運営方針	第1回目の授業は、C 1 号館 2 階（トレーニングルーム 2：柔道場）で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。 体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布してフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	岡山キャンパスと笹ヶ瀬キャンパス間の移動については、第1回目の授業で説明する。

科目名	生涯スポーツ (FB215918)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	藤井健平* (ふじいけんぺい*)
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4回	バドミントンのゲームをおこなう。
5回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6回	1. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7回	2. チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9回	バレーボールのゲームをおこなう。
10回	バレーボールのゲームをおこなう。
11回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
12回	バスケットボールのゲームをおこなう。
13回	バスケットボールのゲームをおこなう。
14回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
15回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%) 安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215919)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	吉村直樹 * (よしむらなおき *)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義概要、種目、安全管理など) をする。
2 回	スポーツの基本となる動きづくりをする。
3 回	バドミントンの基本技術をおこなう。
4 回	バドミントンのゲームをおこなう。
5 回	バドミントン (ダブルス) のゲームをする。
6 回	1 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
7 回	2 . チームビルディングのための身体活動をおこなう。
8 回	バレーボールの基本技術をおこなう。
9 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 0 回	バレーボールのゲームをおこなう。
1 1 回	バスケットボールの基本技術をおこなう。
1 2 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 3 回	バスケットボールのゲームをおこなう。
1 4 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。
1 5 回	卓球、フットサル、ソフトボールのゲームをおこなう。

回数	準備学習
1 回	シラバスを見て、各種目の概要について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	体幹トレーニングの方法について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	バドミントンの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	バドミントンの文化やルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	バドミントンのゲームのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	チームビルディングについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	コミュニケーション力の要素について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	バレーボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	バレーボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	ゲームの運営のポイントについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	バスケットボールの基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	バスケットボールのルールについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	ゲームの運営のポイントについて予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	各種目のルールや基本技術について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	各種目のゲーム運営のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。(教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する)
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること(知識・理解) 各種スポーツにおいて、チームビルディング(協同)の構築や運営(準備、審判、片づけ、安全管理)について理解し、主体的に実践できること(思考・判断) 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること(技能) 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること(関心・意欲・態度)
キーワード	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、スポーツ傷害 チームビルディング、コミュニケーション、協同
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	各種スポーツの進行、運営(30%)、知識と技術(60%)安全への配慮(10%)
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学、福祉環境論、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	第1回目の授業は、C1号館2階(トレーニングルーム2:柔道場)で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。

	60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	加計記念体育館の使用規定を理解し守ること。

科目名	生涯スポーツ (FB215920)
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	森博史 (もりひろし)
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業実施場所、授業の進め方、授業の内容と目的、受講の心得、成績評価の方針について説明する。続いてスポーツの意義と役割について説明する。
2 回	施設・設備の利用方法と留意事項について説明する。“体ほぐし運動”を行いながら、「体力」について説明をする。
3 回	バドミントンの歴史と特性、授業の準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、簡易ゲームをする。
4 回	バドミントンのシングルのルールを説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、シングルのゲームをする。
5 回	バドミントンのダブルスのルールを説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ダブルスのゲームをする。
6 回	選択種目 (ソフトボール、テニス) について説明する。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
7 回	バレーボールの歴史と特性、準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、基本的な練習をする。
8 回	6 人制バレーボールのルールと審判法について説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
9 回	6 人制バレーボールのチームワークについて説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、チームワークの向上を話し合いながらゲームをする。
10 回	選択種目 (フットサル、卓球) について説明する。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
11 回	バスケットボールの歴史と特性、準備と片付けの仕方、基本技術の説明をする。班に分かれ、基本的な練習をする。
12 回	バスケットボールのルール、オフェンス (攻撃側) とディフェンス (守備側) について説明する。班に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。
13 回	バスケットボールのチームワークについて説明する。班に分かれてウォーミングアップ (練習) 後、チームワークの向上を話し合いながらゲームをする。
14 回	選択種目 (ソフトボール、テニス、フットサル、卓球) について説明をする。種目別に分かれ、ウォーミングアップ (練習) 後、ゲームをする。実技テストの説明と練習をする。
15 回	実技テストを行う。講義全体のまとめをする。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読み、授業内容と目的の確認をすること。復習：身近な生活の場にスポーツを取り入れることの意義と役割についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	予習：“体ほぐし運動”について調べておくこと。復習：“体力”の構成要素についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	予習：バドミントンの歴史と特性について調べておくこと。復習：バドミントンの基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	予習：バドミントンのシングルのルールについて調べておくこと。復習：シングルのルールとシングルゲームの楽しさをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	予習：バドミントンのダブルスのルールについて調べておくこと。復習：ダブルスのルールとダブルスゲームの楽しさをまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	予習：選択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルール、特性、楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	予習：バレーボールの歴史や特性、基本技術について調べておくこと。復習：基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	予習：6 人制バレーボールのルールと審判法について調べておくこと。復習：6 人制ゲームの楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	予習：バレーボールにおけるチームワークの意味について調べておくこと。復習：ゲームでチームワークが良かったと思われる点をまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	予習：択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルール、特性、楽しさについてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	予習：バスケットボールの歴史や特性、基本技術について調べておくこと。復習：バスケットボール基本技術についてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)

1 2 回	予習：バスケットボールのルールについて調べておくこと。復習：バスケットボールのオフェンスとディフェンスについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
1 3 回	予習：バスケットボールにおけるチームワークについて調べておくこと。復習：ゲームでチームワークが良かったと思われる点をまとめておくこと。“生涯スポーツ”に関する提出課題を完成させること。（標準学習時間 60 分）
1 4 回	予習：択種目を決め、ルールについて調べておくこと。復習：選択した種目のルールと特性、楽しさについてまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
1 5 回	予習：実技テストの準備をしておくこと。復習：今後、生活の場に運動・スポーツを取り入れる習慣や能力を育てることについてまとめること。（標準学習時間 60 分）

講義目的	生涯における各ライフステージにおいて、個々の環境や能力に応じた身体的活動を安全に計画、実践し、生涯にわたる健康の保持・増進に努める態度や能力を養う。 （教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与）
達成目標	各種スポーツの歴史・特性・ルールについて理解し、説明できること（知識・理解） 各種スポーツにおいて、チームビルディング（協同）の構築や運営（準備、審判、片づけ、安全管理）について理解し、主体的に実践できること（思考・判断） 各種スポーツ技能について理解し、個々の能力に応じて安全に実践できること（技能） 生涯における各ライフステージの特徴について理解し、生涯スポーツとして個々の能力に応じた取組ができること（関心・意欲・態度）
キーワード	生涯スポーツ、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ルール、マナー、チームワーク
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	積極性（20%）、ルール・マナーの遵守（20%）、協調性（20%）、安全への配慮（20%）、技術（10%）、課題（10%）により成績を評価（達成目標、を評価する。60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	健康の科学、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
参考書	指定しない。
連絡先	研究室 B 3 号館 5 階 森 博史研究室 オフィスアワー：月曜日（2時限・昼休み・3時限）、火曜日（2時限・昼休み・3時限） 直通電話：086-256-9675 E-mail：mori@dls.ous.ac.jp
授業の運営方針	第1回目の授業は、C 1 号館 2 階（トレーニングルーム 2：柔道場）で行う。 第1回目の授業には必ず出席すること。 60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面の管理等、適正な教育環境を確保するため）。 第2回目以降の授業は、笹ヶ瀬キャンパス（加計記念体育館、グラウンド、テニスコート）で行う。 体育館シューズ、スポーツウエアを持参すること。 グループに分かれて授業を行うので、遅刻して迷惑をかけないように注意すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、講義中に模範解答を配布してフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	岡山キャンパスと笹ヶ瀬キャンパス間の移動については、第1回目の授業で説明する。

科目名	スポーツとフィールド科学（ボウリング）（FB216410）
英文科目名	Sports (Bowling)
担当教員名	吉村直樹＊（よしむらなおき＊）
対象学年	1年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	生涯スポーツとしてのボウリングの目的、内容、心得を理解させる。
2回	ボウリング学習の意義と性質、基本動作タイミングを理解する。
3回	スコア・スペアのとり方3・6・9理論、スペアアングルを理解させる。
4回	規格について、アドレス、スイング、スタンス、練習投球を理解させる。
5回	リーグ戦、練習投球について理解させる。
6回	リーグ戦第1週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
7回	リーグ戦第2週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
8回	リーグ戦第3週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
9回	リーグ戦第4週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
10回	リーグ戦第5週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
11回	リーグ戦第6週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
12回	リーグ戦第7週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
13回	リーグ戦第8週において投球練習、リーグ戦2ゲームを実施し自己の技術の向上を理解する。
14回	ゲームの成績により順位決定戦を実施し、より深くボウリングを理解する。
15回	チーム戦を実施し仲間意識の必要性を確認する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し講義の内容を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	ボウリングの歴史、マナー、シューズ、ボウルについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
3回	スコアのつけ方を事前に調べておくこと。（標準学習時間60分）
4回	アドレス、スタンス、スイングについて事前に調べイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
5回	前回の講義の反省点を考えておくこと。（標準学習時間60分）
6回	リーグ戦のやり方について熟知しておくこと。（標準学習時間60分）
7回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
8回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
9回	前回の講義の反省をしておくこと。（標準学習時間60分）
10回	スコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
11回	今迄のアベレージスコアを出して、よりスコアを高める為の努力を考えておくこと。（標準学習時間60分）
12回	よりスコアアップを計る為のイメージトレーニングをしておくこと。（標準学習時間60分）
13回	自分の得意、不得意が何であるかを考えておくこと。（標準学習時間60分）
14回	自己の技術を振り返りより高等な技術を目指すこと。（標準学習時間60分）
15回	チーム戦での協力と、表彰式の方法を確認すること。（標準学習時間60分）

講義目的	より深くボウリングを理解することを目的にする。 専門的にボウリングに取り組むことから生涯スポーツの糸口になるように各自努力する。 （教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する）
達成目標	初歩から始めて専門的にボウリングを追求することで技術力、調整力、またチームを組みお互いに協力することにより協調性を学び、体を動かすことで、身体的、精神的な健康増進を計ること。 （教養教育センター単位認定方針の技能にもっとも強く関与する）
キーワード	専門の追求、技術、体力、健康、礼儀
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	スコアのアベレージ（60％） 態度、姿勢、技術等（20％） ボウリングの知識（20％）
教科書	適宜指示する
関連科目	健康の科学 生涯スポーツ
参考書	適宜指示する
連絡先	
授業の運営方針	・第1回目の授業はC1号館2階（トレーニングルーム2：柔道場）で行う。 ・60名を超過した場合、抽選により受講者を決定する。（安全面等、適正な教育環境を確保するため）

	・場所、経費については第 1 回目に説明する。
アクティブ・ラーニング	グループによるディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	第 1 回目の授業には必ず参加のこと。

科目名	スポーツとフィールド科学（スキー）（FB216500）
英文科目名	Sports (Ski)
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）、森博史（もりひろし）、吉村直樹*（よしむらなおき*）、山口立雄*（やまぐちたつお*）、湯川治敏*（ゆかわはるとし*）、杉本博*（すぎもとひろし*）
対象学年	1 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義概要、目的）をおこなう。（全教員） （全教員）
2 回	スキー、スノーボードの特性、安全とマナーについて説明する。受講者のチームビルディングをおこなう。グループワーク等をおこなう。（全教員） （全教員）
3 回	雪に慣れる、スキー板、ボードの脱着、転倒起立をおこなう。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション、ワークシート）をおこなう。（全教員） （全教員）
4 回	平地歩行、方向転換、滑降、登降をおこなう。緩斜面でフロントサイドターン及びバックサイドターンをおこなう。グループワークをおこなう。（全教員） （全教員）
5 回	直滑降、ブルーク、ブルークボーゲンをおこなう。緩斜面で連続ターンをおこなう。グループワーク、ディスカッション、ワークシートをおこなう。（全教員） （全教員）
6 回	斜滑降、横滑り、山まわり、ブルークターンをおこなう。緩斜面で連続ターンをおこない安全に停止する。グループワーク等をおこなう。（全教員） （全教員）
7 回	シュテムターンをおこなう。緩斜面での連続ターンと安全な停止をおこなう。グループワーク、ディスカッション、ワークシートをおこなう。（全教員） （全教員）
8 回	パラレルをおこなう。中斜面で回転半径を調整したドリフトでの連続ターンをおこなう。グループワーク、ディスカッション等をおこなう。（全教員） （全教員）
9 回	ウエーデルンをおこなう。カービングターンをおこなう。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション、ワークシート）をおこなう。（全教員） （全教員）
10 回	制限滑降、新雪滑降をおこなう。中斜面不整地を連続ターンでおこなう。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）をおこなう。（全教員） （全教員）
11 回	安全、危機管理について説明する。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション、ワークシート）をおこなう。（全教員） （全教員）
12 回	総合滑降をおこなう。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション、ワークシート、ふり返り）をおこなう。（全教員） （全教員）
13 回	総合滑降をおこなう。スノーシューやカントリースキーの文化、技術を修得する。アクティブラーニング（グループワーク等）をおこなう。（全教員） （全教員）
14 回	総合滑降をおこなう。スノーシューやカントリースキーの文化、技術を修得する。アクティブラーニング（グループワークによるふり返り）をおこなう。（全教員）

	(全教員)
15回	総合滑降をおこなう。直滑降からジャンプして安全に着地をおこなう。アクティブラーニング(グループワーク、ディスカッション等)をおこなう。(全教員)
	(全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを見て、講義概要についてを予習しておくこと。
2回	スキー、スノーボードについて文化や基本的技術、安全について予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	スキー板、ボード、靴のはき方について調べておくこと。
4回	基本的な技術について調べておくこと。
5回	基本的な技術について調べておくこと。
6回	基本的な技術について調べておくこと。
7回	基本的な技術について調べておくこと。
8回	基本的な技術について調べておくこと。
9回	基礎から応用の技術について調べておくこと。
10回	さまざまな条件下の技術について調べておくこと。
11回	野外スポーツ(山)の安全に関する知識をまとめておくこと。
12回	スキーの総合的な知識を確認しておくこと。
13回	自分の技術を把握しておくこと。
14回	自分の技術の把握と課題
15回	自分の技術の把握と課題

講義目的	冬のスポーツの代表ともいえるスキーは歴史も古く、これまで多くの人々に親しまれてきた。生涯スポーツとしてスキー技術の向上を目指すとともに、マナー、安全に対する知識も身につける。スノーボードやスノーシューの技術を習得し、生涯スポーツにつなげる。4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	一人ひとりの技術レベルに応じて、雪面の状況に合った基本的な滑降ができること。雪山でのマナーや自然環境の保全について説明、実践ができる。安全で正確なスキーおよびスノーボードの操作ができること。4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	ボーゲン、パラレル、ウエーデルン、斜滑降、横滑り サイドターン、カービング
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	総合滑降(70%)、マナー、安全への態度、知識(30%)
教科書	適宜指示する
関連科目	生涯スポーツ、健康の科学、スポーツとフィールド科学
参考書	適宜指示する
連絡先	B3号館 3階 西村(次)研究室
授業の運営方針	事前に説明会(4月)事前学習を数回実施するので希望者は必ず参加のこと。科目特性により、50名を受講者数の上限とする。実習最終日に全日本スキー連盟の検定試験(級別)があります。
アクティブ・ラーニング	授業において、グループによるワークシートを使った振り返りとグループディスカッションを行います。
課題に対するフィードバック	課題については授業においてフィードバックを行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学障害学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	後期集中講義(実習場所:北海道富良野スキー場で行う(4泊5日))。

科目名	教養演習（FB218330）
英文科目名	Seminar on Liberal Arts
担当教員名	高池久隆（たかいけひさたか）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	テキストの概要について説明するとともに、授業の進め方、成績評価などについても説明する。
2 回	哲学への誤解について議論する。
3 回	哲学と日常について議論する。
4 回	哲学の出発点について議論する。
5 回	哲学と時間について議論する。
6 回	哲学の歪みについて議論する。
7 回	哲学の存在理由について議論する。
8 回	中間的な評価をするためのテストを実施する。テスト終了後解説をする。
9 回	哲学と二十世紀について議論する。
1 0 回	哲学の知について議論する。
1 1 回	哲学と教養について議論する。
1 2 回	トランスサイエンスの時代について議論する。
1 3 回	教養としての哲学について議論する。
1 4 回	哲学の現場について議論する。
1 5 回	方法への懐疑について議論する。
1 6 回	学修の到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、教養関わる質問事項を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	テキストの1～14ページを読み、哲学への誤解について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	テキストの14～31ページを読み、哲学と日常について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	テキストの31～46ページを読み、哲学の出発点について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	テキストの46～57ページを読み、哲学と時間について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	テキストの57～70ページを読み、哲学の歪みについて自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	テキストの71～81ページを読み、哲学の存在理由について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	テストの準備をすること。（標準学習時間120分）
9 回	テキストの81～91ページを読み、哲学と二十世紀について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	テキストの91～103ページを読み、哲学の知について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	テキストの104～115ページを読み、哲学と教養について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	テキストの115～124ページを読み、トランスサイエンスの時代について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	テキストの124～138ページを読み、教養としての哲学について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	テキストの139～155ページを読み、哲学の現場について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	テキストの155～163ページを読み、方法への懐疑について自らの考えをを整理しておくこと。（標準学習時間120分）
1 6 回	テストの準備をすること。（標準学習時間120分）

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)自分の考えを整理できる。 2)説得力のある発言を行なえる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。

キーワード	討論、思考、表現
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	中間的な評価をするためのテスト（50％）（達成目標1,2を評価）、学修の到達度確認テスト（50％）（達成目標1,2を評価）により成績を評価し、総計で得点率60％以上を合格とする。
教科書	哲学の使い方 / 鷲田 清一 / 岩波新書 / 978-4-00-431500-1
関連科目	比較文化論、文学
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B 1号館 2階高池研究室 直通電話：086-256-9448 E-mail: takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日 2時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション：テキストおよび新聞記事に基づき受講者による討論を行なう。
課題に対するフィードバック	中間的な評価をするためのテストおよび学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	企業と人間 (FB218607)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業のイメージについてディスカッションする。
2回	資本主義について基本的な説明を行い、受講シートの記入に取り組む。
3回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行い、職業の事例を紹介する。
4回	就活や雇用における日本的なシステムを分析する。
5回	企業の社会的責任について考え、職業の事例を紹介する。
6回	CSRの具体的な事例について検証し、職業の事例を紹介する。
7回	ISOが示す企業の姿について考察し、職業の事例を紹介する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テストの終了後、テスト問題について解説する。
9回	後半の講義概要を説明し、企業や組織の不祥事についてディスカッションする。
10回	就職活動の現状と海外の就職事情について概観する。
11回	就活市場の仕組みを分析し、職業の事例を紹介する。
12回	食の安全と企業利益について考察し、職業の事例を紹介する。
13回	外国人労働者をめぐる問題について考察する。
14回	フランチャイズシステムを分析し、その現状と問題点を検証する。
15回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：資本主義の原理について調べておくこと。復習：資本主義の問題点をまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：会社の組織について調べておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
4回	予習：日本の企業風土について調べておくこと。復習：日本的システムについてまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：企業倫理について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：企業の社会的責任について考えておくこと。復習：CSRの事例をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	予習：ISOについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間45分)
8回	予習：ここまでの講義をまとめ、中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストを自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：企業の不祥事についてまとめること。(標準学習時間30分)
10回	予習：就職活動について考えておくこと。復習：就職活動の現状についてまとめること。(標準学習時間45分)
11回	予習：日本的就職活動の問題点を考えておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめておくこと。(標準学習時間45分)
12回	予習：食をめぐる現状について考えておくこと。復習：食の安全についてまとめること。(標準学習時間45分)
13回	予習：外国人労働者について調べておくこと。復習：外国人労働者をめぐる問題についてまとめること。(標準学習時間45分)
14回	予習：フランチャイズシステムについて調べておくこと。復習：フランチャイズの問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義についてまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき
------	---

	き姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」（黒版） / 蜻文庫
関連科目	ボランティア論、技術者の社会人基礎
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 (FB218609)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業のイメージについてディスカッションする。
2回	資本主義について基本的な説明を行い、受講シートの記入に取り組む。
3回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行い、職業の事例を紹介する。
4回	就活や雇用における日本的なシステムを分析する。
5回	企業の社会的責任について考え、職業の事例を紹介する。
6回	CSRの具体的な事例について検証し、職業の事例を紹介する。
7回	ISOが示す企業の姿について考察し、職業の事例を紹介する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テストの終了後、テスト問題について解説する。
9回	後半の講義概要を説明し、企業や組織の不祥事についてディスカッションする。
10回	就職活動の現状と海外の就職事情について概観する。
11回	就活市場の仕組みを分析し、職業の事例を紹介する。
12回	食の安全と企業利益について考察し、職業の事例を紹介する。
13回	外国人労働者をめぐる問題について考察する。
14回	フランチャイズシステムを分析し、その現状と問題点を検証する。
15回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：資本主義の原理について調べておくこと。復習：資本主義の問題点をまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：会社の組織について調べておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
4回	予習：日本の企業風土について調べておくこと。復習：日本的システムについてまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：企業倫理について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：企業の社会的責任について考えておくこと。復習：CSRの事例をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	予習：ISOについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間45分)
8回	予習：ここまでの講義をまとめ、中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストを自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：企業の不祥事についてまとめること。(標準学習時間30分)
10回	予習：就職活動について考えておくこと。復習：就職活動の現状についてまとめること。(標準学習時間45分)
11回	予習：日本的就職活動の問題点を考えておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめておくこと。(標準学習時間45分)
12回	予習：食をめぐる現状について考えておくこと。復習：食の安全についてまとめること。(標準学習時間45分)
13回	予習：外国人労働者について調べておくこと。復習：外国人労働者をめぐる問題についてまとめること。(標準学習時間45分)
14回	予習：フランチャイズシステムについて調べておくこと。復習：フランチャイズの問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義についてまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき
------	---

	き姿について考察する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
達成目標	1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。 2. 企業や組織の特性を説明できる。 3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。 4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」（黒版） / 蜻文庫
関連科目	ボランティア論、技術者の社会人基礎
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役 2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 70名を目安に受講制限を行う。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	企業と人間 (FB218610)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
12 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
13 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
14 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
15 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
16 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 (FB218611)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
12 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
13 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
14 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
15 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
16 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 (FB218612)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
12 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
13 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
14 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
15 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
16 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 (FB218613)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
12 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
13 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
14 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
15 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
16 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	* 参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 (FB218614)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間 120 分)
12 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
13 回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
14 回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間 120 分)
15 回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120 分)
16 回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間 120 分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 定型的なビジネス文書を作成することができる。 ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト 10 %、中間評価試験 45 %、最終評価試験 45 %により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略）に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他（注意・備考）	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	キャリア形成講座（FB218920）
英文科目名	Career Design
担当教員名	飯田哲司＊（いいだてつし＊）、桑田朋美＊（くわたともみ＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 （ 講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める） （ 演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク） （ 具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など） （全教員）
2回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 （桑田 朋美＊）
3回	【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 （飯田 哲司＊）
4回	【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 （桑田 朋美＊）
5回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする （飯田 哲司＊）
6回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 （飯田 哲司＊）
7回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を高めると共に表現力アップを理解・実践する。 【中間レポート配布】翌週に提出（回収） （桑田 朋美＊）
8回	【発想力養成トレーニング】 これから必須の能力要件として注目度の高い「発想力」「思考力（特にラテラルシンキング）」について、その強化法を学び、習得・活用のための実践的トレーニングを行う。 （全教員）
9回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「コンセンサス力（合意力）」の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 （飯田 哲司＊）
10回	【表現力・展開力の強化演習】 集団の中での自分の活かしかを知る基礎であるブレインストーミングを通じて、表現力・展開力・要約力と整理力の強化を図る演習を実施する。 （桑田 朋美＊）
11回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「課題解決」のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。

	(飯田 哲司*)
1 2 回	【セルフコントロール】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。
	(桑田 朋美*)
1 3 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学(行動経済学)」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。
	(飯田 哲司*)
1 4 回	【目標達成のための行動計画】 自己目標の達成のための具体的な行動計画作成シートの作成を、発想展開ツールを用いて個働～協働のステップで実施する。またグループ内での行動宣言により自己肯定力の醸成・共有も図る。
	(飯田 哲司*)
1 5 回	【国際感覚を身につける】 人口問題・世界情勢をテーマに国際感覚の意識拡大と、課題発見のための視野・視点の拡大を図る。
	(飯田 哲司*)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
8 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして除くこと。(標準学習時間 60分)
9 回	「合意力」の強化と共に、「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 0 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 1 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 2 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 3 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 4 回	達成したい目標(短期目標・長期目標)とその達成のための行動イメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 5 回	海を越えた意識・感覚について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。

講義目的	・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践
------	--

	的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間レポートと最終課題レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンドラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力） について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	キャリア形成講座（FB218930）
英文科目名	Career Design
担当教員名	飯田哲司＊（いいだてつし＊）、桑田朋美＊（くわたともみ＊）
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 （ 講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める） （ 演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク） （ 具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など） （全教員）
2回	【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 （桑田 朋美＊）
3回	【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 （飯田 哲司＊）
4回	【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 （桑田 朋美＊）
5回	【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする （飯田 哲司＊）
6回	【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 （飯田 哲司＊）
7回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を高めると共に表現力アップを理解・実践する。 【中間レポート配布】翌週に提出（回収） （桑田 朋美＊）
8回	【発想力養成トレーニング】 これから必須の能力要件として注目度の高い「発想力」「思考力（特にラテラルシンキング）」について、その強化法を学び、習得・活用のための実践的トレーニングを行う。 （全教員）
9回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「コンセンサス力（合意力）」の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 （飯田 哲司＊）
10回	【表現力・展開力の強化演習】 集団の中での自分の活かしかを知る基礎であるブレインストーミングを通じて、表現力・展開力・要約力と整理力の強化を図る演習を実施する。 （桑田 朋美＊）
11回	【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「課題解決」のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。

	(飯田 哲司*)
1 2 回	【セルフコントロール】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。
	(桑田 朋美*)
1 3 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学(行動経済学)」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。
	(飯田 哲司*)
1 4 回	【目標達成のための行動計画】 自己目標の達成のための具体的な行動計画作成シートの作成を、発想展開ツールを用いて個働～協働のステップで実施する。またグループ内での行動宣言により自己肯定力の醸成・共有も図る。
	(飯田 哲司*)
1 5 回	【国際感覚を身につける】 人口問題・世界情勢をテーマに国際感覚の意識拡大と、課題発見のための視野・視点の拡大を図る。
	(飯田 哲司*)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
8 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして除くこと。(標準学習時間 60分)
9 回	「合意力」の強化と共に、「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 0 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 1 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 2 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 3 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 4 回	達成したい目標(短期目標・長期目標)とその達成のための行動イメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 5 回	海を越えた意識・感覚について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。

講義目的	・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践
------	--

	的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間レポートと最終課題レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を経由で
授業の運営方針	【実践的・体験型授業】 ■講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施 ■演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底 *アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニング 【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンドラート法、リフレーミング演習
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影は不可
実務経験のある教員	飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授 桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師 社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力） について講義を行う。
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	地域フィールドスタディ (FB219500)
英文科目名	Community Field Study
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション (大学)、講義の概要、進め方、評価方法等の説明をする。この講義の目標設定を行う (学びはじめシートへの記入)。
2 回	グループ活動によるルール作り (大学) グループ活動を活性化し、やる気を持続させる方法について検討する。ブレインストーミング等、グループ活動をよりよいものにするための知識を説明する。
3 回	シーカヤックをツールとした自然体験型教育 (安全教育、船の科学) 船の科学 (浮力、浮心、重心、抵抗、復元力) を知ること、カヤックを安全に操作するための基本的な知識について説明する。その際、知識と経験を結びつける大切さも学ぶ。
4 回	シーカヤックをツールとした実体験型教育 (チームビルディング) (現地研修) Chr10カヤックの操作の基礎、安全な航行のための知識の基礎、実践を行う。
5 回	シーカヤックをツールとした実体験型教育 (チームビルディング) (現地研修) 学びへのレディネスを整えたうえで、海上でのチームによるカヤック航行を行う。
6 回	牛窓地区の自然や文化について視察する。地域創生について事例を学ぶ (現地研修)
7 回	フィールドワークの計画を作成 (大学) Chr10目的や計画等を記入したワークシートを作成する。
8 回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) (現地研修) 牛窓町の自然、歴史文化、産業等、多角的側面から視察する。
9 回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) (現地研修) Chr10課題や問題を発見し、その中からテーマ設定を行い、研究の目的を明確にする。
10 回	地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) (現地研修) Chr10課題解決を行うための方法を検討する。
11 回	地域創生をテーマとした地域研究 (瀬戸内市牛窓町) (現地研修) Chr10課題解決において、関連する情報を探し集め整理する。
12 回	課題研究 (大学) Chr10プレゼンテーション資料を作成する。
13 回	課題研究 (大学) Chr10プレゼンテーション資料を作成する。
14 回	課題研究発表と振り返り (大学) 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを行う。
15 回	課題研究発表と振り返り (大学) Chr10学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを行う。
16 回	これまでの学習の総括を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。本講義の目的についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	チームビルディングに必要な力について考えておくこと(標準学修時間120分)
3 回	船の科学 (浮力、浮心、重心、抵抗、復元力) について調べておくこと(標準学修時間120分)
4 回	シーカヤックの操作方法について理解しておくこと(標準学修時間120分)
5 回	これまでの学びの理解を深め、体調管理をしておくこと(標準学修時間120分)
6 回	地域創生の事例について調べておくこと(標準学修時間120分)
7 回	牛窓町について調べておくこと(標準学修時間120分)
8 回	取り扱うテーマを整理しておくこと(標準学修時間120分)
9 回	役割分担を決定させておくこと(標準学修時間120分)
10 回	計画作成を概ね完了させておくこと(標準学修時間120分)
11 回	課題解決に向けて、工程表の点検を行っておくこと(標準学修時間120分)
12 回	目的を明確にし、論理的に内容をまとめておくこと(標準学修時間120分)
13 回	パソコンの操作 (パワーポイント等) に慣れておくこと(標準学修時間120分)
14 回	決められた手順と制限時間にしがって、発表ができるようにしておくこと(標準学修時間120分)
15 回	決められた手順と制限時間にしがって、発表ができるようにしておくこと(標準学修時間120分)
16 回	これまでの学習を復習しておくこと。

講義目的	- 瀬戸内市牛窓町地域を対象として、フィールドワークを行う。地域創生をテーマとし視察や調査を通じて、学生自らが課題や問題を発見することから始める。 - シーカヤックを活用し、グループ活動やチームビルディングの態勢 (レジネス) を整える。また
------	--

	、牛窓地域の自然や海を実体験する。 ・チームを編成し、チーム毎にテーマ設定を行い、課題解決にあたる。 ・このようなアクティブ・ラーニングにより、主体的に学ぶこと、課題解決能力を育成する。 ・まとめとして、チームで研究した内容のプレゼンテーションを行う。 (4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与、「知識・理解」に強く関与)
達成目標	主体的な学びへのレディネス(態勢づくり)を整えることができる(C) 地域の活性化に向けて、調査対象に即した課題設定ができる。 課題を解決するために、フィールドワーク、文献や統計等の二次資料を用いて分析できる。 独自の考察を加えたレポート作成およびプレゼンテーション発表ができる。 調査研究や課題解決において他者との協働ができる。 地域の生涯学習社会の構築に寄与できる。 (4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与、「知識・理解」に強く関与)
キーワード	地域、シーカヤック、実体験、コミュニケーション、問題解決、チームワーク
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題への取り組み(10%)現地実習(30%)レポート(30%)課題研究発表(30%)
教科書	特定の教科書は指定しない
関連科目	学びの基礎論、文章表現法、プレゼンテーション
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村(次)研究室: jiro@ee.ous.ac.jp Chr10松尾研究室: matsuo@are.ous.ac.jp 松下(尚)研究室: hisashi@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッションや共同による自然体験型授業、グループ発表を行う。
課題に対するフィードバック	課題提出等のフィードバックは、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・本科目の受講は「学びの基礎論A」もしくは「学びの基礎論B」の単位修得者に限る。 ・本科目の実習費用については自己負担になる。詳細は初回の講義時に説明する。 ・実習の日程および内容、場所は関係者等の調整により、変更する可能性がある。

科目名	教職のための文章表現法（FB220800）
英文科目名	Technical Writing for the Teaching Profession
担当教員名	皿田琢司（さらたたくじ）
対象学年	3 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。教員採用試験における論作文の出題傾向を踏まえ、講義概要と受講要領を説明するとともに、教員に求められる資質能力に基づいて文章作成力の意義を考察する。
2 回	「読まれる」小論文をめざして。小論文の組み立てと表現技法に関する基本的事項について理解を図る。 第 1 課題（教職の志望動機、理想の教師像、使命感・職業観等）の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。
3 回	第 1 課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の構成と表現技法を検討し合い、指導講評を行う。
4 回	第 1 課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の構成と表現技法を再検討し合い、指導講評を行う。
5 回	第 1 課題の実践的検討。再修正版の 1 答案について、グループ討議を通して文章構成と表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。
6 回	要約練習（その 1）。新聞の社説から最近の教育時事を取り上げ、要約を試みるとともに、グループ討議を通して文章構成と表現技法を分析する。 第 2 課題（実践的指導力〔識見、指導方針、方法原理等〕）の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。
7 回	第 2 課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の構成と表現技法を検討し合い、指導講評を行う。
8 回	第 2 課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の構成と表現技法を再検討し合い、指導講評を行う。
9 回	第 2 課題の実践的検討。再修正版の 1 答案について、グループ討議を通して文章構成と表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。
10 回	要約練習（その 2）。新聞の社説から最近の教育時事を取り上げ、要約を試みるとともに文章構成と表現技法を分析する。 第 3 課題（児童生徒の理解と対応のあり方）の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。
11 回	第 3 課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の構成と表現技法を検討し合い、指導講評を行う。
12 回	第 3 課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の構成と表現技法を再検討し合い、指導講評を行う。
13 回	第 3 課題の実践的検討。再修正版の 1 答案について、グループ討議を通して、文章構成と表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。
14 回	要約練習（その 3）。最近の新聞から教育を主題とする複数の社説を取り上げ、要約を試みるとともにグループ討議を通して文章構成と表現技法を分析する。
15 回	総括と最終課題の提示。第 1～3 課題共通の出題のねらいについて再確認を促すとともに、最終課題の作成・提出要領を指示する。 知識活用力、文章構成力、表現力を高めるための継続的な研究と修養の意義について理解の深化を図り、具体的な取り組みを勧奨する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	受験予定の都道府県市の教員採用試験で出題された論作文の過去 3 年分（内容・形式）を確認しておくこと。各自のOUSメールを送受信できるよう確認しておくこと。（標準学習時間：160分）
2 回	教職関連科目の学修を通して修得してきた知見を総復習するとともに、教育関係の諮問機関・教育政策や受験予定の都道府県市から公表されている教育施策・教員像に基づいて前時に控えた出題の傾向を分析し、自らの専攻分野に照らして指導に反映できそうな具体的題材を整理しておくこと。（標準学習時間：160分）
3 回	前時の授業で提示された設問から 1 つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：170分）
4 回	前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：170分）

5 回	前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：200分）
6 回	前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、完成原稿を提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：180分）
7 回	前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得に努めること。前時の授業で提示された設問から1つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：170分）
8 回	前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：170分）
9 回	前時までの学習に基づいて答案を再度見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：200分）
10 回	前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、修正版を完成原稿として提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：180分）
11 回	前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得に努めること。前時の授業で提示された設問から1つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：170分）
12 回	前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：170分）
13 回	前時までの学習に基づいて答案を再度見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：200分）
14 回	前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、修正版を完成原稿として提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：180分）
15 回	前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得すること。最終課題の作成・提出要領を再確認し、提出課題を読み直しておくこと。（標準学習時間：200分）
16 回	最終課題で選択しなかった設問の答案修正に努めるとともに、これまでの学習全体を振り返り、到達目標に照らして各自の課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間：200分）。なお、授業後も、少なくとも教員採用試験までは学修を継続することが望ましい。採用試験後も、専攻分野を中心に読書を継続するとともに、授業実践のあり方を多角的に研究し続け、数年に1度は論文にまとめることが望ましい。

講義目的	次のことを修得できるようにすることを目的とする。 1. いわゆる教員採用試験の論作文問題に有効に対応できる文章作成の基礎 2. 中学校または高等学校の教員に求められる文章構成力・表現力の基礎 （4領域の項目の「技能」に最も強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。中学校または高等学校教員に必要な知識を活用した文章力に関与）
達成目標	1. 文章表現法基礎編・応用編の学習目標を十分に達成した上で、教員に求められる資質能力の一つとして、文章構成力・表現力を身につけている意義を簡潔に説明できること。 2. 教職に関する授業科目で修得した知見や自ら収集した教職に関する時事情報等をもとに、適切な表現を用い、与えられた主題に即して自らの考えを800～1000字程度の文章にまとめることができること。 4領域の項目の「技能」に最も強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	教職、文章表現力、文章作法、小論文、論作文、論述試験、教員採用試験、教員試験
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト（約10%）、平常の課題（25～30%）、最終課題（25～30%）、最終評価試験（40%） 小テストは、履修希望者が想定数を大幅に超えた場合に実施する。 小テストを実施しない場合には、その結果は平常の課題または最終課題の評定点に振り替える。
教科書	刊行物の形態のものは使用しない。配付資料を適宜用いる。
関連科目	○1～2年次開講C群科目（基礎理学科生は教育学原論、教育心理学に代えてそれぞれ教育基礎論、学習・発達論）及び文章表現法基礎編・応用編をすべて修得していることが望ましい。 ○教育実習事前・事後指導を同時に履修中であることが望ましい。 ○本授業科目の履修後、その成果と課題を「教職履修カルテ」に反映させることが望ましい。
参考書	学習指導要領（勤務希望校種の最新年度版）。文科省ウェブサイトからダウンロードしプリントアウトしたものでもよい。 受験予定（担当予定）教科の学習指導要領解説。 上記2種類については常時携行し、重要な箇所を随時参照・活用できるようにしておくこと。他の箇所についても、学習の必要に応じて参照できるようにしておくこと。 担当教科の授業で生徒に勧めたい本2～3冊（各自の専攻分野のもの） このほか適宜指示する。
連絡先	○研究室：B2号館（旧13号館）3階

	○電子メール：salad@chem.ous.ac.jp（授業担当教員との連絡にはOUSメールを用いること） ○ダイヤルイン：086-256-9714
授業の運営方針	○教職の特質に照らして自らの学業、読書習慣、言動、筆記の見直しを図ること。 ○専攻分野の学業と、それらの学びの支援に資する読書も励行すること。 ○授業時間外の連絡手段としてOUSメールを送受信できるようにしておくこと。 ○最終評価試験は、平素の振り返り学習の課題を、学則に定める出席回数分提出していることを受験要件とする。 ○専攻分野・担当教科を学ぶ意義や魅力を伝えられるようになることを目的とした読書を励行していることが望ましい。 ○信頼される教員をめざそうとする強い目的意識のもと、謙虚にかつ不断に学業に取り組むことが望ましい。
アクティブ・ラーニング	○ライティング：各回の授業後に学習の振り返りを記述する。所定の枠組みと知識を用いて小論文を作成する。 ○相互評価：各回の授業開始時に、前時の振り返りについて互いに学びの支援を試みる。作成して持ち寄った小論文を、所定の指針に基づいて互いに添削し合う。 ○グループ別学習：相互評価を通して得られた成果や課題について話し合い、必要に応じて発表し、共有すること等を通して学びを深める。
課題に対するフィードバック	○授業で課された提出物は、個別に点検し、必要に応じて添削する。学習目標に照らして共通に必要な事項については、口頭、板書、投影など何らかの方法により講評する。授業時間外に伝える必要が生じた場合には、掲示または電子メール（履修者のOUSメールアドレス宛で一斉送信）を用いることがある。 ○最終評価試験については、解答例または解説の書面を掲示または配付する。
合理的配慮が必要な学生への対応	○本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相談すること。 ○障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	○30名程度以内の少人数指導とする。受講希望者が多数に上る場合には、第1回授業出席者のうち、小論文が出題される府県市の受験優先度の高い者を優先する。それでも超過する場合には、論述試験を加味した選考を行う。 ○C 1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。

科目名	教職のためのプレゼンテーション (FB220910)
英文科目名	Presentation Skills for the Teaching Profession
担当教員名	皿田琢司 (さらたたくじ)
対象学年	3 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。教員の職責・役割からみた資質能力とプレゼンテーション能力について理解を図る。
2 回	教員採用試験における面接と討論を主題に、出題傾向と評価の基本的観点について理解を図る。
3 回	集団面接の基本。簡単な自己紹介を例に、話し方と聴き方（視線、表情等を含む）に係る評価指標について理解を図る。
4 回	集団面接の練習（１）—自己アピールと志望動機を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
5 回	集団面接の練習（２）—時事問題を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
6 回	集団面接の練習（３）—教育理念・教育政策を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
7 回	集団面接の練習（４）—学習指導の方針・原則を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
8 回	集団面接の練習（５）—具体的場面の対応を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
9 回	討論の基本—教員の資質・能力と期待される役割を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
10 回	討論の練習（１）—最近の青少年の行動傾向を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
11 回	討論の練習（２）—「生きる力」「確かな学力」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
12 回	討論の練習（３）—「地域と学校」「人権教育」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
13 回	討論の練習（４）—キャリア教育と情報教育を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
14 回	討論の練習（５）—生徒指導状の問題事案を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。
15 回	集団面接と討論の総括—教員としての継続的な研究と修養（その見直しを含む）の意義について理解の深化を図る。
16 回	最終評価試験を実施する。筆記試験と原則とするが、達成目標に鑑み、口頭試問を加味する場合もある。

回数	準備学習
1 回	受験予定の都道府県市の教員採用試験のうち、過去３年間の面接及び討論の出題内容及び様態を整理しておくこと。（標準学習時間：160分）
2 回	受験予定の都道府県市が公表している教育施策の基本方針と同自治体の求める教師像を整理しておくこと。（標準学習時間：180分）
3 回	前時までに整理した主題から３～４題を選び、それぞれ１分程度で話せるよう要点を整理しておくこと。選択した主題をもとに、生徒にとって理解しやすい話し方（視線や表情を含む）を検討し練習しておくこと。（標準学習時間：180分）
4 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を複数の角度から検討し練習しておくこと。（標準学習時間：180分）
5 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を多面的に検討し練習しておくこと。（標準学習時間：180分）
6 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
7 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
8 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
9 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
10 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：180分）
11 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：180分）

1 2 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：180分）
1 3 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：180分）
1 4 回	前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の志向を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：180分）
1 5 回	これまでの学習全体を振り返って学習成果の精力的な活用に努めるとともに、課題の明確化と継続的克服に努めること。（標準学習時間：180分）
1 6 回	これまでに履修した教職関連科目と本科目を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間：200分。継続的に努めることが望ましい）

講義目的	将来教員をめざす者が次の各事項を理解し、口頭で明瞭に表現する技能と方法を習得することを目的とする。 1．志望動機、理想的教師像、教職の意義、担当教科の指導目標・意義・魅力 2．教員に求められる資質と実践的指導力、学校に期待される役割 3．学校現場で想定される具体的な場面における対応の基本的な方針 4．上記に関する自らの課題の明確化と努力の見通し （4領域の項目の「技能」に最も強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。中学校または高等学校教員に必要な知識を活用して口頭で表現する能力に特に関与）
達成目標	授業目的に挙げた各事項について、次のことができるようになること。 ○身に付けた学識・知見を論理的に組み立て、説得的に説明できる。 ○聴取者の理解や思考を深めることを念頭に、表情や語調等にも留意しながら話すことができる。 ○聴取者の理解に即して、表現、用語、構成等を柔軟に調整して話すことができる。 4領域の項目の「技能」に最も強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	教員採用試験、教員の資質・能力、実践的指導力、人物重視、教師力、教育観、教師像
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業各時の面接練習・提出物（50～70％程度）、最終評価試験（40～60％程度）。受講希望者が多数に上り、口頭試問を加味した抽選（注意・備考欄参照）を行う場合には、その試問の結果を約10％加算する。 上記の比率は、達成目標及び受講者の学習状況に照らして見直すことがある。
教科書	配付資料または提示資料を用いる。刊行物は必要に応じて各自が用意できるよう指示する。
関連科目	○教職関連科目のうち1～2年次開講のもの（基礎理学科生は教育学原論、教育心理学に代えてそれぞれ教育基礎論、学習・発達論）及びプレゼンテーション基礎編・応用編を良好な成績で修得していることが望ましい。 ○3年次秋学期履修の場合、教育実習事前・事後指導を同時に履修中であることが望ましい。 ○4年次春学期履修の場合、教育実習事前・事後指導の成績評価がRであることが望ましい。 ○本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。
参考書	○受験希望（勤務予定）校種の学習指導要領（最新版）。文科省ウェブサイトからダウンロードしてプリントアウトしたものでもよい。同解説については、担当予定教科のもの。 ○受験希望都道府県市の教員採用試験（主として面接・討論）で過去出題された内容（市販の参考書または各自治体の情報公開制度を利用）。
連絡先	○研究室：B2号館（旧13号館）3階東端 ○電子メール：salad@chem.ous.ac.jp（教員との連絡にはOUSメールを用いること） ○電話：086-256-9714（ダイヤルイン）
授業の運営方針	○指導計画（成績評価の配分比率を含む）は、達成目標と受講状況に照らして見直す場合がある。 ○専攻分野に関する学業と読書を励行し、それを学ぶ意義や魅力を平易に伝えられるよう日ごろから伝え方の見直しを習慣づけておくこと。 ○信頼される教員をめざそうとする強い目的意識をもって謙虚にかつ不断に学び続けること。
アクティブ・ラーニング	○第3講以降は、いわゆるアクティブラーニングを基本とする。 ○口頭による表現：中学校または高等学校の生徒を主な対象として、所定の学習目標に沿って話す。 ○相互評価：各回の授業開始時に、前時の振り返りについて互いに学びの支援を試みる。教員採用試験を想定して模擬的な面接・討論・集団活動を行い、互いの取り組みについて批評し合う。 ○グループ別学習：相互評価を通して得られた成果や課題について話し合い、必要に応じて発表し、共有すること等を通して学びを深める。
課題に対するフィードバック	○授業で課された提出物には、受講者間の相互評価を経て、個別に添削することを原則とする。受講者全員に概ね共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
合理的配慮が必要な学	○本学における所定のガイドラインに基づき、合理的配慮を提供する。必要な場合には、事前に相

生への対応	談すること。 ○ 障害によっては補助器具の使用（ICレコーダーによる録音、タブレット型端末による撮影）を認める。必要な場合には、事前に相談すること。ただし、配付資料や録音・録画データ等及びそれらの複製を他者に提供（インターネット上への掲載を含む）したり転用したりすることは禁ずる。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	○ 授業時間外の連絡手段として、OUSメールを送受信できるようにしておくこと。 ○ 概ね30名以内の少人数指導とする。受講希望者が多数に上る場合には、第1回授業出席者のうち面接または討論が特に重視される都道府県市教員採用試験を受験する者を優先する。それでも超過する場合には、口頭試問を加味した選考を行う。 ○ C 1 号館（旧25号館）7 階掲示板を授業日には必ず確認すること。

科目名	科学ボランティア活動 (FB302110)
英文科目名	Science Educational Volunteer Activities
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 衣笠哲也 (きぬがさてつや), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 武田芳紀* (たけだよしのり*), 高見寿* (たかみひさし*), 重松利信 (しげまつとしのぶ), 糸山嘉彦* (いとやまよしひこ*), 春日二郎* (かすがじろう*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 猪口雅彦 (いのぐちまさひこ), 山口一裕 (やまぐちかずひろ), 米田稔 (よねだみのる), クルモフバレリー (くるもふばれりー), 菅野幸夫 (かんのさちお)
対象学年	2 年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	科学ボランティア活動の進め方および成果発表会について説明する。科学ボランティアリーダー資格認定について説明する。 (高原 周一)
2 回	地域で24時間以上の科学ボランティア活動を行う。この中で少なくとも1回は、科学ボランティア実践指導 および で扱ったテーマ以外で、科学教室 (サイエンスショーも含む) の講師もしくはブース出展責任者を務めること。 (高原 周一)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティア活動証明書、活動報告書、科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を提出する。成果発表会の発表内容を調整するとともに、発表準備を行う。企画書およびプレゼンテーション用資料を作成する。 (高原 周一)
15 回	成果発表会を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、本学の「科学ボランティアリーダー養成事業」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	参加する科学ボランティア活動の事前申請および準備を行うこと。活動参加後に所定の様式で報告書を作成し、速やかに所定の窓口まで提出すること。(標準学習時間各回90分)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を作成すること。これまでの科学ボランティア活動について総括し、振り返りレポートを作成すること。発表会での発表内容について考えておくこと。(標準学習時間90分)
15 回	企画書を作成すること。成果発表会の準備を行うこと。成果発表会で行う実験・工作等については、必ず事前に予行演習をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	地域で開催される科学イベントや科学実験教室にボランティアとして参加する。また、少なくとも1回は、40分以上の科学教室（サイエンスショーも含む）の講師もしくはブース出展責任者を務める。これらを通じて、受講生自身が、科学・技術全般に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うためのスキルを向上させるとともに、科学ボランティアリーダーとして社会貢献を続ける意欲を育むことを目的とする。同時に、社会人として必要となる思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力の向上も目指す。最後に、これまでの科学ボランティア活動のまとめとして成果発表会を行い、これらの目標が達成されていることを判定する。 （教養教育科目の到達目標Cに最も強く関与）
達成目標	1. 科学ボランティア活動に24時間を超えて積極的に参加している。（C） 2. 科学教室の講師もしくはブース出展責任者として科学ボランティア活動をリーダーとして牽引できる。（B, C, D） 3. 科学ボランティア活動について振り返りを行い、活動の中で培った力を自己評価し、それを今後どう生かしていくか説明できる。（B, C, D） 4. 成果発表会で科学ボランティア活動の様子を再現し、教材をわかりやすく紹介できる。（B, C, D）
キーワード	地域貢献 科学イベント 科学実験教室 成果発表会 科学ボランティアリーダー
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	本学および地域で行った科学ボランティア活動の活動時間・件数20%（到達目標1を確認）、活動報告書20%（到達目標2, 3を確認）、振り返りレポート10%（到達目標3を確認）、成果発表会の企画書10%（到達目標2を確認）、成果発表会の発表内容40%（到達目標2～4を確認）により評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
授業の運営方針	・ 成果発表会までに科学ボランティア活動の活動時間数が24時間に達する見込みのある学生が履修すること。 ・ 科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導 の単位を修得済か履修中であることが望ましい。 ・ 科学ボランティア活動部分（2～13回目）については1年次から活動を認める。ただし、科学ボランティア活動の説明会（科学・工作ボランティア入門の講義の1回目）に参加するか科学ボランティアセンターでの講習を受けた後に活動すること。 ・ 受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（日時・場所は教務の掲示板に張り出す）に必ず出席すること。 ・ 講義資料は講義中に配布する。 ・ 講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実験・実習 科学ボランティア活動における実習、成果発表会での発表によりアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	レポートおよび成果発表会についてのフィードバックは成果発表会の場で行われる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	吉村功（元中学校教員）、森田明義（元小学校教員）、高見寿（元高等学校教員）、武田芳紀（元高等学校教員）、春日二郎（元中学校教員）、糸山嘉彦（人と科学の未来館サイピア・サイエンスインストラクター） 小学校・中学校・高等学校の教員および科学館サイエンスインストラクターとしての経験を生かして、科学ボランティア活動に適した教材の紹介および発表方法の指導を行う。
その他（注意・備考）	・ 本科目は科学ボランティアリーダー資格認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（ http://ridai-svc.org/ ）に説明がある。 ・ この科目の成果発表会は科学ボランティアリーダー資格認定の最終試験を兼ねる。 ・ 「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」

科目名	健康の科学 (FV26P110)
英文科目名	Health and Physical Science
担当教員名	高橋正行* (たかはしまさゆき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	健康と科学 講義の概要説明、健康の考え方を説明する。
2回	健康な大学生活を送るための食生活を説明する。
3回	健康なからだづくりの基本について説明する。
4回	バランスのとれた食事と太りにくい食べ方のコツについて説明する。
5回	生活習慣病について説明する。
6回	健康的に体重を減らす、増やすについて説明する。
7回	運動の重要性について説明する。
8回	水分補給の大切さ・熱中症の原因と対策について説明する。
9回	健康と睡眠について説明する。
10回	充実した学生生活を送るためのメンタルヘルスについて説明する。
11回	東京オリンピックの様々な効果について説明する。
12回	生涯スポーツの意義について説明する。
13回	サイクリングと健康について説明する。
14回	健康的な学生生活について説明する。
15回	講義の振り返りとまとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義内容を把握し、健康について考えておくこと。
2回	今後の食生活について考えておくこと。
3回	からだづくりについて自分の健康観を考えておくこと。
4回	食生活の見直しをしてみる。
5回	ライフスタイルがキーポイントになることを理解しておくこと。
6回	体重と健康の関係について調べておくこと。
7回	体重の変化を調べてみる。
8回	日常生活の中での水分補給の重要性を調べてみる。
9回	眠りの質について調べてみる。
10回	ストレスとストレスマネジメントについて調べてみる。
11回	東京オリンピックについているんな角度からメリットやデメリットを調べてみる。
12回	生涯スポーツと健康の関連について調べてみる。
13回	今治がなぜサイクリングの聖地と言われるのか調べてみる。
14回	春からの学生生活を振り返ってみる。
15回	ノートを整理しておく。
16回	1～15までの内容をよく理解して整理しておく。

講義目的	健康の要素として、「心（精神）」「身体」「社会との関わり」があげられ、それぞれ密接な関係をもっている。これらの基礎的な知識や実践力を身につけて、生涯を通じて健康の保持・増進に関わる態度や能力を養う。授業内容は、健康の考え方、現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康、スポーツの歴史と文化、スポーツと現代社会、運動と体力、スポーツと生活について考察し、生涯にわたるヘルスプロモーション能力を養う。 (単位認定の方針Dに強く関与する)
達成目標	身体的にも精神的にも社会的にも良好で生き生きとした状態を積極的に得るために、ライフステージからみた健康と運動についての基礎的な知識を習得する。 1 健康を支える基礎的な知識を習得する。 2 身体運動についての理解を深め、健康における運動の重要性を理解する。 3 学生としての健康と自分の住む街について理解を深める。
キーワード	健康、運動
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	課題レポート、活動状況（レポート発表）で評価する。採点の基準は60点以上を合格とする。
教科書	教科書は使用しない。プリント等を使用。
関連科目	生涯スポーツ

参考書	適宜紹介する
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
授業の運営方針	健康な学生生活を送るための健康生活について毎日の生活を振り返りながら見直していく。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題についてレポーを提出する。次回の授業で評価したレポートを紹介し発表する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	インターンシップ (FB206500)
英文科目名	Internship
担当教員名	田淵敏彰* (たぶちとしあき*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	自己PRの基礎について説明する。
6回	自己PRの基礎について説明する。
7回	企業研究について説明する。
8回	企業研究について説明する。
9回	インターンシップ合同企業説明会に参加し、企業研究とインターンシップの受け入れ先の支援をする。
10回	インターンシップ合同企業説明会に参加し、企業研究とインターンシップの受け入れ先の支援をする。
11回	面接の仕方について説明する。
12回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
13回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
14回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
15回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
16回	インターンシップに行くための事前オリエンテーションにて、マナー等の直前講習をする。
17回	インターンシップの報告発表のための資料作成について説明する。
18回	インターンシップの報告発表のための発表の仕方について説明する。
19回	報告発表を行い、指導を行う。
20回	報告発表を行い、指導を行う。
21回	報告発表を行い、指導を行う。
22回	報告発表を行い、指導を行う。
23回	報告発表を行い、指導を行う。
24回	報告発表を行い、指導を行う。
25回	報告発表を行い、指導を行う。
26回	報告発表を行い、指導を行う。
27回	報告発表を行い、指導を行う。
28回	報告発表を行い、指導を行う。
29回	報告発表を行い、指導を行う。
30回	報告発表を行い、指導を行う。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間:60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。レポートを作成しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。レポートを作成しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。レポートを作成しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	事前に連絡した企業について企業研究を行っておくこと。(標準学習時間60分)
9回	企業研究を行い、インターンシップ先とする企業に対して質問事項等を考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	企業研究を行い、インターンシップ先とする企業に対して質問事項等を考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)

1 2 回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。（標準学習時間60分）
1 3 回	インターンシップの流れについて、事前に確認しておくこと。（標準学習時間60分）
1 4 回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。（標準学習時間60分）
1 5 回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。（標準学習時間60分）
1 6 回	インターンシップ先での実習内容をよくまとめ、報告書を提出しておくこと。（標準学習時間60分）
1 7 回	プレゼンテーションについて基本的な事柄を事前にチェックしておくこと。（標準学習時間60分）
1 8 回	プレゼンテーションについて基本的な事柄を事前にチェックしておくこと。（標準学習時間60分）
1 9 回	プレゼンテーションの内容をしっかりと推敲しておくこと。（標準学習時間60分）
2 0 回	プレゼンテーションの内容をしっかりと推敲しておくこと。（標準学習時間60分）
2 1 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 2 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 3 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 4 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 5 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 6 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 7 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 8 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 9 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）
3 0 回	講義内容について復習しておくこと。（準学習時間60分） 発表のための準備をしておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 4領域の項目では「知識・理解」に最も強く関与している。
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること（関心・意欲・態度） ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること（知識・理解） ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめるとともに、プレゼンテーションができること（知識・理解） ・社会に貢献できる人材となること（見学の理念）（知識・理解）
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	企業体験（企業レポートを含む）を50%、発表（プレゼン内容、プレゼン技術など）を50%で評価する。したがって、インターンに行かなかった者はその時点で単位を不可（E）とする。
教科書	教科書は使用しない。
関連科目	文章表現法、文章表現法、プレゼンテーション、プレゼンテーション、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME、キャリア支援センターホームページ（ http://career.office.ous.ac.jp/ ）またはMOMO-campusにて配布する。 （各担当者で記述ください）
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
授業の運営方針	・授業資料の配布は必要に応じて、毎回、配布する。 ・最終評価試験は実施しないので、授業時間と授業時間外での活動が大切となります。 ・授業ノートをしっかりとること。 ・提出課題の内容に他者のコピーがある場合は、成績評価の対象としない場合があります。 ・講義はワーク形式で行うため、70名の定員で、履修制限を行うことがある。 ・教育学部の学生で、教育実習に行く者が多い場合は、一部を休講し、集中のように補講で対応する場合がある。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション ・自分で考えてからペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。

	・グループワークでの結果を発表し，その発表の相互評価，自己評価を行います．
課題に対するフィードバック	・提出された課題は，コメントを付けて返却する． ・提出された課題について，返却時に，解説を行う． ・発表に対するフィードバックは，ループリックによる相互評価と教員評価で行う．
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください．
実務経験のある教員	ア）元メーカー企業に総務で勤務，イ）総務での経験を活かして，企業の考え方，採用人事の目線でのアドバイスを与えつつ講義する．
その他（注意・備考）	賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること． 実施場所日時：学内外において講義・演習・実習などの形態で実施される．また，内容によって，開講日時の変更もあるため，講義内の連絡，および，電子メールやキャリア支援センターのHPなどを確認すること．